

SETSUNAN UNIVERSITY
SYLLABUS

2016 理 工 学 部 授業
計 画
住環境デザイン学科

理 工 学 部

(学部略号：T)

Faculty of Science and Engineering

住環境デザイン学科

(学科略号：R)

Department of Living and Environmental Design

理工学部共通の理念と学習・教育到達目標

2016. 4. 1

理念	人間性豊かな専門職業人をめざし、科学技術者として必要な基礎知識と実践力を有し、社会の問題を解決できる人材を育成する。
----	--

記号	テーマ	内容
I	科学技術教養	科学技術の幅広い分野に関する基礎知識を身につけ、新しい情報に対して知的好奇心を有する。
II	人文社会教養	わが国と世界の文化、社会、歴史、思想などに関する基礎知識を身につけ、社会問題に対して関心を有する。
III	科学技術者倫理	科学技術者としての誇りと謙虚さを有し、科学技術が社会に与える影響の大きさを理解し、判断することができる。また、社会生活においては、他者の模範として規範やマナーを遵守することができる。
IV	数理能力	数学、科学、情報処理の基礎知識を身につけ、与えられた課題に対しては、定量的に分析し解を求めることができる。
V	専門実践力 (学科独自)	専門分野の基礎知識を有し、実践的な解決ができる。
VI	コミュニケーション力	科学技術者として必要な日本語による記述力、対話力、傾聴力、発表力を身につける。また、国際的コミュニケーションのための基本的な意思疎通ができる能力を有する。
VII	学習習慣	自主的に情報収集を行ったり、自ら学習する習慣を身につける。科学技術的課題の解決、キャリア形成のために計画的に自主学習ができる。
VIII	課題解決能力	科学技術的課題に対して、チームワークを発揮して計画的に解決策を見つけていくことができる。デザイン能力を有する。

住環境デザイン学科の理念と学習・教育到達目標

2016.4.1

理念	住宅や身の回りの生活空間を取り巻く多様な環境技術と空間デザイン領域を基礎から学び、地球環境を含めた広範な人間の住環境に存在するさまざまな問題点を的確に捉える能力を養う。さらに、これらの問題点の解決方法を提案するための実践的技術とデザイン感性を修得し、サステナブルな住環境を倫理観をもって創造することができ、技術者やデザイナーの育成をめざす。
----	--

記号	テーマ	内容
A	人文・社会科学	語学、社会学、経済学、哲学、文学、歴史学などの多様な人文・社会科学系授業科目の学習により、地球的視点による人間や自然、社会に対する幅広い視野の教養と倫理観を身につける。
B	数学・自然科学	数学・自然科学系授業科目及び情報技術の基礎の学習により、専門知識の理解をより深めるための教養を身につける。
C	技術者倫理	住環境デザインの基礎となる考え方や建築法規を学習し、住環境に関わる技術者としての倫理観や責任感を身につける。
D	環境・構造技術	室内・建築・都市といった住空間の環境系及び構造系の専門的技術の基礎的能力及び実践的な応用力を身につける。
E	計画技術	住生活及び住環境に関する歴史や意匠の知識を修得し、室内・建築・都市といった住空間を対象とする計画技術を身につける。
F	実践力	演習系授業科目を通じて、住環境デザインに関する調査、分析の方法を学習し、課題解決力、デザイン力、コミュニケーション力、自主学習力、計画推進力、チームワーク力を身につける。
G	人間・統合力	専門ゼミ・卒業研究を通じて、住環境デザインに関する様々な知識の再構築を図り、デザイン力、コミュニケーション力、自主学習力、計画推進力、チームワーク力を養い、人間力・統合力を身につける。

科目履修にあたっての注意事項

科目の内容を理解するためには、授業に出席することがとても重要です。特に、専門科目では、下記のように期末試験だけの成績が良くても単位取得できないことがあるので注意してください。

1. 講義は、原則として出席率80%以上を成績評価の対象とします。
2. 演習・ゼミ・製図・実験・実習科目では、原則として出席率100%を成績評価の対象とします。
3. 講義・演習・ゼミ・製図科目では、原則として30分以上の遅刻は欠席扱いとします。
4. 実験・実習科目では、原則として15分以上の遅刻は欠席扱いとします。
5. 遅刻は、原則として2回で欠席1回とみなします。
6. 病欠、クラブなどの欠席では、教員の指示に従って課題等をすみやかに提出してください。
7. 各教室に掲示されている「授業中におけるマナーについて」にマナー違反としてあげられている項目について、このような行為を行い注意に従わない場合は、退室を求め、欠席とします。
8. 1～7に示した出席管理のルールや成績評価の方法は科目により若干異なるので、シラバスをよく読み、教員のアナウンスや掲示板の掲示に注意してください。

授 業 計 画

科目名	担当者	ページ
ア		
朝日新聞社寄付講座「現代社会と向き合う」	荻田 喜代一	311
イ		
衣生活概論	小林 政司	116
インターンシップ I	水野 武	269
インターンシップ II	水野 武	271
インテリアデザイン演習	川上 比奈子	85
インテリアデザイン論	川上 比奈子	73
インテリアデザイン論	川上 比奈子	117
エ		
英語基礎会話 a	アイビス ウイリアム	242
英語基礎会話 b	杉浦 秀行	243
カ		
海外語学研修	齋藤 安以子	245
解析学	寺本 恵昭	27
化学	安藤 章	33
科学英語	有本 好一郎	345
科学技術教養 A 1	宮本 征一	352
科学技術教養 A 2	宮本 征一	353
科学技術教養 C 1	頭井 洋	362
科学技術教養 C 2	頭井 洋	364
科学技術教養 E 1	鹿間 信介	358
科学技術教養 E 2	鹿間 信介	360
科学技術教養 M 1	諏訪 晴彦	354
科学技術教養 M 2	岸本 直子	356
科学技術教養 T 1	長島 健	366
科学技術教養 T 2	島田 伸一	368
科学技術教養 V 1	西村 仁	348
科学技術教養 V 2	青笹 治	350
化学実験	大塚 正人	37
環境計画演習	岩田 三千子	90
環境工学演習	岩田 三千子	88
キ		
幾何学 I	小林 俊公	25
幾何学 II	島田 伸一	26
企業経営	北尾 隆夫	254
技術英語	有本 好一郎	344
基礎英語 I a	大江 麻里子	174
基礎英語 I a	金原 真由美	175
基礎英語 I a	内山 知美	177
基礎英語 I a	鈴木 三千代	179
基礎英語 I a	俣野 裕美	181
基礎英語 I a	松浦 茂寿	183
基礎英語 I b	スミザース 理恵	184
基礎英語 I b	木村 ゆみ	185
基礎英語 I b	抽冬 紘和	186
基礎英語 I b	湊 由妃子	188

科目名	担当者	ページ
基礎英語 I b	金原 真由美	190
基礎英語 I b	小磯 かをる	191
基礎英語 II a	大江 麻里子	193
基礎英語 II a	金原 真由美	194
基礎英語 II a	内山 知美	195
基礎英語 II a	鈴木 三千代	197
基礎英語 II a	俣野 裕美	199
基礎英語 II a	松浦 茂寿	201
基礎英語 II b	スミザース 理恵	202
基礎英語 II b	木村 ゆみ	203
基礎英語 II b	抽冬 紘和	204
基礎英語 II b	湊 由妃子	206
基礎英語 II b	金原 真由美	207
基礎英語 II b	小磯 かをる	209
基礎数学演習	棚橋 典大	9
基礎設計演習	平田 陽子	80
基礎力学演習	入澤 明典	31
北河内を知る	尾山 廣	266
キャリアデザイン I (BASIC)	中川 浩一	277
キャリアデザイン II (ADVANCE)	石井 三恵	279
教育課程論	大野 順子	402
教育経営論	朝日 素明	400
教育原理	小山 裕樹	395
教育実習 I	林 茂樹	421
教育実習 II	朝日 素明	423
教育実習 III	朝日 素明	424
教育社会学	大野 順子	398
教育心理学	吉田 佐治子	397
教育相談	吉田 佐治子	420
教育方法論	林 茂樹	417
教職実践演習 (中・高)	吉田 佐治子	425
教師論	朝日 素明	393
居住安全計画	宮野 道雄	48
近代デザイン史	藤田 治彦	70
近代文学から学ぶ	細川 知佐子	146
ク		
空間情報演習	榊 愛	94
空間表現演習 A	榊 愛	75
空間表現演習 B	榊 愛	76
空間表現演習 I (CAD I)	榊 愛	125
空間表現演習 II (CAD II)	榊 愛	126
ケ		
健康科学	藤林 真美	280
健康論	内部 昭彦	167
現代と地理学	笠原 俊則	249
建築一般構造学	北本 裕之	61
建築空間論	本多 友常	74
建築計画学	本多 友常	68
建築法規	大上 直樹	43
建築法規	大上 直樹	114

科目名	担当者	ページ
コ		
工業科教育法Ⅰ	福岡 優	404
工業科教育法Ⅱ	福岡 優	405
工業数学Ⅰ	小泉 耕 蔵	22
工業数学Ⅱ	小泉 耕 蔵	23
構造デザイン演習	白鳥 武	92
構造デザイン入門	白鳥 武	113
構造デザイン論	白鳥 武	55
構造力学Ⅰ	北守 顕 久	59
構造力学Ⅱ	北守 顕 久	60
国際理解概論	田添 篤 史	262
古典文学から学ぶ	細川 知佐子	145
コミュニケーションⅠ	金 瑛	273
コミュニケーションⅡ	櫻井 清 華	274

科目名	担当者	ページ
サ		
産業技術史	照元 弘 行	346
産業社会と知的財産	関 堂 幸 輔	260

科目名	担当者	ページ
シ		
色彩デザイン論	岩田 三千子	56
色彩論	岩田 三千子	107
実践英語上級	平尾 秀 実	241
実践英語初級	西谷 継 治	220
実践英語初級	中本 明 子	221
実践英語初級	平尾 秀 実	223
実践英語初級	中道 英美子	225
実践英語初級	山本 尚 子	226
実践英語初級	松浦 茂 寿	227
実践英語中級	木村 ゆ み	228
実践英語中級	梅田 尋 道	229
実践英語中級	箕田 正 開	231
実践英語中級	湊 由 妃 子	233
実践英語中級	抽 冬 紘 和	235
実践英語中級	松井 信 義	237
実践英語中級	西谷 継 治	239
実践英語中級	吉村 征 洋	240
実践英語入門	木村 ゆ み	211
実践英語入門	梅田 尋 道	212
実践英語入門	箕田 正 開	213
実践英語入門	湊 由 妃 子	214
実践英語入門	抽 冬 紘 和	216
実践英語入門	松井 信 義	218
実践の思想	柿 本 佳 美	156
実践の思想	山口 尚	158
社会の仕組み	金 政 芸	256
社会の仕組み	谷 口 裕 久	257
住環境管理学	平田 陽 子	65
住環境工学Ⅰ	岩田 三千子	101
住環境工学Ⅱ	竹村 明 久	106
住環境工学A	竹村 明 久	50

科目名	担当者	ページ
住環境工学B	岩田 三千子	51
住環境材料学	難波 尚	54
住環境材料学Ⅰ	難波 尚	105
住環境材料学Ⅱ	白鳥 武	109
住環境設備	森山 正 和	108
住環境設備A	森山 正 和	52
住環境設備B	曾我部 峰 幸	53
住環境デザイン概論	平田 陽 子	45
住環境倫理	中村 文 紀	41
住居計画学	稲地 秀 介	66
就職実践基礎	亀田 峻 宣	282
就職実践基礎	永見 誠 二	283
就職実践基礎	津村 忠	284
就職実践基礎	亀田 峻 宣	285
住生活演習	平田 陽 子	96
住生活学	平田 陽 子	64
住生活学Ⅰ	平田 陽 子	102
住生活学Ⅱ	平田 陽 子	104
住宅生産学	吉田 文 久	63
生涯スポーツ実習	河瀬 泰 治	171
生涯スポーツ実習	河瀬 泰 治	172
生涯スポーツ実習	近藤 潤	173
情報リテラシーⅠ	妹尾 史 郎	39
情報リテラシーⅡ	妹尾 史 郎	40
職業指導	水野 武	427
心理と社会	柏尾 眞津子	155

科目名	担当者	ページ
ス		
数学科教育法Ⅰ	小林 俊 公	406
数学科教育法Ⅱ	小林 俊 公	407
数学科教育法Ⅲ	富永 雅	409
数学科教育法Ⅳ	富永 雅	411
図形科学	榊 愛	47
スポーツ科学実習Ⅰ	近藤 潤	169
スポーツ科学実習Ⅱ	近藤 潤	170

科目名	担当者	ページ
セ		
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅野 英 一	289
生徒指導論	朝日 素 明	419
生物学	尾崎 清 和	34
生命科学入門	大塚 正 人	310
西洋建築史	小林 正 子	72
設計演習Ⅰ	川上 比奈子	81
設計演習Ⅱ	稲地 秀 介	82
設計演習Ⅲ	本多 友 常	83
設計演習Ⅳ	本多 友 常	84
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	橋本 正 治	312
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	橋本 正 治	313
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石田 裕 子	314
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石田 裕 子	315
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	浅野 英 一	316
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	浅野 英 一	317

科目名	担当者	ページ
摂南大学PBLプロジェクトI	久保貞也	318
摂南大学PBLプロジェクトII	久保貞也	319
摂南大学PBLプロジェクトI	鶴坂貴恵	320
摂南大学PBLプロジェクトII	鶴坂貴恵	322
摂南大学PBLプロジェクトI	一色美博	324
摂南大学PBLプロジェクトII	一色美博	325
摂南大学PBLプロジェクトI	田中賢太郎	326
摂南大学PBLプロジェクトII	田中賢太郎	327
摂南大学PBLプロジェクトI	鳥居祐介	328
摂南大学PBLプロジェクトII	鳥居祐介	329
摂南大学PBLプロジェクトI	天野貴史	330
摂南大学PBLプロジェクトII	天野貴史	331
摂南大学PBLプロジェクトI	栢木紀哉	332
摂南大学PBLプロジェクトII	栢木紀哉	333
摂南大学PBLプロジェクトI	安久典宏	334
摂南大学PBLプロジェクトII	安久典宏	335
摂南大学PBLプロジェクトI	石井信輝	336
摂南大学PBLプロジェクトII	石井信輝	337
摂南大学PBLプロジェクトI	内 部 昭 彦	338
摂南大学PBLプロジェクトII	内 部 昭 彦	339
摂南大学PBLプロジェクトI	藤 林 真 美	340
摂南大学PBLプロジェクトII	藤 林 真 美	341
摂南大学PBLプロジェクトI	荻 田 喜 代 一	342
摂南大学PBLプロジェクトII	荻 田 喜 代 一	343
ゼミI	平 田 陽 子	127
ゼミII	稲 地 秀 介	128
ゼミIII	平 田 陽 子	129
ゼミIV	稲 地 秀 介	130
ゼミA	平 田 陽 子	97
ゼミB	平 田 陽 子	98
ゼミC	平 田 陽 子	99
ゼミD	平 田 陽 子	100
線形代数I	島 田 伸 一	18
線形代数II	西 脇 純 一	19
線形代数III	小 林 俊 公	20
線形代数IV	友 枝 恭 子	21
専門ゼミV	平 田 陽 子	131
専門ゼミVI	平 田 陽 子	132
専門日本語F I	中 岡 樹 里	380
専門日本語F II	中 岡 樹 里	381
ソ		
造形演習	北 野 正 治	78
ソーシャル・イノベーション実務総論	石 井 三 恵	267
卒業研究	本 多 友 常	133
卒業研究	森 山 正 和	134
卒業研究	岩 田 三 千 子	135
卒業研究	川 上 比 奈 子	136
卒業研究	平 田 陽 子	137
卒業研究	稲 地 秀 介	138
卒業研究	榎 愛	139
卒業研究	白 鳥 武	140

科目名	担当者	ページ
卒業研究	竹 村 明 久	141
卒業研究	坂 本 淳 二	142
タ		
代数学	中 津 了 勇	24
ダイバーシティとコミュニケーション	石 井 三 恵	302
宅地建物取引概論	南 村 幸 児	119
チ		
地域・都市計画学	坂 本 淳 二	69
地域計画学	坂 本 淳 二	118
地域と私	鶴 坂 貴 恵	264
地域連携教育活動I	浅 野 英 一	290
地域連携教育活動II	浅 野 英 一	291
チームビルディング	水 野 武	293
地球環境学	山 川 肇	111
テ		
哲学から学ぶ	柿 本 佳 美	159
哲学から学ぶ	森 本 誠 一	161
ト		
統計学	中 津 了 勇	28
道徳教育の研究	小 山 裕 樹	413
特別活動の理論と方法	林 茂 樹	415
都市環境計画	森 山 正 和	49
ニ		
日常の謎を解く心理学	牧 野 幸 志	308
日本建築史	谷 直 樹	71
日本語会話F I	高 井 美 穂	382
日本語会話F II	高 井 美 穂	383
日本国憲法	大 仲 淳 介	251
日本語上級会話F I	高 井 美 穂	388
日本語上級会話F II	高 井 美 穂	389
日本語上級作文F I	中 岡 樹 里	386
日本語上級作文F II	中 岡 樹 里	387
日本語上級読解F I	古 川 由 理 子	384
日本語上級読解F II	古 川 由 理 子	385
日本語総合F I	古 川 由 理 子	378
日本語総合F II	古 川 由 理 子	379
日本語読解	濱 中 祐 子	147
日本語読解	松 尾 佳 津 子	149
日本語読解F I	中 岡 樹 里	372
日本語読解F II	中 岡 樹 里	373
日本語表現	松 尾 佳 津 子	151
日本語表現作文F I	中 岡 樹 里	376
日本語表現作文F II	中 岡 樹 里	377
日本語文法F I	中 岡 樹 里	374
日本語文法F II	中 岡 樹 里	375
日本事情F I	門 脇 薫	370
日本事情F II	門 脇 薫	371

科目名	担当者	ページ
日本の政治	中 沼 丈 晃	247
人間工学入門	竹 村 明 久	103
人間力と心理	山 本 雅 代	153

ハ

犯罪被害者の支援と法的救済	小 野 晃 正	304
---------------	---------	-----

ヒ

ビジネスマナー	仁 平 章 子	275
微積分 I	寺 本 惠 昭	11
微積分 I	友 枝 恭 子	13
微積分 I	田 畑 謙 二	14
微積分 II	寺 本 惠 昭	15
微積分 II	佐々木 洋 平	16

フ

物理学	前 田 純一郎	30
物理学基礎演習	東 谷 篤 志	29
物理学実験	神 嶋 修	36
武道論	横 山 喬 之	286
プレゼンテーション論	石 井 三 恵	306
プロダクトデザイン演習	稲 地 秀 介	86
プロダクトデザイン演習 I	稲 地 秀 介	121
プロダクトデザイン演習 II	稲 地 秀 介	123
プロダクトデザイン論	市 川 邦 治	46

ホ

法学入門	大 仲 淳 介	250
------	---------	-----

マ

マーケティング	鶴 坂 貴 恵	259
マーケティングと歴史	武 居 奈緒子	292
マクロ経済学入門	伊 藤 正 純	252
マクロ経済学入門	内 田 勝 巳	253
マンション管理学	平 田 陽 子	120

ミ

身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中 沼 丈 晃	297
--------------------	---------	-----

モ

ものづくりインターンシップ基礎	奥 野 竜 平	294
ものづくりインターンシップ基礎	川 野 常 夫	296
ものづくりインターンシップ実践	奥 野 竜 平	299
ものづくり海外インターンシップ	川 野 常 夫	301

ヤ

役立つ金融知力	陸 川 富 盛	287
---------	---------	-----

ラ

ライフサイエンスの基礎	西 矢 芳 昭	309
ランドスケープデザイン論	佐々木 葉 二	57

科目名	担当者	ページ
リ		
力学	長 島 健	32
理工学基礎実験	稲 地 秀 介	35

レ

歴史に学ぶ	佐 伯 智 広	164
歴史に学ぶ	村 上 司 樹	165

專 門 科 目

科目名	基礎数学演習	科目名(英文)	Exercises in Basic Mathematics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	棚橋 典大

授業概要・目的	この講義は微積分学への準備となるように意図されている。微積分の講義では説明が省略されるか簡単に済まされるものに対して詳しい説明と演習を行う。微積分学は瞬間の変化を記述し、微小なものを足し合わせる方法を教えている。その動機付けとなるような問題も扱いたいと思っている。そのため物理からの簡単な応用問題も取り上げたいと思っている。
到達目標	主な目標は(1)種々の量を文字式で表現できる。(2)初等関数の性質を利用した計算ができる。(3)平行移動、対称移動を利用して関数のグラフが描ける。 学科の学習・教育目標との対応：数学・自然科学系教養 [B]
授業方法と留意点	教科書に基づく講義と演習を中心に進める。これと並行して、各単元の内容の演習を演習教材(ワークブック)を用いて次のサイクルで実施する： (1)授業で指定された演習問題に解答し、(2)教員の評価を受けること。正解するまでやり直し、(3)その単元の問題に正答した時点で、教員から検印を貰う。
科目学習の効果(資格)	微積分、線形代数のための基礎を身につけて、専門科目で用いられる数式理解に役立てる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	整数・有理数・無理数	・オリエンテーション ・整数・有理数・無理数の諸性質	演習テキスト 第1.1~1.4章 レポート課題
2	複素数・無理数	・複素数の四則演算	演習テキスト 第1.5~1.6章 レポート課題
3	複素平面と極形式	・複素数の極形式表示	演習テキスト 第1.7章 レポート課題
4	文字式	・文字式の展開・因数分解	演習テキスト 第2.1~2.3章 レポート課題
5	2次方程式	・解の公式等による2次方程式の解法	演習テキスト 第2.4章 レポート課題
6	高次方程式	・因数定理を用いた高次方程式の解法	演習テキスト 第2.4章 レポート課題
7	1次関数(1)	・直線の式、直交条件	演習テキスト 第3.1章 レポート課題
8	1次関数(2)	・1次関数の応用	演習テキスト 第3.1章 レポート課題
9	2次関数	・グラフ	演習テキスト 第3.2章 レポート課題
10	無理関数	・グラフ	演習テキスト 第3.2章 レポート課題
11	分数式	・計算・部分分数分解	演習テキスト 第4.1-4.2章 レポート課題
12	分数式	・グラフ	演習テキスト 第4.2章
13	三角比(1)	・一般角、三平方の定理とその応用	演習テキスト 第5.1章 レポート課題
14	三角比(2)	・三角関数の定義、グラフ	演習テキスト 第5.2章 レポート課題
15	三角比(3)	・三角比の計算、余弦定理	演習テキスト 第5.2~5.3章 レポート課題
16	絶対値(1)	・絶対値の基本的性質	演習テキスト 第6.1章 レポート課題
17	絶対値(2)	・絶対値付きの方程式の解法、グラフ	演習テキスト 第6.2~6.3章 レポート課題
18	指数関数(1)	・指数法則	演習テキスト 第7.1章 レポート課題
19	指数関数(2)	・指数関数のグラフ、方程式の解法	演習テキスト 第7.1章 レポート課題
20	対数関数(1)	・対数の定義、底の変換公式	演習テキスト 第7.2章 レポート課題
21	対数関数(2)	・対数関数を含む方程式	演習テキスト 第7.2章 レポート課題
22	対数関数(3)	・対数関数のグラフ	演習テキスト 第7.2章 レポート課題
23	三角関数(1)	・加法定理	演習テキスト 第8.1章 レポート課題
24	三角関数(2)	・加法定理を用いた計算問題	演習テキスト 第8.1章 レポート課題
25	三角関数(3)	・加法定理から導かれる種々の公式	演習テキスト 第8.2章 レポート課題
26	三角関数(4)	・加法定理を用いた三角関数のグラフの描き方	演習テキスト 第8.3章 レポート課題
27	数列	・等差数列、等比数列	演習テキスト 第9.1~9.3章 レポート課題
28	和の公式	・等差数列、等比数列の和、シグマ記号に慣れる	演習テキスト 第9.2~9.4章 レポート課題
29	数学的帰納法	・数学的帰納法を用いた証明	演習テキスト 第9.5章 レポート課題
30	総合演習	・応用問題	レポート課題

関連科目 数式を用いるすべての科目、特に微積分。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学の基礎(基礎理工学機構編)	基礎理工学機構編	
	2	日々の演習(基礎理工学機構編)	基礎理工学機構編	
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可。		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全単元の検印を受けて演習教材(ワークブック)を完遂した者のみを成績評価の対象とし、演習、小テスト、演習教材(ワークブック)で30%、中間35%、期末35%の割合で判定し評価する。			
学生への メッセージ	教科書の問題を自分で何度も解いて数式を扱う経験を十分に積むよう努力してください。演習は必ず自分で解こうと努力し、わからないところは質問する積極的な姿勢を望みます。			
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。			

科目名	微積分 I	科目名 (英文)	Calculus I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺本 恵昭

授業概要・目的	整式、有理式、無理関数、3角、指数、対数関数などの基本的な関数について、微分の計算法、テイラー展開の求め方、不定積分の計算法を習得する。
到達目標	1) 基本的な関数の微分ができる。 2) 関数の挙動を求めグラフが描ける。 3) 基本的な関数の不定積分ができる。 学科の学習・教育目標の対応： [B]
授業方法と留意点	進捗の具合により講義と演習を適宜配分。左に挙げた内容を解説し、演習で理解を深める。専門学科で必要とされる微積分の素養、計算能力を身につけるために授業には必ず出席し、予習復習も励行すること。試験は中間、期末の計2回
科目学習の効果 (資格)	次の科目の講義は微積分 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 微積分 II, 工業数学 I, 工業数学 II, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 統計学。 上記科目を受講する予定の学生は微積分 I を履修すること。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			問	課題レポート
1	関数とそのグラフ (1)	・座標平面・点の表示・点の移動の表示	第1章の間	課題レポート
2	関数とそのグラフ (2)	・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ	第1章の間	課題レポート
3	関数の極限	・実数の性質・極限の定義・極限の計算方法	第1章の間	課題レポート
4	関数の連続性	・連続性の定義・連続関数の性質	第1章の間	課題レポート
5	微分係数	・微分係数の定義・接線の方程式	第2章の間	課題レポート
6	導関数	・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数	第2章の間	課題レポート
7	導関数の計算方法	・積、商の導関数	第2章の間	課題レポート
8	合成関数の微分高次導関数	・合成の方法・合成関数の微分の計算	第2章の間	課題レポート
9	逆関数の微分	・逆関数の定義・逆関数の微分の計算	第2章の間	課題レポート
10	指数関数	・指数法則・ネピアの数 e・指数関数の定義	第3章の間	課題レポート
11	指数関数の微分	・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分	第3章の間	課題レポート
12	対数関数	・自然対数の定義・対数の性質	第3章の間	課題レポート
13	対数関数の微分	・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法	第3章の間	課題レポート
14	3角関数	・弧度法・3角関数の定義・諸性質と公式	第4章の間	課題レポート
15	3角関数・逆3角関数の微分	・ $\sin x$ の微分・3角関数の微分・逆3角関数の微分	第4章の間	課題レポート
16	高次導関数 (1)	・高次導関数の定義・多項式の高次導関数	第5章の間	課題レポート
17	高次導関数 (2)	・指数、対数、3角関数の高次導関数・ライプニッツの公式	第5章の間	課題レポート
18	平均値の定理	・ロルの定理・平均値の定理	第6章の間	課題レポート
19	関数の挙動 (1)	・関数の増減・極大、極小	第6章の間	課題レポート
20	関数の挙動 (2)	・グラフの凹凸・変曲点	第6章の間	課題レポート
21	関数の展開 (1)	・テイラー展開・マクローリン展開	第6章の間	課題レポート
22	関数の展開 (2)	・指数関数、3角関数、対数関数の展開・2項定理の一般化	第6章の間	課題レポート
23	原始関数 (1)	微分の逆演算としての不定積分	第7章の間	課題レポート
24	原始関数 (2)	・整式、有理式的不定積分	第7章の間	課題レポート
25	原始関数 (3)	・3角関数の不定積分	第7章の間	課題レポート
26	原始関数 (4)	・指数関数、対数関数の不定積分	第7章の間	課題レポート
27	不定積分の計算法 (1)	・置換積分	第7章の間	課題レポート
28	不定積分の計算法 (2)	・部分積分	第7章の間	課題レポート
29	不定積分の計算法 (3)	・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分	第7章の間	課題レポート
30	不定積分の計算法 (4)	・初等関数の不定積分のまとめ	第7章の間	課題レポート

関連科目 微積分 II; 線形代数 I; II; 工業数学 I; 工業数学 II; 代数学; 幾何学 II; 解析学; 統計学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可。		
2				
3				

評価方法 (基準) 演習、小テストで30%、中間 35%、期末 35%判定し評価する。

学生への 講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来

メッセージ	て下さい。また、スチューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。

科目名	微積分 I	科目名 (英文)	Calculus I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	友枝 恭子

授業概要・目的	整式、有理式、無理関数、3角、指数、対数関数などの基本的な関数について、微分の計算法、テイラー展開の求め方、不定積分の計算法を習得する。
到達目標	1) 基本的な関数の微分ができる。 2) 関数の挙動を求めグラフが描ける。 3) 基本的な関数の不定積分ができる。 学科の学習・教育目標の対応：数学・自然科学系教養 [B]
授業方法と留意点	進捗の具合により講義と演習を適宜配分。左に挙げた内容を解説し、演習で理解を深める。専門学科で必要とされる微積分の素養、計算能力を身につけるために授業には必ず出席し、予習復習も励行すること。試験は中間、期末の計2回
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は後期の微積分 II を習得するのに引き継がれる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			問題	課題レポート
1	関数とそのグラフ (1)	・座標平面・点の表示・点の移動の表示	第1章の間	課題レポート
2	関数とそのグラフ (2)	・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ	第1章の間	課題レポート
3	関数の極限	・実数の性質・極限の定義・極限の計算法	第1章の間	課題レポート
4	関数の連続性	・連続性の定義・連続関数の性質	第1章の間	課題レポート
5	微分係数	・微分係数の定義・接線の方程式	第2章の間	課題レポート
6	導関数	・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数	第2章の間	課題レポート
7	導関数の計算法	・積、商の導関数	第2章の間	課題レポート
8	合成関数の微分高次導関数	・合成の方法・合成関数の微分の計算	第2章の間	課題レポート
9	逆関数の微分	・逆関数の定義・逆関数の微分の計算	第2章の間	課題レポート
10	指数関数	・指数法則・ネピアの数 e・指数関数の定義	第3章の間	課題レポート
11	指数関数の微分	・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分	第3章の間	課題レポート
12	対数関数	・自然対数の定義・対数の性質	第3章の間	課題レポート
13	対数関数の微分	・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法	第3章の間	課題レポート
14	3角関数	・弧度法・3角関数の定義・諸性質と公式	第4章の間	課題レポート
15	3角関数・逆3角関数の微分	・ $\sin x$ の微分・3角関数の微分・逆3角関数の微分	第4章の間	課題レポート
16	高次導関数 (1)	・高次導関数の定義・多項式の高次導関数	第5章の間	課題レポート
17	高次導関数 (2)	・指数、対数、3角関数の高次導関数・ライプニッツの公式	第5章の間	課題レポート
18	平均値の定理	・ロルの定理・平均値の定理	第6章の間	課題レポート
19	関数の挙動 (1)	・関数の増減・極大、極小	第6章の間	課題レポート
20	関数の挙動 (2)	・グラフの凹凸・変曲点	第6章の間	課題レポート
21	関数の展開 (1)	・テイラー展開・マクローリン展開	第6章の間	課題レポート
22	関数の展開 (2)	・指数関数、3角関数、対数関数の展開・2項定理の一般化	第6章の間	課題レポート
23	原始関数 (1)	微分の逆演算としての不定積分	第7章の間	課題レポート
24	原始関数 (2)	・整式、有理式的不定積分	第7章の間	課題レポート
25	原始関数 (3)	・3角関数の不定積分	第7章の間	課題レポート
26	原始関数 (4)	・指数関数、対数関数の不定積分	第7章の間	課題レポート
27	不定積分の計算法 (1)	・置換積分	第7章の間	課題レポート
28	不定積分の計算法 (2)	・部分積分	第7章の間	課題レポート
29	不定積分の計算法 (3)	・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分	第7章の間	課題レポート
30	不定積分の計算法 (4)	・初等関数の不定積分のまとめ	第7章の間	課題レポート

関連科目	以下の科目の講義は微積分 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 微積分 II, 工業数学 I, 工業数学 II, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 統計学 上記科目を受講する予定の学生は微積分 I を履修すること。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	演習、小テストで30%、中間35%、期末35%判定し評価する。
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、チューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
----------	-------------

備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
----	------------------------

科目名	微積分 I	科目名 (英文)	Calculus I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田畑 謙二

授業概要・目的	<p>整式、有理式、無理関数、3角、指数、対数関数などの基本的な関数について、微分の計算法、テイラー展開の求め方、不定積分の計算法を習得する。</p>
到達目標	<p>1) 基本的な関数の微分ができる 2) 関数の挙動を求めグラフが描ける 3) 基本的な関数の不定積分ができる。</p> <p>学科の学習・教育到達目標の対応：A科[D]、M科[C1]、R科[B]</p>
授業方法と留意点	<p>進捗の具合により講義と演習を適宜配分。左に挙げた内容を解説し、演習で理解を深める。専門科目で必要とされる微積分の素養、計算能力を身につけるために授業には必ず出席し、予習復習も励行すること。試験は中間、期末の計2回</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>本講義の内容は後期の微積分Ⅱを習得するのに引き継がれる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			問	問題
1	関数とそのグラフ(1)	・座標平面・点の表示・点の移動の表示	第1章の問	問題 課題レポート
2	関数とそのグラフ(2)	・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ	第1章の問	問題 課題レポート
3	関数の極限	・実数の性質・極限の定義・極限の計算方法	第1章の問	問題 課題レポート
4	関数の連続性	・連続性の定義・連続関数の性質	第1章の問	問題 課題レポート
5	微分係数	・微分係数の定義・接線の方程式	第2章の問	問題 課題レポート
6	導関数	・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数	第2章の問	問題 課題レポート
7	導関数の計算方法	・積、商の導関数	第2章の問	問題 課題レポート
8	合成関数の微分高次導関数	・合成の方法・合成関数の微分の計算	第2章の問	問題 課題レポート
9	逆関数の微分	・逆関数の定義・逆関数の微分の計算	第2章の問	問題 課題レポート
10	指数関数	・指数法則・ネピアの数 e・指数関数の定義	第3章の問	問題 課題レポート
11	指数関数の微分	・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分	第3章の問	問題 課題レポート
12	対数関数	・自然対数の定義・対数の性質	第3章の問	問題 課題レポート
13	対数関数の微分	・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法	第3章の問	問題 課題レポート
14	3角関数	・弧度法・3角関数の定義・諸性質と公式	第4章の問	問題 課題レポート
15	3角関数・逆3角関数の微分	・ $\sin x$ の微分・3角関数の微分・逆3角関数の微分	第4章の問	問題 課題レポート
16	高次導関数(1)	・高次導関数の定義・多項式の高次導関数	第5章の問	問題 課題レポート
17	高次導関数(2)	・指数、対数、3角関数の高次導関数・ライプニッツの公式	第5章の問	問題 課題レポート
18	平均値の定理	・ロルの定理・平均値の定理	第6章の問	問題 課題レポート
19	関数の挙動(1)	・関数の増減・極大、極小	第6章の問	問題 課題レポート
20	関数の挙動(2)	・グラフの凹凸・変曲点	第6章の問	問題 課題レポート
21	関数の展開(1)	・テイラー展開・マクローリン展開	第6章の問	問題 課題レポート
22	関数の展開(2)	・指数関数、3角関数、対数関数の展開・2項定理の一般化	第6章の問	問題 課題レポート
23	原始関数(1)	微分の逆演算としての不定積分	第7章の問	問題 課題レポート
24	原始関数(2)	・整式、有理式的不定積分	第7章の問	問題 課題レポート
25	原始関数(3)	・3角関数の不定積分	第7章の問	問題 課題レポート
26	原始関数(4)	・指数関数、対数関数の不定積分	第7章の問	問題 課題レポート
27	不定積分の計算法(1)	・置換積分	第7章の問	問題 課題レポート
28	不定積分の計算法(2)	・部分積分	第7章の問	問題 課題レポート
29	不定積分の計算法(3)	・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分	第7章の問	問題 課題レポート
30	不定積分の計算法(4)	・初等関数の不定積分のまとめ	第7章の問	問題 課題レポート

関連科目	<p>以下の科目の講義は微積分Ⅰの知識とスキルを前提にして授業が進められます： 微積分Ⅱ, 工業数学Ⅰ, 工業数学Ⅱ, 代数学, 幾何学Ⅱ, 解析学, 統計学 上記科目を受講する予定の学生は微積分Ⅰを履修すること。</p>
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	<p>演習、小テストで30%、中間試験35%、期末試験35%で判定し評価する。</p>
-----------	---

学生へのメッセージ	<p>講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、スチューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。</p>
-----------	--

担当者の研究室等	<p>3号館3階 数学研究室</p>
----------	--------------------

備考	<p>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</p>
----	-------------------------------

科目名	微積分Ⅱ	科目名(英文)	Calculus II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺本 恵昭

授業概要・目的	定積分の概念と計算法, 2変数関数の偏微分の計算とそのグラフの把握, 重積分の概念と計算法, 以上を説明する。 変化する量の総和をとらえる定積分の意味を理解しその計算の手段としての微積分の基本定理を把握する。 2変数の関数のグラフが空間内の曲面として表現され、偏微分の計算方法を学んでグラフの空間的挙動を追跡する方法を学習する。
到達目標	(1)基本的な関数の積分ができる (2)偏微分の計算ができる (3)2変数関数の挙動がわかる (4)重積分の計算ができる。 学科の学習・教育目標との対応: 数学・自然科学系教養 [B]
授業方法と留意点	挙げた内容を具体的な計算例を中心にできるだけ平易に解説し, 理解の程度を演習により確かめる。受講者はその厳選された平易な内容を確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。そのためには、欠席をせず授業の前30分でも良いから復習を重ねること。
科目学習の効果(資格)	本講義の内容は、工業数学及び諸々の専門科目の習得に引き継がれる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	定積分の定義	・面積と定積分・定積分の定義・定積分の性質	第8章の問題
2	簡単な定積分	・定数関数, 1次, 2次関数の定積分・不定積分と定積分・基本的な関数の定積分	第8章の問題
3	定積分の計算法(1)	・微積分の基本定理・不定積分と定積分	第8章の問題
4	定積分の計算法(2)	・置換積分	第8章の問題
5	定積分の計算法(3)	・部分積分	第8章の問題
6	定積分の計算法(4)	・指数関数, 三角関数の定積分	第8章の問題
7	定積分の計算法(5)	・有理関数, 無理関数の定積分	第8章の問題
8	定積分の応用(1)	・曲線が囲む面積の計算	第8章の問題
9	定積分の応用(2)	・体積の計算	第8章の問題
10	定積分の応用(3)	・回転体の体積	第8章の問題
11	定積分の応用(4)	・広義積分	第8章の問題
12	2変数の関数(1)	・2変数関数の例・xy平面内の領域と関数の定義域	第9章の問題
13	2変数関数のグラフ(1)	・グラフとしての曲面・グラフ上の曲線	第9章の問題
14	2変数の関数(2)	・2変数関数の極限・2変数関数の連続性	第9章の問題
15	2変数関数のグラフ(2)	・グラフ上の曲線の接線・接平面の導入	第9章の問題
16	偏微分	・偏微分の定義	第9章の問題
17	偏微分の計算(1)	・偏導関数の定義・偏導関数の計算法	第9章の問題
18	偏微分の計算(2)	・偏微分可能性・全微分可能性	第9章の問題
19	合成関数の偏微分	・2変数関数の合成と偏微分の計算	第9章の問題
20	高次偏導関数(1)	・2次偏導関数の定義・偏微分の順序交換	第9章の問題
21	高次偏導関数(2)	・合成の高次偏微分・偏微分作用素の表示	第9章の問題
22	高次偏導関数(3)	・2変数のテイラー展開・マクローリン展開	第9章の問題
23	偏微分の応用(1)	・2変数関数の極値問題	第9章の問題
24	偏微分の応用(2)	・陰関数定理・条件付き極値問題	第9章の問題
25	重積分の定義(1)	・体積と重積分・長方形領域上での重積分	第10章の問題
26	重積分の定義(2)	・長方形上での逐次積分	第10章の問題
27	重積分の計算法(1)	・曲線で囲まれた領域上での重積分	第10章の問題
28	重積分の計算法(2)	・逐次積分への帰着	第10章の問題
29	重積分の計算法(3)	・重積分と立体の体積	第10章の問題
30	重積分の計算法(4)	・広義重積分・ Γ 関数とベータ関数	第10章の問題

関連科目
以下の科目の講義は微積分Ⅱの知識とスキルを前提にして授業が進められます:
工業数学Ⅰ, 工業数学Ⅱ, 統計学, 代数学, 幾何学Ⅱ, 解析学, 応用数学Ⅰ, 応用数学Ⅱ
上記科目を受講する予定の学生は微積分Ⅱを履修すること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	演習, 小テストで30%、習熟度確認テストと期末テスト70%で判定し評価する。
学生へのメッセージ	3号館3階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気軽にください。
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習は毎回1時間以上かけること。

科目名	微積分Ⅱ	科目名(英文)	Calculus II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 洋平

授業概要・目的	定積分の概念と計算法, 2変数関数の偏微分の計算とそのグラフの把握, 重積分の概念と計算法, 以上を説明する。
到達目標	1) 基本的な関数の積分ができる。 2) 偏微分の計算ができる。 3) 2変数関数の挙動がわかる。 4) 重積分の計算ができる。 R科の学習・教育目標との対応: B E科の学習・教育到達目標との対応: D C科の学習・教育到達目標との対応: IV

授業方法と留意点
挙げた内容を具体的な計算例を中心にできるだけ平易に解説し, 理解の程度を演習により確かめる。受講者はその厳選された平易な内容を確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。そのためには、欠席をせず授業の前に30分でも良いから復習を重ねること。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			問	課題レポート
1	定積分の定義	・面積と定積分・定積分の定義・定積分の性質	第8章の問	課題レポート
2	簡単な定積分	・定数関数, 1次, 2次関数の定積分・不定積分と定積分・基本的な関数の定積分	第8章の問	課題レポート
3	定積分の計算法(1)	・微積分の基本定理・不定積分と定積分	第8章の問	課題レポート
4	定積分の応用(2)	・置換積分	第8章の問	課題レポート
5	定積分の応用(3)	・部分積分	第8章の問	課題レポート
6	定積分の応用(4)	・指数関数, 3角関数の定積分	第8章の問	課題レポート
7	定積分の計算法(5)	・有理関数, 無理関数の定積分	第8章の問	課題レポート
8	定積分の応用(1)	・曲線が囲む面積の計算	第8章の問	課題レポート
9	定積分の応用(2)	・体積の計算	第8章の問	課題レポート
10	定積分の応用(3)	・回転体の体積	第8章の問	課題レポート
11	定積分の応用(4)	・広義積分	第8章の問	課題レポート
12	2変数の関数(1)	・2変数関数の例・xy平面内の領域と関数の定義域	第9章の問	課題レポート
13	2変数関数のグラフ(1)	・グラフとしての曲面・グラフ上の曲線	第9章の問	課題レポート
14	2変数の関数(2)	・2変数関数の極限・2変数関数の連続性	第9章の問	課題レポート
15	2変数関数のグラフ(2)	・グラフ上の曲線の接線・接平面の導入	第9章の問	課題レポート
16	偏微分	・偏微分の定義	第9章の問	課題レポート
17	偏微分の計算(1)	・偏導関数の定義・偏導関数の計算法	第9章の問	課題レポート
18	偏微分の計算(2)	・偏微分可能性・全微分可能性	第9章の問	課題レポート
19	合成関数の偏微分	・2変数関数の合成と偏微分の計算	第9章の問	課題レポート
20	高次偏導関数(1)	・2次偏導関数の定義・偏微分の順序交換	第9章の問	課題レポート
21	高次偏導関数(2)	・合成の高次偏微分・偏微分作用素の表示	第9章の問	課題レポート
22	高次偏導関数(3)	・2変数のテイラー展開・マクローリン展開	第9章の問	課題レポート
23	偏微分の応用(1)	・2変数関数の極値問題	第9章の問	課題レポート
24	偏微分の応用(2)	・陰関数定理・条件付き極値問題	第9章の問	課題レポート
25	重積分の定義(1)	・体積と重積分・長方形領域上での重積分	第10章の問	課題レポート
26	重積分の定義(2)	・長方形上での逐次積分	第10章の問	課題レポート
27	重積分の計算法(1)	・曲線で囲まれた領域上での重積分	第10章の問	課題レポート
28	重積分の計算法(2)	・逐次積分への帰着	第10章の問	課題レポート
29	重積分の計算法(3)	・重積分と立体の体積	第10章の問	課題レポート
30	重積分の計算法(4)	・広義重積分・ Γ 関数とベータ関数	第10章の問	課題レポート

関連科目
以下の科目の講義は微積分Ⅰの知識とスキルを前提にして授業が進められます:
工業数学Ⅰ, 工業数学Ⅱ, 代数学, 幾何学Ⅱ, 解析学
上記科目を受講する予定の学生は微積分Ⅰを履修すること

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)
演習, 小テストで30%、習熟度確認テストと期末テスト70%で判定し評価する。

学生への
どんなに些細な事でも遠慮なく質問すること、授業中でもいつでも親切に答えます。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、ス

メッセージ	チューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますのでどんな質問でも良いから来て下さい。数学は特に積み重ねが肝心の科目です。諦めずに続けましょう。
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。

科目名	線形代数 I	科目名 (英文)	Linear Algebra I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田 伸一

授業概要・目的	線形代数は、幾何ベクトルや連立1次方程式の取り扱い方を一般化してできた理論で、理工系学生に欠くことのできない数学的教養である。学科の学習・教育到達目標との対応：[B]
到達目標	基礎知識を身につけ、課題に対して定量的な解を求めることができる基礎的能力を有する： 1) 行列の計算ができる 2) ベクトルの内積・外積を理解する 3) 基本変形で連立1次方程式を解く 4) 基本変形で逆行列を求める 5) 速度・力のモーメント等物理との関連を理解する。
授業方法と留意点	前半60分を講義、後半30分を演習、を基本とするが、進行状況により変更することもある。毎回課題を課し、次回に解答を述べ回収する。自ら手を動かして計算してみることが大切である。
科目学習の効果 (資格)	これから学ぶ数学物理関連の科目の基礎となる。これらの科目を履修予定のものは、この科目を学んでおく事が望まれる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍	第1章の間, 演習問題	レポート
2	行列の定義(2)	・積の定義・転置行列	第1章の間, 演習問題	レポート
3	正方行列(1)	・単位行列・正則行列の定義	第1章の間, 演習問題	レポート
4	正方行列(2)	・正則行列の性質	第1章の間, 演習問題	レポート
5	2次正方行列	・逆行列の計算	第1章の間, 演習問題	レポート
6	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・べき零行列	第1章の間, 演習問題	レポート
7	連立1次方程式(1)	・消去法	第2章の間, 演習問題	レポート
8	連立1次方程式(2)	・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数	第2章の間, 演習問題	レポート
9	連立1次方程式(3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	第2章の間, 演習問題	レポート
10	連立1次方程式(4)	・基本解・特殊解	第2章の間, 演習問題	レポート
11	連立1次方程式(5)	・同次連立1次方程式・正則行列となる条件	第2章の間, 演習問題	レポート
12	空間のベクトル(1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	第3章の間, 演習問題	レポート
13	空間のベクトル(2)	・内積・距離	第3章の間, 演習問題	レポート
14	空間のベクトル(3)	・外積・スカラー3重積	第3章の間, 演習問題	レポート
15	空間のベクトル(4)	・直線の方程式・平面の方程式	第3章の間, 演習問題	レポート

関連科目 以下の科目の講義は線形代数 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます：
微積分 II、工業数学 I、工業数学 II、統計学、代数学、幾何学 II、解析学、統計学
上記科目を受講する予定の学生は線形代数 I を履修すること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	線形代数	摂南大学数学教室編	共立出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	演習, 小テスト, 宿題で20%、中間試験25%、期末試験55%で評価する。
学生へのメッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。いかなる質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが些細なことにこだわらずに最終目標をいつも頭において勉強してください。
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習は毎回1時間以上かけること。

科目名	線形代数 I	科目名 (英文)	Linear Algebra I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西脇 純一

授業概要・目的	線形代数は、幾何ベクトルや連立1次方程式の取り扱い方を一般化してできた理論で、理工系学生に欠くことのできない数学的教養である。																																																																		
到達目標	1) 行列の計算ができる。 2) ベクトルの内積・外積を理解する。 3) 基本変形で連立1次方程式を解く。 4) 基本変形で逆行列を求めることができる。 学習到達目標：数学・自然科学系教養 [B]																																																																		
授業方法と留意点	前半60分を講義、後半30分を演習、を基本とするが、進行状況により変更することもある。(1) 演習は前半の講義内容から出題、終了時に回収し次回に返却する。(2) 期末試験の出題内容は授業中の演習問題レベルとする。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>行列の定義(1)</td><td>・和、スカラー倍</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>2</td><td>行列の定義(2)</td><td>・積の定義・転置行列</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>3</td><td>正方行列(1)</td><td>・単位行列・正則行列の定義</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>4</td><td>正方行列(2)</td><td>・正則行列の性質</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>5</td><td>2次正方行列</td><td>・逆行列の計算</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>6</td><td>いろいろな行列</td><td>・対称行列・交代行列・ベキ零行列</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>7</td><td>連立1次方程式(1)</td><td>・消去法</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>8</td><td>連立1次方程式(2)</td><td>・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>9</td><td>連立1次方程式(3)</td><td>・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>10</td><td>連立1次方程式(4)</td><td>・基本解・特殊解</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>11</td><td>連立1次方程式(5)</td><td>・同次連立1次方程式・正則行列となる条件</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>12</td><td>空間のベクトル(1)</td><td>・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍</td><td>第3章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>13</td><td>空間のベクトル(2)</td><td>・内積・距離</td><td>第3章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>14</td><td>空間のベクトル(3)</td><td>・外積・スカラー3重積</td><td>第3章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>15</td><td>空間のベクトル(4)</td><td>・直線の方程式・平面の方程式</td><td>第3章の間、演習問題 レポート</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍	第1章の間、演習問題 レポート	2	行列の定義(2)	・積の定義・転置行列	第1章の間、演習問題 レポート	3	正方行列(1)	・単位行列・正則行列の定義	第1章の間、演習問題 レポート	4	正方行列(2)	・正則行列の性質	第1章の間、演習問題 レポート	5	2次正方行列	・逆行列の計算	第1章の間、演習問題 レポート	6	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・ベキ零行列	第1章の間、演習問題 レポート	7	連立1次方程式(1)	・消去法	第2章の間、演習問題 レポート	8	連立1次方程式(2)	・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数	第2章の間、演習問題 レポート	9	連立1次方程式(3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	第2章の間、演習問題 レポート	10	連立1次方程式(4)	・基本解・特殊解	第2章の間、演習問題 レポート	11	連立1次方程式(5)	・同次連立1次方程式・正則行列となる条件	第2章の間、演習問題 レポート	12	空間のベクトル(1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	第3章の間、演習問題 レポート	13	空間のベクトル(2)	・内積・距離	第3章の間、演習問題 レポート	14	空間のベクトル(3)	・外積・スカラー3重積	第3章の間、演習問題 レポート	15	空間のベクトル(4)	・直線の方程式・平面の方程式	第3章の間、演習問題 レポート
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
2	行列の定義(2)	・積の定義・転置行列	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
3	正方行列(1)	・単位行列・正則行列の定義	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
4	正方行列(2)	・正則行列の性質	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
5	2次正方行列	・逆行列の計算	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
6	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・ベキ零行列	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
7	連立1次方程式(1)	・消去法	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
8	連立1次方程式(2)	・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
9	連立1次方程式(3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
10	連立1次方程式(4)	・基本解・特殊解	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
11	連立1次方程式(5)	・同次連立1次方程式・正則行列となる条件	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
12	空間のベクトル(1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	第3章の間、演習問題 レポート																																																																
13	空間のベクトル(2)	・内積・距離	第3章の間、演習問題 レポート																																																																
14	空間のベクトル(3)	・外積・スカラー3重積	第3章の間、演習問題 レポート																																																																
15	空間のベクトル(4)	・直線の方程式・平面の方程式	第3章の間、演習問題 レポート																																																																
関連科目	以下の科目の講義は線形代数 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 工業数学 I、工業数学 II、統計学、代数学、幾何学 II、解析学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数 I を履修すること。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>線形代数 (摂南大学数学研究室)</td> <td></td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	線形代数 (摂南大学数学研究室)		共立出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	線形代数 (摂南大学数学研究室)		共立出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	演習、小テストで30%、中間35%、期末35%で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。いかなる質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが些細なことにこだわらずに最終目標をいつも頭において勉強してください。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。																																																																		

科目名	線形代数 II	科目名 (英文)	Linear Algebra II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林 俊公

授業概要・目的	行列式の計算ができ、行列の固有値と固有ベクトルが求められ、それらを行列の対角化へ応用できるようになることが本講義の目的である。
到達目標	(1) 行列式の計算ができる。 (2) 行列の固有値と固有ベクトルを求めることができる。 (3) 行列の三角化と対角化ができる。 学科の学習・教育目標の対応：数学・自然科学系教養[B]
授業方法と留意点	授業ではテーマに掲げた内容を出来るだけ平易に説明する。基本的には授業の前半の60分を講義に充て、後半の30分を演習の時間に充てる。 (1) 演習問題は授業の前半に講義した内容から出題する。(2) 期末試験の出題内容は授業中の演習問題レベルとする。
科目学習の効果 (資格)	工業数学 I、工業数学 II、統計学、代数学、幾何学 II、解析学の講義は線形代数 II の知識とスキルを前提にして授業が進められるため、それらの科目を受講する予定の場合は線形代数 II を履修すること。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	行列式(1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	第4章の間、演習問題 レポート
2	行列式(2)	・行列式の定義・多重線形性・交代性	第4章の間、演習問題 レポート
3	行列式(3)	・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式	第4章の間、演習問題 レポート
4	行列式(4)	・行列式の余因子展開	第4章の間、演習問題 レポート
5	行列式(5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	第4章の間、演習問題 レポート
6	行列式(6)	・余因子行列・逆行列	第4章の間、演習問題 レポート
7	行列式(7)	・クラメールの公式	第4章の間、演習問題 レポート
8	固有値と固有ベクトル(1)	・固有多項式・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)	第5章の間、演習問題 レポート
9	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値, 固有ベクトルの計算(2)	第5章の間、演習問題 レポート
10	固有値と固有ベクトル(3)	・正方行列の三角化	第5章の間、演習問題 レポート
11	固有値と固有ベクトル(4)	・フロベニウスの定理・ハミルトン・ケーリーの定理	第5章の間、演習問題 レポート
12	固有値と固有ベクトル(5)	・正方行列の対角化	第6章の間、演習問題 レポート
13	固有値と固有ベクトル(6)	・実対称行列の対角化・直交行列	第6章の間、演習問題 レポート
14	固有値と固有ベクトル(7)	・2次形式への応用・2次形式の符号	第6章の間、演習問題 レポート
15	固有値と固有ベクトル(8)	・2次曲線、曲面の例	第6章の間、演習問題 レポート

関連科目 線形代数 I、工業数学 I、工業数学 II、統計学、代数学、幾何学 II、解析学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	線形代数	摂南大学数学教室 編	共立出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) レポート、演習、小テストで30%、定期テストで70%の割合で判定し評価する。

学生へのメッセージ 疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。どのような質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが、最終目標をいつも頭において勉強してください。

担当者の研究室等 3号館3階 数学研究室

備考 事前時御学習は毎回1時間以上かけること。

科目名	線形代数 II	科目名 (英文)	Linear Algebra II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	友枝 恭子

授業概要・目的	行列式の計算法と行列の固有値と固有ベクトルの求め方が本講義の目的である。																																																																																
到達目標	(1) 行列式の計算 (2) 固有値と固有ベクトル (3) 行列の3角化と対角化 学科の学習・教育目標の対応：数学・自然科学系教養[B]																																																																																
授業方法と留意点	授業ではテーマに掲げた内容を出来るだけ平易に説明する。基本的には授業の前半の60分を講義に充て、後半の30分を演習の時間に充てる。 (1) 演習問題は授業の前半に講義した内容から出題する。(2) 期末試験の出題内容は授業中の演習問題レベルとする。																																																																																
科目学習の効果 (資格)	構造力学 I、II、III などの基礎となる。																																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th colspan="2">事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>行列式(1)</td> <td>・置換の定義・置換の積・置換の符号</td> <td>第4章の間, 演習問題</td> <td>レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>行列式(2)</td> <td>・行列式の定義・多重線形性・交代性</td> <td>第4章の間, 演習問題</td> <td>レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>行列式(3)</td> <td>・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式</td> <td>第4章の間, 演習問題</td> <td>レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>行列式(4)</td> <td>・行列式の余因子展開</td> <td>第4章の間, 演習問題</td> <td>レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>行列式(5)</td> <td>・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件</td> <td>第4章の間, 演習問題</td> <td>レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>行列式(6)</td> <td>・余因子行列・逆行列</td> <td>第4章の間, 演習問題</td> <td>レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>行列式(7)</td> <td>・クラメールの公式</td> <td>第4章の間, 演習問題</td> <td>レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>固有値と固有ベクトル(1)</td> <td>・固有多項式・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)</td> <td>第5章の間, 演習問題</td> <td>レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>固有値と固有ベクトル(2)</td> <td>・固有値, 固有ベクトルの計算(2)</td> <td>第5章の間, 演習問題</td> <td>レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>固有値と固有ベクトル(3)</td> <td>・正方行列の3角化</td> <td>第5章の間, 演習問題</td> <td>レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>固有値と固有ベクトル(4)</td> <td>・フロベニウスの定理 ・ハミルトン・ケーリーの定理</td> <td>第5章の間, 演習問題</td> <td>レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>固有値と固有ベクトル(5)</td> <td>・正方行列の対角化</td> <td>第6章の間, 演習問題</td> <td>レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>固有値と固有ベクトル(6)</td> <td>・実対称行列の対角化 ・直交行列</td> <td>第6章の間, 演習問題</td> <td>レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>固有値と固有ベクトル(7)</td> <td>・2次形式への応用・2次形式の符号</td> <td>第6章の間, 演習問題</td> <td>レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>固有値と固有ベクトル(8)</td> <td>・2次曲線, 曲面の例</td> <td>第6章の間, 演習問題</td> <td>レポート</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題		1	行列式(1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	第4章の間, 演習問題	レポート	2	行列式(2)	・行列式の定義・多重線形性・交代性	第4章の間, 演習問題	レポート	3	行列式(3)	・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式	第4章の間, 演習問題	レポート	4	行列式(4)	・行列式の余因子展開	第4章の間, 演習問題	レポート	5	行列式(5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	第4章の間, 演習問題	レポート	6	行列式(6)	・余因子行列・逆行列	第4章の間, 演習問題	レポート	7	行列式(7)	・クラメールの公式	第4章の間, 演習問題	レポート	8	固有値と固有ベクトル(1)	・固有多項式・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)	第5章の間, 演習問題	レポート	9	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値, 固有ベクトルの計算(2)	第5章の間, 演習問題	レポート	10	固有値と固有ベクトル(3)	・正方行列の3角化	第5章の間, 演習問題	レポート	11	固有値と固有ベクトル(4)	・フロベニウスの定理 ・ハミルトン・ケーリーの定理	第5章の間, 演習問題	レポート	12	固有値と固有ベクトル(5)	・正方行列の対角化	第6章の間, 演習問題	レポート	13	固有値と固有ベクトル(6)	・実対称行列の対角化 ・直交行列	第6章の間, 演習問題	レポート	14	固有値と固有ベクトル(7)	・2次形式への応用・2次形式の符号	第6章の間, 演習問題	レポート	15	固有値と固有ベクトル(8)	・2次曲線, 曲面の例	第6章の間, 演習問題	レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																														
1	行列式(1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	第4章の間, 演習問題	レポート																																																																													
2	行列式(2)	・行列式の定義・多重線形性・交代性	第4章の間, 演習問題	レポート																																																																													
3	行列式(3)	・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式	第4章の間, 演習問題	レポート																																																																													
4	行列式(4)	・行列式の余因子展開	第4章の間, 演習問題	レポート																																																																													
5	行列式(5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	第4章の間, 演習問題	レポート																																																																													
6	行列式(6)	・余因子行列・逆行列	第4章の間, 演習問題	レポート																																																																													
7	行列式(7)	・クラメールの公式	第4章の間, 演習問題	レポート																																																																													
8	固有値と固有ベクトル(1)	・固有多項式・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)	第5章の間, 演習問題	レポート																																																																													
9	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値, 固有ベクトルの計算(2)	第5章の間, 演習問題	レポート																																																																													
10	固有値と固有ベクトル(3)	・正方行列の3角化	第5章の間, 演習問題	レポート																																																																													
11	固有値と固有ベクトル(4)	・フロベニウスの定理 ・ハミルトン・ケーリーの定理	第5章の間, 演習問題	レポート																																																																													
12	固有値と固有ベクトル(5)	・正方行列の対角化	第6章の間, 演習問題	レポート																																																																													
13	固有値と固有ベクトル(6)	・実対称行列の対角化 ・直交行列	第6章の間, 演習問題	レポート																																																																													
14	固有値と固有ベクトル(7)	・2次形式への応用・2次形式の符号	第6章の間, 演習問題	レポート																																																																													
15	固有値と固有ベクトル(8)	・2次曲線, 曲面の例	第6章の間, 演習問題	レポート																																																																													
関連科目	以下の科目の講義は線形代数 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 工業数学 I, 工業数学 II, 統計学, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 統計学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数 II を履修すること。																																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																														
1																																																																																	
2																																																																																	
3																																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																														
1																																																																																	
2																																																																																	
3																																																																																	
評価方法 (基準)	演習, 小テスト30%、定期テスト(中間、期末)70%で判定し評価する。																																																																																
学生へのメッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。いかなる質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが些細なことにこだわらずに最終目標をいつも頭において勉強してください。																																																																																
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																																
備考	事前事後学習は毎回1時間以上かけること。																																																																																

科目名	工業数学 I	科目名 (英文)	Applied Mathematics for Engineers I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小泉 耕蔵

授業概要・目的	工学の分野では、法則は微分方程式で定式化され、解は積分で表現される場合が多い。また積分は種々の物理量の計算に用いられる。この講義では、まずはじめにベクトルの内積・外積等について復習及び工学への応用について学習するとともに、幾何学的な感覚を養う。そして、微分に関する話題を復習しながら、速度、加速度、典型的な物理現象に触れる。また、積分については重心・慣性モーメントを中心にその定義の物理的意味と計算技法を学ぶ。このように、物理の言葉が数学にどのように翻訳されるかを学び、数学の計算から物理現象を理解できるのだという、ささやかな経験を積むことを目標とする。
到達目標	微積分及び線形代数の主要な計算を実行でき、専門基礎で用いられる数学的表現を理解する能力を有すること。 学習・教育到達目標：A科[D]、R科[B]、工学部C科[C]、理工学部C科[IV]
授業方法と留意点	比較的平易な内容に限定し容易に理解出来るものであるため、確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。そのためには、第一に欠席をせず、毎回授業の前には復習をしておくこと、第二にどんなに些細でも不明なことは質問すること。
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は、工業数学 II 及び諸々の専門科目の習得に引き継がれる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	関数のグラフ	・微分の図形的意味、増減凹凸表、最大最小値の計算	演習問題
2	最大値、最小値の計算	・微分を用いた最大最小値の計算及び工学への応用	演習問題
3	関数の積分	・種々の関数の積分の計算法	演習問題
4	ベクトル(1)	・ベクトルの内積の図形的意味	演習問題
5	ベクトル(2)	・ベクトルの外積の図形的意味	演習問題
6	行列式の計算	・種々の行列式の計算法	演習問題
7	行列式の応用	・平行 6 面体の体積の計算	演習問題
8	一次独立、一次従属	・ベクトルの一次独立、一次従属性の判定	演習問題
9	速度・加速度(1)	・微分・積分を用いた速度、加速度の定義、運動方程式の記述	演習問題
10	速度・加速度(2)	・ポテンシャル、エネルギー保存則、単振動と三角関数	演習問題
11	ベクトルを用いた物理量(1)	・直線上の運動、投げ上げ、斜方投射への応用	演習問題
12	ベクトルを用いた物理量(2)	・外積を用いた、角運動量と力のモーメントの記述	演習問題
13	重積分の計算(1)	・重積分の逐次積分法	演習問題
14	重積分の計算(2)	・ヤコビ行列を用いた変数変換	演習問題
15	重心と慣性モーメント	・重積分を用いた定義とその物理的意味	演習問題

関連科目 授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める。
微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	工業数学の基礎(2014年度版)	摂南大学 基礎理工学機構編	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	小テストで30%、習熟度確認テストで35%、期末テストで35%判定し評価する。
学生へのメッセージ	3号館3階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。

科目名	工業数学Ⅱ	科目名(英文)	Applied Mathematics for Engineers II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小泉 耕蔵

授業概要・目的
 工学の分野では微分方程式はもっとも頻繁に使われている数学の1つである。講義の前半は、1階の常微分方程式の解法及び工学・自然現象への応用について学習する。そして講義の後半では2階の定数係数常微分方程式の解法・応用、及び微分方程式の数値的解法について学習する。主に質点の運動方程式を微分方程式で表して解けるなど、専門科目の学習で出会う微分方程式を理解して解く能力を有すること。

到達目標
 学科の学習・教育到達目標との対応：A科[D]、R科[B]、工学部C科[C]、理工学部C科[IV]

授業方法と留意点
 比較的平易な内容に限定し容易に理解出来るものであるため、確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。そのためには、第一に欠席をせず、毎回授業の前には復習をしておくこと、第二にどんなに些細でも不明なことは質問すること。

科目学習の効果(資格)
 本講義の内容は、諸々の専門科目の習得に引き継がれる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	微分方程式の解	・微分方程式とは何か、原始関数(不定積分)と微分方程式	教科書の演習問題
2	1階常微分方程式(1)	・変数分離形1階微分方程式の解法	教科書の演習問題
3	1階常微分方程式(2)	・定数変化法による1階線形微分方程式の解法	教科書の演習問題
4	1階常微分方程式(3)	・微分方程式を用いた運動方程式の記述	教科書の演習問題
5	1階常微分方程式(4)	・空気抵抗中の運動など物理への応用	教科書の演習問題
6	2階定数線形微分方程式(1)	・基本解の導出	教科書の演習問題
7	2階定数線形微分方程式(2)	・基本解・解の表示	教科書の演習問題
8	2階定数線形微分方程式(3)	・未定係数法(1) $y''+ay'+by=(多項式)$ の解法	教科書の演習問題
9	習熟度確認試験及び解説講義	第1-7回目までの内容に関する習熟度確認試験、及びその解説講義	
10	2階定数線形微分方程式(4)	・未定係数法(2) $y''+ay'+by=(指数関数)$ の解法	教科書の演習問題
11	2階定数線形微分方程式(5)	・未定係数法(3) $y''+ay'+by=(三角関数)$ の解法	教科書の演習問題
12	2階定数線形微分方程式の応用(2)	・強制振動など物理への応用	教科書の演習問題
13	数値計算(1)	・差分を用いた微分の記述、オイラー法による微分方程式の解法	教科書の演習問題
14	数値計算(2)	・ルンゲ・クッタ法による微分方程式の解法	教科書の演習問題
15	総合演習	・応用問題	教科書の演習問題

関連科目
 授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める。
 微積分Ⅰ, 微積分Ⅱ, 線形代数Ⅰ, 線形代数Ⅱ, 工業数学Ⅰ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	微分方程式の基礎	摂南大学 基礎理工学機構編	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
 小テストで30%、習熟度確認テストで35%、期末テストで35%判定し評価する。

学生へのメッセージ
 3号館3階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。

担当者の研究室等
 3号館3階 数学研究室

備考
 事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。

科目名	代数学	科目名(英文)	Algebra
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中津 了勇

授業概要・目的	抽象代数系である「群」、「環」、「体」の知識は最近の電子社会の発展に伴い、その必要性が増している。抽象代数学においては、単純な公理から驚くほどの豊富な理論が展開されるが、そのなかにあつて、「群」は最も基本的な代数的構造であり、自然現象のなかに現れる「対称性」を記述するのに重要な概念である。この講義では、代数的構造がどのようにして捉えられ、記述されるか、その方法を学ぶことを目的とする。
到達目標	「群」の定義を理解し、部分群、剰余類、正規部分群、商群、準同型定理について説明できる。
授業方法と留意点	<p>学科の学習・教育到達目標との対応：A科E科[D]、R科[B]、M科[C1]、工学部C科[C]、理工学部C科[IV]</p> <p>授業は以下の科目を履修していることを前提に進める： 線形代数 I、線形代数 II、微積分 I、微積分 II</p> <p>毎時間の講義の内容を復習し、自分で納得するまで手と頭を動かすことを習慣づけること。 授業時間の倍以上の自主学習が必要である。 やむを得ず欠席した場合のフォローアップは、各自が責任をもって行うこと。</p>
科目学習の効果(資格)	代数的構造がどのようにして捉えられ、記述される方法がわかる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	代数的構造	講義内容の概略	教科書の予習
	2	集合と写像	論理, 集合, 写像	教科書の予習・演習問題 2
	3	同値関係と商集合	同値関係, 同値類, 類別, 商集合	教科書の予習・演習問題 3
	4	群の定義と例(1)	2項演算, 群の定義	教科書の予習・演習問題 4
	5	群の定義と例(2)	群の例	教科書の予習・演習問題 5
	6	群と対称性への入門	2面体群, 生成元, 基本関係式	教科書の予習・演習問題 6
	7	部分群	部分群の定義と例	教科書の予習・演習問題 7
	8	部分群と剰余類	ラグランジュの定理, 剰余の同値律, 左剰余類, 右剰余類	教科書の予習・演習問題 7
	9	要素の位数	要素の位数, 巡回群	教科書の予習・演習問題 8
	10	正規部分群と商群 1	正規部分群の定義と例	教科書の予習・演習問題 9
	11	正規部分群と商群 2	剰余類, 剰余群	教科書の予習・演習問題 9
	12	群の同型	群同型写像, 自己同型群	教科書の予習・授業の課題
	13	群の準同型 1	群準同型写像, 核	教科書の予習・授業の課題
	14	群の準同型 2	群準同型写像の例	教科書の予習・授業の課題
	15	準同型定理	準同型定理とその応用	教科書の予習・授業の課題

関連科目	線形代数 I、線形代数 II、微積分 I、微積分 II
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	代数的構造	遠山 啓	ちくま学芸文庫
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	代数学の基礎	岩永 恭雄	日評数学選書
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験 60%、小テストとレポート 40% で評価する。
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	こまめに考え、調べ、質問して、疑問点を溜めないように心がけること。中途半端な学習では何も身に付きません。「数学」教員を目指す学生は覚悟をして受講してほしいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
----------	-------------

備考	事前事後学習は、毎回2時間以上かけること。
----	-----------------------

科目名	幾何学 I	科目名 (英文)	Geometry I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 俊公

授業概要・目的	幾何学は、公理と公準から正しい推論により導かれる命題の体系として確立された最初の学問である。三角形、四辺形、円などの図形の性質を学ぶとともに、古典幾何の形成をたどりながら、論理的に述べられた文章を理解し、論理的に考え、論理的に記述することができるようになることを目的とする。																																																																		
到達目標	<p>(1) 命題に関する基本的な事柄について理解している。</p> <p>(2) 命題の基本的な証明方法を使うことができる。</p> <p>(3) 線分、角、三角形、四辺形、円などの図形に関する基本的な事柄について理解している。</p> <p>(4) 平行線の公理について理解している。</p> <p>(5) 三角形、四辺形、円などの図形に関する基本的な命題を、定義や公理を用いて証明することができる。</p> <p>学科の学習・教育到達目標との対応：A科,E科[D]、R科[B]、M科[C1]、工学部C科[C]、理工学部C科[IV]</p>																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心に行います。授業中は集中して、論理的な文章の理解の仕方、記述の仕方等を掴んでいってください。また毎回の課題レポートは、時間をかけて取り組むようにしましょう。論理的な文章が書けるように、練習を積んでください。																																																																		
科目学習の効果(資格)	数学における論理を平面幾何を通じて学ぶことは、内容の異なる代数学や解析学の理解にもつながる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>推論と証明(1)</td><td>命題、三段論法、背理法</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>2</td><td>推論と証明(2)</td><td>命題の逆、対偶、必要十分条件</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>3</td><td>平面幾何の諸定理(1)</td><td>合同の概念、線分と角の合同</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>4</td><td>平面幾何の諸定理(2)</td><td>三角形の合同定理</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>5</td><td>平面幾何の諸定理(3)</td><td>直角の存在、垂線の存在</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>6</td><td>平面幾何の諸定理(4)</td><td>三角不等式、線分の中点、角の二等分線</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>7</td><td>平面幾何の諸定理(5)</td><td>三角形の外心、内心、重心、垂心</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>8</td><td>平面幾何の諸定理(6)</td><td>円に内接する四角形</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>9</td><td>平行線の公理(1)</td><td>三角形の内角の和</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>10</td><td>平行線の公理(2)</td><td>平行四辺形の性質、長方形の存在</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>11</td><td>平面幾何学の公理系(1)</td><td>点と直線、無定義の用語、公理</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>12</td><td>平面幾何学の公理系(2)</td><td>あらためて平行線の公理、直角仮説</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>13</td><td>平面幾何学の公理系(3)</td><td>非ユークリッド幾何</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>14</td><td>平面上の曲線</td><td>2次曲線、媒介変数表示</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>15</td><td>複素数平面</td><td>複素数による図形表示、ド・モアブルの定理</td><td>課題レポート</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	推論と証明(1)	命題、三段論法、背理法	課題レポート	2	推論と証明(2)	命題の逆、対偶、必要十分条件	課題レポート	3	平面幾何の諸定理(1)	合同の概念、線分と角の合同	課題レポート	4	平面幾何の諸定理(2)	三角形の合同定理	課題レポート	5	平面幾何の諸定理(3)	直角の存在、垂線の存在	課題レポート	6	平面幾何の諸定理(4)	三角不等式、線分の中点、角の二等分線	課題レポート	7	平面幾何の諸定理(5)	三角形の外心、内心、重心、垂心	課題レポート	8	平面幾何の諸定理(6)	円に内接する四角形	課題レポート	9	平行線の公理(1)	三角形の内角の和	課題レポート	10	平行線の公理(2)	平行四辺形の性質、長方形の存在	課題レポート	11	平面幾何学の公理系(1)	点と直線、無定義の用語、公理	課題レポート	12	平面幾何学の公理系(2)	あらためて平行線の公理、直角仮説	課題レポート	13	平面幾何学の公理系(3)	非ユークリッド幾何	課題レポート	14	平面上の曲線	2次曲線、媒介変数表示	課題レポート	15	複素数平面	複素数による図形表示、ド・モアブルの定理	課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	推論と証明(1)	命題、三段論法、背理法	課題レポート																																																																
2	推論と証明(2)	命題の逆、対偶、必要十分条件	課題レポート																																																																
3	平面幾何の諸定理(1)	合同の概念、線分と角の合同	課題レポート																																																																
4	平面幾何の諸定理(2)	三角形の合同定理	課題レポート																																																																
5	平面幾何の諸定理(3)	直角の存在、垂線の存在	課題レポート																																																																
6	平面幾何の諸定理(4)	三角不等式、線分の中点、角の二等分線	課題レポート																																																																
7	平面幾何の諸定理(5)	三角形の外心、内心、重心、垂心	課題レポート																																																																
8	平面幾何の諸定理(6)	円に内接する四角形	課題レポート																																																																
9	平行線の公理(1)	三角形の内角の和	課題レポート																																																																
10	平行線の公理(2)	平行四辺形の性質、長方形の存在	課題レポート																																																																
11	平面幾何学の公理系(1)	点と直線、無定義の用語、公理	課題レポート																																																																
12	平面幾何学の公理系(2)	あらためて平行線の公理、直角仮説	課題レポート																																																																
13	平面幾何学の公理系(3)	非ユークリッド幾何	課題レポート																																																																
14	平面上の曲線	2次曲線、媒介変数表示	課題レポート																																																																
15	複素数平面	複素数による図形表示、ド・モアブルの定理	課題レポート																																																																
関連科目	微積分 I・II、線形代数 I・II など。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>幾何入門</td><td>砂田利一</td><td>岩波書店</td></tr> <tr><td>2</td><td>幾何への誘い</td><td>小平邦彦</td><td>岩波書店</td></tr> <tr><td>3</td><td>幾何のおもしろさ</td><td>小平邦彦</td><td>岩波書店</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	幾何入門	砂田利一	岩波書店	2	幾何への誘い	小平邦彦	岩波書店	3	幾何のおもしろさ	小平邦彦	岩波書店																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	幾何入門	砂田利一	岩波書店																																																																
2	幾何への誘い	小平邦彦	岩波書店																																																																
3	幾何のおもしろさ	小平邦彦	岩波書店																																																																
評価方法(基準)	レポート、演習、小テストで30%、定期テストで70%の割合で判定し評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	授業の中でわからないことがあれば遠慮なく質問してください。また、毎回の課題レポートでは難しいものもあるかもしれませんが、まずは「考えることに意義がある」と思って、じっくり取り組んでください。そしてできるだけ欠かさず提出することを心がけましょう。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。																																																																		

科目名	幾何学Ⅱ	科目名(英文)	Geometry II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一

授業概要・目的	微分幾何学の見地から、日常によくみる曲面、曲線がいかに分類されているのか、その理解を目標とする。																																																																		
到達目標	<p>基礎知識を身につけ、課題に対して定量的な解を求めることができる基礎的能力を有する：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 2次曲線の焦点・準線・極形式を理解する 2) 焦点の性質と微分方程式を用いた解析を理解する 3) 2次曲線を座標軸の回転により標準形に直す 4) 平面曲線の弧長・曲率を理解する 5) 曲面の接平面を理解する 6) 曲面積分と曲面の重心が計算できる。 <p>学科の学習・教育到達目標との対応：A科, E科[D]、R科[B]、M科[C1]、工学部C科[C]、理工学部C科[IV]</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業は以下の科目を履修していることを前提に進める： 線形代数Ⅰ、線形代数Ⅱ、微積分Ⅰ、微積分Ⅱ 講義を基本とし理解度をみるため適宜演習をおこなう。また他者に説明できるまで授業内容を把握しているかもみるので出席を重視する。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>教職科目なので教員の資格を得るためには取る事が望ましい。空間の理解に役に立ち、線形代数・微積分のみごとな応用を見る事ができる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>2次曲線(1)</td><td>放物線、グラフ、標準形、準線、焦点、極形式</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>2</td><td>2次曲線(2)</td><td>放物線の焦点の性質、接線(接空間)、微分方程式を立てて解く。</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>3</td><td>2次曲線(3)</td><td>楕円、標準形、準線、焦点、極形式</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>4</td><td>2次曲線(4)</td><td>楕円の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、面積</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>5</td><td>2次曲線(5)</td><td>双曲線、標準形、準線、焦点、極形式</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>6</td><td>2次曲線(6)</td><td>双曲線の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、微分方程式を立てて解く。</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>7</td><td>2次曲線(7)</td><td>座標軸の回転と固有値</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>8</td><td>2次曲線(8)</td><td>固有値による2次曲線の分類</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>9</td><td>平面の曲線(1)</td><td>弧長、曲率</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>10</td><td>平面の曲線(2)</td><td>曲率円</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>11</td><td>平面曲線(3)</td><td>曲率と平面曲線の特徴付け、フルネセレーの公式</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>12</td><td>空間内の曲面(1)</td><td>陰関数表示、パラメータ表示、接平面</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>13</td><td>空間内の曲面(2)</td><td>曲面積分、曲面積、重心</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>14</td><td>空間内の曲面(3)</td><td>平均曲率、ガウス曲率(1)</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>15</td><td>空間内の曲面(4)</td><td>平均曲率、ガウス曲率(2)</td><td>課題レポート</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	2次曲線(1)	放物線、グラフ、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート	2	2次曲線(2)	放物線の焦点の性質、接線(接空間)、微分方程式を立てて解く。	課題レポート	3	2次曲線(3)	楕円、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート	4	2次曲線(4)	楕円の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、面積	課題レポート	5	2次曲線(5)	双曲線、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート	6	2次曲線(6)	双曲線の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、微分方程式を立てて解く。	課題レポート	7	2次曲線(7)	座標軸の回転と固有値	課題レポート	8	2次曲線(8)	固有値による2次曲線の分類	課題レポート	9	平面の曲線(1)	弧長、曲率	課題レポート	10	平面の曲線(2)	曲率円	課題レポート	11	平面曲線(3)	曲率と平面曲線の特徴付け、フルネセレーの公式	課題レポート	12	空間内の曲面(1)	陰関数表示、パラメータ表示、接平面	課題レポート	13	空間内の曲面(2)	曲面積分、曲面積、重心	課題レポート	14	空間内の曲面(3)	平均曲率、ガウス曲率(1)	課題レポート	15	空間内の曲面(4)	平均曲率、ガウス曲率(2)	課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	2次曲線(1)	放物線、グラフ、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート																																																																
2	2次曲線(2)	放物線の焦点の性質、接線(接空間)、微分方程式を立てて解く。	課題レポート																																																																
3	2次曲線(3)	楕円、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート																																																																
4	2次曲線(4)	楕円の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、面積	課題レポート																																																																
5	2次曲線(5)	双曲線、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート																																																																
6	2次曲線(6)	双曲線の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、微分方程式を立てて解く。	課題レポート																																																																
7	2次曲線(7)	座標軸の回転と固有値	課題レポート																																																																
8	2次曲線(8)	固有値による2次曲線の分類	課題レポート																																																																
9	平面の曲線(1)	弧長、曲率	課題レポート																																																																
10	平面の曲線(2)	曲率円	課題レポート																																																																
11	平面曲線(3)	曲率と平面曲線の特徴付け、フルネセレーの公式	課題レポート																																																																
12	空間内の曲面(1)	陰関数表示、パラメータ表示、接平面	課題レポート																																																																
13	空間内の曲面(2)	曲面積分、曲面積、重心	課題レポート																																																																
14	空間内の曲面(3)	平均曲率、ガウス曲率(1)	課題レポート																																																																
15	空間内の曲面(4)	平均曲率、ガウス曲率(2)	課題レポート																																																																
関連科目	微積分Ⅰ・Ⅱ、線形代数Ⅰ・Ⅱ、幾何学Ⅰ、解析学、代数学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	レポート(宿題)で45%、期末試験55%で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、チューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																		
備考	毎回プリントを配布し講義する。 事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。																																																																		

科目名	解析学	科目名(英文)	Analysis
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺本 恵昭

授業概要・目的	微積分学の厳密な展開を目標にする。理工学部初年度の微積分では計算技法の習得に主眼がおかれ、その基礎となる実数についての理解は直感にたよっている。この授業では、実数を厳密に構成しそれに基づいて連続、収束の概念の明確な理解をめざす。そして連続関数、微分可能関数の持つ重要な性質の理解、また関数の集合が与えられたときの関数族としても性質についての理解を目標にする。
到達目標	関数の収束概念、各点収束と一様収束の違いを理解する。微分方程式や積分方程式などの解の存在定理および解の定性的性質を示すために一様収束の概念がどのように有効に働いているのかを理解し、数理工学に現れる諸問題の数値計算や近似計算ができる。 学習・教育到達目標：A科E科[D]、R科[B]、M科[C1]、工学部C科[C]、理工学部C科[IV]
授業方法と留意点	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める： 線形代数 I、線形代数 II、微積分 I、微積分 II 講義を基本とし理解度をみるため適宜演習をおこなう。また他者に説明できるまで授業内容を把握しているかもみるので出席を重視する。
科目学習の効果(資格)	数学教職免許取得に不可欠。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実数の構成と性質(1)	論証の用語、和集合、共通部分 有理数と実数	課題レポート
2	実数の構成と性質(2)	無限集合、濃度の比較、 有理数の可算性と実数の非可算性	課題レポート
3	実数の構成と性質(3)	実数の連続性、実数の作る集合の性質 限・下限、上極限・下極限、 数列の極限、 ϵ -N 論法	課題レポート
4	実数の構成と性質(4)	コーシー列、実数の完備性、 ボルツァーノ・ワイエルシュトラスの定理	課題レポート
5	関数の性質(1)	関数の定義、関数の極限、 関数の連続性と ϵ - δ 論法、	課題レポート
6	関数の性質(2)	中間値の定理、最大値・最小値の存在	課題レポート
7	連続関数	逆関数の定義、合成関数の連続性、 一様連続性、 リプシッツ・ヘルダー連続性	課題レポート
8	微分と積分(1)	微分係数の定義、導関数の定義 微分可能な関数の作る空間	課題レポート
9	微分と積分(2)	リーマン積分可能性と定積分、 微積分の基本定理	課題レポート
10	平均値の定理とテーラー展開(1)	ロルの定理、コーシーの平均値の定理、 有限増分の公式	課題レポート
11	平均値の定理とテーラー展開(2)	べき級数の収束と収束半径 多項式近似定理	課題レポート
12	関数列	数列の収束と関数列の収束 一様収束と各点収束、	課題レポート
13	関数空間	関数の作る空間、ノルム区間と完備性、 アスコリ・アルツェラの定理、	課題レポート
14	関数方程式と関数空間(1)	関数方程式と関数空間 縮小写像の原理と不動点定理	課題レポート
15	関数方程式と関数空間(2)	色々な関数方程式と解の存在	課題レポート

関連科目 微積分 I・II、線形代数 I・II、力学、物理学など。特に微積分 I・II の修得は不可欠。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜プリント教材を配布する。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) レポート30%、定期テスト(期末)70%で判定し評価する。

学生へのメッセージ 講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、スチューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。

担当者の研究室等 3号館3階 数学研究室

備考 事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。

科目名	統計学	科目名 (英文)	Statistics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中津 了勇

授業概要・目的	統計学は現在の理工学において非常に重要かつ強力な道具になっている。 この講義では、統計の基本的な考え方を紹介し、皆さんの将来に役立てることを目的とする。																																																																		
到達目標	<p>到達目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データ整理に関する基礎的な統計計算ができる。 2. 確率の基本的性質の理解。 3. 確率分布の平均, 分散, 標準偏差を求めることができる。 4. 2項分布やポアソン分布などの離散型の確率分布に関する計算ができる。 5. 正規分布などの連続型の確率分布に関する計算ができる。 6. 統計的推定についての理解と計算。 7. 統計的仮説検定についての理解と計算。 <p>学科の学習・教育到達目標との対応: A科 [D], R科[B]</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>確率の基本的な諸概念から出発して、ランダムな現象を捉える確率分布モデルを学ぶ。 その上でデータから母集団分布の特性について推論を行う統計的推測の基本的な考え方と、統計的推定、検定を学ぶ。 授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める: 微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II.</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	統計的推定、検定の考え方を理解して、その方法を実践できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>データの整理 1</td> <td>講義内容の説明, 母集団と標本, 標本平均, 標本分散, ヒストグラム</td> <td>1章の問題</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>データの整理 2</td> <td>2変量データ, 相関係数, 散布図</td> <td>1章の問題</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>確率とその基本的な性質 1</td> <td>事象と確率</td> <td>演習問題 1</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>確率とその基本的な性質 2</td> <td>条件付確率と事象の独立性</td> <td>演習問題 1</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>離散的確率変数 1</td> <td>離散型確率変数と確率分布</td> <td>演習問題 2</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>離散的確率変数 2</td> <td>二項分布とその応用</td> <td>演習問題 2, 3</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>離散的確率変数 3</td> <td>ポアソン分布とその応用</td> <td>演習問題 3</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連続型確率変数 1</td> <td>連続型確率変数, 確率密度関数, 確率分布</td> <td>演習問題 4</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連続型確率変数 2</td> <td>正規分布とその関連分布</td> <td>演習問題 4, 5</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連続型確率変数 3</td> <td>正規分布の性質</td> <td>演習問題 5</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>現象のモデル化</td> <td>母集団分布, 母平均, 母分散, 母標準偏差</td> <td>2章の問題</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>統計的推定 1</td> <td>推定の考え方, 点推定, 区間推定</td> <td>演習問題 6</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>統計的推定 2</td> <td>母平均の区間推定, 危険度, 信頼区間</td> <td>演習問題 6</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>統計的仮説検定 1</td> <td>仮説検定の考え方, 帰無仮説と対立仮説</td> <td>演習問題 7</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>統計的仮説検定 2</td> <td>母平均の仮説検定, 両側検定, 片側検定</td> <td>演習問題 7</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	データの整理 1	講義内容の説明, 母集団と標本, 標本平均, 標本分散, ヒストグラム	1章の問題	2	データの整理 2	2変量データ, 相関係数, 散布図	1章の問題	3	確率とその基本的な性質 1	事象と確率	演習問題 1	4	確率とその基本的な性質 2	条件付確率と事象の独立性	演習問題 1	5	離散的確率変数 1	離散型確率変数と確率分布	演習問題 2	6	離散的確率変数 2	二項分布とその応用	演習問題 2, 3	7	離散的確率変数 3	ポアソン分布とその応用	演習問題 3	8	連続型確率変数 1	連続型確率変数, 確率密度関数, 確率分布	演習問題 4	9	連続型確率変数 2	正規分布とその関連分布	演習問題 4, 5	10	連続型確率変数 3	正規分布の性質	演習問題 5	11	現象のモデル化	母集団分布, 母平均, 母分散, 母標準偏差	2章の問題	12	統計的推定 1	推定の考え方, 点推定, 区間推定	演習問題 6	13	統計的推定 2	母平均の区間推定, 危険度, 信頼区間	演習問題 6	14	統計的仮説検定 1	仮説検定の考え方, 帰無仮説と対立仮説	演習問題 7	15	統計的仮説検定 2	母平均の仮説検定, 両側検定, 片側検定	演習問題 7
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	データの整理 1	講義内容の説明, 母集団と標本, 標本平均, 標本分散, ヒストグラム	1章の問題																																																																
2	データの整理 2	2変量データ, 相関係数, 散布図	1章の問題																																																																
3	確率とその基本的な性質 1	事象と確率	演習問題 1																																																																
4	確率とその基本的な性質 2	条件付確率と事象の独立性	演習問題 1																																																																
5	離散的確率変数 1	離散型確率変数と確率分布	演習問題 2																																																																
6	離散的確率変数 2	二項分布とその応用	演習問題 2, 3																																																																
7	離散的確率変数 3	ポアソン分布とその応用	演習問題 3																																																																
8	連続型確率変数 1	連続型確率変数, 確率密度関数, 確率分布	演習問題 4																																																																
9	連続型確率変数 2	正規分布とその関連分布	演習問題 4, 5																																																																
10	連続型確率変数 3	正規分布の性質	演習問題 5																																																																
11	現象のモデル化	母集団分布, 母平均, 母分散, 母標準偏差	2章の問題																																																																
12	統計的推定 1	推定の考え方, 点推定, 区間推定	演習問題 6																																																																
13	統計的推定 2	母平均の区間推定, 危険度, 信頼区間	演習問題 6																																																																
14	統計的仮説検定 1	仮説検定の考え方, 帰無仮説と対立仮説	演習問題 7																																																																
15	統計的仮説検定 2	母平均の仮説検定, 両側検定, 片側検定	演習問題 7																																																																
関連科目	微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II.																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎統計学</td> <td>坂田, 高田, 百武</td> <td>朝倉書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎統計学	坂田, 高田, 百武	朝倉書店	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	基礎統計学	坂田, 高田, 百武	朝倉書店																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	,小テストで40%、期末試験で60%を判定し評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問すること。いかなる質問も歓迎する。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習は毎回1時間以上かけること。																																																																		

科目名	物理学基礎演習	科目名(英文)	Exercises in Fundamental Physics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東谷 篤志, 前田 純一郎

授業概要・目的	物理学は自然現象を理解する上で極めて重要な基礎科目であり、現代の科学技術の基礎をなしている。本講義では身近な自然現象を物理学の法則から導き出す力を身につけることを目的として、さまざまな物理現象・科学技術との関連性について講述する。とくに環境科学に密接に関係する熱力学、電磁気学および波の基本的原理や法則を講述し、現象を定量的に取り扱う方法について概説する。
到達目標	熱・電磁気・波に関する基本的な物理を理解する。 学科の学習・教育目標との目標：[B]
授業方法及び留意点	この物理学基礎演習は一週に2回授業が行われています。講義と演習を交互に行い、集中的に物理学に対する理解を深めていく事を目的としています。
科目学習の効果(資格)	理工学の基礎として必要不可欠な物理学の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	気体の状態方程式	「熱力学」の紹介。ボイルの法則、シャルルの法則から、気体の状態方程式を学ぶ。	予習・復習課題1
2	温度と熱	温度と熱の概念を気体の分子運動論から理解する。	予習・復習課題2
3	仕事と熱と内部エネルギー	物理学でいう仕事の概念、熱の概念、内部エネルギーの概念を修得する。	予習・復習課題3
4	熱力学第一法則	熱現象に関わるエネルギー保存則を理解する。	予習・復習課題4
5	様々な状態変化	等温変化、定圧変化、定積変化、断熱変化を知る。カルノーサイクルを学び、第2種永久機関の是非を問う。	予習・復習課題5
6	クーロン力	「電磁気学」の紹介。質量に対する万有引力と比して、荷電粒子にかかるクーロン力を理解する。	予習・復習課題6
7	電場	電場中に置かれた荷電粒子にかかる力を求め、電場と電気力線の概念を学ぶ。	予習・復習課題7
8	電気的位置エネルギー	力学的位置エネルギーと電気的位置エネルギーとの比較をもとに、等電位線の概念を理解する。	予習・復習課題8
9	電子の流れと抵抗とジュール熱	電流、抵抗、オームの法則を学ぶ。また、電気回路での合成抵抗やジュール熱を習得。	予習・復習課題9
10	コンデンサー	コンデンサー容量、コンデンサーを含む回路における合成容量や静電エネルギーを習得。	予習・復習課題10
11	電流と磁場	電流のつくる磁場、磁場中の電子に働くローレンツ力を学ぶ	予習・復習課題11
12	波	波の性質と数学的表現の仕方を理解する。	予習・復習課題12
13	波の伝播と位相速度	位相とは何か、また位相速度とは何か、波が空間を伝播していく様子を音波を例に挙げて説明する。	予習・復習課題13
14	波の様々な現象	重ね合わせの原理をもとに、波が干渉したり、折れ曲がったりする現象を学ぶ。	予習・復習課題14
15	音波	音波のうなりと気柱振動を学ぶ。	予習・復習課題15

関連科目 微積分Ⅰ, 線形代数Ⅰ, 基礎力学演習, 物理学実験

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎物理	潮 秀樹, 上村 洸	森北出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	物理学基礎	原 康夫	学術図書出版
2			
3			

評価方法(基準) 期末試験と演習問題の解答・取り組み方で評価する。
期末試験50%、演習問題の解答・取り組み50%

学生へのメッセージ 物理は試験問題と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業を通して、1つ1つみなさんが体験している現象の原因を突き止めてみましょう。困ったときやわからないときには、担当教員や学習支援センターを遠慮なくたずねてください。

担当者の研究室等 1号館2階 物性物理研究室(2) (東谷)
8号館2階 物理準備室(前田)

備考 この科目は、講義と演習の二つからなる。
講義終了後には演習課題のプリントを配布するので、講義終了後には1時間以上かけて講義の復習と課題問題を解いておくこと。しておくこと。また、演習授業終了後には授業中に行った演習問題を再度復習しておくこと(0.5h以上)。

科目名	物理学	科目名(英文)	Physics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	前田 純一郎

授業概要・目的	物理学は自然現象や理工学部の専門科目を理解する上で、極めて重要な基礎科目であり、現代の科学技術の基礎をなしている。本講義では身近な物理現象の紹介とその成り立ちについて基本的な法則から説明する。特に、力学、熱学、光学および電磁気学に関する物理学の基本的原理や法則の相互関係を概説し、物理現象を総括的にかつ定量的に取り扱う方法を学ぶ。
到達目標	建築・都市工学技術者として必要な専門知識の理解を深めるために、数学や物理学などの基礎的な考え方が説明でき、それらを応用できる。 学科の学習・教育到達目標：A科 [D]
授業方法と留意点	教科書と小テストを用いて授業をすすめる。ほぼ毎回小テストを行なうが、小テストは友達と相談したり、教科書を参照してもよいので、最後まであきらめずに考えて解くこと。
科目学習の効果(資格)	理工系専門科目において必要不可欠な工学の基礎であり、専門で出てくる物理量の意味や相互関係の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	身の周りの現象と物理学	身近なところで活躍する物理学	—————
2	時間変化と速度、加速度	位置の時間変化から、速度や加速度が定義される	予習・小テスト復習 時間に関する微分法
3	運動の法則	運動の三法則	予習・小テスト復習 運動方程式を導く
4	つり合いの状態	運動方程式の解法を学んだのち、物体がつり合っている状態での運動方程式を理解する	予習・小テスト復習 運動方程式を解く
5	力学的エネルギー	空間と力との関係から、エネルギーという新たな量を理解する	予習・小テスト復習 エネルギー保存則
6	電荷と力	力学と電気の関係：クーロンの法則	予習・小テスト復習 万有引力以外の力
7	電荷の運動(質点の力学)	ミリカンの実験・ブラウン管における電荷の運動	予習・小テスト復習 電場中での荷電粒子の運動
8	電流と電圧(簡単な回路)	電圧、電流、抵抗及び消費電力について説明する	予習・小テスト復習 オームの法則
9	電磁誘導(磁石と力)	磁石と力、モーターと発電機	予習・小テスト復習 電場と磁場の違い
10	直流と交流	家庭用電源と電池の原理と役割、簡単な回路	予習・小テスト復習 直流電流と交流電流の用途
11	電気エネルギーと熱エネルギー	電気エネルギーと熱エネルギーの関係	予習・小テスト復習 電気を熱に変換したときのエネルギー保存則
12	光の性質：電磁波	折れ曲がる電磁波と光	予習・小テスト復習 重ね合わせの原理
13	光の性質：粒子	光の粒子性とエネルギー	予習・小テスト復習 光電効果
14	物理学とエネルギー	エネルギーの変換と効率化(力学、電磁気、熱、光の融合)	予習・小テスト復習 さまざまなエネルギー
15	おわりに	講義のまとめ	—————

関連科目	力学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ、物理学実験
------	------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎物理	潮 秀樹, 上村 洸	森北出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	期末試験(70%)と小テスト(30%)の割合で評価する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	数学や物理は単に「試験問題」と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業は、中学や高校における「試験用の物理」とは全く異なる「専門につながる基礎」なので、苦手意識をもちずに授業にのぞんでください。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館2階 物理準備室
----------	-------------

備考	教科書や授業当日の配布されるプリントを1時間以上かけて丁寧に読み直すこと。理解出来なかった点を洗い出し、可能な限り次の授業にて質問したうえで、さらなる知識を積み上げること。
----	--

科目名	基礎力学演習	科目名(英文)	Exercises in Basic Mechanics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東谷 篤志, 入澤 明典

授業概要・目的	現代の科学技術の基礎には物理学があり、さらにその基礎には力学がある。力学は理工学の基盤となる科目であり、理工学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。また、力学は日常的な現象を定量的に知ることができる学問であり、ものづくりには欠かせない。基礎力学演習では、日常において経験している力学現象の表し方を学ぶ。
到達目標	数学・自然科学系授業科目及び情報技術の基礎の学習により、専門知識の理解をより深めるための教養を身につける。 学科の学習・教育目標の対応：数学・自然科学系教養 [B]
授業方法と留意点	この基礎力学演習は週に2回授業が行われています。講義と演習を交互に行い、集中的に力学に対する理解を深めていく事を目的としています。
科目学習の効果(資格)	力学の基礎を身につけ、簡単な構造計算ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	力学と自然現象	自然科学とは何だろうかを身近な例をとって分かりやすく説明する。また、物理で使用する単位についても説明する。	予習・復習課題1 単位について
2	数学的準備(1)	ベクトルの基礎と三角関数について学ぶ。	予習・復習課題2 スカラー量とベクトル量
3	数学的準備(2)	ベクトルの取り扱いと三角関数の計算について学ぶ。	予習・復習課題3 三角関数の計算
4	数学的準備(3)	ベクトルの合成・分解と簡単な微分積分について学ぶ。	予習・復習課題4 ベクトル量の和と差
5	重力と重心	重力・重心について学ぶ。	予習・復習課題5 質量と重量の違い
6	さまざまな力と力のモーメント(1)	垂直抗力・回転の力について学ぶ。	予習・復習課題6 ベクトル量としての力
7	さまざまな力と力のモーメント(2)	摩擦力・力のモーメントについて学ぶ。	予習・復習課題7 ベクトル量としての力のモーメント
8	力・力のモーメントのつり合い(1)	力・力のモーメントのつり合い式について学ぶ。	予習・復習課題8 つり合いの条件を求める (物体が移動しないための条件)
9	力・力のモーメントのつり合い(2)	力・力のモーメントのつり合い式の解法を学ぶ。	予習・復習課題9 つり合いの条件を求める。 (物体が回転しないための条件)
10	位置・速度・加速度と角度・角速度	位置・速度・加速度と角度・角速度について学ぶ。	予習・復習課題10 位置の時間変化と角度の時間変化
11	運動の3法則と円運動	慣性の法則・ニュートンの運動方程式および円運動について学ぶ。	予習・復習課題11 運動方程式を導く1
12	運動の3法則と単振動	ニュートンの運動方程式と単振動について学ぶ。	予習・復習課題12 運動方程式を導く2
13	エネルギー	仕事とエネルギーについて学ぶ。	予習・復習課題13 エネルギーがスカラー量であることを理解する
14	運動量・力積・衝突	力積・運動量と衝突について学ぶ。	予習・復習課題14 運動量がベクトル量であることを理解する。
15	総合問題	総合問題に取り組む。	

関連科目	微積分Ⅰ, 線形代数Ⅰ, 物理学基礎演習, 物理学実験
------	-----------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎物理	潮秀樹, 上村洗著	森北出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	期末試験(60%)と演習問題の解答・取り組みに関する授業態度(40%)の割合で評価する。
学生へのメッセージ	物理は試験問題と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業を通して、1つ1つみなさんが体験している現象の原因を突き止めてみましょう。
担当者の研究室等	1号館2階 物性物理研究室 (東谷) 8号館2階 物理準備室 (入澤)
備考	教科書や授業当日の配布されるプリントを1時間以上かけて丁寧に読み直し解き直すこと。また、理解出来なかった点を確認し、次の授業にて質問すること。

科目名	力学	科目名(英文)	Mechanics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長島 健

授業概要・目的	近代の科学技術の基礎には物理学があり、さらにその基礎には力学がある。力学は工学の基盤となる科目であり、学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。「力学II」では、剛体の力学について学ぶ。
到達目標	剛体の運動の基礎的な取り扱いを習得する。 R科の学習・教育目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：IV
授業方法と留意点	教科書とプリントを用いて授業を行なう。また理解を深めるため、簡単な実験を行うこともある。毎回小テストを行なうが、小テストは友達と相談したり、教科書を参照してもよいので、最後まであきらめずに考えて解くこと。
科目学習の効果(資格)	工学の基礎として、専門に出てくる物理量の意味や色々な物理量の相互関係の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	力学Iの復習	質点の力学を復習する。	-----
2	力のモーメントの基礎	剛体の運動の特徴である回転運動を扱うために必要な力のモーメントの考え方を学ぶ。	自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を0.5時間以上
3	様々な力のモーメントの表し方	モーメントの腕を用いた力のモーメントの表し方を学習する。	自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を0.5時間以上
4	ベクトルの外積と力のモーメント	ベクトルの外積の数学的基礎を習得する。ベクトル積を用いた力のモーメントの表し方を学ぶ。	自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を0.5時間以上
5	力のモーメントのつりあい	シーソー、天秤のつりあいを力のモーメントを用いて表す方法を学習する。つりあいの条件を求める方法を習得する。	自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を0.5時間以上
6	重心とモーメント	重心の意味を理解し、様々な図形の重心の位置を求める。	自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を0.5時間以上
7	様々な形状の剛体の重心	様々な形状の剛体の重心の求め方を習得する。	自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を0.5時間以上
8	慣性モーメントの基礎	慣性モーメントについて定性的に理解する。さらに角加速度を導入し、回転運動の運動方程式を学ぶ。	自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を0.5時間以上
9	慣性モーメント(1)	棒状の慣性モーメントの求め方を習得する。	自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を0.5時間以上
10	慣性モーメント(2)	板状の慣性モーメントの求め方を習得する。慣性モーメントの計算に便利な平板の定理を理解する。	自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を0.5時間以上
11	慣性モーメント(3)	円盤状の慣性モーメントの求め方を習得する。	自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を0.5時間以上
12	平行軸の定理	慣性モーメントの計算に便利な平行軸の定理を学ぶ。	自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を0.5時間以上
13	剛体の平面運動	剛体の一般的な運動を並進及び回転運動の運動方程式を用いて調べる方法を習得する。	自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を0.5時間以上
14	角運動量、回転運動の運動エネルギー	剛体の回転運動の状態を表す角運動量と回転運動の運動エネルギーを学ぶ。これらを利用して剛体の運動を調べる方法を習得する。	自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を0.5時間以上
15	剛体の力学のまとめ	剛体の運動についてのまとめ	-----

関連科目	微積分I、線形代数I、力学I、物理学実験
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮秀樹、上村洗	森北出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	評価は期末試験と小テストにて行う。定期試験70%、小テスト30%
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	数学や物理は単に「試験問題」と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業は、中学や高校における「試験用の物理」とは全く異なる「専門につながる基礎」なので、苦手意識をもたずに授業にのぞんでください。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館2階 長島研究室 スチューデントアワー 火曜日5限目
----------	----------------------------------

備考	
----	--

科目名	化学	科目名(英文)	General Chemistry
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安藤 章

授業概要・目的
教育目標：化学は物質とその変化をとらえる学問であり、その科学的基礎知識および基礎概念を習得することを目的とする。高校化学の学習内容を復習し、さらにその原理を理解することで、化学的思考力や応用力を養う。

到達目標
1) 化学で用いられる用語を定義することができる。
2) 各項目の基本的な考え方を説明することができる。
3) 基礎的な計算ができる。
C科の学習・教育到達目標との対応：IV
R科の学習・教育到達目標との対応：[B]

授業方法と留意点
教科書に沿って講義をすすめる。適時プリントを配布する。前回講義部分の確認のため小テストを行なう。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	化学とは	化学で何を学ぶのかについて説明します。	講義前に教科書1章「化学の正体」を読んでおき、講義後にまとめる。
2	元素と原子	元素と原子とは何かについて説明します。	講義前に教科書2章「元素と原子」を読んでおき、講義後にまとめる。
3	元素の性質	元素の性質と周期律について説明します。	講義前に教科書3章「元素の性質と周期律」を読んでおき、講義後にまとめる。
4	分子とは	分子の表し方について説明します。	講義前に教科書4章「化学結合と分子」を読んでおき、講義後にまとめる。
5	化学結合	分子をつくる化学結合について説明します。	講義前に教科書4章「化学結合と分子」を読んでおき、講義後にまとめる。
6	物質の状態変化	状態(相)、状態図(相図)について説明します。	講義前に教科書5章「物質の状態変化と化学反応」の前半を読んでおき、講義後にまとめる。
7	物質の状態変化	化学反応について説明します。	講義前に教科書5章「物質の状態と化学反応」の後半を読んでおき、講義後にまとめる。
8	気体の性質	気体の諸法則について説明します。	講義前に教科書6章「気体」を読んでおき、講義後にまとめる。
9	結晶とは	個体の結晶構造について説明します。	講義前に教科書7章「個体」を読んでおき、講義後にまとめる。
10	液体と溶液	溶液の濃度、沸点上昇、凝固点降下について説明します。	講義前に教科書8章「液体と溶液」の前半を読んでおき、講義後にまとめる。
11	液体と溶液	溶液の濃度、沸点上昇、凝固点降下について説明します。	講義前に教科書8章「液体と溶液」の後半を読んでおき、講義後にまとめる。
12	化学平衡	化学平衡と化学量論について説明します。	講義前に教科書9章「化学平衡とpH」を読んでおき、講義後にまとめる。
13	中和滴定	中和滴定について説明します。	講義前に教科書10章「中和滴定と緩衝液」を読んでおき、講義後にまとめる。
14	反応速度	化学反応はどうしたら起こるかについて説明します。	講義前に教科書11章「化学反応の速度」の前半を読んでおき、講義後にまとめる。
15	反応速度	反応速度について説明します。	講義前に教科書11章「化学反応の速度」の後半を読んでおき、講義後にまとめる。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学で学ぶ化学	川瀬雅也、山川純次	化学同人
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
定期試験80%、小テスト20%で評価する。100点満点中60点以上で合格とする。

学生へのメッセージ
身近に起こる現象が説明できるようになるために、できるかぎり講義中に理解するように努めて下さい。

担当者の研究室等
枚方学舎1号館3階薬化学研究室

備考
事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	生物学	科目名(英文)	Biology
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	尾崎 清和

授業概要・目的	人体の構造、機能および病気とともに、ヒトを含む生物の多様性、分類および生態系に関して概説する。社会人として知っておくべき生物学的な常識を身につけることを目的とする。
到達目標	人体の構造や機能に関する知識を得ることができるとともに、生物の多様性や生態系に関する基礎的な知識も同時に取得できる。 C科の学習・教育目標との対応：IV R科の学習・教育目標との対応：[B]
授業方法と留意点	ノート・講義方式。教科書およびビデオ教材を用い、ビジュアルに解りやすくやっていきたい。
科目学習の効果(資格)	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問うビデオ「人体ミクロの大冒険 プロローグ」	—————
2	生殖系系 神経系の構造と機能	生殖系系、中枢神経と末梢神経、神経の連動の妙	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	生殖系系 神経系の構造と機能	ビデオ「人体ミクロの大冒険 第1章細胞のスーパーパワー」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	内分泌系、神経系の構造	ホルモンと神経との関係はどのようになっているのか	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	内分泌系、神経系の構造	ビデオ「人体ミクロの大冒険 第2章細胞が出す魔法の薬」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	免疫系の構造と機能	外敵への抵抗	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	免疫系の構造と機能	ビデオ「人体ミクロの大冒険 老いと戦う細胞」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
8	遺伝子の理解	遺伝子とその働きの基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	遺伝子の理解	ビデオ「人体 生命の暗号を解読せよ」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	がんの理解	腫瘍に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	がんの理解	ビデオ「人体 突き止めよ、がん発生の謎」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	生物の多様性の理解	生物の系統、分類の基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	生態系の理解	生態系、物質の循環の基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	総括質問	すべての授業内容に関する質問に答えるとともに、難解だった部分の解説を行う。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
15	習熟度試験	習熟度を確認する。	—————

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューステージ新生物図表 生物基礎+生物対応	浜島書店編集部	浜島書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	毎回の小テストを50%、習熟度試験を40%および授業態度：授業への応答状況10%により総合的に判断する
学生へのメッセージ	社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。
担当者の研究室等	枚方・薬学部6号館3階病理学研究室1
備考	事後学習30分、授業日の授業前に小試験対策の事後学習30分が必要です。

科目名	理工学基礎実験	科目名 (英文)	Basic Experiments in Science and Engineering
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	稲地 秀介

授業概要・目的	理工学に必要な基礎的計測技術を身につけ、理工学の基礎的な考え方を体験する。さらに、専門分野だけでなく理工学全体の基礎知識に触れることを目的とする。																
到達目標	(1)長さ、重さ、電圧・電流、圧力・温度、pHなどの計測技術を身につける。(2)工学、物理学の基礎的な考え方を学ぶ。 学科の学習・教育目標との対応：[B]																
授業方法と留意点	実験は4グループに別れて行う。グループ内では4～6名のチームで協力して実験を行う。時間内に実験からレポート作成まで行う。なお、17種類の実験テーマ中、15テーマをグループごとに実施する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1回目：ガイダンス、歩測 2～15回目：下記テーマの実験、レポート作成（毎回予習レポートを課す） 実験テーマ： (1) 歩測 自分の歩幅を知り、道の距離を測定する。誰が正確に測れるか？ (2) 体積と重量 身の回りのさまざまなものの単位体積重量を求める。いろいろな物体の形をはかりスケッチする。 (3) 浮力 浮力のメカニズムを理解する。 (4) 平面図形の重心（図心） 重心を実測と計算により求める。モーメントとはなにか？ (5) 力の合成 力の合成に関する法則を実証するための実験方法を考え、実験を計画する。実験装置を作り、実験を実施し、測定データをもとに法則を検証する。 (6) フックの法則 ばねに力が作用するときの変形量をはかる。フックの法則を理解する。 (7) 重力加速度 重力加速度を計測する。計測精度を評価する。 (8) 水平投射運動 斜面から球が水平投射されたときの球の位置などを測定する。力学的エネルギー保存則と水平投射による運動を説明する。 (9) 圧力と温度 圧力と温度をはかる。圧力の作用と空気の状態変化を理解する。 (10) 仕事と熱エネルギー 人の馬力をはかる。仕事と熱エネルギーを体感する。 (11) 電流と電圧 簡単な電気回路を作り、テスターの使い方を知る。オームの法則、直流と交流について調べる。 (12) 電池の仕組み 金属のイオン化傾向を調べ、化学電池（乾電池）の基礎を学ぶ。次世代電池の仕組みを理解する。 (13) 発電機とリニアモーター 磁石を使って電気をつくり、つくった電気で磁場中の銅線を動かす。（リニアモーターと発電機） (14) 光の強さと成分 いろいろな光の強さと色の成分を測定する。 (15) 空気の対流 空気の対流を作り、対流内の温度差を計測することで仕組みを理解する。 (16) pHとEC 身近な環境をはかってみる。環境をはかる方法の原理を理解する。 (17) ビオトープの観察 ビオトープの環境を調べ、生物を観察する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>理工学部基礎実験</td> <td>摂南大学理工学部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	理工学部基礎実験	摂南大学理工学部		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	理工学部基礎実験	摂南大学理工学部															
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	平常点（50%）、レポート（50%）の総合点で評価する。																
学生へのメッセージ	この授業で学び体験するさまざまな物理・化学現象の測定技術は、住環境のデザインや建物の設計に欠かせないものです。実験を通して物理・化学現象を身近に体験しながら計測技術と理工学の基礎となる考え方を修得しましょう。																
担当者の研究室等																	
備考	事前学習として、教科書を読み、用紙に要約する課題が課せられている。 毎回1時間以上をかけて教科書をよく読み、丁寧な字できちんとした文章を書いて課題を提出すること。																

科目名	物理学実験	科目名(英文)	Experiments in Physics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	神嶋 修

授業概要・目的	この実験科目は、自然科学の基本である「物理学」を、実際の測定やデータ解析を通して理解し、さらに物理現象をより深く観察・認識する科目である。よって、いろいろな装置を活用して、一連の内容の基本的演習および計測方法を学ぶ。
到達目標	以下の項目の理解を目標とする。1) 国際単位系(SI)、2) 各テーマの物理的内容、3) 物理計測機器の取り扱い法、4) 物理測定方法、5) 誤差の考え方と取り扱い方。 学科の学習・教育到達目標との対応： (A科) [D] 数学や物理学などの自然科学学習により建築都市工学技術者として必要な数理的解析能力の基礎を培う。 (R科) [B] 専門知識の理解を深めるための数学・科学などの知識のみならず、一般社会で必要とされている情報技術の基礎を身につける。
授業方法と留意点	2~3人で1つの班が編成されるが、各班は順番表に従って週に1回(2時限)の実験を行い、レポートを提出する。
科目学習の効果(資格)	この科目では、事実・現象・測定等の実体験をとおり、すじ道を立てて考える科学的な思考法を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	物理学実験に向けて	「実験」に関するガイダンス、および有効数字、誤差についての講義を行う。技術者・研究者の行動規範、倫理を身につける。	—————
2	サールの装置によるヤング率の測定	サールの装置を用いて、2本の針金(真ちゅう線・ピアノ線)のヤング率を求める。	事前報告書およびレポート課題
3	熱の仕事当量Jの測定	電流の発熱作用により、熱量計の中の水の温度上昇から熱の仕事当量Jを求める。	事前報告書およびレポート課題
4	電子の比電荷の測定	電子が磁場内で円運動する状態を観察し、電子の比電荷 e/m の値を求める。	事前報告書およびレポート課題
5	分光実験	分光計を用いて、葉緑素の光吸収スペクトルを求める。	事前報告書およびレポート課題
6	プランク定数の測定	光電効果の現象を通して、光量子の概念を理解し、プランク(Planck)定数 h の値を測定する。	事前報告書およびレポート課題
7	ボルダの振り子による重力加速度の測定	ボルダの振り子を用いて、当実験室での重力加速度の値を求める。	事前報告書およびレポート課題
8	直流回路と交流回路	簡単な直流回路と交流回路を通じて、その動作原理を理解し、未知の抵抗の抵抗値を求める。	事前報告書およびレポート課題
9	低温の世界	低温では物質の性質が劇的に変化する。本実験では低温におけるさまざまな現象について体験を通して理解する。	事前報告書およびレポート課題
10	光の回折の実験	レーザーと回折格子を用いて、回折格子の間隔と回折角との関係を調べ、回折格子の間隔の値を求める。	事前報告書およびレポート課題
11	ねじれ振り子による剛性率の測定	ねじれ振り子の周期、金属製円錐のサイズ、ピアノ線の直径等を測定し、これらの測定結果からピアノ線の剛性率を求める。	事前報告書およびレポート課題
12	コールラウシュブリッジによる電解質溶液の抵抗測定	コールラウシュブリッジを用い、電気伝導率が既知の電解質溶液から容器定数を求め、未知の電解質溶液の電気伝導率を測定する。	事前報告書およびレポート課題
13	電磁波の実験	電磁波に関する種々の基本的測定から、電磁波の周波数や偏向特性を調べる。	事前報告書およびレポート課題
14	レンズの焦点距離の測定	凸レンズおよび凹レンズの焦点距離の測定法を学び、レンズの特性を理解する。	事前報告書およびレポート課題
15	速度と加速度	ストロボ撮影により、自由落下現象を観察し、速度と加速度を理解し、重力加速度を求める。	事前報告書およびレポート課題

関連科目 基礎力学演習、力学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	物理学実験	基礎理工学機構	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮秀樹、上村洸	森北出版
2	第3版 物理学基礎	原 康夫	学術図書出版	
3				

評価方法(基準)
 1) 実験は講義と異なり、全て出席を前提とする。
 2) レポートの提出がない場合、実験をしていないものとみなすので必ず提出すること。
 3) レポート(60%)、実験態度(40%)の割合で評価する。

学生へのメッセージ
 1) 実験は自然科学の基本です。この物理学実験でおおいに物理学を実体験して下さい。
 2) 質問がある場合、担当の先生に遠慮なく質問してください。
 3) 授業時間外の場合は、担当の先生の研究室へ訪ねてみて下さい。

担当者の研究室等
 8号館2階 光物性研究室

備考
 毎回レポート提出が課せられている。
 自らが行う実験の事前学習として、1時間以上をかけて教科書を読み、1) 実験の目的、2) 理論的背景、3) 実験手順を提出レポートにまとめたうえで授業に参加すること。

科目名	化学実験	科目名(英文)	Experiments in Chemistry
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人

授業概要・目的	この化学実験は、物質を分子レベルにまで遡り、その構造や性質および化学的变化について実践的に取り扱う自然科学の基盤となる部分である。化学分野の中から、分析化学、合成化学、界面化学、化学平衡、無機化学などに関する実例を取り上げ、化学的手法に機器を取り入れて実験を行う。これにより、化学知識を深め、実験操作の方法や化学的・物理的な実験データのまとめ方および考察の仕方などを習得することを目的とする。
到達目標	溶媒や化学薬品の性質、実験器具や機器の名称と使い方を説明できる。 化合物合成に関する一連の操作を説明できる。 銅、鉄、アルミニウムの性質を説明できる。 酸塩基滴定などを例にして定量的な操作と考え方を説明できる。 C科の学習・教育到達目標との対応：[IV]，[V2]
授業方法と留意点	配布する実験書を使って、その日の内容や実験上の注意点を講義したのち、引き続き、講義に沿った実験をおこなう。 使う機器：天秤、ホットプレート付スターラー、真空ポンプ、pHメーター、融点測定器など
科目学習の効果(資格)	実験をととして、物質に起こる変化や事象を化学の面から捉え、取り扱う技術や思考する能力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・導入講義	実験書、器具を配布し、使用する器具や試薬の名称と使用上の注意事項および実験室での心構えを説明する。	化学を復習しておくこと。
2	溶媒の性質	種々の溶媒(溶剤)の物性や物質を溶かす性質を学び、未知試料に用いた溶媒が何かを考える。	溶媒の性質を調べておくこと。
3	混合物の分離(1)	クロマトグラフィーの原理を理解し、薄層クロマトグラフ法(TLC)を用いて混合色素を各成分に分離する方法と分離した成分を確認する方法を習得する。	クロマトグラフィーの原理を理解する。
4	混合物の分離(2)	カラムクロマトグラフィーを用いて混合色素の分離と分取の方法を習得する。	クロマトグラフィーについてレポートにまとめる。
5	アセトアニリドの合成(1)	最初(1853年)の合成熱剤として知られるアセトアニリドを、アニリンと無水酢酸を用いて合成する。	使用する試薬の性質について調べておくこと。
6	アセトアニリドの合成(2)	再結晶は代表的な物質の精製法である。アセトアニリド粗結晶を水から再結晶して精製する。	再結晶および分子量の計算方法を調べておくこと。
7	アセトアニリドの合成(3)	合成した化合物がアセトアニリドであることを融点測定法とTLCを用いて確認する。	生成物の収率計算とレポート作成を行う。
8	香りのある化合物の合成(1)	サリチル酸メチルは局所性消炎鎮痛薬で、シヤクナグ科植物の葉から得られる揮発油(冬緑油)の主成分であることが知られている。これをサリチル酸からメタノール、硫酸と加熱して合成する。	サリチル酸メチルの用途を調べておくこと。
9	香りのある化合物の合成(2)	サリチル酸メチル反応物の溶液から蒸留により溶媒を除いて生成物を単離する。	サリチル酸メチル合成のレポート作成を行う。
10	香りのある化合物の合成(3)	エステル化反応を使った種々の香料の合成法を習得する。	香りのある化合物の合成全体のレポートをまとめる。
11	香りのある化合物の精製	固形の香り成分を昇華法により精製する。	化合物の分離に関するレポート作成を行う。
12	酸塩基滴定(1)	酸塩基滴定を用いて溶液に溶けているものの量を求める。試液の調製と指示薬を用いる滴定を行う。	中和反応について調べておくこと。
13	酸塩基滴定(2)	滴定の終点をpHメーターで求める。pHメーターの調整、滴定曲線の作成、中和点の求め方、定量法などを習得する。	酸塩基滴定のレポートを作成する。
14	無機化合物の性質(1)	硫酸銅溶液に鉄釘加え、銅イオンを金属銅に還元する。鉄釘およびアルミ箔を例に用い、塩酸水溶液、酢酸水溶液、水酸化ナトリウム水溶液に対する溶解性を調べる。	金属銅および銅イオンの化学的性質を調べておくこと。
15	無機化合物の性質(2)	身の回りにあるもの例に用い、塩酸水溶液、酢酸水溶液、水酸化ナトリウム水溶液に対する溶解性を調べる。	日常、身の回りで起こっている化学反応について考察し、レポートにまとめる。

関連科目	化学
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	全項目を実験するのを前提として、実験成果と態度を60%、レポートの内容を40%で総合的に評価し、その合計の60%以上を合格とする。実験不履行の項目がある場合は評価できませんので、やむなく欠席した場合は、速やかに欠席届を提出し、期間内に補講実験を実施してもらいます。		
学生への メッセージ	化学実験は常に危険を伴うので、毎回実験を行う前にその日の実験内容や操作方法や危険な箇所などの実験上の注意点を説明します。これに遅刻することなく参加し、実験に際しては、教員の指示に従って行動してください。		
担当者の 研究室等	担当者は3人とも枚方キャンパスにいます。 大塚：1号館5階（生化学研究室），柳田：1号館2階（薬学教育学研究室），相澤：1号館1階（学部共同研究室1）		
備考	実験の効果を高めるために、事前事後学習には、毎回1時間以上をかけてください。また、実験レポートには1回あたり5時間以上かけて仕上げてください。		

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	妹尾 史郎

授業概要・目的	コンピュータと情報通信ネットワークを利用するために必要な基礎的知識と技術を習得する。Windows システムをベースとして、オフィスアプリケーションの基本操作の習得と、電子メールやインターネットの利用技術、さらには数値データの収集・分析に必要な基礎技法を習得する。
到達目標	理工学に関連する情報処理の重要性を認識する。コンピュータの基本操作を習得し、理工学の学習・研究においてコンピュータを有効活用できるようにする。 学科の学習・教育目標との対応：[B]
授業方法と留意点	Word, Excel および PowerPoint を取り上げ、とくに数学的に考察する能力の向上を図ったデータ収集と分析に関する演習課題を提示し、演習を行う。また、コンピュータと情報通信ネットワークの基礎知識を習得するための資料を配付する。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート (国家資格) や Microsoft オフィスペシャリスト (民間資格) の試験に役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	利用システムの概説	・演習室の概要とシステム ・授業計画と受講留意事項の説明	情報処理室の利用手引きに目を通しておく。
2	Windows システム	・Windows の基本操作	ファイル操作と文字入力に慣れる。 (1 章全般)
3	電子文書の作成	・Word の基本操作, レイアウト ・ファイル入出力	Word の起動・終了, 文書ファイルの読込・保存方法を理解する。 (2.1~2.4 の演習課題)
4	電子文書の作成	・罫線と表作成 ・オブジェクト (図) の挿入	罫線の引き方, 表と図の作成方法を整理しておく。 (2.5~2.7 の演習課題)
5	表計算入門	・Excel の基本操作 ・セルの概念	Excel 起動・終了, 表計算ファイルの読込・保存方法を理解する。 (3.1~3.3 の演習課題)
6	表計算とグラフ	・グラフの作成 ・簡単なデータベース	セルの相対参照と絶対参照の違いを整理する。 (3.4~3.5 の演習課題)
7	表計算と関数	・数学関数 ・統計関数	利用する数学関数の使い方を理解する。 (3.6 の演習課題)
8	演習	・表計算のまとめ ・理工学系レポート作成の基本	レポート作成要領を理解する
9	電子メール	・電子メールの配信の仕組み ・課題のメール送信	添付ファイルの送信方法を理解する。 (4.1, 4.2 の練習)
10	ネット技術と情報検索	・情報検索の方法 ・HTML 入門	インターネットの仕組みを理解する。 (4.3 と 5.1 の練習)
11	演習	・情報検索と HTML レポートのまとめ方	レポートのまとめ方を整理する。 (演習課題配布)
12	プレゼンテーションソフト入門	・PowerPoint の基本操作	PowerPoint の起動・終了, ファイルの読込・保存を理解する。 (6 章全般)
13	プレゼンテーション資料の作成	・効果的なデータ提示 (ヒストグラム等) ・資料の作成方法	Word 文書の作成との違いを理解する。 (6 章全般)
14	テクニカル・プレゼンテーション 総合演習 (1)	・プレゼンテーション資料の作成演習 ・発表の仕方	総合演習課題
15	総合演習 (2)	・演習課題とレポート作成	総合演習課題

関連科目 -

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Office2013 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点 (30%) と演習レポート (70%) で評価する。
学生へのメッセージ	学業を遂行していく上で必須となる情報処理の基本技術を身につけることができます。毎回実施する演習課題を着実にこなしていくことが重要です。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	情報リテラシーII	科目名(英文)	Information Literacy II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	妹尾 史郎

授業概要・目的	情報技術の有効利用の中でも、科学技術分野においてとりわけ重要であるデータの処理と分析のための種々の数学的処理技法を理解する。表計算ソフトを用いて、その特有のデータ処理・分析の操作・手順を学ぶ。
到達目標	理工学分野で必要となる情報(数値データ)の処理方法と基本的分析方法を習得する。 学科の学習・教育目標との対応:[B]
授業方法と留意点	代表的かつ標準的な表計算ソフトであるExcelを対象とする。Excelの多種多様な機能のうち理工系の学生にとって必要なデータの集計・分析に有効利用できる機能に焦点を絞り、表計算を利用した数学的な考察能力の向上を促進するための演習を行う。
科目学習の効果(資格)	ITパスポートや基本情報処理技術者(ともに国家資格)の試験に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	表計算の基本操作(2) 効果的なグラフ表現	・表の整形、数式入力 ・式のコピーと貼り付け ・グラフの作成	表のレイアウト設定に関する演習課題の配布 (第4~6回の課題)
3	関数の利用	・数式の書き方 ・関数ウィザード	統計基本関数を用いた演習課題の配布 (第7回の課題)
4	データ集計とセルの参照	・セルの相対参照と絶対参照 ・データの並び替え	オートフィルタの演習 (第8回の課題)
5	ヒストグラム	・分析ツールの利用 ・論理関数によるヒストグラムの作成	ヒストグラム作成の演習 (第9回の課題)
6	散布図と回帰分析	・回帰直線とデータの推測	散布図の作成と回帰直線によるデータ分析の演習 課題 (第10回の課題)
7	相関係数	・相関係数とは ・相関係数の求め方	相関係数を用いたデータ分析の演習課題 (第11回の課題)
8	統計基礎量(分布の代表値・ 広がり)	・分布の代表値(平均値/中央値/最頻 値) ・分布の広がり(最大最小/分散/標準 偏差)	データ集計とデータ分布の割合に関する演習課題 (第12回の課題)
9	正規分布	・正規分布とは/標準正規分布 ・分布データの存在確率	正規分布関数を用いたデータ分析の演習課題 (第13回の課題)
10	データの標準化(平均と標準 偏差)	・平均が異なるデータの比較/標準偏差 の異なるデータの比較 ・分布の異なるデータの比較/データの 標準化	データの標準化と比較の演習課題 (第14回の課題)
11	分析ツールによる単回帰分 析	・散布図による回帰分析 ・相関係数と決定係数 ・分析ツールを用いた単回帰分析	分析ツールを用いた単回帰分析の演習課題 (第15回の課題)
12	重回帰分析	・相関行列/重回帰分析の基本 ・判別分析	簡単な判別分析の演習課題 (第16回と第17回の課題)
13	重回帰分析の応用(数量化理 論)	・数量化理論の基本 ・数量化理論による分析方法	簡単な数量化理論の演習 (第18回と第19回の課題)
14	乱数とモンテカルロ・シミュ レーション	・乱数とは ・乱数の発生方法	乱数を用いたシミュレーションデータの作成
15	総合演習	・まとめ	データ集計・分析の総合的演習課題

関連科目	情報リテラシー I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	演習テキストおよび資料を毎回配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて関連書籍(アスキー出版、インプレス出版等)を各自用意するとよい		
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(30%)と演習レポート(70%)で評価する。
学生へのメッセージ	上位学年次の学習や研究で必要となるデータの処理と分析の方法を効率よく学ぶことができます。毎回実施する演習課題にじっくり取り組む姿勢が大事です。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	住環境倫理	科目名(英文)	Ethics of Residential Environment
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	中村 文紀

授業概要・目的	福島原発や地球温暖化、景観など身近な社会問題における「倫理」について考え、倫理課題に取り組んでいただきます。本講義によって、現在に適合した倫理観を養い、自ら行動できる能力を身につけることを目的とします。 学科の学習・教育目標との対応：[C]
到達目標	みなさんを取り巻くさまざまな社会問題に対し、単なる主観ではなく、倫理的考察ができ、その考察を文章化することができる能力を身につけることを到達目標とします。また、みなさんが社会に出て、仕事や人間関係の悩みに直面した時、解決へと導く考え方のヒントを得ることができま す。 学科の学習・教育到達目標との対応：人間生活と住環境に関わる知識の習得[C]
授業方法と留意点	倫理観は、自らが考え、養うものであることから、身近なところから課題を抽出し、何が倫理として問題であるのか、自分ならどうするかを考察する時間を重視し、原則、各回課題を提示し、答案を提出していただきます。(講義 60 分、課題およびその解説 30 分) 授業ではプロジェクターを使用します。内容は、筆記してください。住環境や建築に関する社会情勢に鑑みて学外実習を行うことがあります。
科目学習の効果(資格)	進路決定に役立つような、設計・デザイン分野の様々な実務内容を学ぶことができます。また、建築士試験の職業倫理に関する問題回答、就職試験、面接に役立ちます。また、各回の論述式の課題により、読解力、文章力が向上します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	技術者倫理について 1	建築界の実情を交え、技術者倫理について講義し、倫理課題に取り組んでいただきます。	新聞などで技術者倫理にかかわると思う出来事を探してきてください。
3	技術者倫理について 2	社会はどんな技術者をもとめているのかをテーマに講義し、倫理課題に取り組んでいただきます。	新聞などで環境問題にかかわると思う出来事を探してきてください。
4	環境について 1	地球環境問題解決の難しさについて講義し、環境倫理についての課題に取り組んでいただきます。	新聞などで環境問題にかかわると思う出来事を探してきてください。
5	環境について 2	地球環境問題の難しさについて講義し、環境倫理についての課題に取り組んでいただきます。	これは、地球環境にいい影響を与えると思う技術や行為を考えてください。
6	環境について 3	具体的な環境配慮技術について講義し、環境倫理についての課題に取り組んでいただきます。	自分が倫理的だと思う身の回りのデザインを挙げてください。
7	デザインと倫理 1 (かたちについて)	かたちのもつ意味・働きについて講義し、デザインの倫理についての課題に取り組んでいただきます。	都市におけるバリアを観察してください。
8	デザインと倫理 2 (ユニバーサルデザインについて)	主にユニバーサルデザインの観点から、ソーシャルデザインのあり方を講義し、デザインの倫理についての課題に取り組んでいただきます。	自分が今住んでいるところをよく観察してきてください。
9	デザインと倫理 3 (デザインの今日的課題)	建築設計の実務について解説し、デザインの倫理について考え、職業に関する課題に取り組んでいただきます。	自分の身の周りで、正しいと思う建物やプロダクトをみつけてきてください。
10	デザインと倫理 4 (中間論述課題)	実際にあった事例を基に、倫理のあり方を講義し、倫理課題に取り組んでいただきます。	自分の今住んでいる地域・地方の特徴を考えてください。
11	都市の景観について	景観における倫理のあり方について講義し、景観に関する課題に取り組んでいただきます。	体験した気持ちのよい空間を考えてください。
12	建物の意匠についての事例的研究	建物の意匠における倫理について、事例を交えて講義し、倫理課題に取り組んでいただきます。	自分の家を設計するとしたら、何を大切にしますか、理由とともに考えてください。
13	設計の倫理 (住宅設計事例)	ある個人が考える倫理について具体的な設計事例を基に講義し、「家」に関する課題に取り組んでいただきます。	社会の様々な出来事に対して、自分の意見を持つようにしてください。
14	倫理のまとめ	本講義の内容を振り返りながら、倫理についての理解を深め、復習問題に取り組んでいただきます。	これまでの講義を復習してください。
15	まとめの課題	本講義を総括し、試験を行います。	これまでの講義を復習してください。

関連科目	設計演習、建築環境工学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	各回課題評価 (13回 52%)、中間論述課題評価 (18%)、まとめの課題評価(30%)とします。
----------	--

学生への メッセージ	「倫理」という言葉は難しく聞こえますが、電車ではお年寄りにふつう、席を譲るといふときの「ふつう」＝「倫理」と読み替えて、環境や建築にかかわる様々な社会問題について具体的にみんなで考える授業です。また、私が現在取り組んでいるプロジェクトの話や設計コンペ、プロポーザルのエピソードなど設計実務の実情を交えながら、講義を進めます。 講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする。
担当者の 研究室等	なし
備考	授業の内容についての質問などは、以下のメールアドレスにどしどし送ってください。 nakamura.fuminori@tohata.co.jp 講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする

科目名	建築法規	科目名(英文)	Building Code
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大上 直樹

授業概要・目的	建築基準法は単に建築行為を規制するだけのものではなく、国民の生命、健康及び財産の保護を図り、公共の福祉の増進を図ることを目的とし、建築が「単体としてもつべき基準」と「集団として持つべき基準」を定めている。その内容は関連する法令を含め広範多岐に亘っており、本来の趣旨と目的をよく理解した上で個別条項を理解していくことが大切である。法の遵守は建築行為にあたりまず意識されるべきものであるが、近年建築関係者のコンプライアンスの欠如が大きな社会問題を引き起こした。そのため、建築を学ぶ段階から法の意味と内容をしっかりと理解し、遵法精神を育むことがより以上に求められている。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：人間生活と住環境に関わる知識の習得[C] 建築関係法令として、建築基準法を中心に建築士法、都市計画法及び生活関連法規の概要を理解するとともに法令の見方、読み方を習得する。特に建築士受験科目でもあることに留意して、法律と施行令との関係など実践的な理解を深めることを目標とする。また今後も考えられる法令の改正に対しても対応できる能力を養う。
授業方法と留意点	パワーポイントを使用した講義を中心に授業をおこなう。 授業はまず学生が法律の条文を読み、それを解説するという形式でおこなう。 15回の授業のうち、前半は用語の定義と単体規定、後半は集団規定を中心に講義をおこなう。中間と最後にまとめ及び考査をおこない到達度を確認する。
科目学習の効果(資格)	建築法規は「建築士」の受験には欠かすことが出来ない科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 授業の進め方 憲法と法律	授業の進め方について説明をおこなう。 法律の導入として憲法を頂点とした法制度の全体像を俯瞰しその構成を論じる。	社会人・企業人として憲法や関係する法律は必須の教養です。 身の周りの法律について関心をもつ手がかりにしてください。
2	法文の構成 法令用語 建築士法	法文の構成や法令用語について理解する。 建築の資格法である建築士法について解説をおこなう。	法律、施行令の関係、基礎的な法律用語を早く理解し、早く法律の条文を読むことができるようにしてください。
3	建築基準法 用語の定義 1	建築基準法であつかう用語の定義について解説をおこなうとともに、少しずつ法令に慣れるよう心がける。	用語のひとつひとつは簡単に見えますが、用語が重なってくると理解するのが難しくなります。 確実に用語の定義を理解してください。
4	建築基準法 用語の定義 2	同上	同上
5	建築基準法 用語の定義 3	同上	同上
6	建築基準法 単体規定 1 一般構造	居室の採光、換気など単体規定のうちでもっとも基礎的な規定について解説をおこなう。	建築を計画するうえで基礎的な規定です。この規定によって、居室に必要な環境を理解してください。
7	建築基準法 単体規定 2 防火規定 1	防火の規定のうち、特殊建築物の防火の規定、防火壁等の規定について解説をおこなう。	防火の規定は建築基準法の中心的規定のひとつです。 安全、生命に直接関わる規定ですので十分に理解してください。
8	建築基準法 単体規定 3 防火規定 2	防火の規定のうち、防火区画、防火設備について解説をおこなう。	同上
9	建築基準法 中間のまとめと考査	用語の定義、一般構造、防火規定のまとめをおこない、考査をおこなう。	建築士試験と同様に法令集は持ち込み可能とします。
10	建築基準法 単体規定 4 避難規定	避難規定である階段の規定について解説をおこなう。	避難規定も直接安全に関わる規定です。日ごろから階段の位置、構造について注意を払ってください。
11	建築基準法 単体規定 5 構造規定	各種構造形式の構造規定について解説をおこなう。	構造計算の基礎となる規定です。安全に関わる規定ですので十分に理解してください。
12	建築基準法 集団規定 1 都市区域	集団規定のうち、都市計画区域、道路の定義、用途地域について解説をおこなう。	都市計画によってさまざまな規定がありますので、自分の土地であっても自由に建築を建てられません。 周囲と調和した街づくりの基礎を理解してください。
13	建築基準法 集団規定 2	集団規定のうち、防火上の地域、高さの制限について解説をおこなう。	同上
14	建築基準法の関係法令 消防法 品確法 バリアフリー法	建築関係法令として、消防法、品確法、バリアフリー法について解説をおこなう。	建築は建築基準法だけを満たしても建てられません。さまざまな関係法令を満たす必要があります。 周辺の法律を理解してください。
15	建築基準法 最後のまとめと考査	避難規定、構造規定及び集団規定のまとめをおこない考査をおこなう。	建築士試験と同様に法令集は持ち込み可能とします。

関連科目 建築計画、建築設計など

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基本建築基準法関係法令集 2016年版	建築資料研究社/日建学院	建築資料研究社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3		
評価方法 (基準)	2度の考査の成績(50%)と定期試験(50%)を用いて評価する。		
学生への メッセージ	建築法規は“難解で面白くない”科目としてイメージされますが、人間が、安全・安心・快適に暮らしていくため、さまざまな代償を払い獲得してきた知恵の集大成です。身の回りの建物や市街地をあらためて観察してみてください。納得できるもの、疑問や危険を感じるもの、いろいろあるはず。日頃の生活や人間行動とのつながりで法を見る目を養っていきましょう。質問はいつでも歓迎です。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室		
備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする		

科目名	住環境デザイン概論	科目名 (英文)	Introduction to Residential Environment Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平田 陽子

授業概要・目的	住環境デザインを学ぶ導入として、住環境デザインの潮流を大づかみに把握し、住環境の諸要素とその性状を理解することによって、住環境デザインの基本的考え方、技術の基礎を習得することを目的とする。
到達目標	住環境デザインの基本的考え方、技術の基礎を習得すること。 学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関わる基礎的知識・技術者倫理（専門コア群共通系の学習）[C]
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果（資格）	住環境デザインにかかわる基礎的知識を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料の復習を十分に行う。
3	都市デザインにおけるエコ技術	ヒートアイランド対策をはじめとする、都市デザインにおけるエコ技術について学ぶ。?	配布資料の復習を十分に行う。
4	地球共生建築のすすめ	地球共生建築および構造、コンポーネントデザインについて学ぶ。	配布資料の復習を十分に行う。
5	バイオミミクリ (バイオミメティックス)	自然界の生物の形態やプロセスを模倣し、私たちに役立てる技術について学ぶ。	配布資料の復習を十分に行う。
6	映画の中の住環境	様々な映画に見る日本・世界・未来の住環境デザイン、そこから現代生活環境との違いについて考えてみる。	配布資料の復習を十分に行う。
7	次世代の住環境を考える	私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生について学ぶ。	配布資料の復習を十分に行う。
8	日本の住まいの地域性とデザイン	気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的住宅の特徴とデザインについて学ぶ。	配布資料の復習を十分に行う。
9	居住福祉と住宅のデザイン	高齢者の心身機能の特性を踏まえて、福祉空間という視点から住宅の機能とデザインについて学ぶ。	配布資料の復習を十分に行う。
10	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	配布資料の復習を十分に行う。
11	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料の復習を十分に行う。
12	居住地域を把握する - 社会指標にみる地域の実態	我々が居住する地域について、社会指標を用いて表現する方法を学ぶ。	配布資料の復習を十分に行う。
13	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と最近の調査、デザイン事例を、学ぶ。	配布資料の復習を十分に行う。
14	人の感覚と住生活環境	住空間におけるにおい対策、かおりの活用をはじめと感覚に基づく環境デザインについて学ぶ。	配布資料の復習を十分に行う。
15	CGと空間デザイン	インテリアや住宅デザインで用いられるCGのしくみと基本知識、その有用性について学ぶ。	配布資料の復習を十分に行う。

関連科目 学科教育に関わる全ての専門科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなど 80%で評価する。

学生へのメッセージ 住環境デザインというものを大づかみに把握し、そのなかから興味ある領域を見出すように努力してほしい。

担当者の研究室等 12号館 7階 本多教授室、森山教授室、岩田教授室、平田教授室、川上教授室、坂本教授室、稲地准教授室、榎准教授室、白鳥准教授室、竹村講師室
12号館 6階 住環境デザイン学科共通準備室

備考 講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする

科目名	プロダクトデザイン論	科目名(英文)	Product Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	市川 邦治

授業概要・目的	<p>自給自足～物々交換～貨幣の発明・産業革命以降、消費と生産が分離され、プロダクトデザインは、社会で重要視されてきた。「顧客の創造」が企業の目的と言われる現代では、絶え間ない革新が求められ「イノベーション」から「マーケティング」まで、企業におけるデザインの領域は広がり、ますます重要な位置を占めている。プロダクトデザイン全般を取り上げ、クリエイターとしての ①問題発見能力 ②問題解決能力 ③コミュニケーション能力の習得を目指す。</p> <p>[到達目標] 情報・商品企画・プロダクトデザイン・プロモーションまで、基礎的な知識を吸収すること。</p>																																																																		
到達目標	<p>①問題発見能力(観察力・情報整理手法) ②問題解決能力(想像力・デザイン思考) ③コミュニケーション力(伝える力) 学科の学習・教育目標との対応:[E]</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>講義を中心に実技・演習も盛り込み行う。講義は概ね授業計画に沿って行うが、学生の理解度および興味に合わせてフレキシブルに計画内容を修正する。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プロダクトデザインとは?</td> <td>企業の目的は「顧客の創造」 プロダクトデザインは、すべてにかかわる仕事</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>良いデザインとは?</td> <td>生活者は、何を良いデザインと言っているのか?</td> <td>自宅から良いデザインのモノを、持参する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>何が良いデザインか?</td> <td>使いやすい・機能美・アフオーダンス 美しいカタチ・美しい色彩・美しい・・・</td> <td>自宅から使いやすいデザインのモノを、持参する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ユニバーサルデザイン</td> <td>すべての人に使いやすい ユニバーサルデザインの理念と7原則</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>企業のプロダクトデザイン</td> <td>情報・商品企画・デザイン・プロモーション</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>情報とは?</td> <td>商品企画とデザイン 「新」創造のための情報と、「伝える」ための情報。5つの変化「社会」「市場」「生活者」「ライバル」「自社(自分)」</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>創造するとは?</td> <td>ブレインストーミング(例:掛時計の開発) オズボーンのチェックリスト グループディスカッション</td> <td>自分が欲しいのに、社会にないものを見つけ、書き出し持参する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>アイデア・情報の整理の仕方</td> <td>KJ法、4P分析、SWOT分析、3C分析 グループディスカッション</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>調査手法</td> <td>市場調査 デザイン調査 SD法、一対比較法(プスコ)、官能評価・・・</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>画像で考え、伝える 視覚化・スケッチ①</td> <td>図面、アイデアスケッチ、アイソメ図法</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>画像で考え、伝える 視覚化・スケッチ②</td> <td>アイソメ図法、レンダリング</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>伝える</td> <td>伝えるための 心理学・国民性 映像(写真)・スケッチ・色彩・レイアウト</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>造形・パッケージデザイン</td> <td>わかりやすい造形・パッケージデザインの基本</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>販売促進 チラシ・カタログのデザイン</td> <td>チラシ・カタログのデザインの基本</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>講義のまとめ</td> <td>講義のまとめと補足</td> <td>試験に備えて、教科書の復習とノートを整理しておくこと。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	プロダクトデザインとは?	企業の目的は「顧客の創造」 プロダクトデザインは、すべてにかかわる仕事	関連する文献を紹介するので読むこと。	2	良いデザインとは?	生活者は、何を良いデザインと言っているのか?	自宅から良いデザインのモノを、持参する	3	何が良いデザインか?	使いやすい・機能美・アフオーダンス 美しいカタチ・美しい色彩・美しい・・・	自宅から使いやすいデザインのモノを、持参する	4	ユニバーサルデザイン	すべての人に使いやすい ユニバーサルデザインの理念と7原則	関連する文献を紹介するので読むこと。	5	企業のプロダクトデザイン	情報・商品企画・デザイン・プロモーション	関連する文献を紹介するので読むこと。	6	情報とは?	商品企画とデザイン 「新」創造のための情報と、「伝える」ための情報。5つの変化「社会」「市場」「生活者」「ライバル」「自社(自分)」	関連する文献を紹介するので読むこと。	7	創造するとは?	ブレインストーミング(例:掛時計の開発) オズボーンのチェックリスト グループディスカッション	自分が欲しいのに、社会にないものを見つけ、書き出し持参する	8	アイデア・情報の整理の仕方	KJ法、4P分析、SWOT分析、3C分析 グループディスカッション	関連する文献を紹介するので読むこと。	9	調査手法	市場調査 デザイン調査 SD法、一対比較法(プスコ)、官能評価・・・	関連する文献を紹介するので読むこと。	10	画像で考え、伝える 視覚化・スケッチ①	図面、アイデアスケッチ、アイソメ図法	関連する文献を紹介するので読むこと。	11	画像で考え、伝える 視覚化・スケッチ②	アイソメ図法、レンダリング	関連する文献を紹介するので読むこと。	12	伝える	伝えるための 心理学・国民性 映像(写真)・スケッチ・色彩・レイアウト	関連する文献を紹介するので読むこと。	13	造形・パッケージデザイン	わかりやすい造形・パッケージデザインの基本	関連する文献を紹介するので読むこと。	14	販売促進 チラシ・カタログのデザイン	チラシ・カタログのデザインの基本	関連する文献を紹介するので読むこと。	15	講義のまとめ	講義のまとめと補足	試験に備えて、教科書の復習とノートを整理しておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	プロダクトデザインとは?	企業の目的は「顧客の創造」 プロダクトデザインは、すべてにかかわる仕事	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
2	良いデザインとは?	生活者は、何を良いデザインと言っているのか?	自宅から良いデザインのモノを、持参する																																																																
3	何が良いデザインか?	使いやすい・機能美・アフオーダンス 美しいカタチ・美しい色彩・美しい・・・	自宅から使いやすいデザインのモノを、持参する																																																																
4	ユニバーサルデザイン	すべての人に使いやすい ユニバーサルデザインの理念と7原則	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
5	企業のプロダクトデザイン	情報・商品企画・デザイン・プロモーション	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
6	情報とは?	商品企画とデザイン 「新」創造のための情報と、「伝える」ための情報。5つの変化「社会」「市場」「生活者」「ライバル」「自社(自分)」	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
7	創造するとは?	ブレインストーミング(例:掛時計の開発) オズボーンのチェックリスト グループディスカッション	自分が欲しいのに、社会にないものを見つけ、書き出し持参する																																																																
8	アイデア・情報の整理の仕方	KJ法、4P分析、SWOT分析、3C分析 グループディスカッション	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
9	調査手法	市場調査 デザイン調査 SD法、一対比較法(プスコ)、官能評価・・・	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
10	画像で考え、伝える 視覚化・スケッチ①	図面、アイデアスケッチ、アイソメ図法	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
11	画像で考え、伝える 視覚化・スケッチ②	アイソメ図法、レンダリング	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
12	伝える	伝えるための 心理学・国民性 映像(写真)・スケッチ・色彩・レイアウト	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
13	造形・パッケージデザイン	わかりやすい造形・パッケージデザインの基本	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
14	販売促進 チラシ・カタログのデザイン	チラシ・カタログのデザインの基本	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
15	講義のまとめ	講義のまとめと補足	試験に備えて、教科書の復習とノートを整理しておくこと。																																																																
関連科目	インテリアデザイン演習、設計演習、プロダクトデザイン演習II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	レポート&課題(20%)と試験(80%)から総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	身近なプロダクトデザインについて考えながら、クリエイターとしての大切なことを学びましょう。																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする																																																																		

科目名	図形科学	科目名(英文)	Graphics Science
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	榊 愛

授業概要・目的	図形の数学的な理解を基礎として、図形を読み解く力を養い、投影法に関する理解を深める。さらに、定規などを用いた演習を通して図形表現の基本的な技術を修得し、図形の幾何学的な特徴を理解するとともに空間把握力を培う。また3次元CADを用いて、コンピュータ上で3次元図形を表現する方法を学習する。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関わる基礎的知識・技術者倫理（専門コア群共通系の学習）[C] 3次元空間にあるもの（建物や家具など）を2次元平面（紙やパソコンの画面など）に表現するための知識と技術を習得することを到達目標とする。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせる授業を進める。不明点は質問してその都度解決すること。
科目学習の効果（資格）	関連する資格：CAD利用技術者検定、CGエンジニア検定など。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前学習	事後学習
1	イントロダクション 図形科学の概要	授業内容、持ち物、評価基準などについて説明する。	事前学習：建物が描かれた図を探し、その図が伝えたいことについて考える	事後学習：事前学習で探した図はどの投影法で描かれているかを考える
2	投影法の分類 平行投影法(1)	投影法の種類と、正投影法について説明する。	事前学習：正投影法で描かれた図を探す	事後学習：正投影法の特徴について説明できるように復習する
3	平行投影法(2)	直軸測投影法（特に等測投影法）、斜軸測投影法について説明し、等測投影図、斜軸測投影図を描く。	事前学習：等測投影法で描かれた図を探す	事後学習：等測投影法の特徴について説明できるように復習する
4	平行投影法(3)	平行投影法のまとめ	事前学習：正投影図、直軸測投影図、斜軸測投影図の特徴、作図手順を復習する	事後学習：平行投影法の種類、特徴について復習する
5	透視投影法(1)	直接法の原理と作図方法について説明する。	事前学習：透視投影法で描かれた図を探す	事後学習：透視投影図を描くしきみを復習する
6	透視投影法(2)	簡単な立体の透視投影図を直接法で描く。	事前学習：身の回りにある、2点透視図を探す	事後学習：直接法のしきみを復習する
7	透視投影法(3)	複雑な立体の透視投影図を直接法で描く。	事前学習：身の回りにある、3点透視図を探す	事後学習：大学の建物の透視投影図を描く
8	透視投影法(4)	消点法の原理と作図方法について説明する。	事前学習：身の回りにある、3点透視図を探す	事後学習：自分の好きな建物の透視投影図を描く
9	透視投影法(5)	簡単な立体の透視投影図を消点法で描く。	事前学習：消点法の作図方法を復習する	事後学習：消点法の課題を完成させる
10	透視投影法(6)	透視投影図を直接法と消点法を併用して描く。	事前学習：直接法・消点法の作図方法を復習する	事後学習：室内パースの課題を完成させる
11	平行投影法・透視投影法のまとめ	建物の正投影図、等測投影図、透視投影図を描く。	事前学習：これまでの内容を復習する	事後学習：自分の好きな建物の平面図、等測投影図、透視投影図を描く
12	3DCADを用いた図形表現(1)	CADの基本について説明する。 3DCADの基本操作について説明する。	事前学習：3DCADについて調べる	事後学習：3DCADの基本操作を復習する
13	3DCADを用いた図形表現(2)	3DCADを用いた立体図形の作成・編集操作について説明する。	事前学習：3DCADで作成された身の回りの事例を調査する	事後学習：立体図形の作成・編集操作を復習する
14	3DCADを用いた図形表現(3)	3DCADを用いて、簡単な建物を作る方法について説明する。	事前学習：前回の内容を復習する	事後学習：自分の好きな建物のモデルを作成する
15	3DCADを用いた図形表現(4)	3DCADを用いて作成した図を効果的にプレゼンテーションする方法について説明する。	事前学習：これまでの内容を復習する	事後学習：プレゼンテーション手法の復習をする

関連科目 基礎設計演習、空間表現演習、設計演習など。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 課題・小テスト(40%)、試験(60%)で評価する。

学生へのメッセージ 自分の思い描く空間を表現するための基礎が身につきます。積極的に取り組んでください。

担当者の研究室等 12号館7階 榊准教授室

備考 講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする

科目名	居住安全計画	科目名(英文)	Planning for Safe Living
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	宮野 道雄

授業概要・目的	建築設計や生活の質を考える場合、快適性・利便性に加えて安全性は欠くことのできない重要な要素のひとつである。本講義では、地震などの自然災害のみならず火災などの日常災害も対象として、そのメカニズムと防災・安全対策について講じ、建築や地域の設計・計画に応用させることを目的とする。
到達目標	学科の学習教育到達目標との対応：住環境デザインに関わる基礎的知識・技術者倫理（専門コア群共通系の学習）[C] 災害や事故のメカニズムを理解し、被害の実態を学んだ上でそれへの対策を考える力をつける。
授業方法と留意点	各種の災害について、その発生メカニズムと被害の実態および対策について解説する。資料を配付したり、写真や映像を用いてわかりやすく説明する。疑問点については積極的に質問すること。
科目学習の効果(資格)	地域・都市計画や設計の演習において、防災・安全の視点を取り入れて取り組むことが可能となる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	概論	講義の進め方、学習の意義について述べる。	災害のメカニズムについて事前に調べ、受講後に各自でまとめる。
	2	地震災害1)	地震のメカニズム、地盤と震害	地震のメカニズムについて事前に調べ、受講後に各自でまとめる。
	3	地震災害2)	耐震・免震・制震、地震応答計算	振動被害について事前に調べ、受講後に防災対策をまとめる。
	4	地震災害3)	地震火災、津波、避難行動	地震時の避難について事前に調べ、受講後にまとめる。
	5	地震災害4)	人的被害、生活安全計画	地震による人間被害について事前に調べ、受講後にまとめる。 レポート1
	6	台風災害	高潮、風害、耐風構造	台風のメカニズムについて事前に調べ、受講後にまとめる。
	7	洪水災害	地域開発と水害、都市の水害、集中豪雨	洪水災害について事前に調べ、受講後にその変遷についてまとめる。
	8	崩壊災害	斜面崩壊と住宅被害、宅地造成	崩壊災害の種類について事前に調べ、受講後にまとめる。
	9	雪氷災害	屋根雪処理、除排雪システム	降雪のメカニズムについて事前に調べ、受講後にまとめる。 レポート2
	10	平常時火災1)	出火・延焼、住宅火災、防火	火災の実態について事前に調べ、受講後に地震火災との差違についてまとめる。
	11	平常時火災2)	延焼遮断、避難計画、福祉施設の防火対策	防災対策について事前に調べ、受講後にまとめる。
	12	日常生活事故1)	日常災害、建築災害、人口動態統計	日常災害について事前に調べ、受講後に分類を行う。
	13	日常生活事故2)	住宅内事故、安全対策	住宅の安全について事前・事後に整理を行う。 レポート3
	14	日常生活事故3)	高齢者・障害者対応住宅のあり方	バリアフリーについて事前に調べ、受講後に考えをまとめる。
	15	犯罪	住まい及び居住地の防犯計画	防犯の意味について事前に調べ、受講後に考えをまとめる。

関連科目	設計演習
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験において、各種災害のメカニズムや被害および防災・安全対策について正しい理解がなされているかを評価する。なお、評価のウエイトは期末試験70%、授業期間中に課すレポート課題30%とする。
----------	---

学生へのメッセージ	積極的に質問すること
-----------	------------

担当者の研究室等	非常勤講師控え室
----------	----------

備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする
----	-------------------------

科目名	都市環境計画	科目名(英文)	Urban Environmental Planning
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	森山 正和

授業概要・目的	広域的・都市的スケールにおける環境計画及び環境工学上の諸問題をテーマとし、その分析・評価・計画手法について、できるだけ具体的事例をとおして講述する。全体として、環境の基礎構造、自然環境計画論、都市エネルギー計画論の3つのサブテーマから構成し、最後にエコシティ計画について講述する。建築・都市とのかかわりにおいて今後の方向性を適切に判断しうる人の育成を目的とする。
到達目標	自然生態系の基本概念を理解し、種々の問題を抱える現代都市を自然環境と都市エネルギーシステムの視点から分析し、改善策を提示できること。学科の学習・教育目標との対応：住宅・建築物・地域環境を計画するための技術の修得[D]
授業方法と留意点	原則として毎時間、小演習を課す。
科目学習の効果(資格)	一級建築士、二級建築士、建築設備士

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	環境形成の歴史	古代・中世、近代・現代及び現代の環境問題・地球環境問題について講述する。	配布資料を参考にして参考書で自習することが望ましい
2	地表付近の気候形成・風と気温	地表付近の風、気温、大気の安定度について講述する。	配布資料を参考にして参考書で自習しておくことが望ましい
3	地表付近の気候形成・熱収支	地表面の熱収支とその成分、湿潤・乾燥気候における熱収支比較などについて講述する。	配布資料を参考にして参考書で自習しておくことが望ましい
4	リモートセンシングによる環境計測	リモートセンシングの原理、緑と熱のリモートセンシング	配布資料を参考にして参考書で自習しておくことが望ましい
5	都市熱環境の形成(1) ヒートアイランドの実態	都市気候及び、ヒートアイランドの実態について講述する。	配布資料を参考にして参考書で自習しておくことが望ましい
6	都市熱環境の形成(2) シミュレーション	ヒートアイランドのシミュレーションについて講述する。	配布資料を参考にして参考書で自習しておくことが望ましい
7	緑による都市熱環境対策	夏季熱環境対策の概念、緑化計画とみどりのタイプについて講述する。	配布資料を参考にして参考書で自習しておくことが望ましい
8	建物や道路の都市熱環境対策	建物の対策、道路などの舗装面の対策について講述する。	配布資料を参考にして参考書で自習しておくことが望ましい
9	風害と大気汚染の対策	風害(建物周辺強風)の制御、大気汚染について講述する。	配布資料を参考にして参考書で自習しておくことが望ましい
10	クリマアトラス(1)ドイツの事例	背景、気候解析図、都市計画への応用について講述する。	配布資料を参考にして参考書で自習しておくことが望ましい
11	クリマアトラス(2)都市環境気候地図	近畿地域の都市気候、大阪・神戸の気候解析、都市環境気候地図の作成について講述する。	配布資料を参考にして参考書で自習しておくことが望ましい
12	都市エネルギーの計画(1)	都市インフラの概要、地域冷暖房システムについて講述する。	配布資料を参考にして参考書で自習しておくことが望ましい
13	都市エネルギーの計画(2)	コージェネレーション・システム、未利用エネルギーによる熱供給について講述する。	配布資料を参考にして参考書で自習しておくことが望ましい
14	コンパクト・エコシティの計画	コンパクトシティ及びエコシティの概念、環境に配慮した交通、未来都市のプロジェクトについて講述する。	配布資料を参考にして参考書で自習しておくこと
15	講義のまとめテストと解説	講義のまとめテスト及びその解説を行う。	講義内容全般にわたって復習しておくこと

関連科目 住環境工学Ⅰ、住環境工学Ⅱ、住環境設備

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	毎回行う小演習 40%、まとめテスト 60%で総合的に評価する
学生へのメッセージ	遠慮なく積極的に質問すること
担当者の研究室等	12号館 7階 森山研究室
備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする

科目名	住環境工学A	科目名(英文)	Environmental Engineering for Living A
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹村 明久

授業概要・目的	屋内空間の熱・空気環境を安全で健康、しかも快適な状態に保つため、環境の状態を把握する能力や、人と環境との関係を理解できる能力を修得することを目的し、熱・空気環境に関する基礎的知識について学ぶ。人が感じる暑さ寒さの指標や、壁や窓を通して屋外と屋内を行き来する熱に対する考え方、屋内空気の清浄度に関する基準や適切な換気の方法、湿気と結露とその対策方法、環境デザインと省エネの両立などについて取り上げる。
到達目標	建築環境工学における熱環境・空気環境に関する基礎的知識を修得すること。 学科の学習・教育到達目標との対応：住空間を対象とする環境技術と構造技術（専門コア群環境デザイン系の知識）[D]
授業方法と留意点	身近な現象と教科書の知識とを繋げて理解するように心掛けること。授業進行は、その点に留意して進行するほか、確認のための小テストや演習問題を実施する。
科目学習の効果(資格)	一級建築士、二級建築士など

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	住環境と熱・空気	環境構造の中の住環境、外界の気象、環境と人の関係、住環境工学と省エネ	教科書をよく読んで復習すること。講義中は要点をノートにとること。
2	空気環境と室内空気質	空気汚染物質、シックビル症候群	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
3	必要換気量と換気方式	換気回数、必要換気量、機械換気の換気方式	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
4	重力換気と風力換気、臭気対策	自然換気の利用と計算、臭気対策の基本的考え方	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
5	人体の熱平衡	人体の熱収支、顕熱と潜熱	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
6	伝熱の基礎と温熱四要素	伝熱3態(伝導、対流、放射)、温熱四要素(温度、湿度、気流、放射)	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
7	人体に関わる温熱環境指標	作用温度、有効温度、PMVなどの指標の特徴	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
8	日照と日射	日射と熱環境、太陽位置	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
9	建物と日射	日影の考え方、建物と日射量の関係	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
10	建物の熱性能①	建物における熱伝導、熱伝達、熱放射の計算	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
11	建物の熱性能②	熱貫流の計算と、壁体内の温度分布	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
12	建物の熱性能③	換気による熱負荷、熱容量の考え方	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
13	湿り空気線図	湿気概念、湿り空気線図の使い方	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
14	湿気と結露	壁体内の結露、結露対策	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
15	講義のまとめ	講義のまとめと補足	試験に備えて、教科書の復習とノートを整理しておくこと。

関連科目	住環境工学B 環境工学演習 住環境設備A 住環境設備B 環境計画演習
------	------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生活環境学	岩田利枝他	井上書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	環境工学教科書	環境工学教科書研究会	彰国社
	2	図説テキスト 建築環境工学	加藤信介他	彰国社
	3			

評価方法(基準)	定期試験(60%)と演習問題類(40%)の総合評価
----------	---------------------------

学生へのメッセージ	教科書を必ず持参すること 積極的な質問など、前向きな取組みを期待する
-----------	---------------------------------------

担当者の研究室等	12号館7階 竹村講師室
----------	--------------

備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする
----	-------------------------

科目名	住環境工学B	科目名(英文)	Environmental Engineering for Living B
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩田 三千子

授業概要・目的	建築空間の光環境と音環境について、人間の生理的・心理的反応と物理条件に着目しながら、建築計画や環境計画の際に知っておくべき基礎的要件と計画に応用するための解析法や評価法についての知識を学ぶ。光環境については、太陽の動きと日照の問題、人工照明による照明設計手法など、音環境については、騒音の評価と防止、音響計画の手法についてなどを学ぶ。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：住空間を対象とする環境技術と構造技術（専門コア群環境デザイン系の知識）[D] 都市・建築のサステナブル環境デザインや省エネルギー設計への応用につながるための基礎的な知識を修得することを目標とする。
授業方法と留意点	各章の授業テーマに関して、日頃から問題意識を持って生活することが望ましい。授業中に演習や小テストなどを行って理解度を確かめながら進めていく。
科目学習の効果(資格)	一級建築士、二級建築士、インテリアプランナー、建築設備士、商業施設士

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	住環境工学の概略	快適な建築空間を計画するための光・熱・音・空気環境	教科書を読んで予習・復習をする
2	太陽の動きと建物の関係	地球と太陽の関係、太陽と建物の関係、直射日光と天空光	教科書を読んで予習・復習をする
3	日照と日影	日照と日当たり、日影と日照の検討方法	教科書を読んで予習・復習をする
4	光と視覚	目の構造と可視光、光に対する感度と視細胞の働き	教科書を読んで予習・復習をする
5	明視照明と雰囲気照明	蛍光灯、白熱電球、水銀ランプなど身近な各種光源の特徴と空間への光の供給	教科書を読んで予習・復習をする
6	照明計算の基礎	測光量と単位、照明計算の基礎、JIS照度基準値、昼光率	教科書を読んで予習・復習をする
7	照明設計とその要件	さまざまな照明方式、照明設計の手順	教科書を読んで予習・復習をする
8	昼光照明と電灯照明	窓からの採光による照明計画、電灯による照明計画	教科書を読んで予習・復習をする
9	建築の色彩設計	建築計画における色彩の心理的な効果と調和の基礎要件	教科書を読んで予習・復習をする
10	音の基本的性質	反射、屈折、回折など音の伝播に関する基本的項目の説明	教科書を読んで予習・復習をする
11	音の感じ方と計算の基礎	デシベル単位、音の透過損失、音の合成と分解	教科書を読んで予習・復習をする
12	残響	各種建築材料の吸音率、残響時間	教科書を読んで予習・復習をする
13	吸音機構	共鳴器型、多孔質型、板および膜振動型吸音機構	教科書を読んで予習・復習をする
14	音質評価、騒音防止計画	明瞭度と文章了解度、室内音響設計、さまざまな騒音と騒音対策	教科書を読んで予習・復習をする
15	総括	講義のまとめとテスト	教科書を読んで復習をする

関連科目 住環境工学Ⅱ、環境工学演習、住環境材料学Ⅰ、住環境材料学Ⅱ、住環境設備

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	環境工学教科書 第二版	環境工学教科書研究会編著	彰国社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学課程建築環境工学	伊藤克三ほか	オーム社
2	最新建築環境工学	田中俊六ほか	井上書院
3	建築環境工学演習編	田中俊六ほか	井上書院

評価方法(基準)	まとめテストの成績(70%)および演習や小テストなどの平常成績(30%)で評価する
学生へのメッセージ	講義には必ず教科書を持参し、自宅でも教科書の内容に沿って、予習復習を心がけてください。
担当者の研究室等	12号館 7階 岩田教授室
備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする

科目名	住環境設備A	科目名(英文)	Building Services A
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森山 正和

授業概要・目的	建築環境設備には空調設備、給排水衛生設備、電気設備などがある。近年の建築や都市に関わる環境問題を背景として、講義では建築設備を広く住環境全般からとらえ直し、建築設備の基礎的な知識や考え方の修得を目的とする。
到達目標	建築環境工学における建築設備工学に関する基礎的な知識の修得を目指す。 学科の学習・教育目標との対応：住空間を対象とする環境技術と構造技術（専門コア群環境デザイン系の知識）[D]
授業方法と留意点	原則として毎回、小演習を課す 授業中、講義の要点をノートに取る。ノートの提出を求めることがある。
科目学習の効果(資格)	一級建築士、二級建築士、建築設備士、消防設備士など

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義概要	建築設備工学の概要 建築設備と地球環境問題 エコ技術・環境配慮建築	教科書を読んで予習しておく。
2	空調設備(1)	空調の概要 空調方式の種類と特徴	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
3	空調設備(2)	空調設備の計画 冷暖房負荷計算法1	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
4	空調設備(3)	冷暖房負荷計算法2	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
5	空調設備(4)	湿り空気線図と空調プロセス 空調機	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
6	空調設備(5)	冷温熱源機器	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
7	前半講義のまとめテストと解説	前半講義のまとめテスト及びその解説を行う。	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
8	設備機械室の見学	学内の設備機械室を見学	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
9	給水設備	給水・給湯・ガス設備の概要と注意事項	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
10	排水・通気設備	排水の考え方と通気設備の必要性	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
11	衛生器具・排水処理設備	衛生器具の選定のための必要基礎知識と排水処理設備の概要	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
12	消火・防災設備(1)	消火栓・スプリンクラーなどの水に関する消火設備の概要と法規	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
13	消火・防災設備(2)	特殊消火設備と防災設備に関する概要と法規	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
14	電気・搬送設備	電気・搬送設備の概要と基礎知識	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
15	後半講義のまとめテストと解説	後半講義のまとめテスト及びその解説を行う。	テストに備えて教科書を参考に配布資料及びノートを整理しておくこと。

関連科目	住環境工学A、住環境工学B
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新 建築設備工学(改訂版)	田中俊六監修	井上書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	毎回の小演習及びEmatの受験状況等40% まとめテスト60%を総合的に評価する
----------	--

学生へのメッセージ	遠慮なく質問すること
-----------	------------

担当者の研究室等	12号館7階 森山研究室、竹村研究室
----------	--------------------

備考	予習復習は配布資料、教科書について約1時間30分間程度の通読をこれに当てること
----	---

科目名	住環境設備 B	科目名 (英文)	Building Services B
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	曾我部 峰幸

授業概要・目的	これからの環境配慮、環境共生建築を考える上で、建築設備に関する知識や考え方は欠かせない。日進月歩の建築設備に関する基礎的な知識や考え方にとどまらず、これまでの先駆的な技術や手法を知り、実務における知識や考え方の基礎を修得することも必要である。本講義では、実務的観点から上記の内容について修得することを目的とする。
到達目標	建築設備工学に関する最新情報と実務における知識や考え方の基礎の修得。 学科の学習・教育目標との対応： [D]
授業方法と留意点	原則として毎回、小演習を課す 授業中、講義の要点をノートに取る。ノートの提出を求めることがある。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、建築設備士、消防設備士など

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義概要全体の説明 現代空調設備の傾向	現代の空調設備に関する概説、基礎的な住環境設備の知識・理解度の確認	『最新建築設備工学 (改訂版)』の「第3章 空気調和設備」について復習しておくこと。
2	熱源機器	高効率、モジュール型等、最新熱源機器について (事例を交えて)	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。
3	空調機	空気調和機二次側設備について (事例を交えて)、最近の多種多様な直膨パッケージエアコンの紹介	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。
4	配管の全体システム	主要空調機器に付帯するポンプと配管、全体システムについて (事例を交えて)	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。
5	ダクトの全体システム、換気設備	ダクトと送風機について (事例を交えて)、換気設備の重要性について (事例や失敗談を交えて)	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。
6	産業用空調	産業用空調の概説、加湿と除湿についての応用、クリーンルームの概説・事例	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。
7	給水設備	給水設備における実務上の注意点や工夫について	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。
8	給水・給湯設備	給水・給湯設備における実務上の注意点や工夫について	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。
9	排水・通気設備①	排水・通気設備における実務上の注意点や工夫について	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。
10	排水・通気設備②	排水・通気設備における実務上の注意点や工夫について	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。
11	消火設備	消火設備における実務上の注意点や工夫について	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。
12	エネルギーの基礎	エネルギー資源と電力、ガス等の供給、エネルギーと環境問題	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。
13	実験集合住宅NEXT21①	現地見学、NEXT21の概要、住まいとライフスタイル	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。
14	実験集合住宅NEXT21②	住棟～個別 エネルギーシステムの変遷	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。
15	エネルギーの面的供給 まとめテスト	システム、マネジメント	これまでのノートを整理してよく復習しておくこと。

関連科目	住環境工学 A、住環境工学 B、住環境設備 A
------	-------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業中に適宜紹介する		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新建築設備工学 (改訂版)	田中俊六監修	井上書院
2			
3			

評価方法 (基準)	毎回の小演習 30% 大レポート 70%を総合的に評価する
学生へのメッセージ	積極的な質問など、前向きな取組みを期待する
担当者の研究室等	12号館7階 森山研究室・竹村研究室
備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする

科目名	住環境材料学	科目名(英文)	Housing Materials
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	難波 尚

授業概要・目的	建築には、天然材料から人工材料まで、多岐にわたるな種類の材料が用いられます。本講義では、建築材料の種類や性質について理解するとともに、各材料の性能と建築の機能との関係性を理解することを目的とします。
到達目標	建築を設計・施工・運用する際に必要となる、適切な材料選択のための基礎を修得する他、必要性能を発揮するための要件を理解することを目標としています。 学科の学習・教育目標との対応：住空間を対象とする環境技術と構造技術 [D]
授業方法と留意点	教科書に沿った内容のスライドを用いた講義形式を行います。
科目学習の効果(資格)	1級建築士, 2級建築士の指定科目(建築材料2単位)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	構造材料 鉄鋼材料①	鋼の製法と基本的性質	教科書による予習復習
3	構造材料 鉄鋼材料②	鋼材の機械的性質	教科書による予習復習
4	構造材料 鉄鋼材料③	鋼材の種類・規格	教科書による予習復習
5	構造材料 鉄鋼材料④	鋼材の接合	教科書による予習復習
6	構造材料 コンクリート①	コンクリートの基礎知識	教科書による予習復習
7	構造材料 コンクリート②	フレッシュコンクリートの性質	教科書による予習復習
8	構造材料 コンクリート③	硬化コンクリートの性質	教科書による予習復習
9	構造材料 コンクリート④	耐久性, 試験方法	教科書による予習復習
10	木材および木質材料①	木材の特性	教科書による予習復習
11	木材および木質材料②	木材および木質材料の機械的性質	教科書による予習復習
12	木材および木質材料③	木材の劣化とその防止	教科書による予習復習
13	非構造材料 屋根・防水材	プラスチック, アスファルト, 塗装, 接着剤, シーリング材	教科書による予習復習
14	非構造材料 屋根・防水材	一般的な断熱材料, 断熱工法, 防火材料, 耐火性能	教科書による予習復習
15	非構造材料 内・外装材料	タイル類, ALCパネル, PCパネル, 工法要求性能, 左官材料, ボード類, 床材	教科書による予習復習

関連科目	建築構造学・構法に関する科目一般
------	------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築材料を学ぶ ―その選択から施工まで―	谷川恭雄他	理工図書 ISBN978-4-8846-0740-3
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験(筆記) 60%、レポート 40%で総合評価する。
学生へのメッセージ	日常生活において、建築の存在は極めて当然のものですが、これらは長い間の経験から得た知識・知恵の集大成と言えます。ぜひ日常においても建築を学ぶものとして意識と関心を持つよう心がけて下さい。
担当者の研究室等	神戸大学工学研究科建築学専攻 難波研究室 メールアドレス:naba@kobe-u.ac.jp
備考	講義に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする

科目名	構造デザイン論	科目名(英文)	Structural Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	白鳥 武

授業概要・目的	目的は建築構造の役割を理解し、建築構造デザインについての基礎知識・能力と実践的な応用力を取得することである。将来、建築設計、構造設計、設備設計、現場技術者、ハウスメーカー、建築材料の分野など、活躍の場は幅広いが、どの分野に進むにしても、基本となる知識が含まれているので、それらを習得する。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：住空間を対象とする環境技術と構造技術（専門コア群環境デザイン系の知識）[D] 建築構造デザインの源流と本質を理解する。広さ、長さ、高さを克服するための構造デザインの基礎を理解する。
授業方法と留意点	授業は教科書、スライド（PPT）、板書を使い講義形式で行う。 一部担当教員開発の実験教材を利用して講義の内容確認を行う。
科目学習の効果（資格）	一級建築士、二級建築士、木造建築士

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第一章 構造システムの歩み ガイダンス	建築・橋・塔の構造と構造システム、古典的・近代的構造材料の歩み	事前：該当部分を読むこと。 1-1, 1-2
2	鉄の歴史	古典的材料の鉄～近代的構造材料の鉄鋼	事前：該当部分を読むこと。 1-3
3	コンクリートの歴史	古典的～近代的構造材料のコンクリートの変遷	事前：該当部分を読むこと。 1-4
4	構造システム前史	広さ、長さ、高さへの挑戦	事前：該当部分を読むこと。 1-5
5	第2章 構造システムのタイプ（その1）	抵抗系別の構造システムその1	事前：該当部分を読むこと。 2-1～2-3
6	構造システムのタイプ（その2）	抵抗系別の構造システムその2	事前：該当部分を読むこと。 2-4～2-6
7	第3章 「広さ」を可能にする 構造デザイン	大スパン建築の変遷	事前：該当部分を読むこと。 3-1
8	大スパン建築の種類と構造システム（その1）	トラス、スペースフレーム、アーチ、ドーム	事前：該当部分を読むこと。 3-2-1～3-2-3
9	大スパン建築の種類と構造システム（その2）	シェル、テンション構造と膜構造、ハイブリッド、その他	事前：該当部分を読むこと。 3-2-4～3-2-6
10	大スパン建築の設計	大スパン建築の実例紹介	事前：該当部分を読むこと。 3-3
11	第4章 「長さ」を可能にする 構造デザイン	橋の変遷	事前：該当部分を読むこと。 4-1
12	橋の種類と構造システム	橋の形式と適用スパン、橋の構成と主要な部位、石橋～斜張橋等	事前：該当部分を読むこと。 4-2
13	橋の設計 3次元プリンターの世界	橋の設計事例紹介 3次元プリンターが施工現場に導入最新例を考えて行く	事前：該当部分を読むこと。 4-3
14	第5章 「高さ」を可能にする 構造デザイン	塔の変遷、塔の種類と構造システム、塔の設計	事前：該当部分を読むこと。 5-1～5-3
15	高層ビルと超高層ビル	高層ビルの変遷、高層ビルの種類と構造システム、実例	事前：該当部分を読むこと。 5-4～5-6

関連科目 構造力学入門、構造力学Ⅰ、Ⅱ、建築一般構造学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	[広さ][長さ][高さ]の構造デザイン	坪井善昭、等編著	株式会社建築技術
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築構造のしくみ 第二版 力の流れとかたち	川口 衛 他	彰国社
2	図説テキスト 建築構造 一構造システムを理解する 第二版	建築構造システム研究会編	彰国社
3	Structures. Seventh Edition	Daniel L. Schodek, Martin Bechthold	Pearson Education, Inc.

評価方法（基準）	授業内課題（グループまたは個人） 20% ミニ課題又はミニレポート 50% 最終課題 30% 計100%※ ※各課題の評価配分は進捗状況、内容変更などに伴う複雑度等により変動します。
学生へのメッセージ	構造デザインは本来楽しいものです。建築の可能性を広げてくれる重要な学びです。計算ではなく、様々な構造システムの原理と特性を創造豊かに考えてみましょう。
担当者の研究室等	12号館7階 白鳥教員室
備考	必ず教科書を読み、課題に1時間以上費やすこと。積み重ねが重要です。 講義に係る予復習は、毎回30分間程度を目安とする

科目名	色彩デザイン論	科目名(英文)	Introduction to Color Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	岩田 三千子

授業概要・目的	色は人々に様々な影響を与え、生活を豊かにすることから、良いデザインのための重要な要件である。講義では色の物理的な性質、色が見える仕組み、色と心理、色と文化など、色についての基礎的な知識を学ぶとともに、生活の場面で色を生かしたデザインの実例を学ぶ。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：住空間を対象とする環境技術と構造技術（専門コア群環境デザイン系の知識）[D] 建築計画や環境計画における色彩デザインに関する基礎的な知識を修得し、身の回りの色彩環境についての関心を深めてデザインへの応用につなぐことを目標とする。
授業方法と留意点	授業中に小テストなどを行って理解度を確かめながら進めていく。毎回の演習課題の提出を怠らないこと。
科目学習の効果(資格)	カラーコーディネーター、色彩検定、商業施設士、インテリアコーディネーター、一級建築士、二級建築士

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 色を見る眼のしくみ	色が見えるということ	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	2	色を伝える方法	慣用色名と系統色名	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	3	色と心理 1	色の連想と象徴	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	4	色と心理 2	視認性と誘目性	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	5	色と心理 3	色がもたらす心理的効果	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	6	色の表示 1	色の三属性とマンセル表色系	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	7	色の表示 2	色の三属性とトーンの関係	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	8	色の表示 3	三原色による表示と混色	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	9	光と色 1	白色光と虹	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	10	光と色 2	様々な光源	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	11	配色と色彩調和 1	色彩調和の考え方	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	12	配色と色彩調和 2	主な色彩調和理論	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	13	色彩環境デザイン 1	サイン表示の役割	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	14	色彩環境デザイン 2	色彩イメージと空間デザイン	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	15	まとめ	これまでの講義のまとめ	これまでの授業内容を復習しておくこと

関連科目	インテリアデザイン論、住環境工学B、環境工学演習、環境計画演習
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	カラーコーディネーター検定試験2級公式テキスト	東京商工会議所編	中央経済社
	2	カラーコーディネーター検定試験3級公式テキスト	東京商工会議所編	中央経済社
	3			

評価方法(基準)	平常点(課題を含む)40%、まとめの試験60%の割合で、総合的に評価する
学生へのメッセージ	日常から、いろいろなものの「色」について関心を持って接してください
担当者の研究室等	12号館 7階 岩田教授室
備考	効果的に色を用いることで環境の質が向上し、省エネルギーにも役立つことについても学んでほしい 講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする

科目名	ランドスケープデザイン論	科目名(英文)	Landscape Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 葉二

授業概要・目的	人間と自然・建築・環境との関係を計画するためのランドスケープデザイン技術と思想の習得。
到達目標	教育目標との対応：住宅・建築物・地域環境を計画するための技術の修得 (D)
授業方法と留意点	教科書及び配布プリントを利用し、授業進行に合わせ適宜理解度のチェックを行っていく。授業方法はプロジェクター、板書、を利用するが、教科書、適宜渡すA3版教材資料(当日の講義内容メモ)、配布済プリントは必ず持参すること。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ランドスケープをデザインする	ランドスケープとは何かを学び、世界の庭園様式の構成手法を知ることから、今日拡大していくランドスケープデザインの可能性がどこにあるかを学ぶ。	「建築概論」第1、2、5節を自習し、通読しておくこと
	2	近代ランドスケープの夜明け-1 地と図の反転	ゲシュタルト心理学の都市への応用を理解することから建築「図」とオープンスペース「地」の反転による新しい外部空間の発見から近代アーバンランドスケープデザインの発展過程を学ぶ。	「建築概論」第3節を予習 配布資料を通読しておくこと
	3	近代ランドスケープの夜明け-2 地と図の境界消去へ	オルムステッド設計の米国セントラルパーク事例から、手法としての「地」と「図」の境界消去による都市と繋がる公園の設計事例を学ぶ。	「建築概論」第3節を予習 配布資料を通読しておくこと
	4	理想都市の風景：「庭」から「都市」へ	先進工業国英国の19世紀末の都市環境悪化対策として理想的な都市を建設しようという試みが生まれた。ハワードの田園都市論・ラドバーン住宅など、都市における「公共」空間概念の発生の歴史を知る。	配布資料を通読しておくこと
	5	理想都市の風景：「都市」から「庭」へ	公共空間における個人的空間価値の再発見。ミースのシーグラム・ビルの問題点から「公」と「私」の二項対立克服のため、ペイリー・パークなど「庭の発想」に基づく公共広場の世界的展開を知る。	「建築概論」第3、6節を予習 配布資料を通読しておくこと
	6	ランドスケープにおける抽象の開花	セザンヌやキュビズムの抽象表現から大きな影響を受けたランドスケープは形態の抽象から外部空間における「空間」の発見へ進む。近代ランドスケープを築いた米国の三大作家の作品を空間構造から読み取る。	「建築概論」第4節を予習 配布資料を通読しておくこと
	7	モダンランドスケープの展開 空間<スペース>から場所<プレイス>へ	形態としての「空間」から現象として「場所」造りに転換することによって、土地や自然への問いかけを誘発する設計プロセスに発展することを知る。	「建築概論」第4節を予習 配布資料を通読しておくこと
	8	都市空間への挑戦 情報メッセージをかたちに	人・モノ・景観の動きの情報メッセージ、自然の動きの情報メッセージ、文字からの情報メッセージを空間に表現したハルプリン、ケビン・リンチ、クールハウス、チュミなどの作品と思想を知る。	「建築概論」第8節を予習 配布資料を通読しておくこと
	9	速度のデザイン	移動速度の感覚がランドスケープデザインに表現され、景観構造マップによる高速道路計画が生まれる一方で、ニコレットモールなどの人間の歩行速度回帰からのニューヨーク街並み景観活性化が進行するプロセスと作品を知る。	配布資料を通読しておくこと
	10	エコロジーのデザイン	エコロジー(生態系)のプランニングからデザインへの応用過程を知る。	「建築概論」第7節を予習 配布資料を通読しておくこと
	11	エコロジーの美学	生態的様相表現を生かしたデザインの美学と設計思想を知る。	「建築概論」第7節を予習 配布資料を通読しておくこと
	12	記憶のデザイン 追憶から体験する空間へ	ベトナム・メモリアル、9.11メモリアルが表象するものは何かを学び、「追憶」から「体験」へ、という記憶のデザインのありかを学ぶ。	配布資料を通読しておくこと
	13	大地のデザイン 語らぬ大地に語らせよ	アース・ワークによるデザインの魅力を知り、イサムノグチやエミリオ・アンバース等の建築と大地の融合デザイン事例からその思想と手法を学ぶ。	「建築概論」第7節を予習 配布資料を通読しておくこと
	14	ランドスケープデザインのためのドローイング基礎	建築とは異なるランドスケープ設計基礎のドローイング実施演習。	配布資料を通読しておくこと 0.5mm~0.8mm以上の鉛筆及び色鉛筆用意
	15	新たなランドスケープデザイン表現に向けて	設計の手がかりを見つけるためには、リアリティのあるアイデアや設計視点の確かな情報を手に入れなければならない。それを4つのキーワードと10の手法によって設計した事例を紹介する。	「建築概論」第9節を予習 配布資料を通読しておくこと
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「建築概論・第5章」	佐々木葉二	学芸出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「ランドスケープの近代」	佐々木葉二	鹿島出版会
	2	「テキスト・ランドスケープ・デザインの歴史」	佐々木葉二	学芸出版社
	3			
評価方法 (基準)	期末試験は実施しない。デザイン感性の習得は集中力。このため、適宜講義後半に小レポート(100%)で習得の理解度をチェックし評価します。			
学生への メッセージ	「建築概論」におけるランドスケープの歴史に加え、世界各国のランドスケープ・デザイナーの紹介を通じ、実践的なデザイン論の本質を探る講義です。毎回事前に渡す教材資料を熟読してください。 デザイナーとしての資質を高めるため、中間に設計製図におけるフリーハンド・ランドスケープ図面の描き方とフリーハンド・ランドスケープ・ドローイングの演習を行います。			
担当者の 研究室等	12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室			
備考	予習復習は配布資料、教科書について約1時間30分間程度をこれに当てること。			

科目名	構造力学 I	科目名 (英文)	Structural Mechanics I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北守 顕久

授業概要・目的	この授業では、建築の構造設計の基礎となる構造力学を初めて学ぶ学生を対象に、建築物にかかる力の基本的な考え方（釣り合い、モーメント、反力）と表現を学び、さらに静定構造部材（梁、ラーメン、トラス）に生じる反力と断面力について、基礎的な知識の講義を行う。
到達目標	構造的に安全な建物を設計するためには、建物に加わる応力計算の手法を学ぶ必要がある。構造力学 I では構造体に外力が作用した時の各部材に生じる力の大きさと性質を把握することが第 1 義である。様々な演習問題を解くことによって、これをイメージで理解できるようになる事が目標である。 構造力学は、建築士の資格を取得するために必須の科目であり、よって、この授業では構造力学の基礎がためとなるものである。 学科の学習・教育目標との対応：(D)
授業方法と留意点	配布プリント、PPT、板書を用いて講義する。また、原則として、毎回小演習と即日レポートがある。原則として三角定規を持参すること。配布プリント、返却する即日レポート等はファイルしておくこと。
科目学習の効果（資格）	一級建築士、二級建築士、木造建築士

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	講義の進め方・学習の意義について説明する。続いて、構造力学を学ぶ上での基礎知識を説明する。	教科書を一通り目を通しておくこと。配布資料の復習と演習課題の見直し。
	2	力の性質	力の表現、力のつり合い・合成と分解	配布資料の復習と演習課題の見直し。
	3	構造物の表現	構造物とは何か。様々な支持条件、架構形態。モデル化方法。全体のつり合い	配布資料の復習と演習課題の見直し。
	4	静定梁の応力（1）	単純梁、キャンティレバー、はねだし梁の応力の説明と演習	配布資料の復習と演習課題の見直し。
	5	静定梁の応力（2）	単純梁、キャンティレバー、はねだし梁の応力の説明と演習	配布資料の復習と演習課題の見直し。
	6	静定梁の応力（3）	単純梁、キャンティレバー、はねだし梁の応力の説明と演習	配布資料の復習と演習課題の見直し。
	7	静定ラーメンの応力（1）	さまざまな静定ラーメンの応力図を描く説明と演習	配布資料の復習と演習課題の見直し。
	8	中間試験	第 1 回～第 7 回から出題	第 1 回～第 7 回の内容を良く復習しておくこと。
	9	静定ラーメンの応力（2）	さまざまな静定ラーメンの応力図を描く説明と演習	配布資料の復習と演習課題の見直し。
	10	静定ラーメンの応力（3）	さまざまな静定ラーメンの応力図を描く説明と演習	配布資料の復習と演習課題の見直し。
	11	静定トラスの応力（1）	トラスの算式解法	配布資料の復習と演習課題の見直し。
	12	静定トラスの応力（2）	トラスの算式解法	配布資料の復習と演習課題の見直し。
	13	静定トラスの応力（3）	トラスの図式解法	配布資料の復習と演習課題の見直し。
	14	総まとめ（1）	総復習 講義のまとめ	配布資料の復習と演習課題の見直し。
	15	総まとめ（2）	期末テストに向けた演習課題	講義全体の内容を良く復習しておくこと。

関連科目	構造力学、構造力学、建築一般構造学
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（即日レポートと授業態度を重視する） ----- 25% 中間試験 ----- 25% 期末試験 ----- 50%
----------	---

学生へのメッセージ	毎回の授業と演習の積み重ねが大切です。分かりやすい説明を心がけますが、理解しにくい点については必ず質問をして不明な点を後に残さないよう心がけてください。レポート課題は必ず提出すること。 特に、構造力学は実際に手を動かし計算して身につく点が多いです。限られた時間の中で、できるだけ多くの時間を演習課題解答に充てたいと考えていますが、どうしても足りない分がありますので、各自復習することが求められます。
-----------	--

担当者の研究室等	
----------	--

備考	質問用のメールアドレスは講義時にお知らせします。 講義に係る予復習は、毎回 1 時間 30 分間程度を目安とする
----	---

科目名	構造力学Ⅱ	科目名(英文)	Structural Mechanics II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	北守 顕久

授業概要・目的	本講義は構造力学Ⅰで学んだ、構造体に外力が作用した時の各部材に生じる力の大きさと性質を踏まえ、部材の断面強度の検定の手法や、静定・不静定の骨組みの変形について考え方と計算法を学び、応力解析のための基礎的知識を付与する。 構造力学は、建築士の資格を取得するために必須の科目であり、本講義はその基礎がためとなるものである。
到達目標	不静定問題は力のつり合いだけでは解けず、変形を理解する必要がある。若干の数学計算が必要であるが、イメージで考え、解くプロセスを身につけることを目標とする。 学科の学習・教育目標との対応：[D]
授業方法と留意点	配付プリント、PPT、板書を用いて講義する。また、原則として、毎回小演習と即日レポートがある。原則として電卓・三角定規を持参すること。配布プリント、返却する即日レポート等はファイルしておくこと。
科目学習の効果(資格)	一級建築士、二級建築士、木造建築士

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	断面の力学的性質	図心、重心、1次2次モーメント、断面係数等の説明と演習	配布資料の復習と演習課題の見直し。
3	応力度とひずみ度	応力とは何か、断面内の応力とひずみ	配布資料の復習と演習課題の見直し。
4	部材の設計	部材の強度の概念を導入し、これまでの構造力学の知識を応用して簡単な部材の構造設計の例題を解く。	配布資料の復習と演習課題の見直し。
5	梁の変形(1)	静定梁の変形。たわみとたわみ角。モーメントの定理による解法。	配布資料の復習と演習課題の見直し。
6	梁の変形(2)	静定梁の変形。たわみとたわみ角。モーメントの定理による解法。	配布資料の復習と演習課題の見直し。
7	座屈	座屈応力度の求め方、座屈危険度評価	配布資料の復習と演習課題の見直し。
8	中間試験	第1回～第7回から出題	第1回～第7回の内容を良く復習しておくこと。
9	不静定梁(1)	たわみ角法による解法	配布資料の復習と演習課題の見直し。
10	不静定梁(2)	仮想仕事法による解法	配布資料の復習と演習課題の見直し。
11	不静定ラーメン(1)	たわみ角法による解法	配布資料の復習と演習課題の見直し。
12	不静定ラーメン(2)	固定モーメント法による解法	配布資料の復習と演習課題の見直し。
13	不静定ラーメン(3)	様々な例題を解く。	配布資料の復習と演習課題の見直し。
14	総まとめ(1)	総復習 講義のまとめ	配布資料の復習と演習課題の見直し。
15	総まとめ(2)	期末テストに向けた演習課題	講義全体の内容を良く復習しておくこと。

関連科目	建築一般構造、構造力学Ⅰ
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(即日レポートと授業態度を重視する) ----- 25% 中間試験 ----- 25% 期末試験 ----- 50%
----------	---

学生へのメッセージ	毎回の授業と演習の積み重ねが大切です。分かりやすい説明を心がけますが、理解しにくい点については必ず質問をして不明な点を後に残さないよう心がけてください。レポート課題は必ず提出すること。 特に、構造力学は実際に手を動かし計算して身につく点が多いです。限られた時間の中で、できるだけ多くの時間を演習課題解答に充てたいと考えていますが、どうしても足りない分がありますので、各自復習することが求められます。
-----------	--

担当者の研究室等	
----------	--

備考	質問用のメールアドレスは講義時にお知らせします。 講義に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする
----	---

科目名	建築一般構造学	科目名(英文)	Introduction to Architectural Structure Methods
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北本 裕之

授業概要・目的	建築構造・施工の専門的技術の基礎的能力及び実践的な応用力を身に付ける。 1. 建築構造の分類別特性の理解：どのような条件で特定の構造種別を採用すべきかの基本理解。 2. 建築物の躯体構造から仕上げまでの全体構成に関する仕組みの理解 3. 構造の合理性と形態美の各事例を知る 4. 構造の発達史を住環境材料学Ⅰ、Ⅱと共に総体的に考える 以上が授業の概要・目的である。
到達目標	① 木造・鉄骨造手・RC造等各構法の特性への理解をする。 ② 課題を通じて、各構法の基本図面への理解が深まる。 学科の学習・教育目標との対応：住空間を対象とする環境技術と構造技術（専門コア群環境デザイン系の知識）[D]
授業方法と留意点	PPTスライドやビジュアル資料、実際に手を動かして構造体を考える課題等による授業方法。
科目学習の効果(資格)	1級建築士、2級建築士、インテリアデザイナー、施工監理士等の一般的な構造学知識

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第一章前半：建築構造と構法：成り立ち、歴史的発達、様々な分類方法の違い、役割等	建築構造とはそもそも何でしょう。建築構法とは？材料＋形＋工法の関係は？時を経て「材料の特徴・特性」と「材料を組立するための考え方と具体的手法」の相互関係が洗練され、定着してきました。これら一連の関係を理解することで今住んでいる建物から街中の建設中の建物などがより身近に感じられることを第一回目では目標とします。	指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。(必ず予備知識を必要とされる機会に受講中遭遇します。)事後：課題に30分真摯に向き合っており取り組むこと。【課題1】
2	第一章後半：建築構造の基本的な考え方	本講師開発の構造教材を利用して構造の基本的な捉え方を手を使って感覚的に学んでいきます。	指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合っており取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題2】
3	第二章 木構造(1)：木構造の特徴、形式と木材の性質	日本古来の建造物の多くは木構造の発達とともに進化してきました。木の特性、ポテンシャルを活かすための知恵と工夫が盛り込まれた木構造を紐解いていきます。まずは、木材料を代表する樹種の違いを見極められるでしょうか。そしてそれらの構造特性を引き出すためにどのように木を木材に加工してきたのでしょうか。	指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合っており取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題3】
4	第二章 木構造(2)：木構造の特徴、形式その1	規格(JAS等)のほか、軸組木構造(在来木造軸組み構法、木造伝統構法)について解説します。基礎についても考えていきます。	指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合っており取り組むこと。次回の授業始めに提出。【課題4】
5	第二章 木構造(3)：木構造の特徴、形式その2	前回到引き続き木構造の特徴を見ていきます。枠組み壁構造(2x4)、丸太組構造(ログハウス)について説明します。	指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合っており取り組むこと。次回の授業始めに提出。【課題5】
6	第二章 木構造(4)：木構造の特徴、形式その2	前回到引き続きヘビーティンバー(集成材、GLT)構造、木造大スパン構造等について説明します。	指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合っており取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題6】
7	第二章 木構造(5)：階段・開口部・外部および内部仕上げ	主要構造以外の部位、仕上げについて学んでいきます。	指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合っており取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題7】
8	第三章 鉄筋コンクリート構造(1)：構造の特徴と構造形式	まずコンクリートと鉄筋の特性について説明します。コンクリート構造の必要性はなぜ生まれたのか学びながらその活用法を学んでいきます。歴史的な背景、建造物とともに説明します。鉄筋の種類と役割についても説明します。	指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合っており取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題8】
9	第三章 鉄筋コンクリート構造(2)：基礎、主体構造	地盤と基礎の形式について考えていきます。主体構造や配筋について更に詳しく解説します。	指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合っており取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題9】
10	第三章 鉄筋コンクリート構造(3)：主体構造以外の部位・仕上げ	陸屋根の防水工法と外壁仕上げ等について説明します。美しいコンクリートの外壁はどのように施工できるのでしょうか。またコンクリートに防水効果はあるのでしょうか。具体的に見ていきます。	指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合っており取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題10】
11	第四章 鉄・鋼構造(1)：構造の特徴と構造形式	鋳鉄・鍛鉄・鋼とは？炭素量による性質の違い、物理的性質、構造の特徴、構造形式を歴史的な背景、建造物とともに説明します。そして構造材としてどのように鉄や鋼を捉えて現代の建造物に取り	指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合っており取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題11】

			入れるべきかを理解していきます。																	
	12	第四章 鉄・鋼構造(2): 鋼材の接合、骨組み(その1)・仕上	鋼材の特性と鉄骨の接合方法について説明します。また、外部・内部仕上げ、開口部の取り付け方等についても説明します。	指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後:出題課題に30分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題12】																
	13	第四章 鉄・鋼構造(3): 基礎と骨組み(その2)	基礎はどのように考えるべきでしょうか。今まで学んできた構造種別との比較でも考えていきます。また骨組の特徴、構成や部位について更に深く学んでいきます。	指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後:出題課題に30分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題13】																
	14	第四章 鉄・鋼構造(4): その他の構造・構法	軽量鉄骨系プレハブ、鉄骨鉄筋構造、鋼管構造、鉄骨平面および鉄骨立体トラス構造(スペースフレーム)、吊り構造(ケーブル)など。鋼構造の可能性を考えていきます。	指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後:出題課題に30分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに最終課題提出のこと。【最終課題】																
	15	最終課題提出と最終講義:これからの建築構造	これまでの授業のまとめを行いながら、これからの建築構造について考えていきます。	最終課題提出のこと。																
関連科目	構造力学1、構造力学2. 構造デザイン概論等																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	ミニ課題及び最終課題(図面模写・レポート等)100%で評価する。																			
学生へのメッセージ	構造が苦手という学生諸君は多いと思います。教科書の丸覚えでなく、構造的センスが自然と身に付く講義にしたいと考えています。こちらからのお願いはとにかく集中して講義に耳と頭を向けてください。ノートに講義内容を漏れなく書き留める癖をつけてください。そうしている内に見えてくるものがあります。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。ただ、まずは解らない部分は本を変えて(図書館を積極利用)該当部分を読み比べてみてください。																			
担当者の研究室等	12号館7階 白鳥准教授室																			
備考	質問、疑問があればどんどん白鳥講師室を訪ねて投げかけてください。一緒に考えましょう。講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする																			

科目名	住宅生産学	科目名(英文)	Housing Construction Methods
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 文久

授業概要・目的	住宅・建築がどのようにつくられているのかを学習する。具体的には、地盤・基礎工事から躯体工事、外装工事、内装工事といった建設工事の流れや注意すべき項目を分かりやすく解説する。 学科の学習教育到達目標：住空間を対象とする環境技術と構造技術 [D]
到達目標	実際の建設現場で行われている仕事を踏まえた、実践的な知識を習得できる。また、住宅メーカーの歴史的変遷や近年の動向などについても学び、住宅生産に関する幅広い知識を習得できる。
授業方法と留意点	講義中心の授業を行い、講義資料のプリントを配付する。授業時間内に質疑応答時間を設ける。毎回、授業の終わりに小テストを実施する。第13、14回の授業は、住宅メーカーの技術研究所において学外実地授業を行う。
科目学習の効果(資格)	一級建築士 一級建築施工管理技士 技術士

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	住宅構法	住宅を鉄骨系・コンクリート系・木質系別に紹介し、どこが異なるポイントか、なぜ異なるようになったのか等について講義する。	配付プリントによる復習をすること。
3	地盤調査と仮設工事	地盤調査方法および仮設工事について講義する。	配付プリントによる復習をすること。
4	基礎工事	土工事および基礎工事について講義する。	配付プリントによる復習をすること。
5	鉄筋コンクリート工事(1)	鉄筋工事および型枠工事について講義する。	配付プリントによる復習をすること。
6	鉄筋コンクリート工事(2)	コンクリート工事について講義する。	配付プリントによる復習をすること。
7	鉄骨工事(1)	溶接および高力ボルト接合について講義する。	配付プリントによる復習をすること。
8	鉄骨工事(2)	建方工事など、鉄骨現場工事について講義する。	配付プリントによる復習をすること。
9	木工事	木造軸組工法を用いた住宅の木工事について講義する。	配付プリントによる復習をすること。
10	外装工事	外壁や屋根などの外装工事について講義する。	配付プリントによる復習をすること。
11	内装工事	天井や床、壁などの内装工事について講義する。	配付プリントによる復習をすること。
12	左官工事・積算	左官工事および積算について講義する。	配付プリントによる復習をすること。
13	住宅産業の技術変遷	住宅産業の技術変遷について講義する。大和ハウス工業総合技術研究所(奈良県奈良市)において学外実地授業を行う。第14回授業と合わせて同時に実施する。	配付プリントによる復習をすること。
14	技術研究所の見学	大和ハウス工業総合技術研究所(奈良県奈良市)の見学を行う。第13回授業と合わせて同時に実施する。	なし
15	講義のまとめ	講義のまとめを行う。「習得状況確認テスト」を行う。	「習得状況確認テスト」を行うので、前回の授業までの復習をしておくこと。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	毎回授業の終わりに実施する「小テスト」20%、第15回授業で実施する「習得状況確認テスト」80%の割合で総合的に評価を行う。
----------	--

学生へのメッセージ	講義中心の授業ですが、学外での実地授業も行います。(大和ハウス工業総合技術研究所)
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室
----------	--------

備考	講義に係る予復習は、毎回30分から1時間程度を目安とする
----	------------------------------

科目名	住生活学	科目名 (英文)	Housing Lifestyle Theory
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	平田 陽子

授業概要・目的	住居の計画・設計の基盤になる考え方とその主要なポイントについて、文化、社会、歴史の文脈の中で理解する。さらに、住生活と住空間、また住環境との相互の対応関係について、その基本的構造を理解する。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：住環境を対象とする計画技術（専門コア群空間デザイン系の知識）[E] 日本における住宅の成り立ちやその基本的な特徴、住様式について理解をし、今後の住居デザインのあり方を考える力を養う。また、地球環境や住環境保全についての問題意識が高まる中、住宅計画や住宅管理の上でもどのような工夫がなされているかについても理解を深める。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義。原則として、毎時間終了後、簡単なチェックテストを行う。授業7回目に、中間試験を行う予定である。
科目学習の効果（資格）	一級建築士、二級建築士を受験するには、必要な科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業のガイダンス、日本の住まいの変遷（1）	住生活を学ぶ意義、原始時代から中世までの住まい	授業の最後に小テストを行う
	2	日本の住まいの変遷（2）	近世の住まい	授業の最後に小テストを行う
	3	日本の住まいの変遷（3）	近代の住まい	授業の最後に小テストを行う
	4	日本の住まいの変遷（4）	現代の住まい	授業の最後に小テストを行う
	5	快適な室内環境（1）	熱・湿度・光	授業の最後に小テストを行う
	6	快適な室内環境（2）	音・空気・水	授業中に小テストを行う 中間テストに向けて、復習をしておくこと
	7	これまでのまとめと中間テスト	中間テスト	テストの復習を行なっておくこと
	8	住まいと家族生活（1）	「家族」の変化と住まい	授業の最後に小テストを行う
	9	住まいと家族生活（2）	子どもの生活空間	授業の最後に小テストを行う
	10	住まいと家族生活（3）	高齢者の生活空間	授業の最後に小テストを行う
	11	住まいと社会（1）	日本の住宅事情と住環境	授業の最後に小テストを行う
	12	住まいと社会（2）	住まいの居住水準	授業の最後に小テストを行う
	13	住空間の形態と構成（1）	住まいと選択と管理	授業の最後に小テストを行う
	14	住空間の形態と構成（2）	空間の認識と構成	授業の最後に小テストを行う
	15	まとめ	講義のまとめとテスト	これまでの講義内容を復習しておくこと

関連科目	住環境管理学
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	住生活論	松井静子編著	建帛社
	2	住まい方から住空間をデザインする	林知子他	彰国社
	3			

評価方法（基準）	講義中に行う確認テスト20%、中間試験30%、まとめのテスト50%で評価する予定である。
----------	--

学生へのメッセージ	自分の身の回りにある色々な住宅や建物、街並みなどを興味を持って眺めてください。きっと新しい発見があることでしょう。 授業開始後30分以降の入室は欠席とみなしますので、注意してください。
-----------	---

担当者の研究室等	12号館7階 平田教授室
----------	--------------

備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする
----	-------------------------

科目名	住環境管理学	科目名(英文)	Management of Residential Environment
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	平田 陽子

授業概要・目的	住環境の空間スケールに対応させつつ、安全性・快適性・利便性などの観点から、住環境を維持管理するための計画技術、制度や維持管理の実態、またそこから導かれる課題について学ぶ。 住戸とその周りの空間の所有・利用をめぐる権利関係の調整方法や住環境の維持管理を担保するための計画課題、特にマンションや団地の再生を取り上げ、問題解決のための手法や計画技術などについての基礎的知識を習得することを目的とする。 また、技術者としてどのような視点で設計・施工を行えばよいかの技術者倫理についても触れる。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：住環境を対象とする計画技術（専門コア群空間デザイン系の知識）[E] 住戸とその周りの空間の所有・利用をめぐる法制度や維持管理の手法について、またマンションや団地の再生について問題解決のための計画技術などについての基礎的知識を習得する。
授業方法と留意点	プリント資料とパワー・ポイントをを用いた講義とする。 さらに、現存する建物を見学し、空間体験を通じて理解を深める。 授業の8回目に、中間テストを行う予定である。
科目学習の効果(資格)	一級建築士、二級建築士、木造建築士など

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	共有空間を持つ住宅(1)	集合住宅の管理問題とコミュニティ	授業終了時にチェックテストを行う
3	共有空間を持つ住宅(2)	タウンハウスの管理問題とコミュニティ	授業終了時にチェックテストを行う
4	住まいの耐用性とメンテナンス(1)	建物の寿命、メンテナンスの意義、老朽化対策	授業終了時にチェックテストを行う
5	住まいの耐用性とメンテナンス(2)	住宅の長寿化に伴う住宅改善、住まいの管理能力	授業終了時にチェックテストを行う
6	居住地の管理(1)	居住地の構成と種類	授業終了時にチェックテストを行う
7	居住地の管理(2)	地域環境の改善・まちづくりへの参加	授業終了時にチェックテストを行う。中間試験に向けて準備を行う
8	これまでの復習と中間テスト	これまでの講義内容の復習と中間テスト	中間試験の復習を行う
9	環境共生住宅	環境共生住宅の定義と要件、環境に資する意味	授業終了時にチェックテストを行う
10	コレクティブハウス	コレクティブハウスの定義と環境に配慮した暮らし方	授業終了時にチェックテストを行う
11	コーポラティブハウス	コーポラティブハウスの定義と建築計画、環境への配慮	授業終了時にチェックテストを行う
12	公共住宅の維持管理と団地再生事業	大規模団地における事例から再生事業を考える	授業終了時にチェックテストを行う
13	管理を支える法制度とマンパワー(1)	住環境を守る諸制度と管理を支える専門家	授業終了時にチェックテストを行う
14	管理を支える法制度とマンパワー(2)	マンション管理をめぐる行政の取り組み	授業終了時にチェックテストを行う
15	まとめの講義とテスト	授業のまとめと試験	まとめの試験に向けて、よく準備をしておくこと

関連科目 住生活学、マンション管理学

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) チェックテスト20%、中間テスト30%、まとめの試験50%で評価する。

学生へのメッセージ
共用空間を豊かに計画することで、住宅地や建築物の表情が変わります。さまざまな事例紹介をしたいと思いますので、休日などの現地見学に積極的に取り組んでください。
授業開始後30分以降の入室は欠席とみなしますので、注意してください。

担当者の研究室等 12号館7階 平田教授室

備考 講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする

科目名	住居計画学	科目名(英文)	Planning Theory of Dwelling Settlement
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	稲地 秀介

授業概要・目的	住居には様々なタイプがあることを認識し、それぞれの住居タイプの成り立ちを理解して、幅広い視野から住居を見る眼と、社会の変化に対応する今後の住居計画のあり方について考える力を養う。
到達目標	次あげる項目を理解し、基本的な住居の設計計画課題について論述ができるレベルを到達目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> 日本の住居計画の変遷と具体事例 人間工学的視点からの住居計画（バリアフリーなど） 集合住宅および住宅地開発の計画手法 地域特性と住居計画 家族生活と住居タイプ 学科の学習・教育到達目標との対応：住空間を対象とする計画技術[E]
授業方法と留意点	現代日本住居の変遷を概観したうえで、住宅近代化の過程、異なる地域の住居の比較、建築家による住宅、集合住宅などについて具体的事例を題材にして講述し、新しい都市居住に対応する住居のあり方について考究する。特に教科書は指定しないため、参考図書や配布プリントで紹介する書籍は出来るだけ目を通すなど、授業だけではなく周辺からも住居計画に関する基礎的知識を吸収することが必要である。
科目学習の効果(資格)	一級建築士試験、二級建築士、木造建築士の計画出題範囲に含まれる部分がある。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	現代日本住居の系譜	住居のタイプとその変遷	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。
	2	都市住宅にみる住宅近代化の過程Ⅰ	続き間型住宅、中廊下型住宅、居間中心型住宅	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。
	3	都市住宅にみる住宅近代化の過程Ⅱ	LDK型住宅、商品化住宅	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。
	4	現代住居の地域性	気候、文化の違いと住宅	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。
	5	建築家による住宅Ⅰ	住様式と平面構成の提案	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。
	6	建築家による住宅Ⅱ	都市化のなかでの提案	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。
	7	建築家による住宅Ⅲ	構法・空間構成の提案	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。
	8	集合住宅の変遷Ⅰ	近代的集合住宅の起源	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。
	9	集合住宅の変遷Ⅱ	郊外大規模団地	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。
	10	集合住宅の変遷Ⅲ	高層化・高密度化	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。
	11	集合住宅の変遷Ⅳ	多様性への対応	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。
	12	これからの家族と住居	家族生活と住居タイプ	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。
	13	これからの都市居住	住宅供給方式と住宅形式	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。
	14	保存と再生	団地、密集市街地などの再生	授業配布のプリントにある課題を行い、復習すること。
	15	まとめ	講義のまとめとテスト	これまでの講義内容を復習しておくこと

関連科目	住生活学、建築計画学、設計演習Ⅲなど
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業期間内のレポート等20%、テスト80%
----------	-----------------------

学生への メッセージ	住居は誰でも体験している施設であるがゆえに体験による狭い固定観念に縛られやすい。より幅広い視野で住居計画を考えられるように、学習に取り組んでほしい。
担当者の 研究室等	12号館 7階 稲地准教授室
備考	講義に関連したレポート課題を課す。具体的指示は講義中に示す。また、本授業科目に関係の深い学外講師によるレクチャーを行う場合がある。講義に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする。

科目名	建築計画学	科目名(英文)	Architectural Planning
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	本多 友常

授業概要・目的	建築計画の基礎的な知識と応用力の修得を目指し、住宅及び一般建築設計製図演習の進行と講義内容の理解度に歩調を合わせつつ、建築計画・設計技術とともに、デザインの考え方と方法を修得する。
到達目標	教育目標との対応：住環境を対象とする計画技術（専門コア群空間デザイン系の知識）[E] 住宅・建築物を地域環境形成における一貫性において理解し、課題発見から提案に結びつく分析力を深めるため、各種専門用語の学習と、批評力の向上を目指す。 (講義時間内に行なう小テスト計10回{50%}、修得理解度テスト計2回{50%}により採点し、60点以上の得点を修得レベルとする。)
授業方法と留意点	教科書及び配布プリントを利用し、授業進行に合わせ適宜理解度のチェックを行っていく。授業方法はプロジェクター、板書を利用するが、教科書、配布済プリントは必ず持参すること。簡単なスケッチのための鉛筆と消しゴムは常に携行していること。
科目学習の効果(資格)	1級建築士、2級建築士、木造建築士の受験資格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 住環境デザインの考え方	講義の進め方、環境と設計から見るデザインの考え方、本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステムの解説、研究者・技術者倫理の解説、公園の水のみ場のデザインの提案	「建築概論」p1-p28を通読
2	建築計画が担うべき課題	日本における建築生産の概要 企画、計画、設計、施工、維持、管理の総合的生産の視点、地域環境形成の重要性	テキスト配布
3	現代建築の潮流 1	近代建築が試みてきたこと(素材と構法)、平面図の描きかた 組積造、RC、鉄骨のデザインの関係	「建築概論」p29-p48を通読
4	現代建築の潮流 2	建築の寸法、木造、組積造、RC、鉄骨のデザインの特徴	「建築設計学 I」p27-p41を通読
5	木構造の住宅設計とデザイン 1	木造住宅の事例紹介と解説、木造と RC 配置図、平面図、断面図、立面図について A	「建築設計学 I」p27-p41を通読
6	木構造の住宅設計とデザイン 2	木造住宅の事例紹介と解説、木造の知識 I 配置図、平面図、断面図、立面図について B	「建築設計学 I」p42-p74を通読
7	木構造の住宅設計とデザイン 3	木造住宅の事例紹介と解説、木造の知識 II 各種専門用語と部材名	「建築設計学 I」p32-p39を通読
8	建築計画に求められる専門用語の知識と解説	各種専門用語と部材名 仮設住宅コンペ事例解説	「建築設計学 I」p32-p39を通読
9	建築計画に求められる実践的基本寸法の知識	モジュール、建築の各種寸法 木造矩計の作図	「建築設計学 I」p75-p90を通読
10	木造住宅(建築の)の施工手順	施工の手順、一部ビデオ紹介 木造矩計の作図	「建築設計学 I」p115-p117を通読
11	ランドスケープデザインと生活環境	まちに緑を、丘のある家、小さな丘のある家、上富田町地域交流センター、宇治田循環器科内科 緑とまちなみ	「建築設計学 I」p115-p122を通読 「建築概論」p89-p108を通読
12	建築設計の方法論 I	事例紹介 三角屋根のコテージ、梅田コンペ、新日本海フェリー、ガラスブロックコンペ	「建築概論」pp30-48を通読
13	建築設計の方法論 II 詳細図	施工行程と矩計図の関係 木造、RC、鉄骨の違い	「建築設計学 I」p91-p114を通読
14	建築の持続性 1	高野口小学校修理、改修の経緯 虎屋、檜野崎灯台官舎、秋津野ガルテン	「建築設計学 I」p96-p97を通読
15	授業の総括・まちなみを創る	テストと解説 「建築計画学」総括	「建築概論」p9-p28を通読

関連科目 設計演習 I、II、III

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築設計学 I	本多友常編著、阿部浩和、林田大作、平田隆行	学芸出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築概論	本多友常編著、安原盛彦、大氏正嗣、佐々木葉二、柏木浩一	学芸出版社
2			
3			

評価方法(基準) 小テスト50%、修得理解度テスト50%
授業中にレポートを中心とした小テストを適宜行なう。小テスト計10回程度50%、講義時間内に行なう修得理解度テスト計2回50%により採点。日時は事前告知せず、授業テーマの区切りに合わせ授業の一環として実施し解説する。なお期末試験は実施しない。

学生へのメッセージ 成果を設計演習に援用することを意識して学習に取り組んでほしい。

担当者の研究室等 12号館7階 建築計画・設計研究室

備考 授業テーマは修得度に応じ講義順の組替もありうる。
予習復習は配布資料、教科書について約1時間30分程度程度の通読をこれに当てること。

科目名	地域・都市計画学	科目名(英文)	Urban and Regional Planning
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	坂本 淳二

授業概要・目的	日本の都市計画で策定される諸要素(土地利用, 交通施設, 公園緑地, 生活施設), 市街地整備事業について, それぞれ策定する意義と制度の内容について講義する。また, 近隣住区理論, 地区計画といった住環境を計画する上での計画論, 制度を取り上げ解説する。
到達目標	○都市計画の様々な分野の計画の基本的理論・事項を理解する。 ○地域計画を検討する上での姿勢, 必要な要素を理解する。 学科の学習・教育目標との対応: 生活文化・住環境デザインに関連する技術の修得[E]
授業方法と留意点	特定の教科書は指定せず, 毎回の内容に該当する資料を配付。
科目学習の効果(資格)	一級建築士・二級建築士・木造建築士など

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 地域・都市計画とは何か	講義の方針, 概要, スケジュール及び地域・都市計画で検討される諸要素を概説する。	シラバスを読んでおくこと。 配付資料の要点を復習しておくこと。
2	都市計画の系譜	近代都市(住宅地)計画の成立過程について, 英国と日本の事例を通して解説する。	前回配付資料を読んでおくこと。配付資料の要点を復習しておくこと。
3	土地利用計画1 区域区分・用途地域	都市計画における土地利用の意味と都市計画区域, 区域区分, 用途地域について解説する。	前回配付資料を読んでおくこと。配付資料の要点を復習しておくこと。
4	土地利用計画2 土地利用と建築形態規制	建築物の形態規制(主に斜線規制)とその緩和措置について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。
5	近隣住区理論とその展開	住宅地計画において世界中で活用されている「近隣住区理論」と, 英国・日本における展開・批判・応用について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。
6	都市交通計画1 都市における交通とその特性	都市における交通の特性, 都市交通を把握する調査, 公共輸送について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。
7	都市交通計画2 都市内街路計画	都市内街路の機能とネットワーク, 歩車共存道路について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。
8	公園緑地計画1 都市における公園・緑地の機能	都市における公園・緑地の機能と住区基幹公園(街区・近隣公園)について解説する。	前回配付資料を読んでおくこと。配付資料の要点を復習しておくこと。
9	公園緑地計画2 都市公園の配置システム	地区公園, 都市基幹公園及び都市における公園配置の基本的な考え方について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。
10	公共・生活施設の機能と立地	地区住民主体で策定される都市計画である都市計画(住宅地の緑地)「地区計画」の基本内容を解説。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。
11	地区計画制度とその活用	地区住民主体で策定される都市計画である「地区計画」の基本内容とその利用法を解説する。	前回配付資料を読んでおくこと。配付資料の要点を復習しておくこと。
12	市街地整備事業1 土地区画整理事業の仕組み	日本の市街地整備事業の概要と種類, 土地区画整理事業の目的と特性, 事業上の考慮事項を解説する。	前回配付資料を読んでおくこと。配付資料の要点を復習しておくこと。
13	市街地整備事業2 土地区画整理事業の課題 市街地再開発事業	土地区画整理事業の有する課題, 及び市街地再開発の目的, 事業上の特性について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。
14	地域計画の進め方1 都市近郊農村地域の変容	具体的事例として, 都市近郊農村集落の事例を取り上げる。日本の農山漁村の変容, 特に混住化が進む都市近郊農村の問題を解説する。	前回配付資料を読んでおくこと。配付資料の要点を復習しておくこと。
15	地域計画の進め方2 都市近郊集落計画を事例として	都市近郊集落での集落地区整備計画を基に, 地域計画のプロセスと考慮事項について解説する。	前回配付資料を読んでおくこと。配付資料の要点を復習しておくこと。

関連科目 一級建築士などの資格試験に出題される範囲が一部含まれている。授業としては建築計画学や住居計画学や建築法規が関連している。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	都市計画 シリーズ(建築工学)7	荻島哲編著	朝倉書店
2	新・都市計画概論	加藤晃	共立出版社	
3	新建築学大系20 住宅地計画	土肥博至・御船哲	彰国社	

評価方法(基準) 試験(70%), レポート(20%), 講義内的小テスト(10%)で評価する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 12号館6階 坂本教授室

備考

科目名	近代デザイン史	科目名(英文)	History of Modern Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	藤田 治彦

授業概要・目的	「近代デザイン先駆者」とされるウィリアム・モリスの生涯、思想、活動、作品についての概要を講義する。モリスに続いたアーツ&クラフツ運動および同運動に続いた近代デザインについて、最新の資料に基づいて講義する。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：住環境を対象とする計画技術（専門コア群空間デザイン系の知識）[E] 近代デザインの歴史について、教師や友人と語り合えるようになる。現代デザインについての主体的な興味を育む。
授業方法と留意点	関連作品の静止画や動画の資料を活用しつつ、講義形式による授業を行う。参考書を中心に近代デザインに関する本を読み、基礎知識を備えて授業に臨むこと。
科目学習の効果(資格)	近代デザインの歴史を実際の作品や運動を通じて理解し、実践にも役立つ知識と思考力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	ウォルサムストウ、モールバラ、オックスフォード	幼少期、中高生時代、大学生時代のモリスについて概説する。	教科書『ウィリアム・モリス』の関連ページに目を通してしておく。
3	レッド・ハウス	新婚の家、レッド・ハウスについて概説する。	教科書『ウィリアム・モリス』のレッド・ハウスについてのページによる予習と参考書による復習を行う。
4	モリス・マーシャル・フォークナー商会	モリス・マーシャル・フォークナー商会のデザイン史上の意義について考察する。	教科書による予習および参考書による復習を行う。
5	彩飾手稿本と文学者モリス	芸術家・文学者としてのウィリアム・モリスについて論じる。	教科書『ウィリアム・モリス』の文学関係のページによる予習と参考書による復習。
6	ケルムスコットとアイスランド	モリスが理想とした建築、ケルムスコット・マナーとアイスランドについて解説する。	ケルムスコット・マナーについてその概要を調べておく。
7	モリス商会	モリス商会とマートン・アビーの工房について概説する。	教科書『ウィリアム・モリス』のモリス商会関連ページを読んでおく。参考書による復習を行う。
8	古建築物保護協会とアーツ&クラフツ運動	歴史的建造物の保存運動とアーツ&クラフツ運動について論じる。	教科書『ウィリアム・モリス』の古建築物保護協会関連ページによる予習と参考書による復習。
9	ヨーロッパ大陸	アーツ&クラフツ運動のヨーロッパ大陸への影響の概要を、西欧を中心にみる。	教科書『ウィリアム・モリス』の西欧への影響に関するページによる予習と参考書による復習。
10	北欧と東欧	アーツ&クラフツ運動のヨーロッパ大陸への影響の概要を、北欧と中東欧を中心にみる。	教科書『ウィリアム・モリス』の北欧と中東欧への影響に関するページの予習と同書その他の章による復習。
11	アメリカ	アーツ&クラフツ運動のアメリカ大陸への影響について概説する。	アーツ&クラフツ運動の影響を受けた فرانク・ロイド・ライトについて調べておく。
12	イームズ夫妻	アメリカのモダン・デザインを代表するイームズ夫妻のデザイン活動を再検討する。	イームズ夫妻について調査して授業に臨む。
13	ボンビドゥー・センター	ハイテク建築の先駆となったバリのボンビドゥー・センターについて検討する。	ポストモダニズム関係図書による予習。
14	メディアアテック	日本の現代建築について、仙台メディアアテックを例に概説する。	ハイテク（ハイ・テクノロジー）関係図書による予習と教科書『ウィリアム・モリス』による関係づけを行う。
15	21世紀のデザインを考える	20世紀末から21世紀初頭にかけてつくられたいくつかのミュージアムやメディアセンターを比較し、21世紀のデザインについて考える。	本授業全体をどの程度理解できたか、テスト等によって確認する。

関連科目	建築史
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(筆記)の成績(60%)、平常成績(40%)で総合評価する。
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	生活・環境・産業といったさまざまな側面で、デザインは私たちの生活の重要な部分を形づくっている。そのようなデザイン思想と実践の歴史に興味がある学生を歓迎します。
-----------	---

担当者の研究室等	12号館 6階 住環境デザイン学科共通準備室
----------	------------------------

備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする
----	-------------------------

科目名	日本建築史	科目名(英文)	Japanese Architectural History
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	谷 直樹

授業概要・目的	現在及び将来の住文化を考えるためには、その背景にある建築と都市の歴史に対する理解が不可欠です。この講義では、わが国における建築の歴史的展開、都市の形成と住環境の変遷について解説し、それらの基礎的知識の取得と包括的な理解を目指します。建築や都市に対する歴史的理解は、住宅を含む建築一般、都市の設計・施工のあらゆる段階で必要となります。それは、ゆるぎない規範を提示する場合もあれば、新たな可能性を示唆する場合があります。講義の内容は、設計関連授業はもちろん、広範な領域の授業の基礎的知識としても重要です。 学科の学習・教育目標との対応：[E]
到達目標	グローバル化が進行する現代社会にあつては、外国の建物に精通しているだけでなく、むしろ日本建築の特徴や歴史を踏まえて、世界の人々とコミュニケーションができる建築家が求められます。社会に出るとたいへん多忙になるので、学生時代の今、しかも京都、奈良、大阪、兵庫、滋賀など、日本の国宝、世界遺産が集中している摂南大学の地の利を生かして、ぜひとも教科書に載っている有名な建築をその目で確かめて下さい。 学科の学習・教育到達目標との対応：住環境を対象とする計画技術（専門コア群空間デザイン系の知識）[E]
授業方法と留意点	講義は、指定教科書と補足資料を配布し、パワーポイントやビデオなどを使って視覚的な把握を目指します。さらに、現存する建物や町並みを見学し、実物の空間体験を通じて理解を深めます。現地見学の交通費や入館料は受講者の負担になります。
科目学習の効果(資格)	1級建築士・2級建築士の資格取得試験の基礎問題に出題される。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	古代の建築 1	堅穴住居と高床住居。伊勢神宮と出雲大社。	神社に行つて、本殿の建物を見学してください。流造（ながれづくり）や春日造（かすがづくり）などの神社建築の様式を確認しましょう。
2	古代の建築 2	仏教建築の伝来。法隆寺。伽藍配置。塔と金堂。	寺院に行つて、本堂や塔を見学してください。塔には五重塔や三重塔があることを確認しましょう。
3	古代の建築 3	寝殿造としつらい。京都御所と冷泉家住宅。	京都御所の一般無料公開に見学に行つてみましょう。
4	古代の都市	古代の都城。平城京と平安京。	平城宮跡に行つてみましょう。復元された大極殿や朱雀門を見学してください。
5	中世の建築 1	大仏様と禅宗様。和様と折衷様。	東大寺に行つて、南大門や大仏殿を見学してください。
6	中世の建築 2	書院造の成立。金閣と銀閣。	鹿苑寺金閣、慈照寺銀閣を見学してください。
7	中世の都市	京の町と町家。洛中洛外図。京町家の現代。	京都の町中を歩いてみましょう。祇園祭の宵山（7月15日・16日）に出かけて、京の町家で行われている屏風祭を見るのがお勧めです。
8	近世の建築 1	城と書院。安土城と大坂城。二条城の変遷。	大坂城に行つてみましょう。大坂城の巨大な石垣、櫓や門を見学してください。
9	近世の建築 2	茶室と数寄屋。桂離宮の建築と庭園。	京都の禅寺に行つて、建物と庭園の係係を見学してください。
10	近世の建築 3	民家。風土と民家のデザイン。民家の地方性。	旅行した時に、その地方の民家を見学してください。
11	近世の都市	江戸と大坂。城下町と町割。庶民の暮らし。大阪くらしの今昔館（大阪市立住まいのミュージアム）に展示されている江戸時代の町並み展示を見学します。	関西の町並み保存地区を見学してください（奈良今井町、大阪富田林、京都三年坂など）。
12	近代の建築	近代建築の導入と展開。西洋館と擬洋風建築。住居と建築の明治・大正・昭和。	神戸に行つて、北野地区の西洋館を見学しましょう。大阪中之島にある近代建築（図書館、公会堂、日本銀行大阪支店など）を見学しましょう。
13	建築と現代 1	文化財の保存と世界遺産	関西の世界遺産（法隆寺周辺、京都の寺院、奈良の寺院、和歌山の高野山・熊野街道、姫路城）を訪れてみましょう。
14	建築と現代 2	現地見学（第14回と第15回の講義は、土曜日ないしは日曜日に半日を使った現地見学です。日程と行く先は講義の中で決めます）	見学先のプリント解説を予習してください。
15	建築と現代 3	現地見学（同上）	見学先のプリント解説を予習してください。

関連科目 近代デザイン史

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験(筆記)の成績(100%)で評価します。

学生へのメッセージ 日本建築史は講義で取り上げられた建物は、休日や旅行の時に、できるだけ現地で実物を見学するようにしてください。

担当者の研究室等 12号館 6階 住環境デザイン学科共通準備室

備考 講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする

科目名	西洋建築史	科目名(英文)	History of European Architecture
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 正子

授業概要・目的	歴史的な作品にはさまざまな解釈の余地があるため、建築家は過去の作品を研究するのである。本科目では、近代の巨匠と呼ばれるル・コルビュジエをはじめ多くの建築家が、歴史から学び、知識と創意によって歴史を解釈し自分自身のデザインに生かしていく手法を、古代から近代に到るまでのさまざまな西洋建築の様式に見ていくとともに、時代・社会の産物である建築物に表れる様式への理解と過去の時代を読み解いていくことで建築の本質に触れる。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：生活文化・住環境デザインに関連する技術の修得[E] 建築において歴史は過去のものではなく生きた存在であることを認識するとともに建築設計においても歴史を学ぶことがいかに重要であるかを知る。現代建築も過去の作品の多角的な解釈の上に展開していることを学び、建築史が建築家にとってより身近な存在であることを再確認すること。
授業方法と留意点	近現代建築に生きている歴史建築をテーマに、各回、近・現代建築と歴史様式との関係を見ていく。西洋建築史という歴史の流れを通して建築を理解するため、欠席によって歴史の流れを中断することのないよう可能な限り出席することが望まれる。
科目学習の効果(資格)	建築史を学んだからといって、目に見える効果が即現れることはないが、歴史的解釈がデザインのヒントやアイデアに繋がる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	建築の歴史を学ぶということ	毎回、特段の事前・事後学習は必要としない。
	2	古代-1	古代エジプト建築	特段の事前・事後学習は必要としない。
	3	古代-2	古代ギリシア建築	特段の事前・事後学習は必要としない。
	4	古代-3	古代ローマ建築	特段の事前・事後学習は必要としない。
	5	中世-1	プレ・ロマネスク建築	特段の事前・事後学習は必要としない。
	6	中世-2	ロマネスク建築	特段の事前・事後学習は必要としない。
	7	中世-3	ゴシック建築	特段の事前・事後学習は必要としない。
	8	近世-1	ルネサンス建築-1	特段の事前・事後学習は必要としない。
	9	近世-2	ルネサンス建築-2	特段の事前・事後学習は必要としない。
	10	近世-3	バロック建築	特段の事前・事後学習は必要としない。
	11	近世-4	新古典主義建築	特段の事前・事後学習は必要としない。
	12	近世-5	歴史主義・折衷主義	特段の事前・事後学習は必要としない。
	13	近代-1	近代のはじまり	特段の事前・事後学習は必要としない。
	14	近代-2	日本における西洋建築の受容	特段の事前・事後学習は必要としない。
	15	まとめ	様式とは？	特段の事前・事後学習は必要としない。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	レポート課題(80%)及び受講姿勢(20%)を考慮して評価する。
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	現代建築も過去の作品の多角的な解釈の上に展開しているからこそ歴史を学ぶ意義がある。建築設計においても歴史を学ぶことがいかに重要であるかを知ること。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤のため研究室はなし。
----------	---------------

備考	講義に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする
----	-----------------------------

科目名	インテリアデザイン論	科目名(英文)	Theory of Interior Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	川上 比奈子

授業概要・目的	インテリアと建築を切り離して考えるのではなく、住環境の中で、身体に近い建築空間としてインテリアを捉える。多様で複雑な現代の諸問題を解決し、生活をより豊かにするためには、どのような空間デザインがありうるかを提案するための基礎知識を獲得することを目標とする。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：生活文化・住環境デザインに関連する技術の修得 (E)
授業方法と留意点	毎回、スライドおよび動画を用いて、講義する。また①本学における ISO14001 規格に適合した環境マネージメントシステム、②不正行為防止対策としての技術者倫理についてインテリアデザイン論に関連する内容の解説を行う。
科目学習の効果(資格)	インテリアコーディネーター 2級建築士 1級建築士 福祉住環境コーディネーター 商業施設士

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	インテリアデザイン論の概要	さまざまな空間体験と記録(スケッチ、メモ、実測)
2	インテリアエレメントについて	インテリアエレメントの概要	さまざまな空間体験と記録(スケッチ、メモ、実測)
3	インテリアエレメント 床・壁・天井	インテリアエレメント 床・壁・天井について、プリント、映像によって講義	さまざまな空間体験と記録(スケッチ、メモ、実測)
4	インテリアエレメント 開口部・巾木・回り縁・階段	インテリアエレメント 開口部・巾木・回り縁・階段について、プリント、映像によって講義	さまざまな空間体験と記録(スケッチ、メモ、実測)
5	インテリアエレメント 家具	インテリアエレメント 家具について、プリント、映像によって講義	さまざまな家具に座ることと記録(スケッチ、メモ、実測)
6	インテリアエレメント 照明	インテリアエレメント 照明について、プリント、映像によって講義	さまざまな照明空間を体験することと記録(スケッチ、メモ、実測)
7	現代のインテリア・建築デザイン 海外のデザイナー	海外のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ)
8	現代のインテリア・建築デザイン 日本のデザイナー	日本のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ、実測)
9	近代のインテリア・建築デザイン 海外のデザイナー 西欧	近代のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ)
10	近代のインテリア・建築デザイン 海外のデザイナー 北欧	近代のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ)
11	近代のインテリア・建築デザイン 日本のデザイナー	近代のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ)
12	インテリア計画とデザインのプロセス	インテリア計画とデザインのプロセスについて、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ)
13	インテリア計画と工法のプロセス	インテリア計画と工法のプロセスについて、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ)
14	インテリア・建築デザインと表現方法	インテリア・建築デザインと表現方法について、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ)
15	まとめ	これまでの講義のまとめ	授業内容をよく復習しておくこと

関連科目 インテリアデザイン演習 設計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 近代デザイン史 建築空間論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 授業内の講義メモなど提出物 30% 試験 70%

学生へのメッセージ インテリアデザインに関する基礎知識を獲得する最良の方法は、実際の空間デザインを体験しておくことです。日頃から、商業施設、公共施設、住宅など、自発的にさまざまな空間の体験を心がけてください。

担当者の研究室等 12号館7階 川上教授室

備考 展覧会やインテリアデザインの実物を見学することがある
インテリアデザイン、空間デザイン業界から専門家を招くことがある
講義に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする

科目名	建築空間論	科目名(英文)	Theory of Architectural Space
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	本多 友常

授業概要・目的	住環境の形成が深く生活文化に根ざしたものであり、建築設計がランドスケープデザインからインテリアデザインにいたる総合的な創作活動であることを理解する。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：住環境を対象とする計画技術（専門コア群空間デザイン系の知識）[E] 建築入門講座として、多岐にわたる専門用語を修得しつつ、住環境デザインに関連する分析と解説能力を身につける。（小テスト計10回 {50%}、講義時間内に行なう修得理解度テスト計2回 {50%}）により採点し、60点以上の得点を修得レベルとする。）
授業方法と留意点	教科書及び配布プリントを利用し、授業進行に合わせ適宜理解度のチェックを行っていく。授業方法はプロジェクター、板書を利用するが、教科書、配布済プリントは必ず持参すること。簡単なスケッチのための鉛筆と消しゴムは常に携帯していること。
科目学習の効果(資格)	1級建築士、2級建築士、木造建築士の受験資格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 自然発生的建築から学ぶもの 生活環境形成としての建築的思考	講義の進め方、環境と設計から見るデザインの考え方、本学における ISO14001規格に適合した環境マネジメントシステムの解説、研究者・技術者倫理の解説、公園の水のみ場のデザインの提案	「建築概論」 p1-p8 を通読
2	自然発生的建築の多様性 生活文化が生み出す住環境 デザインⅠ	精神世界の投影、風土と住形式の不確定性、シンボルの多義性、防御と結束の表明、風と対話する家型、他	「建築概論」 p1-p28 を通読
3	自然発生的建築の多義性 生活文化が生み出す住環境 デザインⅡ	集落の歴史的持続性、集住の特異性、形式の持続性、地中の家の原初的形態倉に貯蔵される記憶	「建築概論」 p1-p28 を通読
4	住環境を支えている構造の 解説	重力・水平力・空間・緊張 一部ビデオ紹介	「建築概論」 p69-p88 を通読
5	日本の歴史的な木造建築空間 概説	時間軸から見た素材、構法とデザインの 広がり	「建築概論」 p49-p68 を通読
6	ランドスケープデザインの 感性と世界	住まいをまちに開く作法(デザインのキー ワードは公共性)	「建築概論」 p89-p108 を通読
7	農山漁村住宅概観	雑賀崎集落、大島集落、高野山集落、す さみ	「建築概論」 p1-p28 を通読
8	ビルディングタイプと複合 化 (街のにぎわい) 商業の建築	商業空間の歴史、店舗業態の変遷、アー ケード街の発達、地域の特徴の再認識に 向けて、まちなみ形成と薬局虎屋の建設	「建築概論」 p69-p88 を通読
9	住居の延長としての福祉医 療の建築Ⅰ	(社会福祉施設的设计事例、福祉環境の 空間デザイン紹介-特別養護老人ホーム 他)	「建築概論」 p69-p88 を通読
10	集合住宅と戸建て住宅	まちづくりの視点から、住まいとまちな みⅡ(まちの空間形成に関わる設計事 例、ふじと台の教訓)	「建築概論」 p109-p125 を通読
11	建築計画・設計の実践的課題 1	住宅設計事例による解説1 敷地 周辺状況の調査と分析	「建築概論」 p109-p125 を通読
12	建築計画・設計の実践的課題 2	住宅設計事例による解説2	「建築概論」 p109-p125 を通読
13	危機管理に向けた建築技術	非構造部材の耐震性能と課題	「建築概論」 p69-p88 を通読
14	建築の持続性 保存改修と コンバージョン	高野口小学校、秋津野ガルテン、虎屋、 檜野崎灯台官舎、他	「建築概論」 p109-p125 を通読
15	授業(まとめ etc.)	テストと解説 「建築空間論」総括	「建築概論」を通読

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>建築概論</td> <td>本多友常編著、安原盛彦、大氏正 嗣、佐々木葉二、柏木浩一</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	建築概論	本多友常編著、安原盛彦、大氏正 嗣、佐々木葉二、柏木浩一	学芸出版社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	建築概論	本多友常編著、安原盛彦、大氏正 嗣、佐々木葉二、柏木浩一	学芸出版社														
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>建築設計学Ⅰ</td> <td>本多友常編著、阿部浩和、林田大 作、平田隆行</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	建築設計学Ⅰ	本多友常編著、阿部浩和、林田大 作、平田隆行	学芸出版社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	建築設計学Ⅰ	本多友常編著、阿部浩和、林田大 作、平田隆行	学芸出版社														
2																	
3																	

評価方法 (基準)	小テスト50%、修得理解度テスト50% 授業中にレポートを中心とした小テストを適宜行なう。小テスト計10回程度50%、講義時間内に行なう修得理解度テスト計2回50%により採点。 日時は事前告知せず、授業テーマの区切りに合わせて授業の一環として実施し解説する。なお期末試験は実施しない。
学生への メッセージ	授業開始後30分以降の入室は欠席とみなす。
担当者の 研究室等	12号館7階 建築計画・設計研究室
備考	授業テーマは修得度に応じ講義順の組替もありうる。 予習復習は配布資料、教科書について、関連図書の検索も含め、約1時間30分間程度の通読をこれにあてること。

科目名	空間表現演習 A	科目名 (英文)	Exercises in Spatial Presentation A
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	榊 愛

授業概要・目的	2次元CAD・3次元CADの基本操作を学習し、建物の図面・パースを作成する演習を行う。コンピュータを用いた空間表現に関する基礎的な技術を修得することを目的とする。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：調査・分析能力、デザイン力、コミュニケーション力（少人数教育群演習系授業による実践力の育成）[F] 自分が思い描く建築空間を、コンピュータを用いて的確に表現できるようになることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業中に課題を与えながら、演習を中心として進める。集中して作業をすれば授業時間内に課題を完成できる。授業の進行に差し支えるため、遅刻、欠席をしないこと。
科目学習の効果（資格）	CAD利用技術者試験、CGエンジニアリング検定など。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前学習	事後学習
1	イントロダクション、3DCADの基礎	授業内容、進め方、評価基準に関する説明、CADの概要、3Dモデリング基本操作	事前学習：CADについて調べる 事後学習：CADが使われている身近な事例について調べる	
2	3DCADを用いた住宅パース作成1	各パーツのモデリング	事前学習：前回の内容を復習する 事後学習：住宅の空間構成を復習し把握する	
3	3DCADを用いた住宅パース作成2	パーツの統合、パースの作成 授業のまとめ	事前学習：各パーツの統合方法を考えておく 事後学習：これまでの内容を復習し、確実に修得する	
4	2DCADの基礎1	2DCADの概要、基本操作、基本設定、基本コマンド（作成）	事前学習：2DCADについて調べる 事後学習：2DCADと3DCADとの違いを理解する	
5	2DCADの基礎2	基本コマンド（修正、文字記入、寸法記入）	事前学習：前回の内容を復習する 事後学習：作成、修正コマンドを中心に復習し、確実に修得する	
6	2DCADの基礎3	基本コマンド（スタイル設定、ハッチング、ラスタ、ブロック、印刷、保存など）	事前学習：前回の内容を復習する 事後学習：これまでの内容を復習し、確実に修得する	
7	CADによる製図基礎1	簡単な立体図形の図面作成	事前学習：図面の表記ルールを復習する 事後学習：身の回りの立体物の平面図、断面図をスケッチする	
8	CADによる製図基礎2	家具の図面作成	事前学習：図面の表記ルールを復習する 事後学習：愛着のある家具の平面図、断面図をスケッチする	
9	CADによる製図基礎3	建物の図面作成	事前学習：図面の表記ルールを復習する 事後学習：自宅の平面図、断面図をスケッチする	
10	CADによる図面模写1	住宅建築 模写する住宅建築の説明、平面図の模写	事前学習：平面図の書き方を復習する 事後学習：図面をよく見て空間構成を把握する	
11	CADによる図面模写2	住宅建築 断面図や立面図の模写	事前学習：断面図の書き方を復習する 事後学習：図面をよく見て空間構成を把握する	
12	CADによる図面模写3	住宅建築 プレゼンテーション基礎（レイアウトや画像の配置）	事前学習：これまでの内容を復習する 事後学習：図面の表記ルール、CADの基本操作を復習し、修得する	
13	CADによる設計課題1	カフェ 躯体部分の平面図、断面図模写	事前学習：カフェのタイトル、コンセプトを決めて、下書き図面を完成させる 事後学習：身の回りにおける家具の大きさを測り、寸法を確認する	
14	CADによる設計課題2	カフェ 設計部分の平面図、断面図作成	事前学習：平面図、断面図の表記ルールを復習する 事後学習：平面図、断面図を完成させる	
15	CADによる設計課題3	カフェ プレゼンテーション	事前学習：コンセプトを表現するプレゼンテーション方法を考える 事後学習：プレゼンテーション図面を完成させる	

関連科目	図形科学、空間表現演習B、設計演習など。
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題・小テスト（80%）、演習態度（20%）を総合的に評価する。
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	より良い作品ができるよう、向上心を持って集中して取り組んでください。
-----------	------------------------------------

担当者の研究室等	12号館 7階 榊准教授室 12号館 6階 住環境デザイン学科共通準備室
----------	---

備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする
----	-------------------------

科目名	空間表現演習 B	科目名 (英文)	Exercises in Spatial Presentation B
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	榊 愛

授業概要・目的	コンピュータグラフィクス (CG)、画像処理ソフト、ドローイングソフト、GIS (地理情報システム) など、さまざまなソフトを用いて空間表現に関する演習を行う。 コンピュータを用いた空間表現の高度な技術を修得することを目的とする。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：調査・分析能力、デザイン力、コミュニケーション力 (少人数教育群演習系授業による実践力の育成) [F] 都市、建築、インテリアなどの空間を、コンピュータを用いて的確に、効果的に表現できるようになることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業中に課題を与えながら、演習を中心として進める。集中して作業をすれば授業時間内に課題を完成できる。授業の進行に差し支えるため、遅刻、欠席をしないこと。
科目学習の効果 (資格)	空間表現に関わる高度な技術を身につけられる

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス プレゼンテーション 1	授業内容、進め方、評価基準に関する説明 テーマに関連するレクチャー、基本操作	事前学習：Photoshop, Illustrator について、どう いうソフトか調べておく。 事後学習：基本操作を復習してみる。
2	プレゼンテーション 2	レイアウトに関する基本操作、画像処理 に関する基本操作?	事前学習：前回授業内容の操作を身に付けておく 事後学習：授業で習った操作の意味を理解してお く。各自手持ちの画像を授業と同様に処理してみ る。?
3	プレゼンテーション 3	画像の合成、ダイアグラムの作成	事前学習：合成された画像やダイアグラムの事例を 調べておく。 事後学習：各自設計課題の画像や内容について、合 成やダイアグラムを作成してみる。
4	プレゼンテーション 4	習得した操作による各自素材を用いた 演習	事前学習：各自設計課題などの素材を用意してお く。 事後学習：設計演習などでも応用できるよう、操作 を身に付ける。
5	GIS による空間表現 1	テーマに関するレクチャー、GIS の基本 操作、地図データの読み込み、属性情報 の入力、主題図を用いた属性情報の可視 化	事前学習：GIS について調べる 事後学習：GIS の技術が使われている身近な事例を 調べる
6	GIS による空間表現 2	空間解析の基礎、印刷	事前学習：前回の内容を復習し、操作を身につけて おく 事後学習：住環境デザインの分野において GIS を使 った研究事例について調べる
7	写真合成による建築シミュ レーション 1	テーマに関連するレクチャー、透視図に 関する復習、フォトリアリスティックな 3DCG レンダリングに関する解説と演習	事前学習：透視投影について復習しておく、3D-CG 技術について調べる 事後学習：消点法による透視投影図法を復習する。 フォトリアリスティックな 3D-CG が使われている身 近な例を調べる。
8	写真合成による建築シミュ レーション 2	フォトリアリスティックな 3DCG レンダ リングに関する解説と演習	事前学習：前回学習したソフトウェアの操作方法を 習得しておく 事後学習：フォトリアリスティックな 3D-CG のレン ダリング設定について復習する
9	写真合成による建築シミュ レーション 3	写真照合 (3D モデルと写真の合成) に 関する解説と演習	事前学習：前回学習したソフトウェアの操作方法を 習得しておく 事後学習：写真照合に必要な理論と設定について復 習する
10	写真合成による建築シミュ レーション 4	画像処理 (フォトレタッチ) に関する解 説	事前学習：写真にみられる透視投影について調べる 事後学習：課題の仕上げを行う
11	CG による照明器具デザイン 1	イントロダクション、CG の基礎、PovRay の基礎、視点位置と画角の透視図への影 響の確認、基本オブジェクトの記述方 法、色と明るさ、繰り返しによるオブ ジェクトの配置方法	事前学習：CG について調べる 事後学習：PovRay の基本操作を復習する。事後学 習：色と明るさを記述する方法を復習する。
12	CG による照明器具デザイン 2	ライトの色、拡散透過の表現、曲面の幾 何学的分類、逆二乗法則と余弦法則、折 り紙による行灯作り	事前学習：基本的な立体を記述する方法を復習する 事後学習：繰り返し処理の構文を復習する
13	CG による照明器具デザイン 3	幾何学的形状のランブシェード(過去の 提出作品のチェックとレポート、サン プルを用いたツール操作方法の習得)	事前学習：曲面で構成された照明器具を調べる 事後学習：ライトの色、拡散透過の表現を復習する
14	CG による照明器具デザイン 4	幾何学的形状のランブシェード(デザイ ンと製作)	事前学習：作成する照明器具のデザインを考える 事後学習：課題を完成させる
15	GIS による空間表現 3	空間解析の基礎、オリジナルマップの作 成、印刷	事前学習：前回の内容を復習し、操作を身につけて おく 事後学習：住環境デザインの分野において GIS を使 った研究事例について調べる

関連科目	図形科学、空間表現演習 A、設計演習など。
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図解 建築プレゼンのグラフィックデザイン	坂牛卓, 平瀬有人, 中野豪雄	鹿島出版会
	2	建築とインテリアのための Photoshop+Illustrator テクニック	長嶋 竜一	エクスナレッジ
	3			
評価方法 (基準)	課題 (80%)、演習態度 (20%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	より良い作品ができるよう、向上心を持って取り組んでください。			
担当者の 研究室等	12号館 7階 紳准教授室 12号館 6階 住環境デザイン学科共通準備室			
備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする			

科目名	造形演習	科目名(英文)	Exercises in Formative Art and Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	北野 正治

授業概要・目的	平面と立体の3つの基礎課題を通して、ものづくりに進むための基礎的な造形力・表現力を養うことを目的とする。平面基礎：鉛筆デッサンによる表現課題を通して基礎的な観察力、立体把握力、表現力を養う。立体基礎：加工の容易な素材を使った立体構造物の製作課題を通して基礎的な工作力、発想力、立体構成力、表現力を養う。最後に作品を展示し、講評会を行う。
到達目標	ものづくりに進むための基礎的な造形力・表現力として次の事項を獲得することを到達目標とする。 ・平面基礎：対象の観察する方法や概念を知る。立体把握の方法や概念を知る。これらの情報を的確に表現する方法を体験をととして知る。 ・立体基礎：立体構成とそれが与える意味や役割の関係性について知る。グループワークデザインの体験を通して、デザイン作業におけるコミュニケーションの重要性を体験をととして知る。 学科の学習・教育到達目標との対応：演習系授業による実践力の育成[F]
授業方法と留意点	屋内外において個人製作課題とグループ製作課題に取り組む。課題の製作必要時間には個人差があり、必ずしも授業時間内に収まらない場合がある。不足分は授業外での自主的作業によって各自が補うこととする。クロッキー帳や鉛筆などの画材、カッターなどの工具は各自が授業内容および課題の進み具合から判断して、持参することとする。
科目学習の効果(資格)	空間設計・プロダクト設計をする上で必要となる基礎的なデザイン能力を養える。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	デッサン1：観察と描写	生花などをモチーフとして、デッサンの最も重要な要素である「観察」と「描写」について学ぶ	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
3	デッサン2：基礎形体	レンガ(直方体)とコップ(円柱)など比較的簡単な形の物をモチーフとして、物の形を捉え方・描き方について学ぶ	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
4	デッサン3：空間表現	複数の物で構成したモチーフを描くことを通して、手前と奥など空間的な関係の描き方について学ぶ。このテーマは2週連続で1つの課題を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
5	デッサン4：空間表現	複数の物で構成したモチーフを描くことを通して、手前と奥など空間的な関係の描き方について学ぶ。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
6	風から生まれる形1	環境と応答する造形課題として、風を受けて形を変化させたり、動いたりするオブジェであるモビールの制作を行う。このテーマは4週連続で1つの課題制作を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
7	風から生まれる形2	環境と応答する造形課題として、風を受けて形を変化させたり、動いたりするオブジェであるモビールの制作を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
8	風から生まれる形3	環境と応答する造形課題として、風を受けて形を変化させたり、動いたりするオブジェであるモビールの制作を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
9	風から生まれる形4	環境と応答する造形課題として、風を受けて形を変化させたり、動いたりするオブジェであるモビールの制作を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
10	光から生まれる形1	環境と応答する造形課題として、光源を様々な形の素材で覆い、光と影に豊かな表情を与えるシェードの制作を行う。このテーマは4週連続で1つの課題制作を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
11	光から生まれる形2	環境と応答する造形課題として、光源を様々な形の素材で覆い、光と影に豊かな表情を与えるシェードの制作を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
12	光から生まれる形3	環境と応答する造形課題として、光源を様々な形の素材で覆い、光と影に豊かな表情を与えるシェードの制作を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
13	光から生まれる形4	環境と応答する造形課題として、光源を様々な形の素材で覆い、光と影に豊かな表情を与えるシェードの制作を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
14	講評会展示準備	講評会の為の展示準備を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
15	講評会	作品の講評を行う。	事前にプレゼンテーション資料などを準備すること。

関連科目 インテリアデザイン演習、設計演習、プロダクトデザイン演習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	製作過程における評価 50%、完成作品評価 50%			
学生への メッセージ	ものづくりに進むための基礎的な造形力・表現力を養うという意味で大変重要な演習と考えます。積極的な姿勢で演習に臨んで下さい。			
担当者の 研究室等	演習日以外での授業に関する問合せは、12号館 7階稲地准教授室まで			
備考	演習を受講するためには、ガイダンス時に配布する資料にある画材を事前に用意する必要があります。 演習に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする			

科目名	基礎設計演習	科目名(英文)	Exercises in Basic Architectural Planning and Drawing
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	平田 陽子

授業概要・目的	様々な課題を通して住環境デザインの基礎的な考え方、図面表現、立体表現の基礎技術を習得する。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：調査・分析能力、デザイン力、コミュニケーション力（少人数教育群演習系授業による実践力の育成）[F] 建築分野の専門家として仕事をこなしていく上での基本となる設計の基礎技術を身につける。
授業方法と留意点	製図室における演習、全体の講義、グループごとの説明、個人に対するアドバイスが適宜、行われます。授業時には必要な製図用具、画材を必ず準備して臨んでください。提出日時は時間厳守です。作業の進行状況によって授業終了後も引き続き各自で課題に取り組んでもらうことがあります。
科目学習の効果(資格)	設計製図の基礎を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	スケッチ・パース II	建築図面をもとに透視図を描く。	授業終了後も作業を続けることがある。
3	スケッチ・パース III	スケッチパースの製作、提出及び講評	提出時間を守るように前もって作業スケジュールを考えておく。
4	線の練習・文字のレタリング	建築図面における線の描き方とレタリングの描き方の練習	配布された図面をよく見ておくこと。
5	木造住宅図面の模写 I	木造住宅模写の描き方の説明、練習	提出時間を守るように前もって作業スケジュールを考えておく。配布された図面をよく見ておくこと。
6	木造住宅図面の模写 II	平面、断面、立面図の模写	授業終了後も作業を続けることがある。
7	木造住宅図面の模写 III	平面図の模写。(題材を3つとしそれぞれグループに分かれて作業)	授業終了後も作業を続けることがある。
8	木造住宅図面の模写 IV	断面・立面図の模写	授業終了後も作業を続けることがある。
9	木造住宅図面の模写 V	配置図の模写、	授業終了後も作業を続けることがある。
10	木造住宅図面の模写 VI	全体のブラッシュアップ。製作物の提出、講評。	提出時間を守るように前もって作業スケジュールを考えておく。配布された図面をよく見ておくこと。
11	木造住宅の模型製作 I	図面模写した住宅の模型を製作。対象作品の写真紹介。模型の作り方についての説明。	授業終了後も作業を続けることがある。
12	木造住宅の模型製作 II	模型製作	授業終了後も作業を続けることがある。
13	木造住宅の模型製作 III	同上	授業終了後も作業を続けることがある。
14	木造住宅の模型製作 IV	同上	授業終了後も作業を続けることがある。
15	木造住宅の模型製作 V	木造住宅模型の製作、提出、講評	提出日時の厳守

関連科目	造形演習、建築計画学、図形科学、基礎設計演習、設計演習 I、設計演習 III、空間表現演習 I、空間表現演習 II、プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン演習など
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	提出物を中心に(90%)、毎回の受講態度、質問への応答など(10%)を加味して評価する。ただし、無断欠席が4回以上ある場合には、成績評価しない。
学生へのメッセージ	住環境の設計を学ぶスタートです。基本ルール等をしっかりと学び、以後の設計演習の表現に応用できるように心がけてください。授業が始まる前に、製図用具や資料などを準備して、すぐに作業にかかれるようにして、授業に臨んでください。
担当者の研究室等	12号館 7階 平田教授室、坂本教授室 12号館 5階 住環境デザイン学科準備室2
備考	製図用具が必要ですので、指定された用具を購入すること。 演習に係る授業時間外練習は、毎回1時間程度を目安とする。

科目名	設計演習Ⅰ	科目名(英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	川上 比奈子

授業概要・目的	基礎設計演習に続いて図面による建築表現を学ぶ。次いで、個人の空間、展示空間といった小規模でシンプルな空間の設計課題に取り組む。家具、展示物などから設計の手がかりをつかみ、空間をつくっていく方法を習得する。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：調査・分析能力、デザイン力、コミュニケーション力（少人数教育群演習系授業による実践力の育成）[F]
授業方法と留意点	少人数ごとに教員の指導を受け、図面、模型などをおして提案する。課題に関連する講義および図面、模型などを制作する実習。毎回のエスキースチェックを重視する。授業時間の延長がありうる。とくに講評会では設計の主旨、内容を分かりやすく説明できるように留意してほしい。
科目学習の効果(資格)	一級建築士試験を受験するには必要不可欠な科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス及び詳細図模写の課題説明	設計演習Ⅰの目標、授業の進め方などについて説明する。 模写の対象建築物について説明する。	配布された図面をよく見ておくこと
	2	詳細図および軸組模型の理解と製図法、模型作成法の修得	詳細図の模写および軸組模型の制作	授業終了後も作業を続けることがある。
	3	同上	同上	同上
	4	同上	同上	同上
	5	同上	同上	提出時間を守るように前もって作業スケジュールを考えておく。
	6	住宅の設計	課題説明	課題に関連する資料の収集
	7	同上	エスキース	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと
	8	同上	同上	同上
	9	同上	同上	同上
	10	同上	中間提出とグループごとの講評	要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと
	11	同上	エスキース	中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと
	12	同上	同上	同上
	13	同上	同上	同上
	14	同上	作品提出	作品提出日時の厳守
	15	同上	講評会	作品について説明できるように準備しておくこと

関連科目	建築計画学、図形科学、基礎設計演習、設計演習Ⅱ、設計演習Ⅲ、空間表現演習Ⅰ、空間表現演習Ⅱ、プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン演習など
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	提出物 60%、日常の実習進行度 40%
----------	----------------------

学生へのメッセージ	毎回のエスキース、スケッチブックのチェックを実施し、授業はじめと終わりに押印する。 [スケッチブック名：CROQUIS white maruman ssl 表紙色ページ]を必ず購入しておくこと。 講評会は外来講師を交えたフォーマルなものです。その意識で臨んでください。
-----------	--

担当者の研究室等	12号館 7階 川上教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、竹村講師室 12号館 6階 住環境デザイン学科共通準備室
----------	--

備考	学外で調査、見学を行うことがある。 演習に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする
----	--

科目名	設計演習Ⅱ	科目名(英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	稲地 秀介

授業概要・目的	比較的公共性の高い性格の小規模施設の計画・設計の課題を通して、敷地分析力(地域特性の調査理解)、施設計画力(想定される使われ方、機能と空間構成)や空間設計力(空間創造、表現)を養うことを目的とする。
到達目標	比較的公共性の高い性格の小規模施設の計画・設計に必要な基礎的事項①敷地分析、②施設計画、③空間設計手法を理解し、これに基づいた設計計画案を作成し、簡単なプレゼンテーションによって伝えることができる。 学科の学習・教育到達目標との対応：分析能力、デザイン力、コミュニケーション力[F]
授業方法と留意点	課題に基づき、皆さんが毎回エスキースを行った結果に対して教員がコメントする形で演習が進みます。エスキース案の制作改善作業や製図作業や模型制作作業を行わないと評価することが出来ませんので、必ず事前作業してから演習に出席して下さい。事前作業が余りにも不完全な場合には履修停止する場合があります。また、他大学(京都府立大学、奈良女子大学)との合同講習会開催をよいてしている。優秀作品については学外発表の機会が与えられる。
科目学習の効果(資格)	一級建築士試験を受験するには必要不可欠な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	第一課題(集会施設の設計)	敷地調査および情報整理、施設機能の理解や事例収集	クロッキー帳などに敷地情報などを整理し、施設機能の理解や事例収集を行い、複数の計画案を検討する。
3	同上	エスキースチェック	事例収集を行い、複数の計画案を検討する。
4	同上	エスキースチェック	事例収集を行い、複数の計画案を検討する。中間提出に向けてプレゼンテーション資料を作成する。
5	同上	中間提出とグループごとの講評	講評を受けて、案の改善を検討するとともに、提出に向けて図面、模型の作成を行うこと。
6	同上	エスキースチェック	図面、模型の作成を行うこと。
7	同上	エスキースチェック	図面、模型の作成を行うこと。
8	講習会および第二課題(共同住宅の設計)の説明	作品提出、及び講評	作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと。次の課題に関連する資料の収集、敷地見学すること。
9	第二課題(共同住宅の設計)	敷地調査結果の整理、施設機能の理解や事例収集	クロッキー帳などに敷地情報などを整理し、施設機能の理解や事例収集を行い、複数の計画案を検討する。
10	同上	エスキースチェック	事例収集を行い、複数の計画案を検討する。
11	同上	エスキースチェック	事例収集を行い、複数の計画案を検討する。中間提出に向けてプレゼンテーション資料を作成する。
12	同上	中間提出とグループごとの講評	講評を受けて、案の改善を検討するとともに、提出に向けて図面、模型の作成を行うこと。
13	同上	エスキースチェック	図面、模型の作成を行うこと。
14	同上	エスキースチェック	図面、模型の作成を行うこと。
15	講習会	作品提出、及び講評	作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと。

関連科目	建築計画学、図形科学、基礎設計演習、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅲ、空間表現演習Ⅰ、空間表現演習Ⅱ、プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン演習など
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	各回授業での作業内容についての評価 20%、成果物評価 80%
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	日々の積み重ね以外に建築設計能力が向上するすべはありません。天からアイデアが降ってきたり、朝起きたら図面が出来ていたりすることはないのです。突拍子もないことや、奇抜な形の空間をつくるのが設計ではありません。「使いやすい」、「多くの人に愛され」、「何十年も使い続けられる」ような建築をつくるのが真の建築設計だと思います。そのような建築を設計するためには、あなたは日々なにをすべきか?を考えてみてください。
-----------	---

担当者の研究室等	12号館 7階 本多教授室、森山教授室、稲地准教授室、榊准教授室 12号館 6階 住環境デザイン学科共通準備室
----------	--

備考	各課題の講習会には外部講師を招き、講評して頂く予定です。 演習に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする
----	---

科目名	設計演習Ⅲ	科目名(英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing III
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	本多 友常

授業概要・目的	学校などの地域施設的设计課題に取り組む。地域環境やコミュニティに視野をひろげ、企画のための調査、計画の組み立て作業を課題に取り入れて、構想力、計画力を養う。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：調査・分析能力、デザイン力、コミュニケーション力（少人数教育群演習系授業による実践力の育成）[F]
授業方法と留意点	少人数ごとに教員の指導を受け、グループの共同作業も行いながら、案をつくりまとめていく。毎回のエスキースチェックを重視する。授業時間の延長がありうる。とくに講評会では設計の主旨、内容を分かりやすく説明できるように留意してほしい。
科目学習の効果(資格)	1級建築士、2級建築士、木造建築士の受験資格 1級建築士試験を受験するには必要不可欠な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	密集市街地における集住体の設計	所要室と面積などの計画案作成、及びこれに関するグループディスカッション	根拠も含めて計画案について説明できるようにしておくこと
3	同上	エスキース	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと
4	同上	同上	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと
5	同上	中間提出とグループ講評	要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと
6	同上	エスキース	中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと
7	同上	作品提出	作品提出日時の厳守
8	同上 後半課題、大都市におけるコミュニティスクールの設計	講評会 後半設計課題の説明	作品について説明できるように準備しておくこと 滝箒課題に関連する資料の収集、現地調査指示
9	同上	調査結果の報告とグループディスカッション	敷地見学などの結果を発表できるように準備しておくこと
10	同上	エスキース	要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと
11	同上	同上	同上
12	同上	同上	同上
13	同上	中間提出とグループ講評	要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと
14	同上	エスキース	中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと
15	同上	作品提出及び講評	作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと

関連科目	建築計画学、図形科学、基礎設計演習、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、空間表現演習Ⅰ、空間表現演習Ⅱ、プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン演習など
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	提出物 60%、日常の実習深耕度 40%
----------	----------------------

学生へのメッセージ	毎回のエスキース、スケッチブックのチェックを実施し、授業はじめと終わりに押印する。 {スケッチブック名：CROQUIS white maruman ssl 表紙色ページ}を必ず購入しておくこと。 講評会は外来講師を交えたフォーマルなものです。その意識で臨むこと。
-----------	---

担当者の研究室等	12号館7階 本多教授室、岩田教授室、平田教授室、川上教授室、榑准教授室、白鳥准教授室 12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室
----------	--

備考	ふたつの課題ごとに広い視野からの批評を受けるべく、学外講師の参加による講評会を予定している。
----	--

科目名	設計演習Ⅳ	科目名(英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing IV
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	本多 友常

授業概要・目的	Exercises in Architectural Planning and Drawing IV 規模の比較的大きい公共施設の計画設計を通して、基礎設計演習から設計演習Ⅲまでに学習した敷地分析手法、施設計画・提案手法、空間設計力手法などの基礎的技術や知識の定着と「計画全体をまとめる力」および「プレゼンテーション力」を養うことを目的とする。
到達目標	規模の比較的大きい公共施設の計画設計に必要な、「敷地分析力」、「施設計画・提案力」、「空間設計力」などの基礎的技術や知識を理解・修得し、これにもとづいた設計計画案を作成し、プレゼンテーションによって他者に伝えることができる。 学科の学習・教育目標との対応：調査・分析能力、デザイン力、コミュニケーション力（少人数教育群演習系授業による実践力の育成）[F]
授業方法と留意点	課題にもとづく事前学習（エスキース・図面制作、模型製作など）結果に対して教員が指導する。事前学習が余りにも不完全な場合には履修停止にする場合がある。成果物の講評時（2回程度）に設計実務に携る学外講師を招く。また、必要に応じて学外施設見学（2回程度・授業日外）実施を予定している。
科目学習の効果（資格）	一級建築士、二級建築士、木造建築士、インテリアコーディネーター、インテリアプランナー

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	〃	エスキースチェック	参考事例収集を行い、複数の計画案を検討すること。
3	〃	エスキースチェック	複数の計画案を検討およびプレゼンテーション資料を制作すること。
4	〃	エスキースチェック	複数の計画案を検討およびプレゼンテーション資料を制作すること。
5	〃	中間提出と個人講評	講評の結果を受けて、計画案の改善を検討。図面・模型を制作すること。
6	〃	エスキースチェック	図面・模型を制作すること。
7	〃	エスキースチェック	図面・模型の制作およびプレゼンテーション資料を作成すること。
8	講評会および第2課題（公共施設2）の説明	外部講師を招いた講評会	プレゼンテーションの練習を十分行っておくこと。講評者コメントなど改善すべき点を整理すること。
9	第2課題（公共施設2）	敷地調査および施設機能の学習や事例収集の仕方を学習および計画課題の抽出	クロッキー帖などに敷地情報などを整理する。複数の計画案を参考事例として施設機能の理解や表現方法などを学習すること。
10	〃	エスキースチェック	参考事例収集を行い、複数の計画案を検討すること。
11	〃	エスキースチェック	複数の計画案の検討、およびプレゼンテーション資料を制作すること。
12	〃	中間提出と個人講評	講評の結果を受けて、計画案の改善を検討。図面・模型を制作すること。
13	〃	エスキースチェック	図面・模型を制作すること。
14	〃	エスキースチェック	図面・模型の制作およびプレゼンテーション資料を作成すること。
15	講評会	外部講師を招いた講評会	プレゼンテーションの練習を十分行っておくこと。講評者コメントなど改善すべき点を整理すること。

関連科目 建築計画学、図形科学、基礎設計演習、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、設計演習Ⅲ、空間表現演習A、空間表現演習B

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会 編	丸善
2	テキスト建築計画	川崎寧史、山田あすか 他	学芸出版社
3	テキスト建築意匠	平尾和洋、末包伸吾 他	学芸出版社

評価方法（基準） 各回授業での作業内容についての評価20%、成果物評価80%

学生へのメッセージ 日々の積み重ね以外に建築設計能力が向上するすべはありません。天からアイデアが降ってきたり、朝起きたら図面が出ていたりすることはないのです。突拍子もないことや、奇抜な形の空間をつくるのが設計ではありません。「使いやすく」、「多くの人に愛され」、「何十年も使い続けられる」ような建築をつくるのが真の建築設計だと思います。そのような建築を設計するためには、あなたは日々なにをすべきか？を考えてみてください。

担当者の研究室等 12号館7階 本多教授室、川上教授室、稲地准教授室

備考 本演習の目的に沿った学生参加可能な建築設計競技がある場合には、上記課題を変更し競技への参加が必要になる場合がある。演習に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする。
課題内容により、敷地周辺調査のための学外視察を実施場合がある。

科目名	インテリアデザイン演習	科目名(英文)	Exercises in Planning and Drawing of Interior Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	川上 比奈子

授業概要・目的	住環境の中で、身体に近い建築空間としてインテリアを捉え、多様で複雑な現代の諸問題を解決し、生活をより豊かにするためには、どのようなデザインがありうるか、その可能性を模索し、具体的に提案できるようになることを目標とする。内部だけを考えるのではなく、外部空間が内部に与える影響、また、逆に内部空間が外部に与える影響を念頭に設計課題に取り組む。企画のための調査、計画の組み立て、模型・CGのプレゼンテーション作業を課題に取り入れて、構想力、計画力、表現力を養う。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：調査・分析能力、デザイン力、コミュニケーション力(少人数教育群演習系授業による実践力の育成) [F]
授業方法と留意点	少人数ごとに教員の指導を受け、グループの共同作業も行いながら、案をつくりまとめていく。毎週のエスキースチェック、および演習時間中の自発的作業を重視する。とくに講評会では、設計の趣旨、内容を図面、模型、言葉によって、わかりやすく説明できるように留意してほしい。学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における IS014001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。
科目学習の効果(資格)	一級建築士 インテリアプランナー インテリアコーディネーター 福祉住環境コーディネーター 商業施設士

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス及び設計課題：商店街の再生と商業空間デザインの説明	インテリアデザイン演習の目標、授業の進め方の説明。 設計課題：住空間のインテリアデザインの課題説明。	課題に関連する資料の収集 特に商業空間と商店街の資料収集
2	住空間のインテリアデザイン	住空間のインテリアデザイン計画案作成、及びこれに関するグループディスカッション エスキース作業	根拠も含めて計画案について説明できるようにしておくこと 作業をスムーズに進める準備をしておくこと
3	同上	エスキースチェック	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと
4	同上	住空間のインテリアデザイン計画案 エスキース作業	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと
5	同上	エスキースチェック	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと
6	同上	エスキース作業	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと
7	同上	エスキースチェック	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと
8	公開講評会	提出・展示し、外来講師から客観的な講評を受ける	作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと。展示作業はインテリアデザイン演習にとって、実務に最も近い体験。積極的にインテリアコーディネーター、展示レイアウトを実践すること。
9	商業空間のインテリアデザイン	課題について説明	商業空間のインテリアデザインに関する資料収集
10	同上	エスキース作業	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと
11	同上	エスキースチェック	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと
12	同上	中間提出とグループ講評	要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと
13	同上	エスキースチェック	中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと
14	同上	模型、図面の完成に向けてプレゼンテーション作業	中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと
15	公開講評会	作品提出及び講評、展示 提出・展示し、外来講師から客観的な講評を受ける	作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと。展示作業はインテリアデザイン演習にとって、実務に最も近い体験。積極的にインテリアコーディネーター、展示レイアウトを実践すること。

関連科目 図形科学、空間表現演習Ⅰ、Ⅱ、基礎設計演習 設計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン論など

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 提出物 60%、日常の実習進行度 40%

学生へのメッセージ 毎回のエスキース、スケッチブックのチェックを実施し、授業はじめと終わりに押印する。
[スケッチブック名：CROQUIS white maruman ssl 表紙色ページ]を必ず購入しておくこと。
講評会は外来講師を交えたフォーマルなものです。その意識で臨んでください。

担当者の研究室等 12号館7階 川上教授室
12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室

備考 展覧会やインテリアデザインの実物を学外で見学することがある。
演習に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする

科目名	プロダクトデザイン演習	科目名(英文)	Exercises in Product Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	稲地 秀介

授業概要・目的	<p>この演習はヒューマンスケールのプロダクトを製作するなど、デザイン志向の学生を対象とするプログラムである。これまで個別に学習した様々な基礎的なデザインに関する知識を具体的な実践課題を通して総合化することを目的としている。プロダクト製作を通して、材料の特性を活かした機能や造形、加工法などプロダクトデザインにおける基礎的なデザイン能力を獲得する。</p> <p>プログラムは2つからなる。A)木工プログラムとB)商品企画プログラムである。どちらか一方を履修する。ただし、A)木工プログラムは安全確保の観点から受講者数を最大16人に限定している。</p> <p>また、履修登録前に受講希望者数を確認することを目的に事前登録を行う。定員より受講希望者が大幅に多い場合には、抽選により受講者を決定する。</p>
---------	---

到達目標	<p>プロダクトデザインに関する基礎的能力の習得を目標とする。具体的には、①問題発見能力、②問題解決能力(創造力)、③コミュニケーション能力(伝える力)である。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：調査・分析能力、デザイン力、コミュニケーション力[F]</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>プログラムは2つからなる。A)木工プログラムとB)商品企画プログラムである。どちらか一方を履修する。</p> <p>A)木工プログラム 木を材料とした小物制作(設計・加工)から木材の特性を体験を通して理解するとともに基礎的な設計・製図を学ぶ。次に、簡単な椅子などの自分達の身体寸法にあった木工家具の製作を行う。定員は16人とする。製作材料などの費用がかかる。安全指示に従い、正しい服装や態度などを保つことが求められる。指示に従わない場合は、安全確保のため受講中止することがある。</p> <p>B)商品開発プログラム 演習はレクチャーと実習からなっている。商品開発からデザインまでを担当する模擬開発者として、そのプロセスを学ぶ。具体的には、①情報収集・分析手法から、課題を見つける。②ブレインストーミングなどでアイデア出しをしてアイデアシートにまとめる。③商品化決定したアイデアを、デザインする。④デザインしたものを、利用者にわかりやすく伝える。これらは連続した実習として行うため、欠席することは演習を進める上で大きな障害となるので注意すること。演習の内容は受講者の作業進行状況に合わせて適宜変更する。また、演習作業に必要な材料は各自授業進行に合わせて購入準備すること。</p>
----------	--

科目学習の効果(資格)	インテリアプランナー、インテリアコーディネーター資格および本学科の空間デザインに関係する科目。
-------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	A) ガイダンス B) ガイダンス・レクチャー(商品開発の現場)	A) 目的、演習概要説明 B) 目的、演習概要説明および商品開発の現場についてその概要をレクチャーする	A) 課題内容を理解し、過去の参考作品から作業工程などを検討、把握しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
2	A) レクチャー B) レクチャー(商品開発の現場)	A) 目的、演習概要説明 B) 商品開発の現場についてその概要をレクチャーする	A) 課題内容を理解し、過去の参考作品から作業工程などを検討、把握しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
3	A) 小作品製図1 B) レクチャー(商品開発の現場)	A) 製図法の修得 B) 商品開発の現場についてその概要をレクチャーする	A) 基本的な家具製図法を参考文献などで確認しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
4	A) 小作品製図2 B) レクチャー(企画・デザイン)	A) 製図法の修得 B) 企画・デザインに必要な考え方についてレクチャーする	A) 基本的な家具製図法を参考文献などで確認しておく。図面の未完成部分を次回演習授業までに補っておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
5	A) 小作品製図3 B) レクチャー(企画・デザイン)	A) 製図法の修得 B) 企画・デザインに必要な考え方についてレクチャーする	A) 基本的な家具製図法を参考文献などで確認し、事前に図面不整合部分を修正しておく。図面の未完成部分を次回演習授業までに完成させておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
6	A) 小作品制作1(部品切り出し) B) 実習1	A) 図面から加工行程へ(図面提出) B) 想定企業を検討するための資料を収集する	A) 完成した図面から作業工程を再度確認し、事前に加工方法をデザイン工房1に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
7	A) 小作品制作2(接合部加工) B) 実習2	A) 図面から加工行程へ B) 想定企業を検討するための資料を収集する	A) 完成した図面から作業工程を再度確認し、事前に加工方法をデザイン工房1に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
8	A) 小作品制作3(接合部加工、組立て) B) 実習3	A) 加工行程 B) 想定企業を決定する	A) 完成した図面から作業工程を再度確認し、事前に加工方法をデザイン工房1に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
9	A) 小作品制作4(組立て、仕上げ加工) B) 実習4	A) 加工工程から仕上げ工程へ B) 模擬開発者として情報収集・分析を行う	A) 仕上げ工程の注意点を事前にデザイン工房1に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
10	A) 小作品制作5(仕上げ加工) B) 実習5	A) 仕上げ工程(提出) B) 模擬開発者として情報収集・分析を行う	仕上げ工程の注意点を事前A)にデザイン工房1に設置の参考図書で学習しておく。演習時間内に完成できなかった場合には、必ず次回までに完成させておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
11	A) 木工家具レクチャー1 B) 実習6	A) 小作品の講評、木の特性とデザインについての基礎的レクチャー B) 模擬開発者として情報収集・分析を行う	A) 課題書を良く読んで、演習前にデザイン案を検討し、10点描いて演習に出席すること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
12	A) 木工家具レクチャー2 B) 実習7	A) デザインと加工方法について基礎的レクチャー B) 模擬開発者として情報収集・分析をまとめる(課題提出)	A) レクチャーを受けて、事前に作成した自分のデザイン案の実現可能性について検討し、改善案を作成したうえで次回演習に出席すること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
13	A) 木工家具デザイン1	A) 木工家具デザイン作業(エスキースチ	A) 改善案に対するコメントを元に、さらなる改善案を

	B) 実習 8	エック) B) プレーンストーミング	作成すること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
14	A) 木工家具デザイン 2 B) 実習 9	A) 木工家具デザイン作業 (デザイン決定) B) プレーンストーミング	A) 最終デザイン決定案の加工工程を事前検討し、部品加工イメージを組み立てたうえで演習に出席すること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
15	A) 木工家具製図 1 B) 実習 10	A) 木工家具製図作業 B) プレーンストーミング	A) ミニオブジェ製作での図面やデザイン工房 1 に設置の参考図書を参考にして製図を進めること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
16	A) 木工家具製図 2 B) 実習 11	A) 木工家具製図作業 B) プレーンストーミングをまとめる (課題提出)	A) ミニオブジェ製作での図面やデザイン工房 1 に設置の参考図書を参考にして製図を進めること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
17	A) 木工家具製図 3 B) 実習 12	A) 木工家具製図作業 B) アイデアシート作成 (ニーズ・ネーミング・売り言葉など)	A) ミニオブジェ製作での図面やデザイン工房 1 に設置の参考図書を参考にして製図を進めること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
18	A) 木工家具製図 4 B) 実習 13	A) 木工家具製図作業 (図面提出) B) アイデアシート作成 (ニーズ・ネーミング・売り言葉など)	A) 次回演習までに部品加工のイメージを組み立ておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
19	A) 木工家具加工 1 B) 実習 14	A) 木工家具加工工程 (部品切り出し) B) アイデアシート作成 (ニーズ・ネーミング・売り言葉など)	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
20	A) 木工家具加工 2 B) 実習 15	A) 木工家具加工工程 (部品切り出し) B) アイデアシート作成 (ニーズ・ネーミング・売り言葉など) (課題提出)	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
21	A) 木工家具加工 3 B) 実習 16	A) 木工家具加工工程 (接合部加工) B) 商品化案を決定 (デザイン、ラフモデル作成)	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
22	A) 木工家具加工 4 B) 実習 17	A) 木工家具加工工程 (部品切り出し) B) 商品化案を決定 (デザイン、ラフモデル作成)	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
23	A) 木工家具加工 5 B) 実習 18	A) 木工家具加工工程 (接合部加工) B) 商品化案を決定 (デザイン、ラフモデル作成)	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
24	A) 木工家具加工 6 B) 実習 19	A) 木工家具加工工程 (接合部加工) B) 商品化案を決定 (デザイン、ラフモデル作成)	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
25	A) 木工家具加工 7 B) 実習 20	A) 木工家具加工工程 (接合部加工) B) 商品化案を決定 (デザイン、ラフモデル作成) (課題提出)	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
26	A) 木工家具組立と仕上 1 B) 実習 21	A) 木工家具組立と仕上行程 B) 伝える方法の検討制作 (ポスター・全紙広告・カタログなど)	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。塗装する場合には塗料や塗装道具を自分で用意しておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
27	A) 木工家具組立と仕上 2 B) 実習 22	A) 木工家具組立と仕上行程 B) 伝える方法の検討制作 (ポスター・全紙広告・カタログなど)	自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。塗装する場合には塗料や塗装道具を自分で用意しておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
28	A) 木工家具組立と仕上 3 B) 実習 23	A) 木工家具組立と仕上行程 B) 伝える方法の検討制作 (ポスター・全紙広告・カタログなど) (課題提出)	自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。塗装する場合には塗料や塗装道具を自分で用意しておくこと。作品を完成させておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
29	講評会 1	講評会を行う	作品のプレゼンテーション準備をしてから演習に参加すること。
30	講評会 2	講評会を行う	作品講評内容を理解し、今後のデザインに活かせるように、まとめておくこと。

関連科目 プロダクトデザイン論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ウラからのぞけばオモテが見える	佐藤オオキ, 川上典李子	日経 BP 社
2			
3			

評価方法 (基準)
A) 制作過程における評価 50%、完成作品評価 50%
B) 演習課題評価 (60%)、プレゼン (20%)、授業態度 (20%)

学生へのメッセージ
我々は日常的に様々なプロダクトデザインに接している。特にこの演習は短時間で集中的に学ぶプログラムとなっているため、日頃からプロダクトデザインに対して高い意識をもって過ごすことでより有意義な演習となる。

担当者の研究室等
12号館7階 稲地准教授室

備考
A) 製作に使用する材料などの購入費用がかかる。木加工は大変危険であるため、服装や行動には注意が必要である。安全指示に背き、受講を続けることが危険と判断される場合には、演習中でも受講中断することがある。
B) 模型やプレゼンテーションに使用する材料・用具などを購入費用がかかる (モデルボード、カッティングシート、イラストレーションマーカーなど)。
演習に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする

科目名	環境工学演習	科目名 (英文)	Exercises in Environmental Engineering
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	岩田 三千子

授業概要・目的	住環境工学Ⅰ、住環境工学Ⅱで学んだ知識を基に、機器を使った測定や具体的な計算などの演習を通して、光環境、音環境、熱環境、空気環境に関する予測や評価の手法を修得する。住環境への理解を深め、問題点解決の手法と建築計画時における予測手法を身につける。
到達目標	建築士資格試験を受ける際の計算問題などの解法や、実務の測定技術・計算技術などの基礎を修得することを目標とする。 学科の学習・教育目標との対応：住宅・建築物・地域環境を計画するための技術の修得[F]
授業方法と留意点	各々の環境分野について計算や測定を行うので、住環境工学Ⅰ、住環境工学Ⅱで学習した内容を教科書で毎回復習してから講義に出席すること。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、建築設備士

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	熱環境分野の測定器の概要	熱環境分野で使用する測定器の原理及び使用方法を説明する。	演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと
2	温熱環境指標の測定 (1)	授業の前半で温熱環境指標 (SET*など) を説明する。後半では、気温、湿度、MRT (グローブ温度)、気流の測定場所を決め、測定計画を立案する。第3回に測定を実施する。	演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと	
3	温熱環境指標の測定 (2)	気温、湿度、MRT (グローブ温度)、気流を測定し、温熱環境指標 (SET*など) を算出する。状況に応じて建物内外数か所にて温熱環境を測定し、指標の比較を行い考察をする。	演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと	
4	冷暖房熱負荷計算 (1)	授業の前半では、手計算による冷暖房熱負荷計算法を説明する。授業後半では、キャンパス内の適当な建物の部屋を対象として冷暖房熱負荷計算の演習を行う。	演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと	
5	冷暖房熱負荷計算 (2)	授業前半では冷暖房熱負荷計算の続きを行い、熱負荷の構成比などを分析し、建物冷暖房の省エネルギーについて考察する。授業後半では計算結果の発表や質疑応答を行う。	演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと	
6	日影図の作成と日影時間の検討	日影図について理解を深め、日影図を作成する。その日影図を用いて、ある建物の日影図を作成する。	教科書の該当箇所を自宅学習すること	
7	光束法による照明設計	天井に蛍光灯を均等に並べて照明する場合について、蛍光灯の必要個数を計算により求めその配置図を描く。	教科書の該当箇所を自宅学習すること	
8	逐点法による照度の計算	明るさ評価の基本となる水平面照度と鉛直面照度について、照明器具の配光特性に基づいて算定する。	教科書の該当箇所を自宅学習すること	
9	照度の計測	教室の照度分布について、昼光と人工照明を用いた場合について測定し、照度計の取り扱いを習得する。	教科書の該当箇所を自宅学習すること	
10	光環境の総合問題	一級建築士、二級建築士などの問題から選ばれた複合問題を解答する。	以前の講義で学修した内容を復習して出席すること	
11	音の基本単位と騒音の実測	音の基本単位を復習し、騒音測定機器の取扱いを修得した後に、実際の環境の騒音測定をする。	教科書の該当箇所を自宅学習すること	
12	残響時間および透過損失の計算	残響時間と透過損失を理解し、その計算式を、ある空間に適用する。	教科書の該当箇所を自宅学習すること	
13	音・熱環境の総合問題	一級建築士、二級建築士などの問題から選ばれた複合問題を解答する。	教科書の該当箇所を自宅学習すること	
14	CO2の計測と換気量の計算	換気と空気質の関係について復習し、教室内外のCO2を測定して、換気量の推定を行う。	教科書の該当箇所を自宅学習すること。	
15	空気環境・設備の総合問題	一級建築士、二級建築士などの問題から選ばれた複合問題を解答する。	以前の講義で学習した内容を復習して出席すること。	

関連科目	住環境工学Ⅰ、住環境工学Ⅱ、住環境設備
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	毎回の課題の評価点(6.7%)の合計点で評価する。期末試験は行わない。
------	-------------------------------------

(基準)	
学生への メッセージ	教科書、電卓、三角定規一式、A4レポート用紙を毎回持参すること。
担当者の 研究室等	12号館7階 森山教授室 12号館7階 岩田教授室 12号館7階 竹村講師室
備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする

科目名	環境計画演習	科目名(英文)	Exercises in Environmental Planning
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	岩田 三千子

授業概要・目的	原則として、以下の(A)、(B)、(C)の3グループに分かれて実施するが、第7回と14回の講評会は合同で行う。 (A) 環境配慮(エコ技術)を理解し建築設計に応用できる基礎的能力と、都市気候を理解しまちづくりに応用する基礎的能力を獲得する。 (B) 測光量を用いた計算演習、および光学測定器や色票を用いて、視環境についての評価方法とデザインの手法を学ぶ。 (C) 環境に対する人の心理生理反応を把握することを目指し、空気環境を中心とした心理評価や生理量測定手法を修得する。 学科の学習・教育目標との対応: 演習系授業による実践力の育成[F]
到達目標	住環境への理解を深め、問題点解決の手法と建築計画時における予測手法を身につけ、卒業研究を行うための基礎知識と測定技術・計算技術などを修得することを目標とする。
授業方法と留意点	手法の説明や問題演習、実験の実施と、データ処理、そして発表に至るまで、総合的に取り組む。 環境工学A及び環境工学Bの講義内容について復習して臨むこと。 第7回と14回の講評会には外部の専門家に参加してもらう。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	(A) 環境配慮型建築設計1 (B) 照明設計の基礎 (C) においの心理評価①	(A) 熱環境模型実験、測定結果の分析 (B) 測光量、照度計 (C) 心理評価における実験者、被験者の注意点の整理	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
3	(A) 環境配慮型建築設計2 (B) 照明設計1 (C) においの心理評価②	(A) 熱環境模型実験、測定結果の分析 (B) 分光放射計、視感度 (C) 心理評価データの分析	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
4	(A) 環境配慮型建築設計3 (B) 照明設計2 (C) 心理評価手法の比較①	(A) 熱環境模型実験、測定結果のまとめ (B) 輝度計、輝度対比、明るさ感 (C) 評定尺度法とME法の比較	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
5	(A) 環境配慮型建築設計4 (B) 照明設計3 (C) 心理評価手法の比較②	(A) パッシブ建築のレクチャ及びスタディ (B) 光束法による照度計算 (C) 実験データを基にした評価手法の比較	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
6	(A) 環境配慮型建築設計5 (B) 照明設計4 (C) これまでの演習に関する復習①	(A) パッシブ建築のレクチャ及びスタディ (B) 逐点法による照度計算 (C) これまでの演習課題に関する演習問題と解説	講義内容の予習・復習 これまでの配布資料やノートをよく読むこと。
7	前半のテーマの発表(講評会)	演習内容について研究発表スタイルにまとめて発表する。また、講評を受けて今後の課題を見出す。	プレゼンテーションの準備
8	(A) 環境配慮型まちづくり計画1 (B) 色彩環境デザインの基礎 (C) 生理反応測定による室内環境評価	(A) ヒートアイランド対策レクチャ (B) 色彩イメージ、色彩調和 (C) 生理量測定による室内環境評価について	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
9	(A) 環境配慮型まちづくり計画2 (B) 色彩環境デザイン1 (C) 生理量測定と心理評価の比較①	(A) 参考建築・まちづくり現地見学、資料収集 (B) 物体色、視感測色、機器による測色 (C) 生理量測定手法の概要と、測定時の注意点	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
10	(A) 環境配慮型まちづくり計画3 (B) 色彩環境デザイン2 (C) 生理量測定と心理評価の比較②	(A) スタディ場所の現地見学、資料収集 (B) 光源色、色温度、演色性 (C) 生理量測定結果と心理評価の比較	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
11	(A) 環境配慮型まちづくり計画4 (B) 視環境設計の基礎 (C) 生理量測定によるストレスの把握①	(A) グループワークによる素案作成 (B) 明視4条件 (C) ストレス測定手法の概要と、測定時の注意点	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
12	(A) 環境配慮型まちづくり計画5 (B) 視環境設計1 (C) 生理量測定によるストレスの把握②	(A) グループワークによる素案作成 (B) 表示物(サイン) (C) ストレスに関する生理量と心理評価の比較	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
13	(A) 環境配慮型まちづくり計画6 (B) 視環境設計2 (C) これまでの演習に関する復習②	(A) まちづくり提案のまとめ (B) 高齢者、ロービジョン (C) これまでの演習課題に関する演習問題と解説	講義内容の予習・復習 これまでの配布資料やノートをよく読むこと。
14	後半のテーマの発表(講評会)	学習した内容について各自が発表する。講評を受けて今後の課題を見出す。	プレゼンテーションの準備

	15	総まとめ	演習課題で得られた成果を整理し、苦手箇所などのフォローアップを行う。	これまでの配布資料やノートをよく読むこと。
関連科目	環境工学 A、環境工学 B、色彩デザイン論、住環境設備 A、都市環境計画			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	環境工学教科書第二版	環境工学教科書研究会	彰国社
	2	生活環境学	岩田利枝他	井上書院
	3	最新建築設備工学(改訂版)	田中俊六監修	井上書院
評価方法 (基準)	毎回の演習課題の提出物で 100% 評価する			
学生への メッセージ	積極的な質問など、前向きな取組みを期待します。継続的に進行するので欠席しないこと。 環境工学 A、環境工学 B、色彩デザイン論等の講義で使用した教科書も適宜使用する			
担当者の 研究室等	12 号館 7 階の森山教授室、岩田教授室、竹村講師室			
備考	講義に係る予復習は、毎回 1 時間程度を目安とする			

科目名	構造デザイン演習	科目名(英文)	Exercises in Structural Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	白鳥 武

授業概要・目的	建築構造の役割を理解し、材料学と密接に関わる建築構造デザインについての基礎知識、実践的な応用力を身に付けることを目的とする。構造設計、建築設計、現場技術者、ハウスメーカー、建築材料分野などの基礎的な知識を習得する。敢えて木造に特化した演習課題を行う。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：演習系授業による実践力の育成 [F] 建築構造デザインのエッセンスを理解する。デザイン学、材料学、構造力学との相互に密接な関係を理解し、抑えどころを理解する。
授業方法と留意点	教科書を良く読み、理解に努めて授業に臨むこと。教科書、スライド(PPT)やAV資料、板書を駆使した前半の授業と実際に手を動かして実験する演習を後半に行う。
科目学習の効果(資格)	一級建築士、二級建築士、木造建築士、構造設計士

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	構造デザインとは？ 入門編 木構造の基礎知識	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	構造家 梅沢良三氏の本を読み進めて、構造家の精神を理解すること。授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。
2	基本編 地盤①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	構造家 梅沢良三氏の本を読み進めて、構造家の精神を理解すること。授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。
3	基本編 軸組①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	構造家 梅沢良三氏の本を読み進めて、構造家の精神を理解すること。授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。
4	基本編 耐力壁①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	構造家 梅沢良三氏の本を読み進めて、構造家の精神を理解すること。授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。
5	基本編 水平構面①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	構造家 梅沢良三氏の本を読み進めて、構造家の精神を理解すること。授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。
6	基本編 接合部①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	構造家 梅沢良三氏の本を読み進めて、構造家の精神を理解すること。授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。
7	割り箸体力壁実験 I	この日までに加力する割り箸のつ壁を用意しておくこと。	構造家 梅沢良三氏の本を読み進めて、構造家の精神を理解すること。授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。
8	割り箸体力壁実験 II	この日までに加力する割り箸のつ壁を用意しておくこと。	構造家 梅沢良三氏の本を読み進めて、構造家の精神を理解すること。授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。
9	実践編 地盤・基礎②	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	構造家 梅沢良三氏の本を読み進めて、構造家の精神を理解すること。授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。
10	実践編 軸組②	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	構造家 梅沢良三氏の本を読み進めて、構造家の精神を理解すること。授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。
11	実践編 耐力壁②	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	構造家 梅沢良三氏の本を読み進めて、構造家の精神を理解すること。授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。
12	実践編 水平構面②	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	構造家 梅沢良三氏の本を読み進めて、構造家の精神を理解すること。授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。
13	実験 III	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	構造家 梅沢良三氏の本を読み進めて、構造家の精神を理解すること。授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。
14	実験 IV	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	構造家 梅沢良三氏の本を読み進めて、構造家の精神を理解すること。授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。
15	まとめ	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	最終課題提出

関連科目	構造力学、住環境材料学 I&II、建築一般構造学
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	構造家 梅沢良三 一建築に挑み続けること一	梅沢良三	オーム社
2	ヤマベの木構造 増補改訂版	山辺豊彦	X-Knowledge 社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業内課題・ミニ演習 40% 授業外課題・ミニレポート 40% 最終課題 20% 計 100%
----------	--

学生へのメッセージ	教科書をじっくり読んで、構造の世界を楽しんでください。
-----------	-----------------------------

担当者の研究室等	12号館7階 白鳥准教授室
備考	教科書を読んで、課題に1時間以上費やすこと。コツコツと積み重ねが重要です。

科目名	空間情報演習	科目名(英文)	Exercises in Spatial Information
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	坂本 淳二・榊 愛

授業概要・目的	地理情報システム (GIS) を用いて、建物やまちに関わる空間情報表現・分析に関する演習を行う。 私達のまわりにあふれている空間情報を適切に収集し、分析・表現することで、より安全・安心して、快適に暮らせる住環境デザインのがかりを発見することを目的とする。
到達目標	GISの基礎を理解し、住環境デザイン分野における分析手法を修得する。 学科の学習教育到達目標：演習系授業による実践力の育成 [F]
授業方法と留意点	授業中に課題を与えながら、演習を中心として進める。 集中して作業をすれば授業時間内に課題を完成できる。授業の進行に差し支えるため、遅刻、欠席をしないこと。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	GISの基礎	GISの歴史、しくみ、事例の紹介	事前学習：GISの利用事例を探す 事後学習：GISを使った研究事例を調べる
2	GISを用いた研究事例紹介	建築・都市分野における研究事例について発表する	事前学習：GISを使った研究事例についてプレゼン資料をつくる 事後学習：発表された研究事例について研究方法を深く調べる
3	地域情報の収集	建物情報マップ・防災マップ・土地利用図、用途地域図の閲覧とレポート作成	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
4	空間情報の収集(1)	寝屋川市の住宅地図を用いた表示操作・建物情報の閲覧・建物の検索・建物の分布特性に関する考察	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
5	空間情報の収集(2)	寝屋川市の基盤地図 2500・標高データのダウンロードと読み込み・地勢に関する考察	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
6	空間情報の収集(3)	寝屋川市における生活利便施設の位置情報データベースの作成と読み込み・大学周辺の生活利便性に関する考察	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
7	空間情報の収集(4)	寝屋川市の道路ネットワークデータと読み込み・道路特性に関する考察	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
8	空間情報の収集(5)	自宅周辺の地域の基盤地図 2500・標高データのダウンロードと読み込み・地勢に関する考察・寝屋川市との比較	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
9	空間情報の収集(6)	自宅周辺の地域の道路ネットワークデータと読み込み・大学周辺地域の道路特性に関する考察・寝屋川市との比較	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
10	空間情報の収集(7)	自宅周辺の地域の生活利便施設の位置情報データベースの作成と読み込み・大学周辺の生活利便性に関する考察・寝屋川市との比較	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
11	空間情報の収集(8)	自宅周辺の地域の住んでいるまちを比較・分析し、レポートにまとめ、プレゼンテーションする	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
12	空間情報の分析と表現(1)	寝屋川市を対象に、住宅から生活利便施設への近接性を定量的に評価する	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
13	空間情報の分析と表現(2)	評価結果をもとに、考察し、レポートにまとめる	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
14	空間情報の分析と表現(3)	レポート発表・講評会	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
15	まとめ	これまでの復習、GISを用いた先進的な研究事例の紹介・分析手法の説明	事前学習：これまでの授業内容を復習する 事後学習：GISを使って解決したい課題を探す

関連科目	地域・都市計画学、空間表現演習、卒業研究
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	演習への取り組み(20%)、課題(80%)で評価する。
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の 研究室等	1 2 号館 6 階 坂本教授室 1 2 号館 7 階 榑准教授室
備考	

科目名	住生活演習	科目名(英文)	Exercises in Housing Lifestyle
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	平田 陽子

授業概要・目的	住宅や建築物を設計したり、あるいは地域計画を行う際に、いきなり8計画に取り組むことはまずしないであろう。予め、その住宅の居住者や地域の利用者の声を聞くことや、地域の歴史や地形を知ることが重要である。本科目は、地域づくりや建物づくりを行う際に、その地域がどのような地域であるかを知るための方法について学ぶことを目的とする。																																																																		
到達目標	地域についての理解を深めるために、①事実を知る、②現場を知る、③調査を行う、④結果を分析し、解釈するという一連の手法について、身につけられることを目標とする。 学科の学習教育到達目標：演習系授業による実践力の育成 [F]																																																																		
授業方法と留意点	プリントやパワーポイントを用いた講義と、実際に現場に出るフィールドワーク、受講生が取り組むワークショップなどを交えて行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>講義の内容、構成についてのガイダンス</td> <td>配布したプリントを基に、復習を1時間行う</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>歴史を知る</td> <td>地域の出来事を時系列で知る、地域環境の形成過程を空間的に把握する</td> <td>配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>地形を知る</td> <td>地形図、ハザードマップ、地名</td> <td>配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>空間を知る</td> <td>建物、道路、土地利用、自然環境</td> <td>配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>生活を知る</td> <td>住宅地図、国勢調査、課税台帳、各種統計調査</td> <td>配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>計画事業の歴史を知る</td> <td>過去の事業履歴の把握</td> <td>配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現場を見る・歩く</td> <td>フィールドサーヴェイの方法、記録の方法、対象の選択</td> <td>配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>現場で聞く(1)</td> <td>質問調査用紙の作成(1) 質問項目案の作成</td> <td>配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>現場で聞く(2)</td> <td>質問調査用紙の作成(2) 質問文、選択肢の作成</td> <td>配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>現場で聞く(3)</td> <td>調査に取り組む</td> <td>現場調査のやり方についてよく自学自習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各種統計手法(1)</td> <td>平均、分散、標準偏差、多変量解析</td> <td>配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各種統計手法(2)</td> <td>クラスター分析</td> <td>配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ワークショップの準備</td> <td>ワークショップの企画づくり</td> <td>配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ワークショップを開く</td> <td>ファシリテーターの役割、意見の出し方・練り上げ方</td> <td>ワークショップの総括を各自で行っておくこと</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ、地域づくりの始まり</td> <td>最終レポートの作成</td> <td>最終レポートを書き上げるために資料をそろえるなどの準備をしておくこと</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	講義の内容、構成についてのガイダンス	配布したプリントを基に、復習を1時間行う	2	歴史を知る	地域の出来事を時系列で知る、地域環境の形成過程を空間的に把握する	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う	3	地形を知る	地形図、ハザードマップ、地名	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う	4	空間を知る	建物、道路、土地利用、自然環境	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う	5	生活を知る	住宅地図、国勢調査、課税台帳、各種統計調査	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う	6	計画事業の歴史を知る	過去の事業履歴の把握	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う	7	現場を見る・歩く	フィールドサーヴェイの方法、記録の方法、対象の選択	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う	8	現場で聞く(1)	質問調査用紙の作成(1) 質問項目案の作成	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う	9	現場で聞く(2)	質問調査用紙の作成(2) 質問文、選択肢の作成	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う	10	現場で聞く(3)	調査に取り組む	現場調査のやり方についてよく自学自習しておくこと	11	各種統計手法(1)	平均、分散、標準偏差、多変量解析	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う	12	各種統計手法(2)	クラスター分析	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う	13	ワークショップの準備	ワークショップの企画づくり	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う	14	ワークショップを開く	ファシリテーターの役割、意見の出し方・練り上げ方	ワークショップの総括を各自で行っておくこと	15	まとめ、地域づくりの始まり	最終レポートの作成	最終レポートを書き上げるために資料をそろえるなどの準備をしておくこと
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	講義の内容、構成についてのガイダンス	配布したプリントを基に、復習を1時間行う																																																																
2	歴史を知る	地域の出来事を時系列で知る、地域環境の形成過程を空間的に把握する	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う																																																																
3	地形を知る	地形図、ハザードマップ、地名	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う																																																																
4	空間を知る	建物、道路、土地利用、自然環境	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う																																																																
5	生活を知る	住宅地図、国勢調査、課税台帳、各種統計調査	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う																																																																
6	計画事業の歴史を知る	過去の事業履歴の把握	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う																																																																
7	現場を見る・歩く	フィールドサーヴェイの方法、記録の方法、対象の選択	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う																																																																
8	現場で聞く(1)	質問調査用紙の作成(1) 質問項目案の作成	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う																																																																
9	現場で聞く(2)	質問調査用紙の作成(2) 質問文、選択肢の作成	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う																																																																
10	現場で聞く(3)	調査に取り組む	現場調査のやり方についてよく自学自習しておくこと																																																																
11	各種統計手法(1)	平均、分散、標準偏差、多変量解析	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う																																																																
12	各種統計手法(2)	クラスター分析	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う																																																																
13	ワークショップの準備	ワークショップの企画づくり	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う																																																																
14	ワークショップを開く	ファシリテーターの役割、意見の出し方・練り上げ方	ワークショップの総括を各自で行っておくこと																																																																
15	まとめ、地域づくりの始まり	最終レポートの作成	最終レポートを書き上げるために資料をそろえるなどの準備をしておくこと																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>まちの見方・調べ方</td> <td>西村幸夫他</td> <td>朝倉書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	まちの見方・調べ方	西村幸夫他	朝倉書店	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	まちの見方・調べ方	西村幸夫他	朝倉書店																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への参加度、フィールド調査やワークショップへの取り組み方、発表時の態度および内容、最終レポートの内容などの総合評価																																																																		
学生へのメッセージ	身の回りにある自分の興味を持ったテーマを取り上げて、実際にフィールドワークに取り組んでみましょう																																																																		
担当者の研究室等	12号館7階 平田教授室																																																																		
備考	講義では、新聞やテレビで取り上げられた調査や事象など、なるべくタイムリーな話題を取り上げる																																																																		

科目名	ゼミA	科目名(英文)	Seminar A
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平田 陽子

授業概要・目的	[授業の概要・目的]住環境デザイン学科は、学際的な学問領域を含む学科であるため、幅広い分野の科目の中から自分に適した科目を選択し、自分自身で体系化して理解を深める必要がある。ゼミAでは、少人数形式の講義、討論、演習、さらに研修旅行や演習の発表会などを通して、多面的価値観を育成すること、及びコミュニケーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、学科の教育目標を周知し、教養教育の補完を図り、自分自身の適性を見つけさせるようにする。																		
到達目標	人間力・統合力(少人数教育群ゼミ系授業による人間力・統合力の育成) [G]																		
授業方法と留意点	ゼミは、教員数に合せ、学生を少人数に分けて行う。教員及び学生全体を大きく3つのグループに分けて行うこともある。研修旅行、見学会等は定時ゼミの時間割を休日等に振替えて実施することがある。実施日時は学期始めに連絡する。学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネージメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	○第1回全体ゼミ (ガイダンス) : 1回 ○研修旅行でのゼミ : 2回 歴史的な民家や街並みや関連する施設を見学し、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う。 ○少人数ゼミ : 合計10回 少人数グループに分かれ、各教員の指導のもとに特色のある講義、討論、演習などを行う。 ○第2回全体ゼミ、第3回全体ゼミ (発表会、特別講演会) : 2回 少人数ゼミの演習で作成・まとめた課題の発表会を行い、自身の作品について説明するとともに他者の作品の説明を聞いて意見交換する。なお、学内外講師による特別講演とする場合もある。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況80%、レポート等の提出物20%により判定する。																		
学生へのメッセージ	授業テーマは修得度に応じ講義順の組替もありうる。本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。																		
担当者の研究室等	12号館7階 本多教授室、森山教授室、岩田教授室、平田教授室、川上教授室、坂本教授室、稲地准教授室、榎准教授室、白鳥准教授室、竹村講師室 12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室																		
備考	予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など約1時間30分間程度の時間をこれに当てること。																		

科目名	ゼミB	科目名(英文)	Seminar B
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平田 陽子

授業概要・目的	<p>[授業概要・目的] 少人数形式の講義、議論、演習、さらに見学会や演習の発表会などを通して問題発見、問題解決能力の育成、プレゼンテーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、各研究室の学びのスタイルを体験し、各専門分野の研究の進め方を学習し、自分の個性を生かしながら協調してものづくりをおこなうことの大切さを理解させる。</p> <p>[到達目標] 1) 問題発見・解決能力の習得 2) プレゼンテーション力の向上 3) 各専門分野の理解 4) 自分自身の適性の把握</p>		
到達目標	<p>住環境デザインに関する様々な知識の再構築を図り、デザイン力、コミュニケーション力を養い、人間力・統合力を身につける。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：人間力・統合力（少人数教育群ゼミ系授業による人間力・統合力の育成）[G]</p>		
授業方法と留意点	<p>ゼミは、教員数に合わせ、学生を少人数に分けて行う。</p> <p>見学会は定時のゼミの時間割を休日等に振り替えて実施することがある。</p> <p>学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>○全員が集まる全体ゼミを初回、中間、最終回の3回行い、教員個別の少人数ゼミを前半6回、後半6回行う。</p> <p>○第1回全体ゼミ（ガイダンス）：1回</p> <p>○ゼミ：6回×2、計12回</p> <p>少人数グループに分かれ、各教員の専攻による特色のある講義や演習を行う。</p> <p>見学会として、実際に街並みや施設を見学し、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う場合もある。</p> <p>○第2回全体ゼミ、第3回全体ゼミ：2回 この2回の全体ゼミでは、知的好奇心を育成するため特別講演会とすることもあり、学外から講師を招くこともある。また、演習の作品発表会を開催し、自身の作品について説明するとともに他者の作品の説明を聞いて意見交換することもある。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	<p>講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況 80%、レポート等の提出物 20%により判定する。</p>		
学生へのメッセージ	<p>本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。</p>		
担当者の研究室等	<p>12号館7階 本多教授室、森山教授室、岩田教授室、平田教授室、川上教授室、坂本教授室、稲地准教授室、榎准教授室、白鳥准教授室、竹村講師室</p> <p>12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室</p>		
備考	<p>ゼミに係る予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など約1時間30分間程度の時間をこれに当てること</p>		

科目名	ゼミC	科目名(英文)	Seminar C
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平田 陽子

授業概要・目的	[授業概要・目的] 専門ゼミVは、少人数形式の講義、議論、演習、さらに見学会や演習の発表会などを通して問題発見、問題解決能力の育成、プレゼンテーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、各研究室の学習スタイルを体験し、各専門分野の研究の進め方を学び、この授業の最後には自分の専門分野を決めます。
到達目標	1) 問題発見・解決能力の習得 2) プレゼンテーション力の向上 3) 社会における専門分野の理解 4) 自分自身の専門分野の決定 学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関する調査・分析能力の修得[G]
授業方法と留意点	ゼミは、教員数に合わせ、学生を少人数に分けて行う。 見学会は定時のゼミの時間割を休日等に振り替えて実施することがある。 学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学におけるISO14001規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。 全員が集合する全体ゼミ。知的好奇心を育成するため、または進路を考えさせるための講演会とすることがあり、学外講師による特別講演を行うこともある。
科目学習の効果(資格)	一級建築士、二級建築士など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1回全体ゼミ:ガイダンス	第1回は、全員が集合する全体ゼミ。学期初めに当たるため、履修上の注意を伝えるとともに、特別講演を行うこともある。	特になし
	2	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	3	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	4	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	5	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	6	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	7	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	8	第2回全体ゼミ	全員が集合する全体ゼミ。知的好奇心を育成するため、または進路を考えさせるための講演会とすることがあり、学外講師による特別講演を行うこともある。	各教員の指示に従う
	9	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	10	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	11	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	12	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	13	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	14	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	15	第3回全体ゼミ(ゼミ配属説明会)	全員が集合する全体ゼミ。主に、専門ゼミVIへの配属に関するものを行う。	教員の指示に従う

関連科目	ゼミI～IV
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況 80%、レポート等の提出物 20%により判定する。
----------	---

学生へのメッセージ	本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。
-----------	---

担当者の研究室等	12号館7階 本多教授室、森山教授室、岩田教授室、平田教授室、川上教授室、坂本教授室、稲地准教授室、榎准教授室、白鳥准教授室、竹村講師室 12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室
----------	---

備考	予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など約1時間30分間程度の時間をこれに当てること
----	---

科目名	ゼミD	科目名(英文)	Seminar D
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	平田 陽子

授業概要・目的	[授業概要・目的] 専門ゼミDは、少人数形式の講義、議論、演習、さらに見学会や演習の発表会などを通して問題発見、問題解決能力の育成、プレゼンテーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、各研究室の学習スタイルを体験し、各専門分野の研究の進め方を学び、卒業研究に向けた基礎的な力を身につける助走期間とする。
到達目標	1) 問題発見・解決能力の習得 2) プレゼンテーション力の向上 3) 配属された研究室における専門分野のより深い理解 学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関する調査・分析能力の修得：[G]
授業方法と留意点	ゼミは、教員数に合わせて、学生を少人数に分けて行う。 見学会は定時のゼミの時間割を休日等に振り替えて実施することがある。 学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学におけるISO14001規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。 全員が集合する全体ゼミ。知的好奇心を育成するため、または進路を考えさせるための講演会とすることがあり、学外講師による特別講演を行うこともある。
科目学習の効果(資格)	1級建築士、2級建築士、木造建築士の受験資格など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1回全体ゼミ:ガイダンス	第1回は、全員が集合する全体ゼミ。学期初めに当たるため、履修上の注意を伝えるとともに、特別講演を行うこともある。	教員の指示に従う
	2	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	3	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	4	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	5	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	6	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	7	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	8	個別ゼミ、または全体ゼミ	個別ゼミの場合には少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。全員が集合する全体ゼミを行うことがある。知的好奇心を育成するための講演会や進路を考えるための説明会などとする。学外講師による特別講演を行うこともある。	担当教員の指示に従う
	9	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	10	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	11	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	12	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	13	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	14	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	15	全体ゼミ	全員が集合する全体ゼミ。知的好奇心を育成するための講演会や進路を考えるための説明会などとする。学外講師による特別講演を行うこともある。	教員の指示に従う

関連科目	ゼミI～V
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況80%、レポート等の提出物20%により判定する。
----------	---

学生へのメッセージ	本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。
-----------	---

担当者の研究室等	12号館7階 本多教授室、森山教授室、岩田教授室、平田教授室、川上教授室、坂本教授室、稲地准教授室、榎准教授室、白鳥准教授室、竹村講師室 12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室
----------	---

備考	予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など約1時間30分間程度の時間をこれに当てること。
----	--

科目名	住環境工学 I	科目名 (英文)	Environmental Engineering for Living I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩田 三千子

授業概要・目的	建築空間の光環境と音環境について、人間の生理的・心理的反応と物理条件に着目しながら、建築計画や環境計画の際に知っておくべき基礎的要件と計画に応用するための解析法や評価法についての知識を学ぶ。光環境については、太陽の動きと日照の問題、人工照明による照明設計手法など、音環境については、騒音の評価と防止、音響計画の手法についてなどを学ぶ。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：住空間を対象とする環境技術と構造技術（専門コア群環境デザイン系の知識）[D] 都市・建築のサステナブル環境デザインや省エネルギー設計への応用につながるための基礎的な知識を修得することを目標とする。
授業方法と留意点	各章の授業テーマに関して、日頃から問題意識を持って生活することが望ましい。授業中に演習や小テストなどを行って理解度を確かめながら進めていく。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、インテリアプランナー、建築設備士、商業施設士

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	住環境工学の概略	快適な建築空間を計画するための光・熱・音・空気環境	教科書を読んで予習・復習をする
2	太陽の動きと建物の関係	地球と太陽の関係、太陽と建物の関係、直射日光と天空光	教科書を読んで予習・復習をする
3	日照と日影	日照と日当たり、日影と日照の検討方法	教科書を読んで予習・復習をする
4	光と視覚	目の構造と可視光、光に対する感度と視細胞の働き	教科書を読んで予習・復習をする
5	明視照明と雰囲気照明	蛍光灯、白熱電球、水銀ランプなど身近な各種光源の特徴と空間への光の供給	教科書を読んで予習・復習をする
6	照明計算の基礎	測光量と単位、照明計算の基礎、JIS 照度基準値、昼光率	教科書を読んで予習・復習をする
7	照明設計とその要件	さまざまな照明方式、照明設計の手順	教科書を読んで予習・復習をする
8	昼光照明と電灯照明	窓からの採光による照明計画、電灯による照明計画	教科書を読んで予習・復習をする
9	建築の色彩設計	建築計画における色彩の心理的な効果と調和の基礎要件	教科書を読んで予習・復習をする
10	音の基本的性質	反射、屈折、回折など音の伝播に関する基本的項目の説明	教科書を読んで予習・復習をする
11	音の感じ方と計算の基礎	デシベル単位、音の透過損失、音の合成と分解	教科書を読んで予習・復習をする
12	残響	各種建築材料の吸音率、残響時間	教科書を読んで予習・復習をする
13	吸音機構	共鳴器型、多孔質型、板および膜振動型吸音機構	教科書を読んで予習・復習をする
14	音質評価、騒音防止計画	明瞭度と文章了解度、室内音響設計、さまざまな騒音と騒音対策	教科書を読んで予習・復習をする
15	総括	講義のまとめとテスト	教科書を読んで復習をする

関連科目 住環境工学Ⅱ、環境工学演習、住環境材料学Ⅰ、住環境材料学Ⅱ、住環境設備

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	環境工学教科書 第二版	環境工学教科書研究会編著	彰国社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学課程建築環境工学	伊藤克三ほか	オーム社
2	最新建築環境工学	田中俊六ほか	井上書院
3	建築環境工学演習編	田中俊六ほか	井上書院

評価方法 (基準)	まとめテストの成績 (70%) および演習や小テストなどの平常成績 (30%) で評価する
学生へのメッセージ	講義には必ず教科書を持参し、自宅でも教科書の内容に沿って、予習復習を心がけてください。
担当者の研究室等	12号館 7階 岩田教授室
備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする

科目名	住生活学 I	科目名 (英文)	Housing Lifestyle Theory I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	平田 陽子

授業概要・目的	住居の計画・設計の基盤になる考え方とその主要なポイントについて、文化、社会、歴史の文脈の中で理解する。さらに、住生活と住空間、また住環境との相互の対応関係について、その基本的構造を理解する。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：住環境を対象とする計画技術（専門コア群空間デザイン系の知識）[E] 日本における住宅の成り立ちやその基本的な特徴、住様式について理解をし、今後の住居デザインのあり方を考える力を養う。また、地球環境や住環境保全についての問題意識が高まる中、住宅計画や住宅管理の上でもどのような工夫がなされているかについても理解を深める。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義。原則として、毎時間終了後、簡単なチェックテストを行う。授業7回目に、中間試験を行う予定である。
科目学習の効果（資格）	一級建築士、二級建築士を受験するには、必要な科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業のガイダンス、日本の住まいの変遷（1）	住生活を学ぶ意義、原始時代から中世までの住まい	授業の最後に小テストを行う
	2	日本の住まいの変遷（2）	近世の住まい	授業の最後に小テストを行う
	3	日本の住まいの変遷（3）	近代の住まい	授業の最後に小テストを行う
	4	日本の住まいの変遷（4）	現代の住まい	授業の最後に小テストを行う
	5	快適な室内環境（1）	熱・湿度・光	授業の最後に小テストを行う
	6	快適な室内環境（2）	音・空気・水	授業中に小テストを行う 中間テストに向けて、復習をしておくこと
	7	これまでのまとめと中間テスト	中間テスト	テストの復習を行なっておくこと
	8	住まいと家族生活（1）	「家族」の変化と住まい	授業の最後に小テストを行う
	9	住まいと家族生活（2）	子どもの生活空間	授業の最後に小テストを行う
	10	住まいと家族生活（3）	高齢者の生活空間	授業の最後に小テストを行う
	11	住まいと社会（1）	日本の住宅事情と住環境	授業の最後に小テストを行う
	12	住まいと社会（2）	住まいの居住水準	授業の最後に小テストを行う
	13	住空間の形態と構成（1）	住まいと選択と管理	授業の最後に小テストを行う
	14	住空間の形態と構成（2）	空間の認識と構成	授業の最後に小テストを行う
	15	まとめ	講義のまとめとテスト	これまでの講義内容を復習しておくこと

関連科目	住環境管理学
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	住生活論	松井静子編著	建帛社
	2	住まい方から住空間をデザインする	林知子他	彰国社
	3			

評価方法（基準）	講義中に行う確認テスト20%、中間試験30%、まとめのテスト50%で評価する予定である。
----------	--

学生へのメッセージ	自分の身の回りにある色々な住宅や建物、街並みなどを興味を持って眺めてください。きっと新しい発見があることでしょう。 授業開始後30分以降の入室は欠席とみなしますので、注意してください。
-----------	---

担当者の研究室等	12号館7階 平田教授室
----------	--------------

備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする
----	-------------------------

科目名	人間工学入門	科目名(英文)	Introduction to Human Factors & Ergonomics Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	竹村 明久

授業概要・目的	住環境や生活に関連する商品を考え、できたものを評価するために必要な、人と環境・刺激との生理学的、心理学的な関係の基礎的内容について知り、考えることを目的とする。
到達目標	快適環境をデザインするための環境と人との関係について理解する。 学科の学習・教育目標との対応：人間生活と住環境に関わる知識の習得[C]
授業方法と留意点	講義は、身近な現象や体験とのつながりを意識して行い、簡単な体験や実験を交える場合、研究例の紹介を行う場合もある。講義内容に関するまとめレポートを課す。

科目学習の効果(資格)	一級建築士、二級建築士、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター
-------------	--------------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、快・適・健康	授業の進め方と評価について、快・適・健康とは何か、環境と行動	シラバスを読んでおくこと
2	心理評価と実験計画	心理評価手法と計画の重要性について	資料を用いてよく復習すること
3	心理評価の読み解き	心理評価の分析手法について	資料を用いてよく復習すること
4	生理量測定と人の感覚	生理量測定手法と実施上の注意	資料を用いてよく復習すること
5	生理量測定の読み解き	生理量測定と心理評価との関係について	資料を用いてよく復習すること
6	視覚と見やすさ	視覚の特性、見やすさ評価	資料を用いてよく復習すること
7	色彩と心理	色彩の認知、色彩の心理影響	資料を用いてよく復習すること
8	聴覚の特性	聴覚の特性	資料を用いてよく復習すること
9	うるささと音響	音の心理評価としての騒音と心地よい音	資料を用いてよく復習すること
10	温熱感覚の特性	温熱感覚の特性	資料を用いてよく復習すること
11	温熱環境の心理生理	暑さ寒さと個人差、心理と省エネルギー	資料を用いてよく復習すること
12	嗅覚の特性	嗅覚の特性	資料を用いてよく復習すること
13	においとかおり	においとかおりの心理影響	資料を用いてよく復習すること
14	その他の感覚	触覚、味覚などの感覚	資料を用いてよく復習すること
15	順応と複合心理評価	感覚の順応、複合心理評価の難しさ	資料を用いてよく復習すること

関連科目	デザイン系科目と住環境工学系科目全般
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築人間工学 空間デザインの原点	岡田光正	理工学社
	2	感覚の地図帳		講談社
	3			

評価方法(基準)	まとめレポート(70%)と受講態度(30%)の総合評価
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	身近な現象や経験が、人の感覚を理解するのに役立ちます。日頃から、様々なことに疑問を持つようして下さい。
-----------	---

担当者の研究室等	12号館7階 竹村講師室
----------	--------------

備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする
----	-------------------------

科目名	住生活学Ⅱ	科目名(英文)	Housing Lifestyle Theory II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	平田 陽子

授業概要・目的	住居づくりを進めていく上で、これまで人間にふさわしい住まいがどのように追及されてきたのか、また現在の日本の住まい現状を踏まえながら、実現するための住宅政策のありかたについて学ぶ。 新たな住空間に対する社会的ニーズと住まいづくりの動向を理解しながら、住空間のあり方とその創造に向けた考え方を理解する。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：人間生活と住環境に関わる知識の習得[C] これまでの住まいに対する社会的ニーズを知り、また現在の日本の住まいの現状を理解する。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義。原則として、毎時間終了後、簡単なチェックテストを行う。授業8回目に、中間試験を行う予定である。
科目学習の効果(資格)	一級建築士、二級建築士

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業のガイダンス、日本の住宅事情	授業のガイダンス、統計からみる居住水準	授業中に小テストを行う
	2	住まいの社会問題(1)	住まい・まちづくりの水準と国際比較	授業中に小テストを行う
	3	住まいの社会問題(2)	住宅の社会的側面	授業中に小テストを行う
	4	住まいの社会問題(3)	住宅政策の考え方	授業中に小テストを行う
	5	住まいの社会問題(4)	戦後住宅政策の狙いと特徴	授業中に小テストを行う
	6	住まいの社会問題(5)	量的住宅難からの脱出と資産としての住宅	授業中に小テストを行う
	7	住まいの社会問題(6)	住まいによる生活経済の破壊	授業中に小テストを行う 中間テストに向けて復習をしておくこと
	8	住まいの社会問題(7) 中間テスト	これまでのまとめと中間テスト	試験内容について、よく復習を行う
	9	住宅の現地見学	特徴ある住宅について現地見学を行う	見学対象住宅について事前学習を行う
	10	海外の住宅政策(1)	イギリスの住宅政策—スラムクリアランスと住環境改善	授業中に小テストを行う
	11	海外の住宅政策(2)	ドイツの住宅政策—住宅協同組合と環境政策、アメリカの住宅政策—居住者階層別の政策	授業中に小テストを行う
	12	住宅供給と居住地の再生(1)	震災復興住宅とコミュニティの再生	授業中に小テストを行う
	13	住宅供給と居住地の再生(2)	密集市街地整備と住宅供給	授業中に小テストを行う
	14	住宅供給と居住地の再生(3)	居住の権利と住居法	授業中に小テストを行う まとめのテストに向けての準備をしておく
	15	まとめとテスト	講義のまとめとテストを行う	試験について復習を行う

関連科目	住生活学、住環境管理学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	住まいと社会	岸本幸臣他	彰国社
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト点20%、中間テスト30%、まとめの試験50%の割合で、総合的に評価する。 授業開始後30分以降の入室は欠席とみなしますので、注意してください。
----------	---

学生へのメッセージ	教室内の学習だけでなく、学外で建物や町並みなどを良く見ること、社会のニュースに目を向けることなどが学びへとつながります。現地見学に出かける予定です。スケジュールは学生の皆さんと相談して決めます。
-----------	---

担当者の研究室等	12号館7階 平田教授室
----------	--------------

備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする
----	-------------------------

科目名	住環境材料学 I	科目名 (英文)	Housing Materials I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	難波 尚

授業概要・目的	建築には、天然材料から人工材料まで、多岐にわたるな種類の材料が用いられます。本講義では、建築材料の種類や性質について理解するとともに、各材料の性能と建築の機能との関係性を理解することを目的とします。
到達目標	建築を設計・施工・運用する際に必要となる、適切な材料選択のための基礎を修得する他、必要性能を発揮するための要件を理解することを目標としています。 学科の学習・教育目標との対応：住空間を対象とする環境技術と構造技術 [D]
授業方法と留意点	教科書に沿った内容のスライドを用いた講義形式を行います。
科目学習の効果 (資格)	1級建築士, 2級建築士の指定科目 (建築材料 2 単位)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	構造材料 鉄鋼材料①	鋼の製法と基本的性質	教科書による予習復習
3	構造材料 鉄鋼材料②	鋼材の機械的性質	教科書による予習復習
4	構造材料 鉄鋼材料③	鋼材の種類・規格	教科書による予習復習
5	構造材料 鉄鋼材料④	鋼材の接合	教科書による予習復習
6	構造材料 コンクリート①	コンクリートの基礎知識	教科書による予習復習
7	構造材料 コンクリート②	フレッシュコンクリートの性質	教科書による予習復習
8	構造材料 コンクリート③	硬化コンクリートの性質	教科書による予習復習
9	構造材料 コンクリート④	耐久性, 試験方法	教科書による予習復習
10	木材および木質材料①	木材の特性	教科書による予習復習
11	木材および木質材料②	木材および木質材料の機械的性質	教科書による予習復習
12	木材および木質材料③	木材の劣化とその防止	教科書による予習復習
13	非構造材料 屋根・防水材	プラスチック, アスファルト, 塗装, 接着剤, シーリング材	教科書による予習復習
14	非構造材料 屋根・防水材	一般的な断熱材料, 断熱工法, 防火材料, 耐火性能	教科書による予習復習
15	非構造材料 内・外装材料	タイル類, ALC パネル, PC パネル, 工法要求性能, 左官材料, ボード類, 床材	教科書による予習復習

関連科目	建築構造学・構法に関する科目一般
------	------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築材料を学ぶ ―その選択から施工まで―	谷川恭雄他	理工図書 ISBN978-4-8846-0740-3
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験 (筆記) 60%、レポート 40%で総合評価する。
学生へのメッセージ	日常生活において、建築の存在は極めて当然のものですが、これらは長い間の経験から得た知識・知恵の集大成と言えます。ぜひ日常においても建築を学ぶものとして意識と関心を持つよう心がけて下さい。
担当者の研究室等	神戸大学工学研究科建築学専攻 難波研究室 メールアドレス:naba@kobe-u.ac.jp
備考	講義に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする

科目名	住環境工学Ⅱ	科目名(英文)	Environmental Engineering for Living II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	竹村 明久

授業概要・目的	屋内空間の熱・空気環境を安全で健康、しかも快適な状態に保つため、環境の状態を把握する能力や、人と環境との関係を理解できる能力を修得することを目的し、熱・空気環境に関する基礎的知識について学ぶ。人が感じる暑さ寒さの指標や、壁や窓を通して屋外と屋内を行き来する熱に対する考え方、屋内空気の清浄度に関する基準や適切な換気の方法、湿気と結露とその対策方法、環境デザインと省エネの両立などについて取り上げる。
到達目標	建築環境工学における熱環境・空気環境に関する基礎的知識を修得すること。 学科の学習・教育到達目標との対応：住空間を対象とする環境技術と構造技術（専門コア群環境デザイン系の知識）[D]
授業方法と留意点	身近な現象と教科書の知識とを繋げて理解するように心掛けること。授業進行は、その点に留意して進行するほか、確認のための小テストや演習問題を実施する。
科目学習の効果(資格)	一級建築士、二級建築士など

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	住環境と熱・空気	環境構造の中の住環境、外界の気象、環境と人の関係、住環境工学と省エネ	教科書をよく読んで復習すること。講義中は要点をノートにとること。
2	空気環境と室内空気質	空気汚染物質、シックビル症候群	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
3	必要換気量と換気方式	換気回数、必要換気量、機械換気の換気方式	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
4	重力換気と風力換気、臭気対策	自然換気の利用と計算、臭気対策の基本的考え方	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
5	人体の熱平衡	人体の熱収支、顕熱と潜熱	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
6	伝熱の基礎と温熱四要素	伝熱3態(伝導、対流、放射)、温熱四要素(温度、湿度、気流、放射)	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
7	人体に関わる温熱環境指標	作用温度、有効温度、PMVなどの指標の特徴	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
8	日照と日射	日射と熱環境、太陽位置	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
9	建物と日射	日影の考え方、建物と日射量の関係	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
10	建物の熱性能①	建物における熱伝導、熱伝達、熱放射の計算	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
11	建物の熱性能②	熱貫流の計算と、壁体内の温度分布	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
12	建物の熱性能③	換気による熱負荷、熱容量の考え方	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
13	湿り空気線図	湿気概念、湿り空気線図の使い方	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
14	湿気と結露	壁体内の結露、結露対策	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
15	講義のまとめ	講義のまとめと補足	試験に備えて、教科書の復習とノートを整理しておくこと。

関連科目 住環境工学B 環境工学演習 住環境設備A 住環境設備B 環境計画演習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生活環境学	岩田利枝他	井上書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	環境工学教科書	環境工学教科書研究会	彰国社
2	図説テキスト 建築環境工学	加藤信介他	彰国社	
3				

評価方法(基準)	定期試験(60%)と演習問題類(40%)の総合評価
学生へのメッセージ	教科書を必ず持参すること 積極的な質問など、前向きな取組みを期待する
担当者の研究室等	12号館7階 竹村講師室
備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする

科目名	色彩論	科目名(英文)	Chromatics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩田 三千子

授業概要・目的	色は人々に様々な影響を与え、生活を豊かにすることから、良いデザインのための重要な要件である。講義では色の物理的な性質、色が見える仕組み、色と心理、色と文化など、色についての基礎的な知識を学ぶとともに、生活の場面で色を生かしたデザインの実例を学ぶ。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：住空間を対象とする環境技術と構造技術（専門コア群環境デザイン系の知識）[D] 建築計画や環境計画における色彩デザインに関する基礎的な知識を修得し、身の回りの色彩環境についての関心を深めてデザインへの応用につなぐことを目標とする。
授業方法と留意点	授業中に小テストなどを行って理解度を確かめながら進めていく。毎回の演習課題の提出を怠らないこと。
科目学習の効果(資格)	カラーコーディネーター、色彩検定、商業施設士、インテリアコーディネーター、一級建築士、二級建築士

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 色を見る眼のしくみ	色が見えるということ	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	2	色を伝える方法	慣用色名と系統色名	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	3	色と心理 1	色の連想と象徴	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	4	色と心理 2	視認性と誘目性	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	5	色と心理 3	色がもたらす心理的効果	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	6	色の表示 1	色の三属性とマンセル表色系	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	7	色の表示 2	色の三属性とトーンの関係	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	8	色の表示 3	三原色による表示と混色	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	9	光と色 1	白色光と虹	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	10	光と色 2	様々な光源	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	11	配色と色彩調和 1	色彩調和の考え方	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	12	配色と色彩調和 2	主な色彩調和理論	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	13	色彩環境デザイン 1	サイン表示の役割	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	14	色彩環境デザイン 2	色彩イメージと空間デザイン	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること
	15	まとめ	これまでの講義のまとめ	これまでの授業内容を復習しておくこと

関連科目	インテリアデザイン論、住環境工学B、環境工学演習、環境計画演習
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	カラーコーディネーター検定試験2級公式テキスト	東京商工会議所編	中央経済社
	2	カラーコーディネーター検定試験3級公式テキスト	東京商工会議所編	中央経済社
	3			

評価方法(基準)	平常点(課題を含む)40%、まとめの試験60%の割合で、総合的に評価する
----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日常から、いろいろなものの「色」について関心を持って接してください
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	12号館 7階 岩田教授室
----------	---------------

備考	効果的に色を用いることで環境の質が向上し、省エネルギーにも役立つことについても学んでほしい 講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする
----	--

科目名	住環境設備	科目名(英文)	Building Services
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森山 正和

授業概要・目的	建築環境設備には空調設備、給排水衛生設備、電気設備などがある。近年の建築や都市に関わる環境問題を背景として、講義では建築設備を広く住環境全般からとらえ直し、建築設備の基礎的な知識や考え方の修得を目的とする。
到達目標	建築環境工学における建築設備工学に関する基礎的な知識の修得を目指す。 学科の学習・教育目標との対応：住宅・建築物・地域環境を計画するための技術の修得[D]
授業方法と留意点	原則として毎回、小演習を課す 授業中、講義の要点をノートに取る。ノートの提出を求めることがある。
科目学習の効果(資格)	一級建築士、二級建築士、建築設備士、消防設備士など

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義概要	建築設備工学の概要 建築設備と地球環境問題 エコ技術・環境配慮建築	教科書を読んで予習しておく。
2	空調設備(1)	空調設備の概要、空調方式の種類と特徴	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
3	空調設備(2)	空調設備の計画 冷暖房負荷計算法1	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
4	空調設備(3)	冷暖房負荷計算法2	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
5	空調設備(4)	湿り空気線図と空調プロセス 空調機	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
6	空調設備(5)	冷温熱源機器の説明	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
7	前半講義のまとめテストと解説	前半講義のまとめテストおよびその解説を行う	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
8	設備機械室の見学	学内の設備機械室を見学	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
9	給水設備	給水・給湯・ガス設備の概要と注意事項	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
10	排水・通気設備	排水の考え方と通気設備の必要性	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
11	衛生器具・排水処理設備	衛生器具の選定のための必要基礎知識と排水処理設備の概要	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
12	消火・防災設備(1)	消火栓・スプリンクラーなどの水に関する消火設備の概要と法規	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
13	消火・防災設備(2)	特殊消火設備と防災設備に関する概要と法規	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
14	電気・搬送設備	電気・搬送設備の概要と基礎知識	前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
15	後半講義のまとめテストと解説	後半講義のまとめテスト及びその解説を行う。	テストに備えて教科書を参考に配布資料及びノートを整理しておくこと。

関連科目	住環境工学Ⅰ、住環境工学Ⅱ
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新 建築設備工学(改訂版)	田中俊六監修	井上書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	毎回の小演習 40% まとめテスト 60%を総合的に評価する
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	遠慮なく質問すること
-----------	------------

担当者の研究室等	12号館7階 森山研究室、竹村研究室
----------	--------------------

備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする
----	-------------------------

科目名	住環境材料学Ⅱ	科目名(英文)	Housing Materials II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	白鳥 武

授業概要・目的	<p>建築材料の特性を活かせる材料学・構造学的基础能力及び実践的な応用力を身に着ける。</p> <p>本科目は日本の木造を含めた、持続可能建築材料・構法・自然エネルギー利用という観点から世界各地の住宅等を構成する建築材料とその特性、およびそれを活かした構法、パッシブ建築の在り方を学ぶ。中には活用が不可能と思われてきた材料や全く新しい考え方をを用いてのみ、その有効性が理解できる類も学びながら建築設計・施工への応用能力を高める。世界各地でそれぞれに入手可能な材料を最大限活かすことを考え、試行錯誤の上、その地の気候風土や制約条件を加味したサステナブル建築・住環境が創生されてきた。日本の学生にはなじみ易い日本国の木造住宅関連に特に講義回数を多く取るが、地球共生のための建築材料を私たちの世代でどう進化すべきかを考える上で世界の住宅建築材料の学びは不可欠である。また、本科目が履修される時点での最先端事例にも同様に積極的に触れて考えていく。</p>
到達目標	<p>学科の学習・教育目標との対応：住宅・建築物・地域環境を計画するための技術の修得[D]</p> <p>住環境材料学Ⅰにおいて学んだ知識の応用編として本講義内容は考えられており、基礎的な知識を深めるための内容となっている。到達目標は住環境材料学Ⅰにおいて修得した各種材料に関する知識を、新しい材料や未知の特性をもつ素材等を前にした時に応用でき、建築の新しい構法(工法)に活かすことのできる設計・施工への応用力を創造力とともに身に着けることである。</p>
授業方法と留意点	<p>PPTスライド、その他の視覚資料に加えて、実際の材料を手に取り、一部実験をしながらその特性や活用を考えていく。そして各学生に自論を発言させてそこから展開していくマルチ展開型とし、教科書情報の暗記を強いるのではなく、実際の開発研究や施工現場にて新しい解を見出せる「探究能力育成」型課題レポートを主体とする。即席グループによる課題も授業中に行います。筆記用具とA4用紙(線入りと線なし)は必ず必携のこと。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>一級建築士、二級建築士、インテリアプランナー、商業施設士、施工監理士に向けた各学習事項の基礎的・実践・応用能力・探究能力を高める。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	材料と建築の原点を考える(その1)。	人類史上の建築材料と構・工法の進化は何によってもたらされたか。そして日本における木造建築はどのようにして現在の形にたどり着いたのかを考えます。	事前(今後共通): 授業テーマの内容に沿った自論を予め考えておく。
2	木材の物理-その1	木材および木質材料の物理的性質等について学びます。	事前: テーマについての資料を読んでおく。 事後: 課題を行う。
3	木材の物理-その2	木質住宅の構造耐力性能等について学ぶ。	事前: テーマについての資料を読んでおく。 事後: 課題を行う。
4	木造-その1: 諸外国の木造建築	世界の木造を学んでいきます。そしてその国々各地域における気候風土や制約を加味した成果として木造の構法が追求されてきました。ハーフティンバーハウス、ログハウス、コンクリートと組み合わせたポワトロン、など。木材の多様な可能性を考えていきます。	事前: テーマについての資料を読んでおく。 事後: 課題を行う。 今日紹介のなかった国の木造について調べてください。その材料(樹種や部位)のどの特性を活用すべきでしょうか。そしてどの様にその国では使われて来たのでしょうか。
5	木造-その2: 日本の伝統的木造建築	日本の木造建築技術は大陸からまず入り、その後日本独特の進化と美学を重ねてきました。その変遷について学んでいきます。	事前: テーマについての資料を読んでおく。 事後: 課題を行う。
6	木造-その3: 日本の木造在来軸組構法	在来軸組構法はどのように変化して、今の形になったのか。そしてそれが抱える新旧の克服すべき問題を学びます。	事前: テーマについての資料を読んでおくこと。 事後: 課題を行うこと。
7	木造-その4: これからの木造建築の行方	木造をテーマに5回の講義を経て、今後の木造建築の行方を最先端木造建築デザインを紹介しながら考えていきます。また本講師が研究開発を行った接合部も紹介し、木造の特性をどのように地震国で進化させたかを実例で考えていきます。	事前: テーマについての資料を読んでおく。 事後: 課題を行う。
8	水+アルファ、空気+アルファ	水や空気を建築材料に利用するには他素材との組み合わせが行われています。それら実例を見て、水や空気を利用した建築の可能性を考えていきます。	事前: テーマについての資料を読んでおく。 事後: 課題を行う。
9	土・泥・砂・植物	土壁、版築(はんちく)、白アリの巣など多くの事例を見てどの様に土という材料を利用して来たかを考えていきます。日干レンガ建築の特徴も紹介します。そして植物を利用した材料と構法についても考えていきます。	事前: テーマについての資料を読んでおく。 事後: 課題を行う。
10	氷	氷も建築材料になります。氷を活かすためにどのような工夫が必要でしょうか。そして人がシェルターとして利用する場合、どのような構法が生まれるでしょうか。南極越冬隊が考え出した氷の利用方法も紹介します。	事前: テーマについての資料を読んでおく。 事後: 課題を行う。 氷の特性を考え、どのようにシェルターに利用すべきか考えてください。簡条書きで良いとします。寒い地域の自然災害: 被災地では家を失った後、夜の冷え込みで尊い命がたくさん奪われました。凍るといふ現象を逆に利用してどのような提案が救済までのシェルターとしてできるでしょうか。考えてみましょう。
11	石	石積みや石垣、石のスレート屋根、組積造について考えていきます。古来石の建築利用は世界で行われてきました。その特性をどのように活用してきたのでしょうか。また国によって得られる石の種類は異なり、それが古代はエジプトやギリシャ建築に影響し、地震国日本においては画期的な石積みの考え方が城郭建	事前: テーマについての資料を読んでおく。 事後: 最終課題に取り組む。

	12	動植物の利用	築の石垣に役立ってきました。 動物の骨や皮、植物の殻等、食糧以外としても動植物の一部は建築に取り入れられてきました。動植物が厳しい環境、寒い気候や酷暑の中を平然としていられるのはその体を覆う素材や自然の利用方に秘密がありました。それを我々の住居にどう取り入れられるのかを考えていきます。	事前：テーマについての資料を読んでおく。 事後：最終課題に取り組む。																
	13	最先端材料と工法	E F T E（四フッ化エチレン共重合体）や3次元プリンター等、これからの宇宙時代の建築に求められる素材や工法の考え方を探っていきます。	事前：テーマについての資料を読んでおく。 事後：最終課題に取り組む。宇宙空間では地球上とは異なる環境条件があります。もっとも人類が移住しやすいと考えられる惑星を調べて、どのような材料が必要となるか考えてみましょう。																
	14	生物模倣と材料の進化	生物模倣、生物の持つ機能や構造、材料の構成模倣はどのように建築物に利用できるかを実例を紹介して考えていきます。	事前：テーマについての資料を読んでおく。 事後：最終課題に取り組む。																
	15	これから私たちが創生する未来と建築材料	1. 私たちの生きる世界は日進月歩、それにより材料や構（工）法も進化し、建築物も進化していきます。本講義が行われる時の「最先端科学や革命的出来事」及び、今までの14回講義より、これからの建築材料が担う役割や機能についてどの様なビジョンで捉えていくのかを考えていきます。 ※最終課題レポート提出（最初10分）	最終課題のレポートを提出する。																
関連科目	住環境材料学1、建築構造学・工法に関する科目一般、日本建築史、住環境工学など。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>世界の建築術 人はいかに建築してきたか</td> <td>若山滋・TEM研究所</td> <td>彰国社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自然エネルギー利用のためのパッシブ建築設計手法 事典 新訂版</td> <td>小玉祐一郎、他</td> <td>彰国社編</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	世界の建築術 人はいかに建築してきたか	若山滋・TEM研究所	彰国社	2	自然エネルギー利用のためのパッシブ建築設計手法 事典 新訂版	小玉祐一郎、他	彰国社編	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	世界の建築術 人はいかに建築してきたか	若山滋・TEM研究所	彰国社																	
2	自然エネルギー利用のためのパッシブ建築設計手法 事典 新訂版	小玉祐一郎、他	彰国社編																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ヤマベの木構造 増補改訂版（エクスナレッジムック）これ一冊で分かる！木造住宅の構造設計</td> <td>山辺豊彦</td> <td>株式会社エクスナレッジ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ヤマベの木構造 増補改訂版（エクスナレッジムック）これ一冊で分かる！木造住宅の構造設計	山辺豊彦	株式会社エクスナレッジ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ヤマベの木構造 増補改訂版（エクスナレッジムック）これ一冊で分かる！木造住宅の構造設計	山辺豊彦	株式会社エクスナレッジ																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業外 課題レポート10回（各5点、計50点） 授業外 最終課題（20点） 授業（講義内）グループ又は個人課題（成果・による評価を行う。計30点） ※点数配分は授業や課題の理解度や進捗状況により適宜変更する場合があります。																			
学生への メッセージ	教科書や参考書の枠にとらわれず、自分で考え、何が重要なのかを常に追求して各課題に挑戦してください。また建材や材料の最新情報には興味を持って自主的に知識を増やしておくこと。																			
担当者の 研究室等	12号館7階 白鳥准教授室																			
備考	各授業の後に宿題として出される課題は改良し続けて行きますので本シラバスではなく、「授業中に発表される課題」を採択してください。※最終課題は日常より身の回りの素材の特性を良く観察し、それでどのように建築を構築できるか（構法・工法）を考えていることが大切になって来ます。 講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする																			

科目名	地球環境学	科目名(英文)	Global Environmental Studies
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	山川 肇

授業概要・目的	21世紀の社会において資源・環境問題は私たちの生活と密接に結びついたものとなっている。本授業では、初めに生活及びデザインと環境問題とのかかわりについて学び、自分が資源・環境問題とどのようにかかわっているかについて考える。その上で、地球温暖化とエネルギー問題、廃棄物・資源・有害物質の問題を中心に、広く都市や地球規模の環境問題・資源問題を学び、生活・建築・都市とのかかわりや対策について考えていく。 R科の学習・教育目標との対応：[D]
到達目標	都市や地球規模の資源・環境問題の基本的事項を理解するとともに、これらの問題と生活・住宅の設計・設備との関わり及びそれらへの対策を考えるための基礎力を養成することを目標とする。
授業方法と留意点	主にスライドと配布するプリントを用いて講義する。
科目学習の効果(資格)	本授業内容は、環境社会検定(ECO検定)の資格を得るのに有利であると共に、卒業後、実社会で仕事をしていく上で必ず役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 生活と環境問題	ガイダンス 私たちの生活と環境問題のつながり	学習内容と自分の生活、仕事とのかかわりを考える。
2	デザイン・建築と環境問題	建設業の環境影響の概要 デザインと環境問題のかかわり	学習内容と自分の生活、仕事とのかかわりを考える。
3	持続可能な開発という考え方	持続可能な開発という考え方 ハーマン・デイリーの3原則 持続可能な開発に向けた施策例	学習内容と自分の生活、仕事とのかかわりを考える。
4	環境問題の概要 地球温暖化の状況	環境問題の概要 地球温暖化の概要と影響	学習内容と自分の生活、仕事とのかかわりを考える。
5	温暖化対策と建築	家庭でできること 政府・企業の取り組み	学習内容と自分の生活、仕事とのかかわりを考える。
6	化石燃料と発電	エネルギーと環境問題 エネルギー資源概論 石油などの化石エネルギー資源の状況 発電のメカニズム	学習内容と自分の生活、仕事とのかかわりを考える。
7	再生可能エネルギーと原子力	再生可能エネルギーの特徴とFIT 原子力と揚水発電 放射性物質と放射性廃棄物	学習内容と自分の生活、仕事とのかかわりを考える。
8	日本の廃棄物処理の概要と越境移動	日本の物質フローと廃棄物の概要 焼却・ごみ発電・埋立 不法投棄・越境移動問題	学習内容と自分の生活、仕事とのかかわりを考える。
9	廃棄物問題の歴史と災害廃棄物	3Rの考え方 日本の廃棄物問題の歴史と対策 東日本大震災の災害廃棄物	学習内容と自分の生活、仕事とのかかわりを考える。
10	廃棄物・資源循環の法体系と建設系廃棄物の3R	日本の廃棄物・資源循環の法体系の概要 建設リサイクル法と解体廃棄物のリサイクル 建物の長期使用と中古住宅利用の促進	学習内容と自分の生活、仕事とのかかわりを考える。
11	建物の解体と有害物質	アスベスト、PCB廃棄物、水銀と蛍光灯、保存処理木材の問題の概要	学習内容と自分の生活、仕事とのかかわりを考える。
12	金属資源と非金属鉱物資源の状況	金属資源、非金属鉱物資源の消費量、埋蔵量の概要	学習内容と自分の生活、仕事とのかかわりを考える。
13	再生可能資源の状況	食料資源、土壌、水資源、木材の現状と課題	学習内容と自分の生活、仕事とのかかわりを考える。
14	自然保護と生物多様性	生態系と生物多様性の考え方 種の絶滅の状況 生物多様性を保全する取り組み	学習内容と自分の生活、仕事とのかかわりを考える。
15	その他の環境問題 まとめ	オゾン層破壊、越境移動汚染(酸性雨、PM2.5、黄砂)、海洋汚染、砂漠化の概要 大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音・振動・悪臭の概要 全体のふりかえり	学習内容と自分の生活、仕事とのかかわりを考える。

関連科目	環境工学演習、都市環境計画
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂4版 環境社会検定試験 eco検定公式テキスト	東京商工会議所 編著	日本能率協会マネジメントセンター
	2	3R・低炭素社会検定公式テキスト [第2版]	3R・低炭素社会検定委員会 編	ミネルヴァ書房
	3			

評価方法(基準)	毎回、授業後に提出する授業内容のまとめの評価(50%)とレポート試験の成績(50%)に基づき、評価します。
学生への	この講義では、地球環境問題に関する基礎知識だけでなく、私たちの生活や住宅の設計・設備との関わりを理解するために必要な知識を習得でき

メッセージ	ます。また、皆さん自身でその関わりを考えてもらいたいとも思っています。授業中の私語は慎み、集中して講義を聞くようにしましょう。わからないことがあれば、授業中に積極的に質問して下さい。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	講義に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする

科目名	構造デザイン入門	科目名(英文)	Introduction to Architectural Construction Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	白鳥 武

授業概要・目的	目的は建築構造の役割を理解し、建築構造デザインについての基礎知識・能力と実践的な応用力を取得することである。将来、建築設計、構造設計、設備設計、現場技術者、ハウスメーカー、建築材料の分野など、活躍の場は幅広いが、どの分野に進むにしても、基本となる知識が含まれているので、それらを習得する。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：住空間を対象とする環境技術と構造技術（専門コア群環境デザイン系の知識）[D] 建築構造デザインの源流と本質を理解する。広さ、長さ、高さを克服するための構造デザインの基礎を理解する。
授業方法と留意点	授業は教科書、スライド（PPT）、板書を使い講義形式で行う。 一部担当教員開発の実験教材を利用して講義の内容確認を行う。
科目学習の効果（資格）	一級建築士、二級建築士、木造建築士

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	鉄の歴史	古典的材料の鉄～近代的構造材料の鉄鋼	事前：該当部分を読むこと。 1-3
3	コンクリートの歴史	古典的～近代的構造材料のコンクリートの変遷	事前：該当部分を読むこと。 1-4
4	構造システム前史	広さ、長さ、高さへの挑戦	事前：該当部分を読むこと。 1-5
5	第2章 構造システムのタイプ（その1）	抵抗系別の構造システムその1	事前：該当部分を読むこと。 2-1～2-3
6	構造システムのタイプ（その2）	抵抗系別の構造システムその2	事前：該当部分を読むこと。 2-4～2-6
7	第3章 「広さ」を可能にする 構造デザイン	大スパン建築の変遷	事前：該当部分を読むこと。 3-1
8	大スパン建築の種類と構造システム（その1）	トラス、スペースフレーム、アーチ、ドーム	事前：該当部分を読むこと。 3-2-1～3-2-3
9	大スパン建築の種類と構造システム（その2）	シェル、テンション構造と膜構造、ハイブリッド、その他	事前：該当部分を読むこと。 3-2-4～3-2-6
10	大スパン建築の設計	大スパン建築の実例紹介	事前：該当部分を読むこと。 3-3
11	第4章 「長さ」を可能にする 構造デザイン	橋の変遷	事前：該当部分を読むこと。 4-1
12	橋の種類と構造システム	橋の形式と適用スパン、橋の構成と主要な部位、石橋～斜張橋等	事前：該当部分を読むこと。 4-2
13	橋の設計 3次元プリンターの世界	橋の設計事例紹介 3次元プリンターが施工現場に導入最新例を考えて行く	事前：該当部分を読むこと。 4-3
14	第5章 「高さ」を可能にする 構造デザイン	塔の変遷、塔の種類と構造システム、塔の設計	事前：該当部分を読むこと。 5-1～5-3
15	高層ビルと超高層ビル	高層ビルの変遷、高層ビルの種類と構造システム、実例	事前：該当部分を読むこと。 5-4～5-6

関連科目 構造力学入門、構造力学Ⅰ、Ⅱ、建築一般構造学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	[広さ][長さ][高さ]の構造デザイン	坪井善昭、等編著	株式会社建築技術
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築構造のしくみ 第二版 力の流れとかたち	川口 衛 他	彰国社
2	図説テキスト 建築構造 一構造システムを理解する 第二版	建築構造システム研究会編	彰国社
3	Structures. Seventh Edition	Daniel L. Schodek, Martin Bechthold	Pearson Education, Inc.

評価方法（基準） 授業内課題（グループまたは個人） 20%
ミニ課題又はミニレポート 50%
最終課題 30% 計 100%※
※各課題の評価配分は進捗状況、内容変更などに伴う複雑度等により変動します。

学生へのメッセージ 構造デザインは本来楽しいものです。建築の可能性を広げてくれる重要な学びです。計算ではなく、様々な構造システムの原理と特性を創造豊かに考えてみましょう。

担当者の研究室等 12号館7階 白鳥教員室

備考 必ず教科書を読み、課題に1時間以上費やすこと。積み重ねが重要です。講義に係る予復習は、毎回30分間程度を目安とする

科目名	建築法規	科目名(英文)	Building Code
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大上 直樹

授業概要・目的	建築基準法は単に建築行為を規制するだけのものではなく、国民の生命、健康及び財産の保護を図り、公共の福祉の増進を図ることを目的とし、建築が「単体としてもつべき基準」と「集団として持つべき基準」を定めている。その内容は関連する法令を含め広範多岐に亘っており、本来の趣旨と目的をよく理解した上で個別条項を理解していくことが大切である。 法の遵守は建築行為にあたりまず意識されるべきものであるが、近年建築関係者のコンプライアンスの欠如が大きな社会問題を引き起こした。そのため、建築を学ぶ段階から法の意味と内容をしっかりと理解し、遵法精神を育むことがより以上に求められている。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：人間生活と住環境に関する知識の習得[C] 建築関係法令として、建築基準法を中心に建築士法、都市計画法及び生活関連法規の概要を理解するとともに法令の見方、読み方を習得する。特に建築士受験科目でもあることに留意して、法律と施行令との関係など実践的な理解を深めることを目標とする。 また今後も考えられる法令の改正に対しても対応できる能力を養う。
授業方法と留意点	パワーポイントを使用した講義を中心に授業をおこなう。 授業はまず学生が法律の条文を読み、それを解説するという形式でおこなう。 15回の授業のうち、前半は用語の定義と単体規定、後半は集団規定を中心に講義をおこなう。中間と最後にまとめ及び考査をおこない到達度を確認する。
科目学習の効果(資格)	建築法規は「建築士」の受験には欠かすことが出来ない科目である。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 授業の進め方 憲法と法律	授業の進め方について説明をおこなう。 法律の導入として憲法を頂点とした法制度の全体像を俯瞰しその構成を論じる。	社会人・企業人として憲法や関係する法律は必須の教養です。 身の周りの法律について関心をもつ方がかりにしてください。
2	法文の構成 法令用語 建築士法	法文の構成や法令用語について理解する。 建築の資格法である建築士法について解説をおこなう。	法律、施行令の関係、基礎的な法律用語を早く理解し、早く法律の条文を読むことができるようにしてください。	
3	建築基準法 用語の定義 1	建築基準法であつた用語の定義について解説をおこなうとともに、少しずつ法令に慣れるよう心がける。	用語のひとつひとつは簡単に見えますが、用語が重なってくると理解するのが難しくなります。 確実に用語の定義を理解してください。	
4	建築基準法 用語の定義 2	同上	同上	
5	建築基準法 用語の定義 3	同上	同上	
6	建築基準法 単体規定 1 一般構造	居室の採光、換気など単体規定のうちでもっとも基礎的な規定について解説をおこなう。	建築を計画するうえで基礎的な規定です。この規定によって、居室に必要な環境を理解してください。	
7	建築基準法 単体規定 2 防火規定 1	防火の規定のうち、特殊建築物の防火の規定、防火壁等の規定について解説をおこなう。	防火の規定は建築基準法の中心的規定のひとつです。 安全、生命に直接関わる規定ですので十分に理解してください。	
8	建築基準法 単体規定 3 防火規定 2	防火の規定のうち、防火区画、防火設備について解説をおこなう。	同上	
9	建築基準法 中間のまとめと考査	用語の定義、一般構造、防火規定のまとめをおこない、考査をおこなう。	建築士試験と同様に法令集は持ち込み可能とします。	
10	建築基準法 単体規定 4 避難規定	避難規定である階段の規定について解説をおこなう。	避難規定も直接安全に関わる規定です。日ごろから階段の位置、構造について注意を払ってください。	
11	建築基準法 単体規定 5 構造規定	各種構造形式の構造規定について解説をおこなう。	構造計算の基礎となる規定です。安全に関わる規定ですので十分に理解してください。	
12	建築基準法 集団規定 1 都市区域	集団規定のうち、都市計画区域、道路の定義、用途地域について解説をおこなう。	都市計画によってさまざまな規定がありますので、自分の土地であっても自由に建築を建てられません。 周囲と調和した街づくりの基礎を理解してください。	
13	建築基準法 集団規定 2	集団規定のうち、防火上の地域、高さの制限について解説をおこなう。	同上	
14	建築基準法の関係法令 消防法 品確法 バリアフリー法	建築関係法令として、消防法、品確法、バリアフリー法について解説をおこなう。	建築は建築基準法だけを満たしても建てられません。さまざまな関係法令を満たす必要があります。 周辺の法律を理解してください。	
15	建築基準法 最後のまとめと考査	避難規定、構造規定及び集団規定のまとめをおこない考査をおこなう。	建築士試験と同様に法令集は持ち込み可能とします。	

関連科目	建築計画、建築設計など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基本建築基準法関係法令集 2016年版	建築資料研究社/日建学院	建築資料研究社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	2度の考査の成績(50%)と定期試験(50%)を用いて評価する。
学生への メッセージ	建築法規は“難解で面白くない”科目としてイメージされますが、人間が、安全・安心・快適に暮らしていくため、さまざまな代償を払い獲得してきた知恵の集大成です。身の回りの建物や市街地をあらためて観察してみてください。納得できるもの、疑問や危険を感じるもの、いろいろあるはずです。日頃の生活や人間行動とのつながりで法を見る目を養っていきましょう。 質問はいつでも歓迎です。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする

科目名	衣生活概論	科目名(英文)	Introduction to Clothing Lifestyles
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	小林 政司

授業概要・目的	快適な衣生活の実現に必要な知識を身に付けるために、出来るだけ身近な話題から「着用すること」の学問すなわち被服学をベースとする「衣生活」を総合的に捉えることを主な目的として授業を展開する。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：人間生活と住環境に関わる知識の習得[C] 衣生活に関心を持ち、授業で得たさまざまな知識をその改善に役立てる。
授業方法と留意点	衣服は人間の近接環境ととらえることもできる。繊維を主とする衣服の素材から製造、また購入からその利用、手入れとしての洗浄にいたるまでを、主として使う側の立場つまり消費科学的立場から概説する。授業はテキストないしはプリントを用いた講義形式で行う。【授業2, 3, 4, 13, 14の内容については、神戸ファッション美術館などの学外施設にて行う場合がある。その際の費用(入館料, 交通費)に関しては、受講生の負担となる。】
科目学習の効果(資格)	快適な衣生活を営むための基礎知識の修得。 生活環境(衣服=の近接環境)学的視野の拡張。 TES(繊維製品品質管理士)などの資格取得に活かせる知識の修得。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	衣生活の様式	講義	予習：自身の衣生活を振り返る 復習：衣生活改善策提案
3	アパレル素材(繊維)	講義	予習：所有衣服の素材調査 復習：所有衣服の素材確認
4	アパレル素材(糸, 布)	講義	予習：所有衣服の素材調査 復習：所有衣服の素材確認
5	衣服の色彩	講義	予習：視覚についての考察 復習：視覚実験の実施
6	染料と染色	講義	予習：所有衣服の染色調査 復習：所有衣服の染色確認
7	アパレル加工	講義	予習：所有衣服の加工調査 復習：所有衣服の加工確認
8	衣服の洗浄	講義	予習：衣服の洗浄実施 復習：洗浄方法の改善
9	洗剤と界面活性剤	講義	予習：自宅の洗剤調査 復習：市場の洗剤調査
10	衣服の管理	講義	予習：自身のワードローブ調査 復習：自身のワードローブ整理
11	衣服と生理	講義	予習：衣服の着心地調査 復習：衣服の着心地改善
12	アパレル産業	講義	予習：ファッション店舗などの視察 復習：ファッション店舗などの調査
13	デザインとファッション	講義	予習：ファッション店舗などの視察 復習：ファッション店舗などの調査
14	最近の研究成果	講義	予習：衣生活における研究対象の探索 復習：研究に対する提言をまとめる
15	まとめと総括レポート作成	講義・演習	予習：これまでの授業の総括 復習：これまでの授業の総復習

関連科目	住環境デザイン概論 住生活学Iなど
------	----------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント配布		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	もっとファッションがわかる本	山口恵子, 伊佐治せつ子, 小林政司他	おうふう
2	被服管理学	増子富美, 牛腸ヒロミ, 小林政司他	朝倉書店
3			

評価方法(基準)	統括レポート(筆記)の成績(約70%)および平常成績(約30%)で総合評価する。
学生へのメッセージ	非常勤講師として授業を担当します。よろしく願いたします。
担当者の研究室等	本務校：大阪樟蔭女子大学 学芸学部 被服学科
備考	授業の内容、進度等に関しては、学生の興味、理解度によって調整を行う。 受講生においては、授業時間外に必要な学修等を考慮し、各自十分な学修(予習・復習)時間を確保すること。 講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする。

科目名	インテリアデザイン論	科目名(英文)	Theory of Interior Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	川上 比奈子

授業概要・目的	インテリアと建築を切り離して考えるのではなく、住環境の中で、身体に近い建築空間としてインテリアを捉える。多様で複雑な現代の諸問題を解決し、生活をより豊かにするためには、どのような空間デザインがありうるかを提案するための基礎知識を獲得することを目標とする。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：住環境を対象とする計画技術（専門コア群空間デザイン系の知識） [E]
授業方法と留意点	毎回、スライドおよび動画をを用いて、講義する。また①本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、②不正行為防止対策としての技術者倫理についてインテリアデザイン論に関連する内容の解説を行う。
科目学習の効果(資格)	インテリアコーディネーター 2級建築士 1級建築士 福祉住環境コーディネーター 商業施設士

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	インテリアデザイン論の概要	さまざまな空間体験と記録(スケッチ、メモ、実測)
2	インテリアエレメントについて	インテリアエレメントの概要	さまざまな空間体験と記録(スケッチ、メモ、実測)
3	インテリアエレメント 床・壁・天井	インテリアエレメント 床・壁・天井について、プリント、映像によって講義	さまざまな空間体験と記録(スケッチ、メモ、実測)
4	インテリアエレメント 開口部・巾木・回り縁・階段	インテリアエレメント 開口部・巾木・回り縁・階段について、プリント、映像によって講義	さまざまな空間体験と記録(スケッチ、メモ、実測)
5	インテリアエレメント 家具	インテリアエレメント 家具について、プリント、映像によって講義	さまざまな家具に座ることと記録(スケッチ、メモ、実測)
6	インテリアエレメント 照明	インテリアエレメント 照明について、プリント、映像によって講義	さまざまな照明空間を体験することと記録(スケッチ、メモ、実測)
7	現代のインテリア・建築デザイン 海外のデザイナー	海外のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ)
8	現代のインテリア・建築デザイン 日本のデザイナー	日本のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ、実測)
9	近代のインテリア・建築デザイン 海外のデザイナー 西欧	近代のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ)
10	近代のインテリア・建築デザイン 海外のデザイナー 北欧	近代のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ)
11	近代のインテリア・建築デザイン 日本のデザイナー	近代のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ)
12	インテリア計画とデザインのプロセス	インテリア計画とデザインのプロセスについて、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ)
13	インテリア計画と工法のプロセス	インテリア計画と工法のプロセスについて、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ)
14	インテリア・建築デザインと表現方法	インテリア・建築デザインと表現方法について、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ)
15	まとめと試験	これまでの講義のまとめと試験	授業内容をよく復習しておくこと

関連科目 インテリアデザイン演習 設計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 近代デザイン史 建築空間論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 授業内の講義メモなど提出物 30% 試験 70%

学生へのメッセージ インテリアデザインに関する基礎知識を獲得する最良の方法は、実際の空間デザインを体験しておくことです。日頃から、商業施設、公共施設、住宅など、自発的にさまざまな空間の体験を心がけてください。

担当者の研究室等 12号館7階 川上教授室

備考 展覧会やインテリアデザインの実物を見学することがある
インテリアデザイン、空間デザイン業界から専門家を招くことがある
講義に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする

科目名	地域計画学	科目名(英文)	Regional Planning
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂本 淳二

授業概要・目的	日本の都市計画で策定される諸要素(土地利用, 交通施設, 公園緑地, 生活施設), 市街地整備事業について, それぞれ策定する意義と制度の内容について講義する。また, 近隣住区理論, 地区計画といった住環境を計画する上での計画論, 制度を取り上げ解説する。
到達目標	○都市計画の様々な分野の計画の基本的理論・事項を理解する。 ○地域計画を検討する上での姿勢, 必要な要素を理解する。 学科の学習・教育目標との対応: 生活文化・住環境デザインに関連する技術の修得[E]
授業方法及び留意点	特定の教科書は指定せず, 毎回の内容に該当する資料を配付。
科目学習の効果(資格)	一級建築士・二級建築士・木造建築士など

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 地域・都市計画とは何か	講義の方針, 概要, スケジュール及び地域・都市計画で検討される諸要素を概説する。	シラバスを読んでおくこと。 配付資料の要点を復習しておくこと。
2	都市計画の系譜	近代都市(住宅地)計画の成立過程について, 英国と日本の事例を通して解説する。	前回配付資料を読んでおくこと。配付資料の要点を復習しておくこと。	
3	土地利用計画1 区域区分・用途地域	都市計画における土地利用の意味と都市計画区域, 区域区分, 用途地域について解説する。	前回配付資料を読んでおくこと。配付資料の要点を復習しておくこと。	
4	土地利用計画2 土地利用と建築形態規制	建築物の形態規制(主に斜線規制)とその緩和措置について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。	
5	近隣住区理論とその展開	住宅地計画において世界中で活用されている「近隣住区理論」と, 英国・日本における展開・批判・応用について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。	
6	都市交通計画1 都市における交通とその特性	都市における交通の特性, 都市交通を把握する調査, 公共輸送について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。	
7	都市交通計画2 都市内街路計画	都市内街路の機能とネットワーク, 歩車共存道路について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。	
8	公園緑地計画1 都市における公園・緑地の機能	都市における公園・緑地の機能と住区基幹公園(街区・近隣公園)について解説する。	前回配付資料を読んでおくこと。配付資料の要点を復習しておくこと。	
9	公園緑地計画2 都市公園の配置システム	地区公園, 都市基幹公園及び都市における公園配置の基本的な考え方について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。	
10	公共・生活施設の機能と立地	地区住民主体で策定される都市計画である都市計画(住宅地の緑地)「地区計画」の基本内容を解説。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。	
11	地区計画制度とその活用	地区住民主体で策定される都市計画である「地区計画」の基本内容とその利用法を解説する。	前回配付資料を読んでおくこと。配付資料の要点を復習しておくこと。	
12	市街地整備事業1 土地区画整理事業の仕組み	日本の市街地整備事業の概要と種類, 土地区画整理事業の目的と特性, 事業上の考慮事項を解説する。	前回配付資料を読んでおくこと。配付資料の要点を復習しておくこと。	
13	市街地整備事業2 土地区画整理事業の課題 市街地再開発事業	土地区画整理事業の有する課題, 及び市街地再開発の目的, 事業上の特性について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。	
14	地域計画の進め方1 都市近郊農村地域の変容	具体的事例として, 都市近郊農村集落の事例を取り上げる。日本の農山漁村の変容, 特に混住化が進む都市近郊農村の問題を解説する。	前回配付資料を読んでおくこと。配付資料の要点を復習しておくこと。	
15	地域計画の進め方2 都市近郊集落計画を事例として	都市近郊集落での集落地区整備計画を基に, 地域計画のプロセスと考慮事項について解説する。	前回配付資料を読んでおくこと。配付資料の要点を復習しておくこと。	

関連科目 一級建築士などの資格試験に出題される範囲が一部含まれている。授業としては建築計画学や住居計画学や建築法規が関連している。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	都市計画 シリーズ(建築工学) 7	荻島哲編著	朝倉書店
2	新・都市計画概論	加藤晃	共立出版社	
3	新建築学大系 20 住宅地計画	土肥博至・御船哲	彰国社	

評価方法(基準) 試験(70%), レポート(20%), 講義内的小テスト(10%)で評価する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 12号館6階 坂本教授室

備考

科目名	宅地建物取引概論	科目名(英文)	Introduction to Real Estate Transaction
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	南村 幸児

授業概要・目的	宅地や建物は、我々の生活に欠かせない身近なものであるにも関わらず、それらを取り巻く権利関係、法律等は複雑かつ難解である。本科目では、宅地及び建物の取引に関係する法律、特に民法、不動産登記法、宅地建物取引業法などの法律を取り上げ、実社会における取引及びその関係法律についての基本的知識を習得することを目的とする。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：人間生活と住環境に関わる知識の習得[C] 宅地建物取引に関する基本的知識を習得すれば、不動産業界や金融機関等でその知識を活かすことができる。
授業方法と留意点	各回の授業は、講義形式を中心に、適宜発表や設問を課して理解を深める方法で進める。講義は教科書を中心に進行し必要があればプリントを配布する。教科書以外に参考書として六法（携帯用の小さい六法であれば何でも可）を持参することが望ましい。
科目学習の効果(資格)	宅地建物取引士資格試験における必要最低限の知識を習得することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	不動産を取り巻く法制度	民法、不動産登記法、建築基準法、都市計画法その他の概要	事前に、教科書について目次を中心に目を通しておくこと
2	民法(基本原則)	民法とは、契約とは、私的自治の原則、所有権絶対の原則、過失責任の原則	前回終了時に与えた課題を事前に準備すること
3	民法(権利の主体、権利の客体)	権利能力、意思能力、行為能力、物の意義及び分類	前回終了時に与えた課題を事前に準備すること
4	民法(法律行為)	意思表示、意思の欠缺、瑕疵ある意思表示	前回終了時に与えた課題を事前に準備すること
5	民法(代理)	代理の意義、無権代理、表見代理	前回終了時に与えた課題を事前に準備すること
6	民法(物権法定主義、物権の種類)	所有権、用益物権、担保物権、物権の公示	前回終了時に与えた課題を事前に準備すること
7	民法(抵当権)	被担保債権と抵当権、根抵当権	前回終了時に与えた課題を事前に準備すること
8	民法(契約総論)	契約の成立、債務不履行、解除	前回終了時に与えた課題を事前に準備すること
9	民法(売買契約、賃貸借契約)	売買契約の特徴、瑕疵担保責任、賃貸借契約の特徴、借地借家法	前回終了時に与えた課題を事前に準備すること
10	民法(相続)	相続とは、相続人と相続分、遺産分割、遺言	前回終了時に与えた課題を事前に準備すること 終了時に小テストを行う
11	不動産登記法	不動産登記制度の意義、登記の種類	前回終了時に与えた課題を事前に準備すること
12	宅地建物取引業法(概要)	宅地建物取引業とは、営業保証金制度	前回終了時に与えた課題を事前に準備すること
13	宅地建物取引業法(業務及び監督)	業務の処理上守るべき具体的事項、行政庁の監督及び処分	前回終了時に与えた課題を事前に準備すること
14	法令上の制限	国土利用計画法、都市計画法、建築基準法、農地法等	前回終了時に与えた課題を事前に準備すること
15	宅地建物に関する税金	贈与税、相続税、不動産取得税、固定資産税等	前回終了時に与えた課題を事前に準備すること 終了時に小テストを行う

関連科目 法学入門、住環境管理学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2016年度版 みんなが欲しかった!宅建士の教科書	滝澤 ななみ 著	TAC 出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験60%、小テスト・発表等の平常点40%で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	不動産を取り巻く様々な法律を知れば、今後の社会生活において大きな財産となる。また、講義で取り上げる知識があれば、社会の仕組みをより理解できるようになる。是非、受け身ではなく、積極的な姿勢で受講することを望む。
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	授業時間外での質問等は、メールで受け付ける。メールアドレスは次のとおり。 namura76@gmail.com 講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする

科目名	マンション管理学	科目名(英文)	Condominium Management
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平田 陽子

授業概要・目的	住宅の中に占めるマンションの割合は増加している。それらを適切に維持管理し、建物の資産価値とともに居住性を向上させることは、重要な課題である。マンションは、その所有形態の複雑さから特別な管理方法が必要である。マンションの所有と管理方法、それを取り巻く法制度について学び、比較をする意味で賃貸住宅管理の事例についても学ぶ。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：生活文化・住環境デザインに関連する技術の修得[E] 集合住宅の建築物としての特徴を理解したうえで、管理についての建築的側面、法制度の面、生活上の工夫などの基礎的知識を身につける。
授業方法と留意点	プリント資料とパワーポイントを用いた講義とする。 授業の中ほどで、中間テストを行う予定である。
科目学習の効果(資格)	一級建築士、二級建築士、マンション管理士

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業のガイダンス、なぜマンション管理を学ぶのか	日本におけるマンションの現状、マンション管理を学ぶ意義	授業終了時に簡単なチェックテストを行う
	2	マンションとは何か	マンションの定義と歴史	授業終了時に簡単なチェックテストを行う
	3	マンションの所有の仕組み	区分所有、区分所有法	授業終了時に簡単なチェックテストを行う
	4	マンション管理と管理組合	管理組合、分譲会社の役割、管理組合の役割と管理システム	授業終了時に簡単なチェックテストを行う
	5	管理組合の運営(1)	規約、集会	授業終了時に簡単なチェックテストを行う
	6	管理組合の運営(2)	理事会と理事、管理者	授業終了時に簡単なチェックテストを行う
	7	管理組合の運営(3)	管理会社、管理組合法人、管理費・修繕積立金	授業終了時に簡単なチェックテストを行う。中間テストの準備を行う
	8	これまでの講義のまとめと中間テスト	これまでの講義のまとめと中間テスト	中間テストの復習をする
	9	マンションの修繕、維持管理	計画修繕、大規模修繕の進め方	授業終了時に簡単なチェックテストを行う
	10	マンションの建て替え	合意形成、マンション建て替え円滑化法	授業終了時に簡単なチェックテストを行う
	11	マンションの生活管理	借家人の管理責任、マンションにおけるコミュニティ	授業終了時に簡単なチェックテストを行う
	12	マンションをめぐる問題と行政の対応	マンション管理適正化法、管理標準指針、みらいネット	授業終了時に簡単なチェックテストを行う
	13	賃貸住宅の管理(1)	賃貸住宅の管理とは?	授業終了時に簡単なチェックテストを行う
	14	賃貸住宅の管理(2)	原状回復などのトラブルと解決方法	授業終了時に簡単なチェックテストを行う
		まとめ	まとめの講義とテスト	これまでの講義内容を復習しておくこと

関連科目	住生活学Ⅰ、住環境管理学、地域計画学
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	チェックテスト 20%、中間テスト 30%、まとめのテスト 50%で、総合的に評価する。 授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなしますので、注意してください。
----------	--

学生へのメッセージ	授業のほかにも、身近にあるマンションを見学したり、管理の実際の話聞くことで、マンション管理への関心が高まり、理解が深まると思います。
-----------	--

担当者の研究室等	1 2 号館 7 階 平田教授室
----------	------------------

備考	講義に係る予復習は、毎回 1 時間程度を目安とする
----	---------------------------

科目名	プロダクトデザイン演習 I	科目名 (英文)	Exercises in Product Design I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	稲地 秀介

授業概要・目的	<p>この演習はヒューマンスケールのプロダクトを製作するなど、デザイン志向の学生を対象とするプログラムである。これまで個別に学習した様々な基礎的なデザインに関する知識を具体的な実践課題を通して総合化することを目的としている。プロダクト製作を通して、材料の特性を活かした機能や造形、加工法などプロダクトデザインにおける基礎的なデザイン能力を獲得する。</p> <p>プログラムは2つからなる。A)木工プログラムとB)商品企画プログラムである。どちらか一方を履修する。ただし、A)木工プログラムは安全確保の観点から受講者数を最大16人に限定している。</p> <p>また、履修登録前に受講希望者数を確認することを目的に事前登録を行う。定員より受講希望者が大幅に多い場合には、抽選により受講者を決定する。</p>
---------	---

到達目標	<p>プロダクトデザインに関する基礎的能力の習得を目標とする。具体的には、①問題発見能力、②問題解決能力（創造力）、③コミュニケーション能力（伝える力）である。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：調査・分析能力、デザイン力、コミュニケーション力[F]</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>プログラムは2つからなる。A)木工プログラムとB)商品企画プログラムである。どちらか一方を履修する。</p> <p>A)木工プログラム 木を材料とした小物制作（設計・加工）から木材の特性を体験を通して理解するとともに基礎的な設計・製図を学ぶ。次に、簡単な椅子などの自分達の身体寸法にあった木工家具の製作を行う。定員は16人とする。製作材料などの費用がかかる。安全指示に従い、正しい服装や態度などを保つことが求められる。指示に従わない場合は、安全確保のため受講中止することがある。</p> <p>B)商品開発プログラム 演習はレクチャーと実習からなっている。商品開発からデザインまでを担当する模擬開発者として、そのプロセスを学ぶ。具体的には、①情報収集・分析手法から、課題を見つける。②ブレインストーミングなどでアイデア出しをしてアイデアシートにまとめる。③商品化決定したアイデアを、デザインする。④デザインしたものを、利用者にわかりやすく伝える。これらは連続した実習として行うため、欠席することは演習を進める上で大きな障害となるので注意すること。演習の内容は受講者の作業進行状況に合わせて適宜変更する。また、演習作業に必要な材料は各自授業進行に合わせて購入準備すること。</p>
----------	--

科目学習の効果（資格）	インテリアプランナー、インテリアコーディネーター資格および本学科の空間デザインに関係する科目。
-------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	A) ガイダンス B) ガイダンス・レクチャー（商品開発の現場）	A) 目的、演習概要説明 B) 目的、演習概要説明および商品開発の現場についてその概要をレクチャーする	A) 課題内容を理解し、過去の参考作品から作業工程などを検討、把握しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
2	A) レクチャー B) レクチャー（商品開発の現場）	A) 目的、演習概要説明 B) 商品開発の現場についてその概要をレクチャーする	A) 課題内容を理解し、過去の参考作品から作業工程などを検討、把握しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
3	A) 小作品製図1 B) レクチャー（商品開発の現場）	A) 製図法の修得 B) 商品開発の現場についてその概要をレクチャーする	A) 基本的な家具製図法を参考文献などで確認しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
4	A) 小作品製図2 B) レクチャー（企画・デザイン）	A) 製図法の修得 B) 企画・デザインに必要な考え方についてレクチャーする	A) 基本的な家具製図法を参考文献などで確認しておく。図面の未完成部分を次回演習授業までに補っておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
5	A) 小作品製図3 B) レクチャー（企画・デザイン）	A) 製図法の修得 B) 企画・デザインに必要な考え方についてレクチャーする	A) 基本的な家具製図法を参考文献などで確認し、事前に図面不整合部分を修正しておく。図面の未完成部分を次回演習授業までに完成させておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
6	A) 小作品制作1（部品切り出し） B) 実習1	A) 図面から加工行程へ（図面提出） B) 想定企業を検討するための資料を収集する	A) 完成した図面から作業工程を再度確認し、事前に加工方法をデザイン工房1に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
7	A) 小作品制作2（接合部加工） B) 実習2	A) 図面から加工行程へ B) 想定企業を検討するための資料を収集する	A) 完成した図面から作業工程を再度確認し、事前に加工方法をデザイン工房1に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
8	A) 小作品制作3（接合部加工、組立て） B) 実習3	A) 加工行程 B) 想定企業を決定する	A) 完成した図面から作業工程を再度確認し、事前に加工方法をデザイン工房1に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
9	A) 小作品制作4（組立て、仕上げ加工） B) 実習4	A) 加工工程から仕上げ工程へ B) 模擬開発者として情報収集・分析を行う	A) 仕上げ工程の注意点を事前にデザイン工房1に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
10	A) 小作品制作5（仕上げ加工） B) 実習5	A) 仕上げ工程（提出） B) 模擬開発者として情報収集・分析を行う	仕上げ工程の注意点を事前A)にデザイン工房1に設置の参考図書で学習しておく。演習時間内に完成できなかった場合には、必ず次回までに完成させておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
11	A) 木工家具レクチャー1 B) 実習6	A) 小作品の講評、木の特性とデザインについての基礎的レクチャー B) 模擬開発者として情報収集・分析を行う	A) 課題書を良く読んで、演習前にデザイン案を検討し、10点描いて演習に出席すること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
12	A) 木工家具レクチャー2 B) 実習7	A) デザインと加工方法について基礎的レクチャー B) 模擬開発者として情報収集・分析をまとめる（課題提出）	A) レクチャーを受けて、事前に作成した自分のデザイン案の実現可能性について検討し、改善案を作成したうえで次回演習に出席すること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
13	A) 木工家具デザイン1	A) 木工家具デザイン作業（エスキースチ	A) 改善案に対するコメントを元に、さらなる改善案を

	B) 実習 8	エック) B) プレゼンストリーミング	作成すること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
14	A) 木工家具デザイン 2 B) 実習 9	A) 木工家具デザイン作業 (デザイン決定) B) プレゼンストリーミング	A) 最終デザイン決定案の加工工程を事前検討し、部品加工イメージを組み立てたうえで演習に出席すること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
15	A) 木工家具製図 1 B) 実習 10	A) 木工家具製図作業 B) プレゼンストリーミング	A) ミニオブジェ製作での図面やデザイン工房 1 に設置の参考図書を参考にして製図を進めること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
16	A) 木工家具製図 2 B) 実習 11	A) 木工家具製図作業 B) プレゼンストリーミングをまとめる (課題提出)	A) ミニオブジェ製作での図面やデザイン工房 1 に設置の参考図書を参考にして製図を進めること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
17	A) 木工家具製図 3 B) 実習 12	A) 木工家具製図作業 B) アイデアシート作成 (ニーズ・ネーミング・売り言葉など)	A) ミニオブジェ製作での図面やデザイン工房 1 に設置の参考図書を参考にして製図を進めること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
18	A) 木工家具製図 4 B) 実習 13	A) 木工家具製図作業 (図面提出) B) アイデアシート作成 (ニーズ・ネーミング・売り言葉など)	A) 次回演習までに部品加工のイメージを組み立ておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
19	A) 木工家具加工 1 B) 実習 14	A) 木工家具加工工程 (部品切り出し) B) アイデアシート作成 (ニーズ・ネーミング・売り言葉など)	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
20	A) 木工家具加工 2 B) 実習 15	A) 木工家具加工工程 (部品切り出し) B) アイデアシート作成 (ニーズ・ネーミング・売り言葉など) (課題提出)	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
21	A) 木工家具加工 3 B) 実習 16	A) 木工家具加工工程 (接合部加工) B) 商品化案を決定 (デザイン、ラフモデル作成)	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
22	A) 木工家具加工 4 B) 実習 17	A) 木工家具加工工程 (部品切り出し) B) 商品化案を決定 (デザイン、ラフモデル作成)	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
23	A) 木工家具加工 5 B) 実習 18	A) 木工家具加工工程 (接合部加工) B) 商品化案を決定 (デザイン、ラフモデル作成)	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
24	A) 木工家具加工 6 B) 実習 19	A) 木工家具加工工程 (接合部加工) B) 商品化案を決定 (デザイン、ラフモデル作成)	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
25	A) 木工家具加工 7 B) 実習 20	A) 木工家具加工工程 (接合部加工) B) 商品化案を決定 (デザイン、ラフモデル作成) (課題提出)	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
26	A) 木工家具組立と仕上げ 1 B) 実習 21	A) 木工家具組立と仕上げ行程 B) 伝える方法の検討制作 (ポスター・全紙広告・カタログなど)	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。塗装する場合には塗料や塗装道具を自分で用意しておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
27	A) 木工家具組立と仕上げ 2 B) 実習 22	A) 木工家具組立と仕上げ行程 B) 伝える方法の検討制作 (ポスター・全紙広告・カタログなど)	自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。塗装する場合には塗料や塗装道具を自分で用意しておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
28	A) 木工家具組立と仕上げ 3 B) 実習 23	A) 木工家具組立と仕上げ行程 B) 伝える方法の検討制作 (ポスター・全紙広告・カタログなど) (課題提出)	自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。塗装する場合には塗料や塗装道具を自分で用意しておくこと。作品を完成させておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
29	講評会 1	講評会を行う	作品のプレゼンテーション準備をしてから演習に参加すること。
30	講評会 2	講評会を行う	作品講評内容を理解し、今後のデザインに活かせるように、まとめておくこと。

関連科目 プロダクトデザイン論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ウラからのぞけばオモテが見える	佐藤オオキ, 川上典李子	日経 BP 社
2			
3			

評価方法 (基準) A) 制作過程における評価 50%、完成作品評価 50%
B) 演習課題評価 (60%)、プレゼン (20%)、授業態度 (20%)

学生へのメッセージ 我々は日常的に様々なプロダクトデザインに接している。特にこの演習は短時間で集中的に学ぶプログラムとなっているため、日頃からプロダクトデザインに対して高い意識をもって過ごすことでより有意義な演習となる。

担当者の研究室等 12号館7階 稲地准教授室

備考 A) 製作に使用する材料などの購入費用がかかる。木加工は大変危険であるため、服装や行動には注意が必要である。安全指示に背き、受講を続けることが危険と判断される場合には、演習中でも受講中断することがある。
B) 模型やプレゼンテーションに使用する材料・用具などを購入費用がかかる (モデルボード、カッティングシート、イラストレーションマーカーなど)。
演習に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする

科目名	プロダクトデザイン演習Ⅱ	科目名(英文)	Exercises in Product Design II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	稲地 秀介

授業概要・目的	プロダクトデザインや建築やまちづくりの現場では、使い手、使われる状況、使われる期間回数...など多種多様なデザイナーとして捉えるべき課題がある。プロダクトデザイン演習Ⅱでは、これらのことを踏まえ、特にプロダクトデザイン分野において企画からデザインまでの一連の行程で必要となる、①問題発見能力、②問題解決能力(創造力)、③コミュニケーション能力(伝える力)を学ぶことを目的として演習を行う。
到達目標	①問題発見能力、②問題解決能力(創造力)、③コミュニケーション能力(伝える力) 学科の学習・教育目標との対応:[F]
授業方法と留意点	演習はレクチャーと実習からなっている。商品開発からデザインまでを担当する模擬開発者として、そのプロセスを学ぶ。具体的には、①情報収集・分析手法から、課題を見つける。②ブレインストーミングなどでアイデア出しをしてアイデアシートにまとめる。③商品化決定したアイデアを、デザインする。④デザインしたものを、利用者にわかりやすく伝える。これらは連続した実習として行うため、欠席することは演習を進める上で大きな障害となるので注意すること。演習の内容は受講者の作業進行状況に合わせて適宜変更する。また、演習作業に必要な材料
科目学習の効果(資格)	インテリアプランナー、インテリアコーディネーターなど

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・レクチャー(商品開発の現場)	目的、演習概要説明および商品開発の現場についてその概要をレクチャーする	演習の内容をまとめておくこと
2	レクチャー(商品開発の現場)	商品開発の現場についてその概要をレクチャーする	演習の内容をまとめておくこと
3	レクチャー(商品開発の現場)	商品開発の現場についてその概要をレクチャーする	演習の内容をまとめておくこと
4	レクチャー(企画・デザイン)	企画・デザインに必要な考え方についてレクチャーする	演習の内容をまとめておくこと
5	レクチャー(企画・デザイン)	企画・デザインに必要な考え方についてレクチャーする	演習の内容をまとめておくこと
6	実習1	想定企業を検討するための資料を収集する	演習の内容をまとめておくこと
7	実習2	想定企業を検討するための資料を収集する	演習の内容をまとめておくこと
8	実習3	想定企業を決定する	演習の内容をまとめておくこと
9	実習4	模擬開発者として情報収集・分析を行う	演習の内容をまとめておくこと
10	実習5	模擬開発者として情報収集・分析を行う	演習の内容をまとめておくこと
11	実習6	模擬開発者として情報収集・分析を行う	演習の内容をまとめておくこと
12	実習7	模擬開発者として情報収集・分析をまとめる(課題提出)	演習の内容をまとめておくこと
13	実習8	ブレインストーミング	演習の内容をまとめておくこと
14	実習9	ブレインストーミング	演習の内容をまとめておくこと
15	実習10	ブレインストーミング	演習の内容をまとめておくこと
16	実習11	ブレインストーミングをまとめる(課題提出)	演習の内容をまとめておくこと
17	実習12	アイデアシート作成(ニーズ・ネーミング・売り言葉など)	演習の内容をまとめておくこと
18	実習13	アイデアシート作成(ニーズ・ネーミング・売り言葉など)	演習の内容をまとめておくこと
19	実習14	アイデアシート作成(ニーズ・ネーミング・売り言葉など)	演習の内容をまとめておくこと
20	実習15	アイデアシート作成(ニーズ・ネーミング・売り言葉など)(課題提出)	演習の内容をまとめておくこと
21	実習16	商品化案を決定(デザイン、ラフモデル作成)	演習の内容をまとめておくこと
22	実習17	商品化案を決定(デザイン、ラフモデル作成)	演習の内容をまとめておくこと
23	実習18	商品化案を決定(デザイン、ラフモデル作成)	演習の内容をまとめておくこと
24	実習19	商品化案を決定(デザイン、ラフモデル作成)	演習の内容をまとめておくこと
25	実習20	商品化案を決定(デザイン、ラフモデル作成)(課題提出)	演習の内容をまとめておくこと
26	実習21	伝える方法の検討制作(ポスター・全紙広告・カタログなど)	演習の内容をまとめておくこと
27	実習22	伝える方法の検討制作(ポスター・全紙広告・カタログなど)	演習の内容をまとめておくこと
28	実習23	伝える方法の検討制作(ポスター・全紙広告・カタログなど)	演習の内容をまとめておくこと
29	実習24	伝える方法の検討制作(ポスター・全紙広告・カタログなど)(課題提出)	演習の内容をまとめておくこと
30	プレゼンテーション	模擬商品化決定会議を行う	プレゼンテーション用資料を完成させておくこと

関連科目	プロダクトデザイン論、プロダクトデザイン演習Ⅰ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	演習課題評価 (60%)、プレゼン (20%)、授業態度 (20%)		
学生への メッセージ	我々は日常的に様々なプロダクトデザインに接している。特にこの演習は短時間で集中的に学ぶプログラムとなっているため、日頃からプロダクトデザインに対して高い意識をもって過ごすことでより有意義な演習となる。		
担当者の 研究室等			
備考	模型やプレゼンテーションに使用する材料・用具などを購入費用がかかる (モデルボード、カッティングシート、イラストレーションマーカーなど)。 演習に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする		

科目名	空間表現演習Ⅰ (CADⅠ)	科目名 (英文)	Exercises in Spatial Presentation I (CADⅠ)
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	榊 愛

授業概要・目的	2次元CAD・3次元CADの基本操作を学習し、建物の図面・パースを作成する演習を行う。コンピュータを用いた空間表現に関する基礎的な技術を修得することを目的とする。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：演習や実験・実習を通じての基礎的なデザイン能力の修得[F] 自分が思い描く建築空間を、コンピュータを用いて的確に表現できるようになることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業中に課題を与えながら、演習を中心として進める。集中して作業をすれば授業時間内に課題を完成できる。授業の進行に差し支えるため、遅刻、欠席をしないこと。
科目学習の効果 (資格)	CAD利用技術者試験、CGエンジニアリング検定など。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前学習	事後学習
1	イントロダクション、2DCADの基礎1	授業内容、進め方、評価基準に関する説明 CADの概要、基本操作、基本設定	事前学習：2DCADについて調べる 事後学習：2DCADが使われている身近な事例について調べる	
2	2DCADの基礎2	基本コマンド (作成)	事前学習：前回の内容を復習する 事後学習：作成コマンドを復習し、確実に修得する	
3	2DCADの基礎3	基本コマンド (修正)	事前学習：前回の内容を復習する 事後学習：修正コマンドを復習し、確実に修得する	
4	2DCADの基礎4	基本コマンド (文字記入、寸法記入)	事前学習：前回の内容を復習する 事後学習：文字記入・寸法記入コマンドを中心に復習し、確実に修得する	
5	2DCADの基礎5	基本コマンド (スタイル設定、ハッチング、ラスタ、ブロック、印刷、保存など)	事前学習：前回の内容を復習する 事後学習：これまでの内容を復習し、確実に修得する	
6	2DCADを用いたカフェ図面模写	平面図 (躯体部分)・断面図 (躯体部分)の作成	事前学習：図面の表記ルールを復習する 事後学習：課題を仕上げて提出する	
7	2DCADを用いた住宅図面模写1	1F平面図の作成	事前学習：図面をよく見て空間構成を把握し、平面図の表記ルールを復習しておく 事後学習：課題を仕上げて提出する	
8	2DCADを用いた住宅図面模写2	断面図の作成	事前学習：図面をよく見て空間構成を把握し、断面図の表記ルールを復習しておく 事後学習：課題を仕上げて提出する	
9	2DCADを用いた住宅図面模写3 2DCADを用いたカフェ設計課題1	(住宅図面模写) 2F平面図の作成 (カフェ設計課題) エスキスチェック1	事前学習：基本コマンド、図面の表記ルールを復習しておく カフェのタイトル、コンセプトを決めて、下描き図面を完成させておく 事後学習：課題を仕上げて提出する。	
10	2DCADを用いた住宅図面模写4 2DCADを用いたカフェ設計課題2	(住宅図面模写) 立面図の作成 (カフェ設計課題) エスキスチェック2	事前学習：図面をよく見て空間構成を把握し、立面図の表記ルールを復習しておく 事後学習：課題を仕上げて提出する	
11	2DCADを用いたカフェ設計課題3	平面図 (設計部分) の作成	事前学習：平面図の表記ルールを復習する 事後学習：平面図を完成させる	
12	2DCADを用いたカフェ設計課題4	断面図 (設計部分) の作成	事前学習：断面図の表記ルールを復習する 事後学習：断面図を完成させる	
13	3DCADの基礎1	3Dモデリング基本操作	事前学習：3DCADについて調べる 事後学習：3DCADが使われている身近な事例について調べる	
14	3DCADを用いた住宅パース作成1	各パーツのモデリング	事前学習：モデリングの基本操作を復習しておく 事後学習：各パーツのモデリングを完成させる	
15	3DCADを用いた住宅パース作成2	パーツの統合、パースの作成 授業のまとめ	事前学習：パースの作り方に関する操作方法を復習しておく 事後学習：パースを完成させる	

関連科目	図形科学、空間表現演習Ⅱ (CADⅡ)、設計演習など。
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題・小テスト (80%)、演習態度 (20%) を総合的に評価する。
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	より良い作品ができるよう、向上心を持って集中して取り組んでください。
-----------	------------------------------------

担当者の研究室等	12号館 7階 榊准教授室
----------	---------------

備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする
----	-------------------------

科目名	空間表現演習Ⅱ (CADⅡ)	科目名 (英文)	Exercises in Spatial Presentation II (CADII)
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	榑 愛

授業概要・目的	コンピュータグラフィクス (CG)、画像処理ソフト、ドローイングソフト、GIS (地理情報システム) など、さまざまなソフトを用いて空間表現に関する演習を行う。 コンピュータを用いた空間表現の高度な技術を修得することを目的とする。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：演習や実験・実習を通じての基礎的なデザイン能力の修得[F] 都市、建築、インテリアなどの空間を、コンピュータを用いて的確に、効果的に表現できるようになることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業中に課題を与えながら、演習を中心として進める。集中して作業をすれば授業時間内に課題を完成できる。授業の進行に差し支えるため、遅刻、欠席をしないこと。
科目学習の効果 (資格)	空間表現に関わる高度な技術を身につけられる

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス プレゼンテーション 1	授業内容、進め方、評価基準に関する説明 テーマに関連するレクチャー、基本操作	事前学習：Photoshop, Illustrator がどのようなソフトか事例を見て理解しておく 事後学習：基本操作を復習する
2	プレゼンテーション 2	文字の入力、画像の挿入	事前学習：前回の内容を復習し身に付けておく 事後学習：各自のデータで授業と同じ操作を復習する
3	プレゼンテーション 3	レイアウト調整、印刷	事前学習：前回までの操作を身に付けておく 事後学習：各自の設計演習データでレイアウトを行う
4	写真合成による建築シミュレーション 1	テーマに関連するレクチャー、透視図に関する復習	事前学習：透視投影について復習しておく 事後学習：消点法による透視投影図法を復習する
5	写真合成による建築シミュレーション 2	写真照合 (3D モデルと写真の合成) に関する解説と演習	事前学習：SketchUp の操作方法全般について復習しておく 事後学習：写真照合に必要な理論と設定について復習する
6	写真合成による建築シミュレーション 3	画像処理 (フォトレタッチ) に関する解説	事前学習：写真加工技術について調べる 事後学習：Adobe Photoshop を使った画像の切り抜き方法を復習する
7	写真合成による建築シミュレーション 4	画像処理 (フォトレタッチ) に関する演習	事前学習：写真にみられる透視投影について調べる 事後学習：課題の仕上げを行う
8	CG による照明器具デザイン 1	テーマに関連するレクチャー、PovRay の基礎	事前学習：CG について調べる 事後学習：PovRay の基本操作を復習する
9	CG による照明器具デザイン 2	基本オブジェクトの記述方法、色と明るさ	事前学習：前回の講義内容を復習しておく 事後学習：色と明るさを記述する方法を復習する
10	CG による照明器具デザイン 3	繰り返しによるオブジェクトの配置方法	事前学習：基本的な立体を記述する方法を復習する 事後学習：繰り返し処理の構文を復習する
11	CG による照明器具デザイン 4	ライトの色、拡散透過の表現、曲面の幾何学的分類、幾何学的形状のランプシェード	事前学習：曲面で構成された照明器具を調べる 事後学習：ライトの色、拡散透過の表現を復習する
12	CG による照明器具デザイン 5	照明器具の作成	事前学習：作成する照明器具のデザインを考える 事後学習：課題を完成させる
13	GIS による空間表現 1	テーマに関するレクチャー、GIS の基本操作、地図データの読み込み	事前学習：GIS について調べる 事後学習：GIS の技術が使われている身近な事例を調べる
14	GIS による空間表現 2	図形の作図、属性情報の入力、主題図を用いた属性情報の可視化、	事前学習：前回の内容を復習し、操作を身に付けておく 事後学習：属性情報のデータ型について復習する
15	GIS による空間表現 3	愛着のあるまちに関するオリジナルマップの作成、印刷	事前学習：前回の内容を復習し、操作を身に付けておく 事後学習：住環境デザインの分野において GIS を使った研究事例について調べる

関連科目	図形科学、空間表現演習Ⅰ (CADⅠ)、設計演習など。
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 (80%)、演習態度 (20%) を総合的に評価する。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	より良い作品ができるよう、向上心を持って取り組んでください。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	12号館 7階 榑准教授室
----------	---------------

備考	講義に係る予復習は、毎回1時間程度を目安とする
----	-------------------------

科目名	ゼミ I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平田 陽子

授業概要・目的	[授業の概要・目的]住環境デザイン学科は、学際的な学問領域を含む学科であるため、幅広い分野の科目の中から自分に適した科目を選択し、自分自身で体系化して理解を深める必要がある。ゼミ A では、少人数形式の講義、討論、演習、さらに研修旅行や演習の発表会などを通して、多面的価値観を育成すること、及びコミュニケーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、学科の教育目標を周知し、教養教育の補完を図り、自分自身の適性を見つけさせるようにする。																		
到達目標	人間力・統合力 (少人数教育群ゼミ系授業による人間力・統合力の育成) [G]																		
授業方法と留意点	ゼミは、教員数に合せ、学生を少人数に分けて行う。教員及び学生全体を大きく3つのグループに分けて行うこともある。研修旅行、見学会等は定時ゼミの時間割を休日等に振替えて実施することがある。実施日時は学期始めに連絡する。学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネージメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	○第1回全体ゼミ (ガイダンス) : 1回 ○研修旅行でのゼミ : 2回 歴史的な民家や街並みや関連する施設を見学し、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う。 ○少人数ゼミ : 合計10回 少人数グループに分かれ、各教員の指導のもとに特色のある講義、討論、演習などを行う。 ○第2回全体ゼミ、第3回全体ゼミ (発表会、特別講演会) : 2回 少人数ゼミの演習で作成・まとめた課題の発表会を行い、自身の作品について説明するとともに他者の作品の説明を聞いて意見交換する。なお、学内外講師による特別講演とする場合もある。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況 80%、レポート等の提出物 20%により判定する。																		
学生へのメッセージ	授業テーマは修得度に応じ講義順の組替もありうる。本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。																		
担当者の研究室等	12号館7階 本多教授室、森山教授室、岩田教授室、平田教授室、川上教授室、坂本教授室、稲地准教授室、榎准教授室、白鳥准教授室、竹村講師室 12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室																		
備考	予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など約1時間30分間程度の時間をこれに当てること。																		

科目名	ゼミⅡ	科目名(英文)	Seminar II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	稲地 秀介

授業概要・目的	[授業概要・目的] ゼミⅡでは、少人数形式の講義、議論、演習、さらに見学会や演習の発表会などを通して、多面的価値観を育成し、コミュニケーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、教養教育の補完を図り、自分自身の適性を見つけさせるようにする。			
到達目標	1) 多面的価値観の習得 2) コミュニケーション力の向上 3) 各専門分野の理解 学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関する調査・分析能力の修得 (G)			
授業方法と留意点	ゼミは、学生を少人数に分けて行う。 見学会は定時のゼミの時間割を休日等に振り替えて実施することがある。 学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	○全員が集まる全体ゼミを初回、中間、最終回の3回行い、教員個別の少人数ゼミを行う。 ○第1回全体ゼミ (ガイダンス) : 1回、夏休み課題の講評を行うこともある。 ○少人数ゼミ : 計12回 少人数グループに分かれ、教員の専攻による特色のある講義や討論、演習などを行う。 見学会として、実際に街並みや施設を見学し、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う場合もある。 ○第2回全体ゼミ、第3回全体ゼミ : 2回 この2回の全体ゼミは、知的好奇心を育成するため特別講演会とすることもあり、学外から講師を招くこともある。また、演習の作品発表会を開催し、自身の作品について説明するとともに他者の作品の説明を聞いて意見交換することもある。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況 80%、レポート等の提出物 20%により判定する。			
学生へのメッセージ	本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。			
担当者の研究室等	12号館7階 本多教授室、森山教授室、岩田教授室、平田教授室、川上教授室、坂本教授室、稲地准教授室、榎准教授室、白鳥准教授室、竹村講師室 12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室			
備考	予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など約1時間30分間程度の時間をこれに当てること。			

科目名	ゼミⅢ	科目名(英文)	Seminar III
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平田 陽子

授業概要・目的	<p>[授業概要・目的] 少人数形式の講義、議論、演習、さらに見学会や演習の発表会などを通して問題発見、問題解決能力の育成、プレゼンテーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、各研究室の学びのスタイルを体験し、各専門分野の研究の進め方を学習し、自分の個性を生かしながら協調してものづくりをおこなうことの大切さを理解させる。</p> <p>[到達目標] 1) 問題発見・解決能力の習得 2) プレゼンテーション力の向上 3) 各専門分野の理解 4) 自分自身の適性の把握</p>																		
到達目標	<p>住環境デザインに関する様々な知識の再構築を図り、デザイン力、コミュニケーション力を養い、人間力・統合力を身につける。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：人間力・統合力（少人数教育群ゼミ系授業による人間力・統合力の育成）[G]</p>																		
授業方法と留意点	<p>ゼミは、教員数に合わせ、学生を少人数に分けて行う。</p> <p>見学会は定時のゼミの時間割を休日等に振り替えて実施することがある。</p> <p>学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>○全員が集まる全体ゼミを初回、中間、最終回の3回行い、教員個別の少人数ゼミを前半6回、後半6回行う。</p> <p>○第1回全体ゼミ（ガイダンス）：1回</p> <p>○ゼミ：6回×2、計12回</p> <p>少人数グループに分かれ、各教員の専攻による特色のある講義や演習を行う。</p> <p>見学会として、実際に街並みや施設を見学し、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う場合もある。</p> <p>○第2回全体ゼミ、第3回全体ゼミ：2回 この2回の全体ゼミでは、知的好奇心を育成するため特別講演会とすることもあり、学外から講師を招くこともある。また、演習の作品発表会を開催し、自身の作品について説明するとともに他者の作品の説明を聞いて意見交換することもある。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況 80%、レポート等の提出物 20%により判定する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。</p>																		
担当者の研究室等	<p>12号館7階 本多教授室、森山教授室、岩田教授室、平田教授室、川上教授室、坂本教授室、稲地准教授室、榎准教授室、白鳥准教授室、竹村講師室</p> <p>12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室</p>																		
備考	<p>ゼミに係る予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など約1時間30分間程度の時間をこれに当てること</p>																		

科目名	ゼミⅣ	科目名(英文)	Seminar IV
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	稲地 秀介

授業概要・目的	[授業概要・目的] ゼミⅣでは、少人数形式の講義、議論、演習、さらに見学会や演習の発表会などを通して問題発見、問題解決能力の育成、プレゼンテーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、各研究室の学びのスタイルを体験し、各専門分野の研究の進め方を学習し、自分の専門分野を決める段階にあることを自覚させる。																		
到達目標	1) 問題発見・解決能力の習得 2) プレゼンテーション力の向上 3) 社会における専門的職業の認識 4) 自分自身の適性の把握 学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関する調査・分析能力の修得[G]																		
授業方法と留意点	ゼミは、学生を少人数に分けて行う。 見学会は定時のゼミの時間割を休日等に振り替えて実施することがある。 学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネージメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	○全員が集まる全体ゼミを初回、中間、最終回の3回行い、教員個別の少人数ゼミを前半6回、後半6回行う。 ○第1回全体ゼミ (ガイダンス) : 1回 ○ゼミ : 計12回 少人数グループに分かれ、教員の専攻による特色のある講義や演習を行う。 見学会として、実地に街並みや施設を見学し、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う場合もある。 ○第2回全体ゼミ、第3回全体ゼミ : 2回 この2回の全体ゼミでは、知的好奇心を育成するため講演会とすることもあり、学外から講師を招くこともある。また、演習の作品発表会を開催し、自身の作品について説明するとともに他者の作品の説明を聞いて意見交換することもある。また、2年終了時にあたる全体ゼミでは、自らの進路を考えさせる内容とすることもある。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況 80%、レポート等の提出物 20%により判定する。																		
学生へのメッセージ	本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。																		
担当者の研究室等	12号館7階 本多教授室、森山教授室、岩田教授室、平田教授室、川上教授室、坂本教授室、稲地准教授室、榎准教授室、白鳥准教授室、竹村講師室 12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室																		
備考	予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など約1時間30分間程度の時間をこれに当てること。																		

科目名	専門ゼミV	科目名(英文)	Seminar V
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平田 陽子

授業概要・目的	[授業概要・目的] 専門ゼミVは、少人数形式の講義、議論、演習、さらに見学会や演習の発表会などを通して問題発見、問題解決能力の育成、プレゼンテーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、各研究室の学習スタイルを体験し、各専門分野の研究の進め方を学び、この授業の最後には自分の専門分野を決めます。
到達目標	1) 問題発見・解決能力の習得 2) プレゼンテーション力の向上 3) 社会における専門分野の理解 4) 自分自身の専門分野の決定 学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関する調査・分析能力の修得[G]
授業方法と留意点	ゼミは、教員数に合わせ、学生を少人数に分けて行う。 見学会は定時のゼミの時間割を休日等に振り替えて実施することがある。 学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。 全員が集まる全体ゼミ。知的好奇心を育成するため、または進路を考えさせるための講演会とすることがあり、学外講師による特別講演を行うこともある。
科目学習の効果(資格)	一級建築士、二級建築士など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第1回全体ゼミ:ガイダンス	第1回は、全員が集まる全体ゼミ。学期初めに当たるため、履修上の注意を伝えるとともに、特別講演を行うこともある。	特になし
	2	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	3	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	4	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	5	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	6	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	7	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	8	第2回全体ゼミ	全員が集まる全体ゼミ。知的好奇心を育成するため、または進路を考えさせるための講演会とすることがあり、学外講師による特別講演を行うこともある。	各教員の指示に従う
	9	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	10	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	11	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	12	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	13	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	14	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	各教員の指示に従う
	15	第3回全体ゼミ(ゼミ配属説明会)	全員が集まる全体ゼミ。主に、専門ゼミVIへの配属に関するものを行う。	教員の指示に従う

関連科目	ゼミⅠ～Ⅳ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況 80%、レポート等の提出物 20%により判定する。
----------	---

学生へのメッセージ	本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。
-----------	---

担当者の研究室等	12号館7階 本多教授室、森山教授室、岩田教授室、平田教授室、川上教授室、坂本教授室、稲地准教授室、榎准教授室、白鳥准教授室、竹村講師室 12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室
----------	---

備考	予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など約1時間30分間程度の時間をこれに当てること
----	---

科目名	専門ゼミⅥ	科目名(英文)	Seminar VI
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	平田 陽子

授業概要・目的	[授業概要・目的] 専門ゼミⅥは、少人数形式の講義、議論、演習、さらに見学会や演習の発表会などを通して問題発見、問題解決能力の育成、プレゼンテーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、各研究室の学習スタイルを体験し、各専門分野の研究の進め方を学び、卒業研究に向けた基礎的な力を身につける助走期間とする。
到達目標	1) 問題発見・解決能力の習得 2) プレゼンテーション力の向上 3) 配属された研究室における専門分野のより深い理解 学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関する調査・分析能力の修得：[G]
授業方法と留意点	ゼミは、教員数に合わせ、学生を少人数に分けて行う。 見学会は定時のゼミの時間割を休日等に振り替えて実施することがある。 学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における IS014001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。 全員が集まる全体ゼミ。知的好奇心を育成するため、または進路を考えさせるための講演会とすることがあり、学外講師による特別講演を行うこともある。
科目学習の効果(資格)	1級建築士、2級建築士、木造建築士の受験資格など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1回全体ゼミ:ガイダンス	第1回は、全員が集まる全体ゼミ。学期初めに当たるため、履修上の注意を伝えるとともに、特別講演を行うこともある。	教員の指示に従う
	2	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	3	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	4	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	5	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	6	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	7	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	8	個別ゼミ、または全体ゼミ	個別ゼミの場合には少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。全員が集まる全体ゼミを行うことがある。知的好奇心を育成するための講演会や進路を考えるための説明会などとする。学外講師による特別講演を行うこともある。	担当教員の指示に従う
	9	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	10	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	11	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	12	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	13	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	14	個別ゼミ	少人数グループに分かれ、各教員の専門による特色ある講義や演習を行う。	担当教員の指示に従う
	15	全体ゼミ	全員が集まる全体ゼミ。知的好奇心を育成するための講演会や進路を考えるための説明会などとする。学外講師による特別講演を行うこともある。	教員の指示に従う

関連科目	ゼミⅠ～Ⅴ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況 80%、レポート等の提出物 20%により判定する。
----------	---

学生へのメッセージ	本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。
-----------	---

担当者の研究室等	12号館7階 本多教授室、森山教授室、岩田教授室、平田教授室、川上教授室、坂本教授室、稲地准教授室、榎准教授室、白鳥准教授室、竹村講師室 12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室
----------	---

備考	予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など約1時間30分間程度の時間をこれに当てること。
----	--

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	本多 友常

授業概要・目的	<p>授業概要：卒業研究のテーマについて、適切な調査等の手法を用いて、自発的に現象を解明することができるようになることとする。</p> <p>目的：卒業研究を通して、社会人として必要な行動力、思考力、協調性を得ることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関する調査・分析能力の修得[G]</p>		
授業方法と留意点	<p>研究テーマに必要な知識を得るためのゼミ 卒業設計に向けた基礎調査 学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【研究のテーマ】 建築計画・設計に関する研究、設計</p> <p>【内容】 卒業設計を基本とする 地域の核としての学校建築 過疎高齢化集落の住環境 木造建築物の保存再生 住環境デザイン設計 その他</p> <p>研究テーマによっては他大学との交流、現地調査、学術交流を実施する。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	<p>卒業研究に関する学科のイベントに全て参加し、提出物を全て提出すること 合否は中間発表会 20%および卒業研究最終審査会の総合評価 80%により決定する</p>		
学生へのメッセージ	<p>観察ノートの記録保持、実験試料の保存、論文の剽窃、データの改ざんなど、研究活動とその発表にかかわる守るべき倫理について、常に注意すること。</p>		
担当者の研究室等	<p>建築計画・設計研究室</p>		
備考	<p>論文と制作で指導がやや異なることがあります 研究に係る予復習は、調査準備も含めて毎日 1 時間程度以上を目安として、自律的に組み立てること</p>		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	森山 正和

授業概要・目的	<p>授業概要：卒業研究のテーマについて、実験、実測、調査等の手法を用いて、自発的に現象を解明することができるようになることとする。</p> <p>目的：卒業研究を通して、社会人として必要な行動力、思考力、協調性を得ることを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>社会人として必要最低限の行動力、思考力、協調性を習得すること。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関する調査・分析能力の修得[G]</p>																		
授業方法と留意点	<p>研究テーマに必要な知識を得るためのゼミを行う</p> <p>学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【研究テーマ】 「都市のヒートアイランド対策」及び「建築の省エネルギー対策」</p> <p>【内容】 科学的手法とエコ技術の視点に基づいた都市や建物の再生計画を提案します。 研究対象は、大きく分けると次の4つになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 都市のヒートアイランド現象とその影響及びその対策 2. クリマアトラス（都市環境気候地図）の作成 3. 建物の省エネルギーおよびエコロジー建築（環境共生建築） 4. コンパクト・エコシティの研究 																		
関連科目	住環境工学Ⅰ、Ⅱ、住環境設備、都市環境計画																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	<p>卒業研究に関する学科のイベントに全て参加し、提出物を全て提出すること。</p> <p>可否は中間発表会 20%および卒業研究最終審査会の総合評価 80%により決定する</p>																		
学生へのメッセージ	<p>卒業研究を通じて、住環境デザインに関する様々な知識の再構築を図り、デザイン力、コミュニケーション力、自主学習力、計画推進力、チームワーク力を養い、人間力・統合力を身につける。</p> <p>研究テーマをしっかりと把握すること。自主的に研究を進めること。</p>																		
担当者の研究室等	12号館 7階 森山研究室																		
備考	<p>卒業研究を円滑に進めるために、研究室のチームワークを重視します。</p> <p>研究に係る予復習は、調査準備も含めて毎日1時間程度以上を目安として、自律的に組み立てること</p>																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	岩田 三千子

授業概要・目的	各自の卒業研究テーマについて、自ら問題点の解明に取り組む。 卒業研究を通じて、客観的なものの見方、コミュニケーション能力を養うことを目的とする。																
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関する調査・分析能力の修得 [G] 実験、実測、調査等の手法や、技術論文の書き方を修得し、卒業研究論文を提出する。 さらに、研究の内容を短くまとめたり、口頭発表などを行って、人に伝える力を修得する。																
授業方法と留意点	卒業研究論文の提出、中間および最終の審査発表、ポスター展示など、学科全体の行事に必ず参加すること。 学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【研究テーマ】 バリアフリーデザインやユニバーサルデザインの観点から、さまざまな人に配慮した都市・建築空間を創造する 【内容】 高齢者や視覚障害者に配慮した快適な照明環境計画のための基礎データを得る 色彩イメージを活用した空間計画手法を導き出すためのデータを得る 人間の心理的・生理的な反応に着目した空間創造のための環境データを得る 光環境・色彩環境などについての実験や調査をもとに現状の問題点を解明する LEDやELなどの地球環境に配慮した省エネルギー照明の人への影響についてのデータを得る 卒業研究に関する学科のイベントに全て参加し、提出物を全て提出すること。																
関連科目	建築環境工学Ⅰ、カラーコーディネート論、福祉住環境																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	可否は中間審査会 20%および卒業研究最終審査会の総合評価 80%により決定する																
学生へのメッセージ	研究はゼミ内で互いに協力し合って進めます。ゼミには毎回必ず出席してください。 実験・観察ノートの記録保持、実験試料の保存、論文の剽窃、データの改ざんなど、研究活動とその発表にかかわる守るべき所作について、注意すること																
担当者の研究室等	12号館7階 岩田教授室																
備考	研究に係る予復習は、調査準備も含めて毎日1時間程度以上を目安として、自律的に組み立てること																

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	川上 比奈子

授業概要・目的	<p>授業概要：卒業研究のテーマについて、適切な調査等の手法を用いて、自発的に現象を解明することができるようになることとする。</p> <p>目的：卒業研究を通して、社会人として必要な行動力、思考力、協調性を得ることを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関する調査・分析能力の修得[G]</p>																		
授業方法と留意点	<p>学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【研究のテーマ】 インテリア・建築デザインに関する研究、設計</p> <p>【内容】 卒業設計を基本とする 自然を活かした地域の核としてのインテリア・建築のデザイン 住環境における内部空間と外部空間の新たな関係の提案 時代から求められる空間概念の実体化 住環境デザイン設計 卒業論文の場合 歴史上の作家における家具・インテリア・建築に共通するデザイン手法</p> <p>研究テーマによっては他大学との交流、現地調査、学術交流を実施する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>卒業研究に関する学科のイベントに全て参加し、提出物を全て提出すること。 合否は中間発表会 20%および卒業研究最終審査会の総合評価 80%により決定する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>実験・観察ノートの記録保持、実験試料の保存、論文の剽窃、データの改ざんなど、研究活動とその発表にかかわる守るべき所作について、注意すること。</p>																		
担当者の研究室等	<p>インテリア・建築デザイン史研究室</p>																		
備考	<p>研究に係る予復習は、調査準備も含めて毎日1時間程度以上を目安として、自律的に組み立てること。</p>																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	平田 陽子

授業概要・目的	<p>授業概要：卒業研究のテーマについて、適切な調査等の手法を用いて、自発的に現象を解明することができるようになることとする。</p> <p>目的：卒業研究を通して、社会人として必要な行動力、思考力、協調性を得ることを目的とする。</p>																
到達目標	<p>到達目標：社会人として必要最低限な行動力、思考力、協調性を習得すること。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関する調査・分析能力の修得[G]</p>																
授業方法と留意点	<p>①学期初めのゼミ初日は研究・制作の基礎的背景となっている住生活と環境デザインの考え方、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。</p> <p>研究テーマに必要な知識を得るためのゼミとフィールドワークを基本とする。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【研究のテーマ】 集合住宅や一般住宅地における計画と管理およびコミュニティに関する研究</p> <p>【内容】 集合住宅団地の再生に関する研究 密集市街地における空家の利用・活性化に関する研究 密集市街地における居住地整備の研究 環境共生住宅の計画と管理に関する研究 バリアフリーに配慮した生活空間の研究 高齢者にとって住み続けられる住宅の研究 子どもにとって安心してくらす地域のある方に関する研究</p> <p>など</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>合否は中間審査 20%、および卒業研究最終審査の総合評価 80%により決定する。</p> <p>卒業研究に関する学科のイベントに全て参加し、提出物を全て提出すること。</p>																
学生へのメッセージ	<p>観察ノートの記録保持、実験試料・調査資料の保存、論文の剽窃、データの改ざんなど、研究活動とその発表にかかわる守るべき倫理について、常に注意すること。</p> <p>論文のテーマは、上にあげたもの以外でも興味のあるテーマであれば、取り組んでもらえるよう調整します。</p>																
担当者の研究室等	1 2 号館 7 階 住環境マネジメント研究室																
備考	研究に係る予復習は、調査準備も含めて毎日 1 時間程度以上を目安として、自律的に組み立てること																

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	稲地 秀介

授業概要・目的	<p>建築・環境デザイン研究室は、人の暮らしを中心にそれを取り巻く物事のあるべきカタチ（仮説）を考え、検証することをを行います。建築、地域、プロダクト…デザインの対象は様々です。デザインはアートと異なり「問題発見→問題解決」という役割を帯びていると考えています。これを進めるためには「手を動かす」ことと「頭を動かす」、そして「人の心を動かす」ことが必要と考えています。また、自分の目の前で行っていることはかつて誰かが体験し問題解決をしているかもしれません。人々の経験の積み重ねである歴史を踏まえてカタチをうみだすことが必要と考えています。そして、これらを学ぶためには、自分の思いを実際の社会とどうつなげていけるのか？を具体的に考え、行動することで初めて研究をスタートできるものと考えています。</p>		
到達目標	<p>自己のアイデアと社会との接点を捉え具体化する方法を組み立てる能力とそれを他者へ表現する能力を獲得する。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関する調査・分析能力の修得[G]</p>		
授業方法と留意点	<p>学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>研究テーマは、先の概要を踏まえて、自身で設定するのが望ましい。しかし、それが難しい場合には以下の課題を軸に設定するのもよい。</p> <p>研究テーマ 1) 人口減少と土地利用変化（関西圏、GGIIS、土地利用変化モデル） 研究テーマ 2) 地方都市の公営住宅と近居圏について 研究テーマ 3) 小中一貫校での異学年交流プログラムと平面計画</p> <p>事前事後学習は、卒業研究を進める軸となる時間である。十分な時間をかけることで、研究の質が高まるものである。</p>		
関連科目	R科授業全体		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業研究に関する学科のイベントに全て参加し、提出物を全て提出すること。合否は中間発表会 20%および卒業研究最終審査会の総合評価 80%により決定する		
学生へのメッセージ	実験・観察ノートの記録保持、実験試料の保存、論文の剽窃、データの改ざんなど、研究活動とその発表にかかわる守るべき所作について、注意すること		
担当者の研究室等	12号館7階・稲地准教授室		
備考	研究に係る予復習は、調査準備も含めて毎日1時間程度以上を目安として、自律的に組み立てること。		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	榊 愛

授業概要・目的	<p>授業概要：卒業研究のテーマについて、最適な実験、実測、調査等の手法を用いて、自発的に現象を解明することができるようになることとする。</p> <p>目的：卒業研究を通して、社会人として必要な行動力、思考力、協調性を得ることを目的とする。</p>																
到達目標	<p>学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関する調査・分析能力の修得[G]</p> <p>到達目標：社会人として必要最低限な行動力、思考力、協調性を習得すること。</p>																
授業方法と留意点	<p>研究テーマに必要な知識を得るためのゼミ</p> <p>学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【研究テーマ】 CAD・CG・GISを用いた空間情報に関わるシミュレーション</p> <p>【内容】 CAD・CG・GISなどのツールを駆使して、建物や都市が持つ空間情報の分析・可視化を行う。その結果をもとに、より安全・快適で魅力的な空間をつくりだすために考察・検討を行う。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>卒業研究に関する学科のイベントに全て参加し、提出物を全て提出すること。</p> <p>合否は中間発表会 20%および卒業研究最終審査会の総合評価 80%により決定する</p>																
学生へのメッセージ	<p>実験・観察ノートの記録保持、実験試料の保存、論文の剽窃、データの改ざんなど、研究活動とその発表にかかわる守るべき所作について、注意すること</p>																
担当者の研究室等	12号館7階 榊准教授室																
備考	<p>積極的に取り組む姿勢を重視します。時間、ルール、締切を厳守すること。</p> <p>研究に係る予復習は、調査準備も含めて毎日1時間程度以上を目安として、自律的に組み立てること。</p>																

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	白鳥 武

授業概要・目的	<p>授業概要：卒業研究のテーマについて、適切な調査等の手法を用いて、自発的に現象を解明することができるようになることとする。地球共生建築を目指した研究、すなわち地球・自然から学ぶ姿勢を大切に、分野の壁を無くした特に自然科学・技術・芸術を融合して、より多くの生命体に優しく、美しく機能的な住環境を導く「先駆者」として建築・構造・コンポーネント等のデザイン研究を行う。</p> <p>目的：卒業研究を通して、社会人として必要な行動力、思考力、協調性を得ることを目的とする。</p> <p>到達目標：社会人として必要最低限な行動力、思考力、協調性を習得すること。</p>																
到達目標	<p>学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関する調査・分析能力の修得 (G)</p> <p>地球共生建築・構造・コンポーネント等のデザインにより地球と共に生きる我々人間と建築の「本来あるべき姿」を追求した成果物を実現し、既成概念を超えた住環境の進化を導く、またはその可能性を証明する成果物の完成を目標とする。</p>																
授業方法と留意点	<p>研究テーマに必要な知識を得るためのゼミとする。多種多様な教材、自然素材を活用した材料や構法、パッシブデザインを大切に建築物や最先端のデザイン、展覧会等も含め、常に地球共生の手法やデザイン、ものづくりを意識した課題を行う。ゼミ室の家具や備品もできる限り自分でデザイン、制作し、利用することで材料の特性やデザインの良否を確認する。</p> <p>学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【研究のテーマ】 地球共生建築・構法（構造）・コンポーネントのデザイン</p> <p>【内容】 担当教員は木造建築を主題に、山に廃棄されている間伐材利用や被災後の復旧までを考えた構造デザインを研究テーマとして行ってきました。木を理想的な地球共生建築の材料のひとつと考えて、そのポテンシャルを活かす接合部を開発（特許取得）し、国内外の未活用材の構造利用を図りました。また構造研究は建築研究の一部でしかないと考えています。より良い地球共生建築には食欲に、エネルギーの問題を含めた、様々な分野の学びが必要で「建築を構成する要素すべて」において新たな解を探る姿勢で授業を進めます。そして何よりも地球・自然界から学ぶ姿勢を大切に、そこでの発見を応用したデザイン開発を目指しています。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>卒業研究に関する学科のイベントに全て参加し、提出物を全て提出すること。</p> <p>地球共生を基軸としながらも、個々の特性や情熱をもって研究を持続できる研究テーマを選択し、その追求度、可能性証明度により評価をします。</p> <p>合否は中間審査会(20%) および卒業研究最終審査会(80%)の総合評価において決定する。</p>																
学生へのメッセージ	<p>時間は有限です。効率よくしかし深く追求してください。研究は自分との闘いです。そして良い研究成果を出し、生涯輝く成果物を手にして卒業してほしいと強く願います。</p>																
担当者の研究室等	12号館7階地球共生建築デザイン研究室 (G. A. D LABO)																
備考	<p>欠席する際には必ず事前に担当教員にメールまたは電話にて連絡すること</p> <p>研究に係る予復習は、調査準備も含めて毎日1時間程度以上を目安として、自律的に組み立てること</p>																

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	竹村 明久

授業概要・目的	卒業研究のテーマについて、最適な実験、実測、調査等の手法を用いて、自発的に現象を解明することができるようになることとする。卒業研究を通して、社会人として必要な行動力、思考力、協調性を得ることを目的とする。																		
到達目標	社会人として必要最低限な行動力、思考力、協調性を習得すること。 学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関する調査・分析能力の修得[G]																		
授業方法と留意点	研究テーマに必要な知識を得るためのゼミ 学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>生活に密接な空気環境に関する問題意識に発する環境改善のための知識の習得と研究活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋内外の空気質環境の把握と改善に関する調査・研究 ・暮らしの中で感じるにおい(悪臭)を精度よく簡単に測る手法の開発と対策の考案 ・かおりを生活に取り込むことによる生活環境の向上の提案・効果の把握 <p>原則的に、被験者実験(心理評価と心拍や酵素、脳波等の生理量測定)をベースとした卒業論文の作成を課する。自己の研究テーマのみに限らず、研究室内の他の調査・実験等の補助や、意見交換を求める。また、空気環境を軸にした持続可能な環境を意識した行動や考え方、環境デザイン手法、関連するコンプライアンスなどの習得も行う。 関連文献・書籍の調査を事前に十分に行うことを求める。</p>																		
関連科目	全ての科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	卒業研究に関する学科のイベントに全て参加し、提出物を全て提出すること 合否は中間発表会 20%および卒業研究最終審査会の総合評価 80%により決定する																		
学生へのメッセージ	積極的な研究活動への参加を必須とし、さらに、研究室の和を重視した行動を求める。 実験・観察ノートの記録保持、実験試料の保存、論文の剽窃、データの改ざんなど、研究活動とその発表にかかわる守るべき所作について、注意すること																		
担当者の研究室等	12号館7階 竹村研究室																		
備考	研究に係る予復習は、調査準備も含めて毎日1時間程度以上を目安として、自律的に組み立てること																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	坂本 淳二

授業概要・目的	各自が研究テーマを設定して、問題意識から実証・考察に至る流れを踏まえて、研究目的に対する解答を導く。卒業研究を進める過程で、調査・分析手法と社会的素養を習得する。																
到達目標	地域（農村漁村，都市，自然的地域など）に飛び出す姿勢，地域の特性と課題を見出すための「観察」，「分析」する基礎的能力を磨く。また調査を進めるための段取りを体験することで，社会で活動するための基本的素養を身につける。 学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関する調査・分析能力の修得[G]																
授業方法と留意点	研究課題の設定と周辺分野の既往研究の読み込み、フィールドワークをはじめとする調査・分析方法について指導する。学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネージメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本研究室では、人間が居住・活動する地域（農山漁村，都市，自然的地域，住宅地など様々な地域）で発生する空間・環境・社会・経済に関する諸問題を引き起こす原因を調査・分析した上で，問題への対応策を提示します。 [例] 都市・農村における着地型観光の実態と課題，地方都市商店街の活性化，歴史的町並み・集落景観の保全，人口減少時代の都市・地域交通のあり方，親水空間を創出するための都市河川・湧水の新たな整備手法など。 研究は，1人が1つの題材に取り組むことになります。題材は，各自の関心の高いものを自由に設定します。原則，対象地域を設定して現地フィールドワークを実施することを前提とします。 また，研究を進めるにあたり，アンケート・聞き取り等の社会調査，記述統計，多変量解析，地理情報システムなど，様々な手法を活用します。 年間のゼミ前半では各自の題材に関連する先行研究文献・情報を収集，数編を報告が中心となりますので，その準備に時間をかけることになります。加えて報告時に指摘された疑問・課題について，次回に再報告することとします。																
関連科目	地域・都市計画学																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	特に指定しない																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>フィールドに入る (FENICS 100万人のフィールドワークシリーズ1)</td> <td>椎野若菜・白石壮一郎</td> <td>古今書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フィールドの見方 (FENICS 100万人のフィールドワークシリーズ2)</td> <td>増田研・梶丸岳・椎野若菜</td> <td>古今書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>複雑さに挑む科学—多変量解析入門 (講談社ブルーバックス)</td> <td>井晴夫・岩坪秀一</td> <td>講談社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	フィールドに入る (FENICS 100万人のフィールドワークシリーズ1)	椎野若菜・白石壮一郎	古今書院	2	フィールドの見方 (FENICS 100万人のフィールドワークシリーズ2)	増田研・梶丸岳・椎野若菜	古今書院	3	複雑さに挑む科学—多変量解析入門 (講談社ブルーバックス)	井晴夫・岩坪秀一	講談社
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	フィールドに入る (FENICS 100万人のフィールドワークシリーズ1)	椎野若菜・白石壮一郎	古今書院														
2	フィールドの見方 (FENICS 100万人のフィールドワークシリーズ2)	増田研・梶丸岳・椎野若菜	古今書院														
3	複雑さに挑む科学—多変量解析入門 (講談社ブルーバックス)	井晴夫・岩坪秀一	講談社														
評価方法 (基準)	卒業研究に関する学科のイベントに全て参加し、提出物を全て提出すること。 可否は中間発表会 20%および卒業研究最終審査会の総合評価 80%により決定する																
学生へのメッセージ	本研究室では、現場・フィールドに出て調査することを根幹としています。また、研究指導はもとより、集合時間の厳守、対人折衝など社会的指導も徹底します。実験・観察ノートの記録保持、実験試料の保存、論文の剽窃、データの改ざんなど、研究活動とその発表にかかわる守るべき所作について、注意すること。																
担当者の研究室等	12号館 6階 坂本教授室及び景観デザイン研究質																
備考	研究上必要な場合は、研究室メンバー全員参加の巡検を実施することがあります。研究に係る予復習は、調査準備も含めて毎日1時間程度以上を目安として、自律的に組み立てること。																

教 養 科 目

科目名	古典文学から学ぶ	科目名(英文)	Classic Literature
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子

授業概要・目的	この講義では『百人一首』を読んでいきます。まず、文学作品としての位置づけを行ったうえで、和歌の鑑賞を通して、我々現代人が忘れてしまった自然と共生する力や方法、また今も昔も変わらない心情などを学びましょう。古典作品は断絶した遠い過去の遺物ではありません。自ら作品に近づき親しむことにより、現代の文学作品と同様に多くの知見や感動を得ることができます。
到達目標	和歌の断片的な知識ではなく、時代背景を含め作品としての総合的な理解が目標です。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育到達目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	講義形式です。理解度を確認する復習テストを不定期に行います。
科目学習の効果(資格)	大学生として必要最低限の「古典文学」の知識を身につけることができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の目的、方法の説明	『百人一首』を読む
	2	作品としての『百人一首』1	『百人一首』の成立と謎	配布プリントを読む
	3	作品としての『百人一首』2	江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容	配布プリントを読む
	4	作品としての『百人一首』3	『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識	配布プリントを読む
	5	四季歌を読む 春1	春の歌を読みます	配布プリントを読む
	6	四季歌を読む 春2	桜の歌を読みます	配布プリントを読む
	7	四季歌を読む 夏	夏の歌を読みます	配布プリントを読む
	8	四季歌を読む 秋1	秋の歌を読みます	配布プリントを読む
	9	四季歌を読む 秋2	秋の月の歌を読みます	配布プリントを読む
	10	四季歌を読む 冬	冬の歌を読みます	配布プリントを読む
	11	恋歌	恋の歌を読みます	配布プリントを読む
	12	雑歌1	友情をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む
	13	雑歌2	旅の歌を読みます	配布プリントを読む
	14	雑歌3	人生をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む
	15	授業の総括	『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり	配布プリントを読む

関連科目	日本語読解
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	百人一首	島津忠夫	角川ソフィア文庫
	2	光琳カルタで読む百人一首ハンドブック	久保田淳	小学館
	3			

評価方法(基準)	授業態度(授業態度・復習テストなど)30%、定期試験70%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	和歌が持つ美しいリズムを味わい、千年前の人々からのメッセージを受け取りましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	予習復習は配布資料、参考書について約1時間程度の通読をこれに当てること。
----	--------------------------------------

科目名	近代文学から学ぶ	科目名(英文)	Modern Literature
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細川 知佐子

授業概要・目的	この講義では明治以降現代までの新聞小説を、朝日新聞を中心に読んでいきます。作品の面白さとともに、時代順に読むことで近現代史の中で新聞小説が持つ役割も考えましょう。																																																																		
到達目標	<p>社会性、時事性など新聞小説の特色を理解すること。文学の枠内だけでなく、複数の視点で大きく作品を捉えるようになることが目標です。</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育到達目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>																																																																		
授業方法と留意点	配布資料による講義形式。不定期に復習テストを行います。 また、授業で紹介した新聞小説を最低1冊読み、感想文を提出すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	日本近代文学の教養を身につけることができます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 新聞小説とは何か</td> <td>本講義に臨むための基本姿勢と注意点について説明 新聞小説の始まりと歴史</td> <td>特になし</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>明治時代の新聞小説 1</td> <td>黎明期(明治30年まで)の新聞小説 尾崎紅葉『金色夜叉』を中心に</td> <td>配布資料と作品を読む</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>明治時代の新聞小説 2</td> <td>明治31年以降の新聞小説 夏目漱石『虞美人草』を中心に</td> <td>配布資料と作品を読む</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>明治時代の新聞小説 3</td> <td>夏目漱石『坑夫』</td> <td>配布資料と作品を読む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>大正時代の新聞小説 1</td> <td>中勘助『銀の匙』</td> <td>配布資料と作品を読む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>大正時代の新聞小説 2</td> <td>菊池寛『真珠夫人』、谷崎潤一郎『痴人の愛』</td> <td>配布資料で作品を読む</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>大正時代の新聞小説 3</td> <td>江戸川乱歩『一寸法師』を中心に</td> <td>配布資料と作品を読む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>昭和初期の新聞小説</td> <td>川端康成『浅草紅団』</td> <td>配布資料と作品を読む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>戦前・戦中の新聞小説</td> <td>戦前・戦中の新聞小説の特色 火野葦平『花と兵隊』を中心に</td> <td>配布資料と作品を読む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>戦後の新聞小説 1</td> <td>戦後の新聞小説の特色 石坂洋次郎『青い山脈』、太宰治『グッド・バイ』</td> <td>配布資料と作品を読む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>戦後の新聞小説 2</td> <td>三島由紀夫『につぼん製』</td> <td>配布資料と作品を読む</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>現代の新聞小説 1</td> <td>松本清張『砂の器』</td> <td>配布資料と作品を読む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>現代の新聞小説 2</td> <td>有吉佐和子『複合汚染』</td> <td>配布資料と作品を読む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>現代の新聞小説 3</td> <td>宮部みゆき『理由』</td> <td>配布資料と作品を読む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>現代の新聞小説 4 本講義のまとめ</td> <td>奥田英朗『沈黙の町で』 林真理子『下流の宴』 講義で取り上げた新聞小説を振り返り、時代との関わりを考えます</td> <td>配布資料と作品を読む</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 新聞小説とは何か	本講義に臨むための基本姿勢と注意点について説明 新聞小説の始まりと歴史	特になし	2	明治時代の新聞小説 1	黎明期(明治30年まで)の新聞小説 尾崎紅葉『金色夜叉』を中心に	配布資料と作品を読む	3	明治時代の新聞小説 2	明治31年以降の新聞小説 夏目漱石『虞美人草』を中心に	配布資料と作品を読む	4	明治時代の新聞小説 3	夏目漱石『坑夫』	配布資料と作品を読む	5	大正時代の新聞小説 1	中勘助『銀の匙』	配布資料と作品を読む	6	大正時代の新聞小説 2	菊池寛『真珠夫人』、谷崎潤一郎『痴人の愛』	配布資料で作品を読む	7	大正時代の新聞小説 3	江戸川乱歩『一寸法師』を中心に	配布資料と作品を読む	8	昭和初期の新聞小説	川端康成『浅草紅団』	配布資料と作品を読む	9	戦前・戦中の新聞小説	戦前・戦中の新聞小説の特色 火野葦平『花と兵隊』を中心に	配布資料と作品を読む	10	戦後の新聞小説 1	戦後の新聞小説の特色 石坂洋次郎『青い山脈』、太宰治『グッド・バイ』	配布資料と作品を読む	11	戦後の新聞小説 2	三島由紀夫『につぼん製』	配布資料と作品を読む	12	現代の新聞小説 1	松本清張『砂の器』	配布資料と作品を読む	13	現代の新聞小説 2	有吉佐和子『複合汚染』	配布資料と作品を読む	14	現代の新聞小説 3	宮部みゆき『理由』	配布資料と作品を読む	15	現代の新聞小説 4 本講義のまとめ	奥田英朗『沈黙の町で』 林真理子『下流の宴』 講義で取り上げた新聞小説を振り返り、時代との関わりを考えます	配布資料と作品を読む
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 新聞小説とは何か	本講義に臨むための基本姿勢と注意点について説明 新聞小説の始まりと歴史	特になし																																																																
2	明治時代の新聞小説 1	黎明期(明治30年まで)の新聞小説 尾崎紅葉『金色夜叉』を中心に	配布資料と作品を読む																																																																
3	明治時代の新聞小説 2	明治31年以降の新聞小説 夏目漱石『虞美人草』を中心に	配布資料と作品を読む																																																																
4	明治時代の新聞小説 3	夏目漱石『坑夫』	配布資料と作品を読む																																																																
5	大正時代の新聞小説 1	中勘助『銀の匙』	配布資料と作品を読む																																																																
6	大正時代の新聞小説 2	菊池寛『真珠夫人』、谷崎潤一郎『痴人の愛』	配布資料で作品を読む																																																																
7	大正時代の新聞小説 3	江戸川乱歩『一寸法師』を中心に	配布資料と作品を読む																																																																
8	昭和初期の新聞小説	川端康成『浅草紅団』	配布資料と作品を読む																																																																
9	戦前・戦中の新聞小説	戦前・戦中の新聞小説の特色 火野葦平『花と兵隊』を中心に	配布資料と作品を読む																																																																
10	戦後の新聞小説 1	戦後の新聞小説の特色 石坂洋次郎『青い山脈』、太宰治『グッド・バイ』	配布資料と作品を読む																																																																
11	戦後の新聞小説 2	三島由紀夫『につぼん製』	配布資料と作品を読む																																																																
12	現代の新聞小説 1	松本清張『砂の器』	配布資料と作品を読む																																																																
13	現代の新聞小説 2	有吉佐和子『複合汚染』	配布資料と作品を読む																																																																
14	現代の新聞小説 3	宮部みゆき『理由』	配布資料と作品を読む																																																																
15	現代の新聞小説 4 本講義のまとめ	奥田英朗『沈黙の町で』 林真理子『下流の宴』 講義で取り上げた新聞小説を振り返り、時代との関わりを考えます	配布資料と作品を読む																																																																
関連科目	日本語読解																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業態度(授業への集中度・質問への回答など)10% 定期試験90%																																																																		
学生へのメッセージ	新聞小説というジャンルを意識し、社会と文学との関わりを考えてみよう。文学が時代を反映していることや社会に与える影響を、新聞小説を通して理解してもらいたい。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	予習復習は、配布資料について新聞小説としての特徴を考えながら約1時間程度の通読をこれに当てること。																																																																		

科目名	日本語読解	科目名(英文)	Japanese Reading
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	濱中 祐子

授業概要・目的	<p>文章を読むことは好きだろうか。大学で何を学ぶにせよ、「論文などの難解な文章を理解する」「長い文章から重要な事項をピックアップする」力は大学生活に必須である。</p> <p>また、人の心の動きが表現された文学作品を読解することは、他者の気持ちを類推するトレーニングにもなり、今後の社会生活にも役立つことだろう。</p> <p>文章を読むことによって、語彙力や表現力も磨かれ、自分の考えを伝える力も向上する。文章を正しく読解し、自分なりの考えを持ち、表現してみよう。</p> <p>この授業では、様々なジャンルの文章を読むことによって、語彙力や表現力の向上を目指す。最終的には、評論文や論文などの論理的な文章を正しく読解し、要約できるようにする。また、読解力を養成することで思考力を獲得し、自己の考えを文章化することにつなげることを目標とする。</p>
---------	---

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章を読解する能力を身につける ・さまざまなジャンルの文章にふれ、語彙や表現を学ぶ ・読解した内容に対して自分なりの考えを表現できるようになる <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育到達目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：F C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>授業では、まず受講者が各自で文章を読み、その後、教員による解説を行う。新しい教材に入る前にプリントを配布するので、必ず熟読しておくこと。</p> <p>受講者の理解度を確認するため、課題を作成させることもある。また、次の授業時には復習小テストを行うので、復習を怠らないこと。</p>
----------	--

科目学習の効果(資格)	大学の授業・社会人になってから必要な読解能力
-------------	------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・随筆(エッセイ)を読む(1)	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明する。叙情的、軽妙洒脱な随筆作品にふれる。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する
2	随筆(エッセイ)を読む(2)	叙情的、軽妙洒脱な随筆作品にふれる。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する
3	現代小説を読む(1)	現代小説を読み、描かれている情景や心理描写を理解する。また、感想文を作成する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
4	現代小説を読む(2)	現代小説を読み、描かれている情景や心理描写を理解する。また、感想文を作成する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
5	近代小説を読む(1)	戦前の小説を読み、現代小説とは異なる表現や語彙にふれる。また、感想文を作成する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
6	近代小説を読む(2)	戦前の小説を読み、現代小説とは異なる表現や語彙にふれる。また、感想文を作成する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
7	近現代の詩歌を読む	近現代の韻文作品を読み、読解する。また詩歌を作成してみる。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
8	古典文学を読む(1)	古典文学作品を読み、近現代小説とは異なる表現や語彙にふれる。また、感想文を作成する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
9	古典文学を読む(2)	古典文学作品を読み、近現代小説とは異なる表現や語彙にふれる。また、感想文を作成する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
10	新聞を読む	新聞の社説を読解し、意見文を作成する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
11	評論文を読む(1)	評論文を読むことによって、論理的な文章を読むトレーニングを行う。要点をまとめてみる。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
12	評論文を読む(2)	評論文を読むことによって、論理的な文章を読むトレーニングを行う。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
13	論文を読む(1)	論文を読解してみる。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
14	論文を読む(2)	論文を読解し、要点をまとめてみる。	配布するプリントを次回までに読んでおく。確認テストに備えて授業内容を復習する。
15	本講義のまとめ・確認テスト	本講義のまとめ、および第一回から第十四回までの理解度を確認するテストを行う。	本講義で学んだことを今後に活かすため、各自復習する。

関連科目	文章表現法
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	到達度テスト 40% 小テスト 40% 授業への取り組み (課題提出等により評価する) 20%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・能動的な態度で授業に臨むこと。 ・授業の初めに出席確認もかねて毎回小テストを行う。遅刻しないこと。 ・私語は厳禁とする。 ・さまざまなジャンルの本を読み、他者の考え方をすることで思考力が身につく。幅広い関心を持って、日頃から読書に親しむようにしましょう。 			
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	授業では、まず受講者が各自で文章を読み、その後、教員による解説を行う。新しい教材に入る前にプリントを配布するので、必ず熟読してくること。事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。			

科目名	日本語読解	科目名(英文)	Japanese Reading
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松尾 佳津子

授業概要・目的
 日々、何を読んでいますか？ また、日々、何をしていますか？ 何を学ぶにせよ、また学生であれ社会人であれ、「文章を読む」ということを避けて通るわけにはいきません。仲間内でだけ通じる会話や話し言葉でなく、書き言葉を通じてしか手に入らないものがあります。それをぜひ身につけてほしいと願っています。さまざまなジャンルの文章を素材として語句や表現を学び、自分なりの感想を持ちそれを発信する、というトレーニングを積んでみましょう。
 語句の知識を増やして定着させること、表現に目した読解トレーニングを積むこと、読解した内容に対して自分なりの考えを表現できること。この三つの力を磨くことを目標とします。

到達目標
 【目標1】 語句・ことわざ・四字熟語・敬語などの知識を身に付けること。
 【目標2】 さまざまな文章に触れ、執筆者の気持ちを想像しながら読み解くこと。
 【目標3】 文章を読んで感じたことを文章化する経験値を積み、他者に伝わる論理的な文章を書く力を養うこと。
 V科の学習・教育目標との対応：A
 R科の学習・教育到達目標との対応：A
 A科の学習・教育到達目標との対応：A
 M科の学習・教育到達目標との対応：A1
 E科の学習・教育到達目標との対応：F
 C科の学習・教育到達目標との対応：II

授業方法と留意点
 ◇毎回、語句チェックを通じて語彙力を磨きます(授業前半)。また毎回、素材となる文章を配布し、プリント形式で読解授業を進めます(授業後半)。
 ◇授業中に随時課題を提示しますので、それらに取り組むことで積極的な取り組みをあなたに要求します。友人の回答の引き写しなど、課題に取り組む態度に不備のある場合は、出席と認めません。

科目学習の効果(資格)
 「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、自分のことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果です。文章を味読し、自分の考えを文章化し、他者に発信するトレーニングは、積極的に取り組むことで、日々のレポート作成や、就職活動のための種々の文章作成の下地作りにもなるでしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	エッセイ(1)	叙情的、軽妙洒落など、さまざまなタイプの作品に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
2	エッセイ(2)	叙情的、軽妙洒落など、さまざまなタイプの作品に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
3	エッセイ(3)	叙情的、軽妙洒落など、さまざまなタイプの作品に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
4	文語的な文章(1)	やや古めかしい言い回しに触れて独特の雰囲気を楽しむ。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
5	文語的な文章(2)	やや古めかしい言い回しに触れて独特の雰囲気を楽しむ。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
6	文語的な文章(3)	やや古めかしい言い回しに触れて独特の雰囲気を楽しむ。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
7	近代の小説(1)	有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
8	近代の小説(2)	有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
9	近代の小説(3)	有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
10	実用的な文章(1)	手紙文やビジネス文書を「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
11	実用的な文章(2)	手紙文やビジネス文書を「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
12	実用的な文章(3)	手紙文やビジネス文書を「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
13	韻文(1)	身近な歌の「歌詞」を作品として「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
14	韻文(2)	身近な歌の「歌詞」を作品として「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
15	韻文(3)	身近な歌の「歌詞」を作品として「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。

関連科目
 こういった方面に興味のある人は、他に「文学から学ぶ」や「日本語表現」などを学ぶことで、より理解を深めることができるでしょう。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
 ◇講義中に作成する小レポートが出席確認を兼ねます。近年散見する代筆提出については、代筆者・被代筆者共、成績処理時に大幅減点します。
 ◇最終成績は、定期試験の結果7割と、小レポートの回答状況3割とを合わせて判断します。
 ◇私語・飲食・頻繁な離席・他授業の課題作成・居眠りなど、受講態度の著しく悪い学生には退室を指示して当日の出席は無効とし、さらに状況に応じてマイナス評価を下します。また、回収した小レポートの回答状況が著しく悪い場合も、当日の出席は無効とします。
 ◇原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。

学生へのメッセージ	「本を読むのはキライ」という気持ちを捨てて講義に臨んで下さい。私があなたに求めているのは「今までの知識の積み重ね」ではなく、「自分のことばに自覚的になること、自分のことばで考えること」です。正解のない世界で「自分の答え」を手探りしてみましょう。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	事後学習として、授業後少なくとも半時間は、学習した事項を書いて覚えたり、曖昧な箇所は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。

科目名	日本語表現	科目名(英文)	Japanese Representation
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾 佳津子

授業概要・目的	<p>日々、何を読んでいますか？ また、日々、何を書いていますか？ 何を学ぶにせよ、また学生であれ社会人であれ、「文章を読む」ということを避けて通るわけにはいきません。仲間内でだけ通じる会話や話し言葉でなく、書き言葉を通じてしか手に入らないものがあります。それをぜひ身につけてほしいと願っています。前期に「日本語読解」で身に付けた力をさらに伸ばそうという人も、前期は受講していなかったから後期から頑張りたいという人も、前期以上に幅の広い、さまざまなジャンルの文章を素材として語句や表現を学び、自分なりの感想を持ちそれを発信する、というトレーニングを積みあげていきましょう。</p> <p>語句の知識を増やして定着させること、表現に着目した読解トレーニングを積むこと、読解した内容に対して自分なりの考えを表現できること。この三つの力を磨くことを目標とします。</p>																																																																
到達目標	<p>【目標1】 語句・ことわざ・四字熟語・敬語などの知識を身に付けること。 【目標2】 さまざまな文章に触れ、執筆者の気持ちを想像しながら読み解くこと。 【目標3】 文章を読んで感じたことを文章化する経験値を積み、他者に伝わる論理的な文章を書く力を養うこと。</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育到達目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：F C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>																																																																
授業方法と留意点	<p>◇毎回、語句チェックを通じて語彙力を磨きます（授業前半）。また毎回、素材となる文章を配布し、プリント形式で読解授業を進めます（授業後半）。</p> <p>◇授業中に随時課題を提示しますので、それらに取り組むことで積極的な取り組みをあなたに要求します。友人の回答の引き写しなど、課題に取り組む態度に不備のある場合は、出席と認めません。</p>																																																																
科目学習の効果(資格)	<p>「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、自分のことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果です。文章を味読し、自分の考えを文章化し、他者に発信するトレーニングは、積極的に取り組むことで、日々のレポート作成や、就職活動のための種々の文章作成の下地作りにもなるでしょう。</p>																																																																
授業計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 20%;">授業テーマ</th> <th style="width: 30%;">内容・方法 等</th> <th style="width: 40%;">事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>エッセイ (1)</td><td>着眼点の面白さを味わう。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr><td>2</td><td>エッセイ (2)</td><td>表現に着目して味わう。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr><td>3</td><td>エッセイ (3)</td><td>内容を踏まえて自分の意見をまとめる。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr><td>4</td><td>新聞記事 (1)</td><td>実用的な文章のあり方を考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr><td>5</td><td>新聞記事 (2)</td><td>伝達の効果を高める工夫を考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr><td>6</td><td>新聞記事 (3)</td><td>報道記事以外の文章を考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr><td>7</td><td>短編小説 (1)</td><td>短編小説の構成を味読する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr><td>8</td><td>短編小説 (2)</td><td>翻訳の文章を考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr><td>9</td><td>短編小説 (3)</td><td>表現技法を考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr><td>10</td><td>評論 (1)</td><td>時事評論を読み解く。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr><td>11</td><td>評論 (2)</td><td>文芸評論を読み解く。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr><td>12</td><td>評論 (3)</td><td>文語調の評論を読んでみる。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr><td>13</td><td>韻文 (1)</td><td>俳句を鑑賞する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr><td>14</td><td>韻文 (2)</td><td>和歌・短歌を鑑賞する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr><td>15</td><td>韻文 (3)</td><td>詩を鑑賞する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	エッセイ (1)	着眼点の面白さを味わう。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	2	エッセイ (2)	表現に着目して味わう。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	3	エッセイ (3)	内容を踏まえて自分の意見をまとめる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	4	新聞記事 (1)	実用的な文章のあり方を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	5	新聞記事 (2)	伝達の効果を高める工夫を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	6	新聞記事 (3)	報道記事以外の文章を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	7	短編小説 (1)	短編小説の構成を味読する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	8	短編小説 (2)	翻訳の文章を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	9	短編小説 (3)	表現技法を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	10	評論 (1)	時事評論を読み解く。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	11	評論 (2)	文芸評論を読み解く。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	12	評論 (3)	文語調の評論を読んでみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	13	韻文 (1)	俳句を鑑賞する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	14	韻文 (2)	和歌・短歌を鑑賞する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	15	韻文 (3)	詩を鑑賞する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	エッセイ (1)	着眼点の面白さを味わう。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																														
2	エッセイ (2)	表現に着目して味わう。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																														
3	エッセイ (3)	内容を踏まえて自分の意見をまとめる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																														
4	新聞記事 (1)	実用的な文章のあり方を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																														
5	新聞記事 (2)	伝達の効果を高める工夫を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																														
6	新聞記事 (3)	報道記事以外の文章を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																														
7	短編小説 (1)	短編小説の構成を味読する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																														
8	短編小説 (2)	翻訳の文章を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																														
9	短編小説 (3)	表現技法を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																														
10	評論 (1)	時事評論を読み解く。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																														
11	評論 (2)	文芸評論を読み解く。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																														
12	評論 (3)	文語調の評論を読んでみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																														
13	韻文 (1)	俳句を鑑賞する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																														
14	韻文 (2)	和歌・短歌を鑑賞する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																														
15	韻文 (3)	詩を鑑賞する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																														
関連科目	<p>こういった方面に興味のある人は、他に「文学から学ぶ」や「日本語表現」などを学ぶことで、より理解を深めることができるでしょう。</p>																																																																
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 20%;">著者名</th> <th style="width: 30%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 20%;">著者名</th> <th style="width: 30%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	<p>◇講義中に作成する小レポートが出席確認を兼ねます。近年散見する代筆提出については、代筆者・被代筆者共、成績処理時に大幅減点します。</p> <p>◇最終成績は、定期試験の結果7割と小レポートの回答状況3割とを合わせて判断します。</p> <p>◇私語・飲食・頻繁な離席・他授業の課題作成・居眠りなど、受講態度の著しく悪い学生には退室を指示して当日の出席は無効とし、さらに状況に応じてマイナス評価を下します。また、回収した小レポートの回答状況が著しく悪い場合も、当日の出席は無効とします。</p>																																																																

	◇原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。
学生へのメッセージ	「日本語なんて今更…」 「国語はキライ！」などの気持ちを捨てて講義に臨んで下さい。私があなたに求めているのは「今までの知識の積み重ね」ではなく、「自分のことばに自覚的になること、自分のことばで考えること」です。正解のない世界で「自分の答え」を手探りしてみましょう。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	事後学習として、授業後少なくとも半時間は、学習した事項を書いて覚えたり、曖昧な箇所は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。

科目名	人間力と心理	科目名(英文)	Human Capability and Psychology
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 雅代

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。授業では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に人間力と心理では、個人に焦点をあて、かつ社会的現実と対比した日常での問題を取り上げ人間の理解を目指す。
到達目標	1) 心理学の基礎知識を幅広く習得する。2) 人間の行動を理解する。3) 社会の中の自己を確認する。4) 実生活と心理学のかかわりを理解する。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じてVTRを使用する。また簡単な心理学実験や自己分析などを行う。その際、課題、レポートの提出を求めることがある。
科目学習の効果(資格)	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	心理学とはどのような学問か	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究の考え方、今までの歩みについて概説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。1時間以上かけること。
	2	生物学的基礎	他の動物が行う行動と比較しながら、生得的行動とは何か、初期経験が人間に与える影響について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。1時間以上かけること。
	3	初期学習	人間はいかに学ぶのか、また愛着について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。1時間以上かけること。
	4	条件づけ	条件づけとは何か、古典的条件づけ、オペラント条件づけについて説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。生得的行動、初期学習、条件付けについてノートを作成しておくこと。3時間以上かけること。
	5	社会的学習	学習とは学校での勉強のことではなく、経験のことをいう。人間における経験や、環境がいかに大切であるかまた学習効果について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。1時間以上かけること。
	6	両側性転移	心理学実験「両側性転移」を行い学習についての理解を深めるとともに心理学の研究方法について理解を深める。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。1時間以上かけること。
	7	ポジティブな学習とネガティブな学習	実験結果から読み取れる問題、人間の傾向についての検討。学習全般のまとめを行なう。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。学習についてノートを作成しておくこと。3時間以上かけること。
	8	動機づけ(1)	人間が行動に駆り立てられる状況、様々な動機、動機の階層について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。1時間以上かけること。
	9	動機づけ(2)	生物的動機、内発的動機の違いについて説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。1時間以上かけること。
	10	動機づけ(3)	社会的動機について説明する。人間がどのような動機を持つか、社会環境に影響受ける動機について事例や実験を通して解説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。動機づけについてノートを作成しておくこと。3時間以上かけること。
	11	パーソナリティ(1)	パーソナリティがどのようなものであるのか概説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。1時間以上かけること。
	12	パーソナリティ(2)	パーソナリティのとらえ方。パーソナリティの形成について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。1時間以上かけること。
	13	パーソナリティ(3)	実際に使用されている様々なパーソナリティテストについて解説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。1時間以上かけること。
	14	パーソナリティ(4)	パーソナリティについて自己分析を行う。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。パーソナリティについてノートを作成しておくこと。3時間以上かけること。
	15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	疑問点がどこであるのか考えておく。ノートに不備がないか確認しておくこと。1時間以上かけること。

関連科目 「心理と社会」と併せて履修することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし。講義内で資料配布する。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	心理学の基礎	今田寛、宮田洋、賀集寛共編	培風館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験、講義内で行う小テストやレポート課題等を評価する。 【定期試験 50%、レポート課題 30%、小テスト 20%】
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。 心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。
担当者の 研究室等	11号館6階(経営学部事務室)または11号館7階福田研究室
備考	

科目名	心理と社会	科目名(英文)	Psychology and Society
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柏尾 眞津子

授業概要・目的	心理学は、人間の行動を予測することを究極的な目標としている。私たちは、これまでに得られた心理学的知見を学ぶことで、自己と他者、そして自分の周囲を取り巻く社会を科学的な視点から見直すことができる。
到達目標	心理学の理論を理解し、科学としての心理学的枠組みで、社会や人の行動や心を理解し、健康でバランスのとれた対人関係を構築し、社会に貢献できる知性を身につける。 到達目標：以下の項目の理解を目標とする。 1) 集団の中での個々人の行動 2) 対人的コミュニケーション 3) 文化と心理 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II

授業方法と留意点	講義方式で適宜資料を配布する。視聴覚教材なども積極的に取り入れる。
----------	-----------------------------------

科目学習の効果(資格)	取得できる資格は特になし。しかしながら、自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるために重要な科目である。
-------------	---

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。
	2	心の健康(1)	心の健康と適応について解説します。	授業の前に、テキストのPart2の9「心の健康と適応」を読んで予習してください。
	3	心の健康(2)	こころのトラブルについて解説します。	日常生活にある心の健康を支えるものについて考えてください。
	4	心の健康(3)	適応と不適応、ストレスについて解説します。	自分が暮らしている環境への適応について考えてください。
	5	自己(1)	自己を守ることにについて解説します。	テキストのPart2の7「自己意識」を読んで事前に予習してください。
	6	自己(2)	自己を意識することにについて解説します。	自らの社会的経験も考慮して、自己をうまく表現する方法について考えてください。
	7	自己(3)	自己を表現するテクニックについて解説します。	自分に対する他者の評価について考えてください。
	8	心の健康と適応(1)	ストレスと健康について解説します。	テキストのPart2の9「心の健康と適応」の大切なところを要約して、レポートを作成し、提出してください。
	9	心の健康と適応(2)	心の健康、精神障害について解説します。	社会で問題となっている精神障害について調べてください。
	10	心の構造(1)	精神分析学について解説します。	テキストのPart2の8「こころの構造」を読んで、自分のこころについて考えてください。
	11	心の構造(2)	局所論と構造論について解説します。	精神分析療法について調べて、レポートを書いてください。
	12	心の構造(3)	神経症と防衛、フロイトと異なる立場をとる分析家たちについて解説します。	フロイトと異なる立場をとる分析家たちについて調べてください。
	13	対人認知(1)	対人認知のプロセス、パーソナリティの認知について解説します。	他者の存在が与える自分に対する影響を考えてください。
	14	対人認知(2)	対人関係の認知について解説します。	テキストのPart3の10「対人認知」の大切なところを要約してください。
	15	社会と心理のまとめ	社会と心理について総括します。	テキストおよびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

関連科目	心理学Iを履修していることが望ましい。 人間力と心理。
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内の課題試験を主とし、授業での提出物(講義の要約、感想文、課題レポート等)、授業態度をふまえて、総合的に評価する。 【授業内の課題試験70%、授業での提出物20%、授業態度10%】
----------	---

学生へのメッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めて下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館6階 経営学部事務室
----------	----------------

備考	講義の前には必ず最低1時間は予習・復習に時間をとりましょう。レポート作成には、しっかり時間をかけて最低5時間以上は時間をかけ、必ず見直しましょう。
----	---

科目名	実践の思想	科目名(英文)	Ideas for Practice
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柿本 佳美

教養科目

授業概要・目的	<p>この授業では、私たちの社会の価値観や規範の基礎となっている日本の思想を学び、ものづくりの専門家としての技術者のありかたと技術に関わる倫理を考えます。</p> <p>古来から、人々は、生活のなかの大変な作業を軽くし生活をより快適にするために、技術を発展させてきました。産業革命以降急速に発達した技術は、どの人も自由に豊かな生活を送ることができる社会をつくり出す原動力、もっと言うならより平等な社会を創り出す原動力にもなったのです。その一方で、急速な工業化は、環境破壊や環境汚染、廃棄物の処理など、多くの社会的な問題も生み出しました。また、シェールガス開発のように、当初は望ましいように見えたけれども、後になって人と環境への負荷が大きいことがわかってきた技術も存在します。そうすると、科学技術は開発さえすれば終わりではなく、社会に対する説明責任や、科学技術に対する社会の影響について考える必要があります。</p> <p>日本社会では、古来から、自然との対決ではなく、自然との調和を目指す考え方が主流でした。環境に配慮した科学技術のあり方を考えるうえで、日本の自然観を知ることも、一つのヒントになりそうです。</p> <p>ここでは、私たちの社会のなかで技術と技術者のあり方を支えてきた思想について学んでいきましょう。</p>																																																																		
到達目標	<p>日本社会における自然と技術観を理解し、共生社会を目指す持続可能な技術のあり方を考えることができる。</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>																																																																		
授業方法と留意点	講義形式で進めますが、人数によってはディスカッションも取り入れます。																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>科学技術をめぐる歴史をたどることで、人間の知的営みとしての技術のあり方について考えることができる。</p> <p>日本社会における技術観・自然観を学び、これらを技術全体の歴史のなかに置くことで、日本が生み出した技術の特徴を知ることができる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに：科学技術と私たち</td> <td>授業説明と導入。国立競技場コンペ作品と建築家ユニットSANAAに見る思想</td> <td>予習 できれば「技術士倫理綱領の解説」を読んでおく。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>世界史のなかの技術と思想</td> <td>石器の使用、古代文明、中国およびイスラム圏での発展、近代的な科学技術の誕生</td> <td>予習 高校地理を復習し、世界の河川・海洋および気候を確認する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本史のなかの技術と思想：古代から近世へ</td> <td>技術という視点から見た日本の歴史</td> <td>予習 近世までの日本の歴史を見ておく。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>日本史のなかの技術と思想：近世から現代へ</td> <td>江戸期の技術革新、明治期の近代化、高度成長期から現代</td> <td>予習 江戸時代の寺子屋について調べる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>日本における公害の歴史と科学技術</td> <td>4大公害訴訟、汚染者負担の原則、環境アセスメント</td> <td>予習：4大公害訴訟について調べる。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>日本の宗教と自然観：神道</td> <td>神道の自然観と共同体形成に果たした役割を学ぶ。</td> <td>予習 テキストにある祝詞『六月晦日大祓』『大殿祭』を読んでおく。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>日本の宗教と自然観：仏教</td> <td>仏教の歴史と自然観を学ぶ。</td> <td>予習 テキストにある『一遍上人語録』『歎異抄』『教行信証』を読んでおく。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>日本の組織倫理を支える思想：『論語』と朱子学</td> <td>日本社会における『論語』の受容</td> <td>予習 『論語』を読んでおく。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>生活文化と思想：茶道と禅</td> <td>岡倉天心『茶の本』を読み、茶道と禅が生活文化にもたらした影響を知る。</td> <td>予習 テキストにある岡倉天心『茶の本』の抜粋を読んでおく。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>日本の思想：心学と町衆文化</td> <td>町衆文化に根付いた学問および技術観</td> <td>予習 テキストにある安藤昌益『良演哲論』を読んでおく。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>日本の思想：福沢諭吉と文明開化</td> <td>荻生徂徠と福沢諭吉の思想</td> <td>予習 青空文庫にある福沢諭吉『学問のすゝめ』(http://www.aozora.gr.jp/cards/000296/files/47061_29420.html)を読んでおく。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>日本の思想：南方熊楠と自然保護</td> <td>日本社会における共生の思想</td> <td>予習 青空文庫にある南方熊楠『神社祭祀に関する意見』(http://www.aozora.gr.jp/cards/000093/card525.html)と、テキストにある南方熊楠『トータムと命名』を読んでおく。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>日本の自然観：和辻哲郎『風土』</td> <td>自然環境と文化との関係</td> <td>予習 高校地理の地形と気候について復習しておく。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>日本の美意識と民芸：九鬼周造と柳宗悦</td> <td>自然と調和した美とものづくり</td> <td>予習 青空文庫にある九鬼周造『いきの構造』(http://www.aozora.gr.jp/cards/000065/files/393_1765.html)を読んでおく。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ：倫理綱領と技術者</td> <td>市民としての技術者のあり方</td> <td>予習 日本技術士会「技術者倫理綱領」を読むこと。海外への技術移転について調べておくこと。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	はじめに：科学技術と私たち	授業説明と導入。国立競技場コンペ作品と建築家ユニットSANAAに見る思想	予習 できれば「技術士倫理綱領の解説」を読んでおく。	2	世界史のなかの技術と思想	石器の使用、古代文明、中国およびイスラム圏での発展、近代的な科学技術の誕生	予習 高校地理を復習し、世界の河川・海洋および気候を確認する。	3	日本史のなかの技術と思想：古代から近世へ	技術という視点から見た日本の歴史	予習 近世までの日本の歴史を見ておく。	4	日本史のなかの技術と思想：近世から現代へ	江戸期の技術革新、明治期の近代化、高度成長期から現代	予習 江戸時代の寺子屋について調べる。	5	日本における公害の歴史と科学技術	4大公害訴訟、汚染者負担の原則、環境アセスメント	予習：4大公害訴訟について調べる。	6	日本の宗教と自然観：神道	神道の自然観と共同体形成に果たした役割を学ぶ。	予習 テキストにある祝詞『六月晦日大祓』『大殿祭』を読んでおく。	7	日本の宗教と自然観：仏教	仏教の歴史と自然観を学ぶ。	予習 テキストにある『一遍上人語録』『歎異抄』『教行信証』を読んでおく。	8	日本の組織倫理を支える思想：『論語』と朱子学	日本社会における『論語』の受容	予習 『論語』を読んでおく。	9	生活文化と思想：茶道と禅	岡倉天心『茶の本』を読み、茶道と禅が生活文化にもたらした影響を知る。	予習 テキストにある岡倉天心『茶の本』の抜粋を読んでおく。	10	日本の思想：心学と町衆文化	町衆文化に根付いた学問および技術観	予習 テキストにある安藤昌益『良演哲論』を読んでおく。	11	日本の思想：福沢諭吉と文明開化	荻生徂徠と福沢諭吉の思想	予習 青空文庫にある福沢諭吉『学問のすゝめ』(http://www.aozora.gr.jp/cards/000296/files/47061_29420.html)を読んでおく。	12	日本の思想：南方熊楠と自然保護	日本社会における共生の思想	予習 青空文庫にある南方熊楠『神社祭祀に関する意見』(http://www.aozora.gr.jp/cards/000093/card525.html)と、テキストにある南方熊楠『トータムと命名』を読んでおく。	13	日本の自然観：和辻哲郎『風土』	自然環境と文化との関係	予習 高校地理の地形と気候について復習しておく。	14	日本の美意識と民芸：九鬼周造と柳宗悦	自然と調和した美とものづくり	予習 青空文庫にある九鬼周造『いきの構造』(http://www.aozora.gr.jp/cards/000065/files/393_1765.html)を読んでおく。	15	まとめ：倫理綱領と技術者	市民としての技術者のあり方	予習 日本技術士会「技術者倫理綱領」を読むこと。海外への技術移転について調べておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに：科学技術と私たち	授業説明と導入。国立競技場コンペ作品と建築家ユニットSANAAに見る思想	予習 できれば「技術士倫理綱領の解説」を読んでおく。																																																																
2	世界史のなかの技術と思想	石器の使用、古代文明、中国およびイスラム圏での発展、近代的な科学技術の誕生	予習 高校地理を復習し、世界の河川・海洋および気候を確認する。																																																																
3	日本史のなかの技術と思想：古代から近世へ	技術という視点から見た日本の歴史	予習 近世までの日本の歴史を見ておく。																																																																
4	日本史のなかの技術と思想：近世から現代へ	江戸期の技術革新、明治期の近代化、高度成長期から現代	予習 江戸時代の寺子屋について調べる。																																																																
5	日本における公害の歴史と科学技術	4大公害訴訟、汚染者負担の原則、環境アセスメント	予習：4大公害訴訟について調べる。																																																																
6	日本の宗教と自然観：神道	神道の自然観と共同体形成に果たした役割を学ぶ。	予習 テキストにある祝詞『六月晦日大祓』『大殿祭』を読んでおく。																																																																
7	日本の宗教と自然観：仏教	仏教の歴史と自然観を学ぶ。	予習 テキストにある『一遍上人語録』『歎異抄』『教行信証』を読んでおく。																																																																
8	日本の組織倫理を支える思想：『論語』と朱子学	日本社会における『論語』の受容	予習 『論語』を読んでおく。																																																																
9	生活文化と思想：茶道と禅	岡倉天心『茶の本』を読み、茶道と禅が生活文化にもたらした影響を知る。	予習 テキストにある岡倉天心『茶の本』の抜粋を読んでおく。																																																																
10	日本の思想：心学と町衆文化	町衆文化に根付いた学問および技術観	予習 テキストにある安藤昌益『良演哲論』を読んでおく。																																																																
11	日本の思想：福沢諭吉と文明開化	荻生徂徠と福沢諭吉の思想	予習 青空文庫にある福沢諭吉『学問のすゝめ』(http://www.aozora.gr.jp/cards/000296/files/47061_29420.html)を読んでおく。																																																																
12	日本の思想：南方熊楠と自然保護	日本社会における共生の思想	予習 青空文庫にある南方熊楠『神社祭祀に関する意見』(http://www.aozora.gr.jp/cards/000093/card525.html)と、テキストにある南方熊楠『トータムと命名』を読んでおく。																																																																
13	日本の自然観：和辻哲郎『風土』	自然環境と文化との関係	予習 高校地理の地形と気候について復習しておく。																																																																
14	日本の美意識と民芸：九鬼周造と柳宗悦	自然と調和した美とものづくり	予習 青空文庫にある九鬼周造『いきの構造』(http://www.aozora.gr.jp/cards/000065/files/393_1765.html)を読んでおく。																																																																
15	まとめ：倫理綱領と技術者	市民としての技術者のあり方	予習 日本技術士会「技術者倫理綱領」を読むこと。海外への技術移転について調べておくこと。																																																																
関連科目	哲学 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>思想のアンソロジー</td> <td>吉本隆明</td> <td>ちくま学芸文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>技術士倫理綱領の解説</td> <td>公益社団法人 日本技術士会</td> <td>http://www.engineer.or.jp/c_topics/000/attached/attach_25_3.pdf</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	思想のアンソロジー	吉本隆明	ちくま学芸文庫	2	技術士倫理綱領の解説	公益社団法人 日本技術士会	http://www.engineer.or.jp/c_topics/000/attached/attach_25_3.pdf	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	思想のアンソロジー	吉本隆明	ちくま学芸文庫																																																																
2	技術士倫理綱領の解説	公益社団法人 日本技術士会	http://www.engineer.or.jp/c_topics/000/attached/attach_25_3.pdf																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>工学の歴史</td> <td>三輪修三</td> <td>ちくま学芸文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ものづくりの科学史</td> <td>橋本毅彦</td> <td>講談社学術文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	工学の歴史	三輪修三	ちくま学芸文庫	2	ものづくりの科学史	橋本毅彦	講談社学術文庫	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	工学の歴史	三輪修三	ちくま学芸文庫																																																																
2	ものづくりの科学史	橋本毅彦	講談社学術文庫																																																																
3																																																																			

評価方法 (基準)	定期試験 60%、提出物 20%、ミニレポート (毎回提出)・受講態度 20%の割合で総合的に評価する。 ミニレポート・授業態度については、授業中に一時退出した場合、評価の対象とはならない。
学生への メッセージ	日本社会における技術の位置づけと技術に携わる人々のあり方にも触れていきますので、技術に携わる者としての考えを深めるように。 遅刻、途中退出はしないこと。私語、携帯電話の使用等、授業態度が悪い場合、受講態度に関する点をゼロとし、退室を命じることがあります。
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	予習・復習にそれぞれ1時間を当てること。また、指定された文献には必ず目を通し、自主学習には20時間以上かけること。

科目名	実践の思想	科目名 (英文)	Ideas for Practice
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 尚

授業概要・目的	<p>本講義では、日本人の人生観の源流を振り返ることを通じて、専門技術者を志す学生が身につけておくべき職業倫理を学ぶ。具体的には、近年注目されている「武士道」と「商人道」の違いなどを考察することを通じて、そもそもの「道（どう・みち）」なる発想の根幹を掴み、それを自らの実人生に活用できることを目指す。</p> <p>職業あるいは仕事を、たんに生きるための手段としてではなく、人生の最も大事な部分を形作る本質的な要素として理解できるような視点——このような視点を鍛え上げることを講義全体の目標とする</p>																																																																		
到達目標	<p>以下の項目の理解を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 武士道と職業倫理 2. 商人道と職業倫理 3. 〈ものづくり〉における倫理 4. 職業と人生の本質的な関係 <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>																																																																		
授業方法と留意点	ノート講義形式。講義内容の理解を問うコメントカードや小テストなどによって授業態度を評価する。																																																																		
科目学習の効果（資格）	日本の伝統的な職業観と思想に触れることから、現代の技術者が身につけるべきことは何か、見習うべきことは何かという問いに対して自主的に取り組めるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義の説明</td> <td>事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>科学と技術の基礎 (1)</td> <td>自然科学の源流</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>科学と技術の基礎 (2)</td> <td>近代と産業技術</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>江戸時代の思想 (1)</td> <td>武士道と商人道</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>江戸時代の思想 (2)</td> <td>中江藤樹の思想</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>江戸時代の思想 (3)</td> <td>熊沢蕃山の思想</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>江戸時代の思想 (4)</td> <td>安藤昌益の思想</td> <td>予習 安藤昌益について調べる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>江戸時代の思想 (5)</td> <td>石田梅岩の思想</td> <td>予習 石田梅岩について調べる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>江戸時代の思想 (6)</td> <td>貝原益軒の思想</td> <td>予習 貝原益軒について調べる</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>職業と人生</td> <td>人生における職業の位置づけ</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>柳宗悦の思想</td> <td>民藝と手仕事、匠の技と品物の性質</td> <td>予習 柳宗悦について調べる</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>仏教と職業倫理</td> <td>浄土思想と人生観</td> <td>予習 浄土仏教について調べる</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>岡倉天心の思想</td> <td>茶道にみる日本人の自然観</td> <td>予習 岡倉天心について調べる</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>科学技術がもたらす社会的倫理的問題</td> <td>職業・生きがい・アバシーについて</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>講義のふりかえり</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義の説明	事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解	2	科学と技術の基礎 (1)	自然科学の源流	事後学習 講義ノートの復習	3	科学と技術の基礎 (2)	近代と産業技術	事後学習 講義ノートの復習	4	江戸時代の思想 (1)	武士道と商人道	事後学習 講義ノートの復習	5	江戸時代の思想 (2)	中江藤樹の思想	事後学習 講義ノートの復習	6	江戸時代の思想 (3)	熊沢蕃山の思想	事後学習 講義ノートの復習	7	江戸時代の思想 (4)	安藤昌益の思想	予習 安藤昌益について調べる	8	江戸時代の思想 (5)	石田梅岩の思想	予習 石田梅岩について調べる	9	江戸時代の思想 (6)	貝原益軒の思想	予習 貝原益軒について調べる	10	職業と人生	人生における職業の位置づけ	事後学習 講義ノートの復習	11	柳宗悦の思想	民藝と手仕事、匠の技と品物の性質	予習 柳宗悦について調べる	12	仏教と職業倫理	浄土思想と人生観	予習 浄土仏教について調べる	13	岡倉天心の思想	茶道にみる日本人の自然観	予習 岡倉天心について調べる	14	科学技術がもたらす社会的倫理的問題	職業・生きがい・アバシーについて	事後学習 講義ノートの復習	15	まとめ	講義のふりかえり	事後学習 講義ノートの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義の説明	事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解																																																																
2	科学と技術の基礎 (1)	自然科学の源流	事後学習 講義ノートの復習																																																																
3	科学と技術の基礎 (2)	近代と産業技術	事後学習 講義ノートの復習																																																																
4	江戸時代の思想 (1)	武士道と商人道	事後学習 講義ノートの復習																																																																
5	江戸時代の思想 (2)	中江藤樹の思想	事後学習 講義ノートの復習																																																																
6	江戸時代の思想 (3)	熊沢蕃山の思想	事後学習 講義ノートの復習																																																																
7	江戸時代の思想 (4)	安藤昌益の思想	予習 安藤昌益について調べる																																																																
8	江戸時代の思想 (5)	石田梅岩の思想	予習 石田梅岩について調べる																																																																
9	江戸時代の思想 (6)	貝原益軒の思想	予習 貝原益軒について調べる																																																																
10	職業と人生	人生における職業の位置づけ	事後学習 講義ノートの復習																																																																
11	柳宗悦の思想	民藝と手仕事、匠の技と品物の性質	予習 柳宗悦について調べる																																																																
12	仏教と職業倫理	浄土思想と人生観	予習 浄土仏教について調べる																																																																
13	岡倉天心の思想	茶道にみる日本人の自然観	予習 岡倉天心について調べる																																																																
14	科学技術がもたらす社会的倫理的問題	職業・生きがい・アバシーについて	事後学習 講義ノートの復習																																																																
15	まとめ	講義のふりかえり	事後学習 講義ノートの復習																																																																
関連科目	哲学から学ぶ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	定期試験 60%、授業態度 40%の割合で評価する。なお、授業態度とは、講義内容の理解を問うために配布するコメントカードへの記述内容と小テストへの解答内容を指す。																																																																		
学生へのメッセージ	日本の伝統的な「ものの見方」と「立ち居振る舞い方」に触れ、現代社会を主体的に生きていくためのヒントを発見してください。私語、携帯電話の使用等で講義を妨害する行為を行った者は、授業態度評価をゼロとする。大学生にふさわしい態度で講義に臨むことを求めます。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室																																																																		
備考	予習（事前学習）・事後学習には、毎回十分に時間をかけること。																																																																		

科目名	哲学から学ぶ	科目名(英文)	Philosophy
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柿本 佳美

授業概要・目的
 この授業では、私たちが生活のなかで当たり前のように受け止めている価値観や社会規範のルーツとなる思想を学びます。私たちは、「言葉」を使って他の人とコミュニケーションをとり、自分の考えをまとめています。これは、私たちがどれだけ孤立した状態であっても、ほかの人ともに生活するという生の条件から逃れられないことを示しています。古代ギリシャの時代から哲学者たちが議論してきたことの一つは、言語の使用が生み出す公的な空間のあり方でした。古代ギリシャの人々は、人間が作り出すことができない自然のなかのさまざまな変化を観察し、これに驚くとともに、すべてのものに共通する原理は何かと考えました。この「驚き」は、自然科学を含む学問全体の始まりである「哲学」を生み出しました。その後、直接民主制が発達したアテナイでは、哲学は、ひとの「よき生」とは何か、そして「よき生」を可能にする共同体のあり方とは何か、を問うようになったのです。ここでは、現代社会の問題と重ね合わせ、「言葉」と「会話」をキーワードに「よき生」とは何かを考えていきましょう。

到達目標
 哲学の古典的な理論を知り、現代社会におけるさまざまな問題のなかにある普遍的な論点を見出し、分析することができる。
 V科の学習・教育目標との対応：A
 R科の学習・教育目標との対応：A
 A科の学習・教育到達目標との対応：A
 M科の学習・教育到達目標との対応：A
 E科の学習・教育到達目標との対応：B
 C科の学習・教育到達目標との対応：II

授業方法と留意点
 講義形式で進めますが、人数によってはディスカッションも取り入れます。

科目学習の効果(資格)
 哲学史を学ぶことで哲学の思考形式に慣れ、社会構造について多角的に把握する視点を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに：言葉が意味するもの	授業説明と導入。論理上の規則と否定。	予習 「肯定」と「否定」はそれぞれどのようなことを指すのか、考えてみよう。
2	「生きる」と「よく生きる」ことの間には：『ソクラテスの弁明』	『ソクラテスの弁明』から「よく生きる」ことについて考える。	予習 「アイロニー」について調べる。
3	言語活動と市民生活：アリストテレス『政治学』	プラトン『国家』と対比しながら、望ましい社会構造のあり方について考える。	予習 「言論の自由」について調べる。
4	言語と平等：ストア主義	ストア主義が成立した背景をたどり、平等の条件とは何か、考える。	予習 古代ローマの歴史を復習しておく。
5	哲学と宗教：ユダヤ教、キリスト教、イスラム教	宗教がもたらす哲学の思考枠組と限界を理解する。	予習 イエルサレムにあるユダヤ教・キリスト教・イスラム教の聖地を調べる。
6	過ぎ去った時間を現在に呼び起こすために：アウグスティヌス『告白』	言語化された「記憶」が示す過去の時間は現在でしかないことを理解する。	予習 プラトンのイデア論を調べておく。
7	自然科学の方法と哲学：デカルト	数学者デカルトが見出した自然科学の方法とこれに基づく哲学がもたらした影響を理解する。	予習 デカルト『方法序説』第1部に目を通しておく。
8	言葉と人間の自由：スピノザ	スピノザの差異を肯定する哲学が汎神論に基づくことを理解する。	予習 17世紀のオランダについて調べておく。
9	イギリス経験論のルーツ：ロックとヒューム	人間の知をめぐる経験論と大陸合理論の違いを理解する。	予習 17世紀のイギリスについて調べておく。
10	私たちはモノの価値という虚構を信じる：マルクス	価値という神話と物神信仰(フェティシズム)の発生の過程を理解する。	予習 産業革命について調べておく。
11	人はなぜ戦争をするのか？：カント	カントによる永遠平和の定義と訪問権について理解する。	予習 18世紀のヨーロッパの政情について調べておく。
12	自らを作り出す存在：ニーチェ	ニーチェによるニヒリズムと「生への意志」の定義を理解する。	予習 ロマン主義について調べておく。
13	構造主義と言語：ソシュールとレヴィ=ストロース	それぞれの言語と社会に共通する基本構造について理解する。	予習 英語の文法書を読んでおく。
14	実存主義と言語：サルトルとファノン	強制された言語が従属的な思考と社会構造を作り出すことを知る。	予習 第2次大戦までの植民地支配と戦後の独立について調べておく。
15	まとめ：「よき生」と街づくりの思想	大量消費社会のあり方がもたらす環境汚染を通して、市民社会における科学技術のあり方を考える。	予習 技術者の説明責任について考えておくこと。

関連科目
 哲学 II

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	反哲学入門	木田元	新潮文庫
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	自分を知るための哲学入門	竹田青嗣	ちくま学芸文庫
2			
3			

評価方法(基準)
 定期試験 60%、提出物 20%、ミニレポート(毎回提出)・受講態度 20%の割合で総合的に評価する。授業中に一時退出した場合、ミニレポートの提出を認めないことがあります。

学生へのメッセージ
 抽象的で難解だと考えられがちな哲学ですが、人間の知の営みである以上、私たちの日常生活にも何らかの接点があります。できるだけ具体的な事例を通じて説明しますので、考えることをあきらめないこと。

	遅刻、途中退回はしないこと。私語、携帯電話の使用等、授業態度が悪い場合、ミニレポート・受講態度に関する点をゼロとし、退室を命じることがあります。
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	予習・復習にはそれぞれ1時間を当てること。指定された文献は必ず読むこと。自主学習には20時間以上かけるように。

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森本 誠一

授業概要・目的	<p>科学（と翻訳されるものになっている英語の science）ということばが作られたのは 19 世紀になってからのことでした。それまで現在で言うところの科学者は、自然哲学者などと呼ばれていたのです。私たちは、科学的なものこそ信用でき非科学的なものは信用できないといったような評価を下すことがしばしばありますが、このとき私たちは「科学的」あるいは「非科学的」ということでどのようなことを考えているのでしょうか。</p> <p>古代ギリシア時代の哲学者アリストテレスが万学の祖と呼ばれるように、ほんらい哲学とはあらゆる学問の根源にあるものなのです。この授業では、こうした哲学の深みに触れ、いまある私たち生活、文化を見つめ直すとともに、社会における人文知の役割・意義を学修します。</p>
到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) 社会の課題、問題を自ら発見できる (2) 世の中で当たり前だとされていることを疑って批判的に考えられる (3) ものごと、対象を複数の視点から眺め、考察できる</p> <p>V 科の学習・教育目標との対応：A R 科の学習・教育目標との対応：A A 科の学習・教育到達目標との対応：A M 科の学習・教育到達目標との対応：A E 科の学習・教育到達目標との対応：B C 科の学習・教育到達目標との対応：II</p>

授業方法と留意点
この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リフレクションシートを提出してもらい、第 2 回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。

科目学習の効果（資格）

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法、基準についても確認します。	シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習しましょう。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査しましょう。
2	哲学のはじまり	世界で最初の哲学者はタレスであると言われていました。哲学のはじまりは、世界を説明するのに神話ではなく自然の観察によって得られた知見を用いたことにあります。 今回の授業では、ものごとをしっかりと観察することの大切さを学修します。	「タレス」「始源（アルケー）」について図書館の参考資料（『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など）で調べてから授業に出席しましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習しましょう。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査しましょう。
3	悪法も法なのか？	プラトンの対話編『ソクラテスの弁明』を手がかりに「悪法も法なのか」という問題について考察します。 科学者や工学者は何に従って生きていくべきなのか。科学の研究や技術の開発は何を目指して何のために行うべきなのか、考えます。	プラトン『ソクラテスの弁明』を読んでから授業に出席しましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習しましょう。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査しましょう。
4	徳は教えることができるのか？	プラトンの対話編『メノン』を手がかりに「徳は教えることができるのか」という問題について考察します。 科学者や工学者による不正は教育によって防ぐことができるのか、考えます。	プラトン『メノン』を読んでから授業に出席しましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習しましょう。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査しましょう。
5	アリストテレスの正義について	アリストテレス『ニコマコス倫理学』を手がかりに、正義について学修します。	「アリストテレス」「正義」について図書館の参考資料（『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など）で調べてから授業に出席しましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習しましょう。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査しましょう。
6	中庸の徳について	アリストテレス『ニコマコス倫理学』を手がかりに、中庸の徳について学修します。	「中庸の徳」について図書館の参考資料（『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など）で調べてから授業に出席すること。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習しましょう。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査しましょう。
7	生の短さについて	セネカ『生の短さについて』を手がかりに生の短さについて考えます。	セネカ『生の短さについて』を読んでから授業に出席しましょう。

				授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
8	中間のふり返り	これまでの授業をふり返り、各回のテーマがどのようにつながっていたのかを再確認します。これまでの授業でよく分からなかったことなどを質問する時間も設けます。		授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
9	友情について	キケロー『友情について』を手がかりに友情について考えます。		キケロー『友情について』を読んでから授業に出席しましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
10	老年について	キケロー『老年について』を手がかりに老年について考えます。		キケロー『老年について』を読んでから授業に出席しましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
11	古典に触れる	世に古典と言われるものは、長い歴史を経て現在まで受け継がれ散逸せずに残っているという意味で一定の価値があると言えるでしょう。今回の授業では、パスカルの『パンセ』をはじめとして、古典とされる作品の一節一節を手がかりにその深みに触れます。このことを通じて、人文知のあり方をいま改めて考え直します。		パスカル『パンセ』に目を通し、好きな一節を書き留めておきましょう（授業の中で紹介してもらいます）。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
12	ブッダの思想	ブッダの思想を学修します。		ブッダの思想について調べておきましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
13	科学と哲学	科学（と翻訳されるものになっている英語の science）ということばが作られたのは 19 世紀になってからのことでした。それまで現在で言うところの科学者は、自然哲学者などと呼ばれていたのです。私たちは、科学的なものこそ信用でき非科学的なものは信用できないといったような評価を下すことがしばしばありますけど、このとき私たちは「科学的」あるいは「非科学的」ということでどのようなことを考えているのでしょうか。 今回の授業では「科学とは何か」「科学的であるとはどういうことなのか」について学修します。そのなかで文系・理系、あるいは人文科学・社会科学・自然科学といった学問分野の分類がどのような意味をもっているのかを考えます。		科学と哲学の関わりについて調べておきましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
14	現代社会の諸問題	これまで学修してきたことを手がかりに、現代社会の諸問題について考察します。 私たちはいま古人の教えから何を学ぶことができるのか、考えます。		新聞を読んで広く社会問題となっていることを調べておきましょう。また、そうした問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
15	まとめ、全体のふり返り	これまでの授業をふり返りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。また、成績評価の方法・基準についても再確認します。これまでの授業でよく分からなかったことなどを質問する時間も設けます。		これまでの授業をふり返り、不明な点などを書き出しておくこと。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。

関連科目	実践の思想			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内課題（リフレクションシート）15%、授業に関連する課題調査 10%、中間レポート 30%、講義ノート提出 15%、期末試験 30%で評価する。ただし、出席率が 80%未満の場合には原則として成績評価の対象としない。			
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世界では日々いろいろなことが起こっています。世界に関心をもち目を向けることが哲学を始める第一歩です。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。			
担当者の 研究室等	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 7号館2階 非常勤講師室 メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)			
備考				

科目名	歴史に学ぶ	科目名(英文)	History
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐伯 智広

授業概要・目的	<p>目的：近代日本の成立についての歴史的な基礎知識を身に付け、その特質を理解する。</p> <p>概要：私たちは、日本という「国」に暮らしていることを、当たり前なこと・自然なことだと思っています。ですが、もしもそれが「自然ではないこと」だと言われたら…ちょっと「えっ?」と思いませんか? 現在の私たちが暮らす「国」とは何なのか。それが誰によって、何のために、どのように作られたのか。この講義では、そうした国の成り立ちの歴史について学びます。それは、単なる歴史ではなく、現代社会について理解することにつながるでしょう。</p>																																																																		
到達目標	<p>1. 現代の日本がどのような歴史的経緯を経て成立したかを理解する。</p> <p>2. 歴史的経緯が現代の日本に及ぼしている影響を理解する。</p> <p>3. 上記の点について説明可能な能力を身に付ける。</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>																																																																		
授業方法と留意点	板書講義形式です。プリントを利用します。教科書はありません。参考書は講義内で適宜示します。																																																																		
科目学習の効果(資格)	近代日本という国の起源・変遷・特色についての、歴史的な基礎知識と、それを説明する能力を身につけることができます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「国」</td> <td>私たちが現在暮らす「国」とは何なのかについて説明します。</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>開国</td> <td>幕末の開国について、江戸時代の鎖国と比較して考えます。</td> <td>予習として、「開国」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>廃藩置県</td> <td>廃藩置県について、江戸時代の幕藩体制と比較して考えます。</td> <td>予習として、「廃藩置県」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>徴兵令</td> <td>徴兵令について、江戸時代の武士と比較して考えます。</td> <td>予習として、「徴兵令」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>文明開化</td> <td>文明開化について、江戸時代の蘭学・国学と比較して考えます。</td> <td>予習として、「文明開化」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>自由民権運動</td> <td>自由民権運動について、現代の政治制度と比較して考えます。</td> <td>予習として、「自由民権運動」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>大日本帝国憲法</td> <td>大日本帝国憲法について、日本国憲法と比較して考えます。</td> <td>予習として、「大日本帝国憲法」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>条約改正</td> <td>不平等条約の改正について考えます。</td> <td>予習として、「条約改正」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>日清戦争・日露戦争</td> <td>日清戦争・日露戦争について、前後の時代の戦争と比較して考えます。</td> <td>予習として、「日清戦争」「日露戦争」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第一次世界大戦</td> <td>第一次世界大戦について、前後の時代の戦争と比較して考えます。</td> <td>予習として、「第一次世界大戦」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ワシントン体制</td> <td>ワシントン体制について、現代の戦争問題と比較して考えます。</td> <td>予習として、「ワシントン体制」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大正デモクラシー</td> <td>大正デモクラシーについて、現代の政治制度と比較して考えます。</td> <td>予習として、「大正デモクラシー」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>世界恐慌</td> <td>世界恐慌について、現代の経済問題と比較して考えます。</td> <td>予習として、「世界恐慌」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>第二次世界大戦</td> <td>第二次世界大戦について、前後の時代の戦争と比較して考えます。</td> <td>予習として、「第二次世界大戦」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>そして現代へ</td> <td>第二次世界大戦後の日本について、現代と比較して考えます。</td> <td>予習として、「日本国憲法」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「国」	私たちが現在暮らす「国」とは何なのかについて説明します。	なし	2	開国	幕末の開国について、江戸時代の鎖国と比較して考えます。	予習として、「開国」という語について辞書的な意味を調べる。	3	廃藩置県	廃藩置県について、江戸時代の幕藩体制と比較して考えます。	予習として、「廃藩置県」という語について辞書的な意味を調べる。	4	徴兵令	徴兵令について、江戸時代の武士と比較して考えます。	予習として、「徴兵令」という語について辞書的な意味を調べる。	5	文明開化	文明開化について、江戸時代の蘭学・国学と比較して考えます。	予習として、「文明開化」という語について辞書的な意味を調べる。	6	自由民権運動	自由民権運動について、現代の政治制度と比較して考えます。	予習として、「自由民権運動」という語について辞書的な意味を調べる。	7	大日本帝国憲法	大日本帝国憲法について、日本国憲法と比較して考えます。	予習として、「大日本帝国憲法」という語について辞書的な意味を調べる。	8	条約改正	不平等条約の改正について考えます。	予習として、「条約改正」という語について辞書的な意味を調べる。	9	日清戦争・日露戦争	日清戦争・日露戦争について、前後の時代の戦争と比較して考えます。	予習として、「日清戦争」「日露戦争」という語について辞書的な意味を調べる。	10	第一次世界大戦	第一次世界大戦について、前後の時代の戦争と比較して考えます。	予習として、「第一次世界大戦」という語について辞書的な意味を調べる。	11	ワシントン体制	ワシントン体制について、現代の戦争問題と比較して考えます。	予習として、「ワシントン体制」という語について辞書的な意味を調べる。	12	大正デモクラシー	大正デモクラシーについて、現代の政治制度と比較して考えます。	予習として、「大正デモクラシー」という語について辞書的な意味を調べる。	13	世界恐慌	世界恐慌について、現代の経済問題と比較して考えます。	予習として、「世界恐慌」という語について辞書的な意味を調べる。	14	第二次世界大戦	第二次世界大戦について、前後の時代の戦争と比較して考えます。	予習として、「第二次世界大戦」という語について辞書的な意味を調べる。	15	そして現代へ	第二次世界大戦後の日本について、現代と比較して考えます。	予習として、「日本国憲法」という語について辞書的な意味を調べる。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「国」	私たちが現在暮らす「国」とは何なのかについて説明します。	なし																																																																
2	開国	幕末の開国について、江戸時代の鎖国と比較して考えます。	予習として、「開国」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
3	廃藩置県	廃藩置県について、江戸時代の幕藩体制と比較して考えます。	予習として、「廃藩置県」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
4	徴兵令	徴兵令について、江戸時代の武士と比較して考えます。	予習として、「徴兵令」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
5	文明開化	文明開化について、江戸時代の蘭学・国学と比較して考えます。	予習として、「文明開化」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
6	自由民権運動	自由民権運動について、現代の政治制度と比較して考えます。	予習として、「自由民権運動」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
7	大日本帝国憲法	大日本帝国憲法について、日本国憲法と比較して考えます。	予習として、「大日本帝国憲法」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
8	条約改正	不平等条約の改正について考えます。	予習として、「条約改正」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
9	日清戦争・日露戦争	日清戦争・日露戦争について、前後の時代の戦争と比較して考えます。	予習として、「日清戦争」「日露戦争」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
10	第一次世界大戦	第一次世界大戦について、前後の時代の戦争と比較して考えます。	予習として、「第一次世界大戦」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
11	ワシントン体制	ワシントン体制について、現代の戦争問題と比較して考えます。	予習として、「ワシントン体制」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
12	大正デモクラシー	大正デモクラシーについて、現代の政治制度と比較して考えます。	予習として、「大正デモクラシー」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
13	世界恐慌	世界恐慌について、現代の経済問題と比較して考えます。	予習として、「世界恐慌」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
14	第二次世界大戦	第二次世界大戦について、前後の時代の戦争と比較して考えます。	予習として、「第二次世界大戦」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
15	そして現代へ	第二次世界大戦後の日本について、現代と比較して考えます。	予習として、「日本国憲法」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
関連科目	ありません。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	予習シート30%、定期試験70%																																																																		
学生へのメッセージ	教科書で勉強する高校の日本史とは違って、大学での講義はきゅうくつな枠組みはありません。過去の歴史が現代日本に与えている影響について学びながら、現代の私達にとって歴史が持つ意味についても、自由に考えていきましょう! また、最新の学説なども紹介していくので、研究の最先端で教科書が書き換わっていく面白さも知ってもらいたいと考えています。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	自主学習には、予習シートの記入・期末試験の準備を含めて、合計10時間はかけること。																																																																		

科目名	歴史に学ぶ	科目名(英文)	History
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村上 司樹

授業概要・目的	よく誤解されがちですが、「歴史は暗記科目だ」という意見はちょっと極端すぎます。もちろん基本的なことを覚えていた方が学びやすいのは確かですが、それは文系・理系のどんな学問でも同じでしょう。その意味で、年代や出来事を知っていることは大切です。しかし「歴史に学ぶ」ことの本質は、そうした過去に生きた人びとの経験を貴重な手がかりとして、現在と未来に生きる私たちが具体的・論理的な思考力を鍛えることにあります。具体的な話をすれば、講義では中世ヨーロッパの歴史を、自然と技術の2つの視点から読み解きたいと思います。なぜなら講師の専門分野が西洋中世史だからであり、またこの授業が理工学部の学生を対象としているからです。論点としては、(1) 機械と労働、(2) 建築と社会、(3) 自然学と世界認識、の3点を考えています。理学と工学のどちらにとっても大きな転換点であった中世ヨーロッパの歴史を通して、理系・文系という狭い枠にとらわれないものの見方・考え方を身に付けましょう。																																																																		
到達目標	V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II																																																																		
授業方法と留意点	暗記は必要ありません。教科書も不要です。講師の側でプリントを用意し、参考書は各单元ごとに紹介します。また講義中も、多くの図や表を多く使って分かりやすく説明します。しかしだからこそ受講生の側でも、以下3点の努力を実行してください。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通して置くこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は講師と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからです。																																																																		
科目学習の効果(資格)	文化という視点を心得、理学・工学をより深く、より幅広く理解するための知識・教養が身に着く。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに</td> <td>授業のルール・方針・全体計画</td> <td>必ず出席するよう予定を調整する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>機械からみた中世 I</td> <td>すでに古代の段階で技術的には完成していた</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>機械からみた中世 I I</td> <td>しかし古代には社会的な理由から普及しなかった</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>機械からみた中世 I I I</td> <td>中世になって初めて機械が大々的に普及する</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>機械からみた中世 I V</td> <td>中世の社会のあり方が機械技術の普及・発展をうながした</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>機械からみた中世 V</td> <td>近代の産業革命はその延長線上にある</td> <td>同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>建築からみた中世 I</td> <td>古代の石造建築は現代人の目から見ても非常にハイレベル</td> <td>同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>建築からみた中世 I I</td> <td>中世には石造建築がいったんすたれた</td> <td>同上の課題に加えて小レポート。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>建築からみた中世 I I I</td> <td>中世において石造建築を発展させたのは教会</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>建築からみた中世 I V</td> <td>中世の教会堂が石造建築を完成させる</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>建築からみた中世 I V</td> <td>中世の教会堂が建築家を生んだ</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>建築からみた中世 V</td> <td>近代の建築は社会の近代化と切り離せない</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>自然からみた中世 I</td> <td>古代の高度な自然学は必ずしも「科学的」ではない</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>自然からみた中世 I I</td> <td>中世において宗教が科学の発展を妨げたというのは誤解</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>自然からみた中世 I I I</td> <td>近代の自然研究も宗教や魔術から生まれた</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	必ず出席するよう予定を調整する。	2	機械からみた中世 I	すでに古代の段階で技術的には完成していた	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	3	機械からみた中世 I I	しかし古代には社会的な理由から普及しなかった	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	4	機械からみた中世 I I I	中世になって初めて機械が大々的に普及する	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	5	機械からみた中世 I V	中世の社会のあり方が機械技術の普及・発展をうながした	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	6	機械からみた中世 V	近代の産業革命はその延長線上にある	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。	7	建築からみた中世 I	古代の石造建築は現代人の目から見ても非常にハイレベル	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。	8	建築からみた中世 I I	中世には石造建築がいったんすたれた	同上の課題に加えて小レポート。	9	建築からみた中世 I I I	中世において石造建築を発展させたのは教会	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	10	建築からみた中世 I V	中世の教会堂が石造建築を完成させる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	11	建築からみた中世 I V	中世の教会堂が建築家を生んだ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	12	建築からみた中世 V	近代の建築は社会の近代化と切り離せない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	13	自然からみた中世 I	古代の高度な自然学は必ずしも「科学的」ではない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	14	自然からみた中世 I I	中世において宗教が科学の発展を妨げたというのは誤解	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	15	自然からみた中世 I I I	近代の自然研究も宗教や魔術から生まれた	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	必ず出席するよう予定を調整する。																																																																
2	機械からみた中世 I	すでに古代の段階で技術的には完成していた	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
3	機械からみた中世 I I	しかし古代には社会的な理由から普及しなかった	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
4	機械からみた中世 I I I	中世になって初めて機械が大々的に普及する	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
5	機械からみた中世 I V	中世の社会のあり方が機械技術の普及・発展をうながした	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
6	機械からみた中世 V	近代の産業革命はその延長線上にある	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。																																																																
7	建築からみた中世 I	古代の石造建築は現代人の目から見ても非常にハイレベル	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。																																																																
8	建築からみた中世 I I	中世には石造建築がいったんすたれた	同上の課題に加えて小レポート。																																																																
9	建築からみた中世 I I I	中世において石造建築を発展させたのは教会	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
10	建築からみた中世 I V	中世の教会堂が石造建築を完成させる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
11	建築からみた中世 I V	中世の教会堂が建築家を生んだ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
12	建築からみた中世 V	近代の建築は社会の近代化と切り離せない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
13	自然からみた中世 I	古代の高度な自然学は必ずしも「科学的」ではない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
14	自然からみた中世 I I	中世において宗教が科学の発展を妨げたというのは誤解	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
15	自然からみた中世 I I I	近代の自然研究も宗教や魔術から生まれた	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ありません。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するからです。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはありませんが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対にありません。例えば、出席点というものはありません。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義の方針をとります。また配点は、①テスト(40点)、②レポート(30点)、③レスポンスペーパー(30点+α)。第3に60点に達するなら、①②③すべてを提出する必要もありません。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしいと思います。																																																																		
学生へのメッセージ	歴史が教えてくれるのは、「すべては表裏一体」ということです。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記科目としての歴史」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える歴史」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		

備考	<p>毎回授業の事前・事後学習（具体的には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと、その日のうちにプリントを読み返すこと）に、平均1時間以上かけること。「レスポンス・ペーパーが上手く書けない」と感じる人は、この家庭学習の時間を利用して、授業当日に書く内容（ある程度アイデアでもよい）を出しておくこと。レポート作成の際は、「レポートの手引き」を1時間以上かけて何度も読み返すこと。</p>
----	---

科目名	健康論	科目名(英文)	Theory of Health
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	内部 昭彦

授業概要・目的	現代社会では、健康問題が最大の関心事である。特に生活習慣病は増加の一途をたどっている。この要因は食生活・運動・喫煙・飲酒・休養・ストレス等のライフスタイルに強く関連している。本講義では以上を踏まえて受講者が生涯にわたって自ら健康づくりを实践できる方途を具体的に論述する。
到達目標	①ライフスタイルの重要性について理解できる。②生活習慣病について理解できる。③健康づくりのための運動処方について理解できる。④疾病について理解できる。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II

授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
----------	--------------

科目学習の効果(資格)	本人が自覚して健康維持・増進を図ることの出来る能力を身につけ、生活の内容を豊かにすることができる。
-------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	健康論とは	・ガイドランス ・現代の健康についての概念	・筆記用具の準備
2	喫煙と健康	・煙草の種類 ・喫煙のリスク ・喫煙の弊害	・喫煙のリスク、健康への害に対する理解
3	薬物と健康	・違法薬物とは ・薬物中毒 ・薬物の内容・弊害	・違法薬物に対する理解
4	飲酒と健康	・飲酒と健康 ・飲酒の弊害	・アルコールの知識を理解を深める
5	思春期と性	・身体の変化 ・性とは	・性に対する理解を深める
6	妊娠・出産	・妊娠とは ・妊娠初期について ・妊娠中期について ・妊娠後期について ・産じよく期について	・妊娠初期、中期の理解 ・妊娠後期、産褥期の理解
7	性感染症	・性感染症とは ・現代の性感染症 ・予防方法	・現代の性感染症の確認と理解
8	エイズ	・エイズを知る ・現代のエイズ状況 ・HIV と AIDS ・感染経路 ・エイズの予防対策	・世界の現状を理解 ・エイズの感染経路の確認と理解 ・エイズの予防の確認と理解
9	生活習慣病予防としての運動の役割	・「運動」「栄養」「休養」について概説し、それらと生活習慣病との関連性について説明する。 ・五大栄養素とその役割について解説する。	・生活習慣病予防としての運動の理解
10	食事と睡眠・心身相関	・健康な食事と睡眠 ・心身の関係性	・正しい食事、睡眠の確認と理解
11	発育・発達・老化	・幼少期から青年期にいたる身体の形態発育・機能発達と、それらに運動トレーニングが及ぼす効果について解説 ・身体の形態・機能の老化について解説 ・中・高齢者における運動トレーニングの効果について解説	発育・発達・老化について理解
12	運動障害と予防、応急処置	・日常の応急手当、スポーツ障害、過換気症候群、RICE 処置、心肺蘇生法について解説 ・救急処置法 ・救急処置の実際	・日常生活やスポーツ実施時の応急処置の方法 ・事故などに関する応急処置の方法
13	健康づくりのための運動処方	・有酸素・無酸素運動、レジスタンストレーニングについて、健康づくりの観点から解説 ・年代・性差による違いについても説明	・健康づくりのための運動について理解
14	ストレス・疲労への対策	・ストレス要因の軽減・ストレスへの早期対応としてのスポーツの関わりを解説 ・疲労が起るしくみとその対策について解説	・スポーツによる、ストレスの軽減を理解
15	健康論総括(テスト)	1 4 回まで行った授業の内容に関してテストを行う	これまでの授業の復習

関連科目	スポーツ科学実習 1・2 生涯スポーツ実習
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	健康論総括(15回目)におけるテストを100%の割合で評価を行う。			
学生への メッセージ	質問等がある場合は、研究室あるいは総合体育館事務室に来て下さい。			
担当者の 研究室等	総合体育館1階 内部助教室			
備考	1) 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 2) 課題(レポート)には1回あたり5時間以上かけて仕上げること。 3) 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間はかけること。			

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 潤

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。																																																																		
到達目標	①運動技能を向上させることができる ②競技ルールを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる 学科の学習・教育到達目標との対応：[A]																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目 (バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目 (サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を獲得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td>ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)</td><td>ルールの理解</td></tr> <tr><td>2</td><td>体力測定①</td><td>屋外種目</td><td>測定記録評価</td></tr> <tr><td>3</td><td>体力測定②</td><td>屋内種目</td><td>測定記録評価</td></tr> <tr><td>4</td><td>各コース別実技</td><td>競技の概要説明、基礎技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>5</td><td>各コース別実技</td><td>基礎技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>6</td><td>各コース別実技</td><td>審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>7</td><td>各コース別実技</td><td>基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>8</td><td>各コース別実技</td><td>基礎技術練習、簡易試合</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>9</td><td>各コース別実技</td><td>基礎技術練習、簡易試合</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>10</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>11</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>12</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>13</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>14</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>15</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価	3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価	4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価																																																																
3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価																																																																
4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保健論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズ理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。 事前事後学習には、毎回1時間以上かけてください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)																																																																		

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Practicum in Sports Science II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 潤

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。																																																																		
到達目標	①運動技能を向上させることができる ②競技ルールを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる 学科の学習・教育到達目標との対応：[A]																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。)授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目(サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を獲得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td>ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)</td><td>ルールの理解</td></tr> <tr><td>2</td><td>各コース別実技</td><td>競技の概要説明、基礎技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>3</td><td>各コース別実技</td><td>基礎技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>4</td><td>各コース別実技</td><td>審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>5</td><td>各コース別実技</td><td>基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>6</td><td>各コース別実技</td><td>基礎技術練習、簡易試合</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>7</td><td>各コース別実技</td><td>基礎技術練習、簡易試合</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>8</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>9</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>10</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>11</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>12</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>13</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>14</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>15</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保健論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズ理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。 事前事後学習には、毎回1時間以上かけてください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)																																																																		

科目名	生涯スポーツ実習	科目名(英文)	Lifetime Sports
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	河瀬 泰治

授業概要・目的	<p>スポーツ科学実習で習得した基礎知識をベースにより応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。</p>																																																																		
到達目標	<p>①運動技能を向上させることができる ②競技ルールを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>【授業内容】 実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は下記のとおりである。 前期 ①サッカー、②テニス、③ソフトボール、④バドミントン、バレーボール、バスケットボール⑤卓球 後期 ①サッカー、②テニス、③バドミントン、バレーボール、バスケットボール、④卓球、 これら種目の他に、集中授業としてゴルフを開講しますが、通年授業の生涯スポーツ実習との重複履修は出来ません。 ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を獲得できる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス(履修上の注意事項の説明)コース種目分け</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各コース別実技</td> <td>競技の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習・簡易試合、解説とゲーム</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習・簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習・簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グループビンク・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グループビンク・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グループビンク・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グループビンク・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グループビンク・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グループビンク・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グループビンク・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グループビンク・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意事項の説明)コース種目分け	授業内容のまとめ	2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	ゲーム(グループビンク・成績記録)	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	ゲーム(グループビンク・成績記録)	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム(グループビンク・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム(グループビンク・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム(グループビンク・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム(グループビンク・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム(グループビンク・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム(グループビンク・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意事項の説明)コース種目分け	授業内容のまとめ																																																																
2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	ゲーム(グループビンク・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	ゲーム(グループビンク・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム(グループビンク・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム(グループビンク・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム(グループビンク・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム(グループビンク・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム(グループビンク・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム(グループビンク・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	<p>スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ・健康論・スポーツ科学概論・保健論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズ理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニング理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>体育館1F 体育館事務室</p>																																																																		
備考	<p>【準備物】 トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)</p>																																																																		

科目名	生涯スポーツ実習	科目名(英文)	Lifetime Sports
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	河瀬 泰治

授業概要・目的
 スポーツ科学実習で習得した基礎知識をベースにより応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。

到達目標
 ①運動技能を向上させることができる
 ②競技ルールを理解することができる
 ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる

V科の学習・教育目標との対応：A
 R科の学習・教育目標との対応：A
 A科の学習・教育到達目標との対応：A
 M科の学習・教育到達目標との対応：A
 E科の学習・教育到達目標との対応：B
 C科の学習・教育到達目標との対応：II

授業方法と留意点
【授業内容】
 実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。)
 授業での開講種目は下記のとおりである。
 前期 ①サッカー、②テニス、③ソフトボール、④バドミントン、バレーボール、バスケットボール⑤卓球
 後期 ①サッカー、②テニス、③バドミントン、バレーボール、バスケットボール、④卓球、
 これら種目の他に、集中授業としてゴルフを開講しますが、通年授業の生涯スポーツ実習との重複履修は出来ません。
 ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。

科目学習の効果(資格)
 生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を獲得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け	授業内容のまとめ
2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
5	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
6	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ
7	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ
8	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ
9	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ
10	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ
11	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ
12	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ
13	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ
14	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ
15	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	授業内容のまとめ

関連科目
 スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ・健康論・スポーツ科学概論・保健論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズ理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
 平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。
 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。

学生へのメッセージ
 本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。
 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。

担当者の研究室等
 体育館1F 体育館事務室

備考
【準備物】
 トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)

科目名	生涯スポーツ実習	科目名(英文)	Lifetime Sports
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	近藤 潤

授業概要・目的	ゴルフというスポーツを通して生涯スポーツへの参加意識向上と自信を深めることを目的にする。																																																																		
到達目標	①運動技能を向上させることができる ②競技ルール、ラウンドマナーを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II																																																																		
授業方法と留意点	事前ガイダンスと集中授業4日間合わせて5日間で行う。 5日間すべて受講できること。 事前の申し込みが受け付けられることが必要。 申込用紙は履修ガイダンス時に配布。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事前ガイダンス</td> <td>目的、内容、準備について ゴルフの概要</td> <td>ゴルフの概要を確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ゴルフの基礎知識</td> <td>ゴルフのルール、マナーについて</td> <td>ルールの再確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ゴルフの基礎技術(1)</td> <td>グリップ、スウィング</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ゴルフの基礎技術(2)</td> <td>打球練習場での練習 アイアン</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ゴルフの基礎技術(3)</td> <td>アプローチ、パター練習</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ゴルフの応用技術(1)</td> <td>打球練習場での練習 ドライバー</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ゴルフの応用技術(2)</td> <td>ミニラウンド</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ゴルフの実践</td> <td>ラウンド(9H)</td> <td>イメージトレーニング</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	ゴルフの概要を確認	2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	ルールの再確認	3	ゴルフの基礎技術(1)	グリップ、スウィング	技術の反復練習	4	ゴルフの基礎技術(2)	打球練習場での練習 アイアン	技術の反復練習	5	ゴルフの基礎技術(3)	アプローチ、パター練習	技術の反復練習	6	ゴルフの応用技術(1)	打球練習場での練習 ドライバー	技術の反復練習	7	ゴルフの応用技術(2)	ミニラウンド	技術の反復練習	8	ゴルフの実践	ラウンド(9H)	イメージトレーニング	9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	ゴルフの概要を確認																																																																
2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	ルールの再確認																																																																
3	ゴルフの基礎技術(1)	グリップ、スウィング	技術の反復練習																																																																
4	ゴルフの基礎技術(2)	打球練習場での練習 アイアン	技術の反復練習																																																																
5	ゴルフの基礎技術(3)	アプローチ、パター練習	技術の反復練習																																																																
6	ゴルフの応用技術(1)	打球練習場での練習 ドライバー	技術の反復練習																																																																
7	ゴルフの応用技術(2)	ミニラウンド	技術の反復練習																																																																
8	ゴルフの実践	ラウンド(9H)	イメージトレーニング																																																																
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	スポーツ科学実習 I, II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	履修までの質問は、総合体育館のスポーツ振興センター事務室に来てください。																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考	ラウンド時の服装は襟付きポロシャツ、スラックス(半ズボンの場合はハイソックス着用)、運動靴(スパイク類は禁止)ゴルフクラブは大学が用意しますが、ラウンド用ボール、ゴルフ用手袋は各自で用意してください。																																																																		

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大江 麻里子

授業概要・目的	徹底した基礎英文法（5文型、時制など）、ごく簡単な読解、語彙力を身に付ける。
到達目標	基本的な文法を確認しながら、それをふまえて、様々な英作や読解問題などをこなせるようにする。 R科の学習・教育目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：B
授業方法と留意点	テキストにそってすすめていきますが、必ず英語の辞書を持ってきてください。また、毎回単語のテストを行いますので、しっかり準備してください。
科目学習の効果（資格）	基礎英文法の習得 基本的な英作や読解の方法を学ぶ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1	5文型 単語テスト (1-20)	テキストの予習と単語テストの準備
3	Unit 1	5文型 単語テスト (21-40)	テキストの予習と単語テストの準備
4	Unit 2	動詞 単語テスト (41-60)	テキストの予習と単語テストの準備
5	Unit 2	動詞 単語テスト (61-80)	テキストの予習と単語テストの準備
6	Unit 3	進行形・未来形・助動詞 単語テスト (81-100)	テキストの予習と単語テストの準備
7	Unit 3	進行形・未来形・助動詞 単語テスト (101-120)	テキストの予習と単語テストの準備
8	Unit 4	名詞・冠詞・代名詞 単語テスト (121-140)	テキストの予習と単語テストの準備
9	Unit 4	名詞・冠詞・代名詞 単語テスト (141-160)	テキストの予習と単語テストの準備
10	Unit 5	前置詞・接続詞 (1) 単語テスト (161-180)	テキストの予習と単語テストの準備
11	Unit 5	前置詞・接続詞 (1) 単語テスト (181-200)	テキストの予習と単語テストの準備
12	Unit 6	形容詞・副詞と比較級	テキストの予習
13	Unit 6	形容詞・副詞と比較級	テキストの予習
14	Unit 7	命令文	テキストの予習
15	Unit 7	命令文 総まとめ	テキストの予習

関連科目	基礎英語 IIa
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英文法から学ぶ英作と読解	佐藤哲三	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	TOEIC 20% 統一単語テスト 10% e-learning 学習の進捗度 10% 定期試験（授業態度を含む） 60% を総合して評価する。授業態度とは、授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を指す。また、原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。
学生へのメッセージ	英語の学習は、続けることが肝心です。それぞれの学生のレベルをみながら、授業をすすめていく予定なので、毎回辞書をもって出席してください。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	英単語は、毎日平均30分は学習すること。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美

授業概要・目的	今までに学習した英文法の基礎固めと運用力を向上させることを目的とします。教科書は「基本」と「標準」レベルの2部構成になっており、各問題をこなすことで自分の力の在りかを確認することができる。さらに英作文、長文読解問題に取り組むことでその運用力を試すことができる。文法力を定着させ聴解力、読解力、会話力の向上につなげていく。
到達目標	また単語集を使い語彙力の向上を図る。 全範囲 pp.2-34 (0001-0200) 文法の基礎固めをすることで正確な読解力を付けることができる。 R 科の学習・教育到達目標との対応：[A] M 科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	毎回授業の始めに TOEIC のための単語小テストを行う。 毎回出される課題を必ずしてくるよう。授業では講師の文法解説に加え、課題（文法、作文、長文読解）の答え合わせを全員で行う。 習得しにくい文法項目は、随時プリントなどで補う。
科目学習の効果（資格）	文法の基礎を固めをし読解力を向上させる TOEIC テストに有効な単語の習得

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、 自己紹介	授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 簡単な確認テスト 教科書を少し進める	次回の予習（文法問題、長文読解）
2	座席を決める。 単語テスト No1 pp.2-5 1 文の種類（1）（2）	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
3	単語テスト No2 pp.6-9 1 文の種類（1）（2）	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
4	単語テスト No3 pp.10-13 2 動詞の種類と文型（1）（2）	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
5	単語テスト No4 pp.14-17 2 動詞の種類と文型（1）（2）	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
6	単語テスト No5 pp.18-21 3 動詞 時制（1）（2）	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
7	単語テスト No6 pp.22-25 3 動詞 時制（1）（2）	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
8	単語テスト No7 pp.26-29 臨時テスト（中間） 4 助動詞（1）（2）	既習内容の習熟度を確認	臨時テストに備えた復習 次回の予習（文法問題、長文読解）
9	単語テスト No8 pp.30-35 4 助動詞（1）（2）	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
10	単語テスト No9（2周目） pp.2-9 5 能動態と受動態（1）（2）	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
11	単語テスト No10 pp.10-17 5 能動態と受動態（1）（2）	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
12	単語テスト No11 pp.18-25 9 接続詞（1）（2）	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
13	単語テスト（最終）No12 pp.26-35 9 接続詞（1）（2）	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
14	1 0 前置詞（1）（2）	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
15	1 0 前置詞（1）（2）	文法説明、exercise の解答、長文読解	授業後、期末試験に備えて復習

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Enjoy English(「大学生のための総合英語」)	佐藤哲三・他 4名	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: Word Book 1	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	TOEICテスト20%、統一単語テスト10%、e-learning学習10%、テスト2回(中間+期末)40%、平常点(発表、小テスト、宿題、授業態度)20%とし総合的に評価する。
学生への メッセージ	基礎固めは地道に何度も繰り返してが基本です。それを念頭に問題に取り組んでください。そして1年を通して英文法の全体的な体系を理解できるようにし、どんな文法問題が出てもすぐに対応でき、長文読解やリスニングなどの面でも難なく運用できるようになることを目指します。 授業ではできるだけ多くの受講生に当たるようにする。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	予習には最低2時間をかけてください。 単語調べは語学学習の基本です。調べたら記録するように。 授業の理解度や進度によって授業計画は多少変更になる可能性がある。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	内山 知美

授業概要・目的	この授業では、これまで学んだ英語の基礎を、文法を中心としてもう一度確認しながら、語彙や文の構造を知って、リスニング、ライティングからリーディングまで、総合的な英語力を養成することを旨とする。そして実際に「使える」英語運用能力を身につけることを目的とする。
到達目標	英語基礎能力を確立し、何らかの形で英語に関わってくる時代の流れに対応するために、英語全体の根底にある文法・語法を身につけ、さらにそれを実践に活かせるようにすることを目標とする。 R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	共通単語帳と教科書を中心に授業を行う。まず、共通単語帳の小テストをし、教科書の内容に入る。教科書では、単語・文法を確認しながら、リーディングからリスニング・ライティングへと進めて行く。各ユニットを1(2)回の授業で行う予定である。必ずテキストの予習をして授業に臨むこと。
科目学習の効果(資格)	TOEICや英検等の得点力アップにつながる。語彙力、構文に基づいた英語読解力・聴解力・表現力・運用能力の向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業内容についての説明と、英語の4スキルに関する導入と準備をする。	事前にテキストの内容に目を通しておくこと。 単語テスト (p.2, p.3) の準備。
	2	基本文型に関する表現練習。	単語を確認し、文章読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.2, p.3	単語テスト (p.4, p.5) と教科書の授業範囲の予習と復習。
	3	be動詞に関する表現練習。	単語を確認し、文章読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.4, p.5	単語テスト (p.6, p.7) と教科書の授業範囲の予習と復習。
	4	一般動詞(現在)に関する表現練習。	単語を確認し、文章読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.6, p.7	単語テスト (p.8, p.9) と教科書の授業範囲の予習と復習。
	5	一般動詞(過去)に関する表現練習。	単語を確認し、文章読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.8, p.9	単語テスト (p.10, p.11) と教科書の授業範囲の予習と復習。
	6	進行形に関する表現練習。	単語を確認し、文章読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.10, p.11	単語テスト (p.12, p.13) と教科書の授業範囲の予習と復習。
	7	未来形に関する表現練習。	単語を確認し、文章読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.12, p.13	単語テスト (p.14, ~p.17) と教科書の授業範囲の予習と復習。
	8	助動詞に関する表現練習。	単語を確認し、文章読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.14, ~p.17	単語テスト (p.16, ~p.19) と教科書の授業範囲の予習と復習。
	9	名詞・冠詞に関する表現練習。	単語を確認し、文章読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.16, ~p.19	単語テスト (p.20~p.23) と教科書の授業範囲の予習と復習。
	10	代名詞に関する表現練習。	単語を確認し、文章読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.20~p.23	単語テスト (p.22~p.25) と教科書の授業範囲の予習と復習。
	11	前置詞に関する表現練習。	単語を確認し、文章読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.22~p.25	単語テスト (p.26 ~p.29) と教科書の授業範囲の予習と復習。
	12	形容詞・副詞に関する表現練習。	単語を確認し、文章読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.26 ~p.29	単語テスト (p.28~p.31) と教科書の授業範囲の予習と復習。
	13	比較に関する表現練習。	単語を確認し、文章読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.28~p.31	単語テスト (p.32~p.35) と教科書の授業範囲の予習と復習。

	14	命令文・感嘆文に関する表現練習。	単語を確認し、文章読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.32～p.35	前期授業範囲の復習。
	15	Review	各ユニットの復習とまとめ。	
関連科目	他の全ての英語科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Asking Why? The Science of Everyday Life. 日常の科学 Q&A	Shawn M. Clankie / 中津川雅宣	金星堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通試験 30% (TOEIC ブリッジ 20%、統一英語単語テスト 10%)、e-learning 学習度 10%、定期試験 40%、平常点 (小テスト、レポート・課題、授業への取組み) 20% の割合で評価する。			
学生への メッセージ	英語が国際言語であり続ける今日、英語能力の向上はあらゆる可能性を広げるでしょう。日頃から興味ある分野の英語や英語圏のニュース等もチェックするよう心がけ、学習意欲を高めていって下さい。辞書を活用した予習・復習を習慣づけ、積極的に授業に参加することを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。また英単語・熟語は日々の積み重ねが大切です。e-learningを含めて、毎日1時間以上学習すること。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 三千代

授業概要・目的	この授業では、これまで学んだ英語の基礎を、文法を中心としてもう一度確認しながら、語彙や文の構造を知って、リスニング、ライティングからリーディングまで、総合的な英語力を養成することを旨とする。そして実際に「使える」英語運用能力を身につけることを目的とする。
到達目標	英語基礎能力を確立し、何らかの形で英語に関わってくる時代の流れに対応するために、英語全体の根底にある文法・語法を身につけ、さらにそれを実践に活かせるようにすることを目標とする。 R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	共通単語帳と教科書を中心に授業を行う。まず、共通単語帳の小テストをし、教科書の内容に入る。教科書では、語彙力を付けながら、文法を確認をし、リスニングからライティング・リーディングまで進めて行く。各ユニットを1～2回の授業で行う予定である。必ずテキストの予習をし、辞書を持って授業に臨むこと。
科目学習の効果 (資格)	TOEICや英検等の得点力アップにつながる。語彙力、構文に基づいた英語読解力・聴解力・表現力・運用能力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業内容についての説明と、英語の4スキルに関する導入と準備をする。	事前にテキストの内容に目を通しておくこと。単語テスト (1-20) の準備。
2	be 動詞に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：1-20	単語テスト (21-40) と教科書の授業範囲の予習と復習。
3	be 動詞に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：21-40	単語テスト (41-60) と教科書の授業範囲の予習と復習。
4	一般動詞 (現在) に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：41-60	単語テスト (61-80) と教科書の授業範囲の予習と復習。
5	一般動詞 (過去) に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：61-80	単語テスト (81-100) と教科書の授業範囲の予習と復習。
6	進行形に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：81-100	単語テスト (101-120) と教科書の授業範囲の予習と復習。
7	未来形に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：101-120	単語テスト (121-140) と教科書の授業範囲の予習と復習。
8	助動詞に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：121-140	単語テスト (141-160) と教科書の授業範囲の予習と復習。
9	名詞・冠詞に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：141-160	単語テスト (161-180) と教科書の授業範囲の予習と復習。
10	代名詞に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：161-180	単語テスト (181-200) と教科書の授業範囲の予習と復習。
11	前置詞に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：181-200	単語 (1-100) の復習と教科書の授業範囲の予習と復習。
12	形容詞・副詞に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	単語 (101-200) の復習と教科書の授業範囲の予習と復習。
13	比較に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	単語 (1-200) の復習と教科書の授業範囲の予習と復習。
14	命令文・感嘆文に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題	教科書の前期授業範囲の復習。

			題、また英文理解問題の練習をして知識 固めをする。	
	15	Review	各ユニットの復習とまとめ。	レポート等最終提出。
関連科目	他の全ての英語科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Primer<Revised Edition>	佐藤 哲三 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通試験 30% (TOEICブリッジ 20%、統一英語単語テスト 10%)、e-learning 学習 10%、平常点 (小テスト、レポート・課題、授業への取組み) 20%、定期試験 40%、の割合で評価する。			
学生への メッセージ	TOEIC テストを積極的に受験し、単語帳に付随する e-learning 教材等を活用して自主学習を進んで実践すること。 今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによってあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じ、親しむように心がけて欲しい。 予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)			
備考	事前・事後学習には、毎回 1 時間以上かけること。また英単語・熟語は日々の積み重ねが大切です。e-learning を含めて、毎日 1 時間以上学習すること。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美

授業概要・目的	英語の4技能を身につけるための基礎として不可欠な英文法を、はじめからしっかりと身につけることを目的とする。同時に、英文法の基礎的な知識を用いて、短いパッセージを読み、英文の内容把握能力をつちかう。高校までの学習内容をしっかりと定着させ、次年度以降のTOEIC対策や、将来的に英語で論文を執筆したり、英語で世界中の人々とやりとりを行うための基礎固めを行う。
到達目標	基礎英文法を徹底的に理解する R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	毎回、授業始めに「The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test」から単語テストを行う。授業は教科書を中心に、英文法の確認、文法練習問題、英文読解、リスニング問題、英作文に取り組む。なるべく全員を指名するので予習が必要である。また必要に応じて確認テストも実施するので、復習して知識を定着させておくこと。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、TOEFL、英語検定試験等に役立つ

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項の確認等	教科書全体に目を通しておくこと
2	CHAPTER 1 5つの基礎文型	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0001-0020) テキストの予習
3	CHAPTER 2 動詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0021-0040) テキストの予習、復習
4	CHAPTER 3 進行形・未来形・助動詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0041-0060) テキストの予習、復習
5	CHAPTER 4 名詞・冠詞・代名詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0061-0080) テキストの予習、復習
6	CHAPTER 5 前置詞・接続詞(1)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0081-0100) テキストの予習、復習
7	CHAPTER 6 形容詞・副詞と比較級	単語テスト Unit1-5までの復習 確認テスト	単語学習番号(0101-0120) テキストの予習、復習
8	CHAPTER 7 命令文・感嘆文	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0121-0140) テキストの予習、復習
9	中間まとめ	単語テスト まとめのテスト	単語学習番号(0141-0150) テキストの予習、復習
10	CHAPTER 8 不定詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0151-0160) テキストの予習、復習
11	CHAPTER 9 動名詞と分詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0161-0170) テキストの予習、復習
12	CHAPTER 10 各種疑問文・Itの特別用法	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0171-0180) テキストの予習、復習
13	CHAPTER 11 受動態	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0181-190) テキストの予習、復習
14	CHAPTER 12 完了形	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0191-0200) テキストの予習、復習
15	CHAPTER 13 接続詞(2)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	テキストの復習

関連科目	他の全ての英語科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の総合基礎英語	佐藤 哲三他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	共通試験 30% (TOEICブリッジ20%, 統一英語単語テスト) =10% e-learning 学習の進捗度=10% 授業貢献度 (小テスト、授業態度、まとめのテスト)、および定期試験の結果の総合的評価=60% ※3回までを評価基準とし、遅刻は3回で欠席1回とみなす。
----------	--

学生への メッセージ	eラーニング教材「リンガポルタ」を活用して単語力を増強し、TOEIC 試験にも挑戦しましょう。 予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って来ること。積極的な授業への参加を期待しています。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間はかけること。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿

授業概要・目的	<p>中学から高校にかけて学んだ文法事項の復習をはじめ、更なる文法力及び語彙力の養成、実戦形式の資格、検定練習を通し四択問題など独自の出題形式に慣れ、解答を導く知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。特に文法事項や用語等の知識は受験時に思い出さなければ役に立たないので、すぐ出てくるまで繰り返し覚えて身につけよう。</p>
到達目標	<p>今まで持っている英文法力の更なる強化を目指し、必要な場面で学んだ事がすぐ出てくるようにしましょう！</p> <p>R科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：B</p>
授業方法と留意点	<p>毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。簡単な文法問題中心のテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。文法はルールを繰り返し覚えれば必ず身につきます。授業中に出てきた新しい単語も毎日少しずつ覚える習慣をつけよう。英語が苦手な人も余り意識せず、向上心を持ってこれらががんばろう！</p>
科目学習の効果（資格）	<p>高校までの基本的英文法の復習及び英検やTOEIC等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 TOEICテストに有効な単語力</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	次回の第一回単語テスト範囲、1-25番まで勉強する事。
2	Unit1 My Hometown 故郷を紹介しよう	be 動詞	教科書 p. 1-6、次回の第二回単語テスト範囲、26-50番まで勉強する事。
3	Unit2 Hobbies 趣味もいろいろ	一般動詞	教科書 p. 7-12、次回の第三回単語テスト範囲、51-75番まで勉強する事。
4	Unit3 Shopping 買い物に行くならどこ？	名詞、代名詞	教科書 p. 13-18、次回の第四回単語テスト範囲、76-100番まで勉強する事。
5	Unit4 Nature Quiz クイズに挑戦	Wh 疑問文	教科書 p. 19-24、次回の第五回単語テスト範囲、101-125番まで勉強する事。
6	Unit5 Dream House 理想的な住まいとは？	前置詞	教科書 p. 25-30、次回の第六回単語テスト範囲、126-150番まで勉強する事。
7	Unit6 Food 好きな食べ物は何!?	接続詞	教科書 p. 31-36、次回の第七回単語テスト範囲、151-175番まで勉強する事。
8	Unit 7 First Date デートは最初が肝心	過去形	教科書 p. 37-42、次回の第八回単語テスト範囲、176-200番まで勉強する事。
9	Unit8 Detective Story 探偵は真実を求める	進行形	教科書 p. 43-48、次回の第九回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。
10	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。
11	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十一回単語テスト範囲(詳細は後日指示する)を勉強する事。
12	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十二回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。
13	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十三回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。
14	資格、検定などの問題またはリスニング演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十四回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。
15	総合復習	定期試験対策	———

関連科目	英語 I、英語 I I、英語 I V
------	--------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Ace	山本厚子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benedict Rowlett	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集)	西谷悟志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	<p>定期試験(40%)、提出物(10%)、単語小テスト(5%)、平常点(授業態度など5%)の合計60%にe-learning学習進捗度(10%)、共通試験(30%：TOEICブリッジ20%、統一英語単語テスト10%)を足して総合評価します。TOEICブリッジ及び統一単語テストを受験しなかった人は評価に大きく影響します。また、日頃の授業態度も重視します。</p>
学生へのメッセージ	<p>「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！</p>
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げる事。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	スマーズ 理恵

教養科目

授業概要・目的	英文を読んで英語によるアクティビティや課題をこなすことによって、その大意を理解する。テキストの音読に重点を置き、正しい発音を学び、メッセージを伝えるための英語の読み方や話し方を理解し習得する。英語による質問に英語で答えることに慣れ、日本語を介さずに英語のままに英語を理解する訓練を行う。
到達目標	基礎読解力を身につける R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	単語テストはNo. 201 から No. 400 の範囲を 2 週目から 11 週目までの授業で毎週 20 個ずつテストする。 毎回授業では英語によるアクティビティや課題があります。その点数が平常点として換算されますので、欠席するとその点数が減点されることとなりますので注意してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC Bridge の得点アップ、英検におけるレベルアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Amazing Animals: The Incredible Dolphin	第1回目 単語テスト 英文読解のためのアクティビティ	当該ユニットの予習 単語学習範囲 NO 201～ NO 220
3	Amazing Animals: Musical Elephants	第2回目 単語テスト 英文読解のためのアクティビティ Unit 1 の確認小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 NO 221～ NO 240
4	Travel and Adventure: The Trip of a Lifetime	第3回目 単語テスト 英文読解のためのアクティビティ	当該ユニットの予習 単語学習範囲 NO 241～ NO 260
5	Travel and Adventure: Adventure Island	第4回目 単語テスト 英文読解のためのアクティビティ Unit 2 の確認小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 NO 261～ NO 280
6	The Power of Music: hip-Hop Planet	第5回目 単語テスト 英文読解のためのアクティビティ	当該ユニットの予習 単語学習範囲 NO 281～ NO 300
7	The Power of Music: A Musical Boost	第6回目 単語テスト 英文読解のためのアクティビティ Unit 3 の確認小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 NO 301～ NO 320
8	第2回から 7 回の授業のまとめ	第7回目 単語テスト 音読プレゼンテーション	当該ユニットの音読練習 単語学習範囲 NO 321～ NO 340
9	Into Space: Life Beyond Earth?	第8回目 単語テスト 英文読解のためのアクティビティ	当該ユニットの予習 単語学習範囲 NO 341～ NO 360
10	Into Space: Living in Space	第9回目 単語テスト 英文読解のためのアクティビティ Unit 4 の確認小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 NO 361～ NO 380
11	City Life: Global Cities	第10回目 単語テスト 英文読解のためのアクティビティ	当該ユニットの予習 単語学習範囲 NO 381～ NO 400
12	City Life: Rio Reborn	英文読解のためのアクティビティ Unit 5 の確認小テスト	当該ユニットの予習 復習
13	Small Worlds: In One Cubic Foot	英文読解のためのアクティビティ	当該ユニットの予習
14	Small Worlds: A World Within Us	英文読解のためのアクティビティ Unit 6 の確認小テスト	当該ユニットの予習 復習
15	第9回から 14 回の授業のまとめ	音読プレゼンテーション	当該ユニットの音読練習

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	TOEICブリッジテスト 20%、統一英語単語テスト 10%、e-learning 学習の進捗度 10%、期末テスト 30%、平常点 (授業態度、発表、課題、小テスト) 20%
-----------	--

学生へのメッセージ	・授業中には翻訳をしませんので、各自で分からない単語やイディオムは予習しておいてください。 ・教科書の音声データを利用し音読練習を行うようにしてください。 ・e-learning 教材と、テキスト音声を使って自宅学習を行ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	・実践的な英努力を身につけるため、TOEIC試験などを積極的に受験するようにしてください。 ・授業計画は進度によって変わる場合がある。 ・自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間はかけること。
----	---

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村 ゆみ

授業概要・目的	英文を「聞いて」「読んで」「考える」ワークブック形式のテキストを通して、実践英語の基礎固めをする。リスニング、リーディング、ポキャプラーを中心に英語の運用能力を高めることを目標とする。
到達目標	基礎読解力を身につける R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	教科書に沿って進むが、随時プリント教材で補足する。 単語テストは NO 201 から NO 400 の範囲を一週につき 40 個ずつテストすることを 2 回繰り返し合計 10 回のテストをする。テキストの内容確認の臨時テストも各章の終わりに行う。 ただ出席するだけでなく、積極的な授業参加が求められる。携帯の使用や、私語、居眠り等が認められた場合は減点となるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC Bridge の得点アップ、英検におけるレベルアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・教科書 Unit 1 を少し進める	単語テストの予習 NO 201～ NO 240
	2	Unit 1 基礎文法の確認	演習と解説 単語テスト 1	単語テストの予習 NO 241～ NO 280 当該ユニットの予習 復習
	3	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説、発展問題 単語テスト 2	課題：授業で指示する
	4	これまでの授業内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 281～ NO 320
	5	Unit 2 基礎文法の確認	演習と解説 単語テスト 3	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 321～ NO 360
	6	Unit 3 基礎文法の確認	演習と解説 単語テスト 4	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 361～ NO 400
	7	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト 5	課題：授業中に指示する
	8	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 201～ NO 240
	9	Unit 4 読解の方法	演習と解説 単語テスト 1-2	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 241～ NO 280
	10	Unit 5 読解の方法	演習と解説 単語テスト 2-2	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 281～ NO 320
	11	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト 3-2	課題：単語テストの予習 NO 321～ NO 360
	12	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習、単語テスト 4-2	課題：単語テストの予習 NO 361～ NO 400
	13	Unit 6 英語の語彙	演習と解説 単語テスト 5-2	当該ユニットの予習 復習
	14	Unit 7 英語の語彙	演習と解説	当該ユニットの予習 復習
	15	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Mystery Break	Atsuko Uemura/Irene Iwasaki	Cengage learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通試験 30% (TOEIC20%、統一英語単語テスト 10%)、定期試験 20%、小テスト 20%、提出物 10%、授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、発表など) 10%、e-learning10%の割合で評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	・各自の予習 (単語、フレーズ調べ) が不可欠です ・e-learning 教材と、テキスト付属 CD を使って自宅学習を行いましょう。地道な努力により、英語力は必ず伸びます、がんばりましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	事前事後学習 (それぞれ約 1 時間) 以外に、毎日単語、15 分、リスニング 15 分の学習をすること。 授業計画は進度によって変わる場合がある。
----	---

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	抽冬 紘和

教養科目

授業概要・目的	高校英語レベルの復習を目標に、読解力を中心に、語彙力、文法力、英語表現力を身につけることを目標とする。 また、TOEIC Bridge, TOEIC 対策も目的とする。
到達目標	正確な語彙力、文法力を基にした、英文読解力、またリスニング力、そして自己表現力を得ることが出来る。 R 科の学習・教育目標との対応：A M 科の学習・教育到達目標との対応：B
授業方法と留意点	講義（解説）と演習の両方をおこない、全員参加型の授業を目指す。 辞書を引き、十分に予習をして授業に臨んでください。辞書は必ず持参すること。 指定の単語集を用いて毎回、授業の初めにテストをします。
科目学習の効果（資格）	英語の基礎的な語彙力、文法力が身に付きます。 英文の基礎読解力、英語での簡単な表現力が身に付きます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction ミニテスト	授業方法、成績評価等の説明、座席の指定。教科書の学習方法の説明 単語テスト範囲数の決定	テキストの単語調べ
	2	Unit1 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	3	Unit2 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	4	Unit3 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	5	確認テスト① TOEIC 単語テスト	テスト、答え合わせ	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	6	Unit4 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	7	Unit5 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	8	Unit6 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	9	確認テスト② TOEIC 単語テスト	テスト、答え合わせ	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	10	Unit7 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	11	Unit8 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
	12	Unit9 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
	13	Unit10 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
	14	確認テスト③ TOEIC 単語テスト	テスト、答え合わせ	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
	15	総復習 TOEIC 単語テスト	まとめプリント実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ

関連科目 其他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Pass Intro	Andrew E. Bennett	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 共通試験 30% (TOEIC Bridge20%、統一英語単語テスト 10%)

(基準)	<p>定期試験 40%、小テスト 10% 授業参加態度 10% e-learning10%の割合で評価する。</p> <p>※授業態度に問題のある場合（遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など）は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。</p>
学生へのメッセージ	<p>英語力は身に付くのに大変時間がかかりますが、日々すこしずつ、一緒に頑張っていきましょう。 授業では、英語だけではなく、テキストの内容も楽しめ、学べるようにしていきます。</p>
担当者の研究室等	<p>7号館2階（非常勤講師室）</p> <p>連絡先 email: hirokazunukk@outlook.jp</p>
備考	<p>事前、事後学習の自主学習時間</p> <p>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 英単語は e-learning 学習など、毎日、平均1時間は学習すること</p>

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子

授業概要・目的	読解を中心に行う授業である。高校までに学んできたことを復習しながら、アメリカ生活を扱った文章を読み、同時に、より多くの語彙力、文法力、作文力をつけていくことを目的とする。 また、教科書はアメリカでの生活が肌で感じられるような内容になっているため、アメリカの文化や若者の生活を知ることができる。英語力を増すとともに、アメリカや異文化に興味を持ってもらいたい。
到達目標	基礎読解力をつけることを最大の目標とする。最初は短い文章から始め、徐々に、より長い文章が読めるような読解力を養成していく。また TOEIC Bridge 受験に必要な読解力の更なる向上を目標とする。 R 科の学習・教育目標との対応：A M 科の学習・教育到達目標との対応：B
授業方法と留意点	語学の授業であるので、学生主導で進めていく。訳出、練習問題、音読、すべてを学生に指名することになるので、積極的に対応してもらいたい。また、辞書は必ず持参すること。教科書を忘れたままの着席は、欠席扱いとする。
科目学習の効果 (資格)	授業で習得した読解力は TOEIC Bridge テストにも役立つはずである。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 練習問題	授業方法、提出物、評価方法についての説明	特になし 教科書持参
	2	Chapter 1: Making Friends	単語テスト 教科書 pp. 1-5	教科書の予習 単語学習範囲: 0201-0220
	3	Chapter 2: Renting an Apartment	単語テスト 教科書 pp. 6-10	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 0221-0240
	4	Chapter 3: Setting up a Bank Account	単語テスト 教科書 pp. 11-15	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 0241-0260
	5	復習・進度調整・弱点補強	単語テスト Chapter 1-3 までの小テスト プリント	前回授業の復習 小テストの準備 単語学習範囲: 0261-0280
	6	Chapter 4: Phone and Internet Services	単語テスト 教科書 pp. 16-20	教科書の予習 単語学習範囲: 0281-0300
	7	Chapter 5: Traveling in the United States	単語テスト 教科書 pp. 21-25	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 0301-0320
	8	Chapter 6: Getting a Car	単語テスト 教科書 pp. 26-30	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 0321-0340
	9	復習・進度調整・弱点補強	単語テスト Chapter 4-6 までの小テスト プリント	前回授業の復習 小テストの準備 単語学習範囲: 0341-0360
	10	Chapter 7: New York City	単語テスト 教科書 pp. 31-35	教科書の予習 単語学習範囲: 0361-0380
	11	Chapter 8: Sports in the United States	単語テスト 教科書 pp. 36-40	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 0381-0400
	12	Chapter 9: The Neighborhood Party [Barbecue]	教科書 pp. 41-45	前回授業の復習 教科書の予習
	13	Chapter 10: Ordering Pizza	教科書 pp. 46-50	前回授業の復習 教科書の予習
	14	復習・進度調整・弱点補強	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	前回授業の復習 前期内容の復習
	15	前期の総復習	試験に向けた復習	前期内容の復習

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Life across the Waves	William A. O' Donnell	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 評価は共通試験 30% (TOEIC Bridge20%、統一英語単語テスト10%)、e-learning10%、定期試験 40%、小テストと授業態度 (質問に対する応答、積極性、発表など) 20%の割合で評価する。 詳しくは第 1 回目の授業で説明する。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。
-----------	-----------------------------

担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	事前事後学習のため、毎回平均1時間は学習すること。



科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美

教養科目

授業概要・目的	英語の基本的な力を養成する。英文法を改めて学び直すことで定着させ、作文、リスニング、読解の練習を通して実際の運用能力の向上へつなげていく。 単語集を使い TOEICbridge のための語彙力アップを図る。
到達目標	基本語彙と基礎英文法の力を定着させ、総合的な力（作文、リスニング、読解）を向上させる。 また単語集を使い語彙力の向上を図る。全範囲 pp. 34-66 (0201-0400) R 科の学習・教育到達目標との対応：[A] M 科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	毎回授業の始めに TOEICbridge のための単語テストを行う。 文法を理解して終わりではなく、ある程度の語彙を用いて多くの英作文をする。それはリスニング力や読解力、会話力の向上へと繋がります。授業はテキストに沿って進める。予習は必須である。 教科書の練習問題だけでは不十分な場合随時プリントで補います。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のスコアアップ、基礎英文法の定着と総合的な力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	単語テスト No1 pp.34-37 1 5つの基本文型	座席を決める 文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
3	単語テスト No2 pp.38-41 1 5つの基本文型	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
4	単語テスト No3 pp.42-45 2 動詞	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
5	単語テスト No4 pp.46-49 2 動詞	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
6	単語テスト No5 pp.50-53 3 進行形・未来形・助動詞	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
7	単語テスト No6 pp.54-57 3 進行形・未来形・助動詞	文法解説、exercise、対話練習	中間テストに備えた勉強
8	単語テスト No7 pp.58-61 臨時テスト（中間） 4 名詞・冠詞・代名詞	既習内容の習熟度を確認 文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
9	単語テスト No8 pp.62-67(-400) 4 名詞・冠詞・代名詞	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
10	単語テスト No9 (2nd) pp.34-45 5 前置詞・接続詞	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
11	単語テスト No10 (2nd) pp.46-57 5 前置詞・接続詞	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
12	単語テスト No11 (2nd) pp.58-67 6 形容詞・副詞と比較級	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
13	6 形容詞・副詞と比較級	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
14	7 命令文・感嘆文	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
15	7 命令文・感嘆文	文法解説、exercise、対話練習	期末試験に備えての勉強。

関連科目 他の英語関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) TOEICbridge 20%、統一単語テスト10%、e-learning 10%、テスト2回（中間+定期試験）40%、平常点（発表、小テスト、宿題、授業態度）20%とし、総合的に評価する。

学生へのメッセージ
今までの学習で、文法は習っても英作文や読解問題をこなす練習は少なかつたのではないかと思います。この授業ではその所に重点を置いた訓練をします。また簡単な会話文を用いて発話練習も楽しめます。
・毎回英語辞書は必ず持参すること。
・授業態度も評価の対象にします。

担当者の研究室等 7号館2階（非常勤講師室）

備考 英語に関しては予習が大事です。毎回、2時間前後予習に時間をかけてください。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小磯 かをる

授業概要・目的	この授業は、基礎的な文法力・語彙力・読解力を身につけることを目的とする。 高校までに学習した文法を復習し、簡単な読解などを通じて語彙を増やすことによって、基礎レベルの英文が理解できるようになることを目標とする。
到達目標	辞書を多用すること無しに、英文を理解できるようになる。 基礎読解力を身につける R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	教科書にそって、文法解説、演習、読解を行う。 授業時間内に、小テスト（授業内容の確認）と単語テスト（指定範囲）を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC など各種英語検定試験に必要な文法力、語彙力、読解力の基本を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法・注意点についての説明	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
2	Unit 1 Four-legged fish	単語テスト：201-220 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
3	Unit 2 Reproduction without males	単語テスト：221-240 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
4	Unit 3 Deeper and deeper	単語テスト：241-260 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
5	Unit 4 Nature, our ferocious mother	単語テスト：261-280 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
6	Unit 5 Fierce fungi	単語テスト：281-300 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
7	Unit 6 Extreame weather	単語テスト：301-320 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 中間テストの準備
8	これまでのまとめ、中間テスト	単語テスト：321-340 前半内容の総復習および中間テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
9	Unit 7 The wolf girls of Bengal	単語テスト：341-360 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
10	Unit 8 Finding Nessie	単語テスト：361-380 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
11	Unit 9 Crop circles	単語テスト：381-400 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
12	Unit 10 Smart roots	単語テスト：201-250 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
13	Unit 11 Insecticide resistance	単語テスト：251-300 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
14	Unit 12 Unwelcome guests	単語テスト：301-350 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 定期試験の準備
15	前期のまとめ	単語テスト：351-400 前半内容の総復習	定期試験の準備

関連科目	基礎英語 2b
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Science Updates	Hirono Nagata	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	共通試験 30% (TOEIC Bridge20%、統一英語単語テスト 10%)、定期試験 40%、小テスト 10%、授業態度（投げかける質問に対する発言、反応状態、積極性、発表など）10%、e-learning10%の割合で評価する。 記入例 2（1・2年後期に開講の科目）：共通試験 20%（統一英語単語テスト 20%）、定期試験 30%、小テスト 10%、課題レポート 10%、授業態度 10%（授業中の発表）、e-learning20%の割合で評価する。
学生への	じっくり解説し、繰り返し練習します。着実に基礎英語力をUPさせましょう。

メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・5回以上欠席すると、試験などの成績にかかわらず失格とする。 ・事前・事後、毎回、1時間以上予習・復習すること。 ・授業を妨げる行為（私語、許可無く途中退席する、テキストを持参しない、スマホや携帯の使用、居眠り等）は減点の対象とする。

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大江 麻里子

授業概要・目的	徹底した基礎英文法（5文型、時制など）、ごく簡単な読解、語彙力を身に付ける。
到達目標	基本的な文法を確認しながら、それをふまえて、様々な英作や読解問題などをこなせるようにする。 基礎英文法の徹底理解 R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	テキストにそってすすめていきますが、必ず英語の辞書を持ってきてください。また、毎回単語のテストを行いますので、しっかり準備してください。
科目学習の効果（資格）	基礎英文法の習得 基本的な英作や読解の方法を学ぶ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	Unit 8	不定詞 単語テスト (401-420)	テキストの予習と単語テストの準備
3	Unit 8	不定詞 単語テスト (421-440)	テキストの予習と単語テストの準備
4	Unit 9	動名詞と分詞 単語テスト (441-460)	テキストの予習と単語テストの準備
5	Unit 9	動名詞と分詞 単語テスト (461-480)	テキストの予習と単語テストの準備
6	Unit 10	各種疑問文 単語テスト (481-500)	テキストの予習と単語テストの準備
7	Unit 10	各種疑問文 単語テスト (501-520)	テキストの予習と単語テストの準備
8	Unit 11	受動態 単語テスト (521-540)	テキストの予習と単語テストの準備
9	Unit 11	受動態 単語テスト (541-560)	テキストの予習と単語テストの準備
10	Unit 12	完了形 単語テスト (561-580)	テキストの予習と単語テストの準備
11	Unit 12	完了形 単語テスト (581-600)	テキストの予習と単語テストの準備
12	Unit 13	接続詞 (II)	テキストの予習
13	Unit 13	接続詞 (II)	テキストの予習
14	Unit 14	仮定法	テキストの予習
15	Unit 14	仮定法	テキストの予習

関連科目	基礎英語 Ia
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英文法から学ぶ英作と読解	佐藤哲三	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	統一英単語テスト 20% e-learning 学習の進捗度 20% 定期試験（授業態度を含む） 60% を総合して評価する。授業態度とは、授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を指す。また、原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。
学生へのメッセージ	英語の学習は、続けることが肝心です。それぞれの学生のレベルをみながら、授業をすすめていく予定なので、毎回辞書をもって出席してください。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	英単語は、毎日平均30分は学習すること。

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美

授業概要・目的	今までに学習した英文法の基礎固めと運用力を向上させることを目的とします。教科書は「基本」と「標準」レベルの2部構成になっており、各問題をこなすことで自分の力の在りかを確認することができる。さらに英作文、長文読解問題に取り組むことでその運用力を試すことができる。文法力を定着させ聴解力、読解力、会話力の向上につなげていく。 また単語集を使い語彙力の向上を図る。 全範囲 pp.66-102(0401-0600)
到達目標	文法の基礎固めをすることで正確な読解力を付けることができる。 R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	毎回授業の始めに TOEIC のための単語小テストを行う。 毎回出される課題を必ずしてくるよう。授業では講師の文法解説に加え、課題（文法、作文、長文読解）の答え合わせを全員で行う。 習得しにくい文法項目は、随時プリントなどで補う。
科目学習の効果（資格）	文法の基礎を固めし読解力を向上させる TOEIC テストに有効な単語の習得

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	単語テスト No2 pp.72-75 1 2 比較 (1) (2)	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
3	単語テスト No3 pp.76-79 1 2 比較 (1) (2)	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
4	単語テスト No4 pp.80-85 1 3 不定詞 (1) (2)	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
5	単語テスト No5 pp.86-87/ 90-93 1 3 不定詞 (1) (2)	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
6	単語テスト No6 pp.94-97 1 4 分詞 (1) (2)	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
7	単語テスト No7 pp.98-101 1 4 分詞 (1) (2)	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
8	単語テスト No8 pp102-103/ (2nd) 66-71 臨時テスト (中間) 1 4 分詞 (1) (2)	既習内容の習熟度を確認	臨時テストに備えた復習 次回の予習（文法問題、長文読解）
9	単語テスト No9 (2nd) pp.72-77 1 5 動名詞 (1) (2)	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
10	単語テスト No10 (2nd) pp.78-83 1 5 動名詞 (1) (2)	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
11	単語テスト No11 (2nd) pp.84-87/ 90-93 1 6 関係詞 (1) (2)	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
12	単語テスト (最終) No12 (2nd) pp.94-103 (-0600) 1 6 関係詞 (1) (2)	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
13	1 7 仮定法 (1) (2)	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
14	1 7 仮定法 (1) (2)	文法説明、exercise の解答、長文読解	次回の予習（文法問題、長文読解）
15	1 8 時制の一致・話法 (1)	文法説明、exercise の解答、長文読解	授業後、期末試験に備えて復習

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Enjoy English(「大学生のための総合英語」)	佐藤哲三・他4名	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test; Word Book 1	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	統一単語テスト20%、e-learning20%、テスト2回（中間+期末）40%、平常点（発表、小テスト、宿題、授業態度）20%とし総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	基礎固めは地道に何度も繰り返してが基本です。それを念頭に問題に取り組んでください。そして1年を通して英文法の全体的な体系を理解できるようにし、どんな文法問題が出てもすぐに対応でき、長文読解やリスニングなどの面でも難なく運用できるようになることを目指します。 授業ではできるだけ多くの受講生に当たるようにする。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
----------	---------------

備考	授業の予習には毎回最低2時間はかけてください。 単語調べは語学学習の基本です。調べたら意味を記録するように。 授業の理解度や進度によって授業計画は多少変更になる可能性がある。
----	---

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	内山 知美

授業概要・目的	この授業では、これまで学んだ英語の基礎を、文法を中心としてもう一度確認しながら、語彙や文の構造を知って、リスニング、ライティングからリーディングまで、総合的な英語力を養成することを旨とする。そして実際に「使える」英語運用能力を身につけることを目的とする。
到達目標	英語基礎能力を確立し、何らかの形で英語に関わってくる時代の流れに対応するために、英語全体の根底にある文法・語法を身につけ、さらにそれを実践に活かせるようにすることを目標とする。 R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	共通単語帳と教科書を中心に授業を行う。まず、共通単語帳の小テストをし、教科書の内容に入る。教科書では、単語・文法を確認しながら、リーディングからリスニング・ライティングへと進めて行く。各ユニットを1(2)回の授業で行う予定である。必ずテキストの予習をして授業に臨むこと。
科目学習の効果(資格)	TOEICや英検等の得点力アップにつながる。語彙力、構文に基づいた英語読解力・聴解力・表現力・運用能力の向上。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	Introduction	授業内容についての説明と、英語の4スキルに関する導入と準備をする。
2		接続詞(I)に関する表現練習。	単語を確認し、長文読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p66~p.69	単語テスト(p.70, p.71)と教科書の授業範囲の予習と復習。
3		接続詞(I)に関する表現練習。	単語を確認し、長文読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.70, p.71	単語テスト(p.72, p.73)と教科書の授業範囲の予習と復習。
4		不定詞(I)・動名詞(I)に関する表現練習。	単語を確認し、長文読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.72, p.73	単語テスト(p.74, p.75)と教科書の授業範囲の予習と復習。
5		受動態に関する表現練習。	単語を確認し、長文読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.74, p.75	単語テスト(p.76, p.77)と教科書の授業範囲の予習と復習。
6		完了形に関する表現練習。	単語を確認し、長文読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.76, p.77	単語テスト(p.78, p.79)と教科書の授業範囲の予習と復習。
7		接続詞(II)に関する表現練習。	単語を確認し、長文読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.78, p.79	単語テスト(p.80, p.81)と教科書の授業範囲の予習と復習。
8		5つの基本文型に関する表現練習。	単語を確認し、長文読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.80, p.81	単語テスト(p.82~p.85)と教科書の授業範囲の予習と復習。
9		各種疑問文に関する表現練習。	単語を確認し、長文読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.82~p.85	単語テスト(p.84~p.87)と教科書の授業範囲の予習と復習。
10		不定詞(II)に関する表現練習。	単語を確認し、長文読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.84~p.87	単語テスト(p.90~p.93)と教科書の授業範囲の予習と復習。
11		Itの特別用法に関する表現練習。	単語を確認し、長文読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.90~p.93	単語テスト(p.92~p.95)と教科書の授業範囲の予習と復習。
12		分詞・動名詞(II)に関する表現練習。	単語を確認し、長文読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.92~p.95	単語テスト(p.96~p.99)と教科書の授業範囲の予習と復習。
13		関係代名詞に関する表現練習。	単語を確認し、長文読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.96~p.99	単語テスト(p.98~p.103)と教科書の授業範囲の予習と復習。

	14	仮定法に関する表現練習。	単語を確認し、長文読解、文法・内容の確認、リスニングによる再確認へと進めて行く。選択問題や空所補充問題などの練習をして知識固めをする。 単語テスト：p.98～p.103	後期授業範囲の復習。
	15	Review	各ユニットの復習とまとめ。	
関連科目	他の全ての英語科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Asking Why? The Science of Everyday Life. 日常の科学 Q&A	Shawn M.Clankie/中津川雅宣	金星堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通試験 20% (統一英語単語テスト)、e-learning 学習度 20%、定期試験 40%、平常点 (小テスト、レポート、授業への取組み 20%の割合で評価する。			
学生への メッセージ	英語が国際言語であり続ける今日、英語能力の向上はあらゆる可能性を広げるでしょう。日頃から興味ある分野の英語や英語圏のニュース等もチェックするよう心がけ、学習意欲を高めていって下さい。辞書を活用した予習・復習を習慣づけ、積極的に授業に参加することを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。また英単語・熟語は日々の積み重ねが大切です。e-learningを含めて、毎日1時間以上学習すること。			

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名(英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 三千代

授業概要・目的	この授業では、これまで学んだ英語の基礎を、文法を中心としてもう一度確認しながら、語彙や文の構造を知って、リスニング、ライティングからリーディングまで、総合的な英語力を養成することを旨とする。そして実際に「使える」英語運用能力を身につけることを目的とする。
到達目標	英語基礎能力を確立し、何らかの形で英語に関わってくる時代の流れに対応するために、英語全体の根底にある文法・語法を身につけ、さらにそれを実践に活かせるようにすることを目標とする。 R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	共通単語帳と教科書を中心に授業を行う。まず、共通単語帳の小テストをし、教科書の内容に入る。教科書では、語彙力を付けながら、文法を確認をし、リスニングからライティング・リーディングまで進めて行く。各ユニットを1～2回の授業で行う予定である。必ずテキストの予習をし、辞書を持って授業に臨むこと。
科目学習の効果(資格)	TOEICや英検等の得点力アップにつながる。語彙力、構文に基づいた英語読解力・聴解力・表現力・運用能力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業内容についての説明と、英語の4スキルに関する導入と準備をする。	事前にテキストの内容に目を通しておくこと。単語テスト(401-420)の準備。
2	接続詞(1)に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：401-420	単語テスト(421-440)と教科書の授業範囲の予習と復習。
3	接続詞(1)に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：421-440	単語テスト(441-460)と教科書の授業範囲の予習と復習。
4	不定詞(1)・動名詞(1)に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：441-460	単語テスト(461-480)と教科書の授業範囲の予習と復習。
5	受動態に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：461-480	単語テスト(481-500)と教科書の授業範囲の予習と復習。
6	現在完了形に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：481-500	単語テスト(501-520)と教科書の授業範囲の予習と復習。
7	接続詞(2)(時制の一致を含む)に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：501-520	単語テスト(521-540)と教科書の授業範囲の予習と復習。
8	助動詞に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：521-540	単語テスト(541-560)と教科書の授業範囲の予習と復習。
9	5つの基本文型に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：541-560	単語テスト(561-580)と教科書の授業範囲の予習と復習。
10	各種疑問文に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：561-580	単語テスト(581-600)と教科書の授業範囲の予習と復習。
11	不定詞(2)に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：581-600	単語(401-500)の復習と教科書の授業範囲の予習と復習。
12	Itの特別用法に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	単語(501-600)の復習と教科書の授業範囲の予習と復習。
13	分詞・動名詞(2)に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	単語(401-600)の復習と教科書の授業範囲の予習と復習。
14	関係代名詞に関する表現練習。	文法事項を確認し、練習問題、長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	教科書の前期授業範囲の復習。
15	Review	各ユニットの復習とまとめ。	レポート等最終提出。

関連科目	他の全ての英語科目。
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Primer<Revised Edition>	佐藤 哲三 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
-----	----	-----	-----	------

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、e-learning 学習 20%、平常点 (小テスト、レポート・課題、授業への取り組み) 20%、定期試験 40% の割合で評価する。			
学生への メッセージ	TOEIC テストを積極的に受験し、単語帳に付随する e-learning 教材等を活用して自主学習を進んで実践すること。 今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによってあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じ、親しむように心がけて欲しい。 予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)			
備考	事前・事後学習には、毎回 1 時間以上かけること。また英単語・熟語は日々の積み重ねが大切です。e-learning を含めて、毎日 1 時間以上学習すること。			

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美

授業概要・目的	まずは英語の4技能を身につけるための基礎として不可欠な英文法を、はじめからしっかりと身につけることを目的とする。同時に、英文法の基礎的な知識を用いて、短いパッセージを読み、英文の内容把握能力をつちかう。さらに、応用としてTOEIC対策にもなるリスニング能力に磨きをかける。さまざまな局面で使われる英語を習得することによって、英語を実践的に使えるようになるための基礎固めを行う。
到達目標	基礎英文法の徹底理解 R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	毎回、授業始めに「The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test」から単語テストを行う。授業は教科書を中心に、英文法の確認、文法練習問題、英文読解、リスニング問題、英作文に取り組む。なるべく全員を指名するので予習が必要である。また必要に応じて確認テストも実施するので、復習して知識を定着させておくこと。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、TOEFL、英語検定試験等に役立つ

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	CHAPTER 1 Personal Correspondence (1)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 リスニング	単語学習番号 (0401-0420) テキストの予習
3	CHAPTER 2 Personal Correspondence (2)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 リスニング	単語学習番号 (0421-0440) テキストの予習、復習
4	CHAPTER 3 Biography (1)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 リスニング	単語学習番号 (0441-0460) テキストの予習、復習
5	CHAPTER 4 Biography (2)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 リスニング	単語学習番号 (0461-0480) テキストの予習、復習
6	CHAPTER 5 Events & Festivals	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 リスニング	単語学習番号 (0481-0500) テキストの予習、復習
7	CHAPTER 6 Direction & Locations (1)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 リスニング	単語学習番号 (0501-0520) テキストの予習、復習
8	中間まとめ	単語テスト 今までのまとめ 中間テスト	単語学習番号 (0521-0540) テキストの予習、復習
9	CHAPTER 7 Direction & Locations (2)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 リスニング	単語学習番号 (0541-0560) テキストの予習、復習
10	CHAPTER 8 Direction & Locations (3)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号 (0561-0580) テキストの予習、復習
11	CHAPTER 9 Occupations (1)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 リスニング	単語学習番号 (0581-0600) テキストの予習、復習
12	CHAPTER 10 Occupations (2)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 リスニング	単語学習 (指示された箇所) テキストの予習、復習
13	CHAPTER 11 Instructions	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 リスニング	単語学習 (指示された箇所) テキストの予習、復習
14	CHAPTER 12 Health & Physical Conditions	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 リスニング	単語学習 (指示された箇所) テキストの予習、復習
15	CHAPTER 13 Service Requests	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 リスニング	単語学習 (指示された箇所) テキストの復習

関連科目	他の全ての英語科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	総合英語パワーアップ (基礎編) : リスニングからリーディング	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通試験(統一英語単語テスト)=20% e-learning 学習の進捗度=20% 授業態度(小テストに対する取り組み、中間テスト、授業貢献度)、期末試験の総合的評価=60% ただし欠席は、3回までを評価基準とし、遅刻は3回で欠席1回とみなす。			
学生への メッセージ	eラーニング教材「リンガポルタ」を活用して単語力を増強し、TOEIC 試験にも挑戦しましょう。 予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って来ること。積極的な授業への参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間はかけること			

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名(英文)	Basic English IⅡa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿

授業概要・目的	<p>中学から高校にかけて学んだ文法事項の復習をはじめ、更なる文法力及び語彙力の養成、実戦形式の資格、検定練習を通し四択問題など独自の出題形式に慣れ、解答を導く知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。特に文法事項や用語等の知識は受験時に思い出せなければ役に立たないので、すぐ出てくるまで繰り返し覚えて身につけよう。</p>
到達目標	<p>今まで持っている英文法力の更なる強化を目指し、必要な場面で学んだ事がすぐ出てくるようにしよう！</p> <p>R科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：B</p>
授業方法と留意点	<p>毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。簡単な文法問題中心のテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。文法はルールを繰り返し覚えれば必ず身につきます。授業中に出てきた新しい単語も毎日少しずつ覚える習慣をつけよう。英語が苦手な人も余り意識せず、向上心を持ってこれからがんばろう！</p>
科目学習の効果(資格)	<p>高校までの基本的英文法の復習及び英検やTOEIC等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 TOEICテストに有効な単語力</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと前期の復習	授業方法、提出物、評価方法についての説明と復習	次回の第一回「単語テスト範囲、401-425番を勉強する事。」
2	Unit9 Career 経歴を話そう	現在完了形	教科書 p.49-54、次回の第二回「単語テスト範囲、426-450番を勉強する事。」
3	Unit10 Parties パーティに行こう！	未来表現	教科書 p.55-60 次回の第三回「単語テスト範囲、451-475番を勉強する事。」
4	Unit11 Rules and Regulations ルールにもお国柄	助動詞	教科書 p.61-66 次回の第四回「単語テスト範囲、476-500番を勉強する事。」
5	Unit12 Invention and Discovery 発明、発見にはひらめきが大切	受動態	教科書 p.67-72 次回の第五回「単語テスト範囲、501-525番を勉強する事。」
6	Unit13 Movie Reviews 映画評論	形容詞、副詞	教科書 p.73-78 次回の第六回「単語テスト範囲、526-550番を勉強する事。」
7	Unit14 World Records 世界記録もさまざま	比較級、最上級	教科書 p.79-84 次回の第七回「単語テスト範囲、551-575番を勉強する事。」
8	Unit15 Future Dream 将来の夢を語ろう	不定詞、動名詞	教科書 p.85-89 次回の第八回「単語テスト範囲、576-600番を勉強する事。」
9	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第九回「単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。」
10	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十回「単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。」
11	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十一回「単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。」
12	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十二回「単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。」
13	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十三回「単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。」
14	資格、検定などの問題またはリスニング演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十四回「単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。」
15	総合復習	定期試験対策	—

関連科目 英語Ⅰ、英語ⅠⅠ、英語ⅠⅠⅠ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Ace	山本厚子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benedict Rowlett	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶTOEICテスト(単語集)	西谷悟志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	<p>定期試験(40%)、提出物(10%)、単語小テスト(5%)、平常点(授業態度など5%)の合計60%にe-learning学習進捗度(20%)、統一英語単語テスト(20%)を足して総合評価します。統一単語テストを受験しなかった人は評価に大きく影響します。また、日頃の授業態度も重視します。</p>
学生へのメッセージ	<p>「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！</p>
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げる事。

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スミザース 理恵

授業概要・目的	英文を読んで英語によるアクティビティや課題をこなすことによって、その大意を理解する。テキストの音読に重点を置き、正しい発音を学び、メッセージを伝えるための英語の読み方や話し方を理解し習得する。英語による質問に英語で答えることに慣れ、日本語を介さずに英語のままに英語を理解する訓練を行う。
到達目標	基礎読解力を身につける R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	単語テストはNo. 601からNo. 800の範囲を2週目から11週目までの授業で毎週20個ずつテストする。毎回授業では英語によるアクティビティや課題があります。その点数が平常点として換算されますので、欠席するとその点数が減点されることとなりますので注意してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC Bridge の得点アップ、英検におけるレベルアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	When Dinosaurs Ruled: The Truth about Dinosaurs	第1回目 単語テスト 英文読解のためのアクティビティ	当該ユニットの予習 単語学習範囲 NO 601～ NO 620
3	When Dinosaurs Ruled: Mystery of the Terrible Hand	第2回目 単語テスト 英文読解のためのアクティビティ Unit 7の確認小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 NO 621～ NO 640
4	Stories and Storytellers: The Brothers Grimm	第3回目 単語テスト 英文読解のためのアクティビティ	当該ユニットの予習 単語学習範囲 NO 641～ NO 660
5	Stories and Storytellers: The Tale of the Seven Ravens	第4回目 単語テスト 英文読解のためのアクティビティ Unit 8の確認小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 NO 661～ NO 680
6	Unusual Jobs: Meet the Meteorite Hunter	第5回目 単語テスト 英文読解のためのアクティビティ	当該ユニットの予習 単語学習範囲 NO 681～ NO 700
7	Unusual Jobs: Smokejumpers	第6回目 単語テスト 英文読解のためのアクティビティ Unit 9の確認小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 NO 701～ NO 720
8	第2回から7回の授業のまとめ	第7回目 単語テスト 音読プレゼンテーション	当該ユニットの音読練習 単語学習範囲 NO 721～ NO 740
9	Uncovering the Past: The Army's True Colors	第8回目 単語テスト 英文読解のためのアクティビティ	当該ユニットの予習 単語学習範囲 NO 741～ NO 760
10	Uncovering the Past: Wonders of Egypt	第9回目 単語テスト 英文読解のためのアクティビティ Unit 10の確認小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 NO 761～ NO 780
11	Legends of the Sea: Pirates: Romance and Reality	第10回目 単語テスト 英文読解のためのアクティビティ	当該ユニットの予習 単語学習範囲 NO 781～ NO 800
12	Legends of the Sea: Women of the Waves	英文読解のためのアクティビティ Unit 11の確認小テスト	当該ユニットの予習 復習
13	Vanished!: Mystery on Everest	英文読解のためのアクティビティ	当該ユニットの予習
14	Vanished!: The Missing Pilot	英文読解のためのアクティビティ Unit 12の確認小テスト	当該ユニットの予習 復習
15	第9回から14回の授業のまとめ	音読プレゼンテーション	当該ユニットの音読練習

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	統一英語単語テスト20%、e-learning 学習の進捗度20%、小テスト10%、期末テスト30%、平常点 (授業態度、発表、課題) 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中には翻訳をしませんので、各自で分からない単語やイディオムは予習しておいてください。 ・教科書の音声データを利用し音読練習を行うようにしてください。 ・e-learning 教材と、テキスト音声を使って自宅学習を行ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的な英努力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験するようにしてください。 ・授業計画は進度によって変わる場合があります。 ・自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間はかけること。
----	--

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村 ゆみ

授業概要・目的	英文を「聞いて」「読んで」「考える」ワークブック形式のテキストを通してさらなるリスニング力、読解力、語彙・文法力をつけ、実践英語の基礎固めをする。 TOEIC等で高得点がとれるようなリスニング力、読解力、語彙・文法力、をつけることを目標とする
到達目標	基礎読解力を身につける R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	教科書に沿って進むが、随時プリント教材で補足する。 単語テストはNO 601～ NO 800の範囲を 毎回40単語ずつテストすることを2回繰り返し、合計10回のテストをする。またテキストの各章が終わるごとに臨時試験を行い、知識の定着をはかる。 ただ出席するだけでなく、積極的な授業参加が求められる。携帯の使用や、私語、居眠り等が認められた場合は減点となるので注意すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC Bridge の得点アップ、英検におけるレベルアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・Unit 8 英文構造	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 601～N0640
2	Unit 9 英文構造	演習と解説 単語テスト1	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO641～NO 680
3	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説、発展問題 単語テスト2	課題：授業で指示する
4	これまでの授業内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 681～NO 720
5	Unit 10 英文内容把握	演習と解説 単語テスト3	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 721～NO 760
6	Unit 11 英文内容把握	演習と解説 単語テスト4	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 761～NO 800
7	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト5	課題：授業で指示する
8	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 601～N0640
9	Unit 12 リスニング対策	演習と解説 単語テスト1-2	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 641～NO 680
10	Unit 13 リスニング対策	演習と解説 単語テスト2-2	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 681～N0720
11	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト3-2	課題：単語テストの予習 NO 721～N0760
12	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習 単語テスト4-2	課題：単語テストの予習 NO 761～N0800
13	Unit 14 さらなる語彙力アップ	単語テスト 5-2、演習と解説	該当UNITの予習、復習
14	総合演習	演習と解説	該当UNITの予習、復習
15	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する

関連科目 他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Mystery Break	Atsuko Uemura/Irene Iwasaki	Cengage learning
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、定期試験 20%、小テスト 20%、課題レポート 10%、授業態度 10% (授業中の発表)、e-learning20%の割合で評価する。

学生へのメッセージ ・各自の予習 (単語、フレーズ調べ) が不可欠です
・e-learning 教材と、テキスト付属CDを使って自宅学習を行いましょう。地道な努力により、英語力は必ず伸びます、がんばりましょう。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考 事前事後学習 (それぞれ約1時間) 以外に、毎日単語、15分、リスニング15分の学習をすること。
授業計画は進度によって変わる場合がある。

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English I Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	抽冬 紘和

教養科目

授業概要・目的	高校英語レベルの復習を目標に、読解力を中心に、語彙力、文法力、英語表現力を身につけることを目標とする。 また、TOEIC Bridge, TOEIC 対策も目的とする。
到達目標	正確な語彙力、文法力を基にした、英文読解力、またリスニング力、そして自己表現力を得ることが出来る。 R 科の学習・教育到達目標との対応：A M 科の学習・教育到達目標との対応：B
授業方法と留意点	講義（解説）と演習の両方をおこない、全員参加型の授業を目指す。 辞書を引き、十分に予習をして授業に臨んでください。辞書は必ず持参すること。 指定の単語集を用いて毎回、授業の初めにテストをします。
科目学習の効果（資格）	英語の基礎的な語彙力、文法力が身に付きます。 英文の基礎読解力、英語での簡単な表現力が身に付きます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction ミニテスト	授業方法、成績評価等の説明、座席の指定。教科書の学習方法の説明 単語テスト範囲数の決定	テキストの単語調べ
	2	Unit11 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	3	Unit12 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	4	Unit13 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	5	確認テスト① TOEIC 単語テスト	テスト、答え合わせ	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	6	Unit14 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	7	Unit15 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	8	Unit16 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	9	確認テスト② TOEIC 単語テスト	テスト、答え合わせ	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	10	Unit17 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	11	Unit18 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
	12	Unit19 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
	13	Unit20 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
	14	確認テスト③ TOEIC 単語テスト	テスト、答え合わせ	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
	15	総復習 TOEIC 単語テスト	まとめプリント実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ

関連科目 その他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Pass Intro	Andrew E. Bennett	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)

(基準)	<p>定期試験 30%</p> <p>小テスト 20%</p> <p>授業態度 10% (授業中の発表)</p> <p>e-learning 20% の割合で評価する。</p> <p>※授業態度に問題のある場合 (遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など) は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。</p>
学生へのメッセージ	<p>英語力は身に付くのに大変時間がかかりますが、日々すこしずつ、一緒に頑張っていきましょう。</p> <p>授業では、英語だけではなく、テキストの内容も楽しめ、学べるようにしていきます。</p>
担当者の研究室等	<p>7号館 2階 (非常勤講師室)</p> <p>連絡先 email: hirokazunukk@outlook.jp</p>
備考	<p>事前、事後学習の自主学習時間</p> <p>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</p> <p>英単語は e-learning 学習など、毎日、平均1時間は学習すること</p>

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子

授業概要・目的	読解を中心に行う授業である。高校までに学んできたことを復習しながら、アメリカ生活を扱った文章を読み、同時に、より多くの語彙力、文法力、作文力をつけていくことを目的とする。 また、教科書はアメリカでの生活が肌で感じられるような内容になっているため、アメリカの文化や若者の生活を知ることができる。英語力を増すとともに、アメリカや異文化に興味を持ってもらいたい。
到達目標	基礎読解力をつけることを最大の目標とする。最初は短い文章から始め、徐々に、より長い文章が読めるような読解力を養成していく。また TOEIC Bridge 受験に必要な読解力の更なる向上を目標とする。 R 科の学習・教育目標との対応：A M 科の学習・教育到達目標との対応：B
授業方法と留意点	語学の授業であるので、学生主導で進めていく。訳出、練習問題、音読、すべてを学生に指名することになるので、積極的に対応してもらいたい。また、辞書は必ず持参すること。教科書を忘れたままの着席は、欠席扱いとする。
科目学習の効果 (資格)	授業で習得した読解力は TOEIC Bridge テストにも役立つはずである。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 前期内容の復習	授業方法、提出物、評価方法についての説明	特になし 教科書持参
2	Chapter 11: Holidays in the United States	単語テスト 教科書 pp. 51-55	教科書の予習 単語学習範囲: 0601-0620
3	Chapter 12: Weather in the United States	単語テスト 教科書 pp. 56-60	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 0621-0640
4	Chapter 13: Complaining	単語テスト 教科書 pp. 61-65	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 0641-0660
5	復習・進捗調整・弱点補強	単語テスト Chapter 11-13 までの小テスト プリント	前回授業の復習 小テストの準備 単語学習範囲: 0661-0680
6	Chapter 14: Farmer's Markets	単語テスト 教科書 pp. 66-70	教科書の予習 単語学習範囲: 0681-0700
7	Chapter 15: Volunteering	単語テスト 教科書 pp. 71-75	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 0701-0720
8	Chapter 16: College Towns	単語テスト 教科書 pp. 76-80	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 0721-0740
9	復習・進捗調整・弱点補強	単語テスト Chapter 14-16 までの小テスト プリント	前回授業の復習 小テストの準備 単語学習範囲: 0741-0760
10	Chapter 17: American History	単語テスト 教科書 pp. 81-85	教科書の予習 単語学習範囲: 0761-0780
11	Chapter 18: Native Americans	単語テスト 教科書 pp. 86-90	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 0781-0800
12	Chapter 19: The Government of the United States	教科書 pp. 91-95	前回授業の復習 教科書の予習
13	Chapter 20: Washington, District of Columbia[D.C.]	教科書 pp. 96-100	前回授業の復習 教科書の予習
14	復習・進捗調整・弱点補強	授業の進捗によって内容を決め、プリントを用意する	前回授業の復習 前期内容の復習
15	後期の総復習	試験に向けた復習	後期内容の復習

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		Life across the Waves	William A. O'Donnell
2		The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集)	西谷恒志	成美堂
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 評価は共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、e-learning 20%、定期試験 40%、小テストと授業態度 (質問に対する応答、積極性、発表など) 20%の割合で評価する。 詳しくは第 1 回目の授業で説明する。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。
-----------	-----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	事前事後学習のため、毎回平均 1 時間は学習すること。
----	-----------------------------

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美

授業概要・目的	英語の基本的な力を養成する。英文法を改めて学び直すことで定着させ、作文、リスニング、読解の練習を通して実際の運用能力の向上へつなげていく。 単語集を使いTOEICbridgeのための語彙力アップを図る。
到達目標	基本語彙と基礎英文法の力を定着させ、総合的な力（作文、リスニング、読解）を向上させる。 また単語集を使い語彙力の向上を図る。全範囲 pp.102-135 (0601-0800) R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	毎回授業の始めにTOEICbridgeのための単語テストを行う。 文法を理解して終わりではなく、ある程度の語彙を用いて多くの英作文をする。それはリスニング力や読解力、会話力の向上へと繋がります。授業はテキストに沿って進める。予習は必須である。 教科書の練習問題だけでは不十分な場合随時プリントで補います。
科目学習の効果（資格）	TOEICのスコアアップ、基礎英文法の定着と総合的な力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	単語テスト No2 pp.106-109 8 不定詞	座席を決める 文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
3	単語テスト No3 pp.110-113 9 動名詞と分詞	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
4	単語テスト No4 pp.114-117 9 動名詞と分詞	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
5	単語テスト No5 pp.118-121 10 各種疑問文・It の特別用法	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
6	単語テスト No6 pp.122-125 10 各種疑問文・It の特別用法	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
7	単語テスト No7 pp.126-129 10 各種疑問文・It の特別用法	文法解説、exercise、対話練習	中間テストに備えた勉強
8	単語テスト No8 pp.130-135 臨時テスト（中間） 11 受動態	既習内容の習熟度を確認 文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
9	単語テスト No9(2nd) pp.102-109 12 完了形	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
10	単語テスト No10 (2nd)pp.110-117 12 完了形	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
11	単語テスト No11 (2nd) pp.118-125 13 接続詞 II（時制の一致を含む）	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
12	単語テスト No12 (2nd) pp.126-135 14 仮定法	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
13	14 仮定法	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
14	15 関係詞	文法解説、exercise、対話練習	次回の予習（単語調べ、英作文、読解問題）
15	15 関係詞	文法解説、exercise、対話練習	期末試験に備えての勉強。

関連科目 他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Slow & Steady (「大学生の総合基礎英語」)	佐藤哲三・他4名	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準） 統一単語テスト20%、e-learning20%、テスト2回（中間+定期試験）40%、平常点（発表、小テスト、宿題、授業態度）20%とし、総合的に評価する。

<p>学生への メッセージ</p>	<p>今までの学習で、文法は習っても英作文や読解問題をこなす練習は少なかったのではないかと思います。この授業ではその所に重点を置いた訓練をします。また簡単な会話をういて発話練習も楽しみます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回英語辞書は必ず持参すること。 ・ 授業態度も評価の対象にします。
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>7号館2階（非常勤講師室）</p>
<p>備考</p>	<p>英語に関しては予習が大事です。毎回、2時間前後予習に時間をかけてください。</p>

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小磯 かをる

授業概要・目的	この授業は、基礎的な文法力・語彙力・読解力を身につけることを目的とする。 高校までに学習した文法を復習し、簡単な読解などを通じて語彙を増やすことによって、基礎レベルの英文が理解できるようになることを目標とする。
到達目標	辞書を多用することなしに英文を理解する。 基礎読解力の向上 R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B2]
授業方法と留意点	教科書にそって、リスニング、会話ペアワーク、文法解説、演習、読解を行う。 授業時間内に、小テスト（授業内容の確認）と単語テスト（指定範囲）を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC など各種英語検定試験に必要な文法力、語彙力、読解力の基本を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法・注意点についての説明	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
2	Unit 13 Galileo's inclined plane	単語テスト：601-620 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
3	Unit 14 All the colors of the rainbow	単語テスト：621-640 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
4	Unit 15 Watching the earth move	単語テスト：641-660 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
5	Unit 16 The G factor	単語テスト：661-680 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
6	Unit 17 A trip to the land of nod	単語テスト：681-700 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
7	Unit 18 Lab-grown organs	単語テスト：701-720 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 中間テストの準備
8	これまでのまとめ、中間テスト	単語テスト：721-740 前半内容の総復習および中間テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
9	Unit 19 Looking for new Earth	単語テスト：741-760 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
10	Unit 20 Weird and wonderful worlds	単語テスト：761-780 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
11	Unit 21 The invisible Universe	単語テスト：781-800 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
12	Unit 22 Eating bugs	単語テスト：601-650 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
13	Unit 23 Bacterial batteries	単語テスト：651-700 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回のUnitの練習問題を解く・単語を調べる
14	Unit 24 Carbon capture and shorage	単語テスト：701-750 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 定期試験の準備
15	後期のまとめ	単語テスト：751-800 後期の総復習	定期試験の準備

関連科目	基礎英語 1b
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Sicence Updates	Hiroto Nagata	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	共通試験 30% (TOEIC Bridge20%、統一英語単語テスト 10%)、定期試験 40%、小テスト 10%、授業態度（投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、発表など）10%、e-learning10%の割合で評価する。 記入例 2（1・2年後期に開講の科目）：共通試験 20%（統一英語単語テスト 20%）、定期試験 30%、小テスト 10%、課題レポート 10%、授業態度 10%（授業中の発表）、e-learning20%の割合で評価する。
----------	--

学生への	・じっくり解説し、繰り返し練習します。着実に基礎英語力をUPさせましょう。
------	---------------------------------------

メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・5回以上欠席すると、試験などの成績にかかわらず失格とする。 ・授業を妨げる行為(私語、許可無く途中退席する、テキストを持参しない、スマホや携帯の使用、居眠り等)は減点の対象とする。 ・事前・事後、毎回、1時間以上予習・復習すること。

科目名	実践英語入門	科目名(英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村 ゆみ

授業概要・目的	TOEIC Bridge テストを意識してリスニング、読解、文法、語彙能力向上を図り、実用的な英語のスキルアップを目指す。TOEIC Bridge に慣れて、高得点を目指せるようになることが目標である。
到達目標	TOEIC 300点 (TOEIC Bridge 120点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいく。 単語テストはNO 801～NO 1000の範囲を毎回20単語ずつ10回に分けてテストする。また、テキストの内容に関して各章ごとに臨時テストを行う。 予習、復習をしっかりと行うこと。また、ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められます。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意。
科目学習の効果(資格)	TOEIC Bridge のリスニング、語彙、文法、読解力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の学習もする 単語テスト1	単語テストの予習 NO 821～840 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
3	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の学習 単語テスト2	単語テストの予習 NO 841～860 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
4	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の学習もする 単語テスト3	単語テストの予習 NO861～880 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
5	語彙問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト4	単語テストの予習 NO881～900 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
6	語彙問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト5	単語テストの予習 NO 901～920 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
7	語彙問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト1-2	単語テストの予習 NO 921～940 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
8	文法問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト2-2	単語テストの予習 NO 941～960 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
9	文法問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト3-2	単語テストの予習 NO 961～980 復該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
10	文法問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト4-2	単語テストの予習 NO 981～1000 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
11	文法問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト5-2	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
12	読解問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
13	読解問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
14	読解問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
15	総まとめ TOEIC 形式 ポストテスト	総復習 TOEIC ポストテスト	重要項目、フレーズの整理、総復習

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	共通試験 30% (TOEIC20%、統一英語単語テスト 10%)、定期試験 20%、小テスト 20%、提出物 10%、授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼应状態、積極性、発表など) 10%、e-learning10%の割合で評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	・各自の予習が不可欠です。授業での積極的な参加を求めます。 ・辞書は毎回必携のこと ・e-learning 教材と、テキスト付属CDを使って自宅学習を行いましょう。地道な努力により英語力は必ず伸びます、がんばりましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前事後学習 (それぞれ約1時間) 以外に、毎日単語、15分、リスニング15分の学習をすること。
----	--

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅田 尋道

授業概要・目的	文法、読解、語彙など広く総合英語力の底上げを行い、toeicで評価される英語力の向上を目指す。
到達目標	基礎学力の向上および実践的英語力の習得。 TOEIC 300点 (TOEIC Bridge 120点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B] 前期統一単語テストの範囲：0801-1000
授業方法と留意点	授業中は教科書演習・作業用紙に集中して取り組む姿勢が求められる。授業開始時に単語テスト、授業終了時に授業の理解度をはかる確認テストを毎回実施し、平常点として還元する。 ただ出席するだけでなく、授業活動に真剣に取り組むこと。 教科書を購入しない又は持ってこない学生は大幅に減点される。 携帯を使ったり居眠りしたり授業中に退出したりする学生も減点される。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC Bridge でのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業ガイダンス	Introduction 確認テスト	教科書を購入しておく
	2	Unit 1 単語テスト(1)	Understanding the gist 確認テスト	単語テスト(1)の準備 単語学習範囲 No. 801-820
	3	Unit 1 単語テスト(2)	Identifying main ideas in paragraphs 確認テスト	単語テスト(2)の準備 単語学習範囲 No. 821-840
	4	Unit 2 単語テスト(3)	Understanding maps 確認テスト	単語テスト(3)の準備 単語学習範囲 No. 841-860
	5	Unit 2 単語テスト(4)	Finding key details 確認テスト	単語テスト(4)の準備 単語学習範囲 No. 861-880
	6	Unit 3 単語テスト(5)	Classifying information 確認テスト	単語テスト(5)の準備 単語学習範囲 No. 881-900
	7	前半期(1回～6回)既習内容の復習 単語テスト(6)	作業用紙による復習と確認	単語テスト(6)の準備 単語学習範囲 No. 901-920
	8	まとめの講義/中間テスト	前半期(1回～6回)既習内容の理解度をはかるテスト	テスト範囲の復習・テストの準備
	9	Unit 3 単語テスト(7)	Identifying reasons 確認テスト	単語テスト(7)の準備 単語学習範囲 No. 921-940
	10	Unit 4 単語テスト(8)	Summarizing using a concept map 確認テスト	単語テスト(8)の準備 単語学習範囲 No. 941-960
	11	Unit 4 単語テスト(9)	Identifying reasons 確認テスト	単語テスト(9)の準備 単語学習範囲 No. 961-980
	12	Unit 5 単語テスト(10)	Understanding charts and graphs 確認テスト	単語テスト(10)の準備 単語学習範囲 No. 981-1000
	13	Unit 5 単語テスト(11)	Understanding a writer's use of quotes 確認テスト	新出語句の確認
	14	Unit 6	Understanding sequence 確認テスト	新出語句の確認
	15	後半期(9回～14回)既習内容の復習	作業用紙による復習と確認	定期試験に向けての準備

関連科目	英語全般
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	reading explorer 1	N. Douglas 他	センゲージラーニング
	2	the 1500 core vocabulary for the toeic test		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通評価(toeic20%、統一単語テスト10%) 30% e-learning 学習の進捗度 10% 授業活動への参加、提出物 20% 中間試験と期末試験の合計 40%
-----------	--

学生へのメッセージ	この授業を通して、リスニング・文法・読解すべての力を高めよう。 TOEIC スコア 300 点以上を目指して、自分自身を鍛えていきましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤控え室
----------	-------------

備考	辞書必携 事前事後学習は、毎回2時間を目安にしましょう。
----	---------------------------------

科目名	実践英語入門	科目名(英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	箕田 正開

授業概要・目的	「国際協力」「人権問題」などの国際社会問題について英語で理解、発信、議論する力を養うためのDVD教材を用いる。各種の練習問題を通じて語彙力、リスニングの力を増すことを目標とする。 最終的に、しっかりした読解能力と文法知識に基づくコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。
到達目標	TOEIC 300点 (TOEIC Bridge 120点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’ (授業への積極的な参加) が前提である。双方向の全員参加の授業を展開する。
科目学習の効果(資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検2級以上、TOEIC 550点以上は必ず取れるはずです。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Unit 1: 教育とジェンダー	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 1の予習 単語学習範囲: 801-820
2	Unit 1: 教育とジェンダー	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 1の復習、予習 単語学習範囲: 821-840
3	Unit 2: 地球温暖化	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 2の予習 単語学習範囲: 841-860
4	Unit 2: 地球温暖化	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 2の復習、予習 単語学習範囲: 861-880
5	Unit 3: 飲料水の確保	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 3の予習 単語学習範囲: 881-900
6	Unit 3: 飲料水の確保	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 3の復習、予習 単語学習範囲: 901-920
7	Unit 4: 貧困と飢餓	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 4の予習 単語学習範囲: 921-940
8	Unit 4: 貧困と飢餓	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 4の復習、予習 単語学習範囲: 941-960
9	Unit 5: 病との戦い	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 5の予習 単語学習範囲: 961-980
10	Unit 5: 病との戦い	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 5の復習、予習 単語学習範囲: 981-1000
11	Unit 6: テロリズム	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 6の予習 単語学習範囲: 1001-1020
12	Unit 6: テロリズム	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 6の復習、予習 単語学習範囲: 1021-1040
13	Unit 7: 日本人強制収容所	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 7の予習 単語学習範囲: 1041-1060
14	Unit 7: 日本人強制収容所	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 7の復習、予習 単語学習範囲: 1061-1080
15	復習	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	定期試験(前期末)の準備 単語学習範囲: 1081-1100

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Issues Towards Peace	Keiso Tatsukawa	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	期末試験 30% 提出課題 30% TOEICブリッジ 20% 統一英語単語テスト 10% e-learning 10%
----------	--

学生へのメッセージ
There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) があるように英語学習に王道などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に勉強を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。

担当者の研究室等
7号館2階 非常勤講師室

備考
英語の辞典を持参してください。
単語学習範囲(10個)は授業中に毎回練習しますので、その範囲の予習・復習を、e-learning学習を含めて、毎日1時間は学習してください。

科目名	実践英語入門	科目名(英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子

教養科目

授業概要・目的	読解を中心に行う授業である。1回生までに学んできたことを復習しながら、より長い文章を読めるようにする。同時に、より多くの語彙力、文法力、作文力、リスニング力をつけていくことを目的とする。 教科書は世界のいろいろな国の文化的側面を比較しながら、英文読解力を向上させることを目的としているので、英語をとおして海外の文化を知ることできる。海外と日本の違いを学習しながら、英語力の向上を目指していく。
到達目標	基礎読解力をつけることを最大の目標とする。最初は短い文章から始め、徐々に、より長い文章が読めるような読解力を養成していく。また TOEIC、TOEIC Bridge 受験のために必要な読解力の向上を目標とする。 R科の学習・教育目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：B
授業方法と留意点	語学の授業であるので、学生主導で進めていく。訳出、練習問題、音読、すべてを学生に指名することになるので、積極的に対応してもらいたい。また、辞書は必ず持参すること。教科書を忘れたままの着席は、欠席扱いとする。
科目学習の効果(資格)	授業で習得した読解力はTOEIC、TOEIC Bridge テストにも役立つはずである。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 練習問題	授業方法、提出物、評価方法についての説明	特になし 教科書持参
2	Unit 1: Given Name First is Not the Rule in Many Places (Reading)	単語テスト 教科書 pp. 2-3	教科書の予習 単語学習範囲: 0801-0820
3	Unit 1: Given Name First is Not the Rule in Many Places (Grammar)	単語テスト 教科書 pp. 4-7	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 0821-0840
4	Unit 2: New Year's Day (Reading)	単語テスト 教科書 pp. 8-9	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 0841-0860
5	Unit2: New Year's Day (Grammar)	単語テスト 教科書 pp. 10-13	前回授業の復習 小テストの準備 単語学習範囲: 0861-0880
6	Unit 3: Laundry (Reading)	単語テスト 教科書 pp. 14-15	教科書の予習 単語学習範囲: 0881-0900
7	Unit 3: Laundry (Grammar)	単語テスト 教科書 pp. 16-19	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 0901-0920
8	Unit4: How Do You Write the Date? (Reading)	単語テスト 教科書 pp. 20-21	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 0921-0940
9	Unit 4: How Do You Write the Date? (Grammar)	単語テスト 教科書 pp. 22-25	前回授業の復習 小テストの準備 単語学習範囲: 0941-0960
10	Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (Reading)	単語テスト 教科書 pp. 26-27	教科書の予習 単語学習範囲: 0961-0980
11	Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (Grammar)	単語テスト 教科書 pp. 28-31	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 0981-1000
12	Unit 6: A Global Beauty Standard? (Reading)	教科書 pp. 32-33	前回授業の復習 教科書の予習
13	Unit 6: A Global Beauty Standard? (Grammar)	教科書 pp. 34-37	前回授業の復習 教科書の予習
14	Unit 7: Crosswalks (Reading)	教科書 pp. 38-39	前回授業の復習 教科書の予習
15	Unit7:Crosswalks (Grammar)	教科書 pp. 40-43	前回授業の復習 教科書の予習

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Learn the Differences, Broaden Your World!	Nobumichi Kawada	Asahi Press
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集)	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 評価は共通試験 30% (TOEIC Bridge20%、統一英語単語テスト 10%)、e-learning10%、定期試験 40%、小テストと授業態度 (質問に対する応答、積
----------	---

	極性、発表など) 20%の割合で評価する。 詳しくは第1回目の授業で説明する。
学生への メッセージ	授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	事前事後学習のため、毎回平均1時間は学習すること。

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	抽冬 紘和

授業概要・目的	<p>高校英語レベルの復習を目標に、読解力を中心に、語彙力、文法力、英語表現力を身につけることを目標とする。</p> <p>基本的な英語能力で専門的な分野（科学的な内容）を学ぶ。</p> <p>TOEIC Bridge, TOEIC 対策も目的とする。</p>
到達目標	<p>正確な語彙力、文法力を基にした、英文読解力、またリスニング力、そして自己表現力を得ることが出来る。</p> <p>基礎的な英語力で、理系科学に関する内容を読解、説明できるようになる。</p> <p>R 科の学習・教育目標との対応：A M 科の学習・教育到達目標との対応：B</p>
授業方法と留意点	<p>講義（解説）と演習の両方をおこない、全員参加型の授業を目指す。</p> <p>辞書を引き、十分に予習をして授業に臨んでください。辞書は必ず持参すること。</p> <p>指定の単語集を用いて毎回、授業の初めにテストをします。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>英語の基礎的な語彙力、文法力が身に付きます。</p> <p>英文の基礎読解力、英語での簡単な表現力が身に付きます。</p> <p>理系科学に関する内容を英語で理解できるようになります。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction ミニテスト	授業方法、成績評価等の説明、座席の指定。教科書の学習方法の説明 単語テスト範囲数の決定	テキストの単語調べ
	2	Unit1 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	3	Unit1 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	4	Unit1 確認テスト Unit2 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	5	Unit2 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	6	Unit2 確認テスト Unit3 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	7	Unit3 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	8	Unit3 確認テスト Unit4 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	9	Unit4 TOEIC 単語テスト	テスト、答え合わせ	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	10	Unit4 確認テスト Unit5 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	11	Unit5 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
	12	Unit5 確認テスト Unit6 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
	13	Unit6 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
	14	Unit6 確認テスト Unit7 TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
	15	Unit7 確認テスト TOEIC 単語テスト	テキスト実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ

関連科目	その他の英語関連科目
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Basic Literacy for the Sciences	Sakae Suzuki Jethro Kenny	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>共通試験 30% (TOEIC Bridge20%、統一英語単語テスト 10%) 定期試験 40% 小テスト 10% 授業参加態度 10% e-learning10%の割合で評価する。</p> <p>※授業態度に問題のある場合 (遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など) は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。</p>			
学生への メッセージ	<p>英語力は身に付くのに大変時間がかかりますが、日々すこしずつ、一緒に頑張っていきましょう。 授業では、英語だけではなく、テキストの内容も楽しめ、学べるようにしていきます。</p>			
担当者の 研究室等	<p>7号館 2階 (非常勤講師室)</p> <p>連絡先 email: hirokazunukk@outlook.jp</p>			
備考	<p>事前、事後学習の自主学習時間</p> <p>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 英単語は e-learning 学習など、毎日、平均1時間は学習すること</p>			

科目名	実践英語入門	科目名(英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松井 信義

教養科目

授業概要・目的	初級・中級者用の TOEIC 対策の教科書を使用するが、単なるスコアアップのテクニックではなく、所謂、英語の4技能を高めることを目的とする。そして最終的に、しっかりした読解能力と文法知識に基づくコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。
到達目標	TOEIC 300点 (TOEIC Bridge 120点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’ (授業への前向きな参加) が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書 (できれば、紙の英和辞典) は必ず持ってくること。
科目学習の効果 (資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検2級以上、TOEIC 550点以上は必ず取れるはず。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	UNIT 1 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (0816-0830)	UNIT 1 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
3	UNIT 1 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (0831-0845)	UNIT 1 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
4	UNIT 2 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (0846-0860)	UNIT 2 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
5	UNIT 2 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (0861-0875)	UNIT 2 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
6	UNIT 3 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (0876-0890)	UNIT 3 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
7	UNIT 3 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (0891-0905)	UNIT 3 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
8	UNIT 4 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (0906-0920)	UNIT 4 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
9	UNIT 4 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (0921-0935)	UNIT 4 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
10	UNIT 5 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (0936-0950)	UNIT 5 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
11	UNIT 5 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (0951-0965)	UNIT 5 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
12	UNIT 6 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (0966-0980)	UNIT 6 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
13	UNIT 6 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (0981-1000)	UNIT 6 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習
14	UNIT 6 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (0801-1000の総復習)	UNIT 6 既習範囲の復習 TOEIC 問題の復習 英単語前期分 (0801-1000) の総復習
15	UNIT 1~UNIT 6 TOEIC 問題	既習範囲の総復習 英単語前期分 (0801-1000) の総復習 定期試験 (前期末) の準備	定期試験 (前期末) の準備 英単語前期分 (0801-1000) の総復習

関連科目	他の英語科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
			出版社名

	1	「Start-up Course for the TOEIC Test」、2,000 円 + 税	北山長貴他	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		(成美堂)
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英和・和英辞典		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 40%、共通試験 30% (TOEIC Bridge 20%、統一英語単語テスト 10%)、小テスト 10%、授業態度 10%、e-learning 10% の割合で評価する。			
学生への メッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) があるように英語学習に王道などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に勉強を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください・・・。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前、事後学習に、毎回1時間以上かけること。 2. 「英語構文」小テストの準備に、毎日、平均1時間かけること。 3. 英単語は e-learning を含めて、毎日、平均1時間は学習すること。 4. 期末試験の準備には、合計20時間以上かけること。 5. 上記の学習に、「只管筆写」用紙を活用すること (用紙は、非常勤講師室にある)。 			

科目名	実践英語初級	科目名(英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治

授業概要・目的	TOEICの試験対策講座として、前期末のTOEICでのスコアアップを目指す。
到達目標	R科の学習・教育到達目標との対応:A M科の学習・教育到達目標との対応:B
授業方法と留意点	授業の進め方は毎回指名により学生諸君に発表してもらうのでそのつもりで授業に望んでもらいたい。予習として、必ず本文に目を通し、わからない単語や表現をチェックしておくことが大切である。練習問題には各自必ず答えを出しておくこと。

科目学習の効果(資格)	TOEIC Testの得点アップにつなげる。
-------------	------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
1	Introduction	授業内容の詳しい解説	単語小テスト No. 1001-1030 及び教科書 P. 1-6
2	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
3	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト No. 1021-1050 及び教科書 P. 7-12
4	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
5	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト No. 1041-1070 及び教科書 P. 13-18
6	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
7	Review	前半の復習	単語小テスト No. 1061-1090 及び教科書 P. 19-24
8	臨時試験	前半の試験	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
9	臨時試験評価	臨時試験の解説及び評	単語小テスト No. 1081-1010 及び教科書 P. 25-30
10	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
11	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト No. 1101-1130
12	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
13	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト No. 1141-1170 及び教科書 P. 31-36
14	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
15	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト No. 1161-1190 及び教科書 P. 37-42
16	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
17	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト No. 1181-1200 及び教科書 P. 43-48
18	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
19	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト No. 1191-1220 及び教科書 P. 49-54
20	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
21	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	教科書 P. 55-60
22	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
23	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	Unit 16- 20 質問準備
24	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること

関連科目	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般
------	-----------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
			1
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
			1
2			
3			

評価方法(基準)	共通試験 30% (TOEIC20% 単語試験 10%) 定期試験 40%、小テスト 10%、授業態度(発表など) 10%、e-learning10%の割合で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。
-----------	-----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	...
----	-----

科目名	実践英語初級	科目名(英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中本 明子

授業概要・目的	ユニットごとにTOEICテスト頻出の Vocabulary や文法を学習し、無理なくTOEICテストに慣れ親しみます。単なる得点獲得のテクニックではなく、文法の基礎を確認しながらしっかりと読解力とコミュニケーション能力を身につけていきます。
到達目標	TOEIC 320点以上の実力をつけることを到達目標とします。 R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	初めに板書講義で重要事項を説明した後、練習問題を解きます。知識の定着を図るために、毎回小テストをします。授業の最後に質疑応答時間を設けます。英和辞書は必ず持参してください。電子辞書の場合、説明書を読んで使い方を確実にマスターしておいて下さい(熟語の引き方がわからない人が時々見受けられます)。
科目学習の効果(資格)	TOEICや英検など資格試験の得点アップにつながります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	講義内容、授業の進め方、成績評価の説明、英文の基本構造と品詞	教科書全体に目を通しておくこと
	2	Unit 1 自動詞と他動詞 現在形	Vocabulary の確認 Listening Part 1~4 Reading Part 5~7	Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語 (1001~1028)
	3	Unit 2 現在完了形	Vocabulary の確認 Listening Part 1~4 Reading Part 5~7	Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語 (1029~1051)
	4	Unit 3 品詞	Vocabulary の確認 Listening Part 1~4 Reading Part 5~7	Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語 (1052~1076)
	5	Unit 4 仮定法	Vocabulary の確認 Listening Part 1~4 Reading Part 5~7	Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語 (1077~1101)
	6	Unit 5 不定詞	Vocabulary の確認 Listening Part 1~4 Reading Part 5~7	Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語 (1102~1124)
	7	Unit 6 動名詞	Vocabulary の確認 Listening Part 1~4 Reading Part 5~7	Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語 (1125~1149)
	8	Unit 7 分詞形容詞	Vocabulary の確認 Listening Part 1~4 Reading Part 5~7	Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語 (1150~1174)
	9	Unit 8 分詞構文	Vocabulary の確認 Listening Part 1~4 Reading Part 5~7	Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語 (1175~1200)
	10	Unit 9 比較	Vocabulary の確認 Listening Part 1~4 Reading Part 5~7	Vocabulary Build-up
	11	Unit 10 不定代名詞	Vocabulary の確認 Listening Part 1~4 Reading Part 5~7	Vocabulary Build-up
	12	Unit 11 関係代名詞	Vocabulary の確認 Listening Part 1~4 Reading Part 5~7	Vocabulary Build-up
	13	Unit 12 関係副詞	Vocabulary の確認 Listening Part 1~4 Reading Part 5~7	Vocabulary Build-up
	14	ミニ TOEIC テスト (1回目) と解説 (講義)	Listening Part 1~4 Reading Part 5~7	英文の基本構構造 (S、V、O、C) の確認
	15	ミニ TOEIC テスト (2回目) と解説 (講義)	Listening Part 1~4 Reading Part 5~7	品詞 (特に名詞、動詞、形容詞、副詞、前置詞) の確認

関連科目	実践英語入門、実践英語中級、実践英語上級、TOEIC 関連科目
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Welcome to the TOEIC Test	北原 良夫	朝日出版社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - WORD BOOK -	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験を実施 40%、さらに共通試験 30% (TOEICブリッジ 20%、統一英語単語テスト 10%)、e-learning 学習の進捗度 10%、小テスト 20%で、授業態度は減点方式とし、評価します。
学生へのメッセージ	単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける「Vocabulary Build-up」は、英和辞書を使って予習しておいて下さい。語彙力が英語の上達に大きく影響します。
担当者の	7号館2階 非常勤講師室

研究室等	
備考	事前事後学習には、英単語を中心に、毎回1時間以上かけて下さい。英単語は意味が分かるだけでなく、スペルが書けるようにして下さい。スペルが書けると、長く記憶にとどまります。 休まず積極的に授業に参加して下さい。努力は実ります。

科目名	実践英語初級	科目名(英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平尾 秀実

授業概要・目的	TOEIC Bridge のスコアアップを目標とする。
到達目標	TOEIC 300点 (TOEIC Bridge 120点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	問題演習を中心として授業を進める。また、間違えた問題のやり直しも行う。毎回、単語テストを実施する。授業には必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、TOEIC Bridge に役立つ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	リスニング能力、語彙力、文法力、読解力の育成 Unit 2 広告文の読み方	単語テスト(1001-1020) Chapter 2: リスニング・リーディング演習	教科書の復習と予習 単語テスト予習(1021-1040)
3	リスニング能力、語彙力、文法力、読解力の育成 Unit 3 動詞の変化形	単語テスト(1021-1040) Chapter 3: リスニング・リーディング演習	教科書の復習と予習 単語テスト予習(1041-1060)
4	リスニング能力、語彙力、文法力、読解力の育成 Unit 4 請求書・領収書の読みかか	単語テスト(1041-1060) Chapter 4: リスニング・リーディング演習	教科書の復習と予習 単語テスト予習(1061-1080)
5	リスニング能力、語彙力、文法力、読解力の育成 Unit 5 同じ単語の変化形	単語テスト(1061-1080) Chapter 5: リスニング・リーディング演習	教科書の復習と予習 単語テスト予習(1081-1100)
6	リスニング能力、語彙力、文法力、読解力の育成 Unit 6 図表・一覧表の見方	単語テスト(1081-1100) Chapter 6: リスニング・リーディング演習	教科書の復習と予習 単語テスト予習(1101-1120)
7	リスニング能力、語彙力、文法力、読解力の育成 Unit 7 前置詞の基本	単語テスト(1101-1120) Chapter 7: リスニング・リーディング演習	教科書の復習と中間テスト予習
8	リスニング能力、語彙力、文法力、読解力の育成 課題テストと Unit 8 お知らせ文の読み方	課題テスト Chapter 8: リスニング・リーディング演習	教科書の復習と予習 単語テスト予習(1121-1140)
9	リスニング能力、語彙力、文法力、読解力の育成 Unit 9 接続詞	単語テスト(1121-1140) Chapter 9: リスニング・リーディング演習	教科書の復習と予習 単語テスト予習(1141-1160)
10	リスニング能力、語彙力、文法力、読解力の育成 Unit 10 商品の説明書	単語テスト(1141-1160) Chapter 10: リスニング・リーディング演習	教科書の復習と予習 単語テスト予習(1161-1180)
11	リスニング能力、語彙力、文法力、読解力の育成 Unit 11 関係詞	単語テスト(1161-1180) Chapter 11: リスニング・リーディング演習	教科書の復習と予習 単語テスト予習(1181-1200)
12	リスニング能力、語彙力、文法力、読解力の育成 Unit 12 E-メールの形式	単語テスト(1181-1200) Chapter 12: リスニング・リーディング演習	教科書の復習と予習
13	リスニング能力、語彙力、文法力、読解力の育成 Unit 13 比較級。最上級の形と意味	Chapter 13: リスニング・リーディング演習	教科書の復習と予習
14	リスニング能力、語彙力、文法力、読解力の育成 Unit 14 ビジネスレターの基本	Chapter 14: リスニング・リーディング演習	教科書の復習と予習
15	リスニング能力、語彙力、文法力、読解力の育成 Unit 15 Toeic Bridge Half Test で練習	Chapter 15: リスニング・リーディング演習	期末試験に向けて総復習

関連科目	実践英語中級
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC Bridge: First Steps to Success	和田ゆり	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	【定期試験を実施】 共通試験 (TOEIC-20%, 統一単語テスト 10%)、 e-learning 学習の進捗度 (10%)、定期試験 (30%)、小テスト (10%)、課題テスト (10%)、レポート (10%)
学生への メッセージ	授業への積極的な参加を期待します。 リンガポルタを活用し、授業外でも英語に触れるよう努めること。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前事後学習には毎回1時間以上かけること。 授業時間外の質問・連絡はメールで受け付ける。詳細は初回授業時に指示する。

科目名	実践英語初級	科目名(英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子

授業概要・目的	この授業は、TOEIC Bridge、及び TOEIC 受験対策を目的とする。従って日常生活、ビジネスシーン等で使用される英語の基本語彙を学び、役立つ文法事項を確認をする。メール、広告、掲示物などから必要な情報を読み取ったり、様々なシチュエーションにおけるダイアログ、アナウンスメント等を聞いて内容把握をする練習を行う。
到達目標	TOEIC 300点 (TOEIC Bridge 120点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	授業は学生による発表を中心に進めますから、テキストの指定された箇所を予習して授業に出席してください。予習とは、単語、熟語等の意味のみならず、音読できるように発音を確認することも含みます。
科目学習の効果(資格)	TOEIC Bridge および TOEIC のスコアアップ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方の説明、プリント教材を使った課題	テキストの準備
2	The Weather	天気/ 現在時制、過去時制	テキストの予習 TOEIC 単語 1001-1020
3	Meetings & Messages	ミーティング、メッセージ/ 冠詞、代名詞	テキストの予習 TOEIC 単語 1021-1040
4	Health	健康/ 進行形	テキストの予習 TOEIC 単語 1041-1060
5	Advertising & Sales	広告、セール/ 名詞、数詞	テキストの予習 TOEIC 単語 1061-1080
6	Investment & Office Supplies	投資、オフィスの備品/ 形容詞、副詞	テキストの予習 TOEIC 単語 1081-1100
7	Telephone Messages	電話メッセージ/ 接続詞、前置詞	テキストの予習 TOEIC 単語 1001-1100
8	Jobs & Promotions	仕事、昇進/ 助動詞、使役・感覚動詞	テキストの予習 TOEIC 単語 1101-1120
9	Flights & Traveling	フライト、旅行/ 未来時制	テキストの予習 TOEIC 単語 1121-1140
10	Housing	住居/ 比較	テキストの予習 TOEIC 単語 1141-1160
11	New Products & Electrical Appliances	新製品、電化製品/ 不定詞、動名詞	テキストの予習 TOEIC 単語 1161-1180
12	Media	メディア/ 完了時制	テキストの予習 TOEIC 単語 1181-1200
13	Ordering & Shipping	注文、発送/ 受動態	テキストの予習
14	Customer Services	顧客サービス/ 関係詞	テキストの予習
15	The Environment	環境/ 仮定法、復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	全ての英語科目
------	---------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	TOEIC Bridge Lounge	Terry O' Brien 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	TOEIC Bridge Test 20%、統一英語単語テスト10%、e-learning 学習の進捗度 10%、定期試験 50%、授業への取り組み 10%
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	事前・事後学習には1時間以上かけること。
----	----------------------

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子

授業概要・目的	この授業は、TOEIC (Bridge) 形式の問題を解きながら、文法事項の再確認をし、リスニング・リーディングの力をつけ、日常やビジネス・シーンで役立つコミュニケーション能力を養って行きます。授業はまず学生に発表してもらい、その後ポイントを解説して行きます。この授業を通してTOEIC形式に慣れ、正解を導くコツを身につけるようにしてください。尚、毎回授業の初めに単語テストを行います。
到達目標	TOEIC 300点 (TOEIC Bridge 120点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	この授業は、TOEIC Bridgeで高得点を取ることだけでなく、TOEICテストへの導入も目的としています。TOEICのコツを身につけられるように、必ず予習をして、授業中は正解だけでなく、なぜその答えが正しいのかということに注意しながら解説をよく聞いて、しっかりメモを取ることが大切です。授業は学生の発表と解説という形で進め、授業の最後に質疑応答の時間を設けます。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC Bridge および TOEIC のスコアアップ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方の説明、プリント教材を使った課題	テキストの予習、以下2回目以降の単語テスト範囲を記すので、授業までに必ず覚えておくこと、また授業の後は、次のテスト範囲とともに、見直しをすること。
2	The Weather	天気/ 現在時制、過去時制	テキストの予習 単語 1001-1020
3	Meetings & Messages	ミーティング、メッセージ/ 冠詞、代名詞	テキストの予習 単語 1021-1040
4	Health	健康/ 進行形	テキストの予習 単語 1041-1060
5	Advertising & Sales	広告、セール/ 名詞、数詞	テキストの予習 単語 1061-1080
6	Investment & Office Supplies	投資、オフィスの備品/ 形容詞、副詞	テキストの予習 単語 1081-1100
7	Telephone Messages	電話メッセージ/ 接続詞、前置詞	テキストの予習 単語 1001-1100
8	Jobs & Promotions	仕事、昇進/ 助動詞、使役・感覚動詞	テキストの予習 単語 1101-1120
9	Flights & Traveling	フライト、旅行/ 未来時制	テキストの予習 単語 1121-1140
10	Housing	住居/ 比較	テキストの予習 単語 1141-1160
11	New Products & Electrical Appliances	新製品、電化製品/ 不定詞、動名詞	テキストの予習 単語 1161-1180
12	Media	メディア/ 完了時制	テキストの予習 単語 1181-1200
13	Ordering & Shipping	注文、発送/ 受動態	テキストの予習 単語 1001-1030
14	Customer Services	顧客サービス/ 関係詞	テキストの予習 単語 1031-1060
15	The Environment	環境/ 仮定法、復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	全ての英語科目
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC Bridge Lounge	Terry O' Brien 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	TOEIC Bridge 20%、統一英語単語テスト10%、e-learning10%、定期試験40%、小テスト10%、授業態度(発表、積極性、メモのとり方など) 10%の割合で評価する。
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された箇所を必ず予習することを心がけてください。TOEICテストは、形式に慣れることで大幅に点数が上がると言われてます。是非学生のうちに何度か受験しましょう。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	事前・事後学習には1時間以上かけること。

科目名	実践英語初級	科目名(英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿

授業概要・目的	今までに学んできた基本文法知識を確認し、皆さんが受ける TOEIC ブリッジ受験に必要な解法テクニック、特に普段の努力を積みめば必ず伸びる文法力及び読解力の更なる向上を目標とする。又、授業に平行してテスト受験に欠かせない語彙力向上も目指す。また、授業計画は進度によって変わる場合がある。
到達目標	千里の山も一歩から…「文法ルール及び語彙、毎日少しずつ繰り返し覚えよう！」文法問題が解けるようになるには、1つでも多くの文法ルールを覚え、問題文にどの文法文法ルールが使われているか見抜くのが早道であり、毎日少しずつの努力が大きな結果につながる。単語と同じく、根気よく繰り返し覚え、1つでも多くの問題が解けるように頑張ろう。 R科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：B
授業方法と留意点	毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。今まで習ってきた語彙や文法知識を駆使し、一つでも多くの問題が解けることを望む。予習として次に進む分の練習問題を解いて授業に臨もう。特に4択問題は今まで習った文法ルール及び語彙を駆使し、「この選択肢はこう間違っているから違う」と分かる様になればしめたもの。授業で出てきた新しい単語や学んだ内容をくり返して覚えるのが上達への早道です！
科目学習の効果(資格)	TOEIC ブリッジ受験に必要な基本的事項の復習及び知識の養成。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	次回の第一回単語テスト範囲、1001-1025番を勉強する事。
	2	Unit 1 Eating Out 文法：動詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.1-5、次回の第二回単語テスト範囲、1026-1050番を勉強する事。
	3	Unit 1 Eating Out 文法：動詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.6-8、次回の第三回単語テスト範囲、1051-1075番を勉強する事。
	4	Unit 2 Travel 文法：動詞の時制(1)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.9-13、次回の第四回単語テスト範囲、1076-1100番を勉強する事。
	5	Unit 2 Travel 文法：動詞の時制(1)	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.14-16、次回の第五回単語テスト範囲、1101-1125番を勉強する事。
	6	Unit 3 Amusement 文法：動詞の時制(2)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.17-21、次回の第六回単語テスト範囲、1126-1150番を勉強する事。
	7	Unit 3 Amusement 文法：動詞の時制(2)	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.22-24、次回の第七回単語テスト範囲、1151-1175番を勉強する事。
	8	Unit 4 Meetings 文法：代名詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.25-29、次回の第八回単語テスト範囲、1176-1200番を勉強する事。
	9	Unit 4 Meetings 文法：代名詞	リーディング問題演習	教科書 p.30-32、次回の第九回単語テスト範囲(詳細は後日指示する)を勉強する事。
	10	Unit 5 Personnel 文法：不定詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.33-37、次回の第十回単語テスト範囲(詳細は後日指示する)を勉強する事。
	11	Unit 5 Personnel 文法：不定詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.38-40、次回の第十一回単語テスト範囲(詳細は後日指示する)を勉強する事。
	12	Unit 6 Shopping 文法：動名詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.41-45、次回の第十二回単語テスト範囲(詳細は後日指示する)を勉強する事。
	13	Unit 6 Shopping 文法：動名詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.46-48、次回の第十三回単語テスト範囲(詳細は後日指示する)を勉強する事。
	14	Unit 7 Advertisement Media 文法：冠詞、名詞(1)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.49-53、次回の第十四回単語テスト範囲(詳細は後日指示する)を勉強する事。
	15	Unit 7 Advertisement Media 文法：冠詞、名詞(1)	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.54-56

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Step-up Skills for the TOEIC Test いま始めよう TOEIC テスト	北尾泰幸、林姿徳、西田晴美、ブライアンコバート編著	朝日出版社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト(単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(40%)、提出物(10%)、単語小テスト(5%)、平常点(授業態度など5%)の合計60%にe-learning学習進捗度(10%)、共通試験(30%：TOEICブリッジ20%、統一英語単語テスト10%)を足して総合評価します。TOEICブリッジ及び統一単語テストを受験しなかった人は評価に大きく影響します。また、日頃の授業態度も重視します。
----------	---

学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げる事。
----	---

科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村 ゆみ

授業概要・目的	「国際協力」「人権問題」などの国際社会問題について英語で理解、発信、議論する力を養うためのDVD教材を用いる。各種の練習問題を通じて語彙力、リスニングの力を増すことを目標とする。 最終的に、しっかりした読解能力と文法知識に基づくコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。
到達目標	TOEIC400点 (TOEIC Bridge 140点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’ (授業への積極的な参加) が前提である。双方向の全員参加の授業を展開する。
科目学習の効果(資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検2級以上、TOEIC550点以上は必ず取れるはずです。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Unit 8: 核兵器	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 8の予習 単語学習範囲: 1201-1220
2	Unit 8: 核兵器	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 8の復習、予習 単語学習範囲: 1221-1240
3	Unit 9: カンボジア大虐殺	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 9の予習 単語学習範囲: 1241-1260
4	Unit 9: カンボジア大虐殺	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 9の復習、予習 単語学習範囲: 1261-1280
5	Unit 10: 地雷撤去	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 10の予習 単語学習範囲: 1281-1300
6	Unit 10: 地雷撤去	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 10の復習、予習 単語学習範囲: 1301-1320
7	Unit 11: 難民	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 11の予習 単語学習範囲: 1321-1340
8	Unit 11: 難民	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 11の復習、予習 単語学習範囲: 1341-1360
9	Unit 12: Nelson Mandela	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 12の予習 単語学習範囲: 1361-1380
10	Unit 12: Nelson Mandela	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 12の復習、予習 単語学習範囲: 1381-1400
11	Unit 13: Aung San Suu Kyi	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 13の予習 単語学習範囲: 1401-1420
12	Unit 13: Aung San Suu Kyi	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 13の復習、予習 単語学習範囲: 1421-1440
13	Unit 14: 国際赤十字の活動	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 14の予習 単語学習範囲: 1441-1460
14	Unit 14: 国際赤十字の活動	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 14の復習、予習 単語学習範囲: 1461-1480
15	復習	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	定期試験(後期末)の準備 単語学習範囲: 1481-1500

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Issues Towards Peace	Keiso Tatsukawa	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	期末試験 30% 提出課題 30% 統一英語単語テスト 20% e-learning 20%
----------	---

学生へのメッセージ
There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) があるように英語学習に王道などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に勉強を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 英語の辞典を持参してください。
単語学習範囲(10個)は授業中に毎回練習しますので、その範囲の予習・復習を、e-learning 学習を含めて、毎日1時間は学習してください。

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	梅田 尋道

授業概要・目的	読解を中心に行う授業である。1回生までに学んできたことを復習しながら、より長い文章を読めるようにする。同時に、より多くの語彙力、文法力、作文力、リスニング力をつけていくことを目的とする。 教科書は世界のいろいろな国の文化的側面を比較しながら、英文読解力を向上させることを目的としているので、英語をとおして海外の文化を知ることができる。海外と日本の違いを学習しながら、英語力の向上を目指していく。
到達目標	基礎読解力をつけることを最大の目標とする。最初は短い文章から始め、徐々に、より長い文章が読めるような読解力を養成していく。また TOEIC、TOEIC Bridge 受験のために必要な読解力の向上を目標とする。 R 科の学習・教育到達目標との対応：A M 科の学習・教育到達目標との対応：B
授業方法と留意点	語学の授業であるので、学生主導で進めていく。訳出、練習問題、音読、すべてを学生に指名することになるので、積極的に対応してもらいたい。また、辞書は必ず持参すること。教科書を忘れたままの着席は、欠席扱いとする。
科目学習の効果 (資格)	授業で習得した読解力は TOEIC、TOEIC Bridge テストにも役立つはずである。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? (Reading)	教科書 pp. 44-45	教科書の予習
	2	Unit 8: Forks, Chopsticks or Hnads? (Grammar)	単語テスト 教科書 pp. 46-49	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 1201-1225
	3	Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (Reading)	単語テスト 教科書 pp. 50-51	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 1226-1251
	4	Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (Grammar)	単語テスト 教科書 pp. 52-55	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 1252-1277
	5	Unit10: A Life of School Uniforms and School Lunches (Reading)	単語テスト 教科書 pp. 56-57	前回授業の復習 小テストの準備 単語学習範囲: 1278-1303
	6	Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches (Grammar)	単語テスト 教科書 pp. 58-61	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 1304-1329
	7	Unit 11: Japanese Animation Heroes Have Fans All Over the World (Reading)	単語テスト 教科書 pp. 62-63	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 1330-1355
	8	Unit 11: Japanese Animation Heroes Have Fans All Over the World (Grammar)	単語テスト 教科書 pp. 64-67	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 1356-1381
	9	Unit 12: American Work Hours and Overtime (Reading)	単語テスト 教科書 pp. 68-69	前回授業の復習 小テストの準備 単語学習範囲: 1382-1407
	10	Unit 12: American Work Hours and Overtime (Grammar)	単語テスト 教科書 pp. 70-73	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 1408-1433
	11	Unit 13: The Globalization of Christmas (Reading)	単語テスト 教科書 pp. 74-75	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 1434-1464
	12	Unit 13: The Globalization of Christmas (Grammar)	単語テスト 教科書 pp. 76-79	前回授業の復習 教科書の予習 単語学習範囲: 1465-1500
	13	Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? (Reading)	教科書 pp. 80-81	前回授業の復習 教科書の予習
	14	Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? (Grammar)	教科書 pp. 82-85	前回授業の復習 教科書の予習
	15	Unit15: Do People's Names Change after Marriage?	教科書 pp. 86-87	前回授業の復習 教科書の予習

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Learn the Differences, Broaden Your World!	Nobumichi Kawada	Asahi Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 評価は共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、e-learning 20%、定期試験 40%、小テストと授業態度 (質問に対する応答、積極性、発表など) 20%の割合で評価する。 詳しくは第 1 回目の授業で説明する。			
学生への メッセージ	授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室			
備考	事前事後学習のため、毎回平均 1 時間は学習すること。			

科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	箕田 正開

授業概要・目的	<p>高校英語レベルの復習を目標に、読解力を中心に、語彙力、文法力、英語表現力を身につけることを目標とする。</p> <p>基本的な英語能力で専門的な分野(科学的内容を)を学ぶ。</p> <p>TOEIC Bridge, TOEIC 対策も目的とする。</p>
到達目標	<p>正確な語彙力、文法力を基にした、英文読解力、またリスニング力、そして自己表現力を得ることが出来る。</p> <p>基礎的な英語力で、理系科学に関する内容を読解、説明できるようになる。</p> <p>R科の学習・教育到達目標との対応:A M科の学習・教育到達目標との対応:B</p>
授業方法と留意点	<p>講義(解説)と演習の両方をおこない、全員参加型の授業を目指す。</p> <p>辞書を引き、十分に予習をして授業に臨んでください。辞書は必ず持参すること。</p> <p>指定の単語集を用いて毎回、授業の初めにテストをします。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>英語の基礎的な語彙力、文法力が身に付きます。</p> <p>英文の基礎読解力、英語での簡単な表現力が身に付きます。</p> <p>理系科学に関する内容を英語で理解できるようになります。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction ミニテスト	授業方法、成績評価等の説明、席席の指定。教科書の学習方法の説明 単語テスト範囲数の決定	テキストの単語調べ
	2	Unit8 TOEIC 単語テスト 1201-1230	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	3	Unit8 TOEIC 単語テスト 1231-1260	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	4	Unit9 TOEIC 単語テスト 1261-1290	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	5	Unit9 TOEIC 単語テスト 1291-1320	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	6	Unit10 TOEIC 単語テスト 1321-1350	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	7	Unit10 TOEIC 単語テスト 1351-1380	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	8	Unit8-10 確認テスト Unit11 TOEIC 単語テスト 1381-1410	テスト、答え合わせ	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	9	Unit11 TOEIC 単語テスト 1411-1440	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	10	Unit12 TOEIC 単語テスト 1441-1470	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
	11	Unit13 TOEIC 単語テスト 1471-1500	テキスト実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
	12	Unit14 TOEIC 単語テスト 1201-1300	テキスト実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
	13	Unit15 TOEIC 単語テスト 1301-1400	テキスト実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
	14	Unit9-15 確認テスト TOEIC 単語テスト 1401-1500	テスト、答え合わせ	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
	15	総復習		単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ

関連科目	その他の英語関連科目
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Basic Literacy for the Sciences	Sakae Suzuki Jethro Kenny	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	<p>共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%) 定期試験 30% 小テスト 20% 授業態度 10% (授業中の発表) e-learning 20% の割合で評価する。</p> <p>※授業態度に問題のある場合 (遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など) は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。</p>		
学生への メッセージ	<p>英語力は身に付くのに大変時間がかかりますが、日々すこしずつ、一緒に頑張っていきましょう。 授業では、英語だけではなく、テキストの内容も楽しめ、学べるようにしていきます。</p>		
担当者の 研究室等	<p>7号館 2階 (非常勤講師室)</p> <p>連絡先 email: hirokazunukk@outlook.jp</p>		
備考	<p>事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間はかけること 英単語は e-learning 学習など、毎日、平均 1 時間は学習すること</p>		

科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子

授業概要・目的	初級・中級者用の TOEIC 対策の教科書を使用するが、単なるスコアアップのテクニックではなく、所謂、英語の4技能を高めることを目的とする。そして最終的に、しっかりした読解能力と文法知識に基づくコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。
到達目標	TOEIC 400点 (TOEIC Bridge 140点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 R科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	授業は 'Active Participation in Class' (授業への前向きな参加) が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書(できれば、紙の英和辞典)は必ず持ってくること。
科目学習の効果(資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検2級以上、TOEIC 550点以上は必ず取れるはず。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	シラバスの説明 UNIT 7の導入	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習、統一英単語テスト準備学習の方法など	UNIT 7の予習 英単語予習
2	UNIT 7 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習(1201-1225)	UNIT 7 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
3	UNIT 7 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習(1226-1250)	UNIT 7 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
4	UNIT 8 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習(1251-1275)	UNIT 8 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
5	UNIT 8 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習(1276-1300)	UNIT 8 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
6	UNIT 9 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習(1301-1325)	UNIT 9 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
7	UNIT 9 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習(1326-1350)	UNIT 9 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
8	UNIT 10 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習(1351-1375)	UNIT 10 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
9	UNIT 10 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習(1376-1400)	UNIT 10 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
10	UNIT 11 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習(1401-1425)	UNIT 11 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
11	UNIT 11 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習(1426-1450)	UNIT 11 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
12	UNIT 12 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習(1451-1475)	UNIT 12 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
13	UNIT 12 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習(1476-1500)	UNIT 12 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習
14	UNIT 12 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習(1201-1500の総復習)	UNIT 12 既習範囲の復習 TOEIC 問題の復習 英単語後期分(1201-1500)の総復習
15	UNIT 7~UNIT 12	既習範囲の総復習 英単語後期分(1201-1500)の総復習 定期試験(後期末)の準備	定期試験(後期末)の準備 英単語後期分(1201-1500)の総復習

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「Start-up Course for the TOEIC Test」、2,000 円	北山長貴他	成美堂

		＋税		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英和・和英辞典		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験30%、統一英語単語テスト20%、小テスト10%、課題レポート10%、授業態度10%、e-learning20% で評価する。			
学生への メッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) があるように英語学習に王道などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に勉強を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください・・・。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前、事後学習に、毎日1時間以上かけること。 2. 「英語構文」小テストの準備に、毎日、平均1時間かけること。 3. 英単語は e-learning を含めて、毎日、平均1時間は学習すること。 4. 期末試験の準備には、合計20時間以上かけること。 5. 上記の学習に、「只管筆写」用紙を活用すること (用紙は、非常勤講師室にある)。 			

科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	抽冬 紘和

授業概要・目的	<p>高校英語レベルの復習を目標に、読解力を中心に、語彙力、文法力、英語表現力を身につけることを目標とする。</p> <p>基本的な英語能力で専門的な分野(科学的内容を)を学ぶ。</p> <p>TOEIC Bridge, TOEIC 対策も目的とする。</p>
到達目標	<p>正確な語彙力、文法力を基にした、英文読解力、またリスニング力、そして自己表現力を得ることが出来る。</p> <p>基礎的な英語力で、理系科学に関する内容を読解、説明できるようになる。</p> <p>R科の学習・教育到達目標との対応:A M科の学習・教育到達目標との対応:B</p>
授業方法と留意点	<p>講義(解説)と演習の両方をおこない、全員参加型の授業を目指す。</p> <p>辞書を引き、十分に予習をして授業に臨んでください。辞書は必ず持参すること。</p> <p>指定の単語集を用いて毎回、授業の初めにテストをします。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>英語の基礎的な語彙力、文法力が身に付きます。</p> <p>英文の基礎読解力、英語での簡単な表現力が身に付きます。</p> <p>理系科学に関する内容を英語で理解できるようになります。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction ミニテスト	授業方法、成績評価等の説明、席席の指定。教科書の学習方法の説明 単語テスト範囲数の決定	テキストの単語調べ
2	Unit8 TOEIC 単語テスト 1201-1230	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
3	Unit8 TOEIC 単語テスト 1231-1260	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
4	Unit9 TOEIC 単語テスト 1261-1290	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
5	Unit9 TOEIC 単語テスト 1291-1320	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
6	Unit10 TOEIC 単語テスト 1321-1350	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
7	Unit10 TOEIC 単語テスト 1351-1380	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
8	Unit8-10 確認テスト Unit11 TOEIC 単語テスト 1381-1410	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
9	Unit11 TOEIC 単語テスト 1411-1440	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
10	Unit12 TOEIC 単語テスト 1441-1470	テキスト実践、解説	単語帳の予習 テキストの復習、 単語調べ
11	Unit13 TOEIC 単語テスト 1471-1500	テキスト実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
12	Unit14 TOEIC 単語テスト 1201-1300	テキスト実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
13	Unit15 TOEIC 単語テスト 1301-1400	テキスト実践、解説	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
14	Unit9-15 確認テスト TOEIC 単語テスト 1401-1500	テスト、答え合わせ	単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ
15	総復習		単語帳の復習。 テキストの復習、 単語調べ

関連科目	その他の英語関連科目
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Basic Literacy for the Sciences	Sakae Suzuki Jethro Kenny	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	<p>共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%) 定期試験 30% 小テスト 20% 授業態度 10% (授業中の発表) e-learning 20% の割合で評価する。</p> <p>※授業態度に問題のある場合 (遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など) は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。</p>		
学生への メッセージ	<p>英語力は身に付くのに大変時間がかかりますが、日々すこしずつ、一緒に頑張っていきましょう。 授業では、英語だけではなく、テキストの内容も楽しめ、学べるようにしていきます。</p>		
担当者の 研究室等	<p>7号館2階 (非常勤講師室) 連絡先 email: hirokazunukk@outlook.jp</p>		
備考	<p>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間はかけること 英単語は e-learning 学習など、毎日、平均1時間は学習すること</p>		

科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松井 信義

授業概要・目的	初級・中級者用の TOEIC 対策の教科書を使用するが、単なるスコアアップのテクニックではなく、所謂、英語の4技能を高めることを目的とする。そして最終的に、しっかりした読解能力と文法知識に基づくコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。
到達目標	TOEIC 400点 (TOEIC Bridge 140点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 学科の学習・教育到達目標との対応：[A] M科の学習・教育到達目標との対応：[B]
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’ (授業への前向きな参加) が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書 (できれば、紙の英和辞典) は必ず持ってくること。
科目学習の効果 (資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検 2 級以上、TOEIC 550 点以上は必ず取れるはず。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	シラバスの説明 UNIT 7 の導入	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習、統一英単語テスト準備学習の方法など	UNIT 7 の予習 英単語予習
2	UNIT 7 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (1201-1225)	UNIT 7 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
3	UNIT 7 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (1226-1250)	UNIT 7 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
4	UNIT 8 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (1251-1275)	UNIT 8 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
5	UNIT 8 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (1276-1300)	UNIT 8 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
6	UNIT 9 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (1301-1325)	UNIT 9 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
7	UNIT 9 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (1326-1350)	UNIT 9 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
8	UNIT 10 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (1351-1375)	UNIT 10 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
9	UNIT 10 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (1376-1400)	UNIT 10 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
10	UNIT 11 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (1401-1425)	UNIT 11 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
11	UNIT 11 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (1426-1450)	UNIT 11 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
12	UNIT 12 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (1451-1475)	UNIT 12 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習、予習
13	UNIT 12 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (1476-1500)	UNIT 12 既習範囲の復習、予習 TOEIC 問題の復習、予習 英単語復習
14	UNIT 12 TOEIC 問題	内容把握、語彙・発音、練習問題 TOEIC 問題 英単語テスト準備学習 (1201-1500 の総復習)	UNIT 12 既習範囲の復習 TOEIC 問題の復習 英単語後期分 (1201-1500) の総復習
15	UNIT 7~UNIT 12	既習範囲の総復習 英単語後期分 (1201-1500) の総復習 定期試験 (後期末) の準備	定期試験 (後期末) の準備 英単語後期分 (1201-1500) の総復習

関連科目 他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「Start-up Course for the TOEIC Test」、2,000 円	北山長貴他	成美堂

		+税		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英和・和英辞典		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験40%、統一英語単語テスト20%、小テスト10%、授業態度10%、e-learning20%の割合で評価する。			
学生への メッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) があるように英語学習に王道などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に勉強を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください・・・。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前、事後学習に、毎日1時間以上かけること。 2. 「英語構文」小テストの準備に、毎日、平均1時間かけること。 3. 英単語はe-learningを含めて、毎日、平均1時間は学習すること。 4. 期末試験の準備には、合計20時間以上かけること。 5. 上記の学習に、「只管筆写」用紙を活用すること(用紙は、非常勤講師室にある)。 			

科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治

授業概要・目的 TOEIC テストを意識してリスニング、読解、文法、語彙能力向上を図り、実用的な英語のスキルアップを目指す。実際のTOEICテストに慣れ、高得点を目指すことを目標とする。

到達目標 TOEIC 300点 (TOEIC Bridge 120点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。
R科の学習・教育到達目標との対応：[A]
M科の学習・教育到達目標との対応：[B]

授業方法と留意点 テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいく。
単語テストは NO 1201～NO 1500 の範囲を毎回30単語ずつ10回に分けてテストする。また、テキストの内容も各章ごとに確認のための臨時テストを行う。
予習、復習をしっかりと行うこと。また、ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められます。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意。

科目学習の効果(資格) TOEIC のリスニング、語彙、文法、読解力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、およびTOEIC形式のプレテスト	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・TOEIC プレテスト	文法全般を予習、課題は授業中に指示する 単語テスト予習 NO 1201～1230
2	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の学習もする 単語テスト1	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 NO 1231～1260
3	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の学習もする 単語テスト2	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 NO 1261～1290
4	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の学習もする 単語テスト3	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 NO 1291～1320
5	語彙問題対策	語彙、読解、文法、の学習 単語テスト4	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 NO 1321～1350
6	語彙問題対策	語彙、読解、文法、Listeningの練習 単語テスト5	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 NO 1351～1380
7	語彙問題対策	語彙、読解、文法、の学習 単語テスト6	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 NO 1381～1410
8	文法問題対策	語彙、読解、文法、Listeningの練習 単語テスト7	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 NO 1411～1440
9	文法問題対策	語彙、読解、文法の学習 単語テスト8	復該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 NO 1441～1470
10	文法問題対策	語彙、読解、文法、Listeningの練習 単語テスト9	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 NO 1471～1500
11	文法問題対策	語彙、読解、文法の学習	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
12	読解問題対策	語彙、読解、文法、Listeningの練習	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
13	読解問題対策	語彙、読解、文法の学習	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
14	読解問題対策	語彙、読解、文法、Listeningの練習	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
15	総まとめ TOEIC形式 ポストテスト	総復習 TOEIC ポストテスト	重要項目、フレーズの整理、総復習

関連科目 他の英語関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	More Step-up Skills for the TOEIC Test	北尾泰幸、西田晴美、林姿徳、 Brian, Covert	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、定期試験 20%、小テスト 20%、課題レポート 10%、授業態度 10% (授業中の発表)、e-learning 20% の割合で評価する。

学生へのメッセージ
・各自の予習が不可欠です。授業での積極的な参加を求めます。
・辞書は毎回必携のこと
・e-learning 教材と、テキスト付属CDを使って自宅学習を行いましょう。地道な努力により英語力は必ず伸びます、がんばりましょう。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考 事前事後学習(それぞれ約1時間)以外に、毎日単語、15分、リスニング15分の学習をすること。

科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋

教養科目

授業概要・目的	文法、読解、語彙など広く総合英語力の底上げを行い、toeicで評価される英語力の向上を目指す。																																																																		
到達目標	TOEIC 400点 (TOEIC Bridge 140点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 R科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：B 後期統一単語テストの範囲：1201-1500																																																																		
授業方法と留意点	授業中は教科書演習・作業用紙に集中して取り組む姿勢が求められる。授業開始時に単語テスト、授業終了時に授業の理解度をはかる確認テストを毎回実施し、平常点として還元する。 ただ出席するだけでなく、授業活動に真剣に取り組むこと。 教科書を購入しない又は持っていない学生は大幅に減点される。(後期から履修する学生は初回の授業時に間に合うように教科書を購入しておいでください。書店に在庫がない場合は取り寄せてもらってください。) 携帯を使ったり居眠りしたり授業中に退出したりする学生も減点される。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEICでのスコアアップ																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業ガイダンス</td> <td>Introduction</td> <td>教科書を持参する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 6 単語テスト(1)</td> <td>Understanding pros and cons 確認テスト</td> <td>単語テスト(1)の準備 単語学習範囲：No. 1201-1220</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 7 単語テスト(2)</td> <td>Supporting ideas with examples 確認テスト</td> <td>単語テスト(2)の準備 単語学習範囲：No. 1221-1240</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 7 単語テスト(3)</td> <td>Using definitions to find meaning 確認テスト</td> <td>単語テスト(3)の準備 単語学習範囲：No. 1241-1260</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 8 単語テスト(4)</td> <td>Annotating text 確認テスト</td> <td>単語テスト(4)の準備 単語学習範囲：No. 1261-1280</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 8 単語テスト(5)</td> <td>Understanding pronoun reference 確認テスト</td> <td>単語テスト(5)の準備 単語学習範囲：No. 1281-1300</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>前半期(1回～6回)既習内容の復習 単語テスト(6)</td> <td>作業用紙による復習と確認</td> <td>単語テスト(6)の準備 単語学習範囲：No. 1301-1320</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>まとめの講義/中間テスト</td> <td>前半期(1回～6回)既習内容の理解度を はかるテスト</td> <td>テスト範囲の復習・テストの準備</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 9 単語テスト(7)</td> <td>Identifying exact vs. approximate numbers 確認テスト</td> <td>単語テスト(7)の準備 単語学習範囲：No. 1321-1340</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 9 単語テスト(8)</td> <td>Paraphrasing sentences 確認テスト</td> <td>単語テスト(8)の準備 単語学習範囲：No. 1341-1380</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 10 単語テスト(9)</td> <td>Identifying homonyms 確認テスト</td> <td>単語テスト(9)の準備 単語学習範囲：No. 1381-1420</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 10 単語テスト(10)</td> <td>Creating an outline summary 確認テスト</td> <td>単語テスト(10)の準備 単語学習範囲：No. 1421-1460</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 11 単語テスト(11)</td> <td>Finding similarities and differences 確認テスト</td> <td>単語テスト(11)の準備 単語学習範囲：No. 1461-1500</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 11</td> <td>Using context to guess the meaning of words 確認テスト</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>後半期(9回～14回)既習内容の復習</td> <td>作業用紙による復習と確認</td> <td>定期試験に向けての準備</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	授業ガイダンス	Introduction	教科書を持参する	2	Unit 6 単語テスト(1)	Understanding pros and cons 確認テスト	単語テスト(1)の準備 単語学習範囲：No. 1201-1220	3	Unit 7 単語テスト(2)	Supporting ideas with examples 確認テスト	単語テスト(2)の準備 単語学習範囲：No. 1221-1240	4	Unit 7 単語テスト(3)	Using definitions to find meaning 確認テスト	単語テスト(3)の準備 単語学習範囲：No. 1241-1260	5	Unit 8 単語テスト(4)	Annotating text 確認テスト	単語テスト(4)の準備 単語学習範囲：No. 1261-1280	6	Unit 8 単語テスト(5)	Understanding pronoun reference 確認テスト	単語テスト(5)の準備 単語学習範囲：No. 1281-1300	7	前半期(1回～6回)既習内容の復習 単語テスト(6)	作業用紙による復習と確認	単語テスト(6)の準備 単語学習範囲：No. 1301-1320	8	まとめの講義/中間テスト	前半期(1回～6回)既習内容の理解度を はかるテスト	テスト範囲の復習・テストの準備	9	Unit 9 単語テスト(7)	Identifying exact vs. approximate numbers 確認テスト	単語テスト(7)の準備 単語学習範囲：No. 1321-1340	10	Unit 9 単語テスト(8)	Paraphrasing sentences 確認テスト	単語テスト(8)の準備 単語学習範囲：No. 1341-1380	11	Unit 10 単語テスト(9)	Identifying homonyms 確認テスト	単語テスト(9)の準備 単語学習範囲：No. 1381-1420	12	Unit 10 単語テスト(10)	Creating an outline summary 確認テスト	単語テスト(10)の準備 単語学習範囲：No. 1421-1460	13	Unit 11 単語テスト(11)	Finding similarities and differences 確認テスト	単語テスト(11)の準備 単語学習範囲：No. 1461-1500	14	Unit 11	Using context to guess the meaning of words 確認テスト	なし	15	後半期(9回～14回)既習内容の復習	作業用紙による復習と確認	定期試験に向けての準備
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業ガイダンス	Introduction	教科書を持参する																																																																
2	Unit 6 単語テスト(1)	Understanding pros and cons 確認テスト	単語テスト(1)の準備 単語学習範囲：No. 1201-1220																																																																
3	Unit 7 単語テスト(2)	Supporting ideas with examples 確認テスト	単語テスト(2)の準備 単語学習範囲：No. 1221-1240																																																																
4	Unit 7 単語テスト(3)	Using definitions to find meaning 確認テスト	単語テスト(3)の準備 単語学習範囲：No. 1241-1260																																																																
5	Unit 8 単語テスト(4)	Annotating text 確認テスト	単語テスト(4)の準備 単語学習範囲：No. 1261-1280																																																																
6	Unit 8 単語テスト(5)	Understanding pronoun reference 確認テスト	単語テスト(5)の準備 単語学習範囲：No. 1281-1300																																																																
7	前半期(1回～6回)既習内容の復習 単語テスト(6)	作業用紙による復習と確認	単語テスト(6)の準備 単語学習範囲：No. 1301-1320																																																																
8	まとめの講義/中間テスト	前半期(1回～6回)既習内容の理解度を はかるテスト	テスト範囲の復習・テストの準備																																																																
9	Unit 9 単語テスト(7)	Identifying exact vs. approximate numbers 確認テスト	単語テスト(7)の準備 単語学習範囲：No. 1321-1340																																																																
10	Unit 9 単語テスト(8)	Paraphrasing sentences 確認テスト	単語テスト(8)の準備 単語学習範囲：No. 1341-1380																																																																
11	Unit 10 単語テスト(9)	Identifying homonyms 確認テスト	単語テスト(9)の準備 単語学習範囲：No. 1381-1420																																																																
12	Unit 10 単語テスト(10)	Creating an outline summary 確認テスト	単語テスト(10)の準備 単語学習範囲：No. 1421-1460																																																																
13	Unit 11 単語テスト(11)	Finding similarities and differences 確認テスト	単語テスト(11)の準備 単語学習範囲：No. 1461-1500																																																																
14	Unit 11	Using context to guess the meaning of words 確認テスト	なし																																																																
15	後半期(9回～14回)既習内容の復習	作業用紙による復習と確認	定期試験に向けての準備																																																																
関連科目	英語全般																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>reading explorer 1</td> <td>N. Douglas 他</td> <td>センゲージラーニング</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>the 1500 core vocabulary for the toeic test</td> <td></td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	reading explorer 1	N. Douglas 他	センゲージラーニング	2	the 1500 core vocabulary for the toeic test		成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	reading explorer 1	N. Douglas 他	センゲージラーニング																																																																
2	the 1500 core vocabulary for the toeic test		成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	統一単語テスト 20% e-learning 学習の進捗度 20% 授業活動への参加、提出物 20% テスト(2回) 40%																																																																		
学生へのメッセージ	地道に努力すれば必ず英語が使えるようになります。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤控え室																																																																		
備考	辞書必携 事前事後学習は、毎回2時間を目安にしましょう。																																																																		

科目名	実践英語上級	科目名 (英文)	Practical English for the Advanced
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平尾 秀実

授業概要・目的	英語の発音・リズム・イントネーション等を重点的に学び、実践的な英語力を身につける。
到達目標	・TOEIC500点以上 R科の学習・教育目標との対応：[A]
授業方法と留意点	・英語の正しい発話方法を身につけるために、繰り返し音読練習を反復する ・毎回、e-learningの課題、及び宿題が出される ・毎週単語本から小テストを実施する
科目学習の効果 (資格)	TOEICテスト、TOEIC Bridge テスト、TOEFL テスト、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の内容、方法、評価基準、課題について説明	予習・課題、単語帳1201-1230
2	Unit 1 音の脱落、名詞・代名詞	小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1231-1260
3	Unit 2 音の変化 (1)、形容詞と冠詞	内容語と機能語について 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1261-1290
4	Unit 3 音の変化 (2)、副詞	小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1291-1320
5	Unit 4 音の変化 (3) 比較	小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1321-1350
6	Unit 5 音の変化 (4)、動詞と時制	小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1351-1380
7	Unit 6 数字に慣れよう 未来表現	小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1381-1410
8	Unit 7 カタカナ英語、時制の一致	小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1411-1440
9	Unit 8 科学技術英語に慣れよう、能動態と受動態	小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1441-1470
10	Unit 9 話の流れに注意を向けよう、不定詞と動名詞	小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1471-1500
11	Unit 10 宣伝と人事、分詞	小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題
12	Unit 11 電話とメッセージ、助動詞	小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題
13	Unit 12 銀行業務と財務、接続詞	小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題
14	Unit 13 オフィス業務、関係詞	小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題
15	Unit 14 住宅地不動産、前置詞	小テスト、音読、リスニングなどを行う	試験勉強

関連科目	、実践英語初級
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Essential Approach for the TOIC Test	山本厚子	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	e-learning 学習の進捗度 20%、定期試験 40%、課題テスト 20%、小テスト 10%、レポート 10%
-----------	--

学生へのメッセージ	語学力を向上させるには、毎日の学習が不可欠です。コツコツと忍耐強く学習しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	<p>事前学習では、教科書に付属の音声ファイルを2回以上聞くこと。また、音声ファイルで聞いた単語で意味がわからないものがあれば必ず調べる。さらに、音声ファイルに録音されている文章の内容についてノートにメモを取っておくこと。また、音声ファイルを聞いて教科書の設問にも解答すること。このようにして、教科書の内容の事前学習は毎回1時間かけること。</p> <p>単語帳に載っている単語は1回の授業で30個テストするので、単語テストの勉強にも毎回1時間以上かけること。 単語の覚え方は、自分で単語を書いたり声に出したりしてもよいが、e-learning (リングポルタ) も使用すること。</p> <p>さらに、中間テストや定期試験の準備の際に、教科書やノートやプリントを何度も見ておく必要があるため、中間テストの準備には10時間以上、定期試験の準備には15時間以上かけること。</p> <p>教科書やプリントに載っている問題に答える課題を提出してもらいます。課題提出には、授業が済んでから、授業時間とは別に必ず自宅や図書館で学習を行って、1回あたり1時間かけること。授業中にこれらの問題に答えたために課題を提出するのが早すぎる場合、授業を聞いていないものとみなし、課題提出を受理しない。</p>
----	--

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム

授業概要・目的 基礎英会話の習得を目標とする。テキストは日常的に使っている英文を扱っており、しっかり学習すれば、リスニング、スピーキングの力も確実に向上する。会話の習得を目的とする授業であるから、学生が中心になり、学生によって進められていくべきであることは言うまでもない。

到達目標 R科の学習・教育目標との対応：[A]

授業方法と留意点 学生主導の授業である。ペアワークなど、躊躇することなく積極的に参加すること。

科目学習の効果 (資格) 英語を使つてのコミュニケーション能力が付き、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Class Introduction		Class Introduction
2	Personal Information	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
3	挨拶、自己紹介等の会話	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
4	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
5	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
6	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1 and 2 Test
7	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
8	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
9	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
10	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
11	旅行の会話	～はどこですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3 and 4 Test
12	旅行の会話	～はどこですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
13	買い物の会話	～はいくらですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
14	買い物の会話	～はいくらですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6
15	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6

関連科目 他の英語のクラスすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English In Common 1		Pearson
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 平常点 (毎週のクイズ 40%、発表 30%、課題提出 30%) にて評価する。

学生へのメッセージ 積極的な参加が最も大切である。

担当者の研究室等 7号館 2階 (非常勤講師室)

備考 事前・事後学習課題については 1日 90分程度行うこと。

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉浦 秀行

授業概要・目的 身近な内容について、ペアワークやグループ・ディスカッション等の活動を通じて、英語を使う力を伸ばすことを目指します。また、特定のテーマで個人プロジェクトを企画し、最終的にプレゼンテーションをしてもらいます。

到達目標 学習・教育到達目標との対応：B

授業方法と留意点
 ・ペアワークやグループ・ディスカッションが授業の中心となります。
 ・グループ・ディスカッションでは、単に話すだけでなく、交替でディスカッションをリードする役や、ディスカッションした内容をクラスに報告する役をしてもらいます。
 ・ペアワークやディスカッションのベースとなる読み物等の課題が毎回課せられます。

科目学習の効果 (資格)
 ・身近な内容について、英語で説明できるようになる

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1. Introduction : 私ってこんな人です	授業の内容について 個人プロジェクトについて 自己紹介	効果的な自己紹介の準備
2	Unit 1. Introduction : 私ってこんな人です	ペアワーク、グループ・ディスカッション	Unit 1 の復習 Unit 2 の comprehension questions、grammar exercise
3	Unit 2. Talking about hobbies : 山歩きは最高!	ペアワーク、グループ・ディスカッション	Unit 2 の復習 趣味と余暇の過ごし方についての説明の準備
4	Unit 2. Talking about hobbies : 山歩きは最高!	ペアワーク、グループ・ディスカッション	Unit 2 の復習 Unit 3 の comprehension questions、grammar exercise
5	Unit 3. Talking about people : 私の祖母は好奇心旺盛	表現クイズ 1 ペアワーク、グループ・ディスカッション	他者紹介の準備
6	Unit 3. Talking about people : 私の祖母は好奇心旺盛	ペアワーク、グループ・ディスカッション	Unit 3 の復習 Unit 4 の comprehension questions、grammar exercise 個人プロジェクトの要旨提出の準備
7	Unit 4. Talking about places : 鎌倉は小旅行が味わえる町	ペアワーク、グループディスカッション	好きな町または自分の生まれ育った町の紹介の準備
8	Unit 4. Talking about places : 鎌倉は小旅行が味わえる町	ペアワーク、グループディスカッション	Unit 4 の復習 Unit 5 の comprehension questions、grammar exercise
9	Unit 5. Telling stories : 私の宝物は、初めての親友からもらったぬいぐるみ	表現クイズ 2 ペアワーク、グループディスカッション	私の大切なものについての説明の準備
10	Unit 5. Telling stories : 私の宝物は、初めての親友からもらったぬいぐるみ	ペアワーク、グループディスカッション	Unit 5 の復習 個人プロジェクトの中間発表の準備
11	個人プロジェクトの中間発表	ペアワーク、グループディスカッション	Unit 6 の comprehension questions、grammar exercise プロジェクト発表のスライド、原稿等の提出の準備
12	Unit 6. Talking about health : 健康でいるために	ペアワーク、グループディスカッション	健康に関して興味のある問題について説明する準備 プロジェクト発表のスライド、原稿等の提出の準備
13	Unit 6. Talking about health : 健康でいるために	表現クイズ 3 ペアワーク、グループディスカッション	Unit 6 の復習 プロジェクト発表のスライド、原稿等の提出の準備
14	プロジェクト発表	個人プロジェクトの発表と質疑応答	発表の振り返り
15	プロジェクト発表	個人プロジェクトの発表と質疑応答	発表の振り返り

関連科目 英語基礎会話 a

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking in Public	Miyako Nakaya and John Pak	成美堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
 表現クイズ 1-3 : 20%
 授業参加度 : 20%
 個人プロジェクト要旨 : 10%
 個人プロジェクト提出物 : 20%
 個人プロジェクト発表 : 30%

学生へのメッセージ
 会話の授業ですので、文法にあまり拘らずに話すこと・表現することを楽しみましょう！

担当者の
 7号館 5階 杉浦研究室

研究室等	
備考	<ul style="list-style-type: none">・毎回の授業の予習・復習に1時間以上かけること・個人プロジェクトの準備でトータル8～10時間かけること

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	齋藤 安以子

授業概要・目的	この研修は、語学力 (英語力) の向上と研修地の歴史・文化およびそこで生活する人々に触れ、国際的な知識と理解を深め、広範囲な国の人々と協力し合える国際感覚を身につけることを目的とする。研修先での授業は、月曜日から金曜日に実施し、語学力別に分けたクラス内で行われる。宿泊はホームステイ形式である。費用は40万円前後を予定 (為替レートにより変動の可能性あり)。*詳細は、3月～4月の募集ガイダンスで周知する。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研修先の歴史や文化を前もって調査することで、現地での研修を深められるようになる。 ・一緒に研修に行く他の学生と交流し、協力して研修を成功させる。 <p>V科の学習・教育目標との対応：C R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：C M科の学習・教育到達目標との対応：B E科の学習・教育到達目標との対応：F C科の学習・教育到達目標との対応：Ⅲ, VI</p>																
授業方法と留意点	<p>3月上旬～4月下旬 募集ガイダンス (日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する)、事前学習としては事前のガイダンス出席が義務付けられている。また、事後には成果報告およびレポート提出を要請されている。</p> <p>5月 申込書の提出</p> <p>5月下旬 派遣学生の決定および履修申請</p> <p>6月～8月 事前ガイダンスを実施 (全3回)</p> <p>8月上旬 結団式</p> <p><研修スケジュール> [2週間コース] 8月中旬～8月下旬 (予定)</p> <p>[3週間コース] 8月中旬～9月上旬 (予定)</p> <p>9月下旬～10月上旬 (予定) 成果報告会</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>これまでに学んだ英語の知識を、実際に使うための練習を多角的に行う。</p> <p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外渡航に関する基本的なガイダンス ・英語多読・英会話など、学内の教材や設備のできる英語学習 (ガイダンス時に説明) ・インターネット上でもたくさんの学習サイトがあるので、渡航前に自分の中の英語の出力スピードや反応を活性化させておく。 <p>海外研修中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業はもちろん、授業外でも、講師やスタッフ、ホストファミリーなどに自分から英語で話してコミュニケーションをすすめる。 <p>事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同時期に開催される他の研修参加者と共に、成果報告会でのプレゼンテーションを行う。 ・レポート。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	事前学習・成果報告会のプレゼン・レポート (30%) 研修先での成績 (70%)																

学生へのメッセージ	ちがう学年、学部 of 学生と、切磋琢磨しながら成長できます。 海外研修は、自分の中のリーダーシップの芽生えが実感できるチャンスです。
担当者の研究室等	国際交流センター
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・参加学生は事前ガイダンスに必ず出席すること。欠席の場合は、事前に国際交流センターへ連絡をしてください。 ・事前に参加申込みをし、参加許可を得た者に限り履修できる。通常の履修申請とは方法が異なるので注意。 ・各学部の期末試験等のスケジュールを確認の上、履修を検討すること。学部・学年によっては、今年度は受講できない場合もあります。

科目名	日本の政治	科目名(英文)	Japanese Politics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃

授業概要・目的	この講義では、いまの政治・政策の大きな課題を取り上げ、テレビのニュース番組を関心を持って見られるようになることを目的とする。選挙で投票するにあたって、政治家や政党の訴えに対して自分の意見が持てるようになってほしいと考える。
到達目標	週1～2回でもテレビのニュース番組を見て、「この問題、いまそうなっているのか」と思えるよう、前提となる知識を身につける。そして、その問題について自分の意見を持てるようにする。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	ひとつの時事のテーマを講義2回で扱う。時事を扱うため、夏までの情勢を見たあとに授業計画を確定する。講義では、簡単なレジュメを配布し、ニュース映像や新聞記事を多用する。毎回、知識の確認や自分の意見を書く確認ペーパーを課す。受講者とのやりとりを心がける。
科目学習の効果(資格)	公務員試験では、技術職でも、教養試験で社会科学や政治の時事の知識が問われる。民間企業の採用試験でも、一般常識として、政治の仕組みの基礎や時事が問われる。職業社会人と会話をするうえで、政治や政策の話題についていく最低限の知識は不可欠である。この講義では、こういった知識や常識を身につける出発点を提供したい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	いまの政治・政策の大きな課題に目をとおしてみる。	講義で扱う時事について、学生とやりとりをしながら、いまの政治・政策の大きな課題の概要を確認する。	講義で勤めるニュース番組を通して見てみる。
2	日本の内閣はなぜ長続きしなかった？(1)	近年、内閣が約1年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となっていたのか自分の意見を整理して書く。
3	日本の内閣はなぜ長続きしなかった？(2)	近年、内閣が約1年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となっていたのか自分の意見を整理して書く。
4	安保法制、どう考える？(1)	2015年、議論が紛糾した安保法制に考えるにあたって、自衛隊の創設から冷戦以降の自衛隊の役割の拡大の歴史を説明し、国際政治の文脈を意識してもらう。	配布した新聞記事を読む。自衛隊の役割の拡大に関する自分の意見を整理して書く。
5	安保法制、どう考える？(2)	2015年、議論が紛糾した安保法制に考えるにあたって、自衛隊の創設から冷戦以降の自衛隊の役割の拡大の歴史を説明し、国際政治の文脈を意識してもらう。	配布した新聞記事を読む。自衛隊の役割の拡大に関する自分の意見を整理して書く。
6	消費税を上げるのに賛成？(1)	本年4月に8%に上り、10%への増税も予定されている消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く。
7	消費税を上げるのに賛成？(2)	本年4月に8%に上り、10%への増税も予定されている消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く。
8	尖閣諸島・竹島にこだわる？(1)	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く。
9	尖閣諸島・竹島にこだわる？(2)	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く。
10	日本はTPPに参加すべきかと思う？(1)	原則、関税を撤廃するTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPPと生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本がTPPに参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く。
11	日本はTPPに参加すべきかと思う？(2)	原則、関税を撤廃するTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPPと生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本がTPPに参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く。
12	いじめ、体罰、児童虐待はなぜ起こる？(1)	身近な日常で起きている肉体的・精神的暴力の問題を扱う。学校、部活、家庭で	配布した新聞記事を読む。いじめ、体罰、児童虐待にどう対応したらよいか、自分の意見を整理して書

			どのような暴力があるか、具体的な事件を取り上げ、現場での対応の問題を考慮してもらおう。	く。																
	13	いじめ、体罰、児童虐待はなぜ起こる？（2）	身近な日常で起きている肉体的・精神的暴力の問題を扱う。学校、部活、家庭でどのような暴力があるか、具体的な事件を取り上げ、現場での対応の問題を考慮してもらおう。	配布した新聞記事を読む。いじめ、体罰、児童虐待にどう対応したらよいか、自分の意見を整理して書く。																
	14	大阪都構想をどう見る？（1）	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く。																
	15	大阪都構想をどう見る？（2）	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く。																
関連科目	社会科学系科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 60%、講義毎回の確認ペーパー30%、受講態度（投げかける質問に対する発言など）10%で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	技術職に就く人にも、政治や政策の問題は避けられません。領土をめぐる中国や韓国との争いが厳しくなったり、国の借金が増え円高になり輸出に不利になったりすれば、よい技術に基づく製品も売れなくなります。加えて、教育は、家庭を持ち子どもを育てることになるすべての大人に共通の問題です。自分と家族を守るために、毎日の政治・政策のニュースに関心が持てるようになってほしいと考えて、講義をしていきます。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室																			
備考	自主学習には、期末試験の準備を含め合計20時間以上かけることを求める。																			

科目名	現代と地理学	科目名(英文)	Geography in Modern Age
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笠原 俊則

授業概要・目的	『環境』ということばはいろいろの分野でよく使われているが、地理学では最も重要な術語の一つである。そして近年人間活動にともなうこの環境に著しい変化が生じている。本講義では、最近の地理的環境問題の例をいくつか取り上げて説明し、受講生諸君が現代社会について考える一助にしてもらいたいと考えている。
到達目標	最終的には、受講者全員が現代の環境問題について興味を持ち、理解し、考え方を確立してくれることを期待している。これら3点をクリアできれば、この科目を受講した事が諸君の今後の人生に大いに役立つであろう。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	講義形式で行う。テキストに掲載されている図表だけでは不足するような場合、講義中に適宜プリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じ取ることができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	地理学とは？	・地理学の歴史 ・地理学の定義	指定テキストに目を通しておいて下さい。
	2	地理学と環境	人類による環境への働きかけの歴史(過去から現在まで)	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	3	生活の舞台としての地形－その1－	・扇状地の地形と土地利用 ・台地の発達と土地利用	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	4	生活の舞台としての地形－その2－	氾濫原における生活と土地利用	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	5	ため池の多面的機能	ため池の持つ多面的な機能とその活用	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	6	ダム建設とそれにともなう環境の変化	・ダム堆砂およびそれにともなう環境の変化	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	7	離島における地下ダムの建設	宮古島における地下ダムの建設	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	8	都市化にともなう水文環境の変化	・都市化にともなう流出および水質の変化 ・都市化地域における水害と下水道整備	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	9	都市気候について	・都市気候とは？ ・都市気候の具体例	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	10	広域中心都市仙台の発展	・広域中心都市とは ・仙台の発展状況 ・仙台における東日本大震災の影響	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	11	すみわけられた都市社会空間	・エスニックマイノリティ社会 ・インナーシティ問題	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	12	ニュータウンの高齢化	・日本におけるニュータウンの成立 ・千里ニュータウンの高齢化	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	13	日本の産業立地	工業地域構造の形成と変貌	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	14	都市商業の盛衰と多様化	・都市商業の発展と社会環境の変化 ・都市中心部の空洞化と都市商業の変化	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	15	伝統工業の地域構成	伝統工業の発展とその系譜	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。

関連科目 「環境関連科目」等

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 定期試験を実施する。さらに前期中頃に小テストも実施する。評価の割合は、定期試験60%、小テスト20%、授業参加点20%である。授業参加点については、時々実施する授業に関わる用語の事前調べ、授業参加チェックシートの記入などによって業参加状況をチェックして判断する。したがって、単なる出席点は付けないので、真剣に授業に取り組んで欲しい。

学生へのメッセージ 地理学には地図が付きものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいられるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば、講義中に持参して欲しい。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 授業前の用語の下調べが課された場合、1時間以上の時間を掛けた丁寧な報告を作成してくれることを期待している。なお、レポートを提出する際には出典も必ず明記すること。

科目名	法学入門	科目名(英文)	Jurisprudence
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大仲 淳介

授業概要・目的	授業概要：私たちの日常生活は多くの法律と関わります。この講義では、法学の基礎から始め、身近な具体的事例をとりあげ、民法、商法、会社法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法などの基礎を解説します。目的：日常生活から生じる法律問題を通して、法律学の基礎的な知識を修得してもらうこと。
到達目標	日常生活において必要、有益な法律の知識を得て、身近な法律問題を法的な立場から考えるようになることを目指します。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育到達目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。なお小テストは授業中に、適宜、行います。また小テストを行った回の授業を欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。
科目学習の効果(資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	法学の基礎 1	法とは何か。法の種類、法の優劣関係について説明します。	事前に教科書 236 頁から 240 頁と 243 頁から 244 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
2	法学の基礎 2	法律の条文の構造、法律の解釈について説明します。	事前に教科書 241 頁から 242 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
3	日常生活と契約 1	民法の特徴、契約の成立について説明します。	事前に教科書 1 頁から 8 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
4	日常生活と契約 2	意思表示と契約の主体について説明します。	事前に教科書 8 頁から 18 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
5	日常生活と契約 3	契約自由原則、契約の種類について説明します。	事前に教科書 18 頁から 24 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
6	日常生活と契約 4	不動産取引と民法について説明します。	教科書 24 頁から 30 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
7	日常生活とアクシデント	交通事故、欠陥商品による被害、医療事故について説明します。	事前に教科書 42 頁から 60 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
8	家族関係 1	結婚、離婚と民法について説明します。	事前に教科書 105 頁から 129 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
9	家族関係 2	親子、扶養と民法について説明します。	事前に教科書 129 頁から 145 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
10	家族関係 3	相続と民法について説明します。	事前に教科書 145 頁から 153 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
11	企業と法 1	商法・会社法を手がかりに企業とはどのようなものかについて説明します。	事前に教科書 154 頁から 166 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
12	企業と法 2	企業の所有と経営の分離と株式会社について説明します。	事前に教科書 167 頁から 202 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
13	紛争の解決 1	日常生活で生じる紛争と裁判制度について説明します。	事前に教科書 203 頁から 214 頁、245 頁から 246 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
14	紛争の解決 2	裁判のしくみ、裁判以外の紛争の解決(和解、調停、仲裁)について説明します。	事前に教科書 214 頁から 235 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。	
15	まとめ	授業全体のまとめ	第 1 回から第 14 回までの配布プリントの問題を確認して下さい。	

関連科目	日本国憲法
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法の世界へ(第6版)	池田真朗、犬伏由子、野川忍、大塚英明、長谷部由紀子	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(60%)と小テスト(40%)の割合で評価します。小テストは、適宜、授業中に行います。
----------	---

学生へのメッセージ	授業中に生じた疑問は必ず質問して下さい。
-----------	----------------------

担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
----------	--------------------------

備考	
----	--

科目名	日本国憲法	科目名(英文)	The Japanese Constitutional Law
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲 淳介

授業概要・目的	概要：日本国憲法の基本的な内容を理解できるように、授業テーマと関連する憲法上の問題をとりあげ、これと関わりのある基本事項、判例、学説を解説・検討します。目的：身近に生じる憲法上の問題を通して憲法の基本的な考え方を理解してもらうこと。
到達目標	憲法の基本的な知識を修得し、身近に生じる憲法上の問題を憲法の視点から考えるようになることを目指します。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育到達目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。小テストは授業中に、適宜、行います。なお小テストを実施した回に欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。
科目学習の効果(資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	日本国憲法とは1	憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。	事前に教科書 11 頁から 20 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	2	日本国憲法とは2	日本国憲法の基本原理、国民主権の原理、平和主義の原理(第9条)について説明します。	事前に教科書 19 頁、217 から 229 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	3	基本的人権の保障1	人権歴史、人権の分類、人権の限界について説明します。	事前に教科書 21 頁から 27 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	4	基本的人権の保障2	人権の享有主体、人権規定の私人間効力について説明します。	事前に教科書 27 頁から 48 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	5	基本的人権の保障3	幸福追求権と法の下での平等について説明します。	事前に教科書 49 頁から 70 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	6	基本的人権の保障4	信教の自由と政教分離について説明します。	事前に教科書 71 頁から 82 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	7	基本的人権の保障5	表現の自由の保障とその限界について説明します。	事前に教科書 83 頁から 94 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	8	基本的人権の保障6	表現活動の規制(検閲と事前抑制)について説明します。	事前に教科書 95 頁から 104 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	9	基本的人権の保障7	職業選択の自由とその規制を中心に経済的自由権について説明します。	事前に教科書 105 頁から 114 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	10	基本的人権の保障8	生存権を中心に社会権について説明します。	事前に教科書 115 頁から 134 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	11	基本的人権の保障9	刑罰、刑事手続と憲法について説明します。	事前に教科書 135 頁から 144 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	12	統治機構1	立法の委任を中心に国会と立法権について説明します。	事前に 161 頁から 172 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	13	統治機構2	議院内閣制、内閣の組織と権能について説明します。	事前に教科書 173 頁から 184 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	14	統治機構3	司法権、違憲立法審査権について説明します。	事前に教科書 185 頁から 206 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	15	統治機構4	地方自治の本旨、条例制定権、住民投票について説明します。	事前に教科書 207 頁から 216 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。

関連科目	法学入門
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての憲法学(第3版)	中村睦男、岩本一郎、大島佳代子、木下和朗、齊藤正彰、佐々木雅寿、寺島壽一	三省堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(60%)、小テスト(40%)の割合で評価します。小テストは、適宜、行います。
----------	---

学生へのメッセージ	授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。
-----------	---------------------

担当者の研究室等備考	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
------------	--------------------------

科目名	マクロ経済学入門	科目名(英文)	Introduction to Macroeconomics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 正純

教養科目

授業概要・目的	授業の目標は、理工学部の学生諸君にとっても、新聞の経済記事が少しは理解できるようにすることである。そのため、新聞によく登場するマクロ経済学およびミクロ経済学の基礎概念(基本用語)を、以下の授業計画にそってできるだけわかりやすく解説する。ただし、一般常識の範囲である。																																																																		
到達目標	(1) 現代経済の大きな流れが理解できるようになること。 (2) 新聞の経済面・社会面の記事が読めるようになること。 V科の学習・教育目標との対応:A R科の学習・教育目標との対応:A A科の学習・教育到達目標との対応:A M科の学習・教育到達目標との対応:A E科の学習・教育到達目標との対応:B C科の学習・教育到達目標との対応:II																																																																		
授業方法と留意点	主としてプリントと板書を用いて講義する。授業の最後に短文の感想を書いてもらう。それを読んで次回の授業のやり方を工夫する。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経済主体と経済循環</td> <td>経済主体(家計、企業、政府)。生産と支出(消費+投資)の経済循環。マクロ経済学とミクロ経済学との関係。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生産物市場 市場とは何か(1)</td> <td>需要・供給・価格決定論。財貨・サービスの市場。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>労働市場 その1 市場とは何か(2)</td> <td>労働需要と労働供給。賃金の決定と失業の発生。雇用慣行。就職。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>労働市場 その2 市場とは何か(2)続</td> <td>雇用形態の流動化。正規雇用と非正規雇用。労働者派遣法の変遷と雇用状況の変化。総額人件費抑制と「春闘」の形骸化。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>金融市場、株式市場 市場とは何か(3)</td> <td>直接金融と間接金融。自己資本と他人資本。株式会社とは何か。株価。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>金融緩和</td> <td>中央銀行の役割。低金利政策。量的緩和政策。日銀の「異次元の金融緩和」。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>国民所得と経済成長率</td> <td>フローとストックの違い。GNP(国民総生産)とGDP(国内総生産)の違い。経済成長率(GDP増加率)。好況・不況。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>円高・円安 為替レート</td> <td>ドルを基準に考える。円高と円安はどちらが得? 実効為替レート。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>国際収支</td> <td>輸出、輸入。経常収支(貿易収支、貿易外収支)、資本収支など。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>インフレ・デフレ</td> <td>物価上昇、物価下落。消費者物価指数、企業物価指数。賃金デフレ。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>デフレの罨</td> <td>グローバル化と株主資本主義。価格破壊と賃下げ。労働分配率の低下。経済格差と貧困。消費不況の長期化。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>貯蓄・投資バランス</td> <td>所得=消費+貯蓄、所得=消費+投資、ゆえに、貯蓄=投資。家計と企業と政府の動向。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>政府の役割(1)</td> <td>経済政策。有効需要政策。公共投資。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>政府の役割(2)</td> <td>国民負担率。大きな政府か小さな政府か。所得再分配機能。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>成長戦略は? まとめと復習</td> <td>市場でできることとできないこと。</td> <td>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	経済主体と経済循環	経済主体(家計、企業、政府)。生産と支出(消費+投資)の経済循環。マクロ経済学とミクロ経済学との関係。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	2	生産物市場 市場とは何か(1)	需要・供給・価格決定論。財貨・サービスの市場。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	3	労働市場 その1 市場とは何か(2)	労働需要と労働供給。賃金の決定と失業の発生。雇用慣行。就職。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	4	労働市場 その2 市場とは何か(2)続	雇用形態の流動化。正規雇用と非正規雇用。労働者派遣法の変遷と雇用状況の変化。総額人件費抑制と「春闘」の形骸化。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	5	金融市場、株式市場 市場とは何か(3)	直接金融と間接金融。自己資本と他人資本。株式会社とは何か。株価。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	6	金融緩和	中央銀行の役割。低金利政策。量的緩和政策。日銀の「異次元の金融緩和」。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	7	国民所得と経済成長率	フローとストックの違い。GNP(国民総生産)とGDP(国内総生産)の違い。経済成長率(GDP増加率)。好況・不況。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	8	円高・円安 為替レート	ドルを基準に考える。円高と円安はどちらが得? 実効為替レート。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	9	国際収支	輸出、輸入。経常収支(貿易収支、貿易外収支)、資本収支など。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	10	インフレ・デフレ	物価上昇、物価下落。消費者物価指数、企業物価指数。賃金デフレ。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	11	デフレの罨	グローバル化と株主資本主義。価格破壊と賃下げ。労働分配率の低下。経済格差と貧困。消費不況の長期化。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	12	貯蓄・投資バランス	所得=消費+貯蓄、所得=消費+投資、ゆえに、貯蓄=投資。家計と企業と政府の動向。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	13	政府の役割(1)	経済政策。有効需要政策。公共投資。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	14	政府の役割(2)	国民負担率。大きな政府か小さな政府か。所得再分配機能。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。	15	成長戦略は? まとめと復習	市場でできることとできないこと。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	経済主体と経済循環	経済主体(家計、企業、政府)。生産と支出(消費+投資)の経済循環。マクロ経済学とミクロ経済学との関係。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
2	生産物市場 市場とは何か(1)	需要・供給・価格決定論。財貨・サービスの市場。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
3	労働市場 その1 市場とは何か(2)	労働需要と労働供給。賃金の決定と失業の発生。雇用慣行。就職。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
4	労働市場 その2 市場とは何か(2)続	雇用形態の流動化。正規雇用と非正規雇用。労働者派遣法の変遷と雇用状況の変化。総額人件費抑制と「春闘」の形骸化。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
5	金融市場、株式市場 市場とは何か(3)	直接金融と間接金融。自己資本と他人資本。株式会社とは何か。株価。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
6	金融緩和	中央銀行の役割。低金利政策。量的緩和政策。日銀の「異次元の金融緩和」。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
7	国民所得と経済成長率	フローとストックの違い。GNP(国民総生産)とGDP(国内総生産)の違い。経済成長率(GDP増加率)。好況・不況。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
8	円高・円安 為替レート	ドルを基準に考える。円高と円安はどちらが得? 実効為替レート。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
9	国際収支	輸出、輸入。経常収支(貿易収支、貿易外収支)、資本収支など。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
10	インフレ・デフレ	物価上昇、物価下落。消費者物価指数、企業物価指数。賃金デフレ。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
11	デフレの罨	グローバル化と株主資本主義。価格破壊と賃下げ。労働分配率の低下。経済格差と貧困。消費不況の長期化。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
12	貯蓄・投資バランス	所得=消費+貯蓄、所得=消費+投資、ゆえに、貯蓄=投資。家計と企業と政府の動向。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
13	政府の役割(1)	経済政策。有効需要政策。公共投資。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
14	政府の役割(2)	国民負担率。大きな政府か小さな政府か。所得再分配機能。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
15	成長戦略は? まとめと復習	市場でできることとできないこと。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>日本の景気は賃金が決める</td> <td>吉本佳生</td> <td>講談社(現代新書)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「人間国家」への改革</td> <td>神野直彦</td> <td>NHK出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>アベノミクスの終焉</td> <td>服部茂幸</td> <td>岩波書店(新書)</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	日本の景気は賃金が決める	吉本佳生	講談社(現代新書)	2	「人間国家」への改革	神野直彦	NHK出版	3	アベノミクスの終焉	服部茂幸	岩波書店(新書)																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	日本の景気は賃金が決める	吉本佳生	講談社(現代新書)																																																																
2	「人間国家」への改革	神野直彦	NHK出版																																																																
3	アベノミクスの終焉	服部茂幸	岩波書店(新書)																																																																
評価方法(基準)	定期試験(筆記試験)60%、小テスト40%。無断欠席が4回以上ある場合は原則として成績評価をしない。																																																																		
学生へのメッセージ	政府はしきりにアベノミクスによって、経済が上向いていると言っているが、本当なの? そもそも、アベノミクスって斬新な経済政策なの? こんなことをちょっとだけ考えてみてほしい。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	マクロ経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Macroeconomics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	内田 勝巳

授業概要・目的	本授業は、経済学の知識がない学生が、マクロ経済学の基礎理論を身につけることを目的とする。入社試験・公務員試験・資格試験にも役立つように、講義中、演習問題を提示する。
到達目標	株式市場、外国為替、国民所得、デフレ・インフレ、生産物市場等、主要な経済用語を理解し、新聞の経済記事を読めるようになることを到達目標とする。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	授業は、基本的に、前回の課題の解説（復習）、授業テーマの解説、授業内容に対応する課題の提示の順序で進めていく。事前学習として授業テーマに該当する箇所を読んでおくこと。
科目学習の効果（資格）	マクロ経済学の基礎概念を学び、新聞記事の経済基礎用語を理解できるようになる。入社試験・公務員試験・資格試験に役立つ知識が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	マクロ経済学とはどのような学問かについて解説する。	教科書の事前学習 (p. 12-p. 23) 授業後、課題の提出
	2	GDPの定義	付加価値、三面等価の原則、名目値と実質値 (GDP デフレーター) について解説する。	教科書の事前学習 P. 26-p. 46) 授業後、課題の提出
	3	財市場 (I)	ケインズの消費と投資の決定理論について解説する。	教科書の事前学習 (p. 48-p. 62) 授業後、課題の提出
	4	財市場 (II)	政府支出と輸出入について解説する。	教科書の事前学習 (p. 62-p. 73) 授業後、課題の提出
	5	財市場 (III)	国民所得の決定と乗数理論について解説する。	教科書の事前学習 (p. 76-p. 92) 授業後、課題の提出
	6	財市場 (IV)	新しい消費と投資の理論について解説する。	教科書の事前学習 (p. 218-p.233) 授業後、課題の提出
	7	貨幣市場 (I)	貨幣の役割、株式市場における株価について解説する。	教科書の事前学習 (p. 94-p. 109) 授業後、課題の提出
	8	貨幣市場 (II)	流動性選好理論 (利率の決定) と中央銀行の役割について解説する。	教科書の事前学習 (p. 109-p. 116) 授業後、課題の提出
	9	所得と利率の同時決定 (I)	IS-LM 分析と経済政策の有効性について解説する。	教科書の事前学習 (p. 118-p. 140) 授業後、課題の提出
	10	所得と利率の同時決定 (II)	外国為替レートとマンデル・フレミング・モデルについて解説する。	教科書の事前学習 (p. 140-p. 156) 授業後、課題の提出
	11	労働市場 (I)	所得と物価水準の決定について解説する。	教科書の事前学習 (p. 158-p. 179) 授業後、課題の提出
	12	労働市場 (II)	財政金融政策の効果について解説する。	教科書の事前学習 (p. 179-p. 188) 授業後、課題の提出
	13	インフレとデフレ (I)	フィリップス曲線について解説する。	教科書の事前学習 (p. 190-p. 206) 授業後、課題の提出
	14	インフレとデフレ (II)	物価の変動を考慮した分析とデフレ・インフレの発生要因を解説する。	教科書の事前学習 (p. 206-p. 216) 授業後、課題の提出
	15	経済成長	経済成長理論について解説する。	授業後、課題の提出

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マクロ経済学経路入門 (第2版)	中谷 巖	日経文庫
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	演習式マクロ経済学入門 (補訂版)	福田慎一・照山博司	有斐閣
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業後の課題の提出 30%、定期試験 70%の割合で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	理工学部の学生にとって、マクロ経済学で使用するグラフの読み方は決して難しいものではないと思います。本授業を通じて、一般教養としてのマクロ経済学の基礎知識を習得しましょう。
担当者の研究室等	1号館7階 内田勝巳教授室 (経済学部)
備考	事前学習・事後学習各1時間程度

科目名	企業経営	科目名(英文)	Corporate Management / Business Management
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北尾 隆夫

授業概要・目的	<p>大学での学業を終えられた学生諸氏は、社会人として必ず企業との関わりを持たれます。就職する会社や、自らが経営する会社が、何を目指し、何に悩み、何に生き甲斐を求めているのかを、事例を通じ理解を深めて戴きます。ステークホルダーとの関わりの中で、企業が果たすべき役割を考えると共に、企業経営者に求められる素養や判断すべき内容、企業組織の在り方、更にはCSRで代表される企業の社会的責任に言及します。</p> <p>産業資本主義と金融資本主義との狭間で揺れ動く企業経営の実態と今後の企業経営の展望を一緒に考える授業です。</p>
到達目標	<p>以下の観点から、企業経営やビジネスクリエイト(起業)の理解を深めます。</p> <p>①会社形態、組織形態とその運営への理解 ②ビジネスの目的と意義への理解 ③アントレプレナーの目的や意義の理解 ④起業の方法や留意事項への理解 ⑤株式会社が生み出す経済活動と社会的責任への理解</p> <p>V科の学習・教育目標との対応:A R科の学習・教育目標との対応:A A科の学習・教育到達目標との対応:A M科の学習・教育到達目標との対応:A E科の学習・教育到達目標との対応:B C科の学習・教育到達目標との対応:II</p>
授業方法と留意点	<p>教師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的な参画方式の授業のため、レポートや発表を多く取り入れたものにします。授業全体を通じ、その時々々の社会情勢を中心に、プリントやパワーポイントにより新しい動向を紹介し、全員で考えながら授業を進めます。</p> <p>教科書は特に設定せず、配布プリントとPower Pointによるプレゼンテーションで授業を進めます。また、授業の参考になる書籍、ビジネス雑誌、更にはインターネットや新聞情報を紹介し、授業の一助に供します。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>企業経営の観点だけでなく、企業での就業の意味や目的を、更には自らの起業や経営の在り方について、経営的観点から理解を深めていただく効果を期待します。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに 一企業のはじめの歴史の意味	・講師自己紹介、授業ガイダンス ・企業(株式会社)の発祥の歴史の経緯や社会的意味、意義を解説します。	シラバスをよく読んでください。
2	「法人」の定義と「起業」の意義・目的	企業や団体が「法人」と定義される意味と、その形態を分類整理します。また、企業が事業目的を遂行するために必要とする業務内容とその相互の関連性について解説すると共に、事業を起こすこと(起業)の目的や意義を、企業業務に関連づけて説明します。	法人という定義を事前に調べてください。	
3	企業の経済活動	企業は、消費財の提供に伴う経済活動だけでなく、資本や資金の調達、利益の配分などの複雑な経済活動を行っています。その経済活動の種類や目的について解説します。	株式などの有価証券の意味を事前に学習してください。	
4	企業とステークホルダーの関係とその活動	企業は消費財を提供することによる消費者との関係だけでなく、種々の社会構造や社会機能との関わりを持っています。企業の社会との関わりについて解説し、身近な事象についての討議を行います。	ステークホルダーの意味を調べておいてください。	
5	企業の活動目標と組織運営	企業は、その活動目標を達成するために組織を形成し、役割分担や責任体制を明確化しています。企業における組織の在り方と目標設定の意義について解説します。	企業が持つべき業務機能について考えておいてください。	
6	分業の意義と問題点	目的を共有する複数の人が集まり、組織を形成することにより発生する分業について解説し、分業が持つ効果と問題点を整理します。また、ディスカッションにより、具体的な認識を高めていただきます。	分業という言葉の定義を調べておいてください。	
7	経済情勢と企業経営の方向性 =新たなビジネスの摸索=	リーマンショック、東日本大震災、原発事故以降の世界的経済情勢の変化に触れ、「モノづくり」中心の日本産業の直面する課題を整理し、その打開策を学生諸氏と共に考え、これからの企業の在り方の摸索や起業分野を考える一助に供します。	2008年に発生した世界的な経済問題であるリーマンショックについて、その概要を調べておいてください。	
8	情報化社会の意味と我々の生活	あらゆる局面で「情報化社会」という言葉が使われているが、その定義と我々の生活に与える変化、また我々が対応すべき事柄などを解説します。	情報化社会に関連する新聞記事やインターネット情報を事前に調べ、持参してください。	
9	企業戦略とそのアプローチ方法 I	企業は自らの目的を達成するために、事前に調査、分析、戦略立案を行います。その経営戦略の枠組みと、経営資源とは何かを論理的に解説します。	どのような企業でも、持っている目的とは何かを事前に考えておいてください。	
10	企業戦略とそのアプローチ方法 II	企業は自らの目的を達成するため行う事前の調査、分析、戦略立案のアプローチ	松下幸之助の経営哲学に関する情報を事前に学習してください。	

			チ方法を整理し、それぞれの適用ケースを解説します。また、経営者が持つべき戦略的思考についても併せて解説します。																	
	11	企業活動における情報活用の目的	企業経営においては、物理的な資源以外に「情報」というものの経営資源としての価値が取り上げられ、その活用方法が企業戦略の命運を左右すると言われています。その理由や背景を判り易く解説します。	企業経営が必要とする「情報」を事前に考えてみてください。																
	12	経営意思決定とそのアプローチ ＝「起業趣旨」と「起業手続き」を踏まえて＝	経営意思決定は、経営者の独断に依存するのではなく、戦略要因の定量的分析と取捨選択の的確性により支えられます。「起業の趣旨」を軸に据えた意思決定アプローチについて、「起業の手続き」を交えて、具体的に解説します。	経営意思決定の成功例を事前に調査してください。																
	13	C S R ー企業の社会的責任ー I	企業は、消費財の供給だけでなく、企業活動が及ぼす社会的影響が問題視されています。企業が活動を行う上で、考慮しなければならない側面を解説すると同時に、皆さんの考えを整理して戴きます。	環境問題などの事例を調査してください。																
	14	C S R ー企業の社会的責任ー II	企業の社会的責任の中でも、経営資源としても挙げられる「情報」の取り扱いを、情報セキュリティの観点から解説します。企業だけでなく、我々に日常生活に於ける情報漏洩などの問題点も併せて説明します。	情報漏洩事件などのニュースを事前に調べておいてください。																
	15	授業全体のまとめ	「企業経営」の講義についてのまとめと感想。授業の要点と重要なポイントをレビューし、質問等にお答えします。	「企業経営」の講義の全体を復習しておいてください。質問等を事前に準備しておいてください。																
関連科目	経営、経済、組織、社会学などに関連する授業などが、本授業の参考になり、理解を深めて戴く一助になります。また、火曜日および金曜日4時限に、同名称の科目がありますが、同一科目ではありません。受講、レポート提出、学期末定期試験は独立して管理しますので、両講義の併用は禁止します。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教科書は特に設定しません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教科書は特に設定しません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	教科書は特に設定しません。																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<p>全体評価は、受講姿勢評価（35%）と学期末試験結果評価（65%）により行います。</p> <p>(1) 受講姿勢評価 通常言う平常評価として採点します。評価ポイントは、 ①課題レポートの提出（内容不備の場合には再提出を求める場合もあります） ②小テストおよび豆テストの実施（授業理解度確認） ③授業ごとの感想レポート（真面目な感想、積極的質問、建設的意見を重視）により行います。</p> <p>(2) 学期末試験評価 設問内容は、文章力向上、自己表現力向上の目的も兼ねて論述中心の試験を実施し評価します。解答は、完結明瞭性を求めます。 レポート課題および学期末試験の設問は、到達目標に纏わる内容とし、その結果で達成評価を行います。</p>																			
学生への メッセージ	<p>変化が激しい社会にあって、就職ということだけに目標を置くのではなく、経済活動の中でのビジネスクリエートの重要性を理解いただきたいと 思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回出席をとります〔連絡カード配付〕。遅刻をしないようにしてください。 ・座席は前から詰めて着席してください〔座席は指定しません〕。 ・授業中の私語は謹んでください〔真面目な受講者の弊害となる場合は退場戴く場合もあります〕。 ・授業中、不明な点は放置せず、積極的に質問してください。 																			
担当者の 研究室等	11号館6階 経営学部事務室、講師控え室																			
備考	<p><受講姿勢評価に関する補足事項> 講義全体は、毎回の講義（授業）の積み重ねで成立するものです。講義全体を通じ、その内容を体系的に理解していただくことが主たる目的です。その様な講義主旨から、事前事後学習に最低でも都度1時間以上の時間をかけて戴きたいと 思います。また、都度の講義内容での不明点は放置せず、授業中の随時の質問、連絡カードでの質問などでの積極受講の姿勢を尊重します。 課題レポートについても、義務的レポーティングにならない様、自主的調査、自己考察の明記のために数時間以上を かけ、明瞭かつ丁寧な記述を重要視します。</p>																			

科目名	社会の仕組み	科目名 (英文)	Structure of Society
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金 政芸

授業概要・目的	本講義の目標は、私たちの生きる社会の仕組みを理解することである。社会の仕組みを知ることで、自分の行動や自分の経験するさまざまな出来事の原因が何を理解することができる。本講義では、まず社会の仕組みを理解するための学問である社会学の概要と、家族、地域、国家、国際社会の構造とそれぞれの社会のかかえる諸問題について紹介する。																																																																		
到達目標	社会の仕組みを理解し説明できる。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II																																																																		
授業方法と留意点	基本的には講義形式の授業がおこなわれる。講義では、理解を深めるために具体的な研究を紹介していく。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	日々の個人的な経験を、社会の構造やその変化から把握する能力を身につけることができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義を始めるにあたって</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の流れについて理解する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会学とは何かⅠ</td> <td>社会学の定義と歴史について。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>社会学とは何かⅡ</td> <td>社会学の古典的研究の紹介。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>他者と自己</td> <td>他者との関係のなかで形成される自己意識について。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>集団と個人</td> <td>単なる個人の集合体を越えた存在としての社会集団の特徴について。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>家族の社会学Ⅰ</td> <td>近代的家族の出現とその変容について。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>家族の社会学Ⅱ</td> <td>現代の家族のかかえるさまざまな問題について。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>地域の社会学Ⅰ</td> <td>現代都市の特徴について。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>地域の社会学Ⅱ</td> <td>現代の都市のかかえるさまざまな問題について。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ネーションとエスニシティⅠ</td> <td>ネーションの概念整理と、その実在にかかわる諸議論について。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ネーションとエスニシティⅡ</td> <td>移民とエスニック・マイノリティ、ナショナリズムについて。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>グローバリゼーション</td> <td>グローバリゼーションとは何か。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>階層と格差Ⅰ</td> <td>階級と階層、そこに存在する格差という問題について。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>階層と格差Ⅱ</td> <td>格差はどのように再生産されるのか。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>講義を終えるにあたって</td> <td>総括</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	講義を始めるにあたって	オリエンテーション	授業の流れについて理解する。	2	社会学とは何かⅠ	社会学の定義と歴史について。	レジュメを読んで復習する。	3	社会学とは何かⅡ	社会学の古典的研究の紹介。	レジュメを読んで復習する。	4	他者と自己	他者との関係のなかで形成される自己意識について。	レジュメを読んで復習する。	5	集団と個人	単なる個人の集合体を越えた存在としての社会集団の特徴について。	レジュメを読んで復習する。	6	家族の社会学Ⅰ	近代的家族の出現とその変容について。	レジュメを読んで復習する。	7	家族の社会学Ⅱ	現代の家族のかかえるさまざまな問題について。	レジュメを読んで復習する。	8	地域の社会学Ⅰ	現代都市の特徴について。	レジュメを読んで復習する。	9	地域の社会学Ⅱ	現代の都市のかかえるさまざまな問題について。	レジュメを読んで復習する。	10	ネーションとエスニシティⅠ	ネーションの概念整理と、その実在にかかわる諸議論について。	レジュメを読んで復習する。	11	ネーションとエスニシティⅡ	移民とエスニック・マイノリティ、ナショナリズムについて。	レジュメを読んで復習する。	12	グローバリゼーション	グローバリゼーションとは何か。	レジュメを読んで復習する。	13	階層と格差Ⅰ	階級と階層、そこに存在する格差という問題について。	レジュメを読んで復習する。	14	階層と格差Ⅱ	格差はどのように再生産されるのか。	レジュメを読んで復習する。	15	講義を終えるにあたって	総括	レジュメを読んで復習する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	講義を始めるにあたって	オリエンテーション	授業の流れについて理解する。																																																																
2	社会学とは何かⅠ	社会学の定義と歴史について。	レジュメを読んで復習する。																																																																
3	社会学とは何かⅡ	社会学の古典的研究の紹介。	レジュメを読んで復習する。																																																																
4	他者と自己	他者との関係のなかで形成される自己意識について。	レジュメを読んで復習する。																																																																
5	集団と個人	単なる個人の集合体を越えた存在としての社会集団の特徴について。	レジュメを読んで復習する。																																																																
6	家族の社会学Ⅰ	近代的家族の出現とその変容について。	レジュメを読んで復習する。																																																																
7	家族の社会学Ⅱ	現代の家族のかかえるさまざまな問題について。	レジュメを読んで復習する。																																																																
8	地域の社会学Ⅰ	現代都市の特徴について。	レジュメを読んで復習する。																																																																
9	地域の社会学Ⅱ	現代の都市のかかえるさまざまな問題について。	レジュメを読んで復習する。																																																																
10	ネーションとエスニシティⅠ	ネーションの概念整理と、その実在にかかわる諸議論について。	レジュメを読んで復習する。																																																																
11	ネーションとエスニシティⅡ	移民とエスニック・マイノリティ、ナショナリズムについて。	レジュメを読んで復習する。																																																																
12	グローバリゼーション	グローバリゼーションとは何か。	レジュメを読んで復習する。																																																																
13	階層と格差Ⅰ	階級と階層、そこに存在する格差という問題について。	レジュメを読んで復習する。																																																																
14	階層と格差Ⅱ	格差はどのように再生産されるのか。	レジュメを読んで復習する。																																																																
15	講義を終えるにあたって	総括	レジュメを読んで復習する。																																																																
関連科目	.																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業態度 20%、中間レポートおよび期末試験 80%																																																																		
学生へのメッセージ	馴染みのない理論や概念がたくさん出てきますが、講義に集中すれば十分に理解できると思います。紹介された理論を身近な経験に適用していけばより理解が深まるでしょう。																																																																		
担当者の研究室等	.																																																																		
備考	自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計 15 時間はかけること																																																																		

科目名	社会の仕組み	科目名 (英文)	Structure of Society
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 裕久

授業概要・目的	<p>この「社会の仕組み」の授業では、「社会学」や「文化人類学」を学問的基礎と位置づけ、それらの多種多様な枠組みや論題の中から、身近なトピックを選び出し、課題として検討する。上述の学問は「社会科学」の一部を成すが、主専攻が理科系学問分野である受講生のために、受講生の専攻に傾斜させた「理系的な視点」から社会の仕組みを講じる。理工学部の受講生にもわかりやすい授業を行いたい。</p> <p>授業の具体的な内容は授業テーマや全体の計画を参照いただきたいが、社会や文化における諸事象を各回のトピックとして取り上げ、講義をすすめてゆく。授業は1回から3回程度で完結するオムニバス形式で行う。これらの諸課題の学習(受講とその後の復習など)を通じて、諸項目の社会的かつ文化的な意味づけを理解させながら、社会全体へとつながる豊かな視点も養成できればと考えている。</p>																																																																		
到達目標	<p>この科目の履修によって、授業テーマに挙げた課題に関して、社会学や文化人類学的認識として、適宜、客観的な説明が行えるようになる。このことは大学生としての教養の養成のみならず、社会人としての素養を身につけることがらに直結している。定期試験により評価を行い、到達度を点数化して表す。</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>講義形式が中心。授業内容に即した映像を副次的に教材として利用することがある。積極的にノートをとることが肝要。授業中の私語と携帯電話の使用は厳禁である。自筆ノートが毎回2ページほどずつ蓄積されるが、例年はそのノートを持ち込んで定期試験を行っている。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>工学諸分野と協同すべき社会や文化の諸課題をめぐり、枠組みや考え方に則して問題を理解し、その解決方法を具体的に検討することができる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション・授業の進め方・「コモنزの悲劇」を考える(1)</td> <td>座学としての受講の仕方・授業の進め方、ならびに「コモنزの悲劇」の事例を検討し、社会への認識を深める。</td> <td>(事前・事後学習課題の総論的な課題については備考欄を参照のこと)「コモنزの悲劇」の条件について説明できること。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「コモنزの悲劇」を考える(2)</td> <td>「コモنزの悲劇」の内容を検討し、その考え方の応用に触れる。</td> <td>「コモنزの悲劇」を実例として説明できること。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文化と社会</td> <td>文化や社会の概念について検討する。</td> <td>文化や社会の概念について説明できること。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>人種と民族</td> <td>人種と民族の概念について検討する。</td> <td>人種と民族の概念について説明できること。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>難民をめぐる事象</td> <td>難民の定義とその今日的な意味について検討する。</td> <td>難民について一定の認識を持つこと。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>国民国家とは何か?</td> <td>国民国家の概念やナショナリズムについて検討する。</td> <td>国民国家やナショナリズムについて説明ができること。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>文化交流の重要性</td> <td>文化交流について検討する。</td> <td>文化交流の意味について、一定の説明をすることができること。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>家族・親族とは何か(1)</td> <td>日頃意識しない家族や親族の具体例について検討する。</td> <td>家族や親族のありさまについて、具体的に説明ができること。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>家族・親族とは何か(2)</td> <td>親族的結合の事例について検討する。</td> <td>親族の認識を深め、それをめぐる事象について、説明ができること。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>病者・障がい者とは誰か(1)</td> <td>病者をめぐって、概念やその社会問題について検討する。</td> <td>病者をめぐる事象について、一定の説明ができる。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>病者・障がい者とは誰か(2)</td> <td>障がい者をめぐる社会問題について検討する。</td> <td>病者・障がい者と健全者との間の積極的な関与について意見を提示することができる。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>地球環境問題の考察(1)</td> <td>地球環境問題の具体例を検討する(第1回目)。</td> <td>地球環境問題の考え方の基礎を学び、一定の認識を持てること。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>地球環境問題の考察(2)</td> <td>地球環境問題の具体例を検討する(第2回目)。</td> <td>地球環境問題の具体例に関して、意見や一定の回答を提示できること。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>地球環境問題の考察(3)</td> <td>地球環境問題の具体例を検討する(第3回目)。</td> <td>地球環境問題の具体例に関して、意見や一定の回答を呈示できること。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>科学(技術)と社会</td> <td>科学(技術)の発達とその展開について検討する。</td> <td>科学(技術)の発達について意見を提示でき、それによる発明品について一定の解釈ができること。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション・授業の進め方・「コモنزの悲劇」を考える(1)	座学としての受講の仕方・授業の進め方、ならびに「コモنزの悲劇」の事例を検討し、社会への認識を深める。	(事前・事後学習課題の総論的な課題については備考欄を参照のこと)「コモنزの悲劇」の条件について説明できること。	2	「コモنزの悲劇」を考える(2)	「コモنزの悲劇」の内容を検討し、その考え方の応用に触れる。	「コモنزの悲劇」を実例として説明できること。	3	文化と社会	文化や社会の概念について検討する。	文化や社会の概念について説明できること。	4	人種と民族	人種と民族の概念について検討する。	人種と民族の概念について説明できること。	5	難民をめぐる事象	難民の定義とその今日的な意味について検討する。	難民について一定の認識を持つこと。	6	国民国家とは何か?	国民国家の概念やナショナリズムについて検討する。	国民国家やナショナリズムについて説明ができること。	7	文化交流の重要性	文化交流について検討する。	文化交流の意味について、一定の説明をすることができること。	8	家族・親族とは何か(1)	日頃意識しない家族や親族の具体例について検討する。	家族や親族のありさまについて、具体的に説明ができること。	9	家族・親族とは何か(2)	親族的結合の事例について検討する。	親族の認識を深め、それをめぐる事象について、説明ができること。	10	病者・障がい者とは誰か(1)	病者をめぐって、概念やその社会問題について検討する。	病者をめぐる事象について、一定の説明ができる。	11	病者・障がい者とは誰か(2)	障がい者をめぐる社会問題について検討する。	病者・障がい者と健全者との間の積極的な関与について意見を提示することができる。	12	地球環境問題の考察(1)	地球環境問題の具体例を検討する(第1回目)。	地球環境問題の考え方の基礎を学び、一定の認識を持てること。	13	地球環境問題の考察(2)	地球環境問題の具体例を検討する(第2回目)。	地球環境問題の具体例に関して、意見や一定の回答を提示できること。	14	地球環境問題の考察(3)	地球環境問題の具体例を検討する(第3回目)。	地球環境問題の具体例に関して、意見や一定の回答を呈示できること。	15	科学(技術)と社会	科学(技術)の発達とその展開について検討する。	科学(技術)の発達について意見を提示でき、それによる発明品について一定の解釈ができること。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション・授業の進め方・「コモنزの悲劇」を考える(1)	座学としての受講の仕方・授業の進め方、ならびに「コモنزの悲劇」の事例を検討し、社会への認識を深める。	(事前・事後学習課題の総論的な課題については備考欄を参照のこと)「コモنزの悲劇」の条件について説明できること。																																																																
2	「コモنزの悲劇」を考える(2)	「コモنزの悲劇」の内容を検討し、その考え方の応用に触れる。	「コモنزの悲劇」を実例として説明できること。																																																																
3	文化と社会	文化や社会の概念について検討する。	文化や社会の概念について説明できること。																																																																
4	人種と民族	人種と民族の概念について検討する。	人種と民族の概念について説明できること。																																																																
5	難民をめぐる事象	難民の定義とその今日的な意味について検討する。	難民について一定の認識を持つこと。																																																																
6	国民国家とは何か?	国民国家の概念やナショナリズムについて検討する。	国民国家やナショナリズムについて説明ができること。																																																																
7	文化交流の重要性	文化交流について検討する。	文化交流の意味について、一定の説明をすることができること。																																																																
8	家族・親族とは何か(1)	日頃意識しない家族や親族の具体例について検討する。	家族や親族のありさまについて、具体的に説明ができること。																																																																
9	家族・親族とは何か(2)	親族的結合の事例について検討する。	親族の認識を深め、それをめぐる事象について、説明ができること。																																																																
10	病者・障がい者とは誰か(1)	病者をめぐって、概念やその社会問題について検討する。	病者をめぐる事象について、一定の説明ができる。																																																																
11	病者・障がい者とは誰か(2)	障がい者をめぐる社会問題について検討する。	病者・障がい者と健全者との間の積極的な関与について意見を提示することができる。																																																																
12	地球環境問題の考察(1)	地球環境問題の具体例を検討する(第1回目)。	地球環境問題の考え方の基礎を学び、一定の認識を持てること。																																																																
13	地球環境問題の考察(2)	地球環境問題の具体例を検討する(第2回目)。	地球環境問題の具体例に関して、意見や一定の回答を提示できること。																																																																
14	地球環境問題の考察(3)	地球環境問題の具体例を検討する(第3回目)。	地球環境問題の具体例に関して、意見や一定の回答を呈示できること。																																																																
15	科学(技術)と社会	科学(技術)の発達とその展開について検討する。	科学(技術)の発達について意見を提示でき、それによる発明品について一定の解釈ができること。																																																																
関連科目	なし。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>使用しない。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	使用しない。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	使用しない。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業中に適宜、告知する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業中に適宜、告知する。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	授業中に適宜、告知する。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>定期試験 62%、授業態度(質問や授業への呼応を用紙で問う)28%、授業参加度(テーマに応じて、意見や感想を提出する)10%の割合で総合的に評価する。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講生は授業の内容の中に自分の将来に役に立つ知識を積極的に探そうと努力すること。パワーポイントのスライドを授業時に使用するため、積極的にノートをとることが肝要。</p>																																																																		
担当者の研究室等	11号館6階、経営学部事務室																																																																		
備考	<p>授業時間内でのノート・テイキングと蓄積された受講生個人のノートを重視するが、それ以外に事後学習の学習時間について記しておく。</p>																																																																		

- | | |
|--|--|
| | <ol style="list-style-type: none">1) 事前事後学習には、毎回最低 30 分以上かけ、ウェブサイトの情報ではなく、できるだけ既出文献(授業中に告知した参考書を含む)を渉猟すること。2) 期末試験の準備を含め自主学習には、最低でも合計 7 時間はかけること。3) 授業で示す英単語は術語であるため、英語の事前事後学習時間に補足として数分でも時間をかけ、意味内容を把握しておくこと。 |
|--|--|

科目名	マーケティング	科目名(英文)	Marketing
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂 貴恵

授業概要・目的
現在、いかなる組織においても、マネジメントを効果的に行い、目標を達成するにはマーケティング発想が不可欠である。本授業では、事例を交えながらマーケティングの基礎知識を身につけることを目的とする。

到達目標
マーケティングの基本的な考え方、知識を習得する。
ものづくりや技術といった分野とマーケティングがどのような関わりを持っているか理解できるようになる。
V科の学習・教育目標との対応：A
R科の学習・教育目標との対応：A
A科の学習・教育到達目標との対応：A
M科の学習・教育到達目標との対応：A
E科の学習・教育到達目標との対応：B
C科の学習・教育到達目標との対応：II

授業方法と留意点
講義が中心だが、授業の中で課題の考察・検討の時間を設ける

科目学習の効果(資格)
マーケティングの基礎知識を学習し、現実の問題について考えることで、世の中で行われているマーケティング手法について身近に理解できるようになる。マーケティング的発想ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	マーケティング発想とは	マーケティングとは何か、基本的な用語について解説する	備考参照
2	マーケティングのなり立ち	マーケティングの歴史を学ぶ	備考参照
3	マーケティングの基本概念	マーケティングの4Pなど基本的な概念について解説する	備考参照
4	マーケティング戦略とは	マーケティング戦略の概要について解説する	備考参照
5	製品のマネジメント	製品開発を中心に製品戦略について解説する。	備考参照
6	価格のマネジメント	価格の意味、価格設定など価格戦略について解説する。	備考参照
7	広告のマネジメント	販売促進の手段である広告についてその意義や役割を解説する。	備考参照
8	チャネルのマネジメント	メーカーにとってのチャネルの重要性やチャネル管理について解説する。	備考参照
9	サプライチェーンのマネジメント	生産から販売までの企業が連携して在庫をコントロールするマネジメント手法について解説する。	備考参照
10	営業のマネジメント	人的販売で重要な役割を果たす営業について解説する。	備考参照
11	顧客関係のマネジメント	多様化した顧客と企業がいかに関係を構築するかその意義と方法について解説する。	備考参照
12	ブランドのマネジメント	ブランドの役割と重要性とそのマネジメント手法について解説する。	備考参照
13	サービス・マーケティング	サービス業のマーケティングについて事例を交えて解説する。	備考参照
14	インターネット・マーケティング	インターネットを活用したマーケティングについて事例を交えて解説する。	備考参照
15	ソーシャル・マーケティング	コース・リレーティッド・マーケティングなどCSRを意識したマーケティングについて解説する	教科書の内容の復習と半年間の復習を期末試験の準備も含めて、合計5時間以上はかけること。

関連科目
経営学、経営戦略論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	1からのマーケティング	石井淳蔵	碩学社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
講義内課題 50%、期末試験 50%

学生へのメッセージ
日常生活において企業がどのような製品をどのような手段で告知し、それをどのような価格でどのような方法で販売しているのかに関心を持って講義に臨んでもらいたい。

担当者の研究室等
鶴坂貴恵研究室

備考
事前学習は教科書の該当箇所を読み内容を把握し、わからない内容や用語などをピックアップしておく。
所要時間：1.5時間
事後学習は配布したプリント箇所を教科書で確認し授業内容を復習する。事前にわからなかった内容や用語などが理解できているか確認をする。
所要時間：1時間

科目名	産業社会と知的財産	科目名(英文)	Industrial Society and Intellectual Property
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	関堂 幸輔

教養科目

授業概要・目的	<p>知的財産は、2002年の小泉首相(当時)による「知財立国宣言」以来、わが国の政策上の戦略的資源の一つとしても位置づけられており、ますますその重要性が増しつつあります。本講義では、知的財産法(知的所有権法)の概要を俯瞰することでなぜ知的財産が法的に保護されるべきなのかを理解し、その一方で、最新の事例等の問題を紹介しつつ、高度情報化社会に伴う情報の積極的な共有化と、いわば情報を囲い込む知的財産権との相克という観点から、将来の知的財産法制の在り方についても検討していくことを目標とします。</p> <p>なお本講義は法学部以外のカリキュラムであり、受講者には法学初心者から少なからず含まれていることが予想されますので、この点にも配慮した内容とします。</p>																																																																		
到達目標	<p>「授業概要・目的」に掲げた知的財産権ないし知的財産法に特有な意義・性質を理解し、それらが将来どのように運用されるべきであるか、自ら考察できるようにすることを到達目標とします。</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>板書中心の講義形式とし、適宜配付資料や視聴覚的資料を用います。なお、本来なら産業から文化まで広範囲に渡る知的財産法の全般を半年のみの科目で修めることはおよそ無理な話なのですが、本講義のカリキュラムはそれを強めていますので、やむを得ず本講義では特許法と著作権法のみを中心に授業を行います。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>最先端かつ重要な特別法分野に接することで、より応用的な法学の力や考え方が身につく。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>詳細なガイダンス</td> <td>授業の内容、方法その他について詳細に説明します。</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>情報の意義・性質と知的財産</td> <td>いわば「情報を囲い込み独占する」という知的財産の制度が、情報本来の性質にどう関わってくるのか、法制度の趣旨と併せて検討します。</td> <td>事後：当該回の内容(情報の独占の是非等)の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>知的財産のいろいろ</td> <td>特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権などの対象として身近な例を取り上げ、それぞれ概要を理解します。</td> <td>事後：当該回の内容(各知的財産権の異同)の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>技術的アイディアの保護</td> <td>特許権の対象である「発明」について理解します。</td> <td>事後：当該回の内容(発明の意義等)の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>特許出願と特許権取得の手続</td> <td>特許権を取得するための出願・審査・登録といった手続の流れを把握します。</td> <td>事後：当該回の内容(産業財産権取得の手続等)の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>特許権の性質・内容</td> <td>特許権の存続期間と権利の及ぶ(逆に及ばない)範囲について学びます。「消尽論」「均等論」といった法上の重要論点もここで取り上げます。</td> <td>事後：当該回の内容(独占権としての特許権の性質等)の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>表示・標識の保護</td> <td>識別性ないし周知性のある表示・標識を保護する制度としての商標法および不正競争防止法について簡単に説明します。</td> <td>事後：当該回の内容(識別標識と信頼の保護の意義等)の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>創作的表現の保護</td> <td>著作権の対象である「著作物」、そしてそれを伝達する「実演」等について理解します。</td> <td>事後：当該回の内容(著作物の意義・性質)の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>著作権の内容(1)</td> <td>著作権や著作隣接権の具体的内容を把握します。</td> <td>事後：当該回の内容(著作者の権利について)の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>著作権の内容(2)</td> <td>同上。</td> <td>事後：当該回の内容(著作隣接権等について)の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>著作権の制限(1)</td> <td>著作権等の存続期間(時間的制限)および「私的使用目的複製」「引用」など、著作権が制限される場合を理解し、そのような制度の趣旨や在り方について検討します。</td> <td>事後：当該回の内容(権利制限規定の意義と変遷について)の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>著作権の制限(2)</td> <td>同上。</td> <td>事後：当該回の内容(公共目的の権利制限について等)の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>最新の事例・問題(1)</td> <td>知的財産法に関する最新の事例や問題点を取り上げ、検討します。</td> <td>事後：当該回の内容の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>最新の事例・問題(2)</td> <td>同上。</td> <td>事後：当該回の内容の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>試験、その他</td> <td>試験により成績評価をします。試験についての詳細は授業にて説明します。</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	詳細なガイダンス	授業の内容、方法その他について詳細に説明します。	—	2	情報の意義・性質と知的財産	いわば「情報を囲い込み独占する」という知的財産の制度が、情報本来の性質にどう関わってくるのか、法制度の趣旨と併せて検討します。	事後：当該回の内容(情報の独占の是非等)の復習	3	知的財産のいろいろ	特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権などの対象として身近な例を取り上げ、それぞれ概要を理解します。	事後：当該回の内容(各知的財産権の異同)の復習	4	技術的アイディアの保護	特許権の対象である「発明」について理解します。	事後：当該回の内容(発明の意義等)の復習	5	特許出願と特許権取得の手続	特許権を取得するための出願・審査・登録といった手続の流れを把握します。	事後：当該回の内容(産業財産権取得の手続等)の復習	6	特許権の性質・内容	特許権の存続期間と権利の及ぶ(逆に及ばない)範囲について学びます。「消尽論」「均等論」といった法上の重要論点もここで取り上げます。	事後：当該回の内容(独占権としての特許権の性質等)の復習	7	表示・標識の保護	識別性ないし周知性のある表示・標識を保護する制度としての商標法および不正競争防止法について簡単に説明します。	事後：当該回の内容(識別標識と信頼の保護の意義等)の復習	8	創作的表現の保護	著作権の対象である「著作物」、そしてそれを伝達する「実演」等について理解します。	事後：当該回の内容(著作物の意義・性質)の復習	9	著作権の内容(1)	著作権や著作隣接権の具体的内容を把握します。	事後：当該回の内容(著作者の権利について)の復習	10	著作権の内容(2)	同上。	事後：当該回の内容(著作隣接権等について)の復習	11	著作権の制限(1)	著作権等の存続期間(時間的制限)および「私的使用目的複製」「引用」など、著作権が制限される場合を理解し、そのような制度の趣旨や在り方について検討します。	事後：当該回の内容(権利制限規定の意義と変遷について)の復習	12	著作権の制限(2)	同上。	事後：当該回の内容(公共目的の権利制限について等)の復習	13	最新の事例・問題(1)	知的財産法に関する最新の事例や問題点を取り上げ、検討します。	事後：当該回の内容の復習	14	最新の事例・問題(2)	同上。	事後：当該回の内容の復習	15	試験、その他	試験により成績評価をします。試験についての詳細は授業にて説明します。	—
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	詳細なガイダンス	授業の内容、方法その他について詳細に説明します。	—																																																																
2	情報の意義・性質と知的財産	いわば「情報を囲い込み独占する」という知的財産の制度が、情報本来の性質にどう関わってくるのか、法制度の趣旨と併せて検討します。	事後：当該回の内容(情報の独占の是非等)の復習																																																																
3	知的財産のいろいろ	特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権などの対象として身近な例を取り上げ、それぞれ概要を理解します。	事後：当該回の内容(各知的財産権の異同)の復習																																																																
4	技術的アイディアの保護	特許権の対象である「発明」について理解します。	事後：当該回の内容(発明の意義等)の復習																																																																
5	特許出願と特許権取得の手続	特許権を取得するための出願・審査・登録といった手続の流れを把握します。	事後：当該回の内容(産業財産権取得の手続等)の復習																																																																
6	特許権の性質・内容	特許権の存続期間と権利の及ぶ(逆に及ばない)範囲について学びます。「消尽論」「均等論」といった法上の重要論点もここで取り上げます。	事後：当該回の内容(独占権としての特許権の性質等)の復習																																																																
7	表示・標識の保護	識別性ないし周知性のある表示・標識を保護する制度としての商標法および不正競争防止法について簡単に説明します。	事後：当該回の内容(識別標識と信頼の保護の意義等)の復習																																																																
8	創作的表現の保護	著作権の対象である「著作物」、そしてそれを伝達する「実演」等について理解します。	事後：当該回の内容(著作物の意義・性質)の復習																																																																
9	著作権の内容(1)	著作権や著作隣接権の具体的内容を把握します。	事後：当該回の内容(著作者の権利について)の復習																																																																
10	著作権の内容(2)	同上。	事後：当該回の内容(著作隣接権等について)の復習																																																																
11	著作権の制限(1)	著作権等の存続期間(時間的制限)および「私的使用目的複製」「引用」など、著作権が制限される場合を理解し、そのような制度の趣旨や在り方について検討します。	事後：当該回の内容(権利制限規定の意義と変遷について)の復習																																																																
12	著作権の制限(2)	同上。	事後：当該回の内容(公共目的の権利制限について等)の復習																																																																
13	最新の事例・問題(1)	知的財産法に関する最新の事例や問題点を取り上げ、検討します。	事後：当該回の内容の復習																																																																
14	最新の事例・問題(2)	同上。	事後：当該回の内容の復習																																																																
15	試験、その他	試験により成績評価をします。試験についての詳細は授業にて説明します。	—																																																																
関連科目	民法(特に財産法)、経済法、行政法																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業内において適宜指示します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業内において適宜指示します。			2																																																							
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	授業内において適宜指示します。																																																																		
2																																																																			

	3		
評価方法 (基準)	最終回に行う試験 100%で評価します。		
学生への メッセージ	こうした最先端の分野に関わる法律には、いわゆる「正解」がありません。現在妥当だとされる考え方が 5 年後, 10 年後に変わっている可能性さえあるのです。そうしたことを踏まえて, 積極的に自分の頭で考えようとする姿勢が何よりも肝要です。		
担当者の 研究室等	11 号館 6 階 法学部		
備考	社会のさまざまな事象と密接に関連するこのような社会科学においては, 周囲のあらゆることが学びのきっかけであり, またそれが絶ゆることはなく, すなわちいつでもどこでも予習・復習することが必要です。便宜上各回ごとに課題を設定してはいますが, 受講生においてはそれに固執することなく臨むことを期待します。		

科目名	国際理解概論	科目名(英文)	International Cooperation
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田添 篤史

授業概要・目的	現在の世界はグローバリゼーションのただ中にあります。そのため、日本を考えるためには世界全体との関係の中で捉えることが必須となっています。この講義では現在の日本が世界とどのように関わっているかを学び、関わり方がどのように変化していくであろうかということを考えます。この講義では、モノ、カネ、ヒト、そして文化という4つの要素が世界をどのように移動しているかを理解し、現在の日本はその中でどのような立ち位置にあるのかを学びます。それを通じて日本と世界がどのように関係しているかを知り、今後日本が世界とどのように関わっていくべきであるかということを考える手がかりとしてください。
到達目標	日本と世界が、モノ、カネ、ヒト、文化という4つの側面からどのように関連しているかを理解してください。それを基として今後の日本のあり方を考える手がかりを得ることを目標とします。また、日本という国レベルではなく、個人としてどのように進んでいけば良いかを考える手がかりも掴むことを期待します。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	講義形式で授業は行われますが、授業内容に対する学生の積極的な議論も期待しています。
科目学習の効果(資格)	日本は単独で存在しているのではなく世界との関連の中で存在していることを理解し、世界全体に視野が広がる効果を持つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	グローバル化をめぐる理論(1)	グローバル化の概念について複数の立場があることを学びます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
3	グローバル化をめぐる理論(2)	グローバル化の概念について複数の立場があることを学びます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
4	グローバル企業の理論	世界経済の中心であるグローバル企業、その特徴を学びます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
5	日本経済のグローバル化の歴史	日本経済と世界はどのように関わってきたのか、その歴史を見ます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
6	様々な産業のグローバル化	様々な産業はどのようにグローバル化を果たしているのかを見ます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
7	産業空洞化と日本経済(1)	現在の日本で問題となっている産業の空洞化について学びます。またそれが日本経済にどのような影響を与えるかを考えます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
8	産業空洞化と日本経済(2)	工場が帰ってくれば職も帰ってくるのか。ジョブレスリカバリーという問題と日本経済のあり方を考えます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
9	世界を回るカネ	世界を循環する資金の流れを見ます。その中で日本がどのように位置づけられているかを考えます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
10	国際労働移動	移民について、世界全体の状況を理解します。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
11	日本と移民労働	現在のホットイシューである移民について、日本はどのようにすべきかを考えていきます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
12	グローバル化と雇用の変化	グローバル化の進展が日本国内の雇用にどのような影響を与えるかについて考えます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
13	地域経済と観光産業	観光産業は疲弊する地域経済を救うことができるのか、あるいはどのようにすればよいのか、それを考えます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
14	国際機関の歴史	世界にはどのような国際機関があるのかを見ます。またどのような問題点があるのかを見ていきます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
15	文化のグローバル化まとめ	文化のグローバル化の現状および文化のグローバル化をめぐる議論を考察します。全体を復習し、14回の授業のそれぞれの関連を考える上で、1回目の授業における課題をもう一度考察します。	前回の復習。

関連科目	特にありません。
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>第2回以降、復習を兼ねた小テストを毎回行います。および期末試験を行います。 総合評価は小テストが50%、期末試験が50%として判断します。 授業態度についても評価を行い、態度が悪い場合は総合評価から減点します。 無断欠席が4回以上の場合、評価の対象外とします。</p>			
学生への メッセージ	<p>座席は指定制とします。 授業態度が非常に悪い場合は出席したとしても欠席扱いにすることがあります。</p>			
担当者の 研究室等	<p>非常勤講師ですので研究室はありません。その代わり、授業中に質問の時間を設ける予定です。</p>			
備考	<p>毎回の授業終了後の見直し、および次回の授業開始前の前回の復習をあわせて、毎回1時間はかけること。 期末試験に関しては、それに備えて7時間半の学習を行うこと</p>			

科目名	地域と私	科目名(英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	鶴坂 貴恵

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表するといったグループワークが中心の授業です。 第2回目、3回目は外部講師による体験型の研修となります。 第12回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 4月8日(金)5限	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 (荻田・鶴坂)	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える。 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える。
2	自己の探求 4月16日(土)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師)	体験型セミナーでの気づきをまとめる。
3	自己の探求 4月17日(日)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師)	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考える。
4	今、地域で何が起きているか 4月22日(金)5限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 (鶴坂)	【事前学習】 キーワードを調べる。 【事後学習】インターネットで地方都市では具体的にどのような問題が発生しているのか、その問題をどうやって解決しようとしているのかを調べる。
5	地域経済・経営 ー地域の観光・ブランディング 5月6日(金)5限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 (鶴坂・久保)	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる。 【事後学習】 自分の地元と和歌山の観光の目玉を考える。
6	地域環境・防災 ー空き家の現状と課題ー 5月13日(金)5限	大都市周辺市街地と地方農山村部とは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 (平田・稲地)	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと 【事後学習】 授業後は議論した内容を整理しておくこと
7	地域政策・文化 ー地域とスポーツー 5月20日(金)5限	地域とスポーツとの関連；「トップスポーツ(プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など)との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 (藤林・内部)	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと 【事後学習】 授業ノート等で復習すること
8	地域医療 ー地域で健康な生活を送るには？ー 5月27日(金)5限	地域で健康な生活を支える上で住民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。 (荻田・田中)	【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと。 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、地域医療に関する知識をまとめておくこと。
9	事前学習① グループワーク 6月3日(金)5限	5回目～8回目の4分野ごとに分かれ議論をし、グループごとに発表をします。	【事前学習】 これまでの授業の復習をして、ポイントを整理しておく。 【事後学習】 発表をきいて、再度、4分野ごとに要点をまとめておく。
10	事前学習② グループワーク 6月10日(金)5限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、由良町の現状や課題をお聞きします。	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる。 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめる。
11	事前学習③ グループワーク 6月17日(金)5限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。ま	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく。 【事後学習】

		た、グループ内での分担を決めます。	由良町でのフィールドワークの準備を行う。																
	12	体験学習 (和歌山県由良町) 6月25日(土)、7月2日(土) のいずれか	【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく。 【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく。																
	13	事後学習① グループワーク 7月8日(金)5限	【事前学習】 グループで情報を共有化しておく。 【事後学習】 発表できるよう準備をする。																
	14	事後学習② グループワーク 7月15日(金)5限	【事前学習】 発表の練習を行う。 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする。 発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させる。																
	15	事後学習③ グループワーク 7月22日(金)5限	【事前学習】 14回目に発表したグループの内容をふりかえる。 【事後学習】 最終レポート作成にむけての準備をする。																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% 最終レポート 40% 60%で合格とする。																		
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																		
担当者の 研究室等	鶴坂研究室 11号館7階																		
備考																			

科目名	北河内を知る	科目名(英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	尾山 廣

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の3つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域における摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。地域連携センター所属の教職員が授業の企画・運営に参画する。毎回、授業時間内に授業内容に沿ったレポート課題を課す(15分以上の遅刻には課題用紙を配布しない)。なお、事前に、北河内8市の広報HPを閲覧しておくこと。
科目学習の効果(資格)	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、自分自身が学ぶ摂南大学の歴史と、地域で活躍する方々の思いや人生観に触れることで、この地域がどのようなところで、そこには何があるのかを発見できる。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	地域を考える(1)	北河内各市や関連地域の現状と課題、本学の学生の取組みなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
3	地域を考える(2)	北河内各市や関連地域の現状と課題、本学の学生の取組みなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
4	地域を考える(3)	北河内各市や関連地域の現状と課題、本学の学生の取組みなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
5	グループ・ディスカッション(1)	「地域を考える」の全体を通じた課題について討議し、理解を深める。	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
6	地域をつくる(1)	北河内地域をモデルに都市の景観やシビルデザインの考え方を紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
7	地域をつくる(2)	北河内地域の交通網やライフラインの整備状況や計画などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
8	地域をつくる(3)	北河内地域の交通網やライフラインの整備状況や計画などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
9	地域をつくる(4)	北河内地域の環境とその保全、河川整備や防災対策などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
10	グループ・ディスカッション(2)	「地域をつくる」の全体を通じた課題について討議し、理解を深める。	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
11	地域をまなぶ(1)	北河内地域の地場産業(商工業、農業)や社会貢献活動などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
12	地域をまなぶ(2)	北河内地域の地場産業(商工業、農業)や社会貢献活動などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
13	地域をまなぶ(3)	北河内地域の地場産業(商工業、農業)や社会貢献活動などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
14	地域をまなぶ(4)	淀川とその流域の北河内地域の地理・歴史や文化などを説明する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
15	グループ・ディスカッション(3)	「地域をまなぶ」の全体を通じた課題について討議し、理解を深める。	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	毎回の講義におけるレポート課題に対する評価とグループ・ディスカッションの相互評価(外部講師、教職員、学生など)を総合して評価する。なお、受講態度等を勘案し、更なるレポートを課すことがある(評価に加味)。
----------	---

学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか?
-----------	----------------------

担当者の研究室等	1号館9階 尾山教授室
----------	-------------

備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。
----	--

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名(英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵

授業概要・目的	ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきている。ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ない。グローバル社会において必要とされるビジネス実務とは何かを学ぶとともに、変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立することを目的とする。
到達目標	1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関するプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果(資格)	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考える。 ・事後学修：プレゼンテーション資料を熟読する。
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返して唱えられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめる。 ・事後学修：企業の事例を調べる。
3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPOについて調べる。 ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成する。
4	ビジネス環境をとらえる① ー 経済のグローバル化と高度情報化ー	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集める。 ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成する。
5	ビジネス環境をとらえる② ー 地球環境問題と少子高齢社会ー	・地球環境問題とジェンダーエンパワメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめる。 ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめる。
6	ビジネス現場をとらえる ー オフィスからワークプレイスへー	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめる。 ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成する。
7	ビジネス実務能力	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめる。 ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめる。
8	ビジネス実務の基本① ー 仕事の進め方ー	・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：問題プリント①を解く。 ・事後学修：問題プリント②を解く。
9	ビジネス実務の基本②ー ビジネスと諸活動ー	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSRについて調べ、まとめる。 ・事後学修：一企業のCSRを選び、レポートを作成する。
10	ビジネス実務の基本③ー ビジネスと経営資源ー	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめる。 ・事後学修：、ワークライフバランスに関してレポートを作成する。
11	ビジネス実務の基本④ー ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス(経理財務)ー	・PDCAサイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修：業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめる。 ・事後学修：CMの必要性の有無に関してレポートを作成する。
12	自己実現とキャリアプランニング ー セルフマネジメントと自己啓発ー	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：自己振り返りシートを作成する。 ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめる。
13	ビジネスプラン①ー 起業への意識ー	・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。	・事前学修：各自がテーマを見つける。 ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
14	ビジネスプラン②	・実際に企画を考える。	・事前学修：グループのビジネスプランを発展させる。 ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修：プレゼンテーション準備を行う。 ・事後学修：最終レポートを作成する。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。
------	--------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス実務総論：付加価値創造のための基礎実務論 ー 改訂版	全国大学実務教育協会編	紀伊国屋書店
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。 ・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 			
学生への メッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の上社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感 を直接肌で感じることである。 事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。
到達目標	インターンシップへ意欲的に自信を持って参加できるようになることを目標とする。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：G C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。 インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果（資格）	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	インターンシップとは何かについて考えること。
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	ビジネスとは何かを考えること。
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	インターン受入企業等の組織のリストに目を通しておくこと。
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	プレゼンテーションができるように準備すること。
5	課題のプレゼンテーション①	・第4回目の課題をプレゼンテーションする	第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること。
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	マナーがなぜ大切なのかを考えること。
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること。
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	マナーの大切さを再度考えること。
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	履歴書を書く準備をしておくこと。
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	グループ内の自分の役割を考えること。
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	グループの最大の力を出すために、自分に何ができるかを考え、プレゼンテーションの準備をして下さい。
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること。
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること。

関連科目 この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ（企業等の組織での就業体験）」を履修することが望まれる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準） 発表（40%）、レポート等の提出物（30%）、授業態度（30%）を総合的に評価する。

学生へのメッセージ
インターンシップの流れは以下のとおりである。
※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始（予定）

インターン先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。

担当者の 7号館3階 キャリア教育推進室（水野）

研究室等	
備考	<p>教科書・・必要に応じてレジメを配布 参考書・・必要に応じて推薦図書を提示</p> <p>インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。 なお、事前事後学習には毎回1時間以上かけること。</p>

科目名	インターンシップⅡ	科目名(英文)	Internship II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性を広げること、職業観の涵養に努めることを目標とする。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：G C科の学習・教育到達目標との対応：II

授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。
----------	--

科目学習の効果(資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。
-------------	-------------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	直前学修② 6月18日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	マナーについて考えること。
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	実習中は毎日日誌をつけること。
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	実習中は毎日日誌をつけること。
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	実習中は毎日日誌をつけること。
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	事前に立てた目標を意識して参加すること。
7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	事前学修の通りに報告書を作成する。提出前に必ず推敲を行うこと。 提出期限を厳守すること。
8	事後学修① 9月24日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
9	事後学修② 9月24日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
10	事後学修③ 10月1日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
11	事後学修④ 10月1日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
12	事後学修⑤ 10月15日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	実習記録簿を見直してくること。
13	事後学修⑥ 10月15日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	実習記録簿を見直してくること。
14	事後学修⑦ 10月29日(土) 1限目(予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること。
15	事後学修⑧ 10月29日(土) 2限目(予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ	全員スーツ着用

関連科目	インターンシップⅠ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(40%)を総合的に評価する。
----------	--

<p>学生への メッセージ</p>	<p>「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 「インターンシップⅠ」の履修には、2月のガイダンスに出席、し履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>7号館3階 キャリア教育推進室（水野）</p>
<p>備考</p>	<p>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。</p> <p>なお、振り返りの課題（体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など）は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際はスーツを着用してくること。</p>

科目名	コミュニケーション I	科目名 (英文)	Communication I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金 瑛

授業概要・目的	(概要と目的) 私たちは日本語を母語としているため、読み・書き・会話にさして苦労はないと考えがちである。だが実際は、自己の意思や思考を話し言葉(音声言語)によって正確に他者に伝達し、かつ明快な文章(書記言語)で過不足なく表現することは必ずしも容易ではない。そのためには一定の技術と知識が必要であり、それらを実践練習の中で琢磨していく必要がある。この授業を履修することで、大学生生活・社会生活において不可欠な言語能力を一段高いレベルにおいて習得し、それに伴う思考力の獲得と向上をめざす。
到達目標	大学生に求められる基本的な日本語能力の取得を目指す。特に、大学生として不足のない文章を書けるようになること、社会人に相応しい日本語使用ができるようになることを目指す。これについては文語・口語ともに射程に含まれる。 V科の学習・教育目標との対応：A、C R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1、B2 E科の学習・教育到達目標との対応：B、F C科の学習・教育到達目標との対応：II、VI
授業方法と留意点	積極的な参加を求めます。
科目学習の効果(資格)	文章の読解・文章の作成・対話(コミュニケーション)といった日本語能力の向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義と演習	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	2	日本語の性質について	講義と演習	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	3	言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション①	講義と演習	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	4	言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション②	講義と演習	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	5	言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション③	講義と演習	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	6	文章を読む①	講義と演習	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	7	文章を読む②	講義と演習	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	8	事実と意見	講義と演習	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	9	意見を述べる①	講義と演習	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	10	意見を述べる②	講義と演習	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	11	意見を述べる③	講義と演習	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	12	レポートの書き方①	講義と演習	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	13	レポートの書き方②	講義と演習	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	14	レポートの書き方③	講義と演習	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	15	振り返り・仕上げワーク	講義と演習	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験 60%、授業態度 40%の割合で評価する。参加態度の悪さから講義中に退席を求めた学生については期末試験を評価しない。授業態度とは、①質問への投げかけに対する応答の姿勢、②授業への集中度、③ノート書写の姿勢、④授業内における演習の達成度を指し、出席点ではありません。
----------	---

学生へのメッセージ	日本語の読み書きに関心をもって下さい。積極的な参加を期待しています。
-----------	------------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	コミュニケーションⅡ	科目名(英文)	Communication II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	櫻井 清華

授業概要・目的	本講義では、音声言語（話し言葉）のみならず、文字言語（書き言葉）によるコミュニケーションも射程に入れ、「コミュニケーションⅠ」で修得した言語技術をさらに深めさせることを目指す。挨拶・紹介・説明（研究発表を含む）・報告（調査報告を含む）・依頼・勧誘・質疑応答・議論・話し合い・見舞い・詫言・感謝・賞賛といった目的別の言語行動を想定し、より実践的な言語運用能力を修得することを目標とする。																																																																		
到達目標	<p>目的に応じた日本語表現の技法を学ぶことで、日本語の誤用をなくす。日本語を支える文化背景を学ぶことで、現在無意識に使用している流行語、若者言葉、オノマトペの意義を知り、大学生として不足のない文章を書けるようになること、さらにそれに付随して、社会人にふさわしい日本語使用ができることを目指す。これについては、文語・口語ともに射程に含まれる。</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：F C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>																																																																		
授業方法と留意点	積極的な参加を求めます。																																																																		
科目学習の効果(資格)	文章の読解・作成・対話(コミュニケーション)といった、日本語能力の向上。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義の概要</td> <td>コミュニケーションとはどのような現象かを考えてください。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く①</td> <td>自己表現・挨拶を学ぶ。</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く②</td> <td>来客・電話の対応・メールのマナーを学ぶ。</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く③</td> <td>文書におけるビジネス用語を学ぶ。</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く④</td> <td>内と外の敬語を学ぶ①</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑤</td> <td>内と外の敬語を学ぶ②</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑥</td> <td>謝罪・御礼表現を学ぶ。</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑦</td> <td>携帯のマナーとクレーム対応を学ぶ。</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑧</td> <td>冗長表現を学ぶ①</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑨</td> <td>冗長表現を学ぶ②</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑩</td> <td>ひと・ものの呼称を学ぶ。</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑪</td> <td>対応のマナーを学ぶ①</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑫</td> <td>対応のマナーを学ぶ②</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑬</td> <td>配慮ある日常表現を学ぶ。</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>後期総括</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義の概要	コミュニケーションとはどのような現象かを考えてください。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	2	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く①	自己表現・挨拶を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	3	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く②	来客・電話の対応・メールのマナーを学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	4	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く③	文書におけるビジネス用語を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	5	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く④	内と外の敬語を学ぶ①	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	6	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑤	内と外の敬語を学ぶ②	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	7	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑥	謝罪・御礼表現を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	8	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑦	携帯のマナーとクレーム対応を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	9	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑧	冗長表現を学ぶ①	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	10	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑨	冗長表現を学ぶ②	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	11	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑩	ひと・ものの呼称を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	12	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑪	対応のマナーを学ぶ①	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	13	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑫	対応のマナーを学ぶ②	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	14	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑬	配慮ある日常表現を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	15	まとめ	後期総括	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義の概要	コミュニケーションとはどのような現象かを考えてください。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
2	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く①	自己表現・挨拶を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
3	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く②	来客・電話の対応・メールのマナーを学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
4	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く③	文書におけるビジネス用語を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
5	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く④	内と外の敬語を学ぶ①	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
6	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑤	内と外の敬語を学ぶ②	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
7	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑥	謝罪・御礼表現を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
8	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑦	携帯のマナーとクレーム対応を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
9	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑧	冗長表現を学ぶ①	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
10	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑨	冗長表現を学ぶ②	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
11	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑩	ひと・ものの呼称を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
12	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑪	対応のマナーを学ぶ①	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
13	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑫	対応のマナーを学ぶ②	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
14	社会人に必要な敬語表現とエントリーシートを書く⑬	配慮ある日常表現を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
15	まとめ	後期総括	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
関連科目	国語学、言語学、日本語学、社会学、コミュニケーション論、コミュニケーションⅠなど																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業態度10%、定期試験90%。 授業態度には①質問の投げかけに対する応答姿勢、②授業への集中度、③ノート書写の姿勢、などを指します。																																																																		
学生へのメッセージ	意欲的な参加を求めます。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	ビジネスマナー	科目名(英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	仁平 章子

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性和それを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科学習の効果(資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	仕事の進め方と組織活動	・仕事の基本動作とサイクル ・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動	・事前学修：企業のエコ活動について調べる。 ・事後学修：仕事とは何か、400字でまとめる。
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定(MBO) ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめる(400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修：あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表作成について振り返り、まとめる(400字以上)。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPOをもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護(Pマーク) ・コンプライアンス	・事前学修：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する(1000字以上)。
7	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
8	電話対応	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話対応プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
9	来客対応	・組織図と対応 ・簡単な対応から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客対応プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
10	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
11	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書①をする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
12	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
13	ビジネス通信の基本	・通信手段(電子メール、ファックス等)の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：実際にメールをうつ。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：慶弔・贈答プリント②をする。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目 キヤリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (30%)、期末試験 (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	キャリアデザインⅠ (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川 浩一

授業概要・目的	<p>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</p> <p>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</p> <p>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する</p> <p>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]</p>
到達目標	<p>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</p> <p>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</p> <p>3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</p>
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> 授業のオリエンテーション キャリアデザインとは何か 何故必要なのか 公と私について考える 	自分にとって「キャリアデザイン」とは何かを考えること。
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> 大学で学ぶということを理解する 「学修」の意味を学ぶ ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	大学で学ぶ意味について考えること。
3	摂南大学①	<ul style="list-style-type: none"> 摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する 学生生活において「目標とするもの」を考える 	建学の精神を理解しておくこと
4	摂南大学②	<ul style="list-style-type: none"> 摂南大学の中にある「機会」について知る 先輩の話を聴く 	大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること。
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク (インタビュープロジェクト) の目的を理解する 社会人としてのマナーを学ぶ グループで工程管理を考える 	チームの中で「自分はどんな役割を果たしたいか」を考えること。
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> 日本の労働事情の推移を知る 社会で求められている力について考える 	社会で求められる人材について考えること。
7	社会の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> GDP から見る社会の仕組み 労働と貨幣 税金について考える 	配付資料を熟読すること。
8	自分づくりへ①	<ul style="list-style-type: none"> 自分の良いところを100挙げる ペアワーク 	自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと。
9	自分づくりへ②	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート記入 ペアワーク 大学4年間の目標設定 	自らの大学生活における目標を考えること。
10	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> 社会人基礎力を理解する PDCA サイクルを身につける 入学から今までの大学生活を振り返る 未来履歴書を書いてみる 	今までの学生生活を振り返ること。
11	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ビブリオバトルで発表をする準備 グループ内で発表する 	他者に紹介したい本を選んでおくこと。
12	ビブリオバトル②	<ul style="list-style-type: none"> グループ代表による発表 	発表の準備をすること。
13	グループ課題のプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> グループごとのプレゼンテーション 	プレゼンテーションの準備をすること。
14	グループ活動の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動を振り返り、コミュニケーション、ホスピタリティ、マナーについて考える 	グループ活動の経緯を振り返ること。
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> 学びのプランニング 講義の振り返り 	夏休み以降の大学生活の目標を考えること。

関連科目: キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であることを認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室 (水野)
備考	参考書・・必要に応じて授業内でレジユメを配布する。

科目名	キャリアデザインⅡ (ADVANCE)	科目名 (英文)	Career Planning II(Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵

授業概要・目的	現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考える。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことを等と考えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	大学生生活 1年目で経験したことを思い出ししておくこと。
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	配付したレジュメを熟読しておくこと。
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	グループで討議する準備をする。
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	キャリアデザインⅡのテキスト P59～P79 を熟読すること。 グループ課題に取り組むこと。
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	キャリアデザインⅡのテキスト P59～P79 を熟読すること。
6	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておくこと。
7	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておくこと。
8	就活体験①	特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	キャリアデザインⅡのテキスト P33～P41 を熟読すること。
9	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	キャリアデザインⅡのテキストの P42～P44 を熟読すること。
10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考える。
11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	講義の内容を日常生活で実践すること。
12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	キャリアデザインⅡのテキスト P45～P55 を熟読すること。
13	自分を高める③	講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておくこと。
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	講義で配布するレジュメを熟読すること
15	授業のおさらい	講義のおさらいと期末レポートの振り返り	課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャリアデザインⅡ	摂南大学キャリア教育推進委員会	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。

科目名	健康科学	科目名(英文)	Health Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美

教養科目

授業概要・目的	<p>私たちを取り巻く社会は交通手段の発達や家事の自動化など利便性が増した結果、人々の身体活動量が著しく低下している。さらに食生活の欧米化等も影響して、肥満症や生活習慣病にかかる人口は増加の一途をたどっている。一方で、社会の多様化・情報化なども少なからず影響してここの健康を害する人口も増加しており、メンタルヘルス対策も重要な社会問題となっている。</p> <p>本講義では、学生諸君が在学中のみならず生涯にわたる心身の健康の維持・増進を目指して、健康に関する「科学的根拠に基づいた知識」を幅広く学び、講義内容を実践できる能力を修得することを目的とする。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]</p>			
到達目標	健康は、知的職業人として生きていくうえの基盤である。健康に関する幅広い知識を理解し実生活に応用、心身両面における健康を保持することができる。			
授業方法と留意点	毎回の授業開始時にレジュメを配布する。授業終了後、課題を課すので次週の授業開始時に提出のこと。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	日本人の健康に関する現状を理解し、本講義の意義について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了時に課題を提示する。 授業ノート等で復習すること。 次回の授業の予習をすること。
	2	健康づくりの三本柱	運動・栄養・休養について概要を説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了時に課題を提示する。 授業ノート等で復習すること。 次回の授業の予習をすること。
	3	身体の生理機能	恒常性(ホメオスタシス)について理解し、生体が外部・内部環境の変化にどのように適応しているか、具体的に説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了時に課題を提示する。 授業ノート等で復習すること。 次回の授業の予習をすること。
	4	運動トレーニングが肥満対策になる所以	メタボリック症候群を正しく理解し、運動トレーニングがどのように貢献しているか説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了時に課題を提示する。 授業ノート等で復習すること。 次回の授業の予習をすること。
	5	運動トレーニングで何がかわるのか?	運動トレーニングによる筋力増強、持久力向上、エネルギー代謝の改善、またストレス軽減作用について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了時に課題を提示する。 授業ノート等で復習すること。 次回の授業の予習をすること。
	6	どんな運動が健康によいのか?	肥満解消、筋力増大、メンタルヘルスの保持など目的に応じたトレーニング方法について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了時に課題を提示する。 授業ノート等で復習すること。 次回の授業の予習をすること。
	7	基礎栄養学	各栄養素の種類や機能について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了時に課題を提示する。 授業ノート等で復習すること。 次回の授業の予習をすること。
	8	食生活と健康	望ましい食事バランスや量について理解し、簡単な献立を立てることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了時に課題を提示する。 授業ノート等で復習すること。 次回の授業の予習をすること。
	9	ダイエット計画	体重と体脂肪率が表現することを正しく理解し、減量が必要な場合の望ましいダイエット方法について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了時に課題を提示する。 授業ノート等で復習すること。 次回の授業の予習をすること。
	10	女性の健康・男性の健康	性別による生理的特徴を理解し、女性の月経や妊娠について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了時に課題を提示する。 授業ノート等で復習すること。 次回の授業の予習をすること。
	11	ストレスマネジメント	ストレスの定義について理解し、それを軽減し得る方法について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了時に課題を提示する。 授業ノート等で復習すること。 次回の授業の予習をすること。
	12	睡眠	睡眠の段階的役割を含めた必要性や、日中の生活へ及ぼす影響について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了時に課題を提示する。 授業ノート等で復習すること。 次回の授業の予習をすること。
	13	アルコールと喫煙、薬物、性感染症	アルコールの代謝や遺伝的要因、タバコ、薬物が身体にもたらす影響について説明できる。また性感染症について罹患の原因、対策について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了時に課題を提示する。 授業ノート等で復習すること。 次回の授業の予習をすること。
	14	高齢者の介護予防と運動	高齢者の形態・機能的特徴を理解すると共に、介護について説明できる。さらに運動など生活習慣が及ぼす影響についても説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了時に課題を提示する。 授業ノート等で復習すること。 次回の授業の予習をすること。
	15	総括	本講義の総括と、健康に関する諸問題について考える。	<ul style="list-style-type: none"> 授業ノート等で復習すること。
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、生涯スポーツ実習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末試験 50%、レポート 30%、授業態度 20%の割合で評価する。
学生への メッセージ	皆さんが将来、知的職業人として社会で活躍するためには、まず心身の健康の保持が大切です。「病気にかかってから治療する」のではなく「病気にかからない」ための正しい知識を身につけ、それを実践して健康な日々を送りましょう！
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階 藤林研究室
備考	1) 毎回の課題は 1 時間以上かけて作成のこと。 2) 毎回の課題以外に、講義の予習復習として 30 分以上かけること。 3) 自主学習は試験の準備を含めて、20 時間かけること。

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣

教養科目

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲を学習し、実際に出題された際に説き方がすぐに思い出せるように練習します。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているのかも学習します。実践レベルの問題を解きますので、就職活動の準備の一環として受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・テスト	講座の目的, 意義の確認・実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	復習①	今までの問題の復習	2~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)
9	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	集合	集合の基礎	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理	推論②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	復習②	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		
2			
3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3年生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	永見 誠二

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲を学習し、実際に出題された際に説き方がすぐに思い出せるように練習します。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているのかも学習します。実践レベルの問題を解きますので、就職活動の準備の一環として受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・テスト	講座の目的, 意義の確認・実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	復習①	今までの問題の復習	2~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)
9	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	集合	集合の基礎	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理	推論②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	復習②	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		
2			
3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠

教養科目

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲を学習し、実際に出題された際に説き方がすぐに思い出せるように練習します。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているのかも学習します。実践レベルの問題を解きますので、就職活動の準備の一環として受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・テスト	講座の目的, 意義の確認・実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	復習①	今までの問題の復習	2~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)
9	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	集合	集合の基礎	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理	推論②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	復習②	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		
2			
3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3年生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているかも学習します。
到達目標	就職活動に必要なとされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・テスト	講座の目的、意義の確認・実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておく(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	復習①	今までの問題の復習	2~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)
9	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	集合	集合の基礎	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理	推論②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	復習②	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目: キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。また適宜Smart SPIの活用を指示します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小学校6年間の算数が6時間でわかる本	間地 秀三	PHP 研究所
2			
3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策をしておく、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室

科目名	武道論	科目名(英文)	Budo-ron (Theory of Japanese Martial Arts)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之

授業概要・目的	「武道とは何か」、「なぜ今武道なのか」等、現代における武道の特性などを概説し、現状と課題について検討していく。 また、武道の特性が理解でき、日本人の行動様式やものの考え方についても知ることができることを一般的な目標とする。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]
到達目標	日本伝統文化である武道（意味・種類）についての理解を深めることができる。 日本人の精神を「武士道」より学び、道徳についての理解を深めることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
科目学習の効果（資格）	武道の特性を理解することができる。また、伝統的な行動様式を学ぶ中から現代にない思考力が育まれることを期待する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業内容の説明と武道について	武道について調べてくる
	2	武道とは何か	武道の意味や言語について概説する	武道にはどのような種目があるのか調べる
	3	武道と武術について	武道と武術の違いについて	武芸十八般について調べてくる
	4	武道（柔道）	柔道について	柔道について調べ内容をまとめる
	5	武道（剣道）	剣道について調べ内容をまとめる	剣道について調べ内容をまとめる
	6	武道（弓道・相撲）	弓道・相撲について	弓道・相撲について調べ内容をまとめる
	7	武道（空手・合気道）	空手・合気道について	空手・合気道について調べ内容をまとめる
	8	武士道から見る日本人の道徳心①	武士道とは何か	著者・著作にいたる背景を調べまとめる
	9	武士道から見る日本人の道徳心②	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる
	10	武士道から見る日本人の道徳心③	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる
	11	武道と修行	武道における修行について	修行とは何かを調べまとめる
	12	武道の国際化	武道の国際化について	武道がどのように世界に普及したか調べまとめる
	13	武道の身体技法①	武道特有の身体技法について	武道の身体技法とは何か調べまとめる
	14	武道の身体技法②	実際の身体技法を行う（総合体育館）	武道の身体技法とは何か調べまとめる
	15	武道論総括（テスト）	14回まで行った授業の内容に関してテストを行う	これまでの授業の復習

関連科目	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習 健康論 保健論
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今、なぜ武道か	中村 民雄	日本武道館
	2	武道を知る	田中 守／藤堂 良明／東 憲一／村田 直樹	不昧堂
	3			

評価方法（基準）	出席率75%以上のものを試験資格者とする。遅刻は2回で1回の欠席と同等とみなす。（遅刻は授業開始から30分以内に入室したことをいう） 武道論総括(15回目)におけるテストを100%の割合で評価を行う。（ただし、上記の出席率を満たした者のみを評価対象者とする。）
----------	---

学生へのメッセージ	質問等がある場合には、横山講師室に来てください。
-----------	--------------------------

担当者の研究室等	総合体育館1F横山講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川 富盛

授業概要・目的	<p>諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」は変わりようがありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。しかし、諸君がこれから歩を進めていく実社会では「明日を創っていく」のですから、そこに決まり切った正解はありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかありません。</p> <p>自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となるためには、まずは市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、様々なリスクや不確実性に果敢に立ち向かっていく必要があります。経済や法律などの学問的知識に加え、金融や投資に関する実践的な知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単にお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせないのです。</p> <p>本講義の目的は、人生のさまざまな局面で確に決断し行動できるよう、金融知識を活用する実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付けることです。</p>
到達目標	<p>実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付け、経済生活やビジネスライフにおいて適宜的確に行動できるようになることを目指します。</p> <p>講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、この目標に到達することはあり得ません。「講義を毎回きちんと受講し、自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力が不可欠です。</p>
授業方法と留意点	<p>本講義は、教科書を使用した講義形式の授業により、次の三つのステップで進めます。</p> <p>① まずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。 ② 次に、金融の基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実践的に学んでいきます。 ③ 更に、それらを統合的に活用する能力 (=金融インテリジェンス) を、社会生活に応用する方法を学びます。</p> <p>本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず購入してください。但し、講義内容は教科書通りではありませんので、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>経済生活やビジネスライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、金融知識を活用する実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付けていきます。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置」	テキスト<P4~15> ・私たちの暮らしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト<P38~49> ・国際経済 ・国家の財政
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト<P16~29> ・金融の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト<P147~149・152~159> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II
5	リスクと向き合う ①	「リスクマネジメント」	テキスト<P74~81・150~152・159~161> ・リスクマネジメント ・契約社会 III
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト<P82~91> ・年金制度 ・老後生活資金
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト<P92~98> ・投資とは ・投資意思決定プロセス
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト<P30~37・50~53> 景気 景気と株価
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品 (株式等)」	テキスト<P118~129> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品 ・デリバティブ
10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品 (債券他)」	テキスト<P111~118> ・預貯金 ・信託 ・債券
11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト<P99~111> ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格
12	投資のリスク管理	「資産分散と時間分散」	テキスト<P130~146> ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資
13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト<P54~63> ・ライフプランニング
14	ライフプランニング ②	「ライフイベントごとの課題」	テキスト<P64~73> ・キャッシュフロー表の見直し

	15	最終まとめ	「講義のまとめ」	・ライブイベントごとの課題 全体レビュー 講義で得た金融インテリジェンスのレビューを行い、実戦力を確認します。
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名		著者名
	1	『今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎』 ISBN：978-4-907341-00-8（必須。授業では毎回の教科書を使用しますので、必ず購入してください。）		金融知力普及協会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名		著者名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>下記のとおり、本科目への取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験 : 20% (知識の正確性を評価します。) ・ 課題レポート : 50% (自分で考え、問題解決する能力を評価します。) ・ 平常点 : 30% (全体の受講状況と受講態度、質疑応答などを評価します。「出席点」ではありません。) 			
学生への メッセージ	<p>本講義でより高い成果を得るためには、下記の二点が非常に重要なポイントです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 受講内容の復習を行い、身近な経済・時事問題などに疑問を持って考えること。 ② 最終回までに表計算ソフト「エクセル」で出題されるレポートの必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。 			
担当者の 研究室等	11号館1階(教務課)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、SMBC日興証券グループによる「寄附講座」です。 ・「事前・事後学習課題」について 予習(シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む)：30分程度 復習(講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する)：30分程度 ・当然の前提として、単位取得するには全講義を静かに聴講すること。 私語が多い者、授業の妨げとなる者は容赦なく退席させる。 			

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名(英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマニエールの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。																
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。																
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に1度、90分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>活動場所は、寝屋川市内の小学校、寝屋川市教育委員会関連団体、共学センター、交野市役所、門真市役所、ささみ町役場、寝屋川青年会議所等の主催・共催事業。第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。</p> <p>事前教育①～⑨回分： ①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて ②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ ③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ ④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ ⑤安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ ⑥コミュニケーションスキルA：対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ ⑦コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ ⑧コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ ⑨コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方</p> <p>活動（90分×20回分）： 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践</p> <p>事後教育（90分）： 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前（2016年2月に実施）に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の4点を総合的に判断して評価する。																
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																
備考	第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。																

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	本授業はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適正を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」を初めて履修する学生を対象とする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前教育1 (4月12日火曜日6時限目:1134教室) 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前教育2 (4月19日火曜日6時限目:1134教室) マナー講座・小中学校の教育現場について(学外講師を含む)</p> <p>事前教育3 (4月26日火曜日6時限目:1134教室)「守秘義務」の意味とその内容について(教育委員会からの学外講師)</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動1~25 受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 (1月中~下旬)に、活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前教育1~3(4月12日、4月19日、4月26日)は6時限目に1134教室で授業。事前教育授業に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室) 7号館4階(浦野研究室) 7号館3階(吉田研究室) 7号館3階(朝日研究室) 7号館3階(林研究室)																
備考	第1回目事前授業を4月12日(火)に第6時限目1134教室で行います。必ず出席してください。																

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名(英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	本授業はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適正を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、昨年度「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生のみが登録できる。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前教育1 (4月12日火曜日6時限目:1134教室) 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前教育2 (4月19日火曜日6時限目:1134教室) マナー講座・小中学校の教育現場について(学外講師を含む)</p> <p>事前教育3 (4月26日火曜日6時限目:1134教室)「守秘義務」の意味とその内容について(教育委員会からの学外講師)</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動1~25 受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 (1月中~下旬)に、活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前教育1~3(4月12日、4月19日、4月26日)は6時限目に1134教室で授業。事前教育授業に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室) 7号館4階(浦野研究室) 7号館3階(吉田研究室) 7号館3階(朝日研究室) 7号館3階(林研究室)																
備考	第1回目事前授業を4月12日(火)に第6時限目1134教室で行います。必ず出席してください。																

科目名	マーケティングと歴史	科目名(英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。 学科の学習・教育目標との対応：[II]																																																																		
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式を基本としますが、実態分析にも力を入れます。																																																																		
科目学習の効果(資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>マーケティングについて解説していきます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>製品政策</td> <td>ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>価格政策</td> <td>価格の設定方法について考えます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>流通チャネル政策</td> <td>商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>販売促進政策</td> <td>商品のアピールの仕方について考えます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>マーケティングのSTPアプローチ</td> <td>市場細分化について考えます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>消費行動</td> <td>消費者の購買意思決定過程について考えます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>マーケティングの歴史的な研究と三井越後屋</td> <td>マーケティングにおける歴史的な研究と三井越後屋の商法について説明していきます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>呉服商の流通機構</td> <td>呉服商の流通機構について、概説していきます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>越後屋の仕入機構(1)</td> <td>三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>越後屋の仕入機構(2)</td> <td>三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構</td> <td>いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>呉服商から百貨店へ</td> <td>呉服商から百貨店への変遷について概説します。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>百貨店業態の成立</td> <td>百貨店について、説明していきます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>全体のまとめをします。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。	2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。	3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。	4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。	5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。	6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。	7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。	8	マーケティングの歴史的な研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的な研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。	9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。	10	越後屋の仕入機構(1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。	11	越後屋の仕入機構(2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。	12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。	13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。	14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。	15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。																																																																
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。																																																																
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。																																																																
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。																																																																
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。																																																																
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。																																																																
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。																																																																
8	マーケティングの歴史的な研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的な研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。																																																																
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。																																																																
10	越後屋の仕入機構(1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。																																																																
11	越後屋の仕入機構(2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。																																																																
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。																																																																
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。																																																																
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。																																																																
15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。																																																																
関連科目	マーケティング論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大規模呉服商の流通革新と進化―三井越後屋における商品仕入体制の変遷―</td> <td>武居奈緒子</td> <td>千倉書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大規模呉服商の流通革新と進化―三井越後屋における商品仕入体制の変遷―	武居奈緒子	千倉書房	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大規模呉服商の流通革新と進化―三井越後屋における商品仕入体制の変遷―	武居奈緒子	千倉書房																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>史料が語る三井のあゆみ―越後屋から三井財閥―</td> <td>三井文庫編</td> <td>吉川弘文館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>消費行動</td> <td>武居奈緒子</td> <td>晃洋書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	史料が語る三井のあゆみ―越後屋から三井財閥―	三井文庫編	吉川弘文館	2	消費行動	武居奈緒子	晃洋書房	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	史料が語る三井のあゆみ―越後屋から三井財閥―	三井文庫編	吉川弘文館																																																																
2	消費行動	武居奈緒子	晃洋書房																																																																
3																																																																			
評価方法(基準)	期末テストの成績70%、授業内課題30%																																																																		
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましよう。																																																																		
担当者の研究室等	武居教授室																																																																		
備考																																																																			

科目名	チームビルディング	科目名(英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武

授業概要・目的	<p>成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2 年生以降に摂南大学 PBL プロジェクトを履修する際にも役立つ。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：工学部 [A], 理工学部 [II]</p>
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果(資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	チームビルディングとは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介ワーク ・チームビルディングの理論を学ぶ ・チームビルディングのための技能を知る 	チームにどのように貢献できるかを考える。
3	チームビルディング体験	<ul style="list-style-type: none"> ・ベーパータワーワーク (予定) ・チームの 10 カ条 などに取り組み、チームビルディングを体験する 	チームでの取り組みを振り返る。
4	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける 	配布資料を熟読する。
5	学習するためのチームづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ 	配布資料を精読する。
6	話し合う技術	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム話し合う際の技術を学ぶ 	配布資料を熟読する事
7	ビジネス記事を活用したディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> ・記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える 	チームでのディスカッションを振り返る。
8	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ①	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークに取り組み、情報の読み取りと活用、提案することを学ぶ 	チームにどのように貢献できるかを考える。
9	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ②	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでニッポンの課題の解決策を考える 	チームにどのように貢献できるかを考える。
10	チームでプロジェクトを企画する	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の中間おさらい ・ヒーローインタビュー ・チームでプロジェクトを企画する 	チームにどのように貢献できるかを考える。
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介①	<ul style="list-style-type: none"> ・本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介 	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
12	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介②	<ul style="list-style-type: none"> ・本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介 	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
13	工程管理を意識したチームビルディング	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスゲームを題材にリソースとコスト、工程管理を意識したワークに取り組む 	工程管理に関して調べる。
14	プロジェクトのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・第●回目の課題の報告プレゼンテーション 	プレゼンテーションの際に留意することを考える。
15	講義のまとめと振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・講義のおさらいと振り返りを行う 	提出物などの出し忘れがないか確認する。

関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 ・キャリアデザイン I・II、摂南大学 PBL プロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	チームでの提出物 25%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、最終レポート 45% で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野研究室)
----------	------------------------

備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。
----	---------------------

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥野 竜平

教養科目

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生(大学3年)を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)環境問題/意識についての体験をする。(4)企業における品質問題を体験する。(5)原価管理の基礎知識を修得する。(6)PDCAサイクルによる課題解決を体験する。 学科の学習・教育到達目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]
授業方法と留意点	パナソニック(株)より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック(株)の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。摂大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁です。なお、2~6回目までは120分授業とする。
科目学習の効果(資格)	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	開講にあたって<検討中> 4月7日(木)	講義の受け方、報告書やプレゼン等の成果公表の基礎知識、重要性を習得する	開講にあたっての講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
2	企業・製造業・仕事の基本とは① 4月14日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
3	企業・製造業・仕事の基本とは② 4月21日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
4	企業・製造業・仕事の基本とは③ 5月28日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本①~③の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
5	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5月12日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
6	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5月19日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本④~⑤の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
7	品質教育① 5月26日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する(座学と実習)	-----
8	品質教育② 6月2日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する(座学と実習)	品質教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
9	原価・コスト教育① 6月9日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
10	原価・コスト教育② 6月16日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
11	原価・コスト教育③ 6月23日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
12	課題解決教育① 6月30日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
13	課題解決教育② 7月7日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
14	課題解決教育③ 7月14日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①~③の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途) また、14回目までの講義を総括して、最終回での質問事項を考えておくこと
15	全体討議・質疑応答 7月21日(木)	14回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目 『ものづくりインターンシップ実践』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題レポート(6回)と受講レポート50%、授業姿勢(積極性)20%、全体討議(プレゼンテーション)10%、期末試験20%とした総合評価を行う。			
学生への メッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック(株)と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」を同時に受講することが前提です。			
担当者の 研究室等	1号館4階 奥野教授室			
備考	毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回1時間程度。 レポート各回3時間程度、プレゼン準備と期末試験のための学習20時間程度。 パナソニック講師：佐藤哲志、山下秀行、斎藤遵、高岡清			

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川野 常夫

教養科目

授業概要・目的	本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」で、実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナー、現地の予備知識(社会・文化等)、協同作業能力などを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化の中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態、持続可能な開発の在り方を学ぶほか、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人たちと交流・研究する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。?
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。講義室内ではできるだけ、日本語を使わないようにする。2, 3回、スカイプにより現地の人とのコミュニケーションを行う。授業日によっては「ものづくり系」と「サステイナブル(開発・建築・デザイン)系」が分かれて実習を行う。
科目学習の効果(資格)	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEIC や英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。?海外における実体験ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス, 海外渡航手続き概要, 英語コミュニケーション1	パスポート, チケット予約(航空機, ホテル), 保険, 海外渡航準備, 英語による自己紹介	今回の課題レポート作成 次回の英語による自己紹介の準備
2	海外事情, 日系企業のグローバル化, 英語コミュニケーション2	英語による自己紹介発表, 海外の文化, 経済, グローバル化事情	今回の課題レポート作成 研修先の英字新聞の調査
3	研修先 事前調査, 英語コミュニケーション3	英字新聞記事の調査, 文化, 歴史, 経済事情, 企業・大学	今回の課題レポート作成 格差社会の調査
4	格差社会の問題	これからのグローバル人材として必要な素養を考える, ビデオ鑑賞など	今回の課題レポート作成 格差社会の問題についてレポート提出 英語による日本の紹介準備
5	社会人基礎力, 英語コミュニケーション4	社会人として必要な基礎力, 英語による日本の紹介発表	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
6	英語コミュニケーション5	海外渡航, 海外生活, 大学紹介, 専門科目の紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
7	英語コミュニケーション6	研修先企業, 大学の調査, 英語による発表, 英語によるワークショップなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
8	英語コミュニケーション7	海外研修を想定したグループ実習1, テクノセンター見学, ヒヤリングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
9	英語コミュニケーション8	海外研修を想定したグループ実習2, テクニカルニュースのリスニングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
10	英語コミュニケーション9	海外研修を想定したグループ実習3, テクニカルニュースの発表など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
11	英語コミュニケーション10	海外研修を想定したグループ実習4, 英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
12	英語コミュニケーション11	海外研修を想定したグループ実習5, 英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
13	マナー実習	挨拶, 礼儀, 服装, ミーティング, 質疑, 懇親会, 感謝, 気配り, 機転	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
14	海外渡航, 海外生活	渡航準備, 入出国, 習慣, 食生活, 健康管理	今回の課題レポート作成 成果発表の準備
15	英語による成果発表	まとめ	成果発表の反省

関連科目: ものづくり海外インターンシップ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本企業が欲しが「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版
2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社
3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店

評価方法(基準): 課題レポート60%, 取組み姿勢20%, 成果発表20%として評価を行う。

学生へのメッセージ: これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。

担当者の研究室等: 1号館4階 川野教授室
12号館7階 白鳥准教授室

備考: 【事前事後学習】レポート作成, 復習の学習時間: 20時間程度
【共同担当者】 諏訪教授, 白鳥准教授, 石田准教授, 理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部 [A]，理工学部 [II]
到達目標	自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようにする。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよいと考える。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果（資格）	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。	
3	犯罪はなぜ起こるのか？ どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。	
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？ どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。	
5	街頭犯罪—ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。	
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最新の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。	
7	性犯罪—街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。	
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。	
9	ストーカー、DV（配偶者からの暴力）	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。	
10	詐欺—高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。	
11	サイバー犯罪—子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。	
12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。	

	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	関連科目			
法学部「刑事政策」「経済刑法」				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、講義毎回の確認ペーパー30%、受講態度（投げかける質問に対する発言など）10%で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できることからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえるとと思う。			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室			
備考				

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	奥野 竜平

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。																		
到達目標	(1)生産革新・改善を体験する。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験する。(3)チームワーク・QCD問題を体験する。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。 学科の学習・教育到達目標との対応：[II]																		
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック(株)人材開発カンパニーで、計7日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 ものづくりインターンシップ基礎のまとめ、インターンシップIIの準備 7/9(木) 6限目 ・2回目 ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導 7/16(木) 6限目 <p>宿泊実習(パナソニック人材開発カンパニー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～3日目 【授業テーマ】 生産革新演習 【内容・方法等】 1個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】 演習終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・4～5日目 【授業テーマ】 モノづくりシュミレーション演習 【内容・方法等】 四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得(設計～生産)し、目標達成のためのチームワーク・QCD問題意識の重要性を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習】 演習終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・6日目 【授業テーマ】 工場見学 【内容・方法等】 パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2工場) 【事前・事後学習課題】 見学終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・7日目 【授業テーマ】 研修成果報告会 【内容・方法等】 研修成果報告会の実施。(グループ単位) 【事前・事後学習課題】 グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと <p>実習中指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月3日(土) 1～4限目 プレゼンテーション指導 <p>実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 体験報告書の添削指導 ・2回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導 ・4回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導 ・5回目 研修成果報告会(2回目) ・6回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・7回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評 																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	実習成果40%、研修成果報告会(2回)20%、実習最終レポート10%、体験報告書10%、実習・授業態度20%とした総合評価を行なう。																		
学生へのメッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。																		

担当者の研究室等	奥野教授室（1号館4階）
備考	<p>期間：2016年8月29日（月）～9月2日（金）、9月5日（月）～9月6日（火） パナソニック（株）人材開発カンパニーでの宿泊研修です。9月3日（土）には摂大でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック㈱社員の朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。</p> <p>【事前事後学習】 レポート作成、プレゼン準備としての学習時間：20時間程度。</p> <p>【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫</p>

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名 (英文)	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	川野 常夫

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。業種は製造業（機械・電気系）、または建設業（建築・デザイン系）とする。研修先はとりわけ東南アジアとする。研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。																		
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。																		
授業方法及び留意点	東南アジアは、フィリピン2箇所とタイ1箇所（合計3箇所）を予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約10日間（予定）の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班）」の受講を必須とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導 ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など</p> <p>海外実習 ・1～2日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学（英語）研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・3日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習／ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の川上である企画・設計部門、または建築・デザイン部門。（グループ演習） 【事前・事後学習】実習終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・4～5日目 【授業テーマ】製造工場見学、建築・デザイン作品見学、交流会 【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地従業員、大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・6～8日目 【授業テーマ】製造系実習、または建設系のワークショップなど 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など、または建設系の建築・デザインワークショップなど。（グループ演習） 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・9～10日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位でPPTでプレゼン、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出のこと</p> <p>実習後指導 ・1回目 最終レポート（体験報告書）の添削指導 ・2回目 成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・4回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</p>																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル</td> <td>内永ゆか子</td> <td>朝日新聞出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>旅の英会話伝わるフレーズ集</td> <td>ニック・ウィリアムソン</td> <td>ナツメ社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版</td> <td>高橋書店編集部</td> <td>高橋書店</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版	2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社	3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版																
2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社																
3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店																
評価方法（基準）	海外現地研修 60%（実習記録簿 20%、実習・授業態度 20%、実習成果プレゼン 20%）、実習前後の学習 5%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会（2回）15%として評価を行う。																		
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班）」の受講を必須とする。																		
担当者の研究室等	1号館4階 川野教授室、諏訪教授室 1号館3階 伊藤教授室、石田准教授室 12号館7階 白鳥准教授室																		
備考	【注意事項】研修予定期間：2016年8月中旬（研修先の都合により変更する場合があります。） 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間：20時間程度 【共同担当者】伊藤教授、石田准教授、諏訪教授、白鳥准教授、理工学部インターンシップ委員会委員																		

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名(英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵

教養科目

授業概要・目的	グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れている。「境界線」も一つの視野では理解できない。さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ(多様性)を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティ・マネジメントをジェンダー視点で俯瞰することが目的である。
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果(資格)	・ダイバーシティ・マネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ	・事前学修：ダイバーシティに関して、調べる。 ・事後学修：身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成する。
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修：私たちの周りにおける伝統や習慣について考える。 ・事後学修：「ウチとソト」に関するレポートを作成する。
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学	・事前学修：フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べる。 ・事後学修：ジェンダー視点に関するレポートを作成する。
4	日本の近代化	・明治の落とし物	・事前学修：明治・大正・昭和の歴史年表を作成する。 ・事後学修：明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成する。
5	国際統計比較①	・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修：国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考える。 ・事後学修：国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成する。
6	性役割の形成①	・発達段階における「刷り込み」	・事前学修：性役割を理解し、幼児期から振り返る。 ・事後学修：自らの「刷り込み」体験に関するレポートを作成する。
7	性役割形成②	・結婚と母性信仰	・事前学修：共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考える。 ・事後学修：自らの結婚観に関するレポートを作成する。
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成	・事前学修：日本と世界を比較しながら、女性労働について考える。 ・事後学修：M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成する。
9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダー・マネジメント	・事前学修：ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べる。 ・事後学修：ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成する。
10	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	・事前学修：アサーティブネスについて調べる。 ・事後学修：アサーティブに話す練習をする。
11	アサーティブネス理論②	・スキルを身に付ける	・事前学修：アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考える。 ・事後学修：アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成する。
12	国際統計比較②	・男女共同参画社会とは	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べる。 ・事後学修：男女共同参画社会に関して自分の意見をまとめ、レポートを作成する。
13	ダイバーシティ・マネジメント①	・企業比較	・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティ・マネジメントについて、事例研究する。 ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティ・マネジメントに関するレポートを作成する。
14	ダイバーシティ・マネジメント②	・プレゼンテーション	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習する。 ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習する。
15	まとめ		・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめる。 ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめる。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>共に学ぶ女性学 ー明日を共に生きるためにー</td> <td>石井三恵</td> <td>泉文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	共に学ぶ女性学 ー明日を共に生きるためにー	石井三恵	泉文堂	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	共に学ぶ女性学 ー明日を共に生きるためにー	石井三恵	泉文堂													
	2																
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ (20%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論にあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名(英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。 ・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害(マルチ商法)、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。 ・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。 ・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。 ・犯罪被害者を論ずる前に、講義の数回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。 ・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」(教養)でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「被害者」概念について説明できるようになる。 ・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できるようになる。 ・犯罪被害者の支援制度について理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答も随時行いたい。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・方が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。 ・公務員や法律事務所などへの就職に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義 	事前:「犯罪被害者」について調べてみよう 事後:重要事項をまとめる
2	「犯罪者」をめぐる諸問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「犯罪者」の刑事責任 ・刑罰の正当化根拠 ・厳罰化をめぐる諸問題 	事前:前回の復習 事後:重要事項をまとめる
3	犯罪被害の告訴・告発と証拠収集 犯罪捜査への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・告訴と告発の方法 ・証拠保全 ・犯罪被害者に対するメディアスクラム ・報道による被害(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネット) ・被害者連絡制度 ・被害者側からの問い合わせ ・被害者からの事情聴取 ・警察と検察によるカウンセリング体制 	事前:前回の復習 事後:重要事項をまとめる
4	加害者との示談	<ul style="list-style-type: none"> ・示談の意義 ・示談が与える影響 ・示談慰謝料の算定 	事前:前回の復習 事後:重要事項をまとめる
5	加害者の不起訴と検察審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・検察審査会 ・検察審査員 ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度 	事前:前回の復習 事後:重要事項をまとめる
6	刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者による裁判傍聴 ・被害者による記録の閲覧と謄写 ・被害者の意見陳述 ・被害者等特定事項の非公開 	事前:前回の復習 事後:重要事項をまとめる
7	犯罪被害者参加制度	<ul style="list-style-type: none"> ・対象犯罪 ・被害者に認められる行為 ・参加の申出と参加時期 ・公判前整理手続への参加 ・被害者の証人尋問 ・被告人質問と意見陳述 	事前:前回の復習 事後:重要事項をまとめる
8	小テスト	第7回目までの理解度確認	事前:前回までの復習 事後:わからなかった箇所を再確認
9	損害賠償命令制度	<ul style="list-style-type: none"> ・制度の趣旨 ・対象犯罪 ・遺族による申立 ・請求対象とその範囲 ・管轄裁判所と申立期間 	事前:「犯罪被害者への経済支援」を調べよう 事後:重要事項をまとめる
10	被害者通知制度 犯罪被害者等給付金制度	<ul style="list-style-type: none"> ・加害者の施設内処遇と社会内処遇 ・加害者の仮釈放 ・犯罪被害者への経済支援制度 ・受給資格 ・支給要件と支給額 ・不服申立 	事前:前回の復習 事後:重要事項をまとめる
11	その他の経済的支援制度	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪被害者救済基金 ・交通事故犯罪 	事前:前回の復習 事後:重要事項をまとめる

	12	少年事件における被害者保護	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪による精神被害 ・少年法と犯罪被害者救済 ・少年事件における記録閲覧 ・少年審判の傍聴 ・少年事件での意見陳述 ・少年とその親に対する損害賠償 ・少年法と犯罪被害者救済 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	13	DV被害	<ul style="list-style-type: none"> ・DVとは何か ・配偶者による犯罪 ・DV被害者の保護と支援 ・保護命令 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	14	ストーカー被害	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる「ストーカー規制法」の概要 ・ストーカーへの行政処分 ・ストーカー犯罪の類型 ・ストーカーへの対応策 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	15	修復的司法	<ul style="list-style-type: none"> ・修復的司法の意義 ・わが国における修復的司法の展望 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時までに指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時までに指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	開講時までに指示する																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	・小テストおよび期末試験の成績を総合評価する。なお、質疑応答を交えた場合は、その応答内容をプラスの方向でのみ評価する。																			
学生への メッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。																			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室																			
備考	事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回0.5時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回1時間以上の復習に取り組むこと。																			

科目名	プレゼンテーション論	科目名(英文)	Presentation
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵

教養科目

授業概要・目的	現代社会における企業等のビジネス組織で用いられているプレゼンテーションに関する知識や技法についての基礎的理論を体系的に学習する。また、基本的コミュニケーションの在り方からスピーチの構成と実践に取り組み、次いでプレゼンテーションでの実践へと段階的に学習し、体得することを目的とする。
到達目標	1) 自己紹介等、自分のことを堂々と述べるようになる。 2) 相手を尊重したコミュニケーションの必要性を理解できるようになる。 3) 自分の伝えたいことを明確にし、それを伝えるための初歩的スキルを身に付けることができる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。個人のプレゼンテーションを繰り返すので、学んだことを実践に移す努力が必要である。そのためにプレゼンしている姿を撮影し、それを基に自分自身で改善していくことが望まれる。
科目学習の効果(資格)	コミュニケーションに対する理解が深まり、自主性を養うことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・プレゼンテーションの定義	・事前学修：プレゼンテーションの意味を考える。 ・事後学修：初歩的プレゼンテーションについてレポートを作成する。
2	自己紹介プレゼンテーション①	・漢字一文字で自分を表現する。	・事前学修：漢字一文字表現を練習する。 ・事後学修：漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考える。
3	プレゼンテーションとコミュニケーション	・プレゼンはコミュニケーションの一部であること、それ以前にプレゼンターとしての人間の要素を高めることの必要性を学ぶ。	・事前学修：漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。 ・事後学修：コミュニケーション思考についてレポートを作成する。
4	プレゼンテーションの基本	・基本的スキルの提示、ならびにそれを高める努力の在り方を学ぶ。	・事前学修：プレゼンテーションの基本は何かを考える。 ・事後学修：自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
5	自己紹介プレゼンテーション②	・1分、3分という時間を使い切るプレゼンテーションを練習する。	・事前学修：初歩的プレゼンテーションレポートを振り返る。 ・事後学修：自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
6	プレゼンテーションの評価	・プレゼンテーションは評価されるものであることを理解し、その視点をアイデア会議で抽出する。	・事前学修：自己紹介プレゼンを修正する。 ・事後学修：評価の意味を考え、自己紹介プレゼンを評価する。
7	プレゼンテーションの構成	・プレゼンテーションの論理的組み立て方と校正方法を学ぶ。	・事前学修：評価から修正した自己紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修：自己紹介プレゼンをさらに評価し、修正したものを練習する。
8	評価表作成①	・グループワークの中で、アイデア会議で抽出したことを基に、評価表を作成する。	・事前学修：修正した自己紹介プレゼンをさらに練習する。 ・事後学修：グループ活動としての評価表作成を行う。
9	評価表作成②	・グループ活動で作成した評価表を基に、グループ内で自己紹介のプレゼンテーションを実際に評価し、調整し、完成する。	・事前学修：評価表作成を行う。 ・事後学修：グループ内で評価表に基づいた評価を行い、完成させる。
10	評価表作成③	・各グループで作成した評価表を発表し、本年度のプレゼン評価表を全体で完成する。 ・「良かった点・改善点」であるフィードバックの意味を理解する。	・事前学修：評価表を完成させる。 ・事後学修：フィードバックの必要性に関してレポートを作成する。
11	紹介プレゼンテーション①	・紹介したいモノを選択し、各自で紹介プレゼンテーションの作成をする。	・事前学修：紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修：紹介プレゼンを練習する。
12	紹介プレゼンテーション②	・紹介プレゼンテーションを評価表を基に完成させる。	・事前学修：紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修：作成した評価表が機能するか、紹介プレゼンで確かめる。
13	紹介プレゼンテーション③	・グループ内発表、全体発表を繰り返し、評価表に記入する。 ・個人プレゼンのテーマを決め、実際に練習する。	・事前学修：紹介プレゼンを完成させる。 ・事後学修：個人プレゼンを完成させる。
14	フィードアフォード	・「良かった点・改善すべき点」のフィードバックを受け、フィードフォワードとする意味を理解する。	・事前学修：個人プレゼンを完成させる。 ・事後学修：個人プレゼンに関して改善レポートを作成する。
15	まとめ	・まとめワーク。 ・個人プレゼン発表。	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名												
	番号	書籍名	著者名	出版社名													

	1	プレゼンテーション ZEN 第2版	ガー・レイノルズ	丸善出版
	2			
	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション (50%)、レポート (50%) で評価し、総点の 60% で合格とする。			
学生への メッセージ	人前で話すこと、意見を述べるのが得意な人は決して多くはありません。しかしながら、社会人ともなればコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が問われます。不得意だという意識を変え、自分なりに取り組む方法を覚え、練習を重ねていくことによって、以前とは異なった自分自身を発見できるでしょう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	日常の謎を解く心理学	科目名(英文)	Psychology to Clear Up Everyday Mysteries
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 幸志

授業概要・目的	「なぜ、占いを信じてしまうのか?」、「急いでいるときにかぎって、電車が来ないのはなぜか?」、「なぜ、あの人は第一印象が良いのか?」、「テストの後、隣の人と答えが一緒だとなぜホッとするのか?」など日常には、あまり重要ではない小さな謎が多く存在する。この授業では、このような一見どうでもいいような疑問を心理学の科学的分析から簡単に解説していく。日常生活における小さな謎を解くことで、社会科学的な問題解決方法を身につけることと知識を身につけることを目的とする。
到達目標	1)日常の中の謎を理解する。2)その謎を解く方法を見つける。3)実際に、「あるある体験」のメカニズムを解き明かしていく。
授業方法と留意点	パワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。第1回授業で授業ルールなどについて説明するので必ず参加すること。毎回プリントをwebにて事前に配布する。
科目学習の効果(資格)	人間の態度および行動を記述・説明するための基本的な方法、理論を修得することで、社会科学的な学習に対する理解を深める。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・心理学的な考え方	授業内容、授業方法について説明します。 心理学の分析手法	学習内容の復習
	2	人の知覚と認知①	なぜ、占いを信じてしまうのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	3	人間の知覚と認知②	悪口はなぜよく聞こえるのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	4	人間の知覚と認知③	急いでいるときにかぎって、電車が来ないのはなぜか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	5	人間の知覚と認知④	テストの後、隣の人と答えが一緒だとなぜホッとするのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	6	心理と人間関係①	なぜ、あの人は第一印象が良いのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	7	心理と人間関係②	偶然を勝手に運命を感じる時	事前資料による予習 授業内容の復習
	8	心理と人間関係③	最初は嫌いだったのに、今は好き	事前資料による予習 授業内容の復習
	9	心理と人間関係④	あばたもえくぼなのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	10	心理と人間関係⑤	落ち込んでいるときこそ、チャンス	事前資料による予習 授業内容の復習
	11	心理と対人行動①	なぜ、あの人の言うことに従ってしまうのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	12	心理と対人行動②	あの商品が欲しくなる理由	事前資料による予習 授業内容の復習
	13	心理と対人行動③	なぜ自分の予言は当たるのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	14	心理と対人行動④	とても会いたいから会いたいのか? 会えないから会いたいのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	15	まとめ	心理学的考察のまとめ	授業内容の復習

関連科目 各学部で開講されている「心理学Ⅰ」や「人間力と心理」と関連する。事前に基礎的な心理学を受けておくことが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 定期試験(100%)の結果で評価します。60%で合格とする。

学生へのメッセージ 日常生活の中にはあまり重要ではない小さな謎が多く存在する。この授業では、そのような一見どうでもいいような疑問を心理学の科学的分析から簡単に解説していく。

担当者の研究室等 11号館7階 牧野(幸)准教授室

備考 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
他人の迷惑となる行為(遅刻、私語、居眠り、内職、スマホ・携帯電話の使用など)をすべて禁止します。

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名(英文)	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢 芳昭

授業概要・目的	ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎的知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。
到達目標	教養としてのライフサイエンスの基礎的知識の理解
授業方法と留意点	配布資料に沿って、板書およびプロジェクターによる講義を行う。
科目学習の効果(資格)	生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	食品微生物学(村田)	微生物と生命・食糧・環境について解説する。	講義後に小論文を課す。
3	神経生物学(松川)	生命はどのようにして出現したのか、そしてそもそも生命とは何か考えてみよう。	講義後に小論文を課す。
4	分子生物学(川崎)	分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
5	環境分析学(青笹)	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
6	生命環境科学(長田)	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	講義後に小論文を課す。
7	細胞機能学(船越)	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポート、または確認小テストを課す。
8	環境毒性学(木村)	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
9	構造生物学(中嶋)	生体分子がもつ分子構造を機能の関わりについて解説する。	課題レポートを課す。
10	タンパク質科学(丸山)	タンパク質の生合成、分類、機能、解析方法などについて概説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
11	分子細胞制御学(西村)	多くの生命現象は「現在(いま)」を生きたためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
12	生体触媒科学(井尻)	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
13	病態薬理学(居場)	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
14	発生遺伝学(吉岡)	形態形成を中心にモデル生物を用いた応用研究についても解説する。	講義中にレポートを課す。
15	生体分子機能学(尾山)	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	確認小テストを課す。

関連科目	生物学概論、生化学 I、生物無機化学、生物統計学
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義中の積極性、各回のレポートや知識確認テスト、小論文などで総合評価する。
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科専任教員)
----------	-----------------------------

備考	
----	--

科目名	生命科学入門	科目名(英文)	Basics of Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大塚 正人

授業概要・目的	生命科学は、ウイルス、バクテリア、植物からヒトにいたるまでの生命の全体像を浮かび上がらせる学問分野であり、これまであまり生命科学になじみのなかった学生も社会常識として学ぶべき科目である。 本授業では、高校で生物学を学んだことが無い学生でも、生命科学の基礎を学び、生命科学が自分たちの生活にどのような形で関わっているかを幅広く学べるように講義する。
到達目標	・生命科学の基礎を理解し、種々の生命現象を理論的に説明できる。 ・課題(レポート)に対して自主的、継続的に取り組む能力を養う。
授業方法及び留意点	・毎回の講義終了時に出席票をかねたミニレポート(小テストを含む)を提出させる。 ・全講義終了後にレポートを提出させ、その内容を評価する。レポートの題材は、いずれかの回の講義内容に直結するものを受講生が探す。 ・独自の論考を加えたものについては、高い点を与える。 ・成績判定は出席とレポートの内容を総合して評価する。 ・欠席が3回以上の場合(初回を含めて)は、レポートの採点はおこなわない。

科目学習の 効果(資格)	
-----------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	人類はどうやって生まれてきたか	生命の起源から地球環境と生命の進化について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
3	細胞の成り立ちと遺伝の仕組み	細胞を構成する物質から遺伝子の転写翻訳、エピジェネティクス等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
4	進化の理論	ダーウィンの進化論・分子進化学・環境適応と進化等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
5	細胞が増える仕組み	増殖シグナルの伝達様式や細胞周期・染色体の分離と細胞分裂について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
6	性と生殖の不思議	生殖細胞と減数分裂及び幹細胞やES細胞・クローン、発生工学や遺伝子ノックアウト生物について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
7	老化と病	なぜ老化するのか?抗老化ホルモンやアルツハイマー病、狂牛病や夢のやせ薬について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
8	なぜ、がんになるのか?	がんをとりまく遺伝子や浸潤と転移の仕組み、がんの分子標的治療について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
9	生体防御と感染	免疫を担う細胞群や自然免疫・獲得免疫の仕組み、アレルギーやアトピー性皮膚炎について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
10	遺伝子医療と感染症	遺伝子診断とオーダーメイド医療や遺伝子治療、再生医療と感染性疾患、インフルエンザ等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
11	先端バイオ技術の応用	個人識別と犯罪捜査、遺伝子組換え植物や不毛の地の緑地化、青いバラ等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
12	ナノテクが拓くバイオの未来	ナノテクノロジー、ナノ医療、RNA創薬などについて説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
13	「植物の発生」	植物の基本体制や種子形成、発芽、分枝、植物ホルモン等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
14	人類はどこに行くのか	人類と科学技術、地球上の生命にとっての人類の役割、メタンハイドレート、核融合、バイオマス等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
15	エピローグ	この講義の総括、補習講義、全員による討論を行う。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生命科学の基礎	野島 博	東京化学同人
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	理系総合のための生命科学	東京大学生命科学教科書編集委員会	羊土社
2				
3				

評価方法(基準)	・定期試験(60%)、レポート(40%)、60%で合格とする。 ・リアクションペーパーにより、出席確認・講義に関する質問および要望を受け付けます。 ・欠席が3回以上の場合(初回を含めて)は、レポートの採点はおこなわない。
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	
----------	--

備考	
----	--

科目名	朝日新聞社寄付講座「現代社会と向き合う」	科目名(英文)	face modern society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荻田 喜代一

授業概要・目的 朝日新聞社の現役記者が講師として、様々な社会問題の読み解き方や論理的文章の書き方について講義する。異なるテーマについて、それぞれ学生との意見交換を経たうえで、小論文を作成する。論文は全員分を持ち帰って添削し、後日の講義で講評する。

到達目標 新聞を通じて、社会の諸問題についての理解を深めるとともに、文章力や自己表現力を磨き、学生の「社会力」を高める。

授業方法と留意点 新聞を全員に配布したうえで、講義と意見交換、小論文作成と添削・講評をセットにした授業を展開する。

科目学習の効果(資格) 現代社会への問題意識を深め、文章力や論理的思考力を向上させる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	新聞の読み解き方	講義の目標、進め方、評価方法の説明、新聞の読み解き方の説明	事前に新聞を読んでおく
2	論理的文章の書き方	論理的文章の書き方の説明	文章を書く習慣をつけておく
3	海外の若者事情	海外の若者事情について説明	難民問題などについて考えをまとめておく
4	同上	小論文作成	同上
5	同上	海外の若者事情について解説、意見交換	同上
6	同上	小論文の講評	同上
7	正規雇用と非正規雇用の是非	正規雇用と非正規雇用について説明	雇用問題について考えをまとめておく
8	同上	小論文作成	同上
9	同上	正規雇用と非正規雇用について解説、意見交換	同上
10	同上	小論文の講評	同上
11	少子高齢化と18歳選挙権	少子高齢化と18歳選挙権について説明	少子化・高齢化と選挙制度との関わりを調べておく
12	同上	小論文作成	同上
13	同上	少子高齢化と18歳選挙権について解説、意見交換	同上
14	同上	小論文の講評	同上
15	社会問題の読み解き方	社会問題の読み解き方について説明、総括レポート作成	様々な社会問題について考えをまとめておく

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 小論文3回×30点、総括レポート10点。100点満点で評価し60点で合格。

学生へのメッセージ 日常的に新聞を読む習慣をつけることで視野が広くなり、社会で生きる力を身につけることができます。

担当者の研究室等 教務部 教務課(寝屋川11号館1階)

備考

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治

授業概要・目的	<p><過疎地域における地域資源活用プロジェクト> 和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。 「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルを利用し、いわゆる住宅リニューアルのピフォーアフターを体験する。 具体的なイベントは未定であるが、地域の連携団体と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。 																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み1回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p> <p>以下の手順で実施する</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. テーマの情報共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て 5. 現地で加工、施工、組み立て開始 6. 装置・設備の完成 7. 試作装置・設備による実験評価 8. 実験結果の考察と改良 9. 改良した装置について評価実験・考察 10. 現地で再実験 11. 実験結果の考察と改良 12. 最終実地評価と報告 <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないとイケないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>通常(週1回の)活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のピフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治

授業概要・目的	<p><過疎地域における地域資源活用プロジェクト> 和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。 「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルを利用し、いわゆる住宅リニューアルのピフォーアフターを体験する。 具体的なイベントは未定であるが、地域の連携団体と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。 																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み1回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の手順で実施する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマの情報共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て 5. 現地で加工、施工、組み立て開始 6. 装置・設備の完成 7. 試作装置・設備による実験評価 8. 実験結果の考察と改良 9. 改良した装置について評価実験・考察 10. 現地で再実験 11. 実験結果の考察と改良 12. 最終実地評価と報告 <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>通常(週1回の)活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のピフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子

授業概要・目的	<p>概要：本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、6年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2016年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ピオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ピオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップでの発表</p> <p>方法：授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日2・3限に行い、主として午前中は学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、午後は池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。学外発表の場として、近畿水環境交流会(7月)、天若湖アートプロジェクト(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、前期・後期末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科)																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%)</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみならずの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子

授業概要・目的	<p>概要：本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、6年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2016年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ピオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ピオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップでの発表</p> <p>方法：授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日2・3限に行い、主として午前中は学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、午後は池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。学外発表の場として、近畿水環境交流会(7月)、天若湖アートプロジェクト(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、前期・後期末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科)																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%)</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみならずの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	レポート、参加態度を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	レポート、参加態度を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也, 針尾 大嗣, 牧野 幸志, 山本 圭三

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト 産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の継続的運営、社会教育（男女共同参画や安心安全など）への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト 産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる</p> <p>【内容】 対象予定とするサブプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編（寝屋川市）、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、男女共同参画センターの認知度向上（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、自治体職員のITスキル測定と地域企業への教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河南町）などである。また、これらのサブプロジェクトを発展させていくために、海外への情報発信や比較調査、および、拡大展開も視野に入れて活動する。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也, 針尾 大嗣, 牧野 幸志, 山本 圭三

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト 産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の継続的運営、社会教育（男女共同参画や安心安全など）への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト 産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる</p> <p>【内容】 対象予定とするサブプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編（寝屋川市）、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、男女共同参画センターの認知度向上（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、自治体職員のITスキル測定と地域企業への教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河南町）などである。また、これらのサブプロジェクトを発展させていくために、海外への情報発信や比較調査、および、拡大展開も視野に入れて活動する。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 尾山 廣

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、地域資源を使った商品等を開発し、販売をしていく。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①由良町の地域資源を活用した商品開発を行う。 ②自ら考え行動できる力をつける。 ③チームで活動できる力をつける。
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ外向き現地調査や成果発表を行います。 また製品を製造してくれるメーカーに出向いたり、商品販売を行うために店頭に立つこともあります。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います</p> <p>2. 由良町の現状を学ぶ1 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町のWEBサイトを閲覧する 事後学習：総合戦略の報告書を理解する</p> <p>3. 由良町の現状を学ぶ2 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町の課題について報告書等で予習する 事後学習：総合戦略の報告書を理解し、自分なりにレポートにまとめる</p> <p>4. 現状と課題まとめ グループごとに発表を行います。 事前学習：発表の準備 事後学習：グループで課題整理と共有化</p> <p>5. 由良町の方とのディスカッション 由良町役場の方を交え、今後の由良町について意見交換を行います。 事前学習：自分の意見を発表できるようにする。 事後学習：意見交換した感想等をレポートにまとめる。</p> <p>6. マーケティング 商品開発について1 マーケティングの基礎を学びます。 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する</p> <p>7. マーケティング 商品開発について2 マーケティングの基礎を学びます 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する</p> <p>8. 地域資源の発掘 グループごとに地域資源について意見交換 事前学習：由良町の地域資源について調べる 事後学習：意見交換の結果をまとめる</p> <p>9. 地域資源で活用できるものの絞り込み グループで活用できる地域資源について意見交換 事前学習：意見交換結果をふまえ商品開発に使えるような地域資源を検討 事後学習：活用できるものを絞り込む</p> <p>10. 商品開発候補案作成 商品開発案の議論を行う 事前学習：商品開発のアイデアを考える 事後学習：グループで出された案をまとめる</p> <p>11. 現地調査 由良町に出向き現地の方にインタビュー調査を行います。 事前学習：現地で調べる内容をまとめる 事後調査：調査結果をレポートにまとめる</p> <p>12. 商品開発候補案の絞り込み グループごとに出された案からさらにしぼりこみを行います 事前学習：調査結果から商品候補を絞り込む 事後学習：絞り込みされた案を企画書にする</p> <p>13. 消費者ニーズ調査 事前学習：調査方法や質問項目を考える 事後学習：データ整理</p> <p>14. 調査とりまとめ 事前学習：データ打ち込み 事後学習：データ分析</p> <p>15. 商品の仕様検討 事前学習：データまとめ 事後学習：商品仕様、STPをまとめる</p> <p>16・試作 事前学習：試作先との調整 事後学習：試作品に対する自分の意見をまとめておく</p> <p>17. 試作評価 事前学習：類似商品を調べておく 事後学習：評価のまとめ</p>

	<p>18. 販売先の確保 事前学習：候補先のリスト作成 事後学習：販売先と調整</p> <p>19. 製品最終仕様の決定 事前学習：販売先の商品に対する意見聴取 事後学習：量産にむけての準備</p> <p>20. 販売促進方法の検討と実施 事前学習：販促案を考えてくる 事後学習：販促実施</p> <p>21. 製品販売開始 事前学習：接客方法などマスター 事後学習：販売に対するふりかえりを行う</p> <p>22. 現地での発表 事前学習：現地での発表準備 事後学習：総括、レポート作成</p>																
関連科目	各学部マーケティング関連科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング</td> <td>恩蔵直人</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域マネジメント戦略</td> <td>池田潔ほか</td> <td>同友館</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社														
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館														
3																	
評価方法 (基準)	プロジェクトへの参加度 30% 提出物 30% 最終レポート 40%																
学生への メッセージ	和歌由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、製品がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 尾山 廣

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、地域資源を使った商品等を開発し、販売をしていく。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①由良町の地域資源を活用した商品開発を行う。 ②自ら考え行動できる力をつける。 ③チームで活動できる力をつける。
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ外向き現地調査や成果発表を行います。 また製品を製造してくれるメーカーに出向いたり、商品販売を行うために店頭に立つこともあります。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います</p> <p>2. 由良町の現状を学ぶ1 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町のWEBサイトを閲覧する 事後学習：総合戦略の報告書を理解する</p> <p>3. 由良町の現状を学ぶ2 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町の課題について報告書等で予習する 事後学習：総合戦略の報告書を理解し、自分なりにレポートにまとめる</p> <p>4. 現状と課題まとめ グループごとに発表を行います。 事前学習：発表の準備 事後学習：グループで課題整理と共有化</p> <p>5. 由良町の方とのディスカッション 由良町役場の方を交え、今後の由良町について意見交換を行います。 事前学習：自分の意見を発表できるようにする。 事後学習：意見交換した感想等をレポートにまとめる。</p> <p>6. マーケティング 商品開発について1 マーケティングの基礎を学びます。 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する</p> <p>7. マーケティング 商品開発について2 マーケティングの基礎を学びます 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する</p> <p>8. 地域資源の発掘 グループごとに地域資源について意見交換 事前学習：由良町の地域資源について調べる 事後学習：意見交換の結果をまとめる</p> <p>9. 地域資源で活用できるものの絞り込み グループで活用できる地域資源について意見交換 事前学習：意見交換結果をふまえ商品開発に使えるような地域資源を検討 事後学習：活用できるものを絞り込む</p> <p>10. 商品開発候補案作成 商品開発案の議論を行う 事前学習：商品開発のアイデアを考える 事後学習：グループで出された案をまとめる</p> <p>11. 現地調査 由良町に出向き現地の方にインタビュー調査を行います。 事前学習：現地で調べる内容をまとめる 事後調査：調査結果をレポートにまとめる</p> <p>12. 商品開発候補案の絞り込み グループごとに出された案からさらにしぼりこみを行います 事前学習：調査結果から商品候補を絞り込む 事後学習：絞り込みされた案を企画書にする</p> <p>13. 消費者ニーズ調査 事前学習：調査方法や質問項目を考える 事後学習：データ整理</p> <p>14. 調査とりまとめ 事前学習：データ打ち込み 事後学習：データ分析</p> <p>15. 商品の仕様検討 事前学習：データまとめ 事後学習：商品仕様、STPをまとめる</p> <p>16・試作 事前学習：試作先との調整 事後学習：試作品に対する自分の意見をまとめておく</p> <p>17. 試作評価 事前学習：類似商品を調べておく 事後学習：評価のまとめ</p>

	<p>18. 販売先の確保 事前学習：候補先のリスト作成 事後学習：販売先と調整</p> <p>19. 製品最終仕様の決定 事前学習：販売先の商品に対する意見聴取 事後学習：量産にむけての準備</p> <p>20. 販売促進方法の検討と実施 事前学習：販促案を考えてくる 事後学習：販促実施</p> <p>21. 製品販売開始 事前学習：接客方法などマスター 事後学習：販売に対するふりかえりを行う</p> <p>22. 現地での発表 事前学習：現地での発表準備 事後学習：総括、レポート作成</p>																
関連科目	各学部マーケティング関連科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング</td> <td>恩蔵直人</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域マネジメント戦略</td> <td>池田潔ほか</td> <td>同友館</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社														
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館														
3																	
評価方法 (基準)	プロジェクトへの参加度 30% 提出物 30% 最終レポート 40%																
学生への メッセージ	和歌由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、製品がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博, 栗田 寿基, 長谷川 淳

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチのミニ鉄道を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場や小学校などで運転会を催す。 また、運転会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. 教員の指導の下に目標と計画を作る。 2. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設を製作する。 3. 計画からの遅れには対策を講じる。 4. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 5. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 6. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	プロジェクトの実施計画や進捗状況の把握程度(35%)、プロジェクト推進に対する貢献度(25%)、製作技術習得時の能動的態度(40%)について、ミーティングでの報告や作業時の態度で評価する。																
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																
担当者の研究室等	1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博, 栗田 寿基, 長谷川 淳

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチのミニ鉄道を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場や小学校などで運転会を催す。 また、運転会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. 教員の指導の下に目標と計画を作る。 2. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設を製作する。 3. 計画からの遅れには対策を講じる。 4. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 5. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 6. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	プロジェクトの実施計画や進捗状況の把握程度(35%)、プロジェクト推進に対する貢献度(25%)、製作技術習得時の能動的態度(40%)について、ミーティングでの報告や作業時の態度で評価する。																
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																
担当者の研究室等	1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 賢太郎

授業概要・目的	<p>テーマとしては、橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアデザイン教育である。橋梁模型ブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。エンジニアとして大切な要素である課題解決力・実践力・チームワーク力・協調性なども身につけさせる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。橋梁模型製作においてある制約条件の下、アイデアを出ししっかりとディスカッションでき、課題解決し計画通りに実行できる。チームワーク力を高めるように参加者には協調性なども学ぶ。また、これまで学習したことを復習し応用できる。</p>																
授業方法と留意点	<p>構造力学・鋼構造学などの座学に加え、AutoCAD の使用方法、橋梁模型およびポスター作成のデザイン能力、プレゼンテーション能力、解析ソフトウェアの使用などの知識・技術の習得が必要である。教科書を補足するプリントを随時配布し、進捗状況を確認しながら授業を進める。これまでの構造力学の教科書や計算機、メモ用紙を毎回持参するようにしてください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアデザイン教育 通年・前期1回、後期1回のコンペティション参加することである。 コンペティションへの参加に当たっては、0. 専門知識の習得（復習・新たに勉強）、1. 制約条件の確認、2. 構造形式を決定（調査・ディスカッションなどで）、3. 図面化、4. 解析ソフトウェアを用いた数値計算、5. 模型製作、6. ポスター作成、7. プレゼンテーションの資料作成、8. コンペティション参加、9. 成果報告および反省会を実施する。各項目では、しっかりとエビデンスを残し進捗状況を確認できるようにする。</p> <p>・大きく分けて前期1回、後期1回のコンペティション参加 「前期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、解析により数値計算 ・図面化 ・プレゼンテーション資料・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、前期で目標にしているコンペティションへ参加</p> <p>「後期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、図面化 ・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、後期で目標にしているコンペティションへ参加</p>																
関連科目	構造力学基礎、構造力学基礎演習、構造力学Ⅰ・Ⅱ、鋼構造学、CAD実習																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基本を学ぶ構造力学</td> <td>崎元達郎</td> <td>森北出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新編 橋梁工学</td> <td>中井博・北田俊行</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基本を学ぶ構造力学	崎元達郎	森北出版	2	新編 橋梁工学	中井博・北田俊行	共立出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	基本を学ぶ構造力学	崎元達郎	森北出版														
2	新編 橋梁工学	中井博・北田俊行	共立出版														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)</td> <td>日本道路協会編</td> <td>日本道路協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)	日本道路協会編	日本道路協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)	日本道路協会編	日本道路協会														
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>上記の到達目標に対して、計画をたてて、工程表を作成ししっかりと役割分担表を作成する。計画通りに進んでいるか、また計画通りに進んでいない場合は、どういうふうを考えて乗り越えたかなどの資料を残していく。プロジェクトにおける成果をまとめて資料を作成する。この作成した資料をみて評価する。まとめ資料は提出を求めないので、項目抜けがなく、かつ、丁寧に書くこと。</p>																
学生へのメッセージ	<p>参加するブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の面白さや楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。また、分野外の方の参加も大歓迎</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 田中准教授室																
備考	構造力学系の知識、CADの知識を復習または勉強すること。また、数値計算に慣れること。自らの手を動かして頑張りましょう。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 賢太郎

授業概要・目的	<p>テーマとしては、橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアデザイン教育である。橋梁模型ブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。エンジニアとして大切な要素である課題解決力・実践力・チームワーク力・協調性なども身につけさせる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。橋梁模型製作においてある制約条件の下、アイデアを出ししっかりとディスカッションでき、課題解決し計画通りに実行できる。チームワーク力を高めるように参加者には協調性なども学ぶ。また、これまで学習したことを復習し応用できる。</p>																
授業方法と留意点	<p>構造力学・鋼構造学などの座学に加え、AutoCAD の使用方法、橋梁模型およびポスター作成のデザイン能力、プレゼンテーション能力、解析ソフトウェアの使用などの知識・技術の習得が必要である。教科書を補足するプリントを随時配布し、進捗状況を確認しながら授業を進める。これまでの構造力学の教科書や計算機、メモ用紙を毎回持参するようにしてください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアデザイン教育 通年・前期1回、後期1回のコンペティション参加することである。 コンペティションへの参加に当たっては、0. 専門知識の習得（復習・新たに勉強）、1. 制約条件の確認、2. 構造形式を決定（調査・ディスカッションなどで）、3. 図面化、4. 解析ソフトウェアを用いた数値計算、5. 模型製作、6. ポスター作成、7. プレゼンテーションの資料作成、8. コンペティション参加、9. 成果報告および反省会を実施する。各項目では、しっかりとエビデンスを残し進捗状況を確認できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きく分けて前期1回、後期1回のコンペティション参加 「前期」 <ul style="list-style-type: none"> コンペティションの制約条件の確認 構造形式のディスカッション、解析により数値計算 図面化 プレゼンテーション資料・ポスターの作成、橋梁模型製作 橋梁模型製作、前期で目標にしているコンペティションへ参加 「後期」 <ul style="list-style-type: none"> コンペティションの制約条件の確認 構造形式のディスカッション、図面化 ポスターの作成、橋梁模型製作 橋梁模型製作、後期で目標にしているコンペティションへ参加 																
関連科目	構造力学基礎、構造力学基礎演習、構造力学Ⅰ・Ⅱ、鋼構造学、CAD実習																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基本を学ぶ構造力学</td> <td>崎元達郎</td> <td>森北出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新編 橋梁工学</td> <td>中井博・北田俊行</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基本を学ぶ構造力学	崎元達郎	森北出版	2	新編 橋梁工学	中井博・北田俊行	共立出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	基本を学ぶ構造力学	崎元達郎	森北出版														
2	新編 橋梁工学	中井博・北田俊行	共立出版														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)</td> <td>日本道路協会編</td> <td>日本道路協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)	日本道路協会編	日本道路協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)	日本道路協会編	日本道路協会														
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>上記の到達目標に対して、計画をたてて、工程表を作成ししっかりと役割分担表を作成する。計画通りに進んでいるか、また計画通りに進んでいない場合は、どういうふうを考えて乗り越えたかなどの資料を残していく。プロジェクトにおける成果をまとめて資料を作成する。この作成した資料をみて評価する。まとめ資料は提出を求めないので、項目抜けがなく、かつ、丁寧に書くこと。</p>																
学生へのメッセージ	<p>参加するブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の面白さや楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。また、分野外の方の参加も大歓迎</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 田中准教授室																
備考	構造力学系の知識、CADの知識を復習または勉強すること。また、数値計算に慣れること。自らの手を動かして頑張りましょう。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介、マイケル ハーキー

授業概要・目的	<p><寝屋川市における国際交流推進プロジェクト>と題し、寝屋川キャンパス周辺地域の国際交流や多文化共生を推進する講演、パフォーマンス、交流会等のイベントを企画、運営するPBL授業です。</p> <p>NPO法人寝屋川市国際交流協会(NIEFA)と連携し、寝屋川市と米国ヴァージニア州・ニューポートニューズ市との姉妹都市交流をはじめ、寝屋川市内の様々な国際交流事業を支援します。両市の相互の訪問団派遣および受け入れ事業、街おこしイベント「新天地 in Neyagawa」等、NIEFAが手掛ける既存の事業への運営協力や広報活動に加えて、国際交流に関連する独自のイベントを企画、提案、実行します。過去2年間の「寝屋川市と米国ニューポートニューズ市の姉妹都市交流支援プロジェクト」を継承しながら、より幅広い国・地域出身の方々との交流を視野に入れます。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の非営利団体、自治体、企業、大学の相互連携について学び、社会人に相応しい責任感とコミュニケーション能力を身につけることが全履修者に共通の目標です。これに加え、各受講生が分担して受け持つ業務を通じて、アメリカ合衆国、その他対象地域に関する知識や実践的な英語コミュニケーション能力を高め、イベント運営や広告営業などの実地経験を積むことを目指します。</p>																
授業方法と留意点	<p>・年度を通じて定期ミーティングを行い、NIEFAをはじめとする協力団体、企業の方々とは調整しながら活動します。</p> <p>・多様な関心分野、得意分野を持った学生の履修を期待しています。たとえば、</p> <p>(1) 国際交流に関心があり、日本語を話せない外国人を相手に物怖じせず、簡単な英語でコミュニケーションがとれる人、またはとれるように努力する意欲のある人。</p> <p>(2) 多文化共生に関心があり、日本に在住または滞在している海外出身者と交流し、彼らの経験から学ぶ意欲のある人。</p> <p>(3) アメリカ合衆国やニューポートニューズ市について詳しく学ぶことに意欲のある人。翻訳に興味のある人。姉妹都市について学んで日本語で情報発信したり、寝屋川市のことを先方に英語で発信する人が必要です。</p> <p>(4) イベントの企画運営や広告営業など、学外の方々と共に仕事を進めることを経験し、社会人として働く力を高めたい人。履修者には各種のイベントを運営し、成功に導くスタッフとしての役割が期待されています。教室を離れて仕事の現場に飛び込む行動力のある人が必要です。</p> <p>(5) ウェブ制作やプレゼン資料作成、チラシ、ポスター等印刷物のデザインに興味のある人。情報発信のための技能を持った人が来てくれると助かります。</p> <p>(6) 協調性があるだけでなく、リーダーシップもとれる人。PBLは、学生が主体となって進めるものです。教員は、英語および翻訳の指導や事務処理についてのアドバイスをしますが、現場の要望を聞いて具体的な活動の中身を考え、実行し、フィードバックを受けて改善していくのは受講生の皆さん自身です。細かいプロジェクトごとにリーダーを決め、連絡を取り合いながらチームで動き、活動内容を定期的に教員に報告してもらいます。</p> <p>以上、どれか一つでも当てはまる人はぜひ履修を検討してください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月～5月中に数回のミーティングをNIEFAスタッフを交えて行い、いくつかの優先すべき活動内容を決めてそれぞれリーダーを選出し、活動に入ります。前期中にいくつかの小さなイベントの運営をして経験を積み、夏休み後9月～12月の間に大きなイベントを一つ企画、運営します。今年度はおそらく、ニューポートニューズ市からの市民訪問団の歓迎会が主要なイベントとなることが予想されます。翌年1月には年間の活動報告プレゼンテーションを行います。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>ミーティングへの出席、各業務におけるリーダーシップ、学外関係者との関係など、評価項目を列挙したルーブリックを用いた自己評価に加え、定期ミーティングでの活動報告や活動現場での取り組み姿勢をみて総合的に評価します。</p>																
学生へのメッセージ	<p>外国語学部教員が指導を担当していますが、異なる視点を持ち込んでくれる他学部生の履修は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	<p>7号館3階 鳥居研究室</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介、マイケル ハーキー

授業概要・目的	<p><寝屋川市における国際交流推進プロジェクト>と題し、寝屋川キャンパス周辺地域の国際交流や多文化共生を推進する講演、パフォーマンス、交流会等のイベントを企画、運営するPBL授業です。</p> <p>NPO法人寝屋川市国際交流協会(NIEFA)と連携し、寝屋川市と米国ヴァージニア州・ニューポートニューズ市との姉妹都市交流をはじめ、寝屋川市内の様々な国際交流事業を支援します。両市の相互の訪問団派遣および受け入れ事業、街おこしイベント「新天地 in Neyagawa」等、NIEFAが手掛ける既存の事業への運営協力や広報活動に加えて、国際交流に関連する独自のイベントを企画、提案、実行します。過去2年間の「寝屋川市と米国ニューポートニューズ市の姉妹都市交流支援プロジェクト」を継承しながら、より幅広い国・地域出身の方々との交流を視野に入れます。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の非営利団体、自治体、企業、大学の相互連携について学び、社会人に相応しい責任感とコミュニケーション能力を身につけることが全履修者に共通の目標です。これに加え、各受講生が分担して受け持つ業務を通じて、アメリカ合衆国、その他対象地域に関する知識や実践的な英語コミュニケーション能力を高め、イベント運営や広告営業などの実地経験を積むことを目指します。</p>																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・年度を通じて定期ミーティングを行い、NIEFAをはじめとする協力団体、企業の方々や調整しながら活動します。 ・多様な関心分野、得意分野を持った学生の履修を期待しています。たとえば、 (1) 国際交流に関心があり、日本語を話せない外国人を相手に物怖じせず、簡単な英語でコミュニケーションがとれる人、またはとれるように努力する意欲のある人。 (2) 多文化共生に関心があり、日本に在住または滞在している海外出身者と交流し、彼らの経験から学ぶ意欲のある人。 (3) アメリカ合衆国やニューポートニューズ市について詳しく学ぶことに意欲のある人。翻訳に興味のある人。姉妹都市について学んで日本語で情報発信したり、寝屋川市のことを先方に英語で発信する人が必要です。 (4) イベントの企画運営や広告営業など、学外の方々と共に仕事を進めることを経験し、社会人として働く力を高めたい人。履修者には各種のイベントを運営し、成功に導くスタッフとしての役割が期待されています。教室を離れて仕事の現場に飛び込む行動力のある人が必要です。 (5) ウェブ制作やプレゼン資料作成、チラシ、ポスター等印刷物のデザインに興味のある人。情報発信のための技能を持った人が来てくれると助かります。 (6) 協調性があるだけでなく、リーダーシップもとれる人。PBLは、学生が主体となって進めるものです。教員は、英語および翻訳の指導や事務処理についてのアドバイスをしますが、現場の要望を聞いて具体的な活動の中身を考え、実行し、フィードバックを受けて改善していくのは受講生の皆さん自身です。細かいプロジェクトごとにリーダーを決め、連絡を取り合いながらチームで動き、活動内容を定期的に教員に報告してもらいます。 <p>以上、どれか一つでも当てはまる人はぜひ履修を検討してください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月～5月中に数回のミーティングをNIEFAスタッフを交えて行い、いくつかの優先すべき活動内容を決めてそれぞれリーダーを選出し、活動に入ります。前期中にいくつかの小さなイベントの運営をして経験を積み、夏休み後9月～12月の間に大きなイベントを一つ企画、運営します。今年度はおそらく、ニューポートニューズ市からの市民訪問団の歓迎会が主要なイベントとなることが予想されます。翌年1月には年間の活動報告プレゼンテーションを行います。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>ミーティングへの出席、各業務におけるリーダーシップ、学外関係者との関係など、評価項目を列挙したルーブリックを用いた自己評価に加え、定期ミーティングでの活動報告や活動現場での取り組み姿勢をみて総合的に評価します。</p>																
学生へのメッセージ	<p>外国語学部教員が指導を担当していますが、異なる視点を持ち込んでくれる他学部生の履修は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	<p>7号館3階 鳥居研究室</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせ、および、門真市の民話に関する紙芝居の作成と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。</p>																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する読み聞かせボランティアのプロジェクトです。</p> <p>全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝屋川市役所や警察署のご担当者、門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。 ・毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 ・活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 ・門真市の民話を語り継ぐための紙芝居 門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼小学校での上演などが考えられる。さらに、門真市の民話をもとに第2弾の紙芝居を作成する。 ・その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)																
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市だけでも28回活動しました。さらに、夏休みも利用して紙芝居の作製を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。今年も同様にボリュームのある活動になると思いますが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。</p> <p>プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																
担当者の研究室等	7号館3階 外国語学部 天野貴史研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせ、および、門真市の民話に関する紙芝居の作成と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。</p>																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する読み聞かせボランティアのプロジェクトです。</p> <p>全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝屋川市役所や警察署のご担当者、門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。 ・毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 ・活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 ・門真市の民話を語り継ぐための紙芝居 門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、門真市の民話をもとに第2弾の紙芝居を作成する。 ・その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)																
学生へのメッセージ	昨年は寝屋川市だけでも28回活動しました。さらに、夏休みも利用して紙芝居の作製を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。今年も同様にボリュームのある活動になると思いますが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。																
担当者の研究室等備考	7号館3階 外国語学部 天野貴史研究室																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉, 佐井 英子

授業概要・目的	摂南大学近隣の小学生を対象に、北大阪商工会議所青年部と共同で、「こども株式会社 ジュニア・エコノミーカレッジ」を成功させる。本プロジェクトでは、小学生に起業・会社経営の体験を通して社会や経済・経営の仕組みを学ばせ、働くことの意味および素晴らしさを体験させる。学生は、小学生の指導・支援を通して、起業・会社経営に求められる考え方を身につける。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、本プロジェクトでは、以下の3項目を達成目標として設定する。 ① 小学生の指導・支援を通し、経営学の基本を学ぶのは当然であるが、他人に教えることの難しさを体験しながら、マネジメント能力やコミュニケーション能力、指導力、行動力を身につける。 ② イベントの立案、準備、実施を通し、責任感、協調性を身につける。 ③ 北大阪商工会議所青年部との交流、協働をとおして社会人としてのマナーやルールを体得する。																
授業方法と留意点	北大阪商工会議所青年部と共同で、寝屋川市、交野市、枚方市の小学生に株式会社を設立させる。また、北大阪商工会議所主催のイベントを企画する。プロジェクト実践のためのイベントの会場提供・設定等は、北大阪商工会議所が主体となって進めるが、小学生への指導は、学生が主体となって計画・実施するため、打ち合わせやイベントには、必ず出席すること。また、経営や生産の現場を知るために、関連企業を見学するので参加すること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマ：こども株式会社の設立と経営 内容：経営、マネジメント、経営戦術、会計等に関する基礎的な知識を学ぶ。 経営や生産の現場を知るために、企業見学を実施する。 小学生に、会社経営に必要な以下の知識を身につけさせる。 1. 小学生と友達になろう 2. 株式会社って何だろう 3. 株式会社をつくろう 4. 商売って何だろう。儲けてなんだろう 5. 経営計画をたてよう 6. マーケティングをしよう 7. 商品企画書の作成しよう 8. 銀行にお金を借りよう 9. 実際に販売してみよう 10. 帳簿をつけて決算書をつくろう 11. 税金を納めよう 12. 決算書を作成しよう 13. 経営報告会をしよう 講義方法：小学生に指導する前に、まず自分たちで上記のテーマを演習形式で学習し、その後担当ごとに分かれて活動する。 事前・事後学習課題：上記テーマ、イベントの結果報告等レポートを作成、提出する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業(イベントを含む)への参加度(70%)、プレゼンテーション(20%)、レポート課題(10%)により総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	積極的に参加し、履修者相互のコミュニケーション構築に努めてください。																
担当者の研究室等	11号館8階(栢木准教授室、佐井教授室)																
備考	必要に応じ適宜資料を配布します。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉, 佐井 英子

授業概要・目的	摂南大学近隣の小学生を対象に、北大阪商工会議所青年部と共同で、「こども株式会社 ジュニア・エコノミーカレッジ」を成功させる。本プロジェクトでは、小学生に起業・会社経営の体験を通して社会や経済・経営の仕組みを学ばせ、働くことの意味および素晴らしさを体験させる。学生は、小学生の指導・支援を通して、起業・会社経営に求められる考え方を身につける。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、本プロジェクトでは、以下の3項目を達成目標として設定する。 ① 小学生の指導・支援を通し、経営学の基本を学ぶのは当然であるが、他人に教えることの難しさを体験しながら、マネジメント能力やコミュニケーション能力、指導力、行動力を身につける。 ② イベントの立案、準備、実施を通し、責任感、協調性を身につける。 ③ 北大阪商工会議所青年部との交流、協働をとおして社会人としてのマナーやルールを体得する。																
授業方法と留意点	北大阪商工会議所青年部と共同で、寝屋川市、交野市、枚方市の小学生に株式会社を設立させる。また、北大阪商工会議所主催のイベントを企画する。プロジェクト実践のためのイベントの会場提供・設定等は、北大阪商工会議所が主体となって進めるが、小学生への指導は、学生が主体となって計画・実施するため、打ち合わせやイベントには、必ず出席すること。また、経営や生産の現場を知るために、関連企業を見学するので参加すること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマ：こども株式会社の設立と経営 内容：経営、マネジメント、経営戦術、会計等に関する基礎的な知識を学ぶ。 経営や生産の現場を知るために、企業見学を実施する。 小学生に、会社経営に必要な以下の知識を身につけさせる。 1. 小学生と友達になろう 2. 株式会社って何だろう 3. 株式会社をつくろう 4. 商売って何だろう。儲けてなんだろう 5. 経営計画をたてよう 6. マーケティングをしよう 7. 商品企画書の作成しよう 8. 銀行にお金を借りよう 9. 実際に販売してみよう 10. 帳簿をつけて決算書をつくろう 11. 税金を納めよう 12. 決算書を作成しよう 13. 経営報告会をしよう 講義方法：小学生に指導する前に、まず自分たちで上記のテーマを演習形式で学習し、その後担当ごとに分かれて活動する。 事前・事後学習課題：上記テーマ、イベントの結果報告等レポートを作成、提出する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業(イベントを含む)への参加度(70%)、プレゼンテーション(20%)、レポート課題(10%)により総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	積極的に参加し、履修者相互のコミュニケーション構築に努めてください。																
担当者の研究室等	11号館8階(栢木准教授室、佐井教授室)																
備考	必要に応じ適宜資料を配布します。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	安久 典宏, 黒澤 敏朗, 山本 圭三

授業概要・目的	<p>目的： 過去4年のPBL活動の実績を踏まえ、交野の魅力を伝え広めること。</p> <p>概要： PBL参加学生が主体となり、交野市(企画財政部)や「おりひめ大学(市民大学)」の市民による地域活性化を支援するための活動です。大きく3つのグループを通じて交野市の活性化を目指します。 ①<交野の産物・そば班>そばの栽培から収穫体験。酒粕やそば使った特産品を開発し、製造・販売委託先の開拓。 ②<イベント班>市民交流やアンケート調査の分析結果を次のイベントに役立てます。 ③<SNS班>PBL活動の情報発信、交野市の紹介プロモーションビデオ等の制作を行います。</p>																
到達目標	<p><共通到達目標> 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」「コミュニケーション力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指します。</p> <p><プロジェクト到達目標> PBL参加学生各自が本プロジェクトの目的を達成するため、集団の中で目標に向かって取り組むことで上述の社会人基礎力と「PDCA」サイクルの考え方・実践力を身に付けることです。</p>																
授業方法と留意点	<p>1. 連携先の関係者・グループとの意見交換を通じて、課題を明確にします。 2. PBL参加学生がどのような特産品を企画開発すればいいかについてのアンケート調査を行い、地元の生産者等にヒアリング(面接調査で、相手の話を聞くことを中心に情報収集する方法)調査を行います。 3. PBL参加学生が連携先の関係者の協力のもと、製造・販売委託先の開拓を計画的・自主的に行います。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. 集団意思決定のための技術の習得 KJ法(収集した多量の情報を効率よく整理するための手法)をはじめとする各種の意思決定、創造性開発の技法の演習を授業期間中に学内で行います。 2. アンケート調査の方法の習得 3. 6次産業に関する実践的学習 ※6次産業化とは-「地域資源」を有効に活用し、農林漁業者<1次産業従事者>がこれまでの原材料供給者としてだけでなく、自ら連携して加工<2次産業>・流通や販売<3次産業>に取組む経営の多角化を進めることで、農山漁村の雇用確保や所得の向上を目指すこと。 夏休みを利用して、農業産品の先進的な地域・プロジェクトの見学や実体験を行います。 4. 地域特産品に関する知識・情報の収集 先進的に特産品を創りだしている地域の調査を行います。</p>																
関連科目	「経営学」「マーケティング」、「市場調査」、「NPO」などに関わる科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「みんなの”かたの”基本構想」(2011)</td> <td>交野市</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-</td> <td>長坂 泰之</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-</td> <td>久繁 哲之介</td> <td>ちくま新書</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「みんなの”かたの”基本構想」(2011)	交野市		2	「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-	長坂 泰之	学芸出版社	3	「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-	久繁 哲之介	ちくま新書
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	「みんなの”かたの”基本構想」(2011)	交野市															
2	「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-	長坂 泰之	学芸出版社														
3	「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-	久繁 哲之介	ちくま新書														
評価方法(基準)	グループ作業が中心となるため、個人ごとの評価は簡単ではありませんが、諸活動への「参加度(回数、活動意欲、結果への貢献度、など)」をもとに評価します。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 安久研究室、7階 黒澤研究室、山本(圭)研究室																
備考	毎週金曜日の4限目と5限目に定例のミーティングを行いますが、テーマの性質上それ以外にも土曜日と日曜日の数日を使用して活動します。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	安久 典宏, 黒澤 敏朗, 山本 圭三

授業概要・目的	<p>目的： 過去4年のPBL活動の実績を踏まえ、交野の魅力を伝え広めること。</p> <p>概要： PBL参加学生が主体となり、交野市(企画財政部)や「おりひめ大学(市民大学)」の市民による地域活性化を支援するための活動です。大きく3つのグループを通じて交野市の活性化を目指します。 ①<交野の産物・そば班>そばの栽培から収穫体験。酒粕やそば使った特産品を開発し、製造・販売委託先の開拓。 ②<イベント班>市民交流やアンケート調査の分析結果を次のイベントに役立てます。 ③<SNS班>PBL活動の情報発信、交野市の紹介プロモーションビデオ等の制作を行います。</p>																
到達目標	<p><共通到達目標> 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」「コミュニケーション力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指します。</p> <p><プロジェクト到達目標> PBL参加学生各自が本プロジェクトの目的を達成するため、集団の中で目標に向かって取り組むことで上述の社会人基礎力と「PDCA」サイクルの考え方・実践力を身に付けることです。</p>																
授業方法と留意点	<p>1. 連携先の関係者・グループとの意見交換を通じて、課題を明確にします。 2. PBL参加学生がどのような特産品を企画開発すればいいかについてのアンケート調査を行い、地元の生産者等にヒアリング(面接調査で、相手の話を聞くことを中心に情報収集する方法)調査を行います。 3. PBL参加学生が連携先の関係者の協力のもと、製造・販売委託先の開拓を計画的・自主的に行います。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. 集団意思決定のための技術の習得 KJ法(収集した多量の情報を効率よく整理するための手法)をはじめとする各種の意思決定、創造性開発の技法の演習を授業期間中に学内で行います。 2. アンケート調査の方法の習得 3. 6次産業に関する実践的学習 ※6次産業化とは-「地域資源」を有効に活用し、農林漁業者<1次産業従事者>がこれまでの原材料供給者としてだけでなく、自ら連携して加工<2次産業>・流通や販売<3次産業>に取組む経営の多角化を進めることで、農山漁村の雇用確保や所得の向上を目指すこと。 夏休みを利用して、農業産品の先進的な地域・プロジェクトの見学や実体験を行います。 4. 地域特産品に関する知識・情報の収集 先進的に特産品を創りだしている地域の調査を行います。</p>																
関連科目	「経営学」「マーケティング」、「市場調査」、「NPO」などに関わる科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「みんなの”かたの”基本構想」(2011)</td> <td>交野市</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-</td> <td>長坂 泰之</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-</td> <td>久繁 哲之介</td> <td>ちくま新書</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「みんなの”かたの”基本構想」(2011)	交野市		2	「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-	長坂 泰之	学芸出版社	3	「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-	久繁 哲之介	ちくま新書
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	「みんなの”かたの”基本構想」(2011)	交野市															
2	「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-	長坂 泰之	学芸出版社														
3	「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-	久繁 哲之介	ちくま新書														
評価方法(基準)	グループ作業が中心となるため、個人ごとの評価は簡単ではありませんが、諸活動への「参加度(回数、活動意欲、結果への貢献度、など)」をもとに評価します。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 安久研究室、7階 黒澤研究室、山本(圭)研究室																
備考	毎週金曜日の4限目と5限目に定例のミーティングを行いますが、テーマの性質上それ以外にも土曜日と日曜日の数日を使用して活動します。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーAリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の手続きで授業を展開する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井准教授室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーAリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の手続きで授業を展開する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井准教授室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	内部 昭彦, 藤林 真美

授業概要・目的	大阪府下の小学校や、スポーツ少年団などと協働し、履修学生が主となり実際のスポーツ活動の運営や指導を行うことで、小学生のスポーツ活動を活性化させ、学生自身については実社会でも求められるリーダーシップを育成させる。			
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ① 小学生の運動活動を活性化させると共に、スポーツの定着を図り、子供の体力向上に寄与することができる ② 学生が小学校やスポーツ少年団のスポーツ活動の運営や指導をすることによりリーダーシップを育成することができる			
授業方法と留意点	学内での事前学習を行った後、学外の小学校及びラグビースクールに出向き、ラグビーを指導する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	子供たちのスポーツ活動の活性化を目指すことがテーマである。 また、プロジェクトの前段階として現状の把握を行い、ジュニア期の指導法とリスク管理を理解させ、学生が自らプランを立てることができるよう指導する。その後、実際に実習を行い、課題を検証し、次回の実習までに改善させる（フィードバック）。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	実習(小学校に訪問し指導サポート)や発表会の参加は必須とし、事前学習の評価、実習の評価、研究発表の評価を総合してルーブリック評価で判定する。			
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。			
担当者の研究室等	総合体育館1F 内部研究室			
備考				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	内部 昭彦, 藤林 真美

授業概要・目的	大阪府下の小学校や、スポーツ少年団などと協働し、履修学生が主となり実際のスポーツ活動の運営や指導を行うことで、小学生のスポーツ活動を活性化させ、学生自身については実社会でも求められるリーダーシップを育成させる。			
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ① 小学生の運動活動を活性化させると共に、スポーツの定着を図り、子供の体力向上に寄与することができる ② 学生が小学校やスポーツ少年団のスポーツ活動の運営や指導をすることによりリーダーシップを育成することができる			
授業方法と留意点	学内での事前学習を行った後、学外の小学校及びラグビースクールに出向き、ラグビーを指導する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	子供たちのスポーツ活動の活性化を目指すことがテーマである。 また、プロジェクトの前段階として現状の把握を行い、ジュニア期の指導法とリスク管理を理解させ、学生が自らプランを立てることができるよう指導する。その後、実際に実習を行い、課題を検証し、次回の実習までに改善させる（フィードバック）。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	実習(小学校に訪問し指導サポート)や発表会の参加は必須とし、事前学習の評価、実習の評価、研究発表の評価を総合してルーブリック評価で判定する。			
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。			
担当者の研究室等	総合体育館1F 内部研究室			
備考				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美, 内部 昭彦, 小川 宣子

教養科目

授業概要・目的	<p>枚方市にお住まいの高齢者を対象とした運動教室を開催する。 我が国は「超高齢化社会」であり、高齢者とのよりよい共生社会の構築は重要課題である。 本プロジェクトは、高齢者の生理（加齢により、身体の老化や認知機能の低下が起こること）を理解したうえで、思いやりやいたわりの気持ちを持って人と接する力を身につけることができる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>大学内で運動教室の準備、枚方市自治会館において運動教室の実施。 自分が運動が得意であるか否かは全く問題ない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ：地域在住高齢者における運動教室の実施 内容、方法：受講学生の授業スケジュールをかんがみ本プロジェクトの集合時間を設定し、下記のとおり進行する。 事前勉強会→運動教室の練習→*運動教室の実施→*反省会→*の繰り返し、報告会。 このなかで運動教室の参加により、認知機能の低下を遅らせることができたか、心理検査や生理機能検査を用いて確認する。 事前、事後学習課題：「事前学習」加齢による心身の変化について調べる。運動教室実施により「高齢者に喜んでいただく」ことが大目標であり、このことを常に念頭において準備してほしい。「事後学習」運動教室参加による変化について検討する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	事前準備～事後評価までルーブリックを用いて、個人・ピア評価を行う。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	総合体育館 藤林研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美, 内部 昭彦, 小川 宣子

授業概要・目的	枚方市にお住まいの高齢者を対象とした運動教室を開催する。 我が国は「超高齢化社会」であり、高齢者とのよりよい共生社会の構築は重要課題である。 本プロジェクトは、高齢者の生理（加齢により、身体の老化や認知機能の低下が起こること）を理解したうえで、思いやりやいたわりの気持ちを持って人と接する力を身につけることができる。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	大学内で運動教室の準備、枚方市自治会館において運動教室の実施。 自分が運動が得意であるか否かは全く問題ない。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマ：地域在住高齢者における運動教室の実施 内容、方法：受講学生の授業スケジュールをかんがみ本プロジェクトの集合時間を設定し、下記のとおり進行する。 事前勉強会→運動教室の練習→*運動教室の実施→*反省会→*の繰り返し、報告会。 このなかで運動教室の参加により、認知機能の低下を遅らせることができたか、心理検査や生理機能検査を用いて確認する。 事前、事後学習課題：「事前学習」加齢による心身の変化について調べる。運動教室実施により「高齢者に喜んでいただく」ことが大目標であり、このことを常に念頭において準備してほしい。「事後学習」運動教室参加による変化について検討する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	事前準備～事後評価までルーブリックを用いて、個人・ピア評価を行う。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	総合体育館 藤林研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	荻田 喜代一

授業概要・目的	<p>さまざまな生活雑貨を扱う小売店「ロフト」(梅田ロフト)と連携し、若者ならではの発想で、ロフトの魅力がさらにアップするような提案を行い、ロフトで実現していくプロジェクトです。</p> <p>皆さんの斬新なアイデアを形にするチャンスです。「面白いことをやってみたい!」と思っている積極的な学生の履修を期待します。ロフトは皆さんの「若い感性」を待っています。</p>										
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>プロジェクトとしての達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームのなかでの役割を認識し能動的に行動できるようになる 2. 計画を立て、段取りが組める 3. 小売業界の現状を理解する <p>プロセス</p> <p>学生とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 チームで仕事をするときの方法を教える。</p>										
授業方法と留意点	<p>他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。</p>										
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ■4月 <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・小売業について学ぶ ・ロフトについて学ぶ ■5月 <ul style="list-style-type: none"> ・ロフトでのミーティング ・ミーティングを受けて検討会 ・グループ決め ・提言のテーマ・内容の検討 ■6月 <ul style="list-style-type: none"> ・提言内容の作成 ■7月 <ul style="list-style-type: none"> ・梅田ロフトへ提言 プレゼンテーション実施 ■8月～9月 <ul style="list-style-type: none"> ・提言内容の実施準備 ・提言内容の実施 ■10月 <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会 ■11月 <ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会 ■12月 <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・総括 										
関連科目											
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1					
番号	書籍名	著者名	出版社名								
1											
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1					
番号	書籍名	著者名	出版社名								
1											
評価方法(基準)	<p>活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。</p>										
学生へのメッセージ	<p>現場への視察と提案を繰り返し行いながら、皆さんのアイディアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。</p>										
担当者の研究室等	<p>11号館7階 経営学部 鶴坂研究室 11号館10階 教務部長 荻田研究室 7号館3階 キャリア教育推進室 水野研究室</p>										
備考											

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	荻田 喜代一

授業概要・目的	<p>さまざまな生活雑貨を扱う小売店「ロフト」(梅田ロフト)と連携し、若者ならではの発想で、ロフトの魅力がさらにアップするような提案を行い、ロフトで実現していくプロジェクトです。 皆さんの斬新なアイデアを形にするチャンスです。「面白いことをやってみたい!」と思っている積極的な学生の履修を期待します。ロフトは皆さんの「若い感性」を待っています。</p>			
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し能動的に行動できるようになる 2. 計画を立て、段取りが組める 3. 小売業界の現状を理解する プロセス 学生とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 チームで仕事をするときの方法を教える。</p>			
授業方法と留意点	<p>他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>■4月 ・ガイダンス ・小売業について学ぶ ・ロフトについて学ぶ</p> <p>■5月 ・ロフトでのミーティング ・ミーティングを受けて検討会 ・グループ決め ・提言のテーマ・内容の検討</p> <p>■6月 ・提言内容の作成</p> <p>■7月 ・梅田ロフトへ提言 プレゼンテーション実施</p> <p>■8月～9月 ・提言内容の実施準備 ・提言内容の実施</p> <p>■10月 ・中間報告会</p> <p>■11月 ・最終報告会</p> <p>■12月 ・ふりかえり ・総括</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法(基準)	<p>活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ	<p>現場への視察と提案を繰り返し行いながら、皆さんのアイディアを形にしてゆく授業です。 主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。</p>			
担当者の研究室等	<p>11号館7階 経営学部 鶴坂研究室 11号館10階 教務部長 荻田研究室 7号館3階 キャリア教育推進室 水野研究室</p>			
備考				

科目名	技術英語	科目名(英文)	Engineering English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎

授業概要・目的	普段の生活で見かける商品を製造する国内企業の秘話(商品開発、製造、販売など)を英語で学習し、主に読解力、語彙力の向上を目的とするが、簡単なリスニングも行い聴解力向上にも取り組む。 また、中高の復習や英語資格試験に挑戦することも奨励します。
到達目標	理工学部で学ぶことがどう企業で生かされているのかを英語で学び、工学系の知識を習得すること。 R科の学習・教育到達目標との対応:[A]
授業方法と留意点	教科書から各企業の歴史、商品開発の秘話を読み、語彙力、発信力をつける。語彙のレベルが高いので電子辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEICのスコア向上につながる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	サントリー	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	2	ナベル	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	3	象印マホービン	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	4	竹中工務店	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	5	サントリーの青いバラの開発	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	6	コクヨ	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	7	紀州技研工業	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	8	コーナン	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	9	モンベル	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	10	トタニ技研工業	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	11	サンスター	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	12	武田薬品工業	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	13	江崎グリコ	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	14	あなたが作る企業紹介ページ	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	15	象印マホービンの「みまもりほっとライン」	テキスト本文、練習問題	定期試験の準備

関連科目	他の英語科目すべて
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A Visit to Amazing Kansai-based Companies 英語で知る日本の企業秘話 ISBN: 978-4-88198-663-9 C3082	井上治	松柏社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験80%、e-learning(単語番号1?1500)20%で評価。
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	最近は多数の企業が海外進出するなかで、英語力が重視される時代です。真面目に出席し、努力すること。また、資格試験などに積極的に挑戦すること。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師控室
----------	---------

備考	事前、事後学習には毎週各2時間をかけて理解を深めること。
----	------------------------------

科目名	科学英語	科目名(英文)	Scientific English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎

授業概要・目的	授業を通して、理系の学生に必要な数学、物理、科学などの話題を英語を通して学習することを目的とする。数字の読み方、公式など科学系のテーマを読解、発信を習得すること。必要があれば中高の復習も行い、読解、文法力向上に取り組みます。また、英語クロスワードパズルなどを用いて、取り組みやすい教材で英語力向上を図ります。
到達目標	科学系の英文に慣れ、読解力や知識の向上を目標とする。 R科の学習・教育到達目標との対応：[A]
授業方法と留意点	毎週のテーマは数学や科学に関するものを使い、短い英文、練習問題を解き授業を進める。難解な語彙も多いので辞書を持参。
科目学習の効果(資格)	科学系の英文に触れることにより、専門用語などを習得する。また、英語資格試験に積極的に挑戦すること。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	数を読む	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	2	自然数	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	3	いろいろな数	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	4	ピタゴラスの定理	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	5	微積分学	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	6	ベクトル	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	7	力学	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	8	地球温暖化	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	9	元素と原子	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	10	電気と磁気	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	11	ビッグバン	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	12	星の形成	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	13	惑星の形成	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	14	地球近傍小天体	テキスト本文、練習問題	テキスト本文の復習、クイズの準備
	15	ブラックホール	テキスト本文、練習問題	定期試験の準備

関連科目	英語・数学、科学系科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Basic English for Engineers and Scientists ISBN-13: 978-4764738614	Shigeo Uehara	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験80%、e-learning 20%で評価。
----------	----------------------------

学生へのメッセージ	真面目に出席し、努力することを期待します。
-----------	-----------------------

担当者の研究室等	非常勤講師控室
----------	---------

備考	事前、事後学習には毎週各2時間をかけて理解を深めること。
----	------------------------------

科目名	産業技術史	科目名(英文)	History of Industrial Technology
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	照元 弘行

教養科目

授業概要・目的	様々な産業で用いられる技術を「産業技術」という。この「産業技術」は、どのような経路をたどりながら、何を原動力として発展してきたかという問題について考える。本講義では、様々な「産業技術」の変遷を体系的に捉え、地球規模での産業技術の役割について考え、これまでに築かれてきた技術を学習・理解することで、今後、独創的な技術を生み出していく手がかりを提供する。
到達目標	幅広い教養と地球的視野をもった技術者になるための基礎を身につけることである。具体的には、それぞれの産業技術の歴史を学習・理解することで、技術者として幅広い教養を、また、情報社会の世界情勢や地球環境問題を学ぶことで、物事を地球的視点から多面的に捉える能力と素養を身につけることを到達目標とする。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	授業形式は、視聴覚教材を多用する「プレゼンテーション授業」である。 講義中心の授業となるが、産業技術をできるだけわかりやすく理解してもらうために、視聴覚教材および資料集の図表を用いて解説する。
科目学習の効果(資格)	現在の産業技術社会は、膨大な情報と知識の専門化が進んでおり、この産業技術の世界を系統的に学ぶ機会、一般教養科目を学ぶ以外の時期には少なくなる傾向にあり、他分野の知識の吸収には、自分自身で常に努力していく必要がある。それゆえ、できるだけ早い時期に産業技術の源を学んでおくことは、多くの分野に興味をもつための一助になると考えている。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	製鉄・鉄鋼産業の技術史①	金属材料について学ぶ。 伝統の日本製鉄法「たたら」について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出②
3	製鉄・鉄鋼産業の技術史②	製鉄・鉄鋼産業の技術発展史とその公害・環境対策について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出③
4	製鉄・鉄鋼産業の技術史③	製鉄所のシンボルである高炉について学ぶ。 国産技術で育てた画期的な次世代の鉄「超鉄鋼」について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出④
5	情報技術産業の歴史①	今日、日常的に利用しているワープロの歴史とその技術について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑤
6	情報技術産業の歴史②	これからの携帯電話技術の「デファクトスタンダード」をめぐる激しい争いを事例にして、これらの技術について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑥
7	自動車産業の歴史①	国産自動車トヨタ AA 型の開発を事例にして、日本の自動車産業を学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑦
8	自動車産業の歴史②	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。 ここでは、低公害エンジン「CVCC」を事例にして学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑧
9	自動車産業の歴史③	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。 ここでは、「ハイブリッドカー」を事例にして学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑨
10	自動車産業の歴史④	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。 ここでは、燃料電池の技術と「究極のエコカー」である燃料電池自動車について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑩
11	鉄道産業の歴史①	国と地方の問題から「新幹線問題」について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑪
12	鉄道産業の歴史②	高速鉄道「新幹線」の開発の歴史とその主要技術について学ぶ。 新幹線を作る様々な技術(町工場がもつアナログ的な技術)を学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑫
13	鉄道産業の歴史③	未来の高速鉄道「リニアモーターカー」について学ぶ。 また、これからの鉄道の公害・環境対策技術、安全対策について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑬
14	公害・環境対策の技術史	産業競争力強化の重要な柱の1つである「ISO14001」の認証取得の事例を解説する。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑭
15	世界の産業技術	産業技術の未来への取り組みについて、子どもたちへの活動を通して考える。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑮

関連科目 産業技術史は、多面的で複合的な科目であることから、大学において、できるだけ数多くの科目を習得すれば、必ず役立つと思います。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各授業毎の課題レポート（４５点配分）と定期試験（５５点配分）で総合的（合計１００点）に評価する。なお、合格基準は、レポートおよび定期試験がそれぞれ１００点満点換算の６０点以上、総合評価で１００点満点換算の６０点以上を合格とする。			
学生への メッセージ	<p>１時間目の授業ではありますが、遅刻せずに毎回出席することが望ましい。</p> <p>各授業毎の課題レポートは、期限内に提出してください。</p> <p>授業中は私語を慎み、集中して授業に臨み、理解した授業の内容を整理できるように心がけて下さい。</p>			
担当者の 研究室等	第１回目の講義時にお知らせします。			
備考	<p>講義のキーワードとして、「特許」、「公害・環境問題」、「アナログ的な技術・デジタル的な技術」などを示しておく。</p> <p>レポート作成、復習の学習時間：２０時間程度。</p>			

科目名	科学技術教養V1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy VI
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西村 仁

教養科目

授業概要・目的	<p>新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが、その内容を理解することは容易ではない。本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、生命現象との関係などを個人レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は、病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。また、病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになることを目指す。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：[I]</p>			
到達目標	<p>(1) 病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。(2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになる。</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育到達目標との対応：B A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I</p>			
授業方法と留意点	<p>一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。</p>			
科目学習の効果(資格)	<p>生命科学に関するニュースがより身近になり、明確に理解できるようになる。</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	不妊のしくみ。	日本人夫婦(カップル)は10組のうち1組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかははっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	配布資料を復習する(1時間)。
	2	病気と遺伝子。	内容:生物のDNAは常に外界の危険因子によって傷(変異)を受けているが、生物の体内には傷を発見して治療する安全システムが存在している。この安全システムはどのように作動して、また不具合が生じた場合にどうなるのか?また身近に存在する危険因子や疾患の代表例について考える。	配布資料を復習する(1時間)。
	3	脳・神経の病気のしくみ。	脳や神経の病気は難病と言われていたものが多く、治療、快復が困難な現状である。まず難病のいくつかを紹介し、それらの治療のためにどのようなことがなされているかを概説する。	配布資料を復習する(1時間)。
	4	免疫が引き起こす病気のしくみ。	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染(インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	配布資料を復習する(1時間)。
	5	がんの発生とその予防法。	死因別死亡率のトップはがんであり、約3人に1人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が、がんの原因の30%を占めており、単因子要因としては最大である。本講義では、がんの発生機序やその予防法について説明する。	配布資料を復習する(1時間)。
	6	ミトコンドリアと病気。	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	配布資料を復習する(1時間)。
	7	くすりと遺伝子工学。	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して、遺伝子産物(タンパク質)を生産したり、新しい形質を作り出すなど、遺伝子を人工的に操作する技術、遺伝子工学について紹介する。	配布資料を復習する(1時間)。
	8	くすりと組換え生物。	8年ほど前にヒトのすべてのDNA配列が解読されて、ヒトには約2万2千の遺伝子があることが明らかにされた。ポストゲノム研究では、マウスやラットなどを用いた「遺伝子組み換え生物」が作製され、再生医療や疾患の新しい治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の作製などにも役立っている。遺伝子組み換え生物の作成と応用について考える。	配布資料を復習する(1時間)。
	9	くすりとバイオインフォマティクス。	遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要につ	配布資料を復習する(1時間)。

			いて説明し、病気と遺伝子、ゲノム創薬への応用について述べる。	
	10	くすりとタンパク質のかたち。	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる。	配布資料を復習する (1 時間)。
	11	くすりとゲノム。	ゲノムとは、創薬とは、遺伝子診断などを解説し、生命倫理、歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる。	配布資料を復習する (1 時間)。
	12	薬物乱用と依存性薬物。	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	配布資料を復習する (1 時間)。
	13	遺伝子治療の最前線。	遺伝子により治療はできるか、遺伝性疾患、科学・技術の概要、基本的な原理、を解説。生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる。	配布資料を復習する (1 時間)。
	14	神経再生治療の最前線。	ヒトの中枢神経は損傷から回復できない。また、抹消神経であっても神経細胞そのものがダメージを受けるとやはり回復は難しい。ヒトの神経及び神経細胞の損傷からの回復を目指して様々な努力が行われている。それらの研究をわかりやすく概説する。	配布資料を復習する (1 時間)。
	15	iPS 細胞研究の最前線。	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり、新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。	配布資料を復習する (1 時間)。
関連科目	科学技術教養 V2.			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業態度 20%, 講義メモ 40%, およびレポート・小論文・演習問題などの課題 40%の総合点で評価する。			
学生へのメッセージ	病気やくすりはみなさんの身近な問題で、関心も大きいと思います。本講義では病気やくすりについて、生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。			
担当者の研究室等	1号館9階 松川, 川崎, 尾山, 西村, 中嶋, 船越, 井尻, 居場研究室.			
備考	欠席・遅刻の扱いは理工学部の規則に従って処理します。			

科目名	科学技術教養V2	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy V2
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	青笹 治

授業概要・目的	本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々の暮らしを豊かにするバイオテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。
到達目標	醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について説明できる。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育到達目標との対応：B A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	講義内容について資料を配付し、パワーポイントを用いて解説する。講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果(資格)	遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々の暮らしや健康との関わりが理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機能性食品などの新しい食品の形態	食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	配布資料を復習する。
2	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	配布資料を復習する。
3	繊維とバイオテクノロジー	繊維に反応する酵素を紹介し、これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する。	配布資料を復習する。
4	遺伝子組換え植物とその将来	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	配布資料を復習する。
5	バイオリメディエーションの可能性	過去、日本であった重金属汚染について簡単に復習し、特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する。物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら、適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し、植物を用いた生物学的浄化法についても説明する。	配布資料を復習する。
6	最先端のバイオエネルギー技術	21世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場から解説する。	配布資料を復習する。
7	新規エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する。	配布資料を復習する。
8	食品の健康障害リスクと対策	微生物、アレルギー性物質、残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ、解説する。	配布資料を復習する。
9	動く分子とバイオテクノロジー	ATP合成酵素や細菌のべん毛モーターなどの動く分子を紹介し、生物がもつ運動機能を生体分子モーターなどへ応用するバイオテクノロジーについて解説する。	配布資料を復習する。
10	モデル生物を用いたバイオテクノロジー	近年の生命科学ではヒトの遺伝子機能や生体機能、遺伝性疾患のメカニズムの解析の方法として様々なモデル生物が盛んに用いられている。それらの応用例を実際の写真を示しながら、実際の研究例や今後期待される展望を紹介する。	配布資料を復習する。
11	微生物酵素を用いる物質生	酵素は優れた機能を有するタンパク質	配布資料を復習する。

	産システム ～バイオテクノロジーを支える酵素利用技術～	性の触媒であるが、産業で利用されている酵素の殆どは、加水分解酵素、転移酵素、異性化酵素などであり、反応に補酵素やエネルギーを要する酵素の利用に遅れが見られる。かかる酵素の産業への応用を可能にする酵素利用技術（固定化酵素など）と酵素改変技術（分子進化学、逆進化学、タンパク質工学など）の現状と将来について概観する。																	
12	遺伝子工学からゲノム工学へ ～バイオテクノロジーを支える微生物の形質転換法～	微生物の遺伝子交換法として、形質導入、接合、及び形質転換の3つが知られている。ここでは、真核微生物であり、遺伝子発現などの分子機構において高等動物と共通性が高い出芽酵母における形質転換法の発展の経緯、方法、及びDNA取り込み機構を概観する。近年、進展の著しい巨大ゲノムDNAを扱う合成生物学やゲノム工学も展望する。	配布資料を復習する。																
13	植物を用いた有用タンパク質生産	植物は、安全性、低コスト、分離精製の容易さなどの点から外来タンパク質の生産系として優れている。本講義では、植物を宿主とした生理活性タンパク質・ペプチドや抗体、ワクチン、医療用タンパク質などの生産について解説する。	配布資料を復習する。																
14	環境リスクの評価方法	環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し、水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる。	配布資料を復習する。																
15	地球規模の環境破壊と人体への影響	主にオゾン層の破壊、地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因、発生機構、人への影響およびその防止対策に関して述べる。	配布資料を復習する。																
関連科目	科学技術教養V1																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業態度 20%、受講メモ 40%およびレポート、小論文、演習問題などの課題 40%の総合点で評価する。																		
学生への メッセージ	遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能的食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。																		
担当者の 研究室等	1号館8階 環境分析学研究室（青笹）																		
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱いです。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。																		

科目名	科学技術教養A1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy A1
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一

教養科目

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。																																																																		
到達目標	卒業してからの社会生活のための有用な科学技術に関する教養が身に付きこれからの社会を生き抜くことができるようになる。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育到達目標との対応：B A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I																																																																		
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。																																																																		
科目学習の効果(資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>建築とは何か</td> <td>建築の考え方、建築家の果たす役割</td> <td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>建築と人間生活</td> <td>建築の種類と計画空間、ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性</td> <td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>建築と都市環境</td> <td>建築と都市の関係、都市環境のデザイン</td> <td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>建築の歴史</td> <td>建築の歴史の変遷から建築における多様な「技術」について学ぶ</td> <td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>建築物のかたちと力の流れ</td> <td>目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養います。</td> <td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>建築の内装</td> <td>インテリア、家具・内装</td> <td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>建築の外装・外構</td> <td>外装材とはエクステリア、造園</td> <td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>建築のUD</td> <td>こどもと建築、バリアフリー、ユニバーサルデザイン</td> <td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>建築の保存活用</td> <td>建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバージョンといった建築保存の視点から見る。</td> <td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>建築の温熱環境</td> <td>建築空間における温熱環境を理解する視点を培います。</td> <td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>建築における設備</td> <td>採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒音・エネルギー、エレベーター、エスカレーター</td> <td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>建築の骨組み</td> <td>構造と力の流れ、構造材料の性能</td> <td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>建築の材料</td> <td>構造と仕上げ材料</td> <td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>建築と防災</td> <td>災害、避難、防災教育</td> <td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>建築をつくる新技術</td> <td>構造、材料、施工の新技術</td> <td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	建築とは何か	建築の考え方、建築家の果たす役割	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	3	建築と都市環境	建築と都市の関係、都市環境のデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	4	建築の歴史	建築の歴史の変遷から建築における多様な「技術」について学ぶ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	5	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	6	建築の内装	インテリア、家具・内装	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	7	建築の外装・外構	外装材とはエクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	8	建築のUD	こどもと建築、バリアフリー、ユニバーサルデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	9	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバージョンといった建築保存の視点から見る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	10	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を培います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	11	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒音・エネルギー、エレベーター、エスカレーター	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	13	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	14	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	建築とは何か	建築の考え方、建築家の果たす役割	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
3	建築と都市環境	建築と都市の関係、都市環境のデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
4	建築の歴史	建築の歴史の変遷から建築における多様な「技術」について学ぶ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
5	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
6	建築の内装	インテリア、家具・内装	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
7	建築の外装・外構	外装材とはエクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
8	建築のUD	こどもと建築、バリアフリー、ユニバーサルデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
9	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバージョンといった建築保存の視点から見る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
10	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を培います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
11	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒音・エネルギー、エレベーター、エスカレーター	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
13	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
14	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなどを合わせ 80%で評価する。期末試験は行わない。理工学部の出席規定を遵守すること。																																																																		
学生へのメッセージ	受講希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。																																																																		
担当者の研究室等	8号館3階																																																																		
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 教科書(配布予定)ので事前あるいは事後学習に当該回の範囲を読んだり、確認したり、1回あたり1.5時間以上をかける必要がある。																																																																		

科目名	科学技術教養A2	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy A2
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宮本 征一

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築の代表的な計画デザインや実施の事例、およびその手法について紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。
到達目標	卒業後の社会生活において必要な科学技術の教養を身に付けてこれからの社会を生き抜くことができるようになる。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育到達目標との対応：B A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果(資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	住む建築	住宅、住むことの工夫	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	集まって住む建築	集まって住む楽しさ、集まって住むカタチ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	福祉医療の建築	建築と福祉医療	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	公共の建築	公共の建築、パブリックスペース、公共性のある都市施設等に着目し、建築の公共性について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	商業の建築	商業建築、商店街の歴史と再生	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	文化の建築	建築に象徴された様々な文化を読み取る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	交通の建築	陸・海・空の交通 交通建築の特徴	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	高層の建築	五重塔と超高層、 超高層建築の性能と設計、耐震要素と構造技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	地下空間の建築	地下空間のメリット、地下空間の利用、 大深度地下、地下都市	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	環境共生と建築	環境と共生する建築について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	木造の建築	木匠、伝統技術と最新技術 木造建築、木材の使用	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	プレハブ建築	種類と概要、 プレハブ化の普及、設計と生産、 災害仮設住宅	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築とロボット	ロボット導入の経緯、 ロボット化の現状と技術、 今後のロボット	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	街並みの建築	ランドスケープと建築、 街並みと要素	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	将来の建築	空間条件と心理、ヒューマンスケール、 人はどこに住むか、 近代建築の問題、将来の建替	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目	専門科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなどを合わせ 80%で評価する。期末試験は行わない。理工学部の出席規定を遵守すること。
----------	---

学生へのメッセージ	受講者希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
-----------	---------------------------------------

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 教科書(配布予定)ので事前あるいは事後学習に当該回の範囲を読んだり、確認したり、1回あたり1.5時間以上をかける必要がある
----	--

科目名	科学技術教養M1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy M1
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	諏訪 晴彦

教養科目

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育到達目標との対応：B A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートにしていねいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは?	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	配布資料に目を通しておくこと。
2	道具を作る(1) - ヒトと道具	・道具の歴史：ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	配布資料に目を通しておくこと。
3	道具を作る(2) - 作り方	・鋳造、塑性加工、粉末冶金、材料加工、生産加工 ・刀鍛冶、セラミックス、溶接・切断	配布資料に目を通しておくこと。
4	モノの材料を知る(1) - 金属材料	・金属材料はなぜ素材たり得るか? ・鉄鋼の製造方法	配布資料に目を通しておくこと。
5	モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー	・セラミックス・ポリマーの構造(金属と何が異なるか?) ・高強度・機能性材料の話	配布資料に目を通しておくこと。
6	モノの材料を知る(3) - 新素材	・新素材と高度産業化社会 ・形状記憶、超伝導、ナノ材料	配布資料に目を通しておくこと。
7	ものづくり(1) - 母なる機械	・機械部品を作る機械(工作機械の歴史) ・機械時計、工具と運動、機械部品	配布資料に目を通しておくこと。
8	ものづくり(2) - 精密に加工する	・精度を追求する(コンピュータと工作機械) ・精密加工、マシニングセル、ナノ加工	配布資料に目を通しておくこと。
9	ものづくり(3) - 工場(ファクトリー)	・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム ・無人化工場、デジタル屋台、トヨタ生産方式	配布資料に目を通しておくこと。
10	大きな力を得る(1) - 車輪	・作業を補助する機械の歴史 ・車輪、滑車、てこ、歯車	配布資料に目を通しておくこと。
11	大きな力を得る(2) - 建設運搬機械	・巨大な力を得るためのアクチュエータ ・油圧・水圧・空気圧機器、電動機	配布資料に目を通しておくこと。
12	大きな力を得る(3) - パワーアシスト	・アクチュエータの知能化とパワーアシスト ・パワードスーツ、電動アシスト自転車、人工筋肉	配布資料に目を通しておくこと。
13	ミクロの機械(1) - 精密機械	・小さくなることで変わる使い方 ・時計、携帯電話、計算機、テレビカメラ、情報機器	配布資料に目を通しておくこと。
14	ミクロの機械(2) - 小さく作る	・小さくすることで変わる物理の法則、加工法・アクチュエータ ・微細加工、ナノテク、半導体製造、カーボンナノチューブ、微細気泡	配布資料に目を通しておくこと。
15	ミクロの機械(3) - 小さくて広大な世界	・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 ・カプセル内視鏡、鞭毛モーター	配布資料に目を通しておくこと。

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養M1		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	毎回、講義メモとレポートを提出する。 受講態度 (20%), 講義メモ (40%), レポート (40%) を評価する。
学生への メッセージ	機械工学に関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか? 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか? 近未来にどのような乗り物が実現されているのか? 等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養M2	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy M2
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岸本 直子

教養科目

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	人の活動に貢献し生活を豊かにする機械技術を理解するとともに、機械システムと社会や経済活動、生活・生命との関わりを理解する。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育到達目標との対応：B A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	・各テーマごとに、歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ（ノート）を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートにしていねいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果（資格）	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは？	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学叢書」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	配付資料に目を通しておくこと
2	活動の源(1) - 動力・エネルギーの世界	・身近なエネルギー利用と動力の歴史 ・人力、蓄力、水力、風力、蒸気力	配付資料に目を通しておくこと
3	活動の源(2) - 発電	・エネルギー利用と発電 ・水力、風力、火力、地熱、原子力発電	配付資料に目を通しておくこと
4	乗り物(1) - エンジン	・熱工学とエンジンシステム ・種々のエンジン（ガソリン等）、電気モータ	配付資料に目を通しておくこと
5	乗り物(2) - 輸送する	・交通と物流 ・自動車交通、船舶、鉄道	配付資料に目を通しておくこと
6	空間を移動する(1) - 空を飛ぶ	・空を飛ぶことができる機械の機能、種類、歴史と原理 ・飛行機、ヘリコプター、飛行船、揚力	配付資料に目を通しておくこと
7	空間を移動する(2) - 高速移動	・深海に潜ることができる機械の機能、種類、歴史と原理 ・しんかい 6500、深海探査、水圧、チタン合金、生命維持システム	配付資料に目を通しておくこと
8	空間を移動する(3) - 宇宙へ飛び立つ	・宇宙空間に飛んでいける機械の機能、種類、歴史と原理 ・ロケット、スペースシャトル、宇宙ステーション、高真空、ロケットエンジン	配付資料に目を通しておくこと
9	物を測る	・測り方を共通にすることで広がる世界 ・度量衡と政治の関係、原器、ものさし、機械的測定	配付資料に目を通しておくこと
10	センサで測る	・センサの発達と誤差との戦い ・センサ、センシング技術、計測と誤差	配付資料に目を通しておくこと
11	制御する	・制御の成り立ちと発展、自動制御とは？ ・调速機、結果を見て制御する（フィードバック）	配付資料に目を通しておくこと
12	操る・抑える	・サーボ機構とプロセス制御 ・ロボットアーム、ロケット、原子力発電、鉄鋼プラント	配付資料に目を通しておくこと
13	生命・生体に倣う機械(1) バイオエンジニアリング	・バイオエンジニアリング、生体工学の世界 ・生体の模倣と設計、鳥と飛行機、ハコフグと低燃費自動車、サズリと多足ロボット	配付資料に目を通しておくこと
14	生命・生体に倣う機械(2) - 医療と健康	・人間を援ける医用工学、人間を癒す福祉工学の世界 ・人工臓器、福祉機器、健康機器、スポーツ機器	配付資料に目を通しておくこと
15	生命・生体に倣う機械(3) - ヒューマノイド	・人間を測る、診る、まねる世界 ・生体計測、生体力学、医用診断装置、ヒューマノイドロボット	配付資料に目を通しておくこと

関連科目	産業技術史			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>毎回、講義メモとレポートを提出する。 受講態度 (20%), 講義メモ (40%), レポート (40%) を総合的に評価する。</p>			
学生への メッセージ	<p>機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか? 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか? 近未来にどのような乗り物が実現されているか? 等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。</p>			
担当者の 研究室等	<p>担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]</p>			
備考	<p>出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。</p>			

科目名	科学技術教養E1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy E1
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鹿間 信介

教養科目

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにある電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどの様なしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育到達目標との対応：B A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果(資格)	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ること、その性能をフルに引き出すことができる。 また、身近な電気製品のしくみを知ること、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	電気の歴史と電気回路の基礎	電磁気学の歴史、電気回路の基礎、抵抗と電気エネルギーの利用、消費電力、交流と直流	電気に関するニュースに注意する。1時間
	2	電池の構造と応用技術	磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ	テキストを復習する。1時間
	3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ	テキストを復習する。1時間
	4	半導体のお話	半導体とは何か、p形とn形 大規模集積回路、LED照明とは	テキストを復習する。1時間
	5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する 充電のしくみ	テキストを復習する。1時間
	6	様々な電子回路	電子回路の歴史、真空管と半導体・集積回路、代表的なアナログ電子回路	テキストを復習する。1時間
	7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ	テキストを復習する。1時間
	8	モールス通信から携帯電話へ	モールス通信からベルの電話へ、電話機と交換機のしくみ、アナログからデジタルへ、携帯電話とネットワークのしくみ	テキストを復習する。1時間
	9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	テキストを復習する。1時間
	10	パソコンの内部構造	真空管計算機 ENIAC、電子回路で論理計算をする ハードウェアとソフトウェア、CPUとメモリ、ハードディスクとSSD	テキストを復習する。1時間
	11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジやIHのしくみ	テキストを復習する。1時間
	12	音響機器のしくみ	マイクとスピーカ、録音技術の歴史 CDのしくみ、アナログ録音とデジタル録音、人工音の合成	テキストを復習する。1時間
	13	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、立体映像表示の原理と実例	テキストを復習する。1時間
	14	インターネットのつながり	インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線LAN、ネットワークセキュリティ	テキストを復習する。1時間
	15	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用	テキストを復習する。1時間

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	受講態度20%、受講メモ40%、小テスト40%の総合点で評価する。
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。
担当者の研究室等	1号館4階・5階の電気電子工学教員室
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養E2	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy E2
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鹿間 信介

教養科目

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後、電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに、現代社会において応用されている電気電子工学、通信情報工学の最新科学技術について講述する。
到達目標	電車のしくみや放送技術、携帯電話やレーザー光線の原理、最新のナノテクノロジーやロボット工学、また宇宙規模の電気の話などもあり、最終的には電気を使った科学技術がどの様なしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育到達目標との対応：B A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果(資格)	現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより、電気への理解を深め、これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。 また、携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史	琥珀はエレクトロン、磁石の利用、クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導、マクスウェル理論と電磁波の予言	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	発電の原理と発電所	電気エネルギーを発生させるしくみ、発電機、水力、火力 交流発生か直流か、50Hzと60Hz	テキストを復習する。1時間
3	原子力発電	核エネルギーの発生、原子力発電のしくみ、事故と防災対策、放射線の性質と測定	テキストを復習する。1時間
4	再生可能エネルギー	太陽光発電、風力発電 地熱発電、海洋エネルギー、宇宙発電、エネルギー効率	テキストを復習する。1時間
5	送電・配電	電気を安定に送る、交流送電か直流送電、周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換、スマートグリッド	テキストを復習する。1時間
6	モータのしくみと電車	磁石と電流による力の発生、モータのしくみ 電車、リニア新幹線、電気ブレーキと電力回生	テキストを復習する。1時間
7	電波と放送	電波の利用と電波法、初期のラジオ放送、電波に映像を載せる テレビ放送の開始からカラーテレビへ、デジタル化と双方向テレビ	テキストを復習する。1時間
8	携帯電話のしくみ	有線電話から無線へ、無線基地局と無線ゾーン、携帯電話がつながるしくみ、メールやWebへの応用、携帯電話のこれから	テキストを復習する。1時間
9	私たちの生活をささえる電気照明	エジソンによる電灯の発明、蛍光灯のしくみ、青色LEDの発明、LED照明	テキストを復習する。1時間
10	レーザーの発明	物質からの光放射、線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ、レーザーの特徴	テキストを復習する。1時間
11	電気通信から光通信へ	電気信号と光信号の変換、光で通信する光ファイバと高速・大容量化、光で測る	テキストを復習する。1時間
12	進化するナノテクノロジー	半導体の動作原理、半導体集積回路の構造、集積回路技術の歴史と現状、スマートフォンからウェアラブル計算機へ、今後の発展	テキストを復習する。1時間
13	プログラマブル高速計算機の発達	チューリング機械、手回し計算機と計算尺、最初の電算機ENIAC 弾道ミサイルの計算、金融計算から天気予報まで	テキストを復習する。1時間
14	最新ロボット工学	ロボット工学の過去・現在・未来 ハードとソフト(人工知能)はどこまでできているのか	テキストを復習する。1時間
15	電気と宇宙	第4の状態—プラズマ、放電の原理と応用、雷の発生原理、 太陽プラズマと黒点の関係、オーロラの発光メカニズム	テキストを復習する。1時間

関連科目	特になし								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名				
番号	書籍名	著者名	出版社名						

	1	テキストを配付する		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	受講態度 20%, 受講メモ 40%, 小テスト 40%の総合点で評価する。			
学生への メッセージ	我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて、エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし、単純に噂などを鵜呑みにするのではなく、電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば、風評に惑わされることなく、対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。			
担当者の 研究室等	1号館4階・5階電気電子工学科教員室			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。			

科目名	科学技術教養C1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy C1
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	頭井 洋

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回目の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育到達目標との対応：B A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	・基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。 ・歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。 ・講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網、上下水道、エネルギー施設、防災施設、憩い、・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人たち(建設会社、設計コンサルタント、公務員、メーカー・・・)	配布資料講義部分の予習と復習
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締固めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか。 構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ。 水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間。 地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 (計画学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 (上下水道学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会 (環境工学)	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C1	都市環境工学科全教員	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	受講態度 20%, 受講メモ 40%, レポート・小論文 40%の総合点で評価する。 ※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2～3回に一回程度実施する予定。 期末試験は行わない。
学生への メッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。 この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。
担当者の 研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養C2	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy C2
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	頭井 洋

授業概要・目的	概要：いくつかのプロジェクトを例に，建設事業の流れに沿って，社会的な位置づけ，市民生活との関わりを解説する．第1回目の授業では，事業主体別にプロジェクトの流れを説明する．第2～3回目は，高速道路建設を例に地形の調査・土質の調査，環境の調査を解説する．第4～7回は高速道路を構成する橋，トンネル，道路の設計と施工の考え方を解説する．第8～15回は，安全で潤いのある社会を築く観点からダム・堰，堤防，浸水対策，ライフライン，公園・まちづくり，地震防災など身近なテーマを概説する．
到達目標	土木構造物の計画から施工管理までの流れの概要を理解し土木構造物と社会や経済活動，生活との関わりを理解できる． V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育到達目標との対応：B A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	授業はパワーポイントを用いた講義形式とする．私たちの生活を支える社会基盤がどのようにして計画され，設計・施工されているかを事業の流れに沿って解説する．代表的な構造物や身近なテーマを取り上げ，安全で安心な社会を築くため，何が重要かを理解できるように講義を進める．
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているかなどの知識が得られ，安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	社会基盤をつくる建設事業の流れ	国家プロジェクト，地域プロジェクト，民間主導プロジェクトなど事業主体別の建設の流れ，計画(意思決定)～調査～設計～施工の概要	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
2	高速道路建設の計画・調査・設計	国土開発や都市計画・地域計画との関連，一般道路や鉄道との関連，需要予測，予算，資本回収の考え方	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
3	建設に必要な調査①(地形の調査・土質の調査)	測量計測技術(地形測量・平板測量・水準測量・写真測量・GPS測量)，地盤の調査	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
4	建設に必要な調査②(環境の調査)	生態系・環境への影響，負荷の軽減策，排ガス規制と大気汚染など環境アセスメント	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
5	橋の設計と施工	コンクリート橋と鋼橋，橋の形式と適用支間長，景観設計，施工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
6	トンネル，半地下開削工法	山岳トンネル・都市地下トンネルの設計と施工，地山の強度と工法，半地下開削工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
7	道路の設計と施工	盛土形式と高架形式，道路の構造，道路舗装	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
8	ダム・堰の計画と施工	洪水への備え(治水、防災)，発電・灌漑・上水などの多目的ダム，ダムの構造と種類	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
9	堰・堤防の計画と設計・施工	洪水・土砂災害への備え(治山・治水、防災)，計画雨量，遊水池，親水施設	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
10	都市型洪水への備え	透水性舗装，都市大型地下貯槽，屋上緑化，排水と下水道設計，地下道・地下鉄の浸水対策	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
11	市民の日常生活を支えるライフライン	上下水道，水質管理，水質浄化，下水処理，電気，通信設備	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
12	市民の生活に潤いを与える公園・まちづくり	まちづくりとは，実現するものは，人とのかかわり，技術とのかかわり	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
13	市民の生活環境を守る	地球環境と生態系，人口増加と都市化・食糧生産，自然エネルギーの問題点，火力発電所と大気汚染・温暖化，原子力発電と放射能問題，温排水問題	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
14	震災から市民を守る	地震の種類と特性，地震に備える構造とは？制震構造と免震構造，ライフラインの耐震，避難体制，緊急地震速報	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
15	津波や台風・高潮から市民を守る	港湾施設・防波堤，津波，避難施設，避難誘導	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C2	都市環境工学科全教員	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
2				
3				

評価方法 受講態度20%，受講メモ40%，レポート・小論文40%の総合点で評価する．※レポート・小論文は，授業のまとめとして毎回あるいは2～3回に一

(基準)	回程度実施する予定。期末試験は行わない。
学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動支える社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているか知り理解を深めていただければ幸いです。
担当者の研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養T1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy T1
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	長島 健

授業概要・目的	<p>「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。</p> <p>「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。</p> <p>数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。</p>			
到達目標	<p>科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。</p> <p>科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育到達目標との対応：B A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I</p>			
授業方法と留意点	初回に配布するテキスト及び毎回の配布プリントを用いる。各回の最後には講義メモを提出すること。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	人類にとっての数(1)	太古の昔、物を数えるための道具として「自然数」は生まれた。やがて「自然数」から「分数」へと数の世界は広がっていったが、どのような経緯を経たのか？人類の歴史と共に探る。	予習・配布プリント復習(0.5時間以上)
	2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	予習・配布プリント復習(0.5時間以上)
	3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	予習・配布プリント復習(0.5時間以上)
	4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	予習・配布プリント復習(0.5時間以上)
	5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	予習・配布プリント復習(0.5時間以上)
	6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	予習・配布プリント復習(0.5時間以上)
	7	波の数理(音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	予習・配布プリント復習(0.5時間以上)
	8	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	予習・配布プリント復習(0.5時間以上)
	9	電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返して現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マックスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	予習・配布プリント復習(0.5時間以上)
	10	レーザー光	光を発するもの(光源)には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード(LED)が急速に普及している。本講では人が創りだした「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	予習・配布プリント復習(0.5時間以上)
	11	X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線	予習・配布プリント復習(0.5時間以上)

			の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンや X 線 CT がなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X 線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。																	
	12	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	予習・配布プリント復習 (0.5 時間以上)																
	13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	予習・配布プリント復習 (0.5 時間以上)																
	14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	予習・配布プリント復習 (0.5 時間以上)																
	15	ガリレオの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	予習・配布プリント復習 (0.5 時間以上)																
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	講義メモ 40 % , レポート 60 % で判定する。																			
学生へのメッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。																			
担当者の研究室等	担当教員の居室 [8 号館の 2 階, 3 号館の 3 階]																			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。																			

科目名	科学技術教養 T2	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy T2
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一

教養科目

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を發明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。
到達目標	V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育到達目標との対応：B A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	座学・説明中心の講義となるので、遅刻・私語は厳禁である。
科目学習の効果（資格）	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	微積分学が成立するまでの話	ニュートンとライブニッツという2つ異なる個性が微積分学の成立にどう影響したか、その歴史を概観する。	課題・レポート
	2	文字式から単位のない実数の世界へ	微積分の厳密化の過程で、記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。	課題・レポート
	3	ヒルベルトのテーゼ：無矛盾ならば存在する	微積分学が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。	課題・レポート
	4	現代科学は力(ちから) F から始まった	ニュートンの運動の法則 $F=ma$ は、なんだか良くわからない力 F を使って、なんだか良くわからない質量 m を定めた。どちらもわかっていないのに、大丈夫なのだろうか。	課題・レポート
	5	万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か	ニュートンが発見した「万有引力の法則」は、巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず、人工衛星や、飛行機、果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは、自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい、人類の科学の発展にとって、計り知れないほど幸運であった。	課題・レポート
	6	破壊力、衝撃力はどちらも同じ意味か	物体がもつ「運動の勢い」を考えると、2つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい、他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は50年間議論した。その結論はどうだったのか。	課題・レポート
	7	蒸気機関と熱力学の誕生(1)	18世紀イギリス産業革命と熱機関。蒸気機関の改良・熱効率・熱素説。	課題・レポート
	8	蒸気機関と熱力学の誕生(2)	カルノー登場。カルノーサイクルとそれを用いる思考実験。カルノーの定理の発見。	課題・レポート
	9	蒸気機関と熱力学の誕生(3)	カルノーからケルビン、そしてクラウジウスに至る道。エネルギー保存則(熱力学第一法則)v.s.不可逆性。熱力学第二法則とその表現。熱力学的エントロピー。	課題・レポート
	10	角の3等分について(1)	歴史的背景、方程式と結びつける、ユークリッド作図、作図できる数・できない数	課題・レポート
	11	角の3等分について(2)	60度は3等分できない、体の考え方	課題・レポート
	12	角の3等分について(3)	体の拡大と作図できる数、定理の証明	課題・レポート
	13	ニュートンからアインシュタインへ	慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等々アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。	課題・レポート
	14	特殊相対論---原理はたったの2つだけ	2つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。	課題・レポート
	15	一般相対論---重力の謎	ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか？	課題・レポート

関連科目	数学・物理の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養(基礎理工)		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義メモ40%, レポート60%で評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果(資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果(資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	読んだ文章を正しく理解し、自分なりにまとめることができる。 語彙力をつける。一般書レベルの漢字が読めるようになる。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容について文章にまとめたり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。重要な語彙をピックアップして語彙マップを作成することもある。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解 II
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	語彙テスト、授業への参加態度 (課題やタスクへの取り組み) 等を総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	読んだ文章を正しく理解し、自分なりにまとめることができる。 語彙力をつける。一般書レベルの漢字が読めるようになる。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容について文章にまとめたり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。重要な語彙をピックアップして語彙マップを作成することもある。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解	復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	4	背理法①	読解、内容理解	復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	ついでに何を？①	読解、内容理解	復習
	9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	復習
	11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	14	「あたりまえ」を疑う社会学	読解、内容理解	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解 I
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	語彙テスト、授業への参加態度 (課題やタスクへの取り組み) 等を総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では、中上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。適宜、小テストを行う。
到達目標	中上級の文法項目が適切に使えるようになる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習
	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習
	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習
	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習
	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習
	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習
	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習
	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習
	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習
	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	復習
	13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習
	14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法 II
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト、授業への参加態度 (練習への取り組み) 等を総合的に評価します。
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的
この授業では、中上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。適宜、小テストを行う。

到達目標
中上級の文法項目が適切に使えるようになる。

授業方法と留意点
教員による解説と練習を繰り返しながら進める。

科目学習の効果 (資格)
高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	「あたりまえ」を疑う社会学	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目
日本語読解 I

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
小テスト、授業への参加態度 (練習への取り組み) 等を総合的に評価します。

学生へのメッセージ
日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!

担当者の研究室等
7号館2階 (非常勤講師室)

備考
(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。
(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学び、論理的な文章の書き方を身に付けることを目指す。
到達目標	レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付ける。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の文章の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果 (資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文II
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題、授業への参加態度等を総合的に評価する。
-----------	------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学び、レポートや論文の適切な表現、書き方のルールを身につけることを目指す。
到達目標	レポートや論文の適切な表現、書き方のルールを身につける。
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成する。
科目学習の効果(資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める
	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習
	8	序論②	序論を書く	復習
	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習
	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習
	11	本論③	本論を書く	復習
	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習
	13	結論②	結論を書く	復習
	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習

関連科目	日本語表現作文Ⅰ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題、授業への参加態度等を総合的に評価する。 また、授業内で書き進めたレポートを評価の対象とする。
----------	--

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	---

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行いません。</p>																																																																
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する (N1、N2に限る)。</p>																																																																
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す (1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す (2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む (1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む (2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む (1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む (2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む (1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む (2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																														
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																														
5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																														
関連科目	日本語表現作文																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法 (基準)	<p>定期試験を実施 (試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室 (7号館2階)																																																																
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室 (7号館2階) またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																

科目名	日本語総合 F II	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行いません。</p>																																																																
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する (N1、N2に限る)。</p>																																																																
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す (1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す (2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む (1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む (2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む (1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む (2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む (1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む (2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																														
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																														
5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																														
関連科目	日本語表現作文																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法 (基準)	<p>定期試験を実施 (試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室 (7号館2階)																																																																
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室 (7号館2階) またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	————
	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習
	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習
	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習
	5	Eメール2	お知らせメール	復習
	6	Eメール3	お誘いメール	復習
	7	Eメール4	リマインドメール	復習
	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習
	9	Eメール6	依頼メール	復習
	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習
	11	Eメール8	お礼のメール	復習
	12	Eメール9	断りメール	復習
	13	Eメール10	クレームのメール	復習
	14	手紙	お礼状を書く	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度、課題などを総合的に評価する。
-----------	------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1)宿題 (教員へのメール送信) は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	—————
	2	就職活動 1	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習
	3	就職活動 2	自己 PR を書く	復習
	4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習
	5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習
	6	ビジネスメール 1	挨拶メール	復習
	7	ビジネスメール 2	報告メール	復習
	8	ビジネスメール 3	通知メール	復習
	9	ビジネスメール 4	案内メール	復習
	10	ビジネスメール 5	確認メール	復習
	11	ビジネスメール 6	依頼メール	復習
	12	ビジネスメール 7	問い合わせ/回答メール	復習
	13	ビジネスメール 8	アポイントを取るメール	復習
	14	ビジネスメール 9	お詫び/お礼のメール	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。
-----------	-------------------------

学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1)宿題 (教員へのメール送信) は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高井 美穂

授業概要・目的	この授業では、「お金」「家族」「幸福」「労働」など、個人や社会の価値観にかかわるようなトピックについて、日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について、論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目および結果について議論する。その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>中間テスト・復習</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>トピック⑧</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>トピック⑨</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>トピック⑩</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>トピック⑪</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>トピック⑫</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>トピック⑬</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	トピック⑦	議論	復習	8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習	9	トピック⑧	議論	復習	10	トピック⑨	議論	復習	11	トピック⑩	議論	復習	12	トピック⑪	議論	復習	13	トピック⑫	議論	復習	14	トピック⑬	議論	復習	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	トピック①	議論	復習																																																														
2	トピック②	議論	復習																																																														
3	トピック③	議論	復習																																																														
4	トピック④	議論	復習																																																														
5	トピック⑤	議論	復習																																																														
6	トピック⑥	議論	復習																																																														
7	トピック⑦	議論	復習																																																														
8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習																																																														
9	トピック⑧	議論	復習																																																														
10	トピック⑨	議論	復習																																																														
11	トピック⑩	議論	復習																																																														
12	トピック⑪	議論	復習																																																														
13	トピック⑫	議論	復習																																																														
14	トピック⑬	議論	復習																																																														
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習																																																														

関連科目	
------	--

教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のテストから総合的に判断する。
-----------	----------------------------

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美徳

授業概要・目的	日本語会話 F I と同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	復習
	2	トピック②	議論	復習
	3	トピック③	議論	復習
	4	トピック④	議論	復習
	5	トピック⑤	議論	復習
	6	トピック⑥	議論	復習
	7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
	8	トピック⑦	議論	復習
	9	トピック⑧	議論	復習
	10	トピック⑨	議論	復習
	11	トピック⑩	議論	復習
	12	トピック⑪	議論	復習
	13	トピック⑫	議論	復習
	14	トピック⑬	議論	復習
	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	日本語上級読解 F I	科目名 (英文)	Advanced Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する (N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す (1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す (2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む (1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む (2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む (1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む (2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む (1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む (2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>定期試験を実施 (試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室 (7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室 (7号館2階) またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																		

科目名	日本語上級読解 F II	科目名 (英文)	Advanced Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る</p> <p>②まとまった内容の文章の大意を把握する</p> <p>③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																														
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																														
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																														
関連科目	日本語表現作文																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																

科目名	日本語上級作文F I	科目名(英文)	Advanced Japanese Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	————
	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習
	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習
	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習
	5	Eメール2	お知らせメール	復習
	6	Eメール3	お誘いメール	復習
	7	Eメール4	リマインドメール	復習
	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習
	9	Eメール6	依頼メール	復習
	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習
	11	Eメール8	お礼のメール	復習
	12	Eメール9	断りメール	復習
	13	Eメール10	クレームのメール	復習
	14	手紙	お礼状を書く	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度、課題などを総合的に評価する。
----------	------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語上級作文FⅡ	科目名(英文)	Advanced Japanese Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	—————
	2	就職活動1	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習
	3	就職活動2	自己PRを書く	復習
	4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習
	5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習
	6	ビジネスメール1	挨拶メール	復習
	7	ビジネスメール2	報告メール	復習
	8	ビジネスメール3	通知メール	復習
	9	ビジネスメール4	案内メール	復習
	10	ビジネスメール5	確認メール	復習
	11	ビジネスメール6	依頼メール	復習
	12	ビジネスメール7	問い合わせ/回答メール	復習
	13	ビジネスメール8	アポイントを取るメール	復習
	14	ビジネスメール9	お詫び/お礼のメール	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語上級会話 F I	科目名 (英文)	Advanced Japanese Speaking FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高井 美穂

授業概要・目的	この授業では、「お金」「家族」「幸福」「労働」など、個人や社会の価値観にかかわるようなトピックについて、日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について、論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目および結果について議論する。その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>中間テスト・復習</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>トピック⑧</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>トピック⑨</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>トピック⑩</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>トピック⑪</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>トピック⑫</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>トピック⑬</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	トピック⑦	議論	復習	8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習	9	トピック⑧	議論	復習	10	トピック⑨	議論	復習	11	トピック⑩	議論	復習	12	トピック⑪	議論	復習	13	トピック⑫	議論	復習	14	トピック⑬	議論	復習	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	トピック①	議論	復習																																																														
2	トピック②	議論	復習																																																														
3	トピック③	議論	復習																																																														
4	トピック④	議論	復習																																																														
5	トピック⑤	議論	復習																																																														
6	トピック⑥	議論	復習																																																														
7	トピック⑦	議論	復習																																																														
8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習																																																														
9	トピック⑧	議論	復習																																																														
10	トピック⑨	議論	復習																																																														
11	トピック⑩	議論	復習																																																														
12	トピック⑪	議論	復習																																																														
13	トピック⑫	議論	復習																																																														
14	トピック⑬	議論	復習																																																														
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習																																																														

関連科目	
------	--

教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のテストから総合的に判断する。
-----------	----------------------------

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	日本語上級会話 F II	科目名 (英文)	Advanced Japanese Speaking FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美穂

授業概要・目的	日本語会話 F I と同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
8	トピック⑦	議論	復習
9	トピック⑧	議論	復習
10	トピック⑨	議論	復習
11	トピック⑩	議論	復習
12	トピック⑪	議論	復習
13	トピック⑫	議論	復習
14	トピック⑬	議論	復習
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 国際交流センター (3号館4階)

備考

教 職 科 目

科目名	教師論	科目名(英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や責任は何か」「教師の職務とはどのようなものか」「教師として生きるとはどのようなことか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づいてグループワークを行います。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)・進路選択に資する各種の機会の提供等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	テキスト第1章
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	テキスト第10章
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	テキスト第4章・第12章
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	テキスト第3章
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料 テキスト第11章
7	さまざまな教師像(1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	テキスト第2章・終章
8	さまざまな教師像(2)	「不良教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	さまざまな教師像(3)	「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	さまざまな教師像(4)	「人間教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」に関する配布資料を読みレポート提出
11	さまざまな教師像(5)	「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
12	教員の役割・職務(1)	教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	テキスト第5章・第8章
13	教員の役割・職務(2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	テキスト第7章 教職員の構成と校務分掌に関する配布資料
14	教員の役割・職務(3)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 教員の勤務条件	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務(4)	教員のメンタルヘルス、バーンアウト 教育改革と教員	テキスト第9章

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 教職論—「よい教師」への扉を開く—	佐島群巳・小池俊夫編	学文社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		適宜指示します。	
2				
3				

評価方法(基準) 定期試験を実施します。その他、レポートの内容、受講に係る積極的な態度も成績判定の資料とします。

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることとなります。教養とともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	教育原理	科目名(英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 裕樹

授業概要・目的	あなたは、「そもそも「教育」とはいったい何なのだろう」と疑問に思ったことはありませんか。あるいは、この疑問と関連して、次のように問うてみたことはありませんか。すなわち、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか。」「いやむしろ、教育を受けることで、何らかの「型」にはめられてしまったのではないか。」「教育には、今あるいわゆる「学校教育」のようなあり方しか存在しないのだろうか」……などなど。この授業では、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについても一度丁寧に考え直してみることを目的とします。なお、その際に参考にするのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史です。これらの思索や歴史を踏まえることで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができるようになります。
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたいうえで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができることを目指します。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。
科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得 (3) 学芸員資格の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考える。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについて、考える。
3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」の教育についてより広い観点から考察を深める。
4	教育をめぐる諸論①:「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要因である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。
5	教育をめぐる諸論②:「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」観(あるいは「人間形成」観)の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の違いについて、授業後にもう一度整理しておく。
6	教育をめぐる諸論③:「子ども」観の歴史の変遷と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変遷してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史の変遷を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	「子ども」一般に対して自分が抱いているイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、授業後にもう一度自分の「子ども」観について考えてみる。
7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
8	教育の思想の歴史②	ペスタロッチ、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デューイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
11	日本の教育の歴史②	大正自由主義教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へという歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。
13	教育と権力②	①権力論の新たな展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。
14	媒介者としての教師	様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「過去と未来の媒介者」という観点から考える。	「自分が将来どのような教師になりたいか」を考えておく。
15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。

関連科目 教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は特に指定せず、授業中にレジュメと資料を配布します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育思想史	眞壁宏幹編	慶應義塾大学出版会
2	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶編	世織書房
3			

評価方法 (基準)	授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	7号館4階(小山研究室)
備考	

科目名	教育心理学	科目名(英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子

授業概要・目的	学校での教育活動において、教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、様々な形で援助していくためにはどうすればよいか、それを考えていくにあたって必要な、基礎的な知識を身につけることを目標とし、特に、認知的な側面に焦点を当てて議論していく。具体的には、教育について考える際に、ある意味基本となる「発達と学習」、学習者が主体的に学ぶための「学習意欲」、個人差の理解、障害の理解と特別支援教育について考える「個に応じた教育」を中心とする。また、学校を学習の場としてとらえたときの「人間関係」についてもふれることとする。
到達目標	教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」6単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	—————
2	教育を支える認知機能1	思考(1)……人間の思考の特徴	テキスト第8章、第9章を読む
3	教育を支える認知機能2	思考(2)……思考の発達、メタ認知	テキスト第7章の1、第8章、第9章を読む
4	教育を支える認知機能3	言語(1)……言語の機能、言語の発達	テキスト第9章の2、第11章を読む
5	教育を支える認知機能4	言語(2)……文章理解	テキスト第11章を読む
6	教育を支える認知機能5	記憶(1)……記憶のメカニズム	テキスト第4章、第5章を読む
7	教育を支える認知機能6	記憶(2)……記憶の発達	テキスト第4章、第5章を読む
8	こどもの学び1	様々な学習(1)……学習とは何か、古典的条件づけ	テキスト第1章を読む
9	こどもの学び2	様々な学習(2)……道具的条件づけ、観察学習	テキスト第1章を読む
10	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か……動機づけ過程、期待×価値理論、学習性無力感	テキスト第2章、第3章を読む
11	学習を支える動機づけ2	さまざまな学習意欲(1)……外発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
12	学習を支える動機づけ3	さまざまな学習意欲(2)……内発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
13	学習を支える動機づけ4	学習意欲を育むために……報酬と罰、評価、目標、教師の対応	テキスト第0章の2、第2章、第3章を読む
14	個に応じた教育1	個人差の理解と教育……ATI、学習方略	テキスト第0章の3、第6章を読む
15	個に応じた教育2	「障害」の理解と特別支援教育	テキスト第13章を読む

関連科目	心理学
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践—	藤田哲也(編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	小テスト30% 期末試験70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	

科目名	教育社会学	科目名(英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子

授業概要・目的
近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。皆さんがこれまでの学校生活で直接経験してきた身近な教育問題から地域や国の政策レベルでの取り組み、そして海外における事例等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。

到達目標
本講義の到達目標は以下の通りです。
1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。
2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。
3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。
4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。

授業方法と留意点
講義形式を中心としますが、適時、受講生全員で講義で取り扱う教育問題について発表し、問題理解・解決に向け議論する手法を取り入れるなど、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。そこで、よりよい議論の時間を保証するためにも、毎時、取り扱うテーマに関する文献等を読み(事前配布かテキスト使用)、それを講義日までに各自要約してきてもらいます(毎回要約を提出してもらうことになります。提出が不十分な学生は成績対象から外します。)
○準備学習の具体的な方法
指定しているテキストを購入し、講義で扱うテーマに該当する部分を要約しておいて下さい。そして日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておいてください。また、履修する学生の皆さんには本講義用に1冊ノートを作成してもらいます。そのノートに上記、予習や新聞等の切り抜き等を貼り付けるなど利用して下さい(まどめかたは自由)。※ノートは提出してもらうこともあります。

科目学習の効果(資格)
(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：教育の基礎理論に関する科目
各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	近代学校教育制度	近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。	事前課題：教科書の第1章、第2章の要約。
3	教師と子ども	「教師-生徒の関係性」という視点から学校における教育活動全般を考えていく。	事前課題：教科書の第3章、第4章の要約。
4	校則・体罰・校内暴力	学校が抱える諸問題(体罰等)が発生する背景や要因について考える。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
5	いじめ	学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにする。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
6	不登校	学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
7	教育格差・階層問題Ⅰ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。	事前課題：教科書の第7章の要約。
8	教育格差・階層問題Ⅱ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
9	国の教育政策：海外との比較	教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
10	地域と学校Ⅰ	地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
11	地域と学校Ⅱ	地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行う。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
12	ジェンダーと教育	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
13	国家と教育	教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。	事後課題：教科書の第9章、及び事前に配布する論文資料を読み、要約する。
14	在日外国人の子どもたち	学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
15	総括	「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題：教科書の第10章の要約。

関連科目
「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『(教師教育テキストシリーズ5) 教育社会学』	久富善之・長谷川裕編	学文社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	出席・授業貢献度、試験（毎時間行う小テストと期末試験）、課題（毎時間の要約）・ノートにより総合的に評価する。 ※出席が80%に満たない者、課題（要約）の提出が十分でない者は成績評価の対象外とします（期末試験の受験資格なし）。
学生への メッセージ	本講義を履修する者は、原則、学校現場での活動経験（学習支援、授業補助、部活指導等内容は問わない無償・有償ボランティア活動）をしている（あるいは過去に「長期間」にわたり経験したことがある）ことが必須条件です。学校での活動経験のない者については履修期間中、学校で活動することを義務づけることがあります。 また、提出物に関しては締め切りを厳守すること。締め切り以降の提出に関しては受け取りませんが「未提出」扱いとします。
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。

科目名	教育経営論	科目名(英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的	本科目では、公教育システムに関してなじみの深い事例を参照し、そこから政策や法制、機構、理論や論争、現実や実態を明らかにし、検討していきます。これを通して、私たちにってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのしくみやはたらきについて理解します。
到達目標	例えば「何をどう教えるのか」という内容的・技術的な事柄も実はさまざまな制度やその運用の仕方などによって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としてのLTDについて説明 公教育の成立前史 教育における「公」と「私」	
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」 教育権論争について簡単なグループワーク	テキスト第3章1節を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育の制度原理 「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第3章2節を読んでくる。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第7章1・2節を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合 「選抜・選別」について簡単なグループワーク	テキスト第3章3節を読んでくる。 学校の機能に関する配布資料を読んでくる。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか 学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第7章2・3節を読んでくる。 学校統廃合に関する配布資料を読んでくる。
7	学校の組織管理	教職員配置と組織編制	テキスト第4章1・2節を読んでくる。
8	学校経営の新しい動向	「開かれた学校」 学校評議員制度、学校運営協議会制度 地域運営学校について簡単なグループワーク	テキスト第4章3・4節を読んでくる。 コミュニティスクールまたは学校参加に関する配布資料を読んでくる。
9	教育課程経営	学習指導要領の性質と特徴の変遷 学力論争と教育評価論 学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第10章1・2節を読んでくる。 学力低下論争に関する配布資料を読んでくる。
10	教科書制度と指導行政	教科書検定 教科書採択 制度をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第10章3・4節を読んでくる。 教科書検定または教科書採択制度に関する配布資料を読んでくる。
11	社会教育行政	社会教育と生涯学習 社会教育の理念と展開	テキスト第8章1・2節を読んでくる。
12	生涯学習社会への移行と生涯学習振興	社会教育行政の運営原則 社会教育の諸制度 社会教育不要論をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第8章3・4節を読んでくる。 社会教育不要論に関する配布資料を読んでくる。
13	教育行政のはたらきと地方教育行政組織	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク	テキスト第2章1節を読んでくる。 教育委員会制度の動向に関する配布資料を読んでくる。
14	国の教育行政と地方との関係	国の教育行政を動かす組織のしくみとはたらき 教育行政関係の新しい動向	テキスト第2章2・3節を読んでくる。
15	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第6章を読んでくる。

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育行政学 改訂版	勝野正章・藤本典裕編	学文社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名

教職科目

	1		適宜指示します。	
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート内容 30%、受講に係る積極的態度 10%の割合で総合的に評価します。定期試験を受験しなかった場合は成績評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室			
備考	ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。			

科目名	教育課程論	科目名(英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画、かつ、実践し、評価できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進めるが、扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められる。また、授業準備として各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読んだり、それぞれの免許取得教科の学習指導要領を入手し、目を通しておくこと。さらに各々の卒業校(中学校、高等学校)の学校概要について情報収集しておくことが望ましい。また本授業用のノートを1冊準備すること。授業でレジュメを配布予定としているが、板書やパワーポイント資料の中の重要キーワードについては口頭で説明することもあるので、そういった内容を記述するためのノートを1冊準備しておくこと。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
	2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
	3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
	4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当部分を読んでおくこと。
	5	教育評価	発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。
	6	『総合的な学習の時間』について	・導入の背景とそのねらいについて(学生グループによる発表を予定)	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	7	学校化された社会	「隠れたカリキュラム」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	9	新しい教育課程 その2	「人権教育/平和教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	10	新しい教育課程 その3	「シティズンシップ」教育について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中編(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	12	教育課程と教育改革 その2	特色のある学校づくり＝高校編(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	有斐閣アルマ
	2	教育課程・方法論—コンピテンシーを育てる授業デザイン	松尾知明	学文社
	3	中学校・高等学校学習指導要領解説	文部科学省	ぎょうせい他

評価方法(基準) 出席(8割以上必須)、学期末試験(単位取得のためには60点以上必要)、中間試験(予定)、レポート及び授業態度や授業への貢献度(発表を含む)など総合的に評価を行う。特に、学期末試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習を怠らないこと。また、遅刻、欠席が多い者については成績評価の対象から外すので注意すること(原則、第一回目から全15回出席すること)。

- 学生へのメッセージ
1. 第一回目の授業は必ず出席すること。
 2. 欠席・遅刻はしない。
 3. 私語はしない。
 4. 授業では何事にも積極的に取り組む。

	5. 授業内容の復習を怠らないこと。 6. 授業内容で分からない点については遠慮せずに質問する。
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)
備考	2009年度以前入学生は、(高校)教免取得上選択 授業計画は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。

科目名	工業科教育法 I	科目名 (英文)	Engineering Education I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	福岡 優

授業概要・目的	工業科教育法 I では、工業教育の意義・役割・目標や教育関連法規、歴史と現状などについて学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得を図る。
到達目標	工業高等学校において技術教育を行うために必要な基礎的知識を修得すること。
授業方法と留意点	教科書中心で行い、随時にプリントの配付、教材掲示装置、プロジェクター等も使用します。
科目学習の効果 (資格)	工業高等学校の教員 1 種免許を得るために必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容>	工業教育の役割について、適正年齢などに基づき説明する。	教科書による予習 配付プリントによる復習
2	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容>	工業教育の目標やその内容を取り扱う。	教科書による予習 配付プリントによる復習
3	工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分を取り扱う。	教科書による予習 配付プリントによる復習
4	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状>	日本の工業高校発展の明治以来の歴史と現在の状況について取り扱う。	教科書による予習 配付プリントによる復習
5	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状>	数種類の工業高校発展の具体例を挙げて歴史について考える。	教科書による予習 配付プリントによる復習
6	外国の技術・工業教育の紹介	外国の技術・工業教育の具体例を紹介する。	教科書による予習 配付プリントによる復習
7	教科・工業の内容関係<教科・工業の共通科目>	教科・工業の共通科目の考え方とねらいについて説明する。	教科書による予習 配付プリントによる復習
8	教科・工業の内容関係<教科・工業の共通科目>	教科・工業の共通科目の課題研究について説明する。	教科書による予習 配付プリントによる復習
9	教科・工業の内容関係<専門学校などの工業教育について>	専門学校などの工業教育の内容について説明する。	教科書による予習 配付プリントによる復習
10	教科・工業の内容関係<工業科の主な学科の実験・実習の内容紹介>	工業科の主な学科の実験・実習を紹介する。	教科書による予習 配付プリントによる復習
11	教科・工業の内容関係<工業科の主な学科の実験・実習の内容紹介>	工業科の主な学科の実験・実習について説明する。	教科書による予習 配付プリントによる復習
12	教科・工業の内容関係<実践的工業教育>	就業体験学習の指導計画、就業資格について説明する。	教科書による予習 配付プリントによる復習
13	教科・工業の内容関係<実践的工業教育>	実践的工業教育の活動計画・実際・展開などについて具体例を紹介する。	教科書による予習 配付プリントによる復習
14	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<教育課程の編成から単元の計画まで>	教育課程の意義・目標・役割などについて説明する。	教科書による予習 配付プリントによる復習
15	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<教育課程の編成から単元の計画まで>	教育課程の編成から単元計画までの手順や配慮事項について説明する。	教科書による予習 配付プリントによる復習

関連科目	特になし
------	------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい視点と実践に基づく工業科教育法の研究	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久 共著	実教出版株式会社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説 工業編	文部科学省	
2			
3			

評価方法 (基準)	レポート、および小テストなどにより評価する。
学生へのメッセージ	工業科教育関係に必要な科目です。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (連絡は 1 1 号館 1F 教務課へ)
備考	なし

科目名	工業科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Engineering Education II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	福岡 優

授業概要・目的	工業科教育法Ⅱでは、工業教育における学習指導、学習指導計画の作成から授業の進め方と成績評価、授業改善、さらに進路指導や学校運営について学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得を図る。
到達目標	工業高等学校において技術教育を行うために必要な基礎的知識を修得すること。
授業方法と留意点	教科書中心で行い、随時にプリントの配付、教材掲示装置、プロジェクター等も使用します。
科目学習の効果(資格)	工業高等学校の教員1種免許を得るために必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<授業設計, 学習指導案, 授業改善および教育実習>	授業構造や学習指導案について説明する。	教科書による予習 配付プリントによる復習
	2	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<授業設計, 学習指導案, 授業改善および教育実習>	授業改善および教育実習について説明する。	教科書による予習 配付プリントによる復習
	3	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<教育評価>	新しい学力観に基づく教育評価などについて説明する。	教科書による予習 配付プリントによる復習
	4	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<教育評価>	評価・認定の実例を説明する。	教科書による予習 配付プリントによる復習
	5	学習理論関係<学習と授業理論>	学習と授業理論の歴史的展開、授業の方法や形態について説明する。	教科書による予習 配付プリントによる復習
	6	学習理論関係<自作教具の勧め>	教具の種類と具体例について説明する。	教科書による予習 配付プリントによる復習
	7	模擬授業と評価および意見交換	模擬授業と評価および意見交換をする。	模擬授業の予習・復習
	8	模擬授業と評価および意見交換	模擬授業と評価および意見交換をする。	模擬授業の予習・復習
	9	模擬授業と評価および意見交換	模擬授業と評価および意見交換をする。	模擬授業の予習・復習
	10	模擬授業と評価および意見交換	模擬授業と評価および意見交換をする。	模擬授業の予習・復習
	11	模擬授業と評価および意見交換	模擬授業と評価および意見交換をする。	模擬授業の予習・復習
	12	進路指導・学校運営・工業高校の展望<工業教育と進路指導>	工業教育と進路指導の説明と具体例を紹介する。	教科書による予習 配付プリントによる復習
	13	進路指導・学校運営・工業高校の展望<学校運営と教員研修>	学校運営と教育力向上への取り組み。	教科書による予習 配付プリントによる復習
	14	進路指導・学校運営・工業高校の展望<工業高校の展望>	工業教育の現状と今後の発展について取り扱う。	教科書による予習 配付プリントによる復習
	15	創造性教育課題研究	問題解決学習について説明する。	教科書による予習 配付プリントによる復習

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	レポートおよび小テストなどにより評価する。
----------	-----------------------

学生へのメッセージ	工業科教育関係に必要な科目です。
-----------	------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室(連絡は11号館1F教務課へ)
----------	-----------------------

備考	なし
----	----

科目名	数学科教育法 I	科目名 (英文)	Method of Mathematics Teaching I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 俊公

授業概要・目的	数学科教育法 I では、高等学校数学科教員を目指す学生の意識を高め、実際に教育を担当できうるための基礎的な実践能力の育成をめざす。「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」をとらえ、数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。また、問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく、グループ学習を重視し、マイクロティーチング・プレゼンテーションを通して「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し、自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。
到達目標	(1) 現行の学習指導要領を踏まえて、学習目標をたて、指導案を作成し、高等学校数学科の科目内容に関する15分程度のマイクロティーチングを行うことができる。 (2) 相互評価・自己評価を通じて、現在の自分を見つめ直し、教育観・教育力を育むことができる。
授業方法と留意点	グループ学習・活動を実施する。自らが発見した課題に積極的に取り組むことにより学ぶ「メタ学習」を根本におく。レポートの提出を求める。ビデオ、教材提示装置等視聴覚器材を用いて講義を進める。
科目学習の効果 (資格)	「創造型人材育成教育 (数学教育) を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。(高等学校一種免許 (数学))

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、ガイダンス、全体の展望、学習の進め方。	課題レポート
2	教育と評価(1)	「評価」観の変遷から新しい「学力」観におけるメタ認知・メタ学習における評価について考える。	課題レポート
3	教育と評価(2)	教育における指導と評価を一体化させる方法を考え、「教育改善のための評価法」に統合する。	課題レポート
4	数学教育の目的と目標	教授の概念を学び、教授論の歴史的展開から教授メディアの発展及び学習理論について学ぶ。	課題レポート
5	新しい学力観	学術的な見方・考え方に関わる教授法に関する知識を、学習理論に結びつけ、新しい「学力」観について考える。	課題レポート
6	生きる力(1)	近接校種等の総合的な学習の時間における教育のあり方を学び、先進的な実践校の内容と、その分析を行う。	課題レポート
7	生きる力(2)	教授法・学習理論をメタ学習・数学教育の観点から教育の現場で役立つ力とする。	課題レポート
8	学級崩壊・学力崩壊	近接校種の教育の現場の状況を知り、各自の目指す校種に至るまでの現状を知る。特に小学校低学年における学級崩壊の実状を考察して、各自の教育観をたてる。	課題レポート
9	学習指導要領(1)	学習指導要領制定の経緯、変遷の経過に、それぞれの時代の求められた教育観がいかに反映されたかを学ぶ。	課題レポート
10	学習指導要領(2)	高等学校の学習指導要領について学び、その目標や内容について知り、教科書の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	課題レポート
11	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	課題レポート
12	マイクロティーチングの方法	教育機器と教授メディア、教授メディアの発展と現状、チャート・カード・OHPなどの活用について。	課題レポート
13	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(1)	各自の求める数学教育について、「15分間のマイクロティーチング」にまとめ、実践する。	課題レポート
14	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(2)	グループ員各々のマイクロティーチングを「学ぶもの立場」、「同僚(教えるもの)としての立場」で相互評価し、「教えるもの」としての自己評価を加えて総合的にまとめる。	課題レポート
15	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(3)	マイクロティーチングの相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	課題レポート

関連科目 本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目、一般教養科目をあらかじめ履修しておくことが望ましい。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説—数学編・理数編		
2	高等学校学習指導要領解説—総則編		
3	中学校学習指導要領解説—数学編		

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) バズセッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席時)。マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。マイクロティーチングと評価のまとめで50%、レポートと日常学習状況(出席状況を含む)の評価を50%とする。

学生へのメッセージ 将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として、プレゼンテーション能力の育成をはかり、グループを中心に、新しい教材開発など積極的な活動を求める。

担当者の研究室等 3号館3階 数学研究室

備考

科目名	数学科教育法 II	科目名 (英文)	Method of Mathematics Teaching II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 俊公

授業概要・目的	数学科教育法 II では、高等学校数学科教員を目指す学生が実際に教育を担当できるようにするための基盤となる実践力の育成をめざす。数学科教育法 I でまとめあげた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と、体験したマイクロティーチングを礎にして、生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成し、生徒の学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力を育成できるプロジェクトをたて、教育コースウェアを研究・開発し、バズ式セッション・グループ活動・他者評価・自己評価、相互評価などで実践的な学びを展開する。学科の学習・教育目標との対応：[IV]
到達目標	高等学校数学科の科目内容に関して、学習目標・内容・評価を含む指導計画をたて、学習指導案（指導細案）を作成し、約50分の模擬授業を行うことができる。
授業方法と留意点	主に講義形式を取りながら、グループ学習・活動を取り入れ、学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決し、プレゼンテーションする資質や能力を涵養する。
科目学習の効果（資格）	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。（高等学校一種免許（数学） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、 学び方、ガイダンス、 全体の展望、学習の進め方。	課題レポート
2	生きる力と確かな学力、学力観(1)	高等学校教科「数学」や専門教科「理数」において、 生徒の学習意欲をたかめ、生きる力を支える「確かな 学力」について考える。	課題レポート
3	生きる力と確かな学力、学力観(2)	「生徒が数学的な見方・考え方が好きだと思うこと」 とは、また「授業以外に学ぶ習慣を体得できる種々の 方策」とはについて考える。	課題レポート
4	生きる力と確かな学力、学力観(3)	「生活の中での数学の有効性を体験し、論理的に考える 態度の育成」とは、また「人やものに関わる力を高め るための体験」とはどのようなものであるかを考える。	課題レポート
5	生きる力と確かな学力、学力観(4)	身近な事象から、どのような数学的知識が引き出され ているか具体例を挙げ、数学的思考の構成過程を振り返 り、当初の事象にどのように活用されているかを 考える。	課題レポート
6	高等学校の数学教育開発プロジェクト(1)	高等学校普通教科数学「I・II・III、A、B、数学 活用」や専門科目「理数」の各々について、その理念 と意義及び目標・内容について理解する。	課題レポート
7	高等学校の数学教育開発プロジェクト(2)	理解の過程で各自が持った問題意識でテーマをたて 「自分が求める数学教育」を設定し、各自のたてた学 力観から教授モデルや評価のあり方についてさらに考 えをすすめる。	課題レポート
8	高等学校の数学教育開発プロジェクト(3)	自ら学び自ら考える力や表現力を身につけさせること ができる「各自の行いたい教育コースウェア」を開発 するプロジェクトを考察する。	課題レポート
9	高等学校の数学教育開発プロジェクト(4)	教育目標・目的、内容・方法、評価について考え、教 育課程、年間指導計画、単元計画、本時の学習につい ての学習指導案・学習指導細案・ワークシート・板書 計画・評価法をまとめ上げる。	課題レポート
10	バズ式セッション、模擬授業・評価(1)	グループ活動として、各自の開発した教育コースウェア についてバズ式セッションで討議する。	課題レポート
11	バズ式セッション、模擬授業・評価(2)	討議の結果をフィードバックして各自の考えた教育コ ースウェアを修正し、「50分間の模擬授業」を行う。	課題レポート
12	バズ式セッション、模擬授業・評価(3)	各自の考えた「評価規準」「評価基準」「ルーブリック」 等で評価を行い、観点別評価を実践する。	課題レポート
13	バズ式セッション、模擬授業・評価(4)	実践により各々のプロジェクト型問題解決学習を完結 し、一人ひとりの「Plan-Do-Check-Actionのサイクル」 をシステムティックに組み上げる。	課題レポート
14	バズ式セッション、模擬授業・評価(5)	教育者としての基盤を確立し、自己の教育力（授業改 善力・評価力等）育成のための方法を体得する。	課題レポート
15	まとめ	高等学校教科「数学」の学習指導要領について体系的 な知識を身につけ、「生きる力」や「確かな学力」につ いて考えをまとめ、各自の「学力観」を立てる。	課題レポート

関連科目 本科目を学ぶまでに数学科教育法 I を履修すること。他の教職関連科目、一般教養科目などもあらかじめ履修しておくことが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説—数学編・理数編		
2	高等学校学習指導要領解説—総則編			
3	中学校学習指導要領解説—数学編			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	観点別評価 実践事例集	北尾彦彦・鈴木彬・内海淳 編集	図書文化
2				
3				

評価方法 マイクロティーチング（模擬授業）は必須。授業への参画（受講態度、平常点）、課題提出、課題解決の経過等の日常学習状況の評価が50%、マ

(基準)	イクロティーチングと評価のまとめで50%とする。
学生へのメッセージ	生徒の自己実現を支援する高等学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち、常に問題を発見し問題解決・課題解決に情熱を傾け、日々の課題を着実に解決し、自ら継続的に問題（課題）解決のための取り組みを日常的に行う学生の受講を希望する。
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	

科目名	数学科教育法Ⅲ	科目名(英文)	Method of Mathematics Teaching III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	富永 雅

授業概要・目的	数学科教育法Ⅲでは、中学校数学科教員を目指す学生の意識を高め、実際に教育を担当できるための基礎的な実践能力の育成をめざす。中学生の実態を捉え、「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」に関する知識を展開し、数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。また、問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく、グループ学習を重視し、マイクロティーチング・プレゼンテーションをとおして「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し、自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。また、校種間の連携として小学校・高等学校の指導要領についても学ぶ。自己の学習に関するPDCAサイクル
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領(数学)の理解 ・数学的な活動の理解と体得 ・PISA型学力と生きる力の理解と育成法の体得 ・必須授業力の理解と自己の授業力の育成 ・マイクロティーチングの基礎力 ・評価と評定についての理解
授業方法と留意点	グループ学習・活動で実施する。自らが発見した課題に積極的に取り組むことにより学ぶ「メタ学習」を根本におく。レポートの提出を求める。ビデオ、教材提示装置等視聴覚器材を用いて講義を進める。
科目学習の効果(資格)	「創造型人材育成教育(数学教育)を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。(中学校一種免許(数学)) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、全体の展望、学習の進め方	課題レポート
	2	中学校数学教育の歴史(1)	中学校運営全体の中で、数学教育体制がどのように始められ変遷してきたか学ぶ。	課題レポート
	3	中学校数学教育の歴史(2)	中学校数学教育でなにが教えられてきたか、教科内容の取捨選択がいかに行われてきたかを学ぶ。	課題レポート
	4	算数教育から数学教育へ(1)	小学校算数教育の内容の変遷を通じて、小中の算数数学教育の連携がどのように考えられてきたか学ぶ。	課題レポート
	5	算数教育から数学教育へ(2)	現行算数教育と数学教育の間にはどのような問題があるのか、その課題とやかに改善すべきか考える。	課題レポート
	6	数学教育の目的と目標	教授の概念を学び、教授論の歴史的展開から教授メディアの発展及び学習理論について学ぶ。	課題レポート
	7	学級崩壊・学力崩壊	近接校種の教育の現場の状況を知り、各自の目指す校種に至るまでの現状を知る。特に小学校低学年における学級崩壊の実状を考察して、各自の教育観をたてる。	課題レポート
	8	生きる力(1)	近接校種等の総合的な学習の時間における教育のあり方を学び、先進的な実践校の内容と、その分析をおこなう。	課題レポート
	9	生きる力(2)	教授法・学習理論をメタ学習・数学教育の観点から教育の現場で役立つ力とする。	課題レポート
	10	学習指導要領	中学校の学習指導要領について学び、その目標や内容について知り、教科書の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	課題レポート
	11	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	課題レポート
	12	マイクロティーチングの方法	教育機器と教授メディア、教授メディアの発展と現状、チャート・カード・OHPなどの活用	課題レポート
	13	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(1)	各自の求める数学教育について、「15分間のマイクロティーチング」にまとめ、実践する。	課題レポート
	14	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(2)	グループ員各々のマイクロティーチングを「学ぶもの」の立場、「同僚(教えるもの)としての立場」で相互評価し、「教えるもの」としての自己評価を加えて総合的にまとめる。	課題レポート
	15	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(3)	マイクロティーチングの相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	課題レポート

関連科目 本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目、一般教養科目を予め履修しておくことが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 数学編(最新版)	文部科学省	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	バズセッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席時)。マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。マイクロティーチングと評価のまとめで50%、レポートと日常学習状況(出席状況を含む)の評価が50%とする。
学生への メッセージ	将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として、プレゼンテーション能力の育成をはかり、グループを中心に、新しい教材開発など積極的な活動を求める。
担当者の 研究室等	当該講義内での対応が中心となります。
備考	

科目名	数学科教育法Ⅳ	科目名(英文)	Method of Mathematics Teaching IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	富永 雅

授業概要・目的	数学科教育法Ⅳでは、中学校数学科教員を目指す学生が実際に教育を担当できるための基盤となる実践力の育成をめざす。数学科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲでまとめあげた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と、体験したマイクロティーチングを礎にして、生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成するための教育コースウェアを研究・開発する。バズ式セッション・グループ活動を学習形態に取り入れ、生徒の学習意欲をたかめ、自ら学び自ら考える力を育てるといった課題を持ってプロジェクトをたてる。各自がたてた課題解決プロジェクトを互いに他者評価し、自己評価して実践的な学びを展開する。教育職としてのPDCA策定。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領(数学)の内容(単元の学年配当、4領域+1分野)の体得 ・数学的な活動を含んだ教育課程の編成についての理解 ・PISA型学力と生きる力を育成する教育課程の体得 ・学習指導案の作成力 ・マイクロティーチングの実践力 ・他者評価法の理解と実践力
授業方法と留意点	学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決し、プレゼンテーションする資質や能力の涵養
科目学習の効果(資格)	<p>【創造型人材育成教育(数学教育)を実践しうる教育者】となるための基盤力が涵養できる。(中学校一種免許(数学))</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育課程及び指導法に関する科目</p> <p>各科目に含める必要事項：各教科の指導法</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、全体の展望、学習の進め方	課題レポート
2	生きる力と確かな学力、学力観(1)	中学校教科「数学」において、生徒の学習意欲をたかめ、生きる力を支える「確かな学力」について考える。	課題レポート
3	生きる力と確かな学力、学力観(2)	「生徒が数学的な見方・考え方が好きだと思うこと」とは、また「授業以外に学ぶ習慣を体得できる種々の方策」とはについて考える。	課題レポート
4	生きる力と確かな学力、学力観(3)	「生活の中での数学の有効性を体験し論理的に考える態度の育成」とは、また「人やものとも関わる力をたかめるための体験」とはどのようなものであるかを考える。	課題レポート
5	中学校の数学教育開発プロジェクト(1)	教育目標・目的、内容・方法、評価について考え、教育課程、年間指導計画、単元計画、本時の学習についての学習指導案・学習指導細案・ワークシート・板書計画・評価法をまとめ上げる。	課題レポート
6	中学校の数学教育開発プロジェクト(2)	理解の過程で各自が持った問題意識でテーマをたて「自分が求める数学教育」を設定し、各自のたてた学力観から教授モデルや評価のあり方についてさらに考えをすすめる。	課題レポート
7	中学校の数学教育開発プロジェクト(3)	第1学年での数学教科について、その理念と意義及び目標・内容について理解する。	課題レポート
8	中学校の数学教育開発プロジェクト(4)	第2学年での数学教科について、その理念と意義及び目標・内容について理解する。	課題レポート
9	中学校の数学教育開発プロジェクト(5)	第3学年での数学教科について、その理念と意義及び目標・内容について理解する。	課題レポート
10	バズ式セッション、模擬授業・評価(1)	グループ活動として、各自の開発した教育コースウェアについてバズ式セッションで討議する。	課題レポート
11	バズ式セッション、模擬授業・評価(2)	討議の結果をフィードバックして各自の考えた教育コースウェアを修正し、「50分間の模擬授業」をおこなう。	課題レポート
12	バズ式セッション、模擬授業・評価(3)	各自の考えた「評価規準」「評価基準」「ルーブリック」等で評価をおこない、観点別評価を実践する。	課題レポート
13	バズ式セッション、模擬授業・評価(4)	実践により各々のプロジェクト型問題解決学習を完結し、ひとりひとりの「Plan-Do-Check-Actionのサイクル」をシステムティックに組み上げる。	課題レポート
14	バズ式セッション、模擬授業・評価(5)	教育者としての基盤を確立し、自己の教育力(授業改善力・評価力等)育成のための方法を体得する。	課題レポート
15	まとめ	高等学校教科「数学」の学習指導要領について体系的な知識を身につけ、「生きる力」や「確かな学力」について考えをまとめ、各自の「学力観」を立てる。	課題レポート

関連科目	本科目を学ぶまでに数学科教育法Ⅲを履修すること。他の教職関連科目、一般教養科目なども予め履修しておくことが望ましい。
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 数学編（最新版）	文部科学省	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>バス式セッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席した場合はグループ員から内容を聞き取り次週までに実践しておくこと)。 マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。マイクロティーチングと評価のまとめで50%、レポートと日常学習状況(出席状況を含む)の評価が50%とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>生徒の自己実現を支援する中学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち、常に問題を発見し、問題解決・課題解決に情熱を傾け、日々の課題を着実に解決し、自ら継続的に問題(課題)解決のための取り組みを日常的におこなう学生の受講を希望する。</p>			
担当者の 研究室等	<p>当該講義内での対応が中心となります。</p>			
備考				

科目名	道德教育の研究	科目名(英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山 裕樹

授業概要・目的	この授業では、日本の道德教育に関する基礎的な知識や考え方（日本の道德教育の歴史、道德教育の内容を構成する諸概念、道德性の発達理論、等）について解説を加え、実際に学校でどのように道德教育を行えばよいのかを考えていきます。
到達目標	受講者が日本の道德教育に関する基礎的な知識や考え方を身に付け、道德教育に関する具体的な授業計画を立案することができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：道德の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	
		事前・事後学習課題	
1	ガイダンス:道德教育をどのように考えるか	①現在道德教育がどのように考えられているかを、確認する。 ②読み物教材の分析を通して、道德教育に対するアプローチ法を考える。	自分が受けてきた道德教育がどのようなものであったかを思い出しておく。
2	日本の道德教育の歴史①:戦前の道德教育	①明治から昭和初期にかけての道德教育の歴史を概観する。 ②「個人主義」について多角的に考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「個人主義」についてより深く考える。
3	日本の道德教育の歴史②:戦後の道德教育	道德教育に関する戦後すぐの教育改革の動向と、それに対するいわゆる保守反動的な動きについて考える。	政治的・経済的状況との関わりから、道德教育の歴史の変遷を整理する。
4	日本の道德教育の歴史③:現代の道德教育	①近年の道德教育をめぐる教育改革の動向を概観する。 ②道德教育推進論の論拠の一つともなっている「いじめ」問題について考えを深める。	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い出しておく。さらに、その体験について、授業の内容を踏まえたうえで再考する。
5	諸外国の道德教育	①諸外国の道德教育の状況について概観する。 ②諸外国の道德教育を事例として、道德教育と「宗教教育」との関係について考える。	諸外国の道德教育と自分の受けてきた道德教育とを比較検討し、共通点と相違点を整理する。
6	道德教育の内容①:自我	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として自分自身に関すること」をめぐり、「自我」(＝「私」)について道德教育の視点から考える。	普段の自分の生活や授業の内容を振り返り、「私」のあり方についてより深く考える。
7	道德教育の内容②:他者	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として人との関わりに関すること」をめぐり、道德教育の視点から「他者」との関わりをなかで「私」を捉え直す。	普段の自分の生活を振り返り、そこでの「私」と「他者」との関わりについて考えておく。さらに、授業を踏まえたうえで、それについて再考する。
8	道德教育の内容③:生命と自然	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」をめぐり、道德教育(とりわけ「いのちの教育」)の実践例を検討する。	「いのちの教育」の実践例について、授業の内容を踏まえたうえで、より深く考える。
9	道德教育の内容④:美と崇高	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なもののかかわりに関すること」をめぐり、道德教育をいわゆる「情操教育」的な観点から検討する。	授業の内容を踏まえたうえで、「情操教育」的な観点から道德教育について再考する。
10	道德教育の内容⑤:社会	①学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として集団や社会との関わりに関すること」をめぐり、道德教育の視点から「社会」との関わりをなかで「私」を捉え直す。 ②いわゆる「スクールカースト」について考える。	自分の周囲で起こった「スクールカースト」の体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
11	道德性の発達	①コールバーグおよびギリガンによる道德性の発達理論を検討する。 ②道德性の発達理論を応用したいいわゆる「モラル・ジレンマ授業」について理解を深める。	「モラル・ジレンマ授業」について構想するための準備をする。
12	道德の授業の位置づけ	①教育課程編成上の道德教育の位置づけを確認する。 ②他教科での教育のなかで行われた道德教育の実践例をもとに、道德教育の幅広い可能性について考える。	他教科での教育と道德教育の関わりについて整理する。
13	学習指導案の作成と授業の展開①	①学校における道德教育の「要」とされている「道德科」の位置づけについて考える。 ②「道德科」の時間を計画的に進めるための学習指導案の書き方について具体的に考えていく。	授業時に指示する。

	14	学習指導案の作成と授業の展開②	「道徳科」の学習指導案の書き方について、引き続き具体的に考えていく。	授業時に指示する。																
	15	まとめ:道徳教育と教師の責任	①道徳教育についてまとめとして考えるために、ある実験授業の記録を扱う。 ②この実験授業において生じた結果から、道徳教育が有する「可能性」や「限界」等について考察する。	授業時に指示する。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性</td> <td>下司晶編</td> <td>世織書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶編	世織書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶編	世織書房																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。																			
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7号館4階(小山研究室)																			
備考																				

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹

授業概要・目的	(1) 学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動（児童会活動）、学校行事、それぞれの指導目標や内容等に関する基礎的・基本的事項について整理する。 (2) 子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについての理解を深める。 (3) 「学級づくり」（教師と生徒の関係づくり、生徒どうしの関係づくり）に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の方法について、事例をもとにグループ討議を行い、発表・交流する。
到達目標	将来、学級担任として、望ましい集団活動を育て、すべての子どもが安心して学校生活を送ることができるよう、学級経営や学級づくりを行う必要があることから、その前段階として、学校支援ボランティアの学生の立場で教員と協力・連携しながら学級集団への適切なサポートができるようになる。
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにするが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動を指導する立場にたつ教員として、集団をファシリテートすることができるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネート・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：特別活動の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動の意義と課題	特別活動とは何か、特別活動の教育的意義、社会の変貌と子どもたちの状況、学級担任の役割	教科書第1章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
2	特別活動の目的・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐる	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ソロワークと意見交換	教科書第1・2章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
3	学級活動（ホームルーム活動）その1 ワーク②大学に入って	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもとの関係づくり、学級開きと年間計画 ソロワークと意見交換	教科書第4・11章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
4	学級活動（ホームルーム活動）その2 ワーク③学級活動（係・班・当番・委員）の思い出	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ソロワークと意見交換	教科書第4・11章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
5	生徒会活動（児童会活動）・学級行事 ワーク④学校行事（運動会・体育祭・文化祭等）の思い出	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ソロワークと意見交換	教科書第5・6・12・13章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
6	体験活動の意義 ワーク⑤「14歳の頃」・「17歳の頃」	特別活動の目標と体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験の持つ教育力と教師の指導性 グループワークの班分け、顔合わせ	教科書第2章、配布プリントをよく読んでおく。
7	特別活動の歴史・領域・方法 グループワーク①はじめ(その1)	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがいがい グループ討議・発表・交流	教科書第2・3章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
8	特別活動と学級経営 グループワーク②はじめ(その2)	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 グループ討議・発表・交流	教科書第9章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
9	特別活動と生徒指導 グループワーク③非行	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 グループ討議・発表・交流	教科書第10章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
10	特別活動における評価 グループワーク④不登校	評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。
11	特別活動と道徳教育 グループワーク⑤インクルーシブ教育	特別活動と道徳教育との関連及びそれぞれの教育的意義 グループ討議・発表・交流	教科書第8章を読んでおく。学習事項を整理する。
12	特別活動と総合的な学習 グループワーク⑥進路指導・キャリア教育	特別活動と総合的な学習の時間との関連及びそれぞれの教育的意義 グループ討議・発表・交流	教科書第7・14章を読んでおく。学習事項を整理する。
13	現行学習指導要領について グループワーク⑦体罰	現行学習指導要領における改定の要点、言語能力・体験活動の重視 グループ討議・発表・交流	教科書第3章及び資料編を読んでおく。学習事項を整理する。
14	特別活動の指導計画・指導案の作成 グループワーク⑧ジェンダー	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。
15	まとめ～子どもの自尊感情を高めるということ	集団的な自尊感情を育むことの重要性について	全学習事項について再度振り返り整理する。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるとともに、「教育方法論」「生徒指導論」「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の特別活動	相原次男他	ミネルヴァ書房

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	ぎょうせい
	2	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	海文堂出版
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、中間レポート (30%)、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況 (20%) を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式+記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自分史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況を評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するという事に尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)			
備考				

科目名	教育方法論	科目名(英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応し、多角的な教育方法の実践的探究をめざすスタンダードなテキストにもとづいた講義、授業の力量を高めるための基礎的な技術の紹介、授業の対象・目標の決定、教材の研究・作成、発問・指示の具体化等、一連の授業づくりをチームで行うマイクロティーチングの実施により授業を構成する。受け身ではなく能動的な学びを経験することになる。</p> <p>それらのことを通じて、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「教え込む技術」の習得をめざすのではなく、生徒の生活背景を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とするような授業を構想する。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が専門性を向上させるだけでなく、相互に学び合える同僚性を構築すること、教育諸科学研究から新しい知見を摂取し続けることが重要であることを理解する。</p>
到達目標	<p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる力を養う。</p>
授業方法と留意点	<p>(1) 講義・ワークを中心に授業を進める。インタラクティブ(双方向的)な授業となるよう積極的な参加を求める。私語は厳禁だが、質問や意見提起は歓迎する。</p> <p>(2) 毎回、講義資料とコメントペーパーを配付する。講義資料は各自ファイリングし、「コメントペーパー」は記入・提出すること(編集して、次回に配布し、共有すべき点についてコメントを行う。なお、「コメントペーパー」の返却はできないので、必要な場合はメモを残しておくこと)。</p> <p>(3) 第9～12回でチームによるマイクロティーチングを実施する。また、チーム授業に関するレポートの提出をもとめる(中間レポートとして)。</p> <p>(4) 定期試験を受験すること。</p>

科目学習の 効果(資格)	<p>教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育課程及び指導法に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)</p>
-----------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	子どもは何を学ぶか(教育目標・内容論) 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり	教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標	教科書第4章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
3	学習とは何か(学習論) 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策	学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態	教科書第5章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
4	学力をどう高めるか(学力論) 授業技術ミニ講座④板書の技術	学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐる	教科書第6章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
5	授業をどうデザインするか(計画論) 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方	授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援	教科書第7章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
6	教育の道具・素材・環境(教材論) 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方	教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間	教科書第8章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
7	何をどう評価するか(評価論) チーム授業顔合わせ・自己紹介	目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化	教科書第9章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
8	欧米における授業の歴史 チーム授業①打ち合わせ	近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革	教科書第1章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
9	日本における授業の歴史 チーム授業②第1グループのマイクロ・ティーチング実施	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革	教科書第2章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
10	誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論) チーム授業③第2グループのマイクロ・ティーチング実施	カリキュラム・イメージの払拭、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
11	ICTを活用した授業をつくる① チーム授業④第3グループのマイクロ・ティーチング実施	各種メディアの授業への活用、学習用デジタル・コンテンツの利用	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
12	ICTを活用した授業をつくる② チーム授業⑤第4グループ	情報教育、メディア・リテラシー、eラーニング、学校運営・教務事務のICT化	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。

	のマイクロ・テーチャング実施																		
13	インクルーシブな授業をつくる 授業技術ミニ講座⑦個別指導と一斉指導 チーム授業⑥マイクロティーチャングの振り返り	通常学級における特別支援教育、個に応じた指導とは、学級集団づくりと授業づくり、授業の「わかりやすさ」と多様な参加	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
14	授業のユニバーサルデザイン化 授業技術ミニ講座⑧ほめ方・叱り方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、学習環境のユニバーサルデザイン化、指導方法のユニバーサルデザイン化、学習のユニバーサルデザインと合理的配慮	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって 授業技術ミニ講座⑨グループ学習の方法	2つの教師モデル、専門家としての教師、教師としての成長に向けて	教科書第11章をよく読んでおく。学習内容を整理する。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい時代の教育方法</td> <td>田中耕治他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教育の方法</td> <td>佐藤学</td> <td>左右社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教育の方法	佐藤学	左右社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教育の方法	佐藤学	左右社																
2																			
3																			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー (20%) により総合的に評価する。																		
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。																		
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)																		
備考																			

科目名	生徒指導論	科目名(英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、多くの具体的な問題事象に通底する基本的で普遍的な原理について学びます。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導の意義や指導の方法に関する基本的な事柄について必要最低限の知識を獲得し、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐるディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また折時、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生徒指導の目標と意義	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり 生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 3-10
2	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 10-24
3	生徒指導の理論(1)	理論の重要性 発達に関する理論	テキスト pp. 32-39
4	生徒指導の理論(2)	生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 39-42
5	生徒理解の進め方(1)	生徒理解の意義と目的	テキスト pp. 43-46
6	生徒理解の進め方(2)	生徒理解の方法 生徒の自己理解の支援	テキスト pp. 46-56
7	生徒理解の進め方(3)	教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 56-61
8	学級経営の進め方(1)	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
9	学級経営の進め方(2)	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-74
10	学級経営の進め方(3)	教師のリーダーシップ	テキスト pp. 74-79
11	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
12	進路指導の意義と課題	進路指導の意義 進路指導の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
13	勤労観・職業観の形成と変容	青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
14	進路指導の理論	キャリア発達に関する諸理論	キャリア発達理論に関する配布資料
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導における「ガイダンスの機能」 進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 215-234

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生徒指導・進路指導	高橋超・石井眞治・熊谷信順編著	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験の得点の他、レポートの内容、受講に係る積極的態度により、総合的に成績を判定します。定期試験を受験しなかった場合、成績判定はしません。
学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
担当者の研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	教育相談	科目名(英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子

授業概要・目的
教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。

到達目標
教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。

授業方法と留意点
講義と演習を組み合わせる。

科目学習の効果(資格)
教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目
各科目に含める必要事項：教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	—————
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1章、第2章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	—————
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第12章、第13章を読む
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	—————
8	問題の理解と対応1	問題とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第3章を読む
9	問題の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第3章、第4章を読む
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習
11	相談援助活動の実際1	不登校……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第5章を読む
12	相談援助活動の実際2	いじめ……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第6章を読む
13	相談援助活動の実際3	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第7章を読む
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第8章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第14章を読む

関連科目
教育方法論、生徒指導論、教育心理学、教育社会学など。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	学校教育相談	一丸藤太郎・菅野信夫	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
グループ発表 50% 期末試験 50%

学生へのメッセージ
これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

担当者の研究室等
7号館3階(吉田研究室)

備考

教職科目

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹

授業概要・目的	学校現場の実情及び教育実習中の留意事項に関する講義、教師教育に関する文献の講読演習、教育実習を終えた4年生をゲストティーチャーに招いての体験報告、教育実習に向けた受講生による模擬授業により授業を構成する。 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的な心構えを身に付け、次年度に行われる学校現場での教育実習に備える。
到達目標	実習校での実習に必要な教科指導・生徒指導の基本を理解し、教育評価のあり方を踏まえるとともに、自己の専門性の成長をめざした学習指導案を作成し、より効果的な授業ができるようになる。
授業方法と留意点	①講義（テキストを使って教育実習の実際についての情報提供及び教育実習に臨む心構え等について講義を行う。） ②講読（講読用テキストの担当部分を精読し、レジュメを作成配布し、報告を行い、全体で討議を行う。） ③体験報告（教育実習を終えた4年生をゲストティーチャーに招いて体験を聞く。） ④模擬授業（取得予定校種・教科の1単位時間分の学習指導案の略案を作成し、それにもとづく15分程度の模擬授業を行い、参加者からの講評を受ける。）
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 学習指導案作成時の留意事項	講義	教科書該当箇所、講読テキストの予習、学習内容の振り返りと整理
2	教員養成と教育実習 講読①	講義・講読	教科書該当箇所、講読テキストの予習、学習内容の振り返りと整理
3	教育実習の意義と位置 講読② 体験報告①	講義・講読・体験報告	教科書該当箇所、講読テキストの予習、学習内容の振り返りと整理
4	教育実習のしくみ講読講読 講読③ 体験報告②	講義・講読・体験報告	教科書該当箇所、講読テキストの予習、学習内容の振り返りと整理
5	実地実習の内容と様式講読 講読④ 体験報告③	講義・講読・体験報告	教科書該当箇所、講読テキストの予習、学習内容の振り返りと整理
6	介護等体験について講読 講読⑤ 体験報告④	講義・講読・体験報告	教科書該当箇所、講読テキストの予習、学習内容の振り返りと整理
7	教育実習の常識と応用技術 講読⑥ 模擬授業①	講義・講読・模擬授業実践	教科書該当箇所、講読テキストの予習、学習内容の振り返りと整理 模擬授業担当者は学習指導案を作成
8	教育実習の常識と応用技術②講読 ⑦ 模擬授業②	講義・講読・模擬授業実践	教科書該当箇所、講読テキストの予習、学習内容の振り返りと整理 模擬授業担当者は学習指導案を作成
9	教育実習事前事後指導 講読⑧ 模擬授業③	講義・講読・模擬授業実践	教科書該当箇所、講読テキストの予習、学習内容の振り返りと整理 模擬授業担当者は学習指導案を作成
10	生徒指導に関して 講読⑨ 模擬授業④	講義・講読・模擬授業実践	教科書該当箇所、講読テキストの予習、学習内容の振り返りと整理 模擬授業担当者は学習指導案を作成
11	教科指導に関して 講読⑩ 模擬授業⑤	講義・講読・模擬授業実践	教科書該当箇所、講読テキストの予習、学習内容の振り返りと整理 模擬授業担当者は学習指導案を作成
12	人権教育の現状と課題 講読⑪ 模擬授業⑥	講義・講読・模擬授業実践	教科書該当箇所、講読テキストの予習、学習内容の振り返りと整理 模擬授業担当者は学習指導案を作成する
13	特別支援教育の現状と課題 講読⑫ 模擬授業⑦	講義・講読・模擬授業実践	教科書該当箇所の、講読テキスト予習、学習内容の振り返りと整理 模擬授業担当者は学習指導案を作成
14	教育実習中の勤務について 講読⑬ 模擬授業⑧	講義・講読・模擬授業実践	教科書該当箇所、講読テキストの予習、学習内容の振り返りと整理 模擬授業担当者は学習指導案を作成
15	まとめ	講義 振り返りレポート	振り返りレポートを作成、提出

関連科目 すべての教職科目と関連がある。これまでに学習した内容について、復習し整理しておくことが大切である。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新編教育実習の常識	教育実習を考える会	蒼丘書林
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準） 期末レポート（講読のまとめ及び模擬授業の振り返り）、講読発表、模擬授業の3点に関して評価を行うが、積極的かつ誠実な授業参加の姿勢に重点を置く。

学生へのメッセージ	教職科目の特質をよく理解し、「学ぶこと」を通して「教えること」への実践的理解を深めるとともに、教師としての役割を自覚することが大切である。また、「教育実習」はこれまでの学習の総まとめであることから、これまで学習した内容を振り返り、構造的な理解に努めた上で、実習に備えること。
担当者の研究室等	7号館3階(林研究室)
備考	講読演習のテキストはコピーを配布する。

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的
「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教諭の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。

到達目標
学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。

授業方法と留意点
(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)教育実習体験発表会(6月～7月)は教員採用試験の日程により後期に実施を延期する場合がありますので、ガイダンス時の指示に従うこと。

科目学習の効果(資格)
教員免許取得上選択必修
【免許法施行規則に定める科目区分】
教育実習

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	教育実習特別個人指導(4月)	教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。	個別の呼び出しに速やかに応じること
	教育実習事前指導(4月～5月)	教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論	申請書類等の記入・提出
	教育実習個人指導(4月～5月)	教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。	教材・学習指導案を作成して提出(必要な者のみ)
	前期教育実習開始(5月～6月)	実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
	教育実習体験発表会(6月～7月)	教育実習終了後、体験発表を行う。発表方法の詳細は、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
	後期教育実習開始(9月～10月)	後期教育実習予定者の実習を行う。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
	教育実習体験発表会(10月)	後期教育実習生について、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
	教育実習総括講義(10月)	教育実習のまとめとして、その意義を確認する。	教育実習記録の提出
	教育実践指導(1月～3月)	教員採用選考試験合格者に対する指導を行う。	指示された課題

関連科目
教職関連科目全般

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び課題提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものは、単位を認定しない。

学生へのメッセージ
『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。

担当者の研究室等
7号館3階

備考
中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的 「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教諭の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。

到達目標 学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。

授業方法と留意点 (1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)教育実習体験発表会(6月～7月)は教員採用試験の日程により後期に実施を延期する場合がありますので、ガイダンス時の指示に従うこと。

科目学習の効果(資格) 教員免許取得上選択必修
【免許法施行規則に定める科目区分】
教育実習

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
教育実習事前指導(4月～5月)	教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論	申請書類等の記入・提出	
教育実習個人指導(4月～5月)	教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。	教材・学習指導案を作成して提出(必要な者のみ)	
前期教育実習開始(5月～6月)	実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成	
教育実習体験発表会(6月～7月)	教育実習終了後、体験発表を行う。発表方法の詳細は、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出	
後期教育実習開始(9月～10月)	後期教育実習予定者の実習を行う。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成	
教育実習体験発表会(10月)	後期教育実習生について、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出	
教育実習総括講義(10月)	教育実習のまとめとして、その意義を確認する。	教育実習記録の提出	
教育実践指導(1月～3月)	教員採用選考試験合格者に対する指導を行う。	指示された課題	

関連科目 教職関連科目全般

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。

学生へのメッセージ 『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。

担当者の研究室等 7号館3階

備考 中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。

教職科目

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習を基に、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員毎のグループ学習を中心に進める。1グループは15～20名。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねる中で、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目 (教職実践演習を除く) の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」のガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・科目の目的、内容方法についての確認 ・各自の教育実習後の課題についての確認 ・3回以降のグループ学習の各課題の確認 	・教育実習ノートの点検と再確認
2	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する個々の課題について教科担当教員が指導。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
3	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野と実践上の課題について、教科担当教員が指導。その上で、研究交流する。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
4	生徒指導・進路指導 (中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場を全体で参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導 (生徒指導・進路指導のあり方) についてレポートにまとめる
5	生徒指導・進路指導 (中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場をグループ毎に参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導 (教科指導のあり方) についてレポートにまとめる
6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事かどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。 近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点をを用い、学校教育を改めて考えてみたい。 特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1?2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
9	学校の中のマイノリティ: 外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。 それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。 ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1?2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
10	教師の「自律性」、あるいは「市民」としての教師	皆さんは、教師という職業について、どのように生きていきたいだろうか。教師は、職業人としては教師であるが、同時に「人間」であり、「自律した市民」でもある。ここでは、こうした二重の生	(事前) 自分は教師としてどのように生きていきたいかを考えてみる。 (事後) 小レポートの提出。

			を送ることになる教師のあり方を、哲学的に考えていく。																	
	11	「学び続ける教員像」再考	昨今、社会の急激な変化に伴い、知識・技能の絶えざる刷新が不可欠であることから、政府の側からも「学び続ける教員像の確立」が求められてきている。ここでは、教師が学び続けることの意味、さらには、学ぶこと一般の意味について、改めて考えていく。	(事前) 自分にとって学ぶことの意味とは何かを考えてみる。 (事後) 小レポートの提出。																
	12	生活背景を視野に入れた生徒支援	貧困や虐待等、生活背景に課題のある生徒に対する支援のあり方について事例研究及びグループ討議を行う。	「子供の貧困対策に関する大綱」を一読しておくこと。授業後にミニレポートを課す。																
	13	コミュニケーション能力のとらえ方とその育成	生徒間の相互関係を深め、共感しながら人間関係やチームワークを形成する方策についての事例研究及びグループ討議を行う。	文部科学省コミュニケーション教育推進会議審議経過報告「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」を一読しておくこと。授業後、ミニレポートを課す。																
	14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート																
	15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート																
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科毎の必修科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。																			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。その中で、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けること。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日素明、大野順子、小山裕樹、林茂樹、吉田佐治子																			
備考																				

科目名	職業指導	科目名(英文)	Vocational Guidance
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	水野 武

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交せて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果(資格)	工業科における職業指導に関する基礎知識が身に付く

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	本科目のシラバスを熟読すること。
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	職業指導に関する資料を熟読すること。
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	欧米の職業指導に関する資料を熟読すること。
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	日本の産業史に関する資料を熟読すること。
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	日本の戦後の教育改革についての資料を熟読すること。
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	日本型雇用の見直しについて考えること。
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	高卒労働市場に関する資料を熟読すること。
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	職業指導の事例を調査すること。
9	「労働すること」を考える	・仕事をすることの意義を考える	授業後は自らの労働観を持つようにすること。
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	職業指導領域に関する資料を熟読すること。
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	模擬授業の準備をすること。
14	模擬授業①	・講義13で立案した内容で模擬授業を実施	模擬授業の準備をすること。
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、前期の中間レポートの提出	前期のレポートを提出できるようにすること。
16	オリエンテーション	・後期授業概要の説明	本科目のシラバスを再度熟読すること。
17	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導について	商業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
18	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導について	工業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
19	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	提示する資料を熟読すること。
20	フリーターとニートについて	・グループ(またはペア)でフリーター・ニート対策を考える	フリーター・ニート問題に関する資料を熟読し、ディスカッションできるよう準備すること
21	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	発表の準備をすること。
22	高校生の就業力について	・新規高卒者が求められる就業力について	就業力育成のための企画を考えること。
23	職業適性とは何か	・職業適性、各種アセスメントについて	自らの適性の活かし方を考えること。
24	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	配布資料を精読すること。
25	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	配布資料を精読すること。
26	就業力向上企画を立案①	・高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	発表の準備をすること。
27	就業力向上企画を立案②	・26回目で考えた内容を発表する	発表の準備をすること。
28	キャリアカウンセリング理論①	・自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	配布資料を精読するおと。
29	キャリアカウンセリング理論②	・カウンセリングマインドを知る	配布資料を資料を精読すること。
30	まとめ/講義の振り返り	・提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	自らの労働観について考えること。

関連科目 教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。</p> <p>また、前期最終時に中間レポートを実施します。</p>			
学生への メッセージ	<p>「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室（水野）			
備考				